戦前期週刊誌メディアの受容形態
―その「大衆性」と「戦争加担」との関係に着目して

山　川　恭　子
図書館情報メディア研究科
筑波大学

2011 年 3 月

The form of acception of weekly magazine in pre-war days

-- consideration the relationship between popularity and supporting to continue of war

Kyoko Yamakawa

Graduate School of Library,

Information and Media Studies

University of Tsukuba

March, 2011

概要：

本論は，1922(大正 11)年に創刊された日本最初の週刊誌『週刊朝日』と『サンデー毎日』にみられる「大衆性」の要素が，満州事変から太平洋戦争終結までの戦時下の社会において読者に対しどのような役割を果たしていたかを，週刊誌の「戦争加担」に着目して考察したものである．

戦前及び戦時における雑誌メディアの研究は修士課程で行った『婦人公論』の研究と同様に，目録(目次)データの収集と分析を基礎とした．『週刊朝日』と『サンデー毎日』については，総目次や縮刷版等の二次資料が作成されていなかったため，まずは目録データの収集を行い，これを Microsoft Excel を使用してデータの入力を行った．両誌の目録データは，現物及び現物の複写物，マイクロフィッシュ等に記録されたデータを使用して収集した．Excel では列項目として「ID」(通し番号)，「記事名」，「執筆者」，「ページ」，「巻号」，「発行年月日」の 6 つのフィールドを設け，目次項目 1 つを 1 単位として Excel の 1 行ずつに入力した．収集したデータは，『週刊朝日』が 1922(大正 11)年 2 月 25 日号～1945(昭和 20)年 8 月 26 日号(計 1,336 号)，『サンデー毎日』が 1922(大正 11)年 4 月 2 日号～1945(昭和 20)年 8 月 26 日号(計 1,350 号)となっている．なお，この研究基礎となった目録データは，現在『戦前期「週刊朝日」総目次』(黒古一夫監修,山川恭子編集・解説,ゆまに書房,2006)『戦前期「サンデー毎日」総目次』(黒古一夫監修,山川恭子編集・解説,ゆまに書房,2007)として出版されている．

次に，目録データを分類と集計ができる形式にすることで，『週刊朝日』と『サンデー毎日』を定量的な側面から分析することが可能となると考え，入力した目録データを記事の主題によって分類した．その際，分類・集計・抽出・検索の作業を効率的に行うために，各記事項目に対し，主題を表す件名を付与し，この件名を軸として目録データの分類や集計，抽出を行った．

目録データの定量的分析の第一段階として，両誌の通号での分類別記事数の集計と，年ごとの分類別記事数の推移を調査した．さらに，戦前と戦時下の社会における誌面の違いや記事数にどのような変化があったかを見るために，目録収集期間を I 期(1922(大正 11)年～1936(昭和 11)年)，II 期(1937(昭和 12)年～1945(昭和 20)年)に分け，それぞれで分類別記事数と年別の推移を集計した．さらに，「大衆化社会」から「戦時下」への移行期にあたる満州事変(1931(昭和 6)年 9 月 18 日)前後の時期について，I，II 期にまたがる 1930(昭和 5)年～1940(昭和 15)年を III 期とし，これも分類別記事数の集計と年ごとの推移を調べた．また，上記の印刷物には執筆者索引も収録されているが，このデータをもとに，執筆者別の掲載記事数(年ごと及び通号)の集計もあわせて行った．

このデータをもとにした分析より，まず通号では，両誌ともに小説や随筆等を含む文芸記事が全体の約 30%，スポーツ・映画・芸能関連の娯楽記事が約 20%を占めていた．この結果は，戦前の社会の「大衆化」時代を中心に集計した I 期においてもほぼ同様であり，そのことより，週刊誌における文芸と娯楽中心の誌面作りが，戦前の「大衆化」時代に形成されたものと読み取った．

また，I 期における分類別記事数の年別推移からは，創刊年の 1922(大正 11)年には『週刊朝日』は文芸記事や娯楽記事よりも社会・事件記事が，『サンデー毎日』では実用記事が最多であり，文芸記事と娯楽記事は 1923(大正 12)年～1925(大正 14)年にかけて増加する傾向があったことより，創刊当初の両誌の編集方針の違いや，関東大震災(1923(大正 12)年 9 月 1 日)前後の社会全体の「大衆化」による影響を読み取ることができる．さらに，1925(大

正 14)年には「クロスワード・パズル」，1930 年代には「大衆小説募集」や「実話募集」の懸賞企画が盛んに行われており,「読者参加型」の懸賞企画によって週刊誌が読者との結び付きを持ったことが読み取れる．また，創刊当初の『サンデー毎日』における実用記事の多さ，さらには『週刊朝日』における 1924(大正 13)年をピークとした実用記事の増加からは，大正期における『主婦之友』や『婦人倶楽部』等の実用的婦人雑誌をモデルとし，料理や育児等の実用記事を満載することで，明治末期から大正期にかけて新たに雑誌の読者層として進出した女性層の獲得を目指した姿勢が読み取れる．さらに,『週刊朝日』と『サンデー毎日』が 1922(大正 11)年 7 月より発行を開始した特集号では, 文芸記事の中でも「新講談」や「探偵小説」,「ユーモア小説」,「時代小説」等の大衆小説が中心となっていた点が明らかとなった．また社会的事件を扱った記事として調査した関東大震災関連記事については，所感や体験談が比較的多く掲載されていることが分かった．

これらのことより，戦前における週刊誌の「大衆性」について考察した．特徴として挙げられるのは文芸記事と娯楽記事の多さと，それらの要素が大正末期から昭和初期にかけて週刊誌の特徴として形成された点である．創刊当初の社会・事件記事または実用記事を中心とした構成から早い段階で文芸と娯楽を雑誌の前面に押し出したことからは，戦前における週刊誌の「大衆性」が，大衆小説を中心とした娯楽的読み物の提供と，映画やスポーツ, ゴシップ等を含む娯楽情報の提供に集約されていると考えた. さらに,「読者参加型」の懸賞企画を実施することで，読者を雑誌づくりの構成員に位置付け，読者に対し共同体意識を持たせたことも，一つの要素として挙げられる．

次に，日中戦争(1937(昭和 12)年 7 月 7 日)から終戦(1945(昭和 20)年 8 月 15 日)までの II 期における分類別記事数と推移を見ていった．日中戦争以降は，新聞や他の雑誌メディアでも戦争報道が盛んに行われているが，この傾向が『週刊朝日』と『サンデー毎日』でも見られたことが，II 期における両誌の戦争記事の割合より読み取れる．戦争記事は両誌ともに I 期では 1%であったが, II 期の集計では『週刊朝日』が 18%,『サンデー毎日』が 11%に増加している．しかしその一方で，最も多いのは I 期と同様に文芸記事であり,『週刊朝日』は全体の 26%,『サンデー毎日』は 27%を占めている．これを年別の推移でみると，戦争記事が増加傾向にあるのは 1941(昭和 16)年の太平洋戦争開戦(12 月)以降であり，戦争記事が文芸と娯楽記事よりも多くなるのは 1943(昭和 18)年～1944(昭和 19)年頃であった．また，II 期の分類別記事数の推移からは，太平洋戦争開戦以降，戦争記事の増加に伴って座談会記事が増加していることも分かった．特に『週刊朝日』において顕著に見られた特徴であり，通号での座談会記事の内訳では「戦争関連座談会」が全体の 49%に達し,『サンデー毎日』でも 33%と最も高くなっている．これらの座談会には銃後の生活の節約や心得を説く「啓蒙的」なもの，従軍記者や従軍作家が戦地での体験や兵士の様子を語る「従軍記事的」なもの，軍人や帰還兵が戦況や今後の見通し，実戦体験を語る「実戦的」なものがあり, いずれも 1943(昭和 18)年 4 月のミッドウェー海戦以降にさらに増加傾向にあることも，一つの特徴として捉えることができる．

次に I 期と II 期にまたがる期間として，III 期における記事数の推移を，通年の流れの中で見ていくこととした．この時期は，I 期における懸賞企画の記事傾向でも見られたが，実話記事が増加している．1930 年代は漫才や演芸，トーキー映画の流行など大衆娯楽が発展を見せる一方で，長引く不況や満州事変の勃発，五・一五事件(1932(昭和 7)年 5 月 15 日)や二・二六事件(1936(昭和 11)年 2 月 26 日)等の不穏事件が相次いだ時期である．この時期の実話記事は自殺や犯罪の実話を扱ったものが多く，また政治記事や経済記事も人物に焦

点をあて,「ゴシップ」として政治や経済問題を語ることで，社会面における「娯楽性」を取り入れる傾向があることが分かった．こうした傾向は満州事変関連記事にも見られたことで，特に『サンデー毎日』には報道や解説記事よりも，実話や美談等を比較的多く掲載する傾向があり，社会的事件に関する記事を物語として読ませるという手法がとられていることが読み取れた．また，国際連盟関連記事では難解な外交問題の解説記事に，記事の内容を説明する風刺漫画を添え，読者が記事の内容を理解しやすくするための手法も見られた．

これらのことより，週刊誌における「大衆性」は，大衆小説を中心とした文芸記事や娯楽記事が持つ「面白さ」，社会的記事における「娯楽性」と「分かりやすさ」が，戦時においても風刺漫画や人物への言及，従軍手記や戦争小説というかたちで表れているということができる．また，著名人や軍人が出席する座談会において，読者に対し戦争協力を啓蒙し，戦争熱を煽り，戦争の正当性を宣伝したということからも,『週刊朝日』と『サンデー毎日』が週刊誌のもつ「大衆性」の要素を利用し，戦争協力を宣伝したということができる．

以上のことより，週刊誌メディアに共通する「面白さ」や「分かりやすさ」という「大衆性」の要素は，初期の週刊誌の骨格形成の過程において重要な位置にあり，これによって週刊誌メディアが読者との関係を構築し，大衆小説の愛読者や実用記事の読者等，ある特定の読者との間に結び付きを形成したと考えられる．そして，その「大衆性」は，大衆小説家による戦争小説や従軍手記の掲載や風刺漫画による解説，座談会による戦争熱の喚起と宣伝というかたちで表れていた．このことより，週刊誌メディアは戦前に構築された読者との結び付きを利用し，軍の意のままに読者に戦争協力を宣伝したという点で,「戦争加担」を行ったと結論付けた．

Abstruct：

This study was aimed at consideration the relationship between popularity formed in pre-war days and supporting to continue of war by analysis of contents of Shukan Asahi and Sunday Mainichi, the first weekly magazine in Japan in 1922-1945.

First stage of this study is collection and recording of these magazine's contents. Using Microsoft Excel, contents data is arranged in 6 fields, "ID", "Title", "Author", "Page", "Volume", "Publication date". The collected data are contents from February 25, 1922 issue to August 26, 1945 issue of Shukan Asahi, and contents from April 2, 1922 issue to August 26, 1945 issue of Sunday Mainichi. These contents are published by YUMANI SHOBOU in 2006 and 2007.

Second stage of this study is classification of these contents. To total or search content, giving subject to content according to the article. And, to analyze these contents with a social background, these contents were delimited 3 periods by a social background. First period is from 1922, start of these weekly magazines to 1936, before the Shino-Japanese war (July, 1937). Second period is from 1937, start of the Sino-Japanese war to 1945, the end of the Pacific war. Furthermore, by reason of that the 1930's in Japan is complex age because popularity and symptom of militarism are exists together, third period was provided to catch some feature the passage of 1922-1945.

From searching the number of articles according to classification and transition of the number of these articles, it becomes clear that the main subjects of both weekly magazine are literary article and amusement article in First period. These features were established in from 1923 to 1925, just after the start of both weekly magazines. Another feature are high ratio of popular fiction in special issues and simple and plain sentence at the local news page. These features were affected by popularization of society, popularity of popular fiction and newspaper's changing, the local news page shifted to police news. And prize contests, inviting to enter the novel competition, a crossword puzzle and inventing a real‐life story before the Shino-Japanese war.

In a period of change of society around Manchurian Incident(September, 1931), articles of true story about suicide or crime, and gossip element in political articles and social articles increase. It is appearance of popularity in difficult articles. Especially, Sunday Mainichi choose a heroic tale or a true story than a news story or an explanation article. It is appearance that Sunday Mainichi tried to be read a local news page as a news story. Another feature of popularity in a local news page is caricatures used in explanation of difficult sentence.

After the Sino-Japanese war, there are many articles about the war, Shukan Asahi and Sunday Mainichi are not an exception. From December, 1941 after starting the Pacific war, the articles about the Pacific war are in the increasing tendency. But literary and amusement articles are more than war articles until 1942-1943. On the other side, articles of a round-table talk increase from 1941 to 1945. There are 3 type article of a round-table talk in weekly magazine after the Pacific war. One of this type is enlightening article. It was try to educate weekly magazine's reader about preparedness of the home front and economizing of life at war. Second of this type is article of campaigner. It had a role to advertise the gratitude to the soldiers and Japanese military force by speaking personal experience about campaign. Third of this type is article of actual fighting. It had a role to inform the progress of the war to reader and advertise the strength of Japanese military force. These articles increase after the battle of midway (April,

1943) more and more. As Japanese military force loose the battle, these articles increase; it is appearance that relationship between progress of the war and a round-table talk.

After the Shino-Japanese war, there are many articles written by novelists who write popular fiction. These novelists wrote the historical novel, the war novel and note of campaign from 1937 to 1945. Most of these articles advertised validity of the war in expressing the gratitude to the soldiers and Japanese military force and the strength of Japanese military force. It had role to improve reader's war fever.

From these features, the relationship between popularity formed in pre-war days and supporting to continue of war in Shukan Asahi and Sunday Mainichi is expressing interest in literary and amusement articles — especially popular fiction, and easiness in local news page by caricatures and a heroic story focused one's personality. And by using an element of sense of participation in weekly magazine by articles of a round-table talk and prize contests, weekly magazines educated reader to cooperate for the war in hides the truth.

目　　次

本　論

第 1 章　はじめに 1
1.1　研究の背景と本論の目的 1
1.2　本論文の構成 2
第 2 章　近代日本の社会とメディア 3
2.1　大正期における文化的発展 3
2.2　マスメディアの誕生 5
2.3　『週刊朝日』と『サンデー毎日』の概要 8
2.4　週刊誌メディアの読者層 11
第 3 章　研究方法 15
3.1　データの収集と管理 15
3.2　データの集計方法 17
第 4 章．集計データの分析 19
4.1　通号の集計 19
4.2　社会背景と記事の集計期間 24
4.3　I 期(1922-1936)の集計と推移 25
4.4　II 期(1937-1945)の集計と推移 28
4.5　III 期における集計と推移 29
4.6　特集号記事の集計 32
4.7　執筆者別集計 37
第 5 章　「大衆性」へのアプローチ 41
5.1　「大衆雑誌」とは 41
5.2　新聞メディアの「大衆性」 41
5.3　月刊雑誌の「大衆性」 44
5.4　婦人雑誌の「大衆性」 46
第 6 章　大正末期から昭和初期の週刊誌メディア 50
6.1　実用記事の役割 50
6.2　「読者参加型」の娯楽的要素 52
6.3　社会的記事における娯楽的要素 56
6.4　女性関連記事の役割 60
6.5　大衆小説の役割 63
第 7 章　「戦時体制」直前の動向 66
7.1　満州事変の勃発とメディアの動向 66
7.2　満州事変関連記事にみる特徴 67
7.3　国際連盟脱退への反応 76
7.4　「戦争」記事への布石 84

第 8 章　戦時下の週刊誌メディア.....85
8.1　日中戦争以降の新聞メディア.....85
8.2　戦時下の記事数にみる特徴.....92
8.3　『週刊朝日』の戦争報道.....96
8.4　『サンデー毎日』の戦争報道.....103
8.5　他誌における「文学者」と「座談会」の傾向.....109
8.6　座談会の影響.....111
8.7　文学者の役割.....114
第 9 章．おわりに.....127
謝辞.....131
参考文献.....132

資 料 編

資料　I-1：『週刊朝日』『サンデー毎日』創刊号～1922(大正 11)年 7 月　目次.....資-1
資料　I-2：『サンデー毎日』創刊号～1922(大正 11)年 7 月　目次.....資-27
資料 II-1：『週刊朝日』1932(大正 7)年 10 月～12 月　目次.....資-45
資料 II-2：『サンデー毎日』1932(大正 7)年 10 月～12 月　目次.....資-60
資料 III-1：『週刊朝日』1943(昭和 18)年 1 月～7 月　目次.....資-73
資料 III-2：『サンデー毎日』1943(昭和 18)年 1 月～7 月　目次.....資-90

第１章　はじめに

1.1　研究の背景と本論の目的

日本における戦前の雑誌メディア研究は,『中央公論』や『改造』,『キング』,『女学雑誌』,『婦人公論』等，月刊の総合雑誌や大衆娯楽誌，婦人雑誌を中心に行われてきた．筆者は修士課程在籍時,『婦人公論』(中央公論社,1916)を題材に，大正初期から戦時期において『婦人公論』が女性たちに与えた影響や，社会における位置について考察した．修士論文における研究過程では，当時まだ総目次が出版されていなかった『婦人公論』の研究を行う上で，第一段階として目次の収集とデータ化による総目次の作成を行い，目次から見る雑誌の特徴について言及した．この経験を生かし，本論では月刊誌とは異なる発行形態をもつ週刊誌メディアに着目し，その特徴や役割について研究を行うこととした．

日本における週刊誌の先駆けとなったのは，1922(大正 11)年 2 月 25 日に創刊された『週刊朝日』(大阪朝日新聞社)と同年 4 月 2 日創刊の『サンデー毎日』(大阪毎日新聞社)である．両誌はともに，多くの雑誌が廃刊や休刊に追い込まれた日中戦争(1937 年 7 月)以降も発行を続け，現在も継続して発行されている数少ない雑誌である．

戦前の雑誌に関しては,『復刻日本の雑誌』(講談社,1982)や『復刻日本の婦人雑誌』(大空社,1986)に『女学雑誌』『国民之友』『解放』『近代思想』等の復刻版が収録された他，『カラー復刻「主婦之友」大正期総目次』(石川文化事業財団お茶の水図書館,2006)や『女性改造総目次』(雄松堂出版,2002)，『中央公論総目次』(中央公論社,1970)等の総目次が出版されており，研究の基礎資料として活用されている．これらの出版物は，資料の保存の重要性の面から現物を閲覧することが困難になるに伴い，戦前の雑誌における思想や主義，編集方針を探るための手掛かりとなっている．一方，戦前における週刊誌メディアの研究は，野村尚吾著『週刊誌五十年：サンデー毎日の歩み』(毎日新聞社,1973)等の優れた先行文献も存在するが，復刻版や総目次が作成されておらず, そのため定性的研究によって導かれた論がほとんどである. 目次は雑誌の内容を表す「索引」の役割もあり，その「索引」をデータとして収集し整理することで，これまで行われてきた週刊誌の定性的研究に，新たに定量的な視点を加えることで，別の角度から週刊誌メディアの特徴を明確にすることが可能であると考えられる．

筆者は 2005 年から 2007 年にかけて『週刊朝日』と『サンデー毎日』の創刊から終戦(1922 年 2 月～1945 年 8 月)までの総目次の作成を行った．それらは現在，『戦前期「週刊朝日」総目次』(山川恭子著・解説　黒古一夫監修,ゆまに書房,2006)『戦前期「サンデー毎日」総目次』(山川恭子著・解説　黒古一夫監修,ゆまに書房,2007)として出版されている．出版された総目次のデータは，現物及び現物の複写物，マイクロフィッシュ等に沿ってコンピュータに記録したデータがもととなっており，これをデータの集計や抽出に適したアプリケーションソフトウェアで管理することで，目録データの定量的側面からの分析が可能になると考えた．目録データの管理・集計方法等については後述する．

本論は，この目録データの集計・抽出等による定量的な分析を基礎に，大正末期から昭和初期における『週刊朝日』と『サンデー毎日』の量的な特徴を明らかにし，大正末期から昭和初期にかけての週刊誌メディアの「大衆性」が，戦時における誌面にどのように反映されているかを分析し，そのうえで，週刊誌メディアの「大衆性」と「戦争加担」の関連性について考察したものである．

1.2　本論文の構成

本論文は，次のように構成されている．

第 2 章では週刊誌メディアの分析に先立ち，週刊誌メディアが誕生した大正期から終戦に至るまでの社会についてまとめるとともに，大正デモクラシー以降の社会の「大衆化」と，それに伴うメディアの発達や読者層の変質について言及し，本論で研究対象とする『週刊朝日』と『サンデー毎日』の創刊の背景等，両誌の概要について述べる．

第 3 章では，週刊誌メディアの具体的な研究方法として，目録データの収集と管理方法，集計方法について述べる．

第 4 章では，収集した目録データの分析を行った．分析に際しては，通号の集計の他，社会の動きに沿って目録を一定期間に区切り，期間内での集計と分析も行っている．また，『週刊朝日』と『サンデー毎日』が発行する特集号のみを対象とした集計と分析，執筆者データを活用した集計と分析も行った．

第 5 章では，大正末期から昭和初期にかけてのメディアの「大衆性」とはどのようなものかを，新聞メディアや他の雑誌メディアを参考に明確にし，本論における考察のポイントを抽出した．

第 6 章では，日中戦争以前の『週刊朝日』と『サンデー毎日』において，5 章において抽出した「大衆化」の特徴が，記事の量や記事内容にどのように表れているかを考察した．

第 7 章では，日中戦争の引き金となった満州事変から国際連盟脱退に至るまでの期間に焦点を当て，「大衆化」と「戦時」が重なり合う時期において，両誌がどのように「事変」を取り扱ったか，その特徴について考察した．

第 8 章では，日中戦争から太平洋戦争期に焦点を当て，戦前において確立された「大衆性」の要素が，戦争記事満載となった誌面においてどのようなかたちで表れ，読者に対する「戦争宣伝」に利用されたかについて考察した．

第 9 章では，これらの分析結果や章ごとの考察のまとめとして，本論の目的である週刊誌メディアの「大衆性」と「戦争加担」の関連性について考察するとともに，本研究での課題について言及した．

第２章　近代日本の社会とメディア

2.1　大正期における文化的発展

大正期の社会における特徴として，政治や文化など様々な面で「民主化」の動きが盛んになった大正デモクラシーがある. 大正デモクラシーは 1905(明治 38)年の日露戦争講和条約締結時に，戦争賠償金を勝ち取れなかった政府に対する民衆の怒りが，日比谷焼打ち事件(同年 9 月)等の暴動によって喚起されたことに始まる．民衆の政府に対する不信が引き起こす暴動や運動は，その後都市中間層から労働者階級へと広がりを見せ，政党内閣の実現や普通選挙法の制定等，様々な政治的要求が民衆の中から湧き起こった.

一方，明治後期から大正初期にかけての工業の発達は，第一次世界大戦における軍需産業の発展をもたらし，経済の好況は物価の急激な高騰をもたらした．第一次世界大戦開戦と同時に米を含む食料品，日用品など庶民生活に必要不可欠なものが値上がりし，1918(大正 7)年には富山県の漁村の主婦達による米騒動が勃発，全国に波及した．物価騰貴の影響は労働者の賃金価値の低下をも引き起こし，全国各地で労働争議が多発した．この状況は当時の新聞でも多く報じられ，1919(大正 8)年 9 月 19 日の『萬朝報』掲載の記事「大阪労働者七八月の値上要求百五件」には“七八の両月間には賃金値上げ運動百五件、内値上げ要求容れられず同盟罷業に出でたるもの二十一件に達した”[1]との記述があり，この頃の労働争議の多さを知ることができる.

工業の発達によって都市部には巨大企業が次々と誕生し，さらには企業内における業務分担のための管理システムも発達した．それによって「経営者」から末端の「雇用者」へ至る縦割り関係が形成され，サラリーマンが都市部に急増した．また，明治期より徐々に開かれてきた，資本側の「働き手」としての女性の需要は，企業の巨大化によってさらに拡大し，女性の職場進出を促した．大正期における女性の主な職業は，事務員やタイピスト，電話交換手，教師，工場労働者，バス車掌等である[2]．大正期の職業婦人に関する新聞や雑誌の記事は，『読売新聞』1916(大正 5)年 9 月 26 日掲載の「職業婦人の保護」や『婦人公論』1920(大正 9)年 10 月号掲載の「職業婦人を尊重せよ」(江口渙)，『報知新聞』1918(大正 7)年 12 月 23 日掲載の「二重の圧迫に喘ぐ職業婦人」等, 職業婦人の職場環境や妊娠・育児と職の関係について論じたものが目立っている．職業婦人やサラリーマンの増加は，都市部を中心に人々の服装に変化をもたらした．彼ら，彼女らにとっての職場での「制服」は，人々の和装から洋装への移行を促すこととなった.

大正期の娯楽産業で目覚ましい発展を遂げたのは，大阪・神戸を中心とする関西地方である．竹村民郎は著書『大正文化』(講談社,1980)で，大正期に発展したレジャーとして，「海水浴」「甲子園」「宝塚」を挙げている．海水浴は関東地方では“鎌倉や逗子に別荘を持っている別荘族の遊び”であったが，関西地方では “人々は南海電車沿線の堺の大浜，浜寺へ気軽に水泳に出かける庶民の夏の遊び”[3]であった．野球についても関東地方では早慶戦等に見られる学生スポーツの一つにすぎなかったが，関西では“熱狂的な大衆ファンの支持”[4]によって盛り上がりを見せており，1924(大正 13)年には 5 万人収容の甲子園球場が建設され，大勢の人々が押し掛けることとな

1　神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ　http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/index.html
　参照記事　『萬朝報』1919(大正 8)年 9 月 19 日号

2 竹村民郎.大正文化.東京,講談社,1980,225P. p.115

3 竹村民郎.大正文化.東京,講談社,1980,225P. p.107

4 竹村民郎.大正文化.東京,講談社,1980,225P. p.107

った．宝塚少女歌劇は，歌舞伎や義太夫等の伝統芸能を，家族全員で楽しめる歌劇という形で発展し，新しい娯楽として誕生した[5].

第一次世界大戦以降,日本社会は大戦ブームによる経済発展を遂げ,各家庭の所得も上昇した．都市部への人口集中，女性の社会進出，新聞・雑誌の商業主義化が進み，さらには映画やレコード等の新しい娯楽的メディアが誕生した．こうした社会の「大衆化」にさらに拍車がかかるきっかけとなったのは，1923(大正 12)年 9 月 1 日の関東大震災である．震災による被害は，死者・行方不明者は 14 万 2,807 人，家屋全壊 12 万 8,266，半壊 12 万 6,233，焼失 44 万 7,128 [6]を数えた．震災直後に帝都復興案が政府より発表され，約 7 億円をかけて東京・横浜を中心に道路や建物の建築，整備が始まった．この過程で大企業の丸の内周辺への集中と山手郊外の住宅地建設が進み，サラリーマンの増加に拍車をかけるかたちとなった．また，建物も明治後半より導入された鉄筋コンクリートを使用した西欧建築が，震災後の再建に際し広く取り入れられるようになった[7]．この関東大震災以降の社会の変容について，内川芳美は以下のように述べている．

> 前期〔第一次大戦～関東大震災以前〕に著しい進展を見せていた都市化や大衆化は、震災後一段と拍車がかかり、その中から、現代的な都市文化が新たに形成され発展していった。その過程でもっとも注目されるのは、新しい大衆消費時代が展開し始めていることである。この時期に入ると、生活の洋風化や合理化は、アッパッパやパーマネントの普及に象徴される女性の風俗にとどまらず、衣食住のすべてに一層深く浸透し拡大していく。そして、この過程で、消費行動や生活意識にも大きな変化が生まれ、消費者としての大衆が姿を現してくる。そうした大衆消費時代の展開をもっとも端的に示しているのは、この期のデパートの発展であろう。また、この期には、ミシン、家電製品、楽器、自動車などの耐久消費財の生産・普及も拡大し始めている。こうして、消費需要も格段に多様化してくる。トーキー化による映画の飛躍的普及やレコードの普及など大衆娯楽が本格的な発展を見せるのもこの時期である。(〔　〕内記述は筆者)[8]

内川の述べた“デパートの発展”について詳しく見ていくと，関東大震災以前より，デパートが質的な変化を見せていたことが分かる．三越や大丸等の百貨店は，大正初期にはまだ「呉服屋」としてのイメージ通り，高級品を扱い，庶民には縁遠いものであったが，1919(大正 8)年に三越が丸の内別館で行った「木綿デー」は，雑貨や食料品等の生活必需品を大量に揃え，一般民衆を購買層に取り込むきっかけとなった[9]．また，1922(大正 11)年に大丸が定休日を日曜から月曜に変更したことで，日曜日の娯楽にデパートが本格的に加わった．大阪市内にも 1917(大正 6)年に三越，1921(大正 10)年に白木屋，1922(大正 11)年に大丸がそれぞれ開店している．これらのデパートは関東大震災後に数自体が増加しただけでなく，“顧客が有産階級から大衆に変わり”，陳列される商品も“雑貨は輸入品中心から国産品中心に変わり，地階売場とか特売品売場がぐんと拡張され，豆腐や納豆のような大衆的な日常商品までも扱う”[10]ようになっていった．雑貨から食料品，生活用品まで「何でも揃う」デパートは，1922(大正 11)年から 1931(昭和 6)年の間に，小売

---

[5] 竹村民郎.大正文化.東京,講談社,1980,225P. p.108
[6] 世界大百科事典　http://www.kn-concierge.com/netencyhome/
[7] 日本建築学会.近代建築史図集.東京,彰国社,1954,166P. p.104
[8] 内川芳美．日本広告発達史(上)．東京，電通, 1976.490P. p.259-260
[9] 竹村民郎.大正文化.東京,講談社,1980,225P. p.29
[10] 竹村民郎．大正文化．東京，講談社, 1980.225P. p.280

業全体の売上高が 12 億 4,800 万円から 9 億 6,000 万円に減少する中で 6,800 万円から 2 億 3,600 万円に増加[11]しており，これらのことより，デパートが関東大震災以降の「大量消費社会」の中心を担っていたと見ることができる．

こうした傾向を背景として，新聞メディアに続くマスメディアとして誕生したのが，雑誌『キング』とラジオである．この 2 つはともに 1925(大正 14)年に誕生し，『キング』は同年 1 月号(創刊号)が 74 万部，1927(昭和 2)年 1 月号は 120 万部，1928(昭和 3)年 11 月臨時増刊号は 150 万部を売り上げ，国民的大衆雑誌へと成長した[12]．内容は娯楽や実用，大衆小説を中心とし，幅広い年齢層，あらゆる職業や階層の人々に購読された[13]．ラジオ放送は 1925(大正 14)年 3 月に東京放送局が開設され, その後終戦直前の 1944(昭和 19)年まで受信契約数は上昇の一途を辿り, 1931(昭和 6)年の満州事変以降，受信契約数が 100 万世帯を突破した[14].

2.2　マスメディアの誕生

『週刊朝日』と『サンデー毎日』が創刊される以前，日本における言論メディアの中心にあったのは新聞である．アメリカの『ニューヨーク新聞』やオランダの『ヤバッシェ・クーラント』の記事の翻訳を掲載した『バタヒヤ新聞』は 1862(文久 2)年 1 月に発行が開始され，1867(慶応 3)年 2 月には柳川春三によってオリジナルの国内情報の記事を掲載した佐幕派新聞の『中外新聞』が誕生し，その後『江湖新聞』(1868 年)や『内外新報』(1868 年)といった佐幕派新聞が次々と創刊された．これら佐幕派新聞の後に登場した『東京日日新聞』(1872 年)や『朝野新聞』(1874 年)は 1874(明治 7)年の民撰議院設立建白書に端を発する自由民権運動の高まりと共に政党の機関紙としての役割を果たしたが，明治政府は 1875(明治 8)年 6 月に新聞紙条例と讒謗律を制定し，新聞に対する検閲体制の基礎を固めた．『東京日日新聞』のような政論新聞が漢文主体であったのに対し，1874(明治 7)年 11 月創刊の『読売新聞』は挿絵多用し，平仮名主体で娯楽的記事を盛り込むことで，それまで知識層のための読物であった新聞の読者層を拡大した．

『週刊朝日』と『サンデー毎日』の発行元である大阪朝日新聞社，大阪毎日新聞社からも，1879(明治 12)年 1 月 8 日に『大阪朝日新聞』，1888(明治 21)年 11 月に『大阪毎日新聞』がそれぞれ創刊され，大阪を中心に戸別配送や販売所拡大等の販売努力によって発行部数を徐々に伸ばしていった．大阪方面における両紙のシェアが拡大したのは，日清戦争(1894 年 8 月)，日露戦争(1904 年 2 月)における戦争報道，及び号外の発行によるところが大きい．日清・日露戦争期において，『大阪朝日新聞』は 1894～1895 年の 2 年間で号外を 146 回発行しており，これによって『大阪朝日新聞』の“近畿圏制覇をほとんど不動にした”[15]とされている．『大阪毎日新聞』も同様に，日露戦争によって発行部数を伸ばしていった．『「毎日」の 3 世紀　新聞が見つめた激流 130 年(別巻)』(毎日新聞社,2002)には，この時期の元日の発行部数が掲載されているが，これを日露戦争の前年から見ていくと，1903(明治 36)年は 13 万 3,761 部，1904(明治 37)年は 15 万 5,004 部であるが，1905(明治 38)年には 20 万 1,561 部，1906(明治 39)年には 21 万 6,044 部と大

[11] 竹村民郎．大正文化．東京，講談社, 1980.225P.p.281
[12] 佐藤卓己.『キング』の時代:国民大衆雑誌の公共性．東京，岩波書店, 2002.462P.p.10-11
[13] 永嶺重敏．雑誌と読者の近代．東京，日本エディタスクール出版, 2004.281P. p.206-213
[14] 佐藤卓己.『キング』の時代:国民大衆雑誌の公共性．東京，岩波書店, 2002.462P. p.220-221
[15] 朝日新聞百年史編修委員会．朝日新聞社史:明治編．東京，朝日新聞社, 1995.640P. p.324

幅に増加し，号外も 1904(明治 37)年 2 月の開戦から翌年 9 月の終戦までの間，月平均 22 回，総計 498 回発行されている[16].

大阪を拠点に発行部数を伸ばしていった両紙は，日露戦争後の部数増加に伴い，東京進出を視野に入れた活動を開始した．1886(明治 19)年より東京支局開設に取り組んでいた大阪朝日新聞社は，1888(明治 21)年 6 月，民権派の小新聞として東京で発行されていた『めさまし新聞』を買収し，同年 7 月より『東京朝日新聞』と改題し発行を開始した．大阪毎日新聞も 1906(明治 39)年 12 月に『電報新聞』を買収，1911(明治 44)年 2 月に日報社と合同経営契約を結び，『東京日日新聞』の発行を引き継いだ.

両紙の東京での新聞発行が定着したのは，1923(大正 12)年 9 月 1 日の関東大震災後である．社屋が被害を免れた『東京日日新聞』は震災直後に号外を発行し，翌 2 日には 4 半ページの新聞の他に号外も発行した[17]．一方，『東京朝日新聞』は震災で社屋が全焼し『東京日日新聞』に後れを取ったが, 大阪本社から 4 班 9 名の社員を派遣し, 12 日にようやく朝刊(4 ページ)を発行した[18]. 関東大震災の前後で両紙の東京における 1 日当たりの発行部数を比較すると，『東京朝日新聞』は 1923(大正 12)年は 28 万 9,464 部に対し 1924(大正 13)年には 41 万 221 部[19]に増加し，『東京日日新聞』も 37 万 3,997 部から 68 万 8,626 部[20]へと 2 倍近くに増加している．この発行部数の増加からは，両紙が震災直後から通常号，号外を発行し，震災に対する民衆の「知りたい」という欲求を充足させることで，読者層を拡大した状況を読み取ることができる．以降，『東京朝日新聞』と『東京日日新聞』は順調に発行部数を伸ばし，『東京朝日新聞』は 1935(昭和 10)年，『東京日日新聞』は 1937(昭和 12)年以降，それぞれ発行部数が『大阪朝日新聞』『大阪毎日新聞』を上回るようになった[21]．このようにして，戦争や震災というあらゆる人々にとっての関心事を通し，新聞メディアは「マスメディア」へと成長した.

明治初期から中期にかけての新聞メディアは, 特定の政党や政治家, 派閥の主張に同調する「政論新聞」の性質を持っていた．日露戦争開戦前に新聞各社の間で繰り広げられた日露戦争開戦是非論争[22]は，新聞メディアが政治的な主張を明確に読者に示していたことを表す一例である．このような新聞各紙の「主張」が均一化され，各社の論調に差がなくなってゆくのは，大正期以降のことである．その要因の一つとして，識字率の上昇や都市部の人口集中による読者層の拡大が挙げられる．新聞はもはや特定の知識層の読物ではなく，サラリーマンや工場労働者，農民，女性等様々な読者層を取り込んだ「大衆読者層」を対象とするようになり，多種多様な購読層の欲

---

16 毎日新聞社.「毎日」の 3 世紀:新聞が見つめた激流 130 年．東京, 2002.759P. p.84

17 毎日新聞社.「毎日」の 3 世紀:新聞が見つめた激流 130 年．東京, 2002.759P. p.591

18 朝日新聞百年史編修委員会．朝日新聞社史:資料編.東京，朝日新聞社, 1995.686P. p.497

19 朝日新聞百年史編修委員会．朝日新聞社史:資料編.東京，朝日新聞社, 1995.686P. p.320

20 毎日新聞社.「毎日」の 3 世紀:新聞が見つめた激流 130 年．東京, 2002.759P. p.96

21 『朝日新聞百年史編修委員会.朝日新聞社史:資料編』P321 掲載の『大阪朝日新聞』及び『東京朝日新聞』の 1 日当たりの発行部数では，1935(昭和 10)年の発行部数は『大阪朝日新聞』が 897,000 部,『東京朝日新聞』が 913,342 部となっている.『大阪毎日新聞』も『「毎日」の 3 世紀:新聞が見つめた激流 130 年』p.97 掲載の元日発行部数によれば，1937(昭和 12)年の 1 日当たりの発行部数が 1,414,937 部に対し,『東京日日新聞』は 1,432,185 部となっている．以降，両紙ともに戦後に至るまで東京における発行部数が大阪を上回った.

22 1903(明治 36)年 4 月，ロシアとの第二次満州撤兵交渉が決裂し，日露間の緊張が高まるにつれ,『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』『万朝報』『二六新聞』等の新聞は「日露戦争開戦やむなし」とする強硬論を主張した．これに対し,『東京日日新聞』や『国民新聞』は外交交渉による解決を主張し，政府内の強硬論派(小林寿太郎，桂太郎，山縣有朋ら)と戦争回避論派(伊藤博文，井上馨ら)の意見を代弁し，読者に伝えた.

求を満たすための記事の「大衆化」を余儀なくされた．また，1909(明治 42)年の新聞紙法制定により言論メディアの取締りが強化され，1918(大正 7)年の白虹事件における『大阪朝日新聞』への弾圧や不売運動が引き金となり,新聞メディアの政治的主張は徐々に薄れていくこととなった．

一方，新聞メディアと同様に明治初期より日本の言論メディアとして発展を遂げてきたのが，月刊誌である．日本で最初の月刊総合雑誌は 1874(明治 7)年 4 月に福沢諭吉や森有礼ら明六社の機関紙として発行が開始された『明六雑誌』である．『明六雑誌』は翌年 11 月までという短い期間で廃刊となるが，政治や宗教，教育，経済など幅広い分野の諸問題を扱い，以降の月刊総合誌の礎を築いた．その後政治風刺を取り入れた雑誌『団々珍聞』(1877 年)や宗教雑誌『六合雑誌』(1878 年)が誕生し，1887(明治 20)年 2 月に『国民之友』，8 月には『中央公論』の前身である『反省会雑誌』が相次いで創刊された．『反省会雑誌』は 1909(明治 32)年 1 月より『中央公論』と改題し，現在まで続く代表的な総合月刊雑誌として発行されている．『中央公論』は民主主義と自由主義を標榜し，言論・集会・結社の自由に関する運動，侵略戦争や植民地支配の停止を求める運動，男女平等，部落差別解放運動，自由教育の獲得に関する評論を多数掲載し，吉野作造等の優れた評論家を世に送り出した．『中央公論』の後には 1916(大正 5)年 1 月に『婦人公論』，1919(大正 8)年 1 月に『改造』が誕生し，政治や経済，文芸など幅広い分野の記事を扱った．これらの月刊総合雑誌は政治や経済などに言及するとともに文芸作品も多数掲載し，『改造』は 1926(大正 15)年の「円本」ブームを作るなど，文学とも深いつながりを持つようになった．『中央公論』や『改造』に掲載された文芸作品は田山花袋や谷崎潤一郎といった純文学作家のものや，貴司山治や宮本百合子などプロレタリア文学作家のものが中心であった．

「円本」ブーム前年の 1925(大正 14)年 1 月，講談社より月刊雑誌『キング』が創刊された．『キング』は年齢層や性別，職業，地位を超えてあらゆる人々をターゲットに，大衆小説や講談，実用記事などを満載して発行された．また，『キング』が創刊された年の 6 月，社会主義や共産主義思想を反映したプロレタリア文学系雑誌『文芸戦線』が創刊された．『文芸戦線』は 1921(大正 10)年 2 月創刊の『種蒔く人』創始者の小牧近江を中心に，金子洋文や青野季吉らプロレタリア文学作家が文芸作品や評論を掲載した．『文芸戦線』の創刊以降，同年 12 月に日本プロレタリア文芸連盟，1927(昭和 2)年 6 月には労農芸術連盟，1929(昭和 4)年 4 月にはプロレタリア作家同盟が結成され，『戦旗』(1928 年 5 月)や『ナップ』(1930 年 9 月)などプロレタリア系雑誌も創刊された．『戦旗』には小林多喜二が小説『一九二八年三月十五日』や『蟹工船』を発表し，特高警察の弾圧と拷問に耐える革命家や資本家に搾取される労働者を描いて昭和初期の代表的なプロレタリア文学作家の一人となった．

メディアの発展と読者層の関係については，永嶺重敏『雑誌と読者の近代』(日本エディタスクール出版,2004)や有山輝雄・竹山昭子『メディア史を学ぶ人のために』(世界思想社,2004)，奥武則『大衆新聞と国民国家』(平凡社,2000)等の著書によって述べられているが，そもそも明治から大正初期におけるこれらの新聞・雑誌の購読層は，そのほとんどがいわゆる知識階級と呼ばれる人々であった．知識階級に属する人々とは，具体的には政治家や学者，教育関係者，芸術家，評論家等の知識労働に携わる人々で，一般的に高学歴であり，様々な現象や学問に対する知識が豊富な「ホワイトカラー」に属する人々のことを指す．大正デモクラシー以前，知識階級＝「ホワイトカラー」と，それと対をなす労働者階級，いわゆる肉体労働に従事する「ブルーカラー」に属する人々では，購読する雑誌や新聞が異なっており，知識階級は上記の新聞や雑誌を購読し，政治や社会問題に対する評論を読むことで，政治に対する関心や問題意識を持つに至った．

明治期から大正初期にかけて，教育制度の定着とともに識字率が上昇し，大正デモクラシー運動の中，労働者層による小作争議やストライキが相次ぐにつれ，知的欲求の高まりとともに新聞や雑誌の読者層は変質を見せ始めるが，これに呼応するように，新聞や雑誌はより「読みやすく」「分かりやすい」文体や構成へと変質し，読者層が拡大することとなった．また，先にも述べたが，第一次大戦以降の都市の工業化，人口流入に伴うサラリーマンの増加や都市中産層の増大は，「消費」対象としての新聞や雑誌の需要を高め，大正末期から昭和初期にかけて『キング』や『平凡』(平凡社,1928)，『日の出』(新潮社,1932)等の娯楽雑誌が誕生した．

このような社会において新たに誕生した『週刊朝日』と『サンデー毎日』が，どのような狙いをもって創刊され，戦前の社会においてどのような形で受容されたのか，この点については次章以降で詳しく見ていくこととし，次節では，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の概要について述べる．

2.3 『週刊朝日』と『サンデー毎日』の概要

『週刊朝日』と『サンデー毎日』が創刊された 1922(大正 11)年前後の雑誌界は，1874(明治 7)年創刊の『明六雑誌』(明六社)等の政論新聞の流れを汲む雑誌，1899(明治 32)年創刊の『中央公論』(中央公論社)等の自由主義思想の雑誌，ロシア革命(1917 年)の影響を受けて 1918(大正 7)年に創刊された『改造』(改造社)，翌 1919(大正 8)年創刊の『我等』(我等社)，『解放』(解放社)など社会主義思想の雑誌，さらには実用記事満載で多くの女性読者を獲得した 1917(大正 6)年創刊の『主婦之友』(東京家政研究会(後に主婦之友社))や 1920(大正 9)年創刊の『婦人倶楽部』(大日本雄弁会(後に大日本雄弁会講談社))などの婦人雑誌が発行されていた．また，『週刊朝日』と『サンデー毎日』創刊から 3 年を経た 1925(大正 14)年 1 月には，先にも述べたように，年代や性別を問わず多くの読者を獲得した大衆雑誌『キング』が登場している．明治末期から昭和初期にかけての雑誌界の状況について，明治から昭和 20 年代までの日本国内の新聞・雑誌・書籍の出版状況の詳細をまとめた『出版販売小史』(東京出版販売株式会社,1959)は，以下のように記述している．

> 明治年代に於て雑誌は一応、部門別の分化も完成し、大正時代に入ると点数も冊数も非常に増加した。明治から大正初期にかけて雑誌販売は好況期を迎え、販売店間の売り上げ競争が激化して 25 銭定価のものを 22 銭とか 21 銭 5 厘という定価割引が頻発し、元取次店からの仕入正味を割る店も多数出る程であつた。(中略)
>
> 日本の資本主義は日清・日露の二つの戦争を経て産業資本が確立するとともに進展し、大正初年の第一次世界大戦を契機として飛躍的に発展した。一方、また、第一次世界大戦はデモクラシー思想を世界的風潮に押し上げ、特に連合国側についた我が国には特に強く波及した。当時の一流綜合誌「中央公論」はこうした時代思潮にそつて民主々義思想を以てつらぬき、「太陽」「新日本」をぬいて最も有力な綜合誌に発展したのも時代的背景によるものと考えられる。大正 7 年(1918 年)には「改造」が発行され、翌 8 年には「解放」が創刊されている。社会運動の興隆に伴い、次第に急進的な方向に進み、やがて「改造」は「中央公論」とともに二大綜合雑誌といわれるようになつた。
>
> 大正前半期の第一次世界大戦に伴う好況は社会生活の上にも繁栄をもたらし、一般大衆向娯

楽雑誌の発行を促進した。これは大衆娯楽誌部門の雑誌の増加とともに、文芸誌の大衆化、少年誌・婦人誌の平易化という形になつてあらわれ、教え導くという明治の雑誌形態は大々的に改められて、大衆に愛される雑誌、興味をもたれる雑誌という方向に進んだのである。

大正時代前半のデモクラシー思想はこの時代の末期に近ずくにつれ、次第に台頭して来たファッショ勢力に圧迫されがちになつたが、「中央公論」「改造」等は左翼思想家の執筆により、ファッシズム態勢の進行にあたつても、その立場をかえなかつた。しかし、婦人誌、少年誌を含めた一般大衆誌は次第に右翼化した記事、読物に偏していったことは時代の流れを物語るものである[23]。

上記の引用文が示すように，明治から大正期の雑誌界は次々と新しい雑誌が創刊され，その主義や思想も政論や総合だけでなく，娯楽，文芸，実用と多種多様であった．昭和に入ると，1927(昭和 2)年の金融恐慌，1930(昭和 5)年の世界恐慌の影響によって経済が停滞し，日本は 1931(昭和 6)年の満州事変以降，軍事インフレーションへの転換を目指し，不況打開策としての戦争を選択することとなる．こうした社会体制への反動から『戦旗』や『文芸戦線』等のプロレタリア文芸雑誌が誕生し，1930(昭和 5)年には国内で発行される雑誌の数は約 5,000 万部に達した．

大正期に雑誌発行部数で常に上位を占めたのは，前出の『キング』の他では，『主婦之友』や『婦人世界』等の婦人雑誌であった．特に『主婦之友』は料理や育児，裁縫など女性にとって実用的な記事を掲載するとともに，小説等の読み物も小学校教育を受けた女性であれば理解できるものを掲載し，発行部数を伸ばしていった[24]．また，1920(大正 9)年に創刊された『婦人倶楽部』も，“講談社独特の豊富な内容を大衆的にかみくだき，教育的な精神も盛りこんだ編集で，附録をつけ，大々的な宣伝で各階層の婦人にくいこんで行った”[25]ことにより，大正期の女性雑誌界は『主婦之友』と『婦人倶楽部』の 2 誌が勢力を拡大し，1931(昭和 6)年には『主婦之友』が 60 万部，『婦人倶楽部』が 55 万部を売り上げ，3 位の『婦女界』(35 万部)，4 位の『婦人公論』(20 万部)を大きく引き離すまでになった[26]．

そうした中で，1922(大正 11)年，『週刊朝日』と『サンデー毎日』が創刊された．両誌はともに定価 10 銭，タブロイド判(237×406mm)で 30 ページ前後と，ほぼ同じ体裁であった．大正初期の月刊誌は雑誌販売の好況期を迎え，売上競争の結果，価格は 20～25 銭[27]が平均的であったが，『週刊朝日』と『サンデー毎日』は，さらに安い 10 銭での販売開始となった．サイズや価格，ページ数の面では，月刊誌と新聞の中間に位置する雑誌であった．

『週刊朝日』と『サンデー毎日』は，厳密には日本で最初の週刊誌ではない．明治末期から大正初期にかけて，既に『サンデー』(サンデー社,1908)や『週』(週報社,1917)等の週刊誌が発行されていた．しかしそれらは，現在の発行形態である 7 日に一度のサイクルを持つものではなく，現在の週刊誌の概念を形成したという点において，『週刊朝日』と『サンデー毎日』は日本で最初の週刊誌とするに値する．

『週刊朝日』創刊の目的について，大阪朝日新聞社出版部長の鎌田慶四郎は，“本誌の目的とする一半は、事件の発生につれて急速に断片的に報道する日刊紙に対し、一週間分をひとまとめにし、誤報を修正し、記述に前後や経過の組織を立て、かつこれを何人にも読みやすいように書き

---

[23] 東京出版販売株式会社.出版販売小史.東京,東京出版販売,1959.355P. p.98
[24] 東京出版販売株式会社.出版販売小史.東京,東京出版販売,1959.355P. p.101
[25] 東京出版販売株式会社.出版販売小史.東京,東京出版販売,1959.355P. p.101
[26] 永嶺重敏．雑誌と読者の近代．東京，日本エディタスクール出版,2004.281P. p.184
[27] 東京出版販売株式会社.出版販売小史.東京,東京出版販売,1959.355P. p.98

直したもので、一週一冊これを手にしておれば、居ながらにして内外の主なる事件を知悉し得て、おくるるなきを特色と”し，さらに“世人に向って生活上の実益と慰楽とを、また男女、子供の善良にして興味深き読物を提供”[28]することにある，と述べている．このようにして創刊された『週刊朝日』は，「週間」「インサイド」「経済週報」の 3 つの項目を誌面に設け，社会・政治記事，実用・文芸記事，経済記事の 3 つを同時に盛り込んだ誌面構成となった．

『週刊朝日』は創刊当初『旬刊朝日』として 10 日に 1 度で出版された．同年 4 月 2 日の第 5 号より『週刊朝日』と改題して毎週日曜の発行となったが，このことからは，1876(明治 9)年 4 月より開始された日曜休日の制度(「日曜日ヲ休暇ニ被定」同年 3 月 31 日発令)が，大正期のサラリーマンの増加と日曜休日の生活リズムがようやく定着し始めたことを示しており，両誌が創刊された時代に，人々の生活様式が大きく変わり始めたということが読み取れる．

一方，『サンデー毎日』は『週刊朝日』から約 1 ヶ月遅れで創刊されたが，『サンデー毎日』創刊の構想は 2，3 年前から検討されており，その原型となったのは 1921(大正 10)年 10 月 7 日発行の「ロート・グラビュア・セクション・大阪毎日新聞日曜附録」である．これは毎月第 1，第 3 日曜に日刊紙の附録として発行した写真画報で，写真の他に旅行記や文芸，趣味に関する読物が掲載された．日曜附録をさらに発展されるかたちで創刊された『サンデー毎日』は，“どんな人にも面白く読まれ、どんな方面の事も書いてある”[29]ことを目的とし，創刊当初より実用記事を中心とした誌面構成となった．

図 2-1，図 2-2 は両誌がともに週刊の発行となった 1922(大正 11)年 4 月 2 日号の目次である．この 2 つを見ると，『週刊朝日』は政治・社会記事の「週間」，実用・文芸記事の「インサイド」，経済記事の「経済週報」で 3 分の 1 ずつを分け合う構成であるが，『サンデー毎日』は「内外時事週報」と「経済」以外は全て，実用・文芸記事が占める構成となっている．政治・社会問題に対する言及の違いは 1922(大正 11)年を通して見られることであり，両誌の創刊当初の編集方針の違いが表れているといえる．なお，参考として両誌の創刊号から 1922(大正 11)年 7 月までの目次を巻末資料 I として添付した．

政治や社会問題への言及に対する分量に違いは見られるが，両誌がそれぞれどういったジャンルの雑誌を目指したかは，創刊当初の目次からは明確な答えが導き出せない．『主婦之友』のように主婦層をターゲットに家庭雑誌を目指すのか，『キング』のように幅広い層に対し娯楽中心の雑誌を目指すのか，『中央公論』のように政治や社会問題を論じ，同時に文学作品も数多く掲載する総合雑誌を目指すのか，その着地点が曖昧である．しかし，両誌の創刊の目的にある“何人にも読みやすい”(『週刊朝日』)，“どんな人にも面白く読まれ”(『サンデー毎日』)，“一週一冊これを手にしておれば”(『週刊朝日』)，“どんな方面の事も書いてある”(『サンデー毎日』)という文言からは，1 冊の雑誌の中に「何でも揃っている」というデパート的要素を読み取ることができる．つまり，創刊前の編集方針としては，「大量消費社会」における一般民衆＝「大衆」を対象としていたと見ることができる．しかし，図 2-1 と 2-2 で示した創刊号の目次を見る限りでは，「週間」のカテゴリにおいて国内外の政治や外交についての評論を多数掲載している『週刊朝日』が，はたして“何人にも読みやすい”雑誌であったかと考えると，そうとは言い切れない．また，『サンデー毎日』の創刊号の内容が，“どんな方面の事も書いてある”雑誌かというと，やはりこれも「子供服」や「結核」「節約」「産児制限」等，家庭における女性を意識した記事が並び，多様な主題を扱うというよりも，女性向けの記事が豊富に掲載されているという印

[28] 朝日新聞百年史編修委員会．朝日新聞社史:資料編.東京，朝日新聞社, 1995.686P. p.96
[29] 毎日新聞社.「毎日」の 3 世紀:新聞が見つめた激流 130 年．東京, 2002.759P. p.204

象を受ける．ともに新聞社より発行され，ニュースのダイジェストや日曜附録の拡大版としてスタートしたところからは，創刊当初の読者層としては『大阪朝日新聞』や『大阪毎日新聞』の読者層が大部分を占めていたと考えられるが，雑誌の読者層については，特に戦前の場合，広範囲にわたってアンケート等の読書調査が行われておらず(あるいは記録が残っておらず)，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の読者層を統計調査の面から特定することは困難である．従って本論で触れる週刊誌の読者層については，目録データの分析によって抽出された特徴や大正末期から昭和初期における教育水準，新聞の読者層といった側面から類推し，参考までに言及していくこととする．

表紙写真　平和博の朝日デー　3
表紙裏　当冬の収穫(漫画)　［伊東忠太］　3
同写真　平和博の朝日デー写真競技大会　3
参加の帝劇女優達　4
週間
政局如何に動くか　［高木信威］　3
七日間の世界(週間評論)　3
帝国議会終了　4
経済概要、綱紀建議案(他)　4
内外時事
日本　革新倶楽部、政友新役員(他)　3
米国　上院の四国協約批判(他)　6
欧州　雪国ゼノア、本年度独逸賠償(他)　6
社会　英国皇太子御来訪(他)　7
内外日誌　7
言論界(帝国議会終る、其他)　4
米国禁酒の二年　［藤田進一郎］　6
インサイド
食用貝の話　［岸上理学博士］　6
劇壇近事　［小宮豊隆］　9
天気予報講話　［小野理学士］　10
坪内博士の手紙　11
光瑠氏の新居「無愛園」　［太田宇之助］　11
若い婦人のために　［藤村医学博士］　12
四月の『婦人雑誌』から　13
東京の春、大阪の春(写真)　13
大阪の釣、東京の釣　［根本房吉］　13
素人写真の撮りかた　［秋山徹補］　14
家庭(花見のお弁当、食用牛の話)　15
園芸　春時きの草花　16
流行写真　16
ゴドモの世界(英国皇太子殿下、英国の旗)　16
運動(五大学の新陣容)　17
出版界　18
林檎の種(探偵小説・四)　［馬場孤蝶］　18
童謡、俳句、写真、絵画　19
経済週報　22
23

図 2-1：『週刊朝日』目次(1922.4.25)

表紙　平和記念博覧会(上野公園)　3
現代生活の充実と節制と(今日の主張)
童謡を作る子供の心もち　［本居長世］　3
きれいに見えてもきたない生活　［森本静子］　3
二重生活からのがれるための様式新住宅　4
おばさんのお人形(少女小説)　5
「をじいさんのこ」スケッチ　［梶原ひさ子］　5
菜園の快味(こどものページ)　6
よわちゃん帰る(事実のお話)　6
童謡募集　6
仙人(お伽噺)　［芥川龍之介］　7
考へ物新題　7
素人設計の小住宅　［小野美智子］　8
子供服の新しいスタイル　8
水をこぼさぬお台所　［梶原ひさ子］　9
「まるる山」(スケッチ)　9
これからの食べもの　［一戸伊勢子］　9
私の最初の子(育児日記)　10
この春の流行雑感　10
結核の話　［有馬頼吉］　11
結核と気づいた時　［松田毅］　11
よき子供靴　［小西善太兵衛］　11
夫婦相互の思想　［三宅やす子］　12
ラ・ボルカ・タリオス(巴里の新舞踊)　12
酎の乗り込と釣場所　［上田尚］　13
挿花の自然　［西川一草亭］　13
尚侯爵(探偵小説)　［春日野緑］　14
食獣の舞踊と植物の舞踊　［山田耕作］　15
楽屋の裏から　15
春宵曲　［名取国三郎］　15
野球を七回試合とするの可否　16
硬球のスコアリング　16
産児制限か生み放題か　［山川菊栄］　17
文壇近頃のこと　18
かき船(小話)　［田中貢太郎］　19
内外時事週報　20
経済　24

図 2-2：　『サンデー毎日』目次(1922.4.25)

2.4　週刊誌メディアの読者層

ここで述べる「読者層」とは，雑誌の範囲でいえば月刊総合誌，大衆娯楽誌，啓蒙的婦人雑誌，実用的婦人雑誌，少年少女誌，専門誌等の雑誌の各ジャンルにおける，特定の読者のことを指す．しかし新聞や雑誌の読者層は，その読者の職業や年齢によって固定されていたわけではなく，例えば『キング』のように，知識階級層や労働者層，学生，サラリーマン，女性，等の様々な階層の人々にまたがって読まれた雑誌も存在するため，一概に特定の雑誌及びジャンルに対し特定の

読者層があてはまるというわけではない．また，『週刊朝日』と『サンデー毎日』に関しては，発行部数とともに読者層の面で詳細なデータを記録した資料が残されているわけではないため，両誌の発行母体である『朝日新聞』と『毎日新聞』の読者層と，両誌が大正末期から昭和初期にかけて多数掲載した大衆小説の読者層を参考にし，類推することとした．

新聞メディアの読者層については，日清・日露戦争以降の新聞のマスメディア化，大正デモクラシー以降の民衆の「情報」への需要の高まり，及び 5 章 5.1 でも触れるが，新聞メディアの紙面構成の変化，主題の多様化等があり，政論新聞から商業新聞へと変化したことにより，高い水準の教育を受けた知識階級の人々だけのものではなくなった．また，明治後期には教育制度が普及し，知識階級は政治家や学者，教育者だけで構成されるのではなく，都市部のサラリーマン層や学生にも広がりを見せ，さらには職業婦人や家庭の主婦やストライキに関心の高い労働者層や農業従事者も新聞を購読するようになった．新聞メディアの起源と発展については 2 章 2.2 でも述べたが，政論新聞を起源とする『東京日日新聞』や『大阪朝日新聞』と，絵入り・ふりがな付きで娯楽記事を満載した『読売新聞』では，明治前期にはそれぞれ異なる読者層を持っていたと考えられる．『週刊朝日』と『サンデー毎日』の発行母体である大阪朝日新聞社と大阪毎日新聞社が発行する新聞は，もともとは政論新聞として普選運動や軍縮問題において社会問題に対する批評を主体としていたが，この頃の読者層としては，知識階級に属する「ホワイトカラー」が大部分を占めていたと考えられる．この構造に変化が見られたのは日清・日露戦争における報道体制と号外の発行であり，大正デモクラシー期における労働争議，小作争議の主役であった労働者層の「知識欲」の発生である．これによって新聞は社会問題の批評から，戦争や震災などのセンセーショナルな出来事に対する「情報」と「ニュース・ストーリー」，及び身近な問題を論じる「解説」と「評論」の提供へと移行し，「ホワイトカラー」だけでなく，「ブルーカラー」も含めた幅広い読者層を獲得するに至った．

一方，月刊誌の読者層では，新聞の「大衆化」によって拡大した読者層が，さらに『キング』等の大衆娯楽雑誌の登場によって「大衆読者層」と「知識人読者層」に二分化されることとなった．以下に，永嶺重敏『雑誌と読者の近代』より，一部を引用する．

> こうして〔明治期以降の就学率上昇や労働争議, ストライキによる知的欲求の発生により〕、労働者が新たに読書階級へ新規参入したことによって、読書は相対立する階級間の社会文化的闘争の位置焦点として、きわめて階級的な色彩を帯びるようになってきた。
>
> 労働者をはじめとする大衆読者層の登場は、以上のように読者の「階級性」をクローズアップさせたが、他方、既成の読者層の側においてもひとつのリアクションを生み出した。「知識人読者」意識の誕生がそれである。
>
> 大衆読者層の登場は、出版者サイドにとっては広大な新たな出版市場の出現を意味した。大衆をターゲットにした出版物が次第にそのシェアを拡げていくが、教育水準のそれほど高くない大衆相手の出版物は、必然的に内容の相対的低下に結びつく。読書意識の高い読者にあってはこのような風潮を憂い、大衆的出版物から距離を置き、目的においても方法においても大衆読者とは異なった読書のあり方を求めようとする傾向が顕在化してくる。読書の差異化現象である。大衆読者の成長と表裏一体となって、このような志向性を持つ読者層も徐々に析出されるようになり、それは「知識人読者」「知識階級」という概念へと結晶化されていく。(〔　〕内記述は筆者)[30]

[30] 永嶺重敏．雑誌と読者の近代．東京，日本エディタスクール出版, 2004.281P. p.27-28

では，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の読者層は，この 2 つの読者層のどちらが多数であったのか．読者層に関する調査は，当時行われたアンケート調査等が残っていない限り正確に把握することは困難であるが，当時の新聞読者層と月刊誌の読者層より類推することは可能であると考えられる．

まず，『大阪朝日新聞』と『大阪毎日新聞』の読者層は発刊当初は「ホワイトカラー」層が中心であったが，大正期にはすでに新聞は「ホワイトカラー」だけのものでなく，様々な職業の人々に読まれていたこと，また『週刊朝日』の創刊号が政治・経済や社会問題の評論記事が多かったことからは，『週刊朝日』の創刊当初の読者層は一定の教育水準を満たした知識階級の人々が大部分を占めいていたが，ごく一部の労働者層，女性層もそこに含まれていたと見ることができる．

大正期において労働者に対する教育が行われてきたことについて，玉城肇は以下のように述べている．

> この講習会〔東京・月島労働講習会，1923 年 12 月実施〕は、はじめ三ヶ月を一期として、男女各々五十名を入学させた。入学金は五十銭、月謝は三ヶ月で九十銭だった。この講習会で労働者問題とか、日本労働運動史とか、労働法規とか、経済学とかをを学習したのである。その学科の内容がどんなものだったにせよ、いずれも労働者の生活や、労働運動と密接に結びつく学科であって、このような学科は普通の学校では教えられないものだった。(中略)
>
> 労働者側による教育運動は大正十二年までに大体その土台をきずきあげたが、大正十二年九月の関東大震災以後に、急速に発展した。もとよりこの発展の背景となったのは、大震災以後に成長した労働運動である。大震災によって労働運動の戦闘的分子は虐殺されたり、弾圧されて、かなりの痛手をうけたけれども、決して労働運動を根こそぎたやすことはできなかった。それどころか、かえって生活の苦しさと弾圧とは、労働者をきたえあげたようだった。そして大正十三年頃から労働組合員の数も増加し、階級意識もするどくなって行った。それにともなって、各地の労働学校や講習会の内容も階級的立場をはっきりさせ、その組織も整備されたのである。[31]

しかし，学校教育の整備や労働者への教育の充実がみられたとはいえ，大正末期の就学率は依然として上がらず，工場労働者の約 50～60%は尋常小学校卒業程度の学力しか身につけておらず，中等学校卒業は 5%にも満たないのが現状であった[32]．『週刊朝日』や『サンデー毎日』が創刊された 1922(大正 11)年頃は，労働者層がストライキ等を経て知識欲を上昇させたとはいえ，まだ大半の労働者層は小学校卒業程度の学力のみによって新聞や雑誌を購読していた，あるいは何も読んでいなかったということになる．また，女子の就学率は農村や女工(工場労働者)においては男子よりも低く，『週刊朝日』の創刊号を見る限り，政治や経済に関する評論記事の難解さが，こうした労働者層に理解され，購読されていたとは考えられない．

両誌はともに創刊に際し“何人にも読みやすい”雑誌をつくることを目的とする，と明言しており，この“何人”が「ホワイトカラー」だけを指すものでないことは明確であるが，創刊当初はまだこの目的とは程遠い位置にあった，ということができる．この編集方針が次第に実現する方向で進み始めたのが，大衆小説の掲載と娯楽企画の開始である．4 章で詳細なデータを示すが，

---

[31] 玉城肇.日本教育発達史.三一書房,1980,241P. p.112-113

[32] 玉城肇.日本教育発達史.三一書房,1980,241P. p.118-120

1930 年代の『週刊朝日』と『サンデー毎日』には大衆小説を中心とした連載小説や新講談が多数掲載され，大衆小説の特集号も多数発行されている．この特集号は，通常号は従来のままニュースのダイジェスト版機能を重視し，娯楽的読み物を中心とした別冊として発行することにあったとされている．以下に，『朝日新聞出版局史』(朝日新聞出版局,1969)より一部を引用する．

> しかし、大衆化、娯楽・読物雑誌化への希望は、読者の側にも、編集部内にもあった。本誌を時事雑誌にとどめておいて、娯楽の要素を放流するかのような企画がおこなわれる。戦後に別冊の名で呼ばれた臨時増刊「特別号」の刊行である。その発端は一九二二(大 11)年七月五日、夏期(季)特別号『溢るる涼味』である。四六 4 倍判、表紙オフセット三色(杉浦非水画)、単色四ページ、本文ほか六十八ページ、三十銭であった。芝居噺、怪談、涼味随筆、子供ページ、絵と漫画という構成であった。二十万部印刷したが、たちまち売り切れてしまった。[33]

この特集号の発行は，『週刊朝日』の編集を行う朝日新聞出版局(朝日新聞編集部内に設置)が，読者の需要を受け，娯楽や趣味，文芸を満載して発行したものであり，これがのちに大衆小説満載の文芸特集号へと発展することとなった．こうした取り組みを経て，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の読者層は，次第に新聞の読者層との重なりよりも，『キング』等の大衆娯楽雑誌，あるいは「円本」の読者層との重なりの方が大きくなっていき，同時に“読書意識の高い読者”が距離を置くようになっていったと考えられる．従って，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の想定される読者層としては，創刊当初は『大阪朝日新聞』や『大阪毎日新聞』を購読する知識階級が中心であったが，昭和初期の大衆小説を満載した時代からは，『キング』等の大衆娯楽雑誌を購読する労働者層へも，時代小説や探偵小説を誘引剤として広がっていったのではないかと考えられる．また，都市部中間層を構成するサラリーマンの通勤時間における「暇つぶし」としての読み方が，大衆小説のもつ「消費的傾向」と合致することで受け入れられ，同時にその同一家庭にある女性へも実用記事が家庭生活に有用なものとして受け入れられた，と見ることができる．

[33] 朝日新聞出版局.朝日新聞出版局史.朝日新聞出版局,1969,565,269P. p.48

第 3 章　研究方法

3.1　データの収集と管理

本研究の基礎となる『週刊朝日』と『サンデー毎日』の目録は，既存の二次資料が存在しないため筆者が収集したデータをもとに『週刊朝日』は 1922(大正 11)年 2 月 25 日号,『サンデー毎日』は同年 4 月 2 日号から 1945(昭和 20)年 8 月 26 日号までの目録を作成した．データは国立国会図書館，日本近代文学館，昭和女子大学図書館，関西大学図書館等の各種公共機関や大学図書館所蔵の原資料，マイクロフィッシュより収集した．また，各種公共機関に所蔵のない資料については,毎日新聞社の御好意により,保存されている原資料を閲覧させていただいた.『週刊朝日』は 1944(昭和 19)年 4 月 2 日号,『サンデー毎日』は 1944(昭和 19)年 6 月 4 日号より本文に目次がないため，これ以降は本文に従って目録データを登録した．

データの収集と登録には Microsoft Excel を使用し,「ID」(記事通し番号),「記事名」,「執筆者」,「頁」,「巻号」,「発行年月日」の 6 つの項目(フィールド)を設け,『週刊朝日』と『サンデー毎日』を別表(テーブル)で登録した．冊子体原稿の作成時は「記事名」及び「執筆者」の漢字・仮名遣いは原則として表記のままとしたが，これらのデータをもとに Excel でデータを整理するに当たり，記事名及び執筆者名に含まれる用語での検索を効率化するため,「記事名」「執筆者名」フィールドは新漢字に修正した．

また，冊子体の原稿として執筆者索引も同時に作成したので，これをもとに，執筆者別の年別記事数を集計するテーブルを作成した．ここでは「ID」(五十音順の通し番号),「分類」,「執筆者名」の 3 つのフィールドに，1922～1945 年ごとの記事数のフィールド，総計のフィールドを設け，集計を行った．なお,「分類」フィールドは執筆者の種類(本名・ペンネーム＝「1」，匿名(「A 記者」,「○○生」,「××同人」等)＝「2」，役職・機関・団体名(「週刊朝日編集部」,「海軍省」,「大阪市助役」等)＝「3」，その他(「四氏」,「数百名」等)＝「4」とした．

各テーブルの構成は以下の図 3-1，図 3-2，図 3-3 に示す通りである．

公共機関及び新聞社にも原本またはマイクロフィッシュ等が存在しない号については,「欠号」とした．両誌の欠号状況は以下の通りである。

『週刊朝日』欠号一覧

・1932(昭和 7)年 11 月 27 日号

・1945(昭和 20)年 7 月 29 日・8 月 5 日合併号

『サンデー毎日』欠号一覧

・1940(昭和 15)年 3 月[発行日不明]号

・1941(昭和 16)年 3 月 25 日号

・1945(昭和 20)年 3 月 4 日号

・1945(昭和 20)年 8 月 19 日号

・1945(昭和 20)年 8 月 26 日号

contents_AsahiWeeklyEdition

	A	B	C	D	E	F	G
1	ID	記　事　名	執筆者	執筆者(新漢	頁	巻号	発行年月日
2	1	★『旬刊朝日』一九二二(大正十一)年二月二十五日号(第一巻一号)目次				1-1,	1922(大正11)年2月25日号
3	2	表紙写真　朝日新聞社来訪のジヨツフル元帥				1-1,	1922(大正11)年2月25日号
4	3	表紙裏　新時代の家庭雛(漫画)	岡本一平	岡本一平		1-1,	1922(大正11)年2月25日号
5	4	旬間				1-1,	1922(大正11)年2月25日号
6	5	華府会議の成果	米田實	米田実	3	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
7	6	山縣公の死			4	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
8	7	華盛頓会議の総覧			5	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
9	8	華盛頓会議諸条約			6	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
10	9	海軍条約、四国条約、極東協約、ヤツプ島協定			7	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
11	10	山東協定			7	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
12	11	支那諸税協定、潜水艦及毒瓦斯協定			8	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
13	12	陸軍縮小問題(言論界)			8	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
14	13	第四十五回帝国議会				1-1,	1922(大正11)年2月25日号
15	14	開院式勅語、衆議院本会議			9	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
16	15	衆議院予算議会、貴族院本会議			10	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
17	16	衆議院予算議会、重要法案			11	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
18	17	日本			11	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
19	18	軍人に令旨、補欠選挙(愛知・石川)、昇格評議会、熊野代議士離宮闖入騒動、新枢府議長陸軍騒動、陸軍異動、阿部浩氏、新勅撰七氏、徳川全権帰朝、特許局管制改正			11	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
20	19	欧米				1-1,	1922(大正11)年2月25日号
21	20	愛蘭自由国、カンヌ会議、仏国内閣更迭、独逸新外相、伊太利の政局、新旧羅馬法皇、埃及独立問題、印度の形勢			12	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
22	21	支那				1-1,	1922(大正11)年2月25日号
23	22	梁士詒内閣の破綻、華府会議終了と支那、九千六百万元公債の成立			12	1-1,	1922(大正11)年2月25日号
24	23	社会				1-1,	1922(大正11)年2月25日号
25	24	仏国答礼使ジヨツフル元帥来朝、宮廷録事、山縣公爵、大隈侯爵、満鉄事件の公判、北陸線惨事、東北の水害、平和博覧会、各地雑件、普選の叫び、労働界、航空界、火災、芸術界、人事消息			13	1-1,	1922(大正11)年2月25日号

asahi weekly

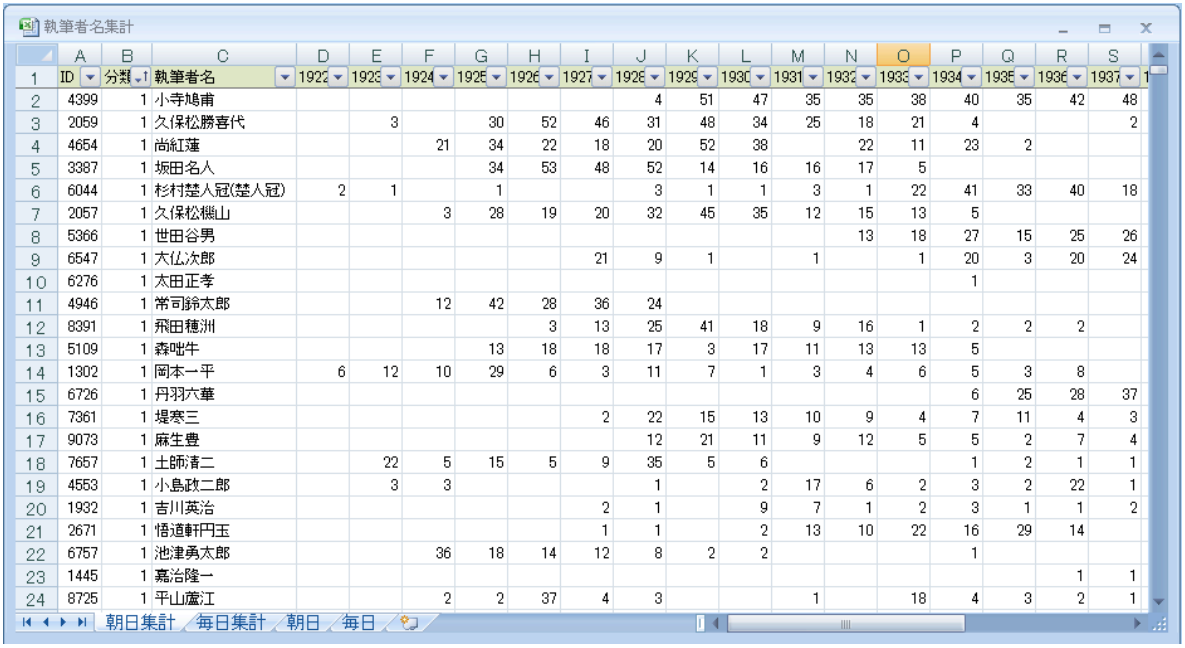
図 3-1：『週刊朝日』目録データテーブルの構成

contents_MainichiWeeklyEdition

	A	B	C	D	E	F	G
1	ID	記事名	執筆者	執筆者(新漢字	頁	巻号	発行年月日
2	1	★『サンデー毎日』　一九二二(大正十一)年四月二日号(第一巻一号)				1-1,	1922(大正11)年4月2日号
3	2	現代生活の充実と節制と(今日の主張)			3	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
4	3	童謡を作る子供の心もち	本居長世	本居長世	3	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
5	4	きれいに見えてもきたない生活	森本静子	森本静子	4	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
6	5	二重生活からのがれるための様式新住宅			4	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
7	6	おばさんのお人形(少女小説)			5	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
8	7	「をどりこ」(京の春スケッチ)	梶原ひさ子	梶原ひさ子	5	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
9	8	菜園の快味(こどものページ)			6	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
10	9	よねちやん帰る(事実のお話)			6	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
11	10	童謡募集			6	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
12	11	仙人(お伽噺)	芥川龍之介	芥川龍之介	7	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
13	12	考へ物新題			7	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
14	13	素人設計の小住宅	小野美智子	小野美智子	8	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
15	14	子供服の新しいスタイル			8	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
16	15	水をこぼさぬお台所			9	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
17	16	「まる山」(京の春スケッチ)	梶原ひさ子	梶原ひさ子	9	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
18	17	これからの食べもの	一戸伊勢子	一戸伊勢子	9	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
19	18	私の最初の子(育児日記)			10	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
20	19	この春の流行雑感			10	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
21	20	結核の話	有馬頼吉	有馬頼吉	11	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
22	21	結核と気づいた時	松田毅	松田毅	11	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
23	22	よき子供靴	小西善太兵衛	小西善太兵衛	11	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
24	23	夫婦相互の思想	三宅やす子	三宅やす子	12	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
25	24	ラ・ボルカ・タリオラ(巴里の新舞踊)			12	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
26	25	鮒の乗り込と釣場所	上田尚	上田尚	13	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
27	26	挿花の自然	西川一草亭	西川一草亭	13	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
28	27	尚侯爵(探偵小説)	春日野緑	春日野緑	14	1-1,	1922(大正11)年4月2日号
29	28	食獣の舞踊と植物の舞踊	山田耕作	山田耕作	15	1-1,	1922(大正11)年4月2日号

Mainichi Weekly　kanji

図 3-2：『サンデー毎日』目録データテーブルの構成



執筆者名集計

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
1	ID	分類	執筆者名	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937
2	4399	1	小寺鳩甫							4	51	47	35	35	38	40	35	42	48
3	2059	1	久保松勝喜代		3		30	52	46	31	48	34	25	18	21	4			2
4	4654	1	尚紅蓮			21	34	22	18	20	52	38		22	11	23	2		
5	3387	1	坂田名人				34	53	48	52	14	16	16	17	5				
6	6044	1	杉村楚人冠(楚人冠)	2	1		1			3	1	1	3	1	22	41	33	40	18
7	2057	1	久保松機山			3	28	19	20	32	45	35	12	15	13	5			
8	5366	1	世田谷男											13	18	27	15	25	26
9	6547	1	大仏次郎						21	9	1		1		1	20	3	20	24
10	6276	1	太田正孝													1			
11	4946	1	常司鈴太郎			12	42	28	36	24									
12	8391	1	飛田穂洲					3	13	25	41	18	9	16	1	2	2	2	
13	5109	1	森咄牛				13	18	18	17	3	17	11	13	13	5			
14	1302	1	岡本一平	6	12	10	29	6	3	11	7	1	3	4	6	5	3	8	
15	6726	1	丹羽六華													6	25	28	37
16	7361	1	堤寒三						2	22	15	13	10	9	4	7	11	4	3
17	9073	1	麻生豊							12	21	11	9	12	5	5	2	7	4
18	7657	1	土師清二		22	5	15	5	9	35	5	6				1	2	1	1
19	4553	1	小島政二郎		3	3				1		2	17	6	2	3	2	22	1
20	1932	1	吉川英治						2	1		9	7	1	2	3	1	1	2
21	2671	1	悟道軒円玉						1	1		2	13	10	22	16	29	14	
22	6757	1	池津勇太郎			36	18	14	12	8	2	2				1			
23	1445	1	嘉治隆一															1	1
24	8725	1	平山蘆江			2	2	37	4	3			1		18	4	3	2	1

朝日集計 毎日集計 朝日 毎日

図 3-3：執筆者記事数データテーブルの構成

3.2　データの集計方法

目録データの Excel への入力作業は，印刷物の作成を前提として行ったため，そのままではデータの検索や抽出作業に適しているとはいえない．執筆者名でのデータ抽出には執筆者索引のデータを活用できるが，記事名の抽出にはタイトル中の用語を検索語に指定する必要があり，抽出しきれないデータが出てくることになる．例を示すと，『サンデー毎日』の 1922(大正 11)年 4 月 2 日号には「子供服の新しいスタイル」と「水をこぼさぬお台所」という記事が掲載されているが，これらの記事を検索するためには，「子供服 OR 台所」という検索式が必要となり，そのためにはあらかじめ複数の検索語を用意し，組み合わせて検索を実行する必要がある．そしてこの場合，検索語の選定にはあらかじめ目録中において使用されている用語(家庭記事の場合に「料理」「台所」「子供服」「育児」等)をある程度は把握している必要があり，それでは汎用性の高いファイルであるとは言い難い．また，主題に沿ってデータを抽出する際の問題として，「検索漏れ」が挙げられる．同義語や使用されている用語をリストアップしたところで，必ずしも全ての該当データを抽出できるとは限らない．そこで，これらの記事を 15 項目に分類し，それぞれに主題を表す件名を付与した．15 項目の記事種別と件名の一覧，及びその内訳は表 3-1 に示す通りである．

表 3-1　記事分類表

no	記事種別	件名	内　訳
1	一般記事：科学	科学	科学，物理学，新技術解説等
2	一般記事：教育	教育	学校教育，試験，学生生活，生涯学習等
3	一般記事：芸術	芸術	写真展，絵画展，絵画･写真評論等
4	一般記事：娯楽	芸能	舞台，演劇，演芸，文楽，歌舞伎等
		スポーツ	スポーツ全般記事
		映画	映画全般記事，俳優談話，映画ゴシップ等
		娯楽	囲碁，将棋，麻雀，競馬，釣，行楽等
		漫画	漫画，漫文等
5	一般記事：実用	家庭	食物，衣類，育児，家計，園芸等
		美容	化粧，髪型等
		流行	服飾，髪型，流行語等
6	一般記事：実話	実話	実話，投稿実話等
7	一般記事：社会・事件	震災	関東大震災，その他震災記事
		社会	事件，諸問題，選挙，社会情勢等
		職業	職業紹介，就職難，職業体験等
8	一般記事：人物	人物	人物評論，人物回想録等
9	一般記事：政治・経済	政治	国内政治，国外政治，外交，政治ゴシップ等
		経済	国内経済，世界経済，金融等
10	文芸記事	文芸	俳句，短歌，詩，童謡，童話，戯曲，絵話，落語等
		大衆小説	大衆小説，講談，新講談，探偵小説，家庭小説，通俗小説等
		戦争小説	戦争小説，従軍小説，銃後小説等
		小説	小説，創作，読物等
		随筆	随想，随筆，回想録，所感，コラム，紀行文，ルポルタージュ等
		科学小説	科学小説
		少年･少女小説	少年小説，少女小説
		事実小説	事実小説
11	戦争記事	戦争	日清戦争，日露戦争，日中戦争，太平洋戦争等
		軍事	兵器，戦闘機，軍備，軍事技術等
		満州事変	満州事変報道，ルポルタージュ等
		国際連盟	国際連盟関連記事等
12	座談会記事	座談会	座談会，対談，鼎談，談話会
13	企画・懸賞記事	懸賞	クロスワードパズル，写真懸賞，ミス･コンテスト等
14	写真・絵画	グラビア	写真，表紙(絵，写真)，挿絵等
15	その他	その他	見出し，社告，訂正文，執筆者名，軍の掲載許可証明等

件名は，記事を主題別に分類することを第一の目的としたため，原則として 1 つの記事には 1 つの件名を付与したが，例えば『サンデー毎日』1935 年 11 月 1 日新作大衆文芸号掲載の記事「大衆文芸を語る座談会」のように，座談会と大衆文芸という 2 つの主題がある場合には，「座談会記事」と「大衆小説」の 2 つの件名を付与した．従って，集計した記事数は「延べ合計」となるが，記事の主題にどのようなことが取り上げられたかを数量的に見ることを目的としているため，本論では集計の総数と実際の記事数の差については考慮しない．

記事の集計は，付与した件名ごとの合計をもとに，表 3-1 で示す分類別の記事数を集計した．また，両誌は 1922(大正 11)年 7 月より年間 4～6 回のペースで特集号を発行しているが，特集号だけの記事での集計が可能となるよう，特集号掲載の記事には表 3-1 の件名とは別に，「特集号」の件名を付与した．なお，収集した両誌の記事総数は『週刊朝日』が 52,520 件，『サンデー毎日』が 49,737 件である．

第 4 章　集計データの分析

4.1　通号の集計

本論の研究対象期間とした 1922(大正 11)年 2 月から 1945(昭和 20)年 8 月まで(以下，「通号」とする)の目録データを表 3-1 に従って分類し，集計を行った．集計結果は表 4-1，4-2 に示す通りである．また，両誌における記事種別ごとの割合を，図 4-1，4-2 に示す.

表 4-1：『週刊朝日』通号の分類別記事数集計表

no	記事種別	件名	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	合計
1	一般記事:科学	科学	69	22	43	24	29	10	22	10	55	35	11	16	12	12	18	33	48	26	11	25	31	5	7	15	589
2	一般記事:教育	教育	57	26	22	6	7	3	18	4	15	46	24	37	65	32	21	11	7	4	2	11	5	4	1	2	430
3	一般記事:芸術	芸術	76	50	42	18	49	60	37	49	49	63	57	181	48	21	24	255	239	302	4	6	5	3	2	3	1643
4	一般記事:娯楽	芸能	87	111	112	109	100	112	90	90	94	76	66	91	77	58	63	38	23	62	27	21	20	10	5	1	1543
		スポーツ	34	52	61	20	31	74	77	98	124	155	215	170	209	200	205	153	154	130	87	53	24	6	0	1	2333
		映画	9	12	58	86	77	125	118	69	46	50	89	105	131	102	98	77	63	69	46	18	10	16	8	1	1483
		娯楽	88	71	92	290	307	261	245	251	293	193	186	169	178	159	215	212	279	170	84	29	113	90	64	8	4047
		漫画	25	27	50	76	45	16	70	120	124	85	51	54	73	62	68	86	77	55	48	81	25	18	3	0	1339
5	一般記事:実用	家庭	245	274	429	282	234	262	279	253	212	154	157	174	142	73	86	86	148	104	17	40	28	33	13	16	3741
		美容	6	4	14	14	19	15	19	17	10	46	6	15	34	2	3	2	1	10	0	1	0	0	0	0	238
		流行	15	9	9	4	8	9	16	14	9	23	15	9	0	3	7	7	3	0	0	0	0	0	0	0	160
6	一般記事:実話	実話	1	2	7	47	40	42	43	45	132	164	88	60	49	19	31	50	38	45	22	2	0	0	0	0	927
7	一般記事:社会・事件	震災	1	30	4	4	0	4	2	0	6	1	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	57
		社会	466	346	224	201	202	201	198	154	182	168	221	226	200	203	254	183	219	295	205	245	219	116	93	31	5052
		職業	5	8	4	2	3	1	4	7	13	14	20	5	17	4	6	2	3	1	5	2	0	2	2	1	131
8	一般記事:人物	人物	48	24	30	21	11	47	33	39	29	43	42	49	55	41	40	37	60	9	17	10	8	7	5	1	706
9	一般記事:政治・経済	政治	137	26	36	23	39	50	39	58	65	48	37	48	50	41	34	49	38	22	30	21	7	13	22	15	948
		経済	62	37	50	11	8	6	4	6	3	13	3	10	4	4	15	34	16	10	20	9	0	2	3	1	331
10	文芸記事	文芸	90	193	312	167	133	150	184	175	88	86	56	50	15	14	13	20	13	39	14	46	64	106	83	38	2149
		大衆小説	27	85	85	99	75	94	79	127	109	75	115	96	111	114	149	131	137	127	83	45	47	53	31	25	2119
		戦争小説	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	25	4	9	0	18	5	14	0	3	79
		小説	19	77	100	94	77	64	58	136	108	136	33	34	50	50	51	67	101	82	83	91	43	4	20	6	1584
		随筆	140	417	537	496	514	518	454	364	575	474	613	702	671	654	602	447	521	474	434	468	339	83	26	28	10551
		科学小説	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		少年小説	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		事実小説	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	3	2	4	1	1	0	0	0	0	18
11	戦争記事	戦争	6	0	4	3	3	6	9	1	5	11	20	21	5	11	6	127	164	121	78	195	305	615	721	374	2811
		軍事	35	3	2	0	1	2	1	2	5	8	5	8	4	4	2	14	4	5	8	19	19	18	38	6	213
		満州	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	14	16	4	3	4	9	24	4	3	20	13	0	3	3	128
		日中戦争	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	52	0	0	2	8	2	0	0	89
		国際連盟	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6
12	座談会記事	座談会	0	0	0	0	0	1	13	12	2	9	7	1	5	10	5	13	24	96	69	69	119	127	77	11	670
13	企画・懸賞記事	懸賞	5	57	26	81	44	27	28	92	74	106	94	81	107	129	102	106	100	97	58	8	0	0	2	0	1424
14	写真・絵画	グラビア	168	250	161	150	120	125	130	170	182	187	193	209	213	227	192	206	193	191	163	178	121	90	63	28	3910
15	その他	その他	300	106	99	87	80	91	99	87	115	125	148	138	142	146	151	163	125	97	76	96	67	56	102	61	2757

表 4-1，4-2 と図 4-1，4-2 より読み取れる特徴としては，両誌に共通する娯楽記事と文芸記事の多さである．割合の面で見ると，この 2 つの項目で全体の約 50%を占めており，両誌における中心的要素であったことが分かる．また，図 2-1 及び巻末資料 I で示した創刊当初の『週刊朝日』に見られた社会的，政治的記事の割合は通年では 10%で，文芸と娯楽に次ぐ多さとなっており，『週刊朝日』が社会・政治面にも一定の記事数を割いていたとが分かる．『サンデー毎日』では図 2-2 及び巻末資料 I で示すように創刊当初は実用記事が比較的多かったが，これも文芸・娯楽に次ぐ 12%となっており，文芸と娯楽という共通する要素を除けば，創刊当初における両誌の特徴が継続されていたと見ることができる．

表 4-2：『サンデー毎日』通号の分類別記事数集計表

no	記事種別	件名	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	合計
1	一般記事:科学	科学	37	32	41	18	36	58	29	1	37	7	33	13	11	0	2	1	1	3	5	39	45	51	22	5	527
2	一般記事:教育	教育	30	89	59	25	21	48	24	7	21	2	6	2	1	2	2	9	4	0	8	11	3	3	3	2	382
3	一般記事:芸術	芸術	49	36	27	9	23	22	41	21	8	42	35	47	13	7	16	13	17	6	4	2	7	2	1	0	448
4	一般記事:娯楽	芸能	76	69	61	33	185	71	56	70	91	88	97	86	58	50	25	41	44	30	35	35	25	10	2	0	1338
		スポーツ	67	98	228	109	141	142	148	115	134	108	151	78	101	158	162	198	171	108	71	87	29	9	4	0	2617
		映画	15	15	32	27	38	68	61	97	125	167	160	240	229	253	242	265	240	240	190	68	32	14	1	0	2819
		娯楽	66	162	146	197	458	437	230	182	117	157	114	180	182	224	140	147	159	164	153	96	47	57	13	2	3830
		漫画	13	30	46	33	15	34	12	112	142	94	92	41	42	32	41	35	21	20	19	90	20	8	2	0	994
5	一般記事:実用	家庭	623	443	630	737	403	365	276	200	226	167	156	237	388	340	260	203	191	190	104	40	14	46	77	31	6347
		美容	28	29	22	23	19	27	20	36	34	20	29	17	5	3	7	9	4	1	9	1	1	5	1	0	350
		流行	1	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
6	一般記事:実話	実話	14	35	2	2	3	2	0	67	62	80	131	194	185	136	122	135	44	33	18	2	1	0	0	0	1268
7	一般記事:社会・事件	震災	0	86	9	0	0	1	0	1	23	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	125
		社会	101	186	135	139	113	175	154	122	156	131	154	123	210	136	172	179	142	155	279	131	116	118	99	76	3502
		職業	4	5	4	3	2	1	3	14	11	7	0	0	4	12	6	31	0	1	0	4	1	9	2	0	124
8	一般記事:人物	人物	12	71	49	76	40	35	29	40	72	64	52	113	49	50	20	22	32	3	8	57	57	49	39	12	1051
9	一般記事:政治・経済	政治	6	11	27	19	17	10	31	75	73	70	67	64	39	32	53	52	42	27	37	14	12	21	13	9	821
		経済	47	29	5	3	2	2	1	2	57	48	43	45	58	21	17	23	25	12	10	6	2	6	3	1	468
10	文芸記事	文芸	160	148	145	138	291	309	243	188	246	161	123	110	58	38	59	140	22	30	20	20	31	131	80	44	2935
		大衆小説	71	123	109	136	169	130	159	162	134	168	122	125	159	175	144	152	187	176	135	91	52	32	23	30	2964
		戦争小説	0	0	0	0	0	2	0	6	0	0	6	0	2	0	0	2	1	3	0	0	2	23	28	0	75
		小説	27	122	77	51	57	64	56	49	73	62	65	68	58	36	61	86	70	56	85	94	24	41	2	5	1389
		随筆	115	392	482	294	314	337	433	419	407	364	264	212	337	290	329	337	369	300	349	318	242	206	127	7	7244
		科学小説	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
		少年小説	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		事実小説	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	戦争記事	戦争	1	0	9	12	1	0	2	4	5	19	27	14	26	9	10	165	181	117	75	141	265	214	288	174	1759
		軍事	1	5	0	1	0	0	0	1	1	0	1	2	1	7	0	4	3	0	1	7	3	7	21	18	84
		満州	0	0	0	9	0	9	1	0	0	11	66	3	5	7	2	3	3	2	1	2	4	3	0	0	131
		日中戦争	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	22	64	35	1	0	4	1	0	0	128
		国際連盟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
12	座談会記事	座談会	0	0	18	1	1	2	10	17	4	2	2	3	19	24	13	27	25	21	21	20	38	25	23	11	327
13	企画・懸賞記事	懸賞	11	35	5	84	34	56	65	156	147	208	266	281	125	128	169	206	96	80	64	34	11	6	4	0	2271
14	写真・絵画	グラビア	127	220	71	24	45	58	58	86	155	359	311	306	322	335	333	350	350	327	255	296	138	121	69	16	4732
15	その他	その他	56	86	77	74	80	91	130	178	205	228	207	169	80	83	116	184	133	147	99	78	127	148	125	76	2977

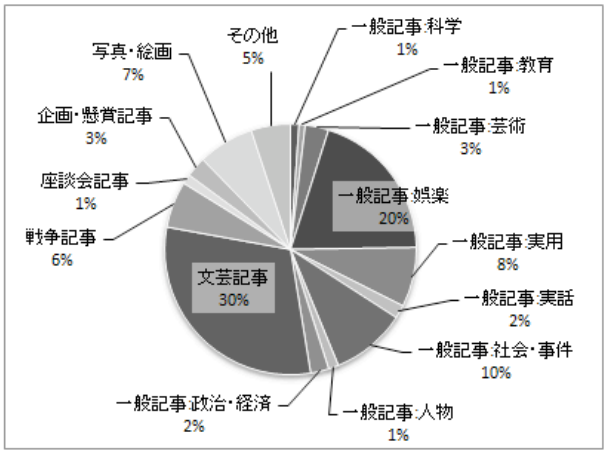


図 4-1：『週刊朝日』分類別記事数(通号)

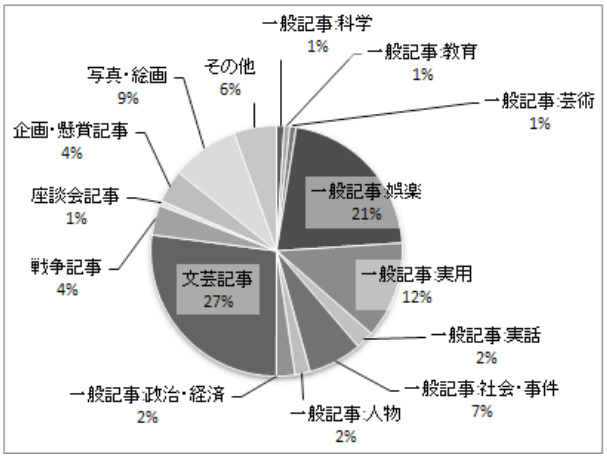


図 4-2：『サンデー毎日』分類別記事数(通号)

これらの項目以外はいずれも 10%未満と量は少ないが，量の面からだけで一概に重要性が低いということはできない. 分類別の記事数は各分類に属する記事の種類の多さにも関係があるため，戦争記事や実話，座談会等は種類がある程度限定され，数が少なくなる．文芸記事は小説や講談の他に俳句や短歌の連載記事，文芸評論が含まれるし，娯楽記事もスポーツや映画，レジャー等の記事が含まれるため，幅広い記事がこれらの分野に分類される．こうしたことを考慮すれば，定量的な分析という観点からでは，戦争記事等はどの時期にどのような増減を見せたか，という点が重要となってくる．記事の増減は，表 4-2，4-3 によっても確認することができるが，これを社会背景と照らし合わせて分析するために，創刊から終戦までの目録を，記事種別ごとに年別の

推移が見られるグラフを作成した．以下の図 4-3～4-11 は，主要 9 項目の推移を折れ線グラフに示したものである．

図 4-3 は両誌の娯楽記事の通号での推移を示したグラフである．両誌の娯楽記事の記事量の推移は共通点が多い．まず，1922(大正 11)年はともにそれほど多くなかったが，翌 1923(大正 12)年から 1925(大正 14)年にかけて増加を続け，以降多少の増減はあるものの，平均して年間 600 前後の記事が日中戦争開戦の 1937(昭和 12)年頃まで掲載されている．

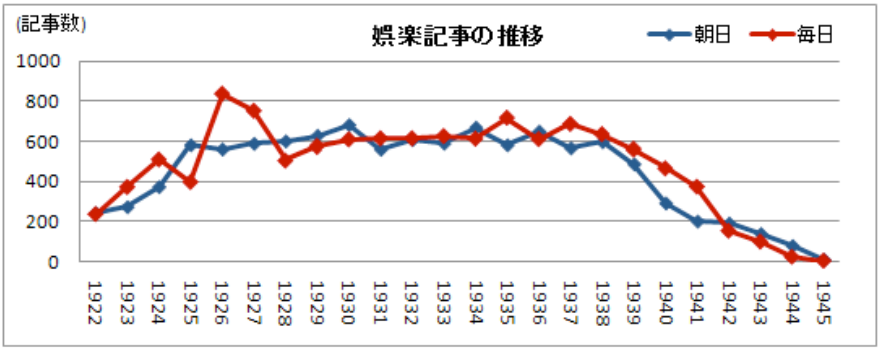


図 4-3：娯楽記事の推移

図 4-4 は両誌の文芸記事の通号での推移を示したグラフである．文芸記事も娯楽記事と同様に，創刊年は 200 前後であったが，1923(大正 12)～1925(大正 14)年に増加傾向にあり，太平洋戦争開戦の 1941(昭和 16)年頃まで，比較的高い記事数となっており，特に昭和初期から日中戦争開戦直後にかけて，600～800 前後の記事を毎年掲載していたことが分かる．

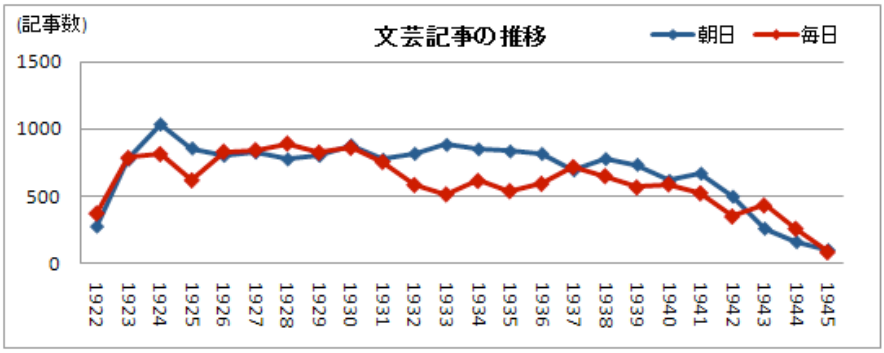


図 4-4：文芸記事の推移

図 4-5 は，両誌の実用記事の通号での推移を示したグラフである．実用記事は『サンデー毎日』では創刊年に 652 の記事が掲載されており，これは『サンデー毎日』の創刊年の分類別記事数で最多となっている．また 1924(大正 13)年の『週刊朝日』に 452，1925(大正 14)年の『サンデー毎日』に 760 もの記事が掲載されていることから，大正末期の両誌においては重要な位置にあったと見ることができる．実用記事は『サンデー毎日』では 1926(大正 15)年頃，『週刊朝日』では 1930 (昭和 5)年頃より減少していることが分かる．

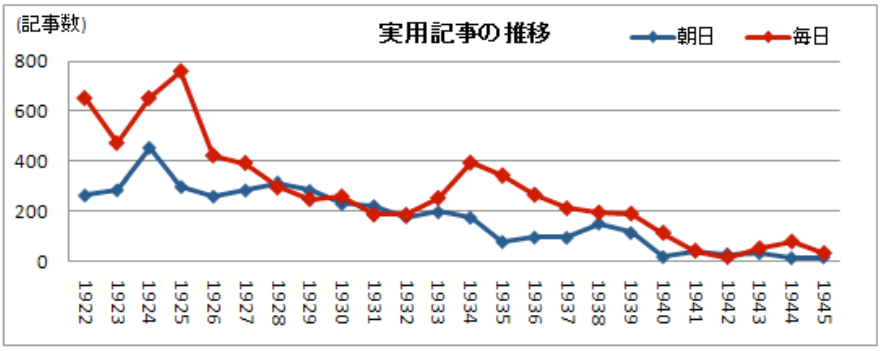


図 4-5：実用記事の推移

図 4-6 は，両誌の社会・事件記事の通号での推移を示したグラフである．『週刊朝日』では創刊年に 472 の記事が掲載され，創刊年の分類別記事数では最も多くなっている．しかし翌年より減少傾向にあり，1925(大正 14)年から 1942(昭和 17)年頃までは，平均して 200 前後を保っている．『サンデー毎日』では 1923(大正 12)年，1940(昭和 15)年に 277，279 とに一時的に増加しているが，それらの例外を除けば，多少の変動はあるが 150 前後の記事数となっている．このことからは，創刊時における『週刊朝日』の誌面の中心が，社会・事件記事であったことが読みとれる．

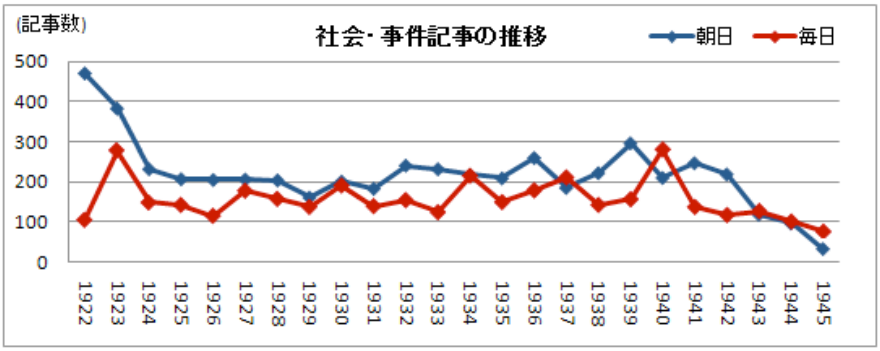


図 4-6：社会・事件記事の推移

図 4-7 は，両誌の政治・経済記事の通号での推移を示したグラフである．『週刊朝日』では創刊年に 199 と比較的高い数値をしめしたが，翌年以降は 50～80 前後と減少している．また，『サンデー毎日』では創刊年より比較的低い数値を示しているが，1928(昭和 3)年～1930(昭和 5)年にかけて増加し，以降再び上下動を繰り返しながら最終的には 50 以下へと戻っている．

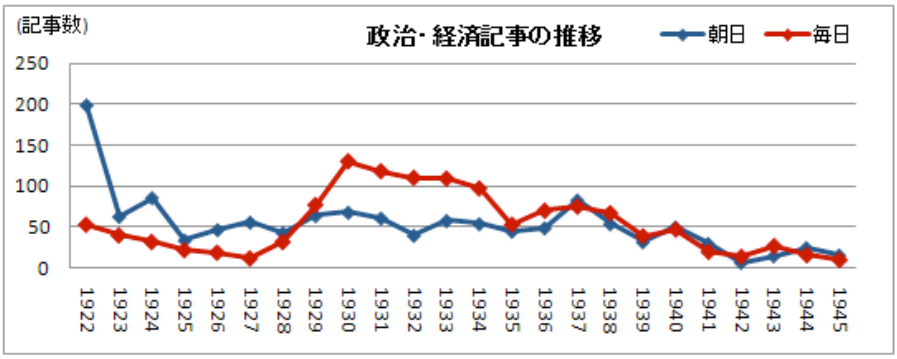


図 4-7：政治・経済記事の推移

図 4-8 は，両誌の戦争記事の通号での推移を示したグラフである．戦争記事という特殊な記事種別ということもあり，大正末期から昭和初期にかけてほとんど戦争記事が掲載されていない．両誌ともに戦争記事が増加するのは 1937(昭和 12)年の日中戦争以降であり，1941(昭和 16)年の太平洋戦争開戦以降は，戦争の激化とともに記事数が増加し，誌面が戦争一色に埋め尽くされた様子が読みとれる．

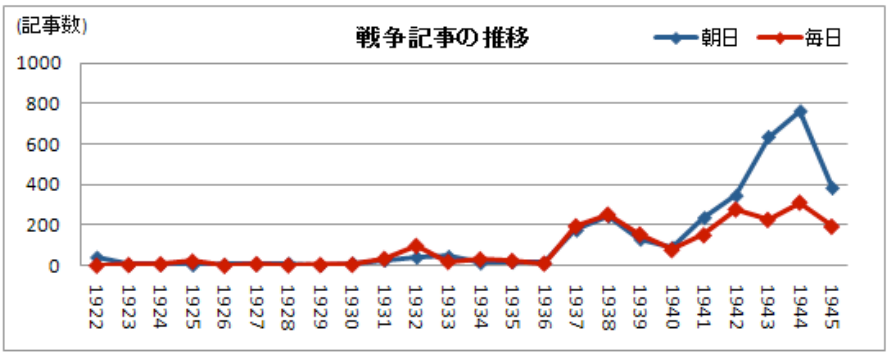


図 4-8：戦争記事の推移

図 4-9 は，両誌の企画・懸賞記事の通号での推移を示したグラフである．懸賞記事は両誌ともに 1925(大正 14)年と，1928(昭和 3)～1939(昭和 14)年頃に比較的高い数値を示しているが，この頃の人気懸賞企画は，大正末期に流行したクロスワード・パズルや，昭和初期の大衆小説ブームを反映した「大衆小説募集」である．

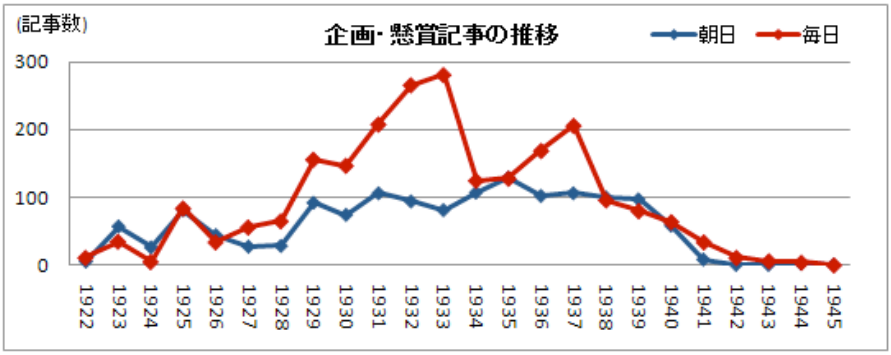


図 4-9：企画・懸賞記事の推移

図 4-10 は，両誌の座談会記事の通号での推移を示したグラフである．『サンデー毎日』年ごとの変動が激しいように見えるが，これは年別での最大値が 1942(昭和 7)年の 38 であることが要因として挙げられるため，顕著な変化があったとはいえない．しかし記事の数が増加していることは確かである．また，『週刊朝日』では日中戦争以降に座談会の掲載数が飛躍的に増加していることが分かり，このことからは，戦争と座談会記事に何らかの関連性があるものと見ることができる．

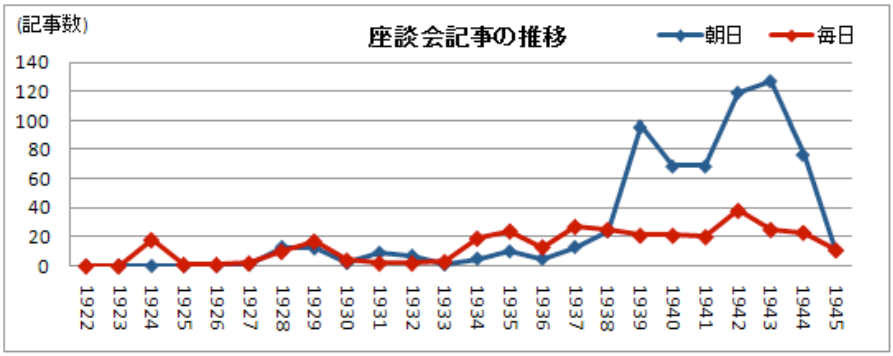


図 4-10：座談会記事の推移

図 4-11 は，両誌の実話記事の通号での推移を示したグラフである．実話記事は『週刊朝日』では 1929(昭和 4)～1934(昭和 9)年頃まで，『サンデー毎日』は 1929(昭和 4)～1938(昭和 13)年頃までに多数掲載されている．

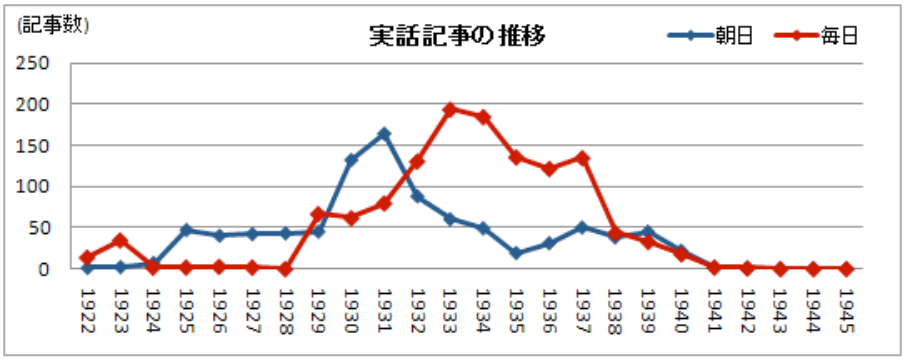


図 4-11：実話記事の推移

通号での年別推移を 9 項目の記事数で示したが，これらの記事にはある一定の時期にのみ増加したものと，継続して一定量を保ったものと，大きく 2 種類あることが分かる．一定量を保ち，なおかつ多数の記事を掲載した文芸記事と娯楽記事は，創刊から太平洋戦争開戦後の戦争記事の増加まで，両誌の中心的存在であったと見ることができる．また，座談会記事や企画・懸賞記事のように一時的に記事数が増加したものについては，大正デモクラシー以降の社会の大衆化や読書層の変化，週刊誌メディアの受容形態の変化を反映した結果であると推測される．これらの点について，戦前の週刊誌メディア特徴を，時代背景を考慮に入れ，次節以降はより詳細な記事の分類による分析，及び記事内容を見ていき，週刊誌メディアの「大衆性」が表れている特徴を抽出することとする．

4.2　社会背景と記事の集計期間

本論の対象期間である 1922(大正 11)年～1945(昭和 20)年は 24 年間と長期に渡り，また 2 章 2.1 でも述べた通り，「大衆化社会」と「戦時下の社会」，さらにその間に横たわるこの 2 つの世相が重なる時期によって構成されている．よって，目録データの集計を一定の時期で区切る場合，境界線をどこにするかということは困難を伴う．しかし，目録データの分析を定量的な視点より

行うためには，本論における「時期」の定義を設け，それに従って集計を行う必要がある．4 章 4.1 で分類別記事の年ごとの推移を見ていったが，戦争記事の推移からは，誌面に戦争が反映されるのは『週刊朝日』では太平洋戦争以降,『サンデー毎日』では日中戦争以降のことである．したがって，日中戦争以降を「戦時期」と捉えることもできる．しかし，1931(昭和 6)年の満州事変や 1933(昭和 8)年の国際連盟脱退は，日中戦争，その後の太平洋戦争の引き金となった出来事であり，この一連の流れを分断する形での集計を行うだけでは,「大衆性」と「戦争加担」の関連性が明確にならないとも考えられる．

したがって，本論では 1922(大正 11)年から戦争が誌面に反映される前の 1936(昭和 11)年までを I 期，誌面に戦争が反映されるようになった日中戦争以降の 1937(昭和 12)年から終戦までの 1945(昭和 20)年を II 期として集計を行い，記事数の推移や集計，及び記事内容より週刊誌メディアの特徴を見ていくこととする．また，この 2 つの期間にまたがる時期として満州事変勃発の 1931(昭和 6)年から太平洋戦争以前の 1940(昭和 15)年を III 期とし，同様に集計を行う．

ここで I 期と II 期にまたがる III 期を設けたのは, 1931(昭和 6)年の満州事変前後の社会には, I 期の「大衆化」と II 期の「戦争」の 2 つの面が表れている可能性がある，と考えたためである．1922(大正 11)年から 1945(昭和 20)年は,「大衆化」から「戦争」へと社会の様々な事象が移行する過程を含んでおり，世相を反映する雑誌の誌面における変化が，1937(昭和 12)年を境に急激に「大衆化」→「戦争」へと転換したとは考えにくいため，この 2 つの要素が交差する満州事変から日中戦争までの期間を中心とした II 期を設けることとした．

まず，I 期における社会的特徴としては，1923(大正 12)年 9 月の関東大震災，1925(大正 14)年 1 月のラジオ放送開始と雑誌『キング』創刊，1929(昭和 4)年 10 月の世界恐慌，1931(昭和 6)年の満州事変，1933(昭和 8)年の国際連盟脱退等が挙げられる．関東大震災以降の社会の復興に伴う産業の発展や人々の生活様式の変化，マスメディアの出現は,“産業化の進行が出現させる俸給生活者・労働者を主なる構成者とし，また様々に大量生産・大量販売される画一化された商品の消費者”[34]としての「大衆」を生み出した．また，満州事変と国際連盟脱退は，国際社会の中で孤立し，日本が戦争へと突き進んでいく過程での一つの岐路であった．I 期ではこれらの点に着目し，目録データの分析を行うこととする．

II 期は日中戦争が勃発した 1937(昭和 12)年から，終戦の 1945(昭和 20)年までとする．この期間では「戦争」がいかなる形で誌面に表れ，読者に伝えられていたかを，戦争記事だけに限らず，文芸や娯楽といった両誌の中心を担う要素にも着目し，分析を行うこととする．

III 期は，先にも述べた通り，I 期において抽出された週刊誌の「大衆性」の特徴と，II 期において見られる「戦争」が，ともに誌面に何らかの影響を与えた期間であると考えられる．従ってここでは，満州事変や国際連盟脱退等に関する社会面記事と，週刊誌の「大衆性」が表れた記事の比較を行い，週刊誌が社会の変動期にあたるこの期間にどのような方向性を持って「戦争」を迎えることとなったかについて見ていくこととする．

4.3　I 期(1922-1936)の集計と推移

まず，I 期における分類別記事数の集計を行った．『週刊朝日』の分類別記事数を図 4-12,『サンデー毎日』の分類別記事数を図 4-13 に示す．娯楽記事や文芸記事が多いという点，実用記事

[34] 有山輝雄.近代日本のメディアと地域社会.東京,吉川弘文館,2009.347P. p.158

や社会・事件記事がそれに続き，この 2 つでは『週刊朝日』が社会・事件記事，『サンデー毎日』が実用記事をやや多く掲載しているという点などは，通号での集計とほぼ同じである．I 期は 15 年間と長期に渡っており，通号の約 3 分の 2 を占めることより，集計の面で通号との共通点が多いことが一つの要因であるが，別の見方をすれば，両誌の戦前における中心的要素は，日中戦争以前の 15 年間でほぼ固まっていったということができる．

創刊当初の編集方針，ならびに図 2-1，2-2 及び巻末資料 I で示した 1922(大正 11)年 4 月 2 日号の目次からは，両誌はともに様々なジャンルの記事を掲載し，あらゆる年齢層や職業の人にも読まれる雑誌を目指しつつも，『週刊朝日』は政治や社会問題，『サンデー毎日』は実用記事にやや比重を置く傾向があった．これが 15 年の間に，両誌ともに娯楽記事と文芸記事に大幅に誌面を割くことになったが，そこに至るまでにどのような変化を遂げてきたのかを，年別推移によって見ていくこととする．

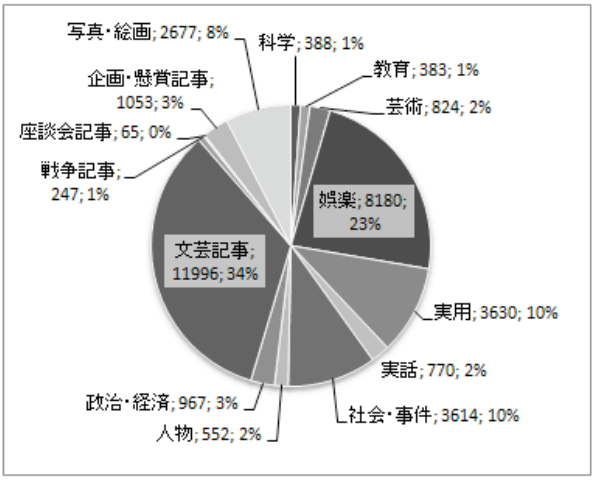


図 4-12：『週刊朝日』分類別記事数(I 期)

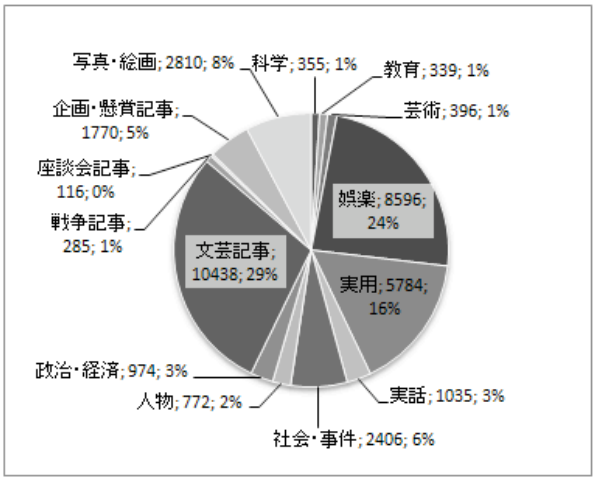


図 4-13：『サンデー毎日』分類別記事数(I 期)

下図 4-14，4-15 は，通号の推移で取り上げた 9 項目の記事種別の I 期における推移を示したものである．図 4-14 のグラフからは，『週刊朝日』の文芸記事が 1922(大正 11)年から 1924(大正 13)年にかけて急激に増加し，以降も他の記事よりも常に高い数値を保っていたことが分かる．また，娯楽記事は 1925(大正 14)年，1926(大正 15)年にそれぞれ増加し，『週刊朝日』は以降も徐々に数値を伸ばしている．『サンデー毎日』でも，娯楽記事と文芸記事は大正末から昭和初期にかけて徐々に増加し，1926(大正 15)年には実用記事を上回っていることが，図 4-15 より読み取れる．一方，実用記事では異なる変化が見られる．『週刊朝日』は文芸記事同様に 1923(大正 12)年から 1924(大正 13)年にかけて実用記事が増加しているが，1925(大正 14)年以降は再び創刊当初とほぼ同数に戻っている．これに対し『サンデー毎日』では，大正から昭和への移行とともに徐々に実用記事の数が減少し，1930(昭和 5)年には社会・事件記事とほぼ同数となっている．政治・経済記事及び社会・事件記事では，『週刊朝日』が 1922(大正 11)年から 1924(大正 13)年にかけて量を減らしたのに対し，『サンデー毎日』では社会・事件記事が 1923(大正 12)年に一時的に増加し，政治・経済記事も 1929(昭和 4)から 1930(昭和 5)年までは増加傾向にあるが，その他の年では大きな変動は見られなかった．

企画・懸賞記事も政治・経済記事や社会・事件記事同様に大きな変動は見られないが，『サン

デー毎日』で 1929(昭和 4)年から 1933(昭和 8)年にかけて記事数が増加している点と，『週刊朝日』と『サンデー毎日』が 1925(大正 14)年にほぼ同様の増加を示している点が特徴として捉えられる．これらの特徴については，5 章で詳細な分析と考察を行うこととする．

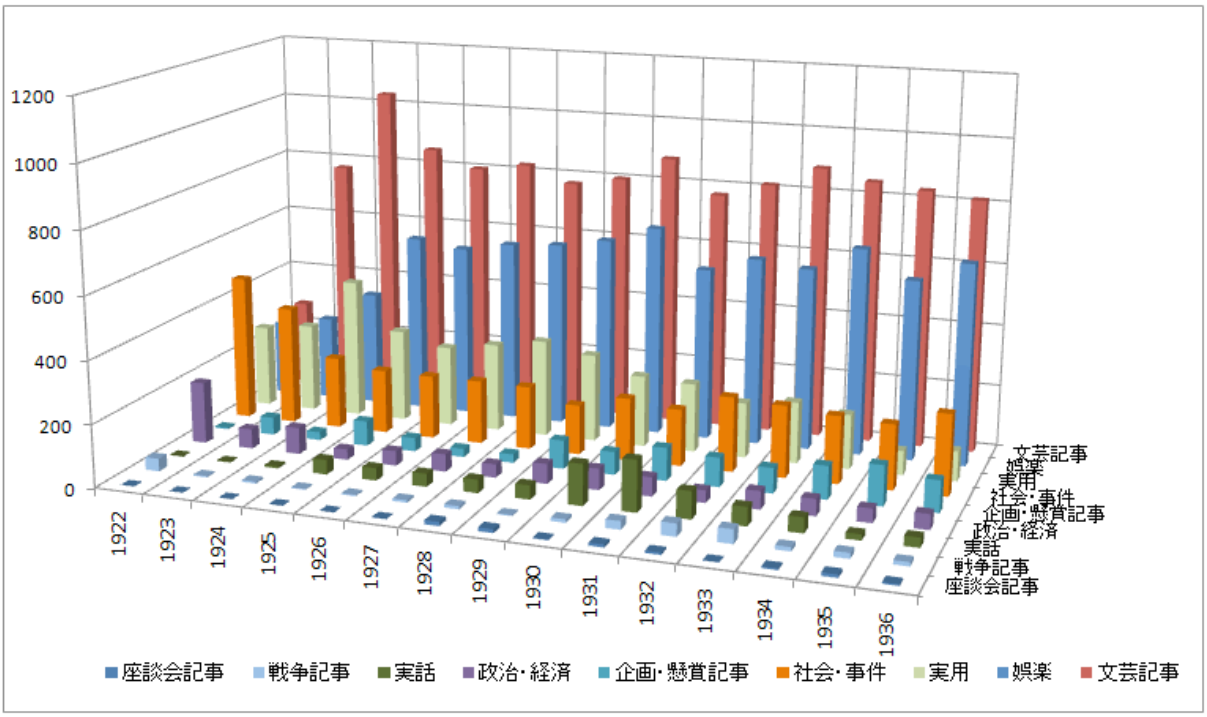


図 4-14：『週刊朝日』I 期推移

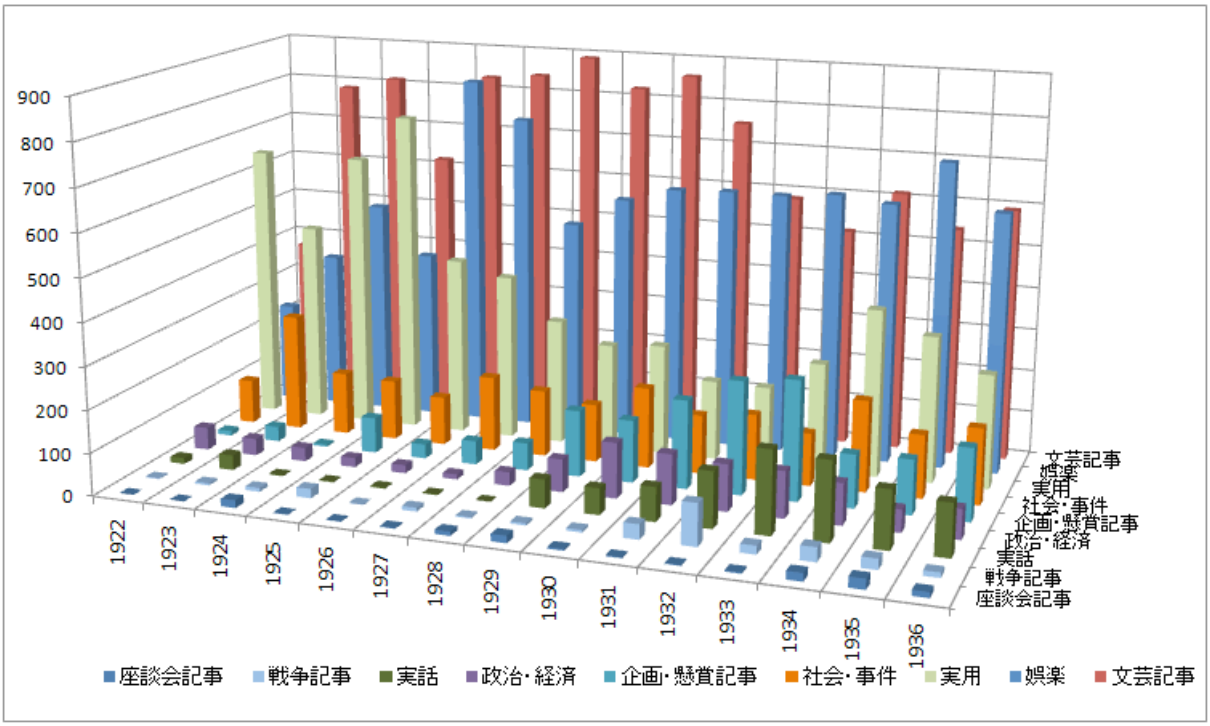


図 4-15：『サンデー毎日』I 期推移

4.4　II 期(1937-1945)の集計と推移

次に，日中戦争以降から太平洋戦争終結までの期間の目録の集計結果について述べる．II 期における各分類の記事の割合は，図 4-16，4-17 に示す通りである．

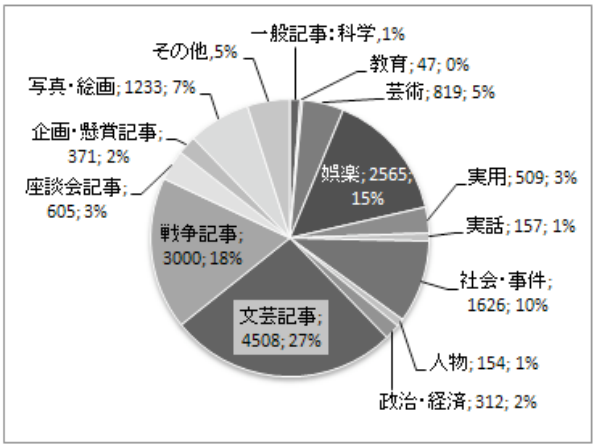


図 4-16：『週刊朝日』分類別記事数(II 期)

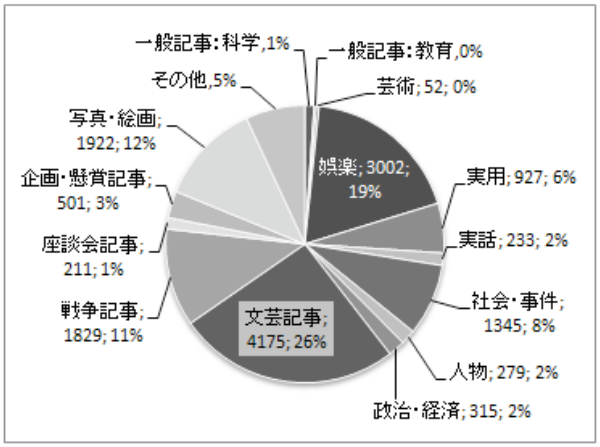


図 4-17：『サンデー毎日』分類別記事数(II 期)

I 期と比較してまず目立つのは，戦争記事の増加である．1937(昭和 12)年以降は当時の新聞や他の雑誌も押し並べて戦争記事満載となったため，この増加を週刊誌メディアの特徴として捉えることはできない．戦争記事の増加については，この項目 1 つだけについて見るのではなく，II 期においても中心的な存在である文芸記事や娯楽記事を中心に，その他の要素と関連して分析していく必要がある．戦争記事以外では，実用記事と娯楽記事，文芸記事がやや減少し，座談会記事がわずかではあるが増加したことが分かる．

記事の総数では図 4-16，4-17 のような結果が得られたが，I 期における懸賞記事のように，記事数は少なくともある一時期を境に記事数が変動する項目もあるため，ここでも各項目の年ごとの推移をあわせて見ていくこととする．I 期と同様に 9 項目の記事種別を抜き出し，推移を図 4-18，4-19 のグラフで示す．

図 4-18 のグラフからは，『週刊朝日』が 1942(昭和 17)年以降急激に戦争記事が増加しており，娯楽記事が 1938(昭和 13)年以降は徐々に数を減らし，文芸記事も 1941(昭和 16)年以降に急激に減少し，1943(昭和 18)年以降は戦争記事が最も多くなっていることが分かる．『サンデー毎日』でも娯楽記事と文芸記事は日中戦争開始と同時に減少し，太平洋戦争翌年の 1942(昭和 17)年頃から戦争記事が増加しているが，『週刊朝日』と比べると緩やかな上昇を示しており，文芸記事よりも戦争記事の数が多くなるのも終戦間際の 1944(昭和 19)年である．

また，I 期でほとんど記事数がなかった座談会記事が，『週刊朝日』では 1939(昭和 14)年，1942(昭和 17)年，1943(昭和 18)年に大幅に増加しており，戦争の激化と何らかの関連があると思われるが，この点についても，文芸記事や娯楽記事と戦争との関連と同様に，8 章で考察を行うこととする．

なお，戦時下における座談会記事の増加，及び戦争記事の増加に関する参考資料として，1943(昭和 18)年 1 月～7 月の目次を巻末資料 III として添付する．

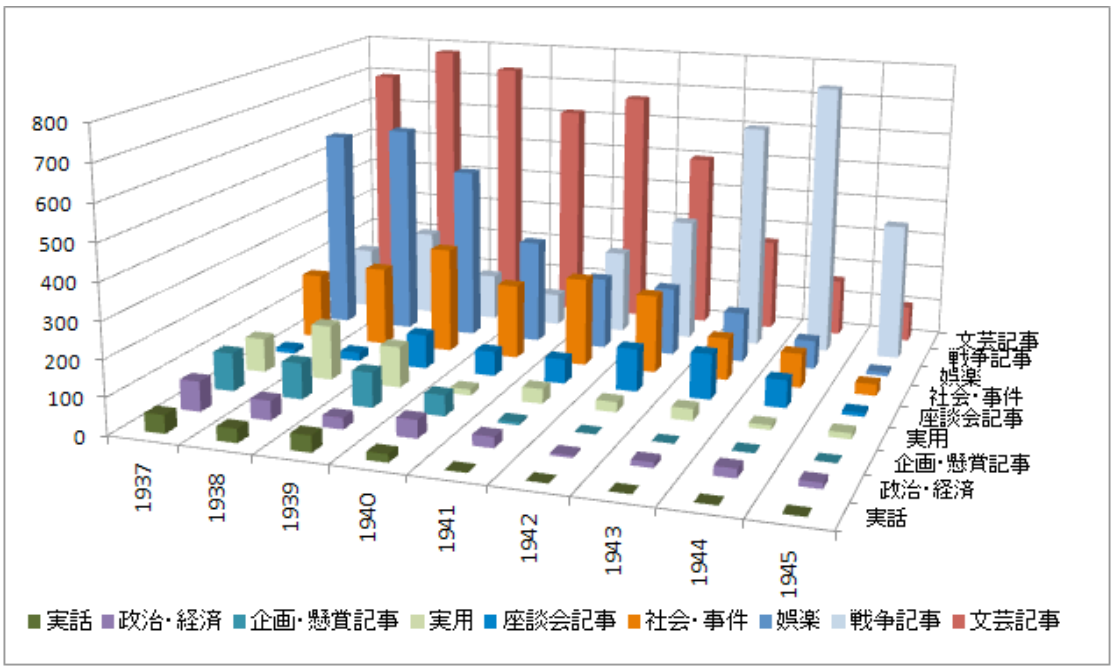


図 4-18：『週刊朝日』II 期推移

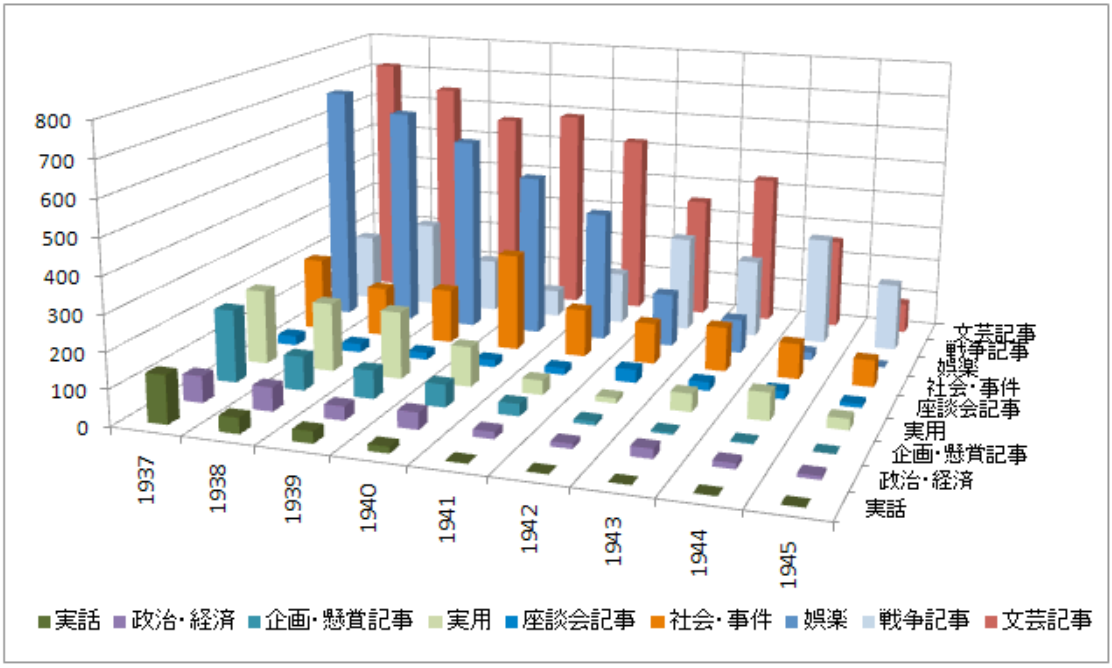


図 4-19：『サンデー毎日』II 期推移

4.5　III 期における集計と推移

次に，I 期と II 期にまたがる期間の III 期について見ていくこととする．

1930(昭和 5)年頃からの社会背景としては，漫才や演芸の流行やトーキー映画の出現，宝塚歌劇の東京進出，米大リーグ野球団の来日などの大衆娯楽が人気を呼んだのに対し，長引く不況と農村の困窮，満州事変の勃発や犬養毅暗殺事件(1932 年 5 月 15 日)，自殺の流行，社会主義・共

産主義思想の弾圧等が起こり，1933(昭和 8)年に日本が国際連盟から脱退した頃には，「非常時」が叫ばれるようになっていた．徐々に「非常時」が生活や娯楽が「大衆化」する社会に忍び寄り，「大衆化」から「戦争」へと世相が移行しつつある時代において，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の誌面がどのような記事を掲載していたか，9 項目の記事における記事の推移をグラフによって比較した．図 4-20，4-21 は両誌の通号での分類別記事数の推移を表したものである．

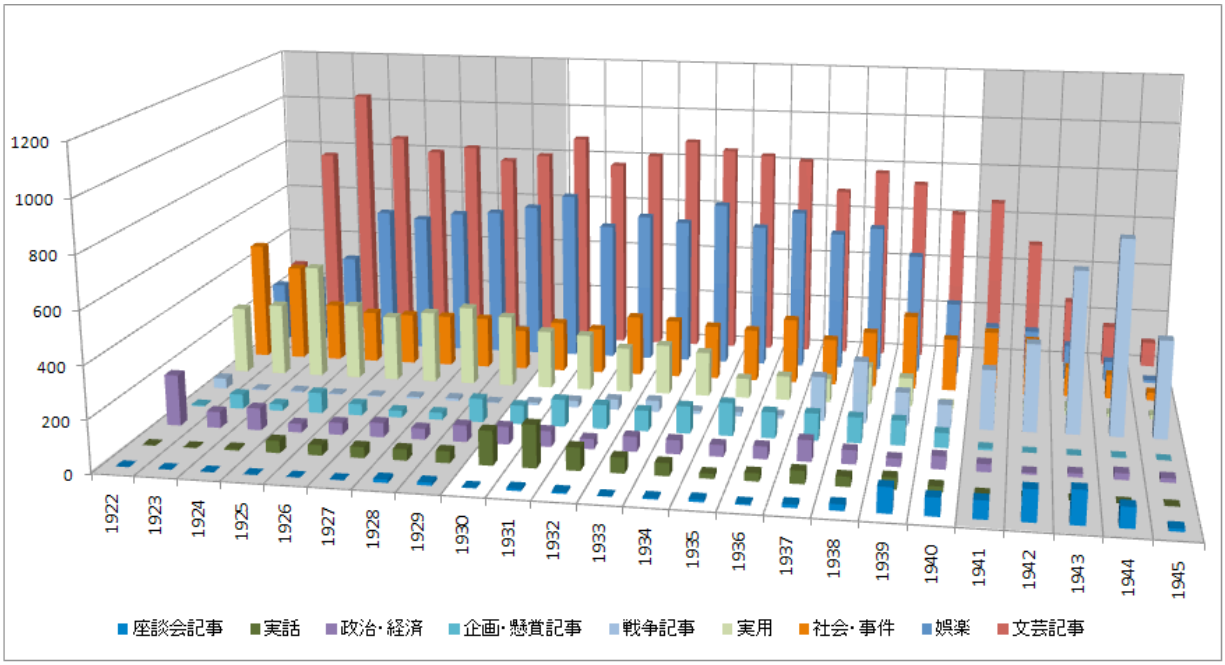


図 4-20：『週刊朝日』通号の推移

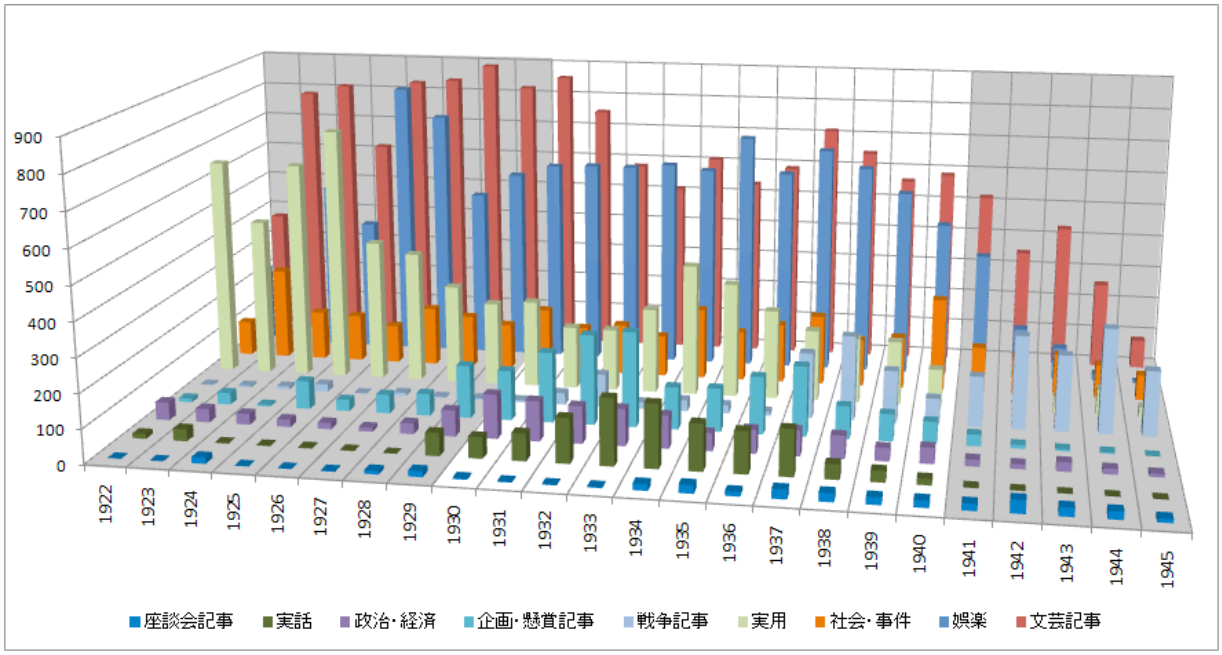


図 4-21：『サンデー毎日』通号の推移

これらのグラフを見ると，文芸記事と娯楽記事は他の項目を大きく引き離すかたちで多数の記事を掲載していることには変わりないが，『サンデー毎日』では 1932(昭和 7)年から 1936(昭和 11)年までやや文芸記事が減少傾向にあり，その間娯楽記事や企画・懸賞記事，実用記事，実話記事等が増加傾向にある．文芸記事は II 期において全体に対する割合がやや減少したが，文芸作品の掲載は「非常時」が叫ばれるようになるとともに，すでにやや減少の傾向を見せ始めていたことが分かる．

また，実話記事に関しては『週刊朝日』でも 1930(昭和 5)年～1931(昭和 6)年にやや増加しているが，この III 期における実話記事の位置とはどのようなものであったのか，記事のタイトルを以下にいくつか抜き出して列記する．

『週刊朝日』実話記事

- 1930 年 4 月 1 日号　死へのスピード　東京赤坂小店員殺し　[生江沢速雄]
- 1930 年 4 月 6 日号　殺された美人女給(実話)　[鈴木常吉]
- 1930 年 4 月 27 日号　老掏摸の告白(実話)　[山方呈一]
- 1930 年 6 月 1 日号　泥棒と交際つた話(犯罪実話)　[島浪男]
- 1930 年 8 月 3 日号　犬を使はれた話(探偵実話)　[大森洪太]
- 1930 年 8 月 31 日号　澤蘭子の家出の真相(実話)　[鈴木常吉]
- 1930 年 9 月 28 日号　少女と先生の恋(実話)　[鈴木常吉]
- 1930 年 10 月 1 日号　浅草美少年録(犯罪実話)　[生江沢速雄]
- 1930 年 11 月 30 日号　聖徒の放火(実話)　[鈴木常吉]
- 1931 年 1 月 4 日号　美貌罪あり(犯罪実話)　[鈴木常吉]
- 1931 年 1 月 18 日号　他殺か？心中？か(犯罪実話)　[鈴木常吉]
- 1931 年 2 月 1 日号　恋愛過多症の妻(犯罪実話)　[鈴木常吉]

『サンデー毎日』実話記事

- 1930 年 12 月 7 日号　三本樫の怪死体(犯罪実話)　[伴大矩]
- 1931 年 3 月 15 日号　ブロードウエーの胡蝶(魔の犯罪実話)　[伴大矩]
- 1931 年 3 月 22 日号　夫を殺して焼く(犯罪実話)　[大津二郎]
- 1931 年 5 月 10 日号　女房を殺し鉄道で送つた男(犯罪実話)　[浜名太郎]
- 1931 年 7 月 5 日号　ラヂオは殺す(犯罪実話)　[本田一郎]
- 1931 年 7 月 12 日号　自殺容疑者　[初瀬寿吉]
- 1931 年 8 月 23 日号　怪白骨の疑問(犯罪実話)　[白縫隠士]
- 1931 年 10 月 4 日号　殺したのは誰だ(犯罪実話)　[岡璋人]
- 1932 年 12 月 18 日号　前科五犯の旦那スリ(犯罪実話)　[碧海茫太郎]
- 1933 年 2 月 5 日号　大阪堺龍神の殺人(実話)　[栗林新十郎]
- 1933 年 4 月 9 日号　ビル街殺人事件の全貌(実話)　[伴太郎]
- 1933 年 7 月 2 日号　父を毒殺する兄妹(実話地方版)　[横田高明]

実話記事は両誌において創刊当初より掲載されてきたものであるが，1930 年代前半に多く見られたのが，上記のような犯罪関連の実話記事である．1930 年代初頭のエロ・グロ・ナンセンス時

代の到来を反映し，猟奇的でセンセーショナルな情痴事件や犯罪に関する実話は，1920 年代に台頭した大衆小説とともに，読者に「娯楽的読み物」として受容されていたと見ることができる．

その他の変化としては,『サンデー毎日』で政治・経済記事，両誌で懸賞記事がやや増加している点が挙げられる.『サンデー毎日』では 1930(昭和 5)年 1 月 5 日号より「政界噂話」，同年 10 月 15 日号より「財界兎耳」という連載記事がそれぞれ開始されており，これが記事数の増加に繋がっていると考えられる.『週刊朝日』でも 1926(大正 15)年 8 月 22 日号より「政界ゴシップ」，1930(昭和 5)年 7 月 6 日号より「政界放送」という連載記事が掲載されており，政治や経済の問題をゴシップ記事として提供する手法がとられている．世界恐慌以降の長引く不況の中で，漫才や演芸などの大衆娯楽への傾倒によって生活苦からの一時的な逃避が横行する風潮を反映する半面，身近な経済の問題や政治への関心の高まりを反映した記事が掲載されているところに，この時代の持つ多面的な特徴が表れているといえる．

1931(昭和 6)年の満州事変, 1933(昭和 8)年の国際連盟脱退の関連記事は戦争記事として集計を行っているが，1930 年代前半の戦争記事には大きな変化はなく，当時の報道規制の厳しさが窺えるが，これらの点に関する詳しい分析は，次章以降で行うこととする．

1930 年代後半になると，1937(昭和 12)年の日中戦争開戦以降の戦争記事の増加がみられるようになり，同時に娯楽記事や文芸記事，実話記事，企画・懸賞記事といった「大衆」的特徴のある記事が減少していっている．このことは,「大衆性」と「非常時」という 2 つの面のバランスが日中戦争を境に徐々に「非常時」へと傾いていったことを表している．しかし，太平洋戦争開戦の 1941(昭和 16)年前後まで，記事の割合では両誌ともに文芸記事や娯楽記事が戦争記事と同等，あるいはやや多かったという点は，週刊誌における「大衆性」と「戦争加担」の関連性を探るにあたり，着目すべき点である．

4.6　特集号記事の集計

『週刊朝日』と『サンデー毎日』は，毎週日曜発行の通常号以外に特集号を発行しており，発行開始はともに 1922(大正 11)年で,『週刊朝日』は 7 月 5 日,『サンデー毎日』は 7 月 10 日の発行となっている.『週刊朝日』が最初の特集号を「夏季特別号」と題したのに対し,『サンデー毎日』は「小説と講談号」と題し，記事のほぼ全面を大衆小説や講談で埋め尽くした.『週刊朝日』は随筆や絵画を中心に構成し，実用記事や写真，俳句，童話等を掲載しているが，小説は関口次郎の「面」1 編のみであった．

特集号はその後も継続して発行され，終戦までの間に『週刊朝日』は 1942(昭和 17)年 5 月 31 日「海軍記念日特別号」まで合計 118 号,『サンデー毎日』は 1945(昭和 20)年 1 月 7 日「新年特別倍大号」まで合計 140 号が発行された．特集号発行のペースは，1927(昭和 2)年までは年に 4 回で，1 月，4 月，7 月，10 月を基本に発行されているが，1928(昭和 3)年に両誌がともに年 5 回の発行に変更し，翌 1929(昭和 4)年より,『サンデー毎日』は 1 月，3 月，5 月，6 月，9 月，11 月を基本とする年 6 回に増やしている．

この特集号の発行状況について，両誌の年ごとの号数をグラフ化したものを図 4-22 に示す．このグラフより,『週刊朝日』と『サンデー毎日』の特集号発行のペースは，1934(昭和 9)年頃まではほぼ同じであったが，1935(昭和 10)年以降は『サンデー毎日』が発行数を増やしており，1937(昭和 12)年と 1938(昭和 13)年は年間 14 号も発行されている.『週刊朝日』が『サンデー毎

日』よりも特集号を多く発行した年は 1923(大正 12)年, 1933(昭和 8)年, 1941(昭和 16)年, 1942(昭和 17)年の計 4 回だけで，同数が 6 回,『サンデー毎日』の方が多い年が 14 回となっており,『サンデー毎日』の方が特集号の発行に関しては精力的に取り組んだことが分かる.

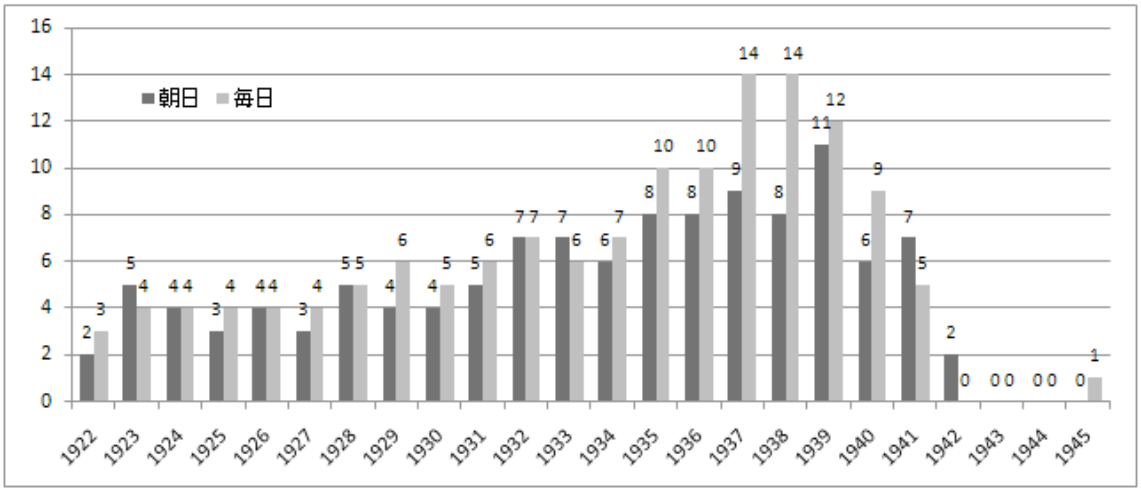


図 4-22：特集号の発行数

これらの特集号は,「小説と講談号」のように大衆小説を主題としたものの他に，スポーツや映画，戦争，美術等を主題としたものや,『週刊朝日』の最初の特集号に見られたように，明確な主題がなく，通常号の拡大版の様相を呈したもの等，様々な種類が発行されている．これらの特集号を「文芸」(大衆小説，講談，読み物等の特集号),「娯楽」(映画，スポーツ等の特集号),「事変・戦争」,「定期特別」(夏季特別，春季特別等通常号の拡大版),「その他」(美術，記念号等)の 5 つに分類し，年ごとでどのような特集号が発行されているかを確認した．図 4-23，4-24 は通号における分類別の特集号数の割合を示したもので，図 4-25，4-26 は年ごとの分類別特集号の発行号数をグラフ化したものである.

分類別の特集号に見られる特徴として,『週刊朝日』は定期特別の特集号が中心となっているのに対し,『サンデー毎日』の文芸特集号の多さが挙げられる．この文芸特集号を図 4-25，4-26 のグラフによって見ていくと，1923(大正 12)年から 1930(昭和 5)年に集中して発行されており，この間に発行された 36 の特集号のうち，定期特別号は 3 号のみで，それ以外の 33 号が全て文芸特集号となっている．文芸特集号は大衆小説の特集号に限らず,『週刊朝日』の「銷夏読物号」(1933 年 8 月 1 日号)のように小説の他に実話や随筆，落語等を掲載しているものも含まれるが,『サンデー毎日』の文芸特集号は「小説と講談号」と「新作大衆文芸号」だけであり，大衆小説を全面的に押し出している．なお,『週刊朝日』では文芸特集号は 1933(昭和 8)年より年 2～3 号発行しているが，中心をなすのは定期特別号であり，一つの主題のみを取り上げた特集号は少数派である．図 4-23，4-24 における両誌の分類別の特集号数の比較からは,『週刊朝日』が特集号を「通常号の拡大版」として捉えていたのに対し,『サンデー毎日』はこれを特定の主題のみを扱う「特別号」と捉えていたことが読み取れる.

文芸特集号以外の特集号では,『サンデー毎日』では 1935(昭和 10)年から 1940(昭和 15)年頃まで娯楽に関する特集号が増加し，文芸特集号は毎年 2 号に減少している．娯楽に関する特集号は，映画特集号とスポーツ特集号が含まれるが,『サンデー毎日』の娯楽特集号 30 のうち 24 号

が映画，6 号がスポーツとなっている．先に述べた娯楽特集号の集中した 5 年間でも，映画特集号は 23 号発行されており，娯楽特集号の中心を担っている．『サンデー毎日』大衆文芸号と映画特集号が一定の期間に集中して発行された背景には，大正初期から昭和初期にかけての「大衆小説」の人気や，無声映画からトーキーへと移行した 1930 年代半ばの文化的背景を反映しているといえる．

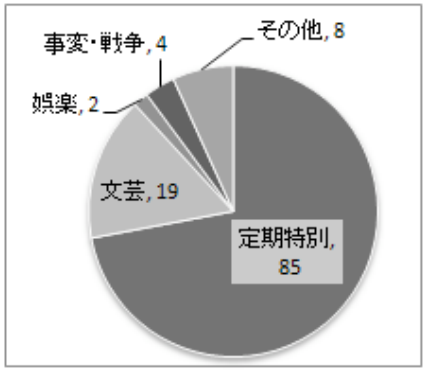


図 4-23：『週刊朝日』特集号分類別号数

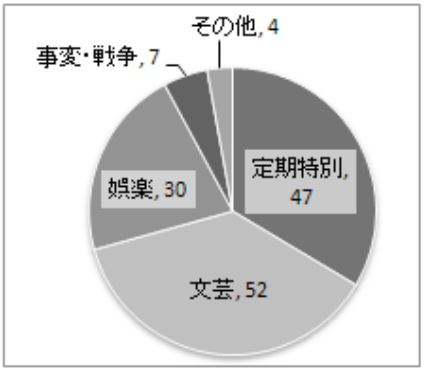


図 4-24：『サンデー毎日』特集号分類別号数

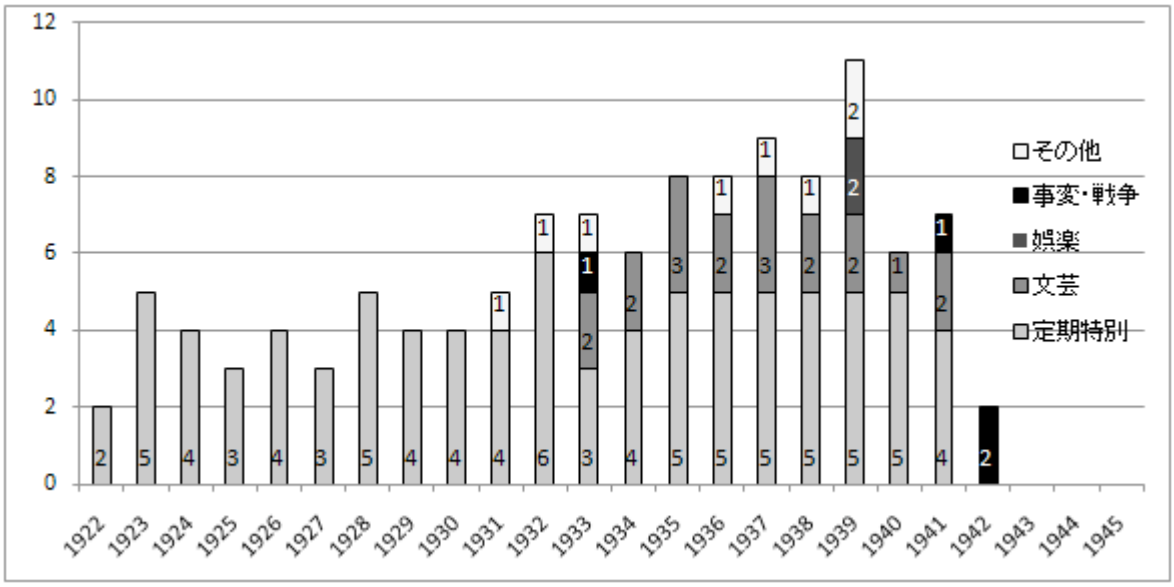


図 4-25：『週刊朝日』年ごとの分類別特集号数

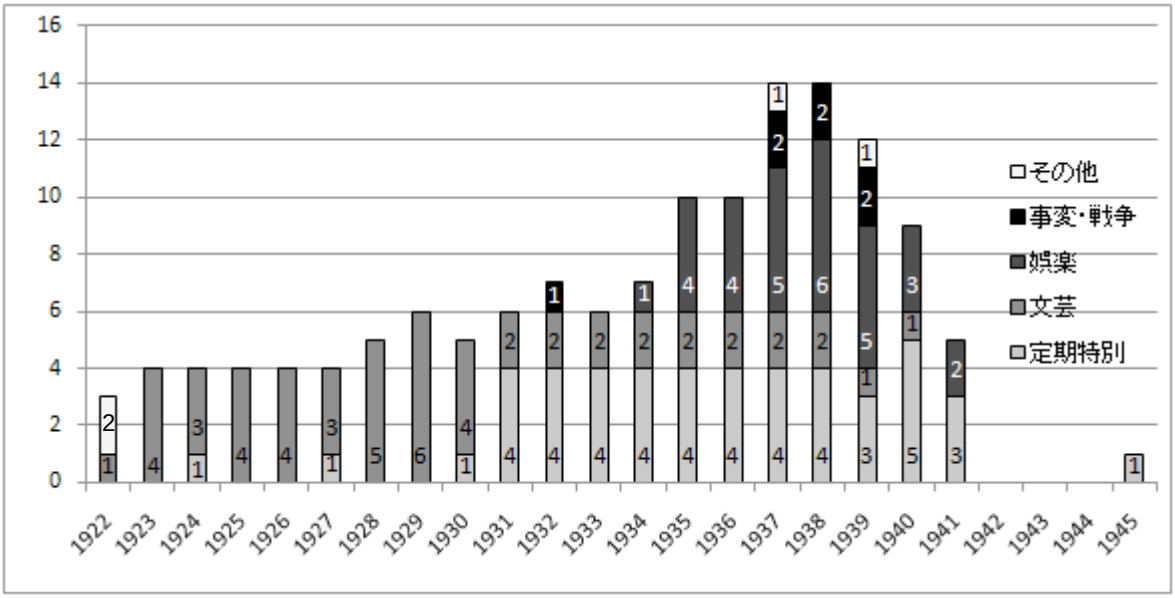


図 4-26：『サンデー毎日』年ごとの分類別特集号数

タイトルによる分類では，『週刊朝日』の特集号には「通常号の拡大版」としての位置が見えてきたが，必ずしも「タイトル＝特集号の内容」とはいえず，タイトルのみを基準とした分類だけでは不十分である．そこで，これら特集号に掲載された記事のみを抽出し，集計を試みることとした．

まず，特集号全体における分類別記事数を図 4-27，4-28 に示す．両誌ともに文芸記事の割合が最も高く，文芸特集号が多い『サンデー毎日』の場合は，この点で記事数とタイトルの分類による割合に大きな違いは見られない．これに対し，定期特別号が大部分を占めていた『週刊朝日』でも，記事数の割合で文芸記事が高くなっている点は，タイトルの分類では定期特別が中心となっているため比較はできないが，図 4-12，4-13 で示した通号における記事数の割合と比較すると，こちらも大きな違いは見られなかった．

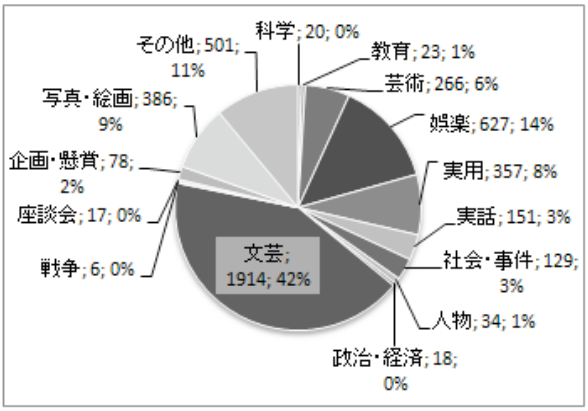


図 4-27：『週刊朝日』特集号の分類別記事数

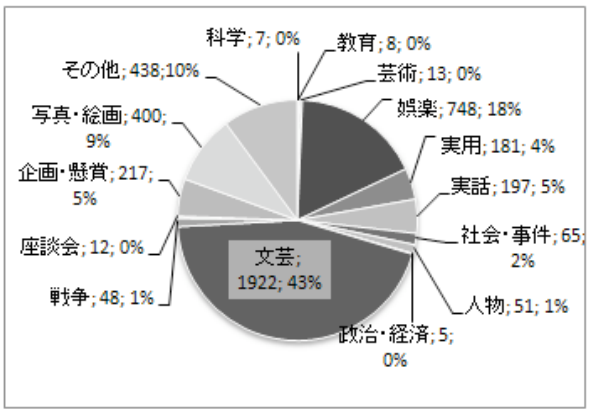


図 4-28：『サンデー毎日』特集号の分類別記事数

次に，ここで割合の高かった文芸記事について，さらに細かく分類し，結果を比較することとした．表 3-1 の各分類における内訳によって，文芸記事を「小説」,「大衆小説」,「戦争小説」,「文芸」(俳句，短歌，童話等),「随筆」に分けて集計を行った．

まず文芸記事の内訳について見ていくこととする．図 4-29，4-30 は『週刊朝日』と『サンデー毎日』の通号と特集号における文芸記事の内訳をグラフ化したものである．これらのグラフを比較すると,『週刊朝日』では通号と特集号のいずれも「随筆」が約 60%と半数以上を占めており,『週刊朝日』における文芸記事の中心が随筆や所感，紀行文等であったことが分かる．また，その他の項目も大きな差がなく,『週刊朝日』は通常号と特集号とで，掲載する文芸記事の種類が大きく異なることはなく，あくまで通常号の「拡大版」としての姿勢が貫かれていたことが分かる．これに対し『サンデー毎日』では，通号での随筆の割合は 50%と高い数値を示しているが，特集号では 22%と比較的低く，大衆小説が最も多くなっている．このことは,『サンデー毎日』が「新作大衆文芸号」や「小説と講談号」において，通常号よりはるかに多い大衆小説を誌上に掲載し，昭和初期において読者に娯楽的読み物を提供し続けたということができる．

表 4-3：『サンデー毎日』発行部数

年月	通常号	特集号	特集号のタイトル
1922年4月	340,000		
5月	220,000		
6月	220,000		
7月	218,000	247,000	小説と講談号
8月	200,000		
9月	200,000		
10月	212,000	263,000	特別号
11月	187,000		
12月	172,000		
1923年1月	190,000	287,000	小説と講談号
2月	157,000		
3月	160,000	243,000	小説と講談号
4月	177,000		
5月	160,000		
6月	160,000		
7月	160,000	233,000	小説と講談号
8月	166,000		
9月	166,000		
10月	165,000	296,000	小説と講談号
11月	158,000		
12月	152,000		
1924年1月	170,000	268,000	新春特別号

大衆小説を満載した特集号は実際に売れ行きもよく，読者には好評を博していた．両誌の詳細な発行部数のデータは明確な数値を記した資料がないため，数値の上でこのことを証明することは困難であるが，野村尚吾著『週刊誌五十年』(毎日新聞社，1974)に記載されている 1922(大正 11)年 4 月から 1924(大正 13)年 1 月の『サンデー毎日』の発行部数(表 4-3)からは，徐々に発行部数を落としていく通常号に対し，特集号が平均して 25 万部前後を売り上げ，通常号を上回る人気であったことが分かる．なお，この時期の発行部数 25 万部は『キング』の創刊号 74 万部[35]には遠く及ばないが,『婦女界』(35 万部)や『婦人公論』(20 万部)[36]に匹敵するものであった．また,『サンデー毎日』の文芸特集号の発行について尾崎秀樹は,“文芸読物としての新機軸を打ち出し，大衆文芸の発展に貢献した”[37]と述べており,『サンデー毎日』の文芸特集号が大衆小説と深く結び付いていたことが分かる．

[35] 佐藤卓己.『キング』の時代:国民大衆雑誌の公共性．東京，岩波書店, 2002.462P. p.10
[36] 永嶺重敏．雑誌と読者の近代．東京，日本エディタスクール出版, 2004.281P. p.184
[37] 尾崎秀樹.大衆文学の歴史(上)戦前編.東京,講談社,1989.341P. p.139

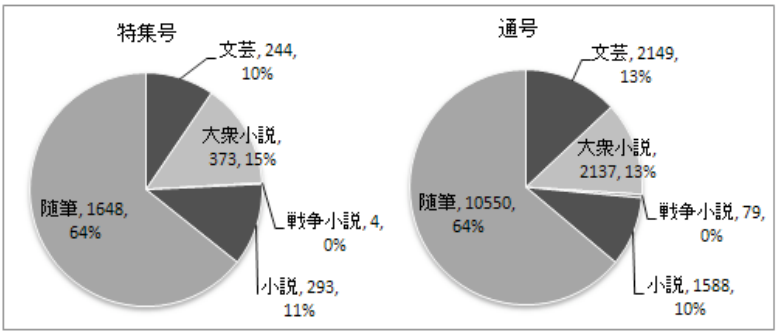


図 4-29：『週刊朝日』特集号と通号の文芸記事内訳

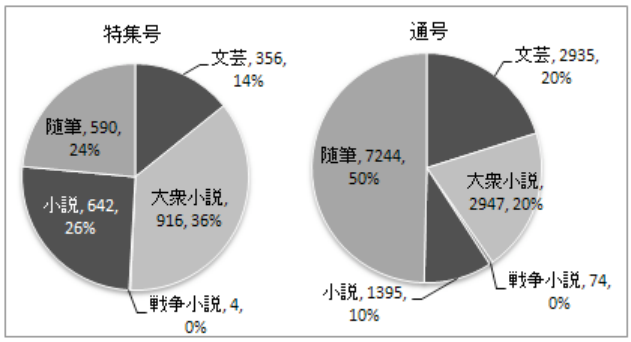


図 4-30：『サンデー毎日』特集号と通号の文芸記事内訳

4.7　執筆者別集計

次に，週刊誌メディアの執筆者に着目し，執筆者の傾向からの週刊誌メディアの特徴について調べた．これまで行ってきた記事の分類では，記事の内容を 15 項目のいずれかに分類して週刊誌メディアの量的な特徴を見てきたが，この場合，同一分類内における個々の記事の執筆者の職業等についての分析ができない．戦争記事を例にとると，同じく「戦争記事」に分類された記事であっても，小説家が従軍して執筆したルポルタージュと記者の執筆した報道記事では，読者に与える印象や影響も異なるものになると考えられる．従って，ここでは少し角度を変え，執筆者を分類して週刊誌における執筆者の傾向を見ることとした．

調査方法として，図 3-3 で示した執筆者別の記事数の集計を活用し，一定量以上の執筆回数があり，かつ職種や業種の分かる人物の年別の執筆数，業種・職種等の分類別執筆数より，週刊誌メディアの執筆者の傾向を探った．対象とする執筆者には 2 つの条件を設けた．1 つは「分類」フィールドで「本名・ペンネーム」に属する人物に限ったことである．執筆者名が「A 氏」や「ABC 生」のような匿名である場合，または「諸家」「十四氏」のように複数の不明な執筆者を指す場合は，その人物の属性(職業や性別等)が特定できないことや，記者と読者投稿の区別も困難なため，除外することとした．2 つ目の条件は，掲載回数が 3 回以上の執筆者のみに限定した点である．両誌の執筆者の掲載回数を集計すると，『週刊朝日』では 3 回未満の執筆者が 9,850 名中 7,813 名と全体の大部分を占めている．また『サンデー毎日』でも同様に，3 回未満の執筆者は全体の 9,280 名中 7,398 名と，両誌ともに少数のみの掲載者が 85%以上となっている．執筆者は表 4-4 で示す執筆者分類に従って 12 の項目に振り分けたが，3 回未満の執筆者の多くは執筆数の少なさ等の要因により，ほとんどすべてが「不明」により「12．その他」に当てはまる場合が多い．ここで執筆者分類別の記事数を集計する狙いは，どの業種の人物がどの程度掲載されたかを見るこ

とにあり，これを記事種別の集計との比較を行うことで両誌の執筆者を選定する方針を探ることにある．従って，職業等が不明である「その他」の分類については比較対象外となるため，あらかじめ 3 回未満の執筆者を除外することとした．したがって，『週刊朝日』では全執筆者 9,850 名中 2,037 名，『サンデー毎日』では 9,280 名中 1,882 名を対象として集計を行った．

上記の条件に合致する執筆者データを，執筆者の職種や業種により，12 の項目に分類した．その際，執筆者が漫画と小説，あるいは評論と小説等のように 2 種類以上の記事を執筆している場合は，その人物が著名人の場合は一般的に通用している職業名を優先し，そうでない場合は執筆数の多い記事の種類を優先して分類した．例を挙げると，サトウ・ハチローは『週刊朝日』誌上で 48 回の掲載があるが，うち漫画 27 回，大衆小説 6 回，スポーツ等の娯楽関連記事 11 回，随筆，社会記事，文芸記事，人物記事が各 1 回と様々な種類の記事を執筆している．サトウ・ハチローは一般的に小説家としても漫画家として通用しているが，『週刊朝日』誌上でが漫画の掲載回数が最も多いことから，「漫画家」に分類した．この分類に従って集計を行ったところ，表 4-5 のような結果を得た．

この表 4-5 の結果より，執筆者の分類別数のうち，「その他」を除く 11 項目を図 4-31 のグラフに示す．このグラフからは，両誌ともに小説家の数が最も多く，次いで娯楽記事や社会記事を担当する記者の数が多くなっていることが分かる．小説家が多いという点は，通号での記事数の集計で文芸記事が最も多かった点と共通する特徴であり，両誌における文芸記事の重要性が，ここでも表れていると見ることができる．娯楽記事や社会記事の記者が次いで多い点は，娯楽記事は記事数の上でも文芸記事に次ぐ数であったことより，共通する特徴であると捉えることができるが，娯楽記事の執筆は落語家や役者，批評家等を含む「専門家：娯楽」と，「記者：娯楽」に属する人物の手によるものがほとんどであり，その 2 項目を比較すると，「記者：娯楽」がわずかに多くなっているが，専門家と記者の割合はほぼ半数ずつとなっている．これは社会記事における「専門家：社会」と「記者：社会」にも見られることであるが，これに対し実用記事では「専門家：実用」が「記者：実用」を大きく上回っており，料理や美容等の実用記事が記者ではなく料理研究家や美容家等の専門家によって多く執筆されたことが分かる．

表 4-4：執筆者分類表

no.	執筆者分類	主な職業
1	小説家	小説家
2	文芸家	俳人，歌人，随筆家，劇作家等
3	画家	画家，挿絵作家
4	漫画家	漫画家
5	専門家:学術	科学・医学・理学等の専門家，博士
6	専門家:実用	料理・服飾・衛生等の専門家，評論家
7	専門家:社会	社会・政治・軍事等の専門家，評論家
8	専門家:娯楽	映画・スポーツ等の評論家，落語家，役者
9	記者:社会	政治・社会記事の記者
10	記者:娯楽	映画・スポーツ・芸能記事の記者
11	記者:実用	料理・服飾・衛生等実用記事の記者
12	その他	上記以外，不明

表 4-5：分類別の執筆者数と記事数

執筆者分類	『週刊朝日』		『サンデー毎日』	
	執筆者数	記事数	執筆者数	記事数
画家	176	1866	161	3987
記者:娯楽	117	2419	146	3101
記者:実用	28	331	26	220
記者:社会	131	1802	133	2287
小説家	332	6002	294	5232
専門家:学術	30	243	22	192
専門家:軍事	9	65	5	82
専門家:娯楽	137	2841	141	2222
専門家:実用	98	796	113	1008
専門家:社会	98	1253	71	729
文芸家	151	1569	113	1158
漫画家	32	1505	40	851
その他	699	2328	617	2142

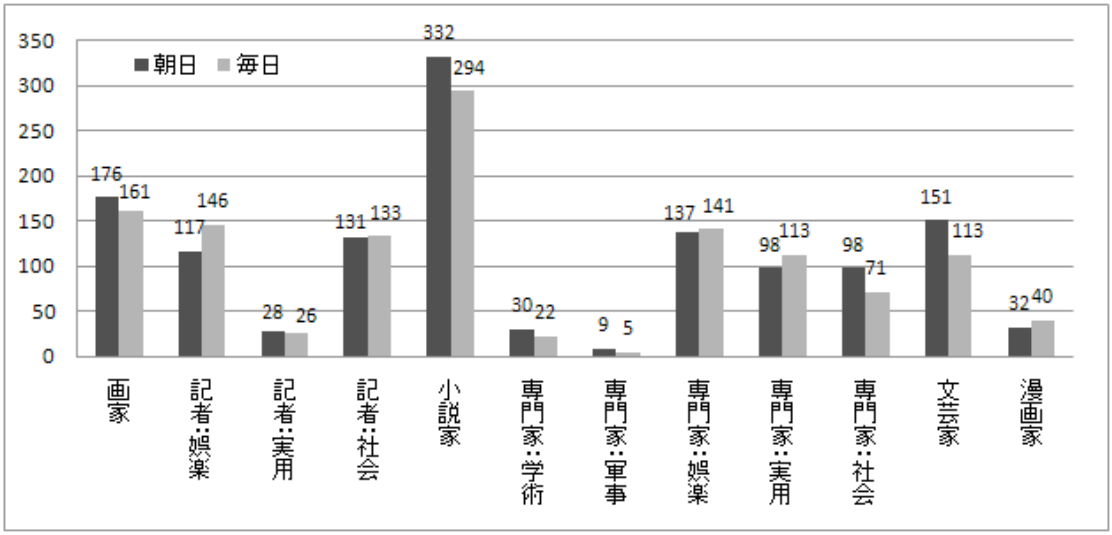


図 4-31：執筆者数の分類別集計

次に，これらの執筆者が実際に執筆した記事数を集計した結果を図 4-32 に示す．このグラフからは，図 4-31 で示した結果とほぼ同様の結果が得られた．大きく異なる点を挙げると，『サンデー毎日』での「画家」の記事数が多いという点である．表 4-2 でも示す通り，『サンデー毎日』は通号での記事数でも『週刊朝日』より「写真・絵画」に分類した記事数が多かったが，図 4-31 と図 4-32 の「画家」の項目で記事数が大幅に伸びていることからは，『サンデー毎日』では特定の画家が，小説や随筆，一般記事等の挿絵を比較的長期間に渡って担当していたことが要因として挙げられる．

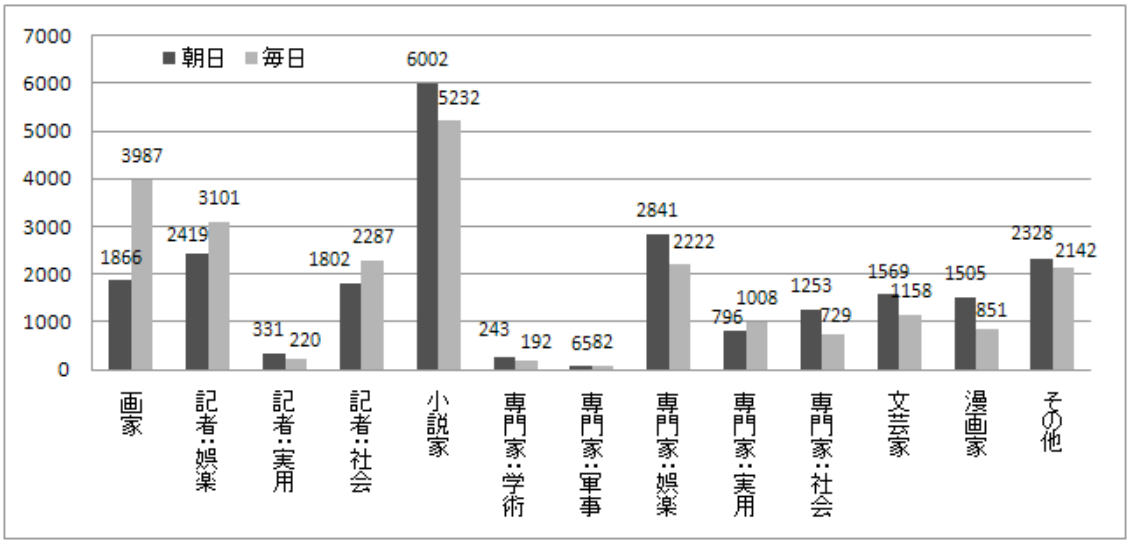


図 4-32：執筆者分類別記事数の集計

上記の通号による執筆者数の集計では，図 4-1，4-2 で示した通号での記事数の集計と大きな差が見られなかったが，これを I 期と II 期に分け， I 期と II 期それぞれにおける分類別執筆者の

記事数の割合を図 4-33，4-34 に示す．

全体で最も多かった「小説家」の記事数は，『週刊朝日』ではやや増加しただけでほとんど変化は見られなかったが，『サンデー毎日』では約 6%減少している．「文芸家」，「漫画家」，「記者：娯楽」，「専門家：娯楽」，「専門家：実用」，「記者：実用」の 6 項目は全て減少しており，両誌共に増加したのは「画家」と「記者：社会」，「専門家：社会」の 3 項目であり，各項目の増減の傾向は「小説家」の記事数以外では共通している．II 期において「記者：社会」の割合が両誌共に 10%以上増加している背景には，戦争の影響が挙げられる．そして，「記者：娯楽」や「専門家：娯楽」の記事数の割合が減少しているのも，戦時体制下の誌面から娯楽記事そのものが減少し，誌面が戦争一色となっていった様子をうかがわせる．

しかし，ほとんどの新聞雑誌が戦争記事満載となった太平洋戦争以降，両誌における小説家の記事の比率が最も高かったことからは，大衆小説を始めとする文芸作品や小説家が，戦時においても『週刊朝日』や『サンデー毎日』と密接に結びついていたことが読み取れる．週刊誌メディアの特徴や戦前の社会における受容形態について考察する上で，「小説」という要素は，一つのキーワードとして取り上げることができる．

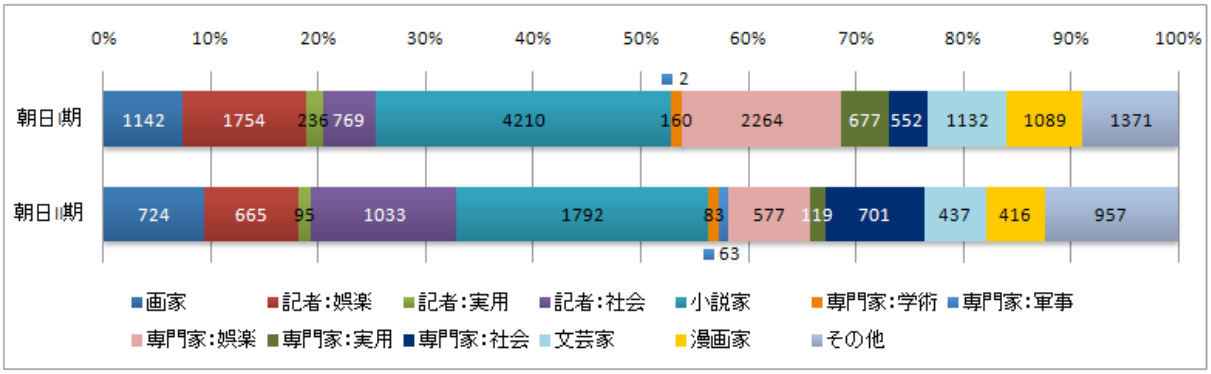


図 4-33：『週刊朝日』I,II 期の執筆者別記事数

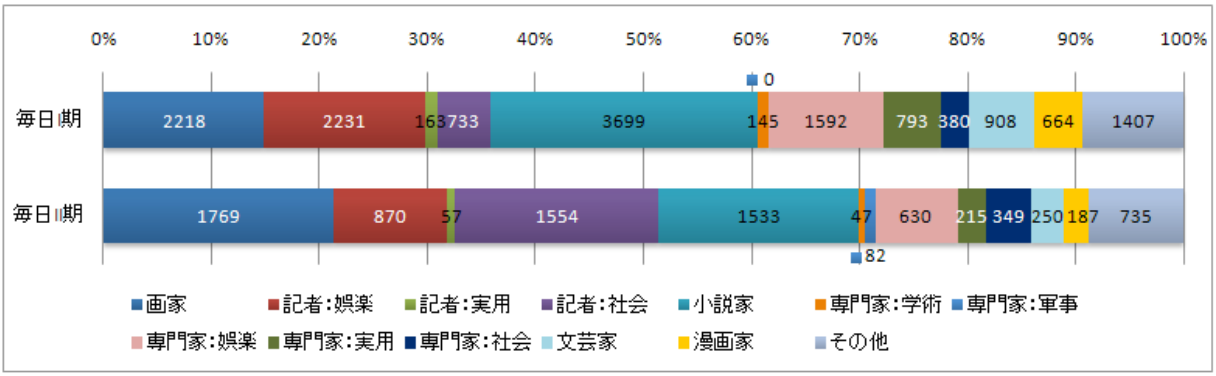


図 4-34：『サンデー毎日』I,II 期の執筆者別記事数

第 5 章　「大衆性」へのアプローチ

5.1　「大衆雑誌」とは

大正期の社会の大衆化が雑誌に与えた影響を考えると，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の「大衆性」について考察するにあたり，週刊誌メディアにおける「大衆性」が何を表現しているかを明らかにすることが必要になる．一般的な意味としての“大多数を占める人々”，“労働者・農民などの勤労階級”，“社会学で，孤立して相互の結びつきを持たず，疎外性・匿名性・被暗示性・無関心などを特徴とする集合的存在”[38]とは，人間社会におけるひとまとまりの集団を表す定義であり，雑誌や新聞の読者集団，ラジオやテレビの視聴者集団等，特定のメディアを媒介してつながる複数の集団の全てを含むものである.『週刊朝日』と『サンデー毎日』は創刊時の方針でも語られている通り，“何人にも”“どんな人にも”，“面白く”“読みやすい”，“一週一冊これを手にしておれば”“どんな方面の事も書いてある”雑誌を目指していたのであるが，これらの要素が，雑誌購読者全体の中でどの階層に向けられていたか，また，それらの要素によって，いかにして特定の読者集団を獲得するに至ったか，それを明確にすることが，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の「大衆性」をひも解く鍵となる.

一般的な意味での「大衆」については様々な議論がなされているが，本論はその定義について検証しようとするものではなく，雑誌メディアに表れた「大衆性」が読者と雑誌の関係をどのように変質させたのか，その関係性が日中戦争以降の戦時体制下においてどのように読者に影響を与えたのかについて考察するものである．従って，この章では雑誌メディアにおける「大衆性」と，現在も広く通用している「大衆雑誌」について，本論での定義を明確にし，いくつかの要素を抜き出しておくこととする.

5.2　新聞メディアの「大衆性」

まず，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の発行元が新聞社ということもあり，メディア形態の違いから新聞の「大衆性」を無視することはできない．新聞メディアの「大衆化」＝マスメディアの誕生については 2 章 2.1 でも触れたが，新聞紙面ではどのような変化があったのか，内川芳美は『日本広告発達史(上)』(電通,1976)で，人々の生活様式の変化や戦争が新聞紙面にもたらした変化について，いくつかの現象を挙げている．以下に，その内容を要約する.

1)　言論機関から報道機関への変質[39]

日清戦争を契機に，政党政派の主張を代弁する姿勢を取っていた新聞は，戦争の報道記事や号外の多数発行に伴い，新聞の需要が高まり，都市部で発行される新聞を中心に，「不偏不党」「厳正中立」を標榜とする新聞が増加した．このことは，政党機関紙が後退し，商業新聞が台頭した明治末期から大正初期にかけての時代的推移を表している.

2)　紙面のレイアウトの変化[40]

---

[38] Japan Knowledge デジタル大辞泉
[39] 内川芳美．日本広告発達史(上)．東京，電通, 1976.490P. p.194
[40] 内川芳美．日本広告発達史(上)．東京，電通, 1976.490P. p.194-195

第一次世界大戦と前後し，それまで記事見出しには「○」，小見出しに「△」や「▲」をつけ，文語体の文章で挿絵や写真の少なかった新聞紙面(図 5-1)が，2 段組み，3 段組みの大見出しが使われるようになり(図 5-2)，写真や挿絵が増加し，口語体の文章へと変わっていった．

3)　社会面の向上と社説の地位の低下[41]

警察ダネや市井の雑事を興味本位的に報道する社会面の「三面記事」的手法は，明治末期よりすでに『萬朝報』や『二六新報』で取り入れられていたが，これが都市の人口集中，労働人口の増加，サラリーマン階層の形成といった社会の変容に伴い，新聞各紙の社会面はストライキや小作争議，婦人運動，物価騰貴，普選運動等の一般大衆の生活や関心事に密着した政治，社会，労働，思想，文化等の分野の事件も扱うようになった．これらの社会面は読者大衆の不満を表現し，さらに行動を起こさせる原動力となっていった．1914(大正 3)年 2 月のシーメンス事件に抗議する日比谷公園での国民大会は，『萬朝報』の一記者が社会面に“日比谷へ日比谷へ”，“走れ走れ”と書いたためであり，もはや大衆を扇動するのは社説ではなく社会面となったことの代表的な事件である．同時に，明治期に 2～3 段組みの記事であった社説は敬遠されるようになり，大正中期には 1 段～1 段半へと縮小した．

4)　経済面の充実[42]

第一次世界大戦による日本経済の発展とその反動による不景気によって一般大衆の経済問題に対する関心が高まると，新聞は経済の専門用語の解説や分かりやすい経済記事を充実させた(図 5-3)．

5)　主題の多様化[43]

大正期におけるスポーツの隆盛を受け，スポーツ面の充実が図られた．また，家庭の主婦を対象とした家庭欄，女性一般を対象とした婦人欄，小説等を扱う文芸欄が設けられるようになり，紙面の総合化が図られた．

6)　夕刊新聞の発行[44]

報道第一主義の時代における社会生活サイクルの短縮化によって，その日の出来事を記事にした夕刊新聞が増加した．夕刊新聞は娯楽性に富み，朝刊よりも柔らかい内容であるとともに，映画やデパートの広告を多数掲載し，広告媒体として消費促進の役割も担った．

7)　地方版の発行[45]

東京や大阪で発行されている中央紙のうち 1 ページ分を各地方のニュース等に割く形式で，大正初期には関東で 16 版が刷られるようになった．

---

41 内川芳美．日本広告発達史(上)．東京，電通, 1976.490P. p.195-196
42 内川芳美．日本広告発達史(上)．東京，電通, 1976.490P. p.196
43 内川芳美．日本広告発達史(上)．東京，電通, 1976.490P. p.196
44 内川芳美．日本広告発達史(上)．東京，電通, 1976.490P. p.196-197
45 内川芳美．日本広告発達史(上)．東京，電通, 1976.490P. p.197

●歐洲の操業短縮

▲景氣よさは英國のみ

十月九日より三日間獨逸伯林に開會せられたる萬國紡織聯合大會に關し三井物産倫敦支店長渡邊專次郎氏より紡績聯合會に達したる報道によれば歐洲の棉業界は英國のみは紡織共に好況を示し前途の見込み頗る良好なるも歐大陸は二三の小國を除けば概して農作物の凶作と戰爭及外交問題の爲商況見角振はず市場は一般に不安の念を抱き前途の見込甚だ險惡なるやて墺國代表者の如きは若し各國の代表者にして同意するならば向後三箇年間は新紡績會社の設立を阻止すべき適當なる手段を取る事容易なるべしと說きたる位にて甚だくは各國共前途の悲觀を一掃する能はざるが如し尙各國に於ける棉業の一般及操業短縮程度は大略左の如し

▲英國　需要增加の傾向ありて各紡績共手持品案外に少く會社は利益の漸增を期待し居れり注文は一時の二倍三倍に達し前途の見込み亦頗る佳良なり從つて目下休鍊せる會社なし

▲佛國　五月以來一箇月につき六日間の操業短縮を續行せり農産物は凶作にして人氣惡く爲に是れ以上の休鍊を必要とする時期必ず到來すべきやを憂慮しつゝあり

▲獨逸　市況稍恢復の徵を示し織布、綿絲共に相當の需要あり從つて現下操業短縮は實行し居らざるも尙會社筋の手持多くして之が一掃迄には多少の時日を要すべく當業者の損失は未だ償却さるに至らず

図 5-1：『大阪朝日新聞』1911(明治 44)年 11 月 8 日記事

持久戰に入つた 生野鑛山の爭議

關係者の言ひ分

生野鑛山の勞働爭議はその後持久戰に入り採掘は全く休止の形でただ雜役夫のみが立ち働いてゐるに過ぎない、爭議團側は從來會社から食糧の供給を受けて生活してゐたのに、今回の爭議でそれが止り且つ拂泄しを受けた賃金の額も多くないので生野町民の同情がある

こは言ひ早くも資金窮乏の態を示して來た、然し爭議團本部の活躍で他地方勞働團體の援助で資附金も多少集まり意氣は極めて旺盛な模樣である、尙は二十八日には經營者三菱側と爭議團本部員の雙方が嚴重高踏を防ひ種々事情を具陳した、當日生野の本部から國神した總同盟戸聯合會の森口新一氏は語る

生野鑛山に働いてゐるものは雜役夫、女工、事務員までを合せる三百餘名でその內總同盟に加盟してゐるものは約二百四五十名で休業はしてゐるが爭議團の態度は毅然たるものである、我等は最初から爭議を起す意志は少しもなかつたのだが會社側が當然聞はれなくして四名を馘首したので一同の激憤逆つて遂に罷業の擧に出た譯で鵜は會社側にある、但し鑛山の勞働者は町の商家と聯絡がない上に賃金は來月二日までしか持たないから我等は今

資金調達のため歸神したが寄附金も多少集つてゐるし因の島その他同志の團體からの聲援もあり士氣旺盛で最後まで闘ふ覺りである

筋違ひの要求には回答されぬ

會社側の談

また右爭議につき三菱會社側のいふ處によると

葛城、佐藤、大森、竹村四工夫の身元保證人が何れも保證の責任を解除したから會社は社則によりて保證人なき者を使用し得ないから二週間の猶豫期間を與へ此の間は平常を給與してゐたがその後も保證人の屆出でがないので遂に馘首した。ところで一部工夫は生野勞働組合の變會式を兼ね創立總會を開いて二十六日から休業するこ同時に十九箇條の要求書を提出した、けれども會社には勞資協調の精神から既に共榮會を設け從業員中から二十八名の代議員を互選して會社側と三箇に年四季に通常例會を開き其會には從業員側の意見、希望、要求等を提出し得る事になつて居るから此の機關を無視して一部の者が申出ても無効であるのみならず會社は現在爭議團なる者を認めて居らぬ、順序として先づ全員の希望する要求書を提出し萬一會社が應じなかつた場合始めて手段として總

図 5-2：『大阪朝日新聞』1925(大正 14)年 4 月 29 日記事

通俗財話

『東株』の話

株式取引所自身の株式である。取引所の場にかゝる各會社株式の總數は二百二十種もあり、總資本額は四十億圓近くになるが、その內に花形株とか稱するものがある。何といつても東株や鐘紡（鐘ヶ淵紡績）日本郵船（日本郵船會社株）などは花形株の筆頭である。株式の相場は如何なる事情で定まるかといふことを知る一端として茲に「東株」を例に擧げて少しく說明を試みたい

一般の株式

は如何なる時代にも八分か七分以下の利廻りに取引される事はないが、東株のみは四分か五分、甚だしき時は二三分の利廻りにしか當らない所までも買はれる。株式上ではお話しにならぬが、何人もこれを不思議と思はぬのみか、東株は何時でも斯く低い利廻りの低いものと極め込んでゐる傾向がある。現在の如き不況時代に於いてさへ五十圓拂ひ込の東株は約百二十圓前後で、十二圓五十錢拂ひ込みの新東株が九十五圓拂をしてゐる。この値段きは僅かに二十五圓である、拂ひ込みから探算すれば如何にしても三十七圓五十錢以上の値段きが出なければならぬ。然るに事實は新株よりも新株が十三圓も上値を買はれてゐる狀態である。市場ではこれを

親不孝相場

といつてゐる。斯くの如きは全く人氣作用で變態的に買はれてゐるもので、例の大阪の借金王石井某が鐘ヶ淵紡績株の買占的買煽りを行つた當時も東西兩市場の同株が非常の人氣を惹起して、鐘紡の新株が親不孝相場を演じた事があつたが、石井の沒落と共に、普通の狀態に復した。一體株券が何時も

探算を度外視

して買はれてゐるといふのは長い間の因襲的感念の結果で、過去の歷史を考ふれば、再三再四の增資により東株といふものは長く持つてさへをれば、何時かは必ず有利となるといふ感念が多くの人の腦に沁み込んでゐる。東京株式取引所は明治十一年五月に始めて設立せられ當時の資本金は僅かに二十萬圓、株數は二千株（一株券が百圓）である。明治二十六年九月に始めて第一回の增資あり、僅かに十萬圓を增し三十萬圓となり、この時百圓の一株券が五十圓券となり株數は六千株に增加した。第二回の增資は明治二十九年三月で、この時は倍額の增資で六十萬圓となり、一萬二

図 5-3：『東京朝日新聞』1923(大正 12)年 1 月 28 日　経済記事「通俗財話」

上記の 1)～7)には，新聞ならではの「地方版」や「夕刊」といった要素もあるが，ほとんどの場合が雑誌メディアにも当てはまることである．「2) レイアウトの変化」では，週刊誌の誌面における写真や挿絵，漫画の増減が，「大衆性」と関連があると見ることができる．また，「3) 社会面の向上と社説の地位の低下」でも，週刊誌の社会記事や評論記事における「三面記事」性の有無によって「大衆性」を測ることができる．これは「4) 経済面の充実」でも同様のことが考えられる．社会記事にしろ経済記事にしろ，「分かりやすい」ことが共通のキーワードとして捉えられる．「5) 主題の多様化」では，様々な主題を総合的に扱い，その中で娯楽面や文芸面を充実させるという手法が，文芸記事と娯楽記事を中心に据えつつも社会記事や政治記事も継続して掲載し続けた『週刊朝日』と『サンデー毎日』に通じる特徴であると見ることができる．

5.3　月刊雑誌の「大衆性」

次に，両誌と同時期に発行されていた大衆向け月刊誌について，その特徴を抜き出しておく．まず当時の雑誌界の中で大部数を発行していた雑誌『キング』が最も有名なところであるが，この『キング』創刊の 5 年前に，大衆文芸雑誌として発行されていたのが『新青年』(博文館,1920)である．『新青年』が大衆文化の反映という意味においていかに重要な雑誌であったか，池田浩士は以下のように述べている．

> 月刊雑誌『新青年』は、一九二〇年一月の創刊号以来、一九五〇年七月の終刊号まで、三十年間にわたって日本の大衆文化のもっとも代表的なメディアのひとつだった。とくに一九二〇年代から三〇年代前半にかけての同誌の誌面には、部分的侵略から全面戦争へとつきすすんだ日本社会の姿が、日々の生活スタイルから文学的表現にいたるまで、さまざまな次元でありありと映し出されている。大衆小説の主要な発表舞台となった新聞、週刊誌、そして一九二五年一月に創刊された講談社の『キング』をはじめとする大衆的月刊雑誌などと並んで、あるいはそれら以上に、『新青年』は、日本の近代・現代文学史と文化や思想の歴史にとって、重要な意義をもっている。[46]

『新青年』は海外の探偵小説の翻訳や日本の作家によるオリジナルの探偵小説を中心に掲載し，江戸川乱歩や横溝正史，小栗虫太郎，甲賀三郎らの探偵小説家を輩出した．これらの小説家は『週刊朝日』や『サンデー毎日』にも探偵小説や怪奇小説を多数掲載している．また，探偵小説だけでなく 1925(大正 14)年頃からはユーモア小説も掲載するようになり，ここでも海野十三や稲垣足穂ら大衆小説家の作品が掲載された．1930 年代に入ると野球や音楽，映画等の大衆娯楽の特集が満載となり，『週刊朝日』でも野球記事の連載を担当した飛田穂洲(野球評論家)が連載記事を担当した．『新青年』は 1950(昭和 25)年まで発行が継続されたが，戦時下における誌面は日中戦争開戦以降，徐々に戦争色が強くなり，小説は久生十蘭等の時代小説や吉川英治の戦争小説が増加していった．

この『新青年』の大衆小説と娯楽記事重視の傾向は，1925(大正 14)年 1 月創刊の『キング』でもみられたことである.『キング』が創刊から発行部数を伸ばした背景の一つとして,創刊前の大々的な宣伝戦略が挙げられる．発行元の大日本雄弁会講談社(以下，「講談社」)では 1924(大正 13)

---

[46] 池田浩士.大衆小説の世界と反世界.現代書館.1983,275P. p.34

年 11 月 15 日から 12 月 28 日の間で,『東京日日新聞』にほぼ 4 日おきに全面広告を掲載している．講談社は『キング』の他『講談倶楽部』や『婦人倶楽部』など自社の発行する他の雑誌の広告も掲載しており，上記の期間中に『東京日日新聞』に他社の雑誌広告が掲載されたのは『主婦之友』1 誌のみ，というほどの力の入れようであった.『東京日日新聞』側が広告料を値上げすると，市町村長，教師，青年団，在郷軍人会，婦人会の幹部等の有力者，企業，銀行に宛てて合計約 183 万通の葉書を郵送したり, 少年部社員 130 名を全国各地の書店に派遣したりするなどして『キング』の宣伝を行っている[47].

この宣伝戦略の他に，講談社のその他の発行雑誌によって構成される統合戦略が挙げられる．1909(明治 42)年に野間清治によって設立された大日本雄弁会からは『雄弁』(1909 年),『少年倶楽部』(1914 年),『現代』(1920 年),『少女倶楽部』(1923 年)，が発行されたが，それと並行して野間は講談社を設立し,『講談倶楽部』(1911 年),『面白倶楽部』(1916 年),『婦人倶楽部』(1920 年)を発行している．そしてジャンル別に獲得したあらゆる読者を統合し，異なる文化圏にまたがる読者層を獲得せんとして誕生したのが『キング』であった．こうした統合戦略によって『キング』の購読者数は“少年少女雑誌の読者から四十万人、婦人雑誌の読者から二十万人、娯楽雑誌の読者から七八万人、これに新しい読者七八万人を加へて、合計七十五万人位の読者を獲得し得る”[48]との野間の目論見通り, 創刊号は約 74 万部を売り上げ, 当時としては破格の数字を記録し，幅広い読者層を獲得した．さらに大正末期に 75 銭～1 円 80 銭で販売されていた他誌に対し,『キング』は創刊号より 50 銭で販売し，これが雑誌価格の値下げ競争を引き起こすこととなった[49].

内容面での『キング』の構成は“「面白い」大衆小説(タイトルに冠せられた長篇小説・探偵小説・熱血小説・科学小説・家庭小説・諧謔小説・武侠小説や壮烈美談などが、このジャンルに含まれる)、新講談、新落語、踊り、歌、小話、笑科大学など雑多な娯楽の組織化と、「為になる」伝記、格言、一行知識、礼儀作法、実用記事の埋め込み”[50]となっており，対象として，従来の婦人雑誌や少年少女誌のように性別や年代別で分けられた読者層を，一つにまとめた「大衆」を読者に見据えていた.『キング』における「大衆性」は，大衆小説や新講談等の「面白い」読物と，「為になる」実用記事や教養記事を提供することで，年齢や職業，性別といった枠組みのない，あらゆる人々を対象とした総合娯楽雑誌であった点にある．またそれだけでなく，安価で提供することで読者がより購買しやすい雑誌を作りだし, 他の雑誌の価格をも値下げさせたという点で，一般大衆の消費行動を促進したと見ることができる．

『キング』の成功は，出版界全体へも影響を与えた．大々的な広告と娯楽的読み物，さらに価格の安さによって 100 万部を売り上げた『キング』にならい，改造社から『現代日本文学全集』が 1927(昭和 2)年より出版が開始された．この全集は毎月 1 冊，上司小剣や菊池寛，大仏次郎ら人気作家の作品集の他，歴史・家庭小説集や少年文学集等が 1 円で発行された．当時の雑誌でも 1 円以上のものもあり，安さを売りにした『キング』が 50 銭の時代に，小説だけを集めた本が 1 円で手に入るとあり，瞬く間に購読予約が殺到した．この『現代日本文学全集』の成功により，以降様々な文学全集が各社より発行されたが, 中でも最も人気が高かったのが, 平凡社が 1927(昭和 2)年より刊行した『現代大衆文学全集』である．第 1 巻は 1925(大正 14)年に『サンデー毎日』誌上で「新撰組」を連載し，一躍人気作家となった白井喬二で，以降も平山蘆江や土師清二，大仏次郎等の人気作家ばかりを集め，全 40 巻を刊行した．

---

47 佐藤卓己.『キング』の時代:国民大衆雑誌の公共性．東京，岩波書店, 2002.462P. p.6-8
48 佐藤卓己.『キング』の時代:国民大衆雑誌の公共性．東京，岩波書店, 2002.462P. p.145
49 佐藤卓己.『キング』の時代:国民大衆雑誌の公共性．東京，岩波書店, 2002.462P. p.148
50 佐藤卓己.『キング』の時代:国民大衆雑誌の公共性．東京，岩波書店, 2002.462P. p.146

戦前における雑誌界でも，大衆娯楽雑誌としての『キング』は頭ひとつ抜け出した存在であり，『キング』の誕生以降，大衆向けの雑誌を目指し，『キング』のような成功を得ようとした雑誌がいくつか誕生した．1928(昭和 3)年には平凡社より『平凡』が，1932(昭和 7)年には新潮社より『日の出』が創刊されている．『平凡』は創刊号でオフセット刷のグラビアを満載し，後藤新平や高橋是清らの論文の他，三上於菟吉や黒岩涙香，国枝史郎ら人気作家の大衆小説の他，佐藤春夫や正宗白鳥らの小説，座談会記事等，様々なジャンルの記事を盛り込んだ．また，『キング』と同様に創刊に際しての新聞広告で“世界一面白い！世界一美しい！世界一為になる！世界一安い！”と大々的にキャッチコピーを掲げ，『キング』の“日本一”に対抗した[51]．しかし『平凡』は『キング』のような徹底した誌面の「大衆化」に踏み切ることができず，1929(昭和 4)年にわずか 1 年で廃刊となった．

『日の出』を創刊した新潮社は，それまで純文学の出版に従事してきたが，円本ブームや『キング』の成功によって，大衆小説を看板にした大衆向け雑誌の発行に踏み切った．『日の出』は創刊号の小説欄に吉川英治，三上於菟吉，大下宇陀児，長谷川伸，菊池寛ら人気大衆作家を揃え，総ページ数 544，2 つの附録を付けた．『日の出』は創刊当初は 15 万部前後の発行部数と振るわなかったが，日中戦争以降，時局雑誌へと移行することで存続し，1945(昭和 20)年まで続いた．

これらの大衆娯楽雑誌に共通するのは，まず掲載する文芸作品の種類が純文学ではなく大衆小説に傾倒している点である．大仏次郎や吉川英治，土師清二，白井喬二らは戦前の大衆作家でも特に人気を誇った小説家であるが，これらの小説家の作品も，数多く掲載されている．作家の芸術性や思想が反映し，読者の思想に何らかの影響を与え，他者から分析の対象となる純文学とは異なり，大衆小説は娯楽のために読まれ，あるいは暇つぶしのため読まれることで，次から次へと「消費」される対象である．この受容形態は，『キング』や『日の出』のような大衆向け娯楽雑誌そのものにも当てはまると考えられる．従って大衆娯楽雑誌の「大衆性」とは，大衆小説や附録，実用記事などの刹那的な「娯楽性」や「実用性」によって，大量消費が可能な雑誌であったという点であるといえる．

5.4　婦人雑誌の「大衆性」

次に，『キング』に次ぐ発行部数を誇った『主婦之友』や『婦人倶楽部』を含む，婦人雑誌における「大衆性」について見ていくこととする．婦人雑誌の誕生は明治初期に遡るが，明治期の婦人雑誌はそのほとんどが「良妻賢母主義」に基づく雑誌であった．1977(明治 10)年から 1980(明治 13)年にかけて，『子育の草子』，『亭主の心得』，『女房の心得』，『家の治め方』など，そのタイトルだけでも因襲的な「良妻賢母」を髣髴とさせる雑誌がつくられている．

そうした中で，キリスト教の教義に基づき，女性の地位向上を目指した女性啓蒙雑誌が誕生した．1885(明治 18)年，教育者の巌本善治によって発行された『女学雑誌』は，“女性の地位向上，権利伸張，幸福増進”(創刊号「発行の趣旨」より)を目指した日本最初の女性啓蒙雑誌であった．創刊当初は内村鑑三や津田梅子らの評論を掲載したが，1890(明治 23)年頃より，北村透谷らロマン主義作家の小説が掲載されるようになり，これがのちに雑誌『文学界』(1893)の母体となり，島崎藤村や田山花袋らの作家を輩出した．

明治期の社会は，日清・日露戦争後の物価騰貴による生活不安，急激な資本主義社会化の影響

[51] 塩澤実信.雑誌 100 年の歩み.グリーンアロー出版社,1994,299P. p.87

による中・小所得階層の形成によって，一家の生計問題がそれまで以上に噴出してきていた．また，日露戦争以降の重化学工業の発展は男子労働者を多く必要とし，それと反比例するかのように女子労働は機会不均等な上に低賃金という，悪条件に見舞われるようになった．さらには男子労働者に対する賃金は上昇し，明治末期になると女性の労働力は内職へと追いやられていった．このような労働条件の変化は，女性をますます家庭内にとどまらせることとなり，女性の経済的独立は不可能にも近く，家庭内における女性の地位を貶めていく一因ともなっていた．

そうした中で，1900（明治 33）年に公布された治安警察法に対する改正請願運動が，1903(明治 36)年に堺利彦, 幸徳秋水らを中心として設立された平民社[52]を取り巻く女性たちによって繰り広げられた．この治安警察法第 5 条において，女性は一切の政治的活動を禁止されていた．これに反発した福田英子や今井歌子，遠藤清らは，女性の政治的権利回復の第一歩として，1905(明治 38)年 1 月，改正請願書を今井歌子他 459 名の署名と共に衆議院に提出した．

この女性解放の思想は幸徳秋水と菅野すが等が社会主義思想弾圧の犠牲者となり虐殺された(「大逆事件」1943 年)後も，1920(大正 9)年に平塚らいてうらによって設立された新婦人協会に引き継がれ，1922(大正 11)年 4 月，治安警察法第 5 条第 2 項中の「女子及」が削除され，公布された．

「大逆事件」に象徴されるように，明治末期の社会は急激な資本主義化の皺寄せに苦しむ家庭の増加や国粋主義の暴君と化した軍事勢力による思想弾圧など, 暗く混乱したものとなっていた．そうした中から,「新しい女」を標榜とする雑誌『青鞜』が，1911（明治 44）年 9 月に平塚らいてうを主宰者として誕生した.『青鞜』は『女学雑誌』が生んだ女性解放思想を受け継ぎ，創刊当初は文芸雑誌として出発するが，次第に女性問題を主題とする文芸思想誌へと変化していった．青鞜社に集う「新しい女」たちは時として世間の人々から非難も浴びるが，大正デモクラシーの高揚の中で女性問題がクローズアップされる要因ともなり，これが大正期に盛んになった女性解放運動の大きな要因であるともいえる．

明治期から大正期にかけての社会，および戦前の社会における女性の地位は，教育や労働，結婚問題など様々な事柄の法的な改正に伴い, 緩やかな変化を遂げていった. そうした社会の中で，1916(大正 5)年 1 月，中央公論社から『婦人公論』が創刊された．明治末期からの「新しい女」の波，さらには大正デモクラシーで盛り上がりを見せ始めた女性解放運動の波に乗り，当時の知識階級の人々を中心に広がっていった『婦人公論』は，その後 1941(昭和 19)年の休刊まで刊行された．

『婦人公論』は創刊当初は女性解放を主義とした評論雑誌の様相を呈していたが，社会の「大衆化」に伴い，1928(昭和 3)年頃より次第に誌面に変化がみられる.『婦人公論』の目次を見ていくと，創刊当初は時論・公論欄に知識階級の人物による政治や経済，女性問題の執筆記事を掲載しているが，文章は難解で一般大衆の女性向けとは言い難いものであった．この『婦人公論』が一般大衆の女性を強く意識した様子がうかがえるのは，1928(昭和 3)年頃からである．表紙写真に女優の写真や美人画を用いて華やかにし，実用記事を増加させ，それまで硬い印象のあった政治や経済の記事を減らし，一般の女性たちにとって身近な問題である結婚や恋愛問題を中心とした編集方針を打ち立てた．さらには家事や育児，裁縫などの家庭記事を充実させることで,『婦人公論』が当時抱えていた「啓蒙誌」であると同時に「商業誌」であることの矛盾から来る問題,

[52] 1903(明治 36)年 11 月，堺利彦と幸徳秋水によって創立．明治末期における社会主義運動の高揚の中心に位置し，同時に当時盛り上がりを見せ始めていた女性解放運動にも貢献した．女性解放を目指した活動には，社会主義婦人講演会の開催や治安警察法第 5 条 2 項改正請願運動などがある．

つまりは「大衆化しなければ売れない」「売れなければ雑誌は存続させられない」という問題の打破に挑んだのである.

女性啓蒙を標榜とした『婦人公論』は，誌面に「実用性」と「娯楽性」を取り入れることで大衆化を図ったが，その「大衆性」のモデルとなったのが，同時期に発行されていた実用的婦人雑誌である.『婦人公論』は誌面の大衆化を図った 1928(昭和 3)年より, 実用的婦人雑誌『婦人世界』で編集に携わってきた高信狭水を新たに編集長として迎え，実用的婦人雑誌にある「大衆性」を『婦人公論』へと導入して行った.

婦人雑誌は『婦人世界』や『主婦之友』,『婦人倶楽部』，1925(大正 14)年に創刊され農村の女性を中心に読まれた『家の光』(産業組合中央会)等の，実用記事や家庭小説を中心に掲載する娯楽・実用的婦人雑誌と,『婦人公論』や 1922(大正 11)年創刊の『女性改造』等，女性問題に関する評論を掲載し, 女性の自立を主眼に置いた啓蒙的婦人雑誌の 2 つの分野に大きく分けられるが,『婦人公論』のように,「実用性」を誌面に取り入れることで，より多くの読者を獲得しようと試みたものもある．その一方で,『青鞜』や『女性改造』はあくまで女性解放に主眼を置き,『婦人公論』が取り組んだ「大衆化」を行わず，結果として『女性改造』は 1924(大正 13)年に,『青鞜』は 1916(大正 5)年に廃刊となっている.

発行期間の長さで見れば，娯楽・実用的婦人雑誌に属する雑誌が比較的息が長い.『主婦之友』は 1953(昭和 28)年に『主婦の友』と改題し，2008(平成 20)年まで発行が続いた長寿雑誌であり,『婦人倶楽部』も 1988(昭和 63)年まで発行が続けられた.

啓蒙的婦人雑誌の中で『婦人公論』だけが長く発行を続けられた理由としては，先に述べた昭和初期における誌面の「大衆化」が挙げられる．表紙だけを見ても，創刊当初は花を散らした地模様の中央に縦長の黒い額を置き,『婦人公論』の文字を白く切り抜いた地味な装丁であったのを，1928(昭和 3)年頃より水彩画の中に女性の絵をあしらい，タイトルも横書きですっきりと印刷されるようになっている．表紙を見比べての印象は、従来の『婦人公論』の内容さながらの堅苦しい，一般大衆の女性にとっては敷居が高く感じられたものから，女性がより手に取りやすく，ページをめくって内容に目を通してみようと思わせる，柔らかいものへと変わっている．また内容の面でも,「恋愛売買時代」と題されたこの新年号は，学歴や職業を問わずほぼ全ての女性に関連のある「恋愛」という題材をテーマに掲げ，関東大震災以降に出現した自由恋愛主義を批判している．この姿勢は，それまでの「女性啓蒙」の思想は持ち合わせつつも,「恋愛売買時代」というややスキャンダラスなキャッチコピーを用いることで，読者の関心を引こうとする意図が読み取れる.

文芸作品の面では 1917(大正 6)年頃より正宗白鳥や長田幹彦らの小説を掲載し，大衆小説へのアプローチを試みているが，タイトルに冠せられる角書はまだ「長編小説」であった．しかし 1929(昭和 4)年 1 月号に初めて「大衆文芸」を冠した小説「八百屋お七」(真山青果)が掲載されると，その後も大仏次郎や長谷川伸，吉川英治らの小説をほぼ毎号に掲載している．また,「流行絵羽織」や「モダン美容学」(ともに 1930 年 1 月号),「モダン流行語辞典」(同年 10 月号),「結婚教科書」(1931 年 1 月号)等，一般女性を意識したとみえる附録をつけるなど，その誌面が創刊当初の啓蒙重視の内容から変化している様子が窺える．このことからは，大衆小説や実用記事，附録といった一般大衆女性を意識した要素によって，啓蒙的婦人雑誌の明暗が分かれたということができる.

大正期から昭和初期にかけての『主婦之友』や『婦人倶楽部』に代表される実用的婦人雑誌＝“大衆婦人誌”が多くの女性に読まれた要因として，秋田雨雀や大宅壮一は婦人雑誌に見られる

“デパート”的要素を挙げている．婦人雑誌の文芸作品中には“大衆婦人のよろこびさうなものは何から何までその『小説』の中に陳列されて”[53]おり，“大衆婦人誌”が学習や教養のためよりも実用品として消費するものであったことが，『主婦之友』や『婦人倶楽部』の発行部数増大に結びついたとしている．このような雑誌の「大量消費」の傾向は，『キング』にも共通してみられることである．探偵小説や時代小説等の大衆小説，講談や落語等の娯楽的読物は，“一般的に大量生産され，大量伝達，大量消費される商品的文学”[54]であり，これらの“商品的文学”が『キング』を通して 100 万を超える読者に消費されたという点は，実用的婦人雑誌との共通点ととらえることができる．

以上のことより，本論における「大衆雑誌」の要素として，以下の点に着目することとした．

一つ目は，婦人雑誌の「大衆性」に見られた実用記事の存在である．『週刊朝日』と『サンデー毎日』に掲載された実用記事は，料理や裁縫等の家庭に関する記事が中心となっており，読者対象として家庭の中の女性＝主婦層をターゲットとしていると見られるが，これらの実用記事が初期の週刊誌メディアの方向性にどのような影響があったのか，この点に着目したい．

二つ目は，新聞メディアに見られた社会的記事における「三面記事」の要素＝娯楽的要素である．週刊誌メディアの娯楽的要素にはスポーツや映画等の娯楽記事，漫画，クロスワードパズル等の懸賞記事が挙げられるが，それだけでなく，社会的記事や政治的記事における「娯楽」がどのように表れているか，この点に着目したい．

三つ目は，大衆娯楽雑誌に見られた「面白さ」の要素の一つ，大衆小説である．大衆小説は『週刊朝日』や『サンデー毎日』にも多数掲載されており，文芸特集号においても中心的な位置を占めている．この大衆小説と，それに加えて小説家の執筆した記事が雑誌の「大衆性」にどのような効果を生み出したのか，その効果が戦時下における社会のなかで，どのような影響を読者に与えたのかについて，考察を進めていくこととする．

---

[53] 大宅壮一.婦人雑誌の出版革命.大宅壮一選集第 7 巻.東京,筑摩書房,1959.292P. p193-194

[54] 尾崎秀樹.大衆文学の歴史(上)戦前編.東京,講談社,1989.341P. p.10

第 6 章　大正末期から昭和初期の週刊誌メディア

6.1　実用記事の役割

I 期の集計より各分類記事の記事数の推移を示した図 4-14，4-15 では，1922(大正 11)年から 1930(昭和 5)年頃まで，『週刊朝日』と『サンデー毎日』では実用記事は記事の量では文芸記事や娯楽記事に次ぐ存在であった．5 章 5.4 でも述べた通り，実用記事は大正期から昭和初期の婦人雑誌における「大衆性」の一要素である．ここではまず，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の実用記事が，どのような役割を担っていたかについて見ていくこととする．

図 4-14 を見ると，『週刊朝日』の実用記事は，創刊年は文芸記事や娯楽記事，政治・経済記事とほぼ同数であったが, 1923(大正 12)年から 1924(大正 13)年にかけて記事数が増加し, 1925(大正 14)年以降は 200～300 程度に落ち着いている．記事数の変動で目立った動きがあったのは 1924(大正 13)年で，この年は娯楽記事よりも掲載した記事数が多くなっている．

一方『サンデー毎日』は，図 4-15 より，創刊年は実用記事が最も多く，1923(大正 12)年にはやや数を減らすも，1924(大正 13)年から 1925(大正 14)年にかけて再度増加しており，特に 1925(大正 14)年は再び文芸記事や娯楽記事を抜き，実用記事の数が最も多くなっている．以降はやや数を減らしたが，平均して 600 前後と安定した高さを保っている．

両誌に共通するのは, 1923(大正 12)年から 1925(大正 14)年にかけての実用記事の増加である．大正末期において実用記事が両誌の中心的な存在となった要因としては，『主婦之友』や『婦人倶楽部』等の実用的婦人雑誌の台頭による影響が挙げられる．永嶺重敏は，大正から昭和初期にかけて女工(工場労働者)，職業婦人(教師，事務員，タイピスト，看護婦，店員等)，女学生を対象に実施された読書調査の結果をもとに，大正初期から中期にかけて職業婦人や女学生，都市部の中産家庭の主婦層に広く読まれていた『婦人世界』や『主婦之友』等の婦人雑誌が，大正後期から昭和初期にかけて，女工や農村の女性層にも読まれるようになったと述べている[55]が，このことは，明治期には一部の女性(主に知識層の女性達)に限定されていた雑誌の読者層が拡大したことを示しており，その拡大の要因として，女性が自らの生活の“為になる”記事を求めて雑誌を購入したと考えられる．

『婦人公論』が行った誌面の改革においても，実用記事は婦人雑誌が生き残るための重要な要素であった．それほど，女性，特に家庭の主婦達の“為になる”実用記事は，大正末期から昭和初期にかけての雑誌界において, 必要不可欠なものとなっていたと考えられる.『サンデー毎日』は創刊当初より既に実用記事を満載しており，雑誌の方向性として実用記事を重視していることが読み取れる．しかし『週刊朝日』は社会・事件記事や政治・経済記事が中心であり，実用記事が特に重要視されていとは考えられない．その『週刊朝日』で 1924(大正 13)年に実用記事が大幅に増加したことには，ライバル誌の『サンデー毎日』が実用記事を満載し，新たな読者層として登場した一般大衆の女性にも読みやすい誌面作りをしていたことに影響を受けたとも考えられる．またそうでなくとも，当時は『キング』に次いで実用的婦人雑誌の売り上げが好調であり，創刊号こそ 35 万部を発行したが, 以降徐々に発行部数を減らしていった『週刊朝日』にとって，創刊当初の編集方針よりも，「売れる」ための重要な要素＝実用記事を大幅に導入し，女性を中心とする読者層の拡大を狙ったと見ることができる．両誌の実用記事の内訳は，料理や育児等，主婦層をターゲットにした家庭記事が中心であり，これが実用記事全体の中で約 90%を占める．

---

[55] 永嶺重敏．雑誌と読者の近代．東京，日本エディタスクール出版, 2004.281P. p.181

その他に肌の手入れや化粧,流行の髪型や服装等を扱った美容記事や流行記事があり,女性全般,特に若い女性を対象としていると考えられるが，これらはいずれも実用記事全体の 10%にも満たない数しかなく，この割合からは，実用記事の掲載によって週刊誌メディアが取込みたかった読者層が，日常生活における「消費」の担い手である主婦層が中心であったと考えられる.

しかし，実用記事の多数掲載は，結果として発行部数の増加には結びつかなかった．『サンデー毎日』では創刊当初より実用記事を満載し，大正末期にはさらなる増加を図ったが，表 4-3 で示した初期の発行部数によれば，創刊号から徐々に部数を減らしていっている．『主婦之友』や『家の光』が実用記事と娯楽的読み物によって発行部数を伸ばしていったのは事実であり，女性を中心とする特定の読者層には需要があったことは明らかである．なぜ，週刊誌メディアでは実用記事が新たな読者層の拡大に結び付かなかったのか．創刊当初の『週刊朝日』や『サンデー毎日』の読者層に，その一因があると考えられる.

内川芳美は，新聞や雑誌に掲載された広告の研究より，大正期の雑誌では婦人雑誌や娯楽雑誌の広告は日常生活用品や化粧品，食品が多く，『中央公論』等の総合雑誌は書籍広告が主であったと述べており，雑誌がターゲットとする読者層は広告の種類から読み取ることができる，としている[56]．『週刊朝日』と『サンデー毎日』の創刊当初の読者層について，内川は以下のように述べている.

〔『週刊朝日』が〕4 月 2 日の第 5 号から「週刊朝日」と改題され週刊(表紙とも 28 ページ・10 銭)に切り替わったのは「サンデー毎日」の創刊(同日)に対抗するためであったが、広告は相変わらず表紙 3(藤本ビルブローカーと大阪白木屋呉服店)と表紙 4(金鶴香水)だけである。ただ、印刷は活版からオフセット(一色刷)に進化している。いっぽう、「週刊朝日」と同じ日に大阪毎日新聞社から創刊された「サンデー毎日」(B4 判・表紙とも 30 ページ・10 銭)は、表紙 3 が森永ミルクキャラメル・チョコレート、表紙 4 が白鶴であるが、「週刊朝日」より広告は多く、表紙 3 の対抗ページに日本窒素肥料が、また、記事中 1 ページに浅田飴が入っている。

このように、両誌とも広告は裏表紙が主であったが、広告主はしだいに増大し、仁丹、ライオン歯磨、ミツワ石鹸、花王石鹸、桃谷順天堂、クラブ白粉、赤玉ポートワイン、味の素、ラクトーゲン、福助足袋などが入ってくる。これを見てもわかるとおり、広告主は大半はやはり化粧品、薬品であるが、日本郵船などが英文・写真入りで広告を出しているところを見ると、読者層はかなり高水準を想定していたように思われる[57]。(〔　〕内記述は筆者)

内川の調査によれば，『週刊朝日』と『サンデー毎日』は，広告の種類では化粧品や薬品，食品を扱う「婦人雑誌・大衆雑誌」系列であるが，広告に英文が掲載されるなどの点より，読者層は一般の主婦層というより,比較的高い学歴を持つ,知識層の人々が読者であったと考えられる．また，広告だけでなく，創刊当初の『週刊朝日』と『サンデー毎日』にはグレン・ショウ(尚紅蓮)の英文小説(「浪華の足」『週刊朝日』1924 年 6 月 29 日号掲載)や英文の記事(「有島武郎氏の死(英文)」『サンデー毎日』1923 年 7 月 22 日号掲載)等も記事も掲載されており，これらのことも，両誌が実際にどのような読者層をターゲットとしていたかを不明瞭にしている．両誌が大正末期に実用記事を満載して新たな読者層の拡大を狙っても，既に購読している読者にはあまり関心のない分野の記事であった可能性が高く，このことが『週刊朝日』と『サンデー毎日』の実用記事

56 内川芳美.日本広告発達史(上). 東京，電通, 1976.490P. p.228
57 内川芳美.日本広告発達史(上). 東京，電通, 1976.490P. p.232

の増加が，読者層の拡大に直接的に結びつかなかった要因であると考えられる．なお，これらの英文記事は『サンデー毎日』では昭和期にはいるとほとんど掲載されなくなったが，『週刊朝日』では日中戦争開戦前の 1936(昭和 11)年まで，グレン・ショウの英文小説のみが引き続き掲載された．

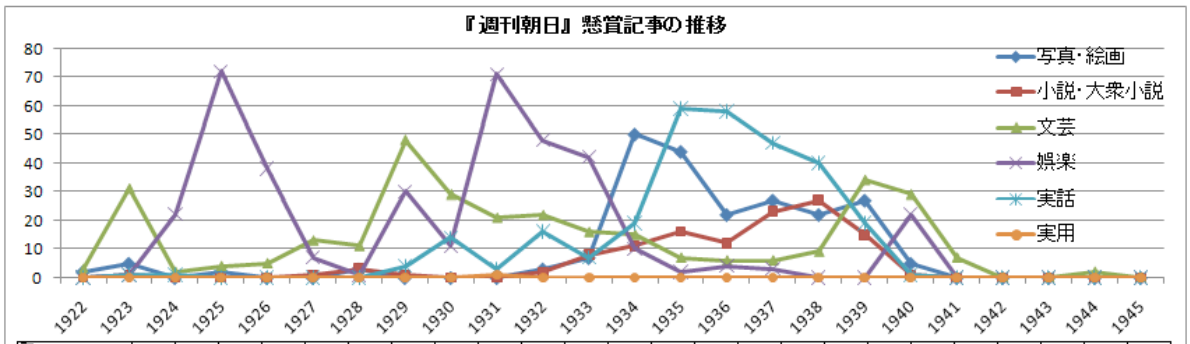
実用的婦人雑誌が見せた実用記事の需要は，大正末期の『週刊朝日』と『サンデー毎日』に「実用記事＝売れる要素」との考え方をもたらした．それによって両誌は大正末期に実用記事の割合を拡大し，新たな読者層を獲得し，下がり続ける発行部数の回復を狙ったが，結果としては実用記事によって両誌の読者層が拡大したり，発行部数が伸びたりしたという記録はない．しかし，創刊当初は社会的，政治的記事にも誌面を割いていた『週刊朝日』が，大正末期において実用記事を大幅に増加させたという事実は，週刊誌メディアが「消費」が可能な商品としての雑誌＝大衆雑誌へと進路を向けたことの表れであったということができる．

6.2 「読者参加型」の娯楽的要素

次に，娯楽的要素の一つであり，両誌で創刊当初より行われていた懸賞企画について見ていくこととする．懸賞記事全体の集計については表 4-1，4-2 の年ごとの分類別記事数の一覧表で確認することができるが，それによると，『週刊朝日』は 1923(大正 12)年と 1925(大正 14)年，『サンデー毎日』では 1925(大正 14)年に懸賞記事の数が急増している．その後ともに数を減らしたが，1929(昭和 4)年に再度急増し，『週刊朝日』は増減を繰り返しながら徐々に数を増やしていっている．『サンデー毎日』は 1930(昭和 5)年にやや減少したものの，1931(昭和 6)年から 1933(昭和 8)年までの 3 年間は増加の一途を辿っている．1941(昭和 16)年の太平洋戦争開戦以降は，両誌共に懸賞記事が極端に減少し，1945(昭和 20)年にはついに懸賞記事が誌面から姿を消している．これらの懸賞記事は，両誌の創刊直後より様々な種類のものが掲載されてきた．図 6-1，6-2 は通号(1945 年は除く)における両誌の懸賞記事を「写真・絵画」，「文芸」(童話，俳句，川柳，都々逸，脚本等)，「小説・大衆小説」，「娯楽」(クロスワードパズル，漫画，映画，スポーツ，将棋，コンテスト，「間違い探し」等)，「実話」，「実用」(料理，節約術等)，「その他」に分類し集計した結果と，項目別の推移を示したグラフ(「その他」は除く)である．

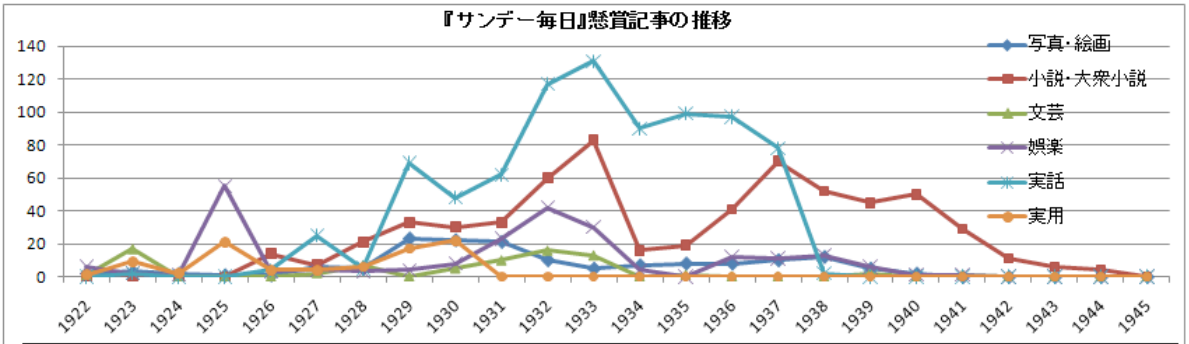
これらの表とグラフを見ると，『週刊朝日』と『サンデー毎日』ではそれぞれ掲載する懸賞記事の種類に異なる特徴があったことが分かる．『週刊朝日』では大正期から昭和初期にかけて，「娯楽」と「文芸」に関する懸賞記事が中心となっており，特に 1925(大正 14)年の「娯楽」の急激な増加が目立っている．1934(昭和 9)年頃より「写真・絵画」や「実話」の数が増え始め，同時に「小説・大衆小説」も徐々にではあるが増加傾向にある．

これに対し『サンデー毎日』では，大正から昭和初期はどの懸賞記事もそれほど数に違いが見られず，1925(大正 14)年に「娯楽」が飛びぬけて多くなっているが，1929(昭和 4)年に「文芸」の懸賞記事が増加を始めるまで，記事数に大きな差がなかった．「文芸」の懸賞が増加すると，ほぼ同時に「小説・大衆小説」の懸賞も増加し始め，この 2 つの懸賞記事は 1933(昭和 8)年にピークを迎えている．それ以降もほとんどの年でこの 2 つの懸賞記事が『サンデー毎日』の懸賞企画の中心を担っている．「文芸」は 1938(昭和 13)年よりほとんど掲載されなくなったが，「小説・大衆小説」の懸賞は，徐々に量を減らしつつも，終戦間際まで掲載され続けた．



分類＼年	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945
写真・絵画	2	5	0	2	0	0	3	0	0	0	3	7	50	44	22	27	22	27	5	0	0	0	0	0
小説・大衆小説	0	1	0	0	0	1	3	1	0	0	2	8	11	16	12	23	27	15	1	0	0	0	0	0
文芸	3	31	2	4	5	13	11	48	29	21	22	16	15	7	6	6	9	34	29	7	0	0	2	0
娯楽	0	1	22	72	38	7	1	30	11	71	48	42	10	2	4	3	0	0	22	0	0	0	0	0
実話	0	1	1	0	0	0	0	4	14	3	16	7	19	59	58	47	40	19	1	0	0	0	0	0
実用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	18	1	3	1	6	10	12	20	10	2	0	2	1	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0

図 6-1：『週刊朝日』懸賞記事の推移



分類＼年	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945
写真・絵画	2	3	2	1	1	6	5	23	22	21	10	5	7	8	8	10	12	5	2	0	0	0	0	0
小説・大衆小説	0	0	0	0	14	7	21	33	30	33	60	83	16	19	41	70	52	45	50	29	11	6	4	0
文芸	1	17	0	0	0	2	7	0	5	10	16	13	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0
娯楽	6	2	1	55	3	4	3	4	8	23	42	30	4	0	12	11	13	6	1	1	0	0	0	0
実話	0	2	0	0	4	25	5	69	48	62	117	131	90	99	97	78	2	0	0	0	0	0	0	0
実用	1	9	2	21	4	4	6	17	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	2	0	5	8	8	18	12	12	59	21	19	8	1	11	37	17	22	11	3	0	0	0	0

図 6-2：『サンデー毎日』懸賞記事の推移

両誌に共通して，1925(大正 14)年に「娯楽」の項目で記事数が増加しているが，これは，この年を中心にクロスワードパズルの懸賞が多数掲載されたためである．クロスワードパズルの懸賞は，『サンデー毎日』1925(大正 14)年 3 月 1 日号(4 巻 1 号)への登場が最初である．この企画の人気ぶりについて，野村尚吾は以下のように述べている．

新企画として、もう一つ注目されるのは、クロスワード・パズルの登場である。

いうまでもなく、クロスワード・パズルはアメリカで流行しはじめた「新しい考え方」の移入されたものである。『サンデー毎日』では大正十四年の三月から「嵌め字」として紹介されているが、懸賞募集になったのは、第五回の 4 月 5 日号からである。

新しい「知的遊戯」「頭脳スポーツ」として、これが爆発的な人気を呼ぶようになったので、誌面の扱い方も号を追って、大きなスペースをとるようになり、6 月 7 日号には大々的な募集となった。応募数四四、五八六通、そのうち正解は二九、八五二通とある(6 月 20 日号)。

だれもが手軽に参加でき、すこし頭をしぼれば、正解者になれる自己満足が、このように人

気を博した原因であろう。そのうえ、「特別大懸賞」には、放送を開始したラジオ(14 年 3 月)のセット、蓄音機、写真機を賞品にしたこともあり、いっそう人気をあおった。

7 月 19 日号で、クロスワード・パズルの初のコンテストを大阪で行なったとあり、次号の表紙に、そのコンテスト風景を載せている。ついに 8 月 2 日号では、クロスワード・パズルの問題そのものを掲げて表紙にするほど、熱狂的になっている[58]。

野村の述べる通り,『サンデー毎日』では 1925(大正 14)年 6 月 7 日号(4 巻 25 号)の巻頭に「クロス・ワード・パズル新題」と題した特集を組み,「一千名入選特別大懸賞問題」「クロス・ワードの解き方」「クロス・ワード練習問題」「クロス・ワード漫画」を掲載している．また，同年 6 月 28 日号(4 巻 28 号)には 7 月 19 日に実施されるクロスワードパズルの競技会(毎日新聞社主催)の広告を掲載したり，8 月 2 日号(4 巻 34 号)の表紙にクロスワードパズルの問題を掲載したりするなど，その熱狂ぶりを見ることができる．なお,『サンデー毎日』でのクロスワードパズルの懸賞は同年 12 月 27 日号(4 巻 56 号)まで続いた.

こうした過熱ぶりを受け,『週刊朝日』でも 1925(大正 14)年 7 月 5 日号(8 巻 2 号)で初めて「クロス・ワード・パヅル(懸賞課題)」を掲載した.『サンデー毎日』ほど熱狂的ではないにしろ，この年の懸賞企画は前年 9 月 28 日号(6 巻 14 号)から掲載されている漫画・漫文の懸賞とともに，ほぼ毎号にクロスワードパズルの問題が掲載された．なお,『週刊朝日』では『サンデー毎日』より少し早い 11 月 29 日号(8 巻 24 号)でクロスワードパズルの懸賞は終了している.

「娯楽」に関する懸賞は『週刊朝日』では 1931(昭和 6)年にも急増しているが，この年の懸賞はミス・コンテストの予想懸賞(「大懸賞一九三一年ミス・ニッポン」1 月 18 日号他)や美人コンテスト(「懸賞モダン・シンゴー」1 月 4 日号他)が多数掲載されたことが要因であるが，このことには，それまで和装に日本髪で家庭におさまっていた女性が，1920 年代後半から 1930 年代前半にかけて服装や髪形を変え，職場に進出したことで，「女性美」を競って表舞台に立つようになった当時の社会背景が表れているといえる.

次に,「小説・大衆小説」の項目を見ていくと,『サンデー毎日』でこの項目の記事数が 1931(昭和 6)年から 1932(昭和 7)年にかけて増加していることが分かる．『サンデー毎日』では懸賞に限らず大衆小説を多数掲載しているが，懸賞記事においても，この項目の総数 357 のうち 315 が大衆小説の懸賞であり，『サンデー毎日』における大衆小説の位置の重要性や読者の人気が読み取れる．『サンデー毎日』では 1925(大正 14)年 3 月 7 日号に初めて「千五百円懸賞　大衆文芸募集」の懸賞記事を掲載し，新講談，探偵小説，通俗小説等を募集した．この企画は太平洋戦争終結前年の 1944(昭和 19)年 6 月 4 日号まで続いた.

大衆小説と同様に，1932(昭和 7)年頃より『サンデー毎日』誌上で増加した懸賞記事に「実話」が挙げられる．『週刊朝日』でも実話懸賞は 1935(昭和 10)年に急増しており，両誌ともに「祖父母から聞いた話」(『サンデー毎日』1932 年 1 月 17 日号他)や「新版・男心女心」(『週刊朝日』1935 年 7 月 7 日号他)等，家族や男女関係といった身近なテーマの他，「この眼で見た怪奇」(『サンデー毎日』1932 年 6 月 26 日号他)や「私の大事件」(『週刊朝日』1935 年 1 月 1 日号他)等の物語的な興味を引かれるようなテーマなど，幅広く扱っている．実話懸賞はこのように毎回テーマを雑誌側が提示し，それに沿った体験談等を読者が投稿するものであるが，小説や川柳よりも気軽に読者が参加できる点，また，それを読む他の読者が共感しやすいという点で，娯楽的側面を強くするだけでなく，読者と雑誌の関係をより密接にする役割があったと見ることができる.

---

58 野村尚吾.週刊誌五十年.東京,毎日新聞社,1973.405P. p.55-56

この実話懸賞は『週刊朝日』は 1940(昭和 15)年 1 月 1 日号，『サンデー毎日』は 1938(昭和 13)年 10 月 2 日号まで掲載された．なお，実際に無名時代に『サンデー毎日』の懸賞小説に応募し，大衆小説『発狂』が 1926(大正 15)年 7 月 18 日号に掲載された角田喜久雄は，このことについて以下のように述べている．

入選したときは、私は東京高等工芸(現千葉大工学部)の学生でしたが、執筆したのはこの学校にはいる前の浪人中のことです。府立三中の五年のとき、関東大震災があって、家も学校も丸焼けになってしまったので、やむなく浪人していたのです。中学三年のころから、推理小説を書きはじめて『新青年』の常連になっていましたが、なにしろ枚数がごく少なくて欲求不満気味でした。長いものを書いてみたくてしかたなかったのです。そんなとき『サンデー毎日』誌上の募集要項をみたので、甲類の方に応募した。

作品のヒントになったのは、印刷屋をしていた父にきいた話で、夫が小作人で、織屋へ働きに行っていた妻が主人にてごめにされて妊娠し、夫は自殺、妻は発狂す。成人した子供がやがて復讐を企てたという実話です。(中略)

このときの賞金五百円は、なにしろ大金でした。夏休みに大勢仲間の学生を連れて房州へ遊びに行ったがだいぶ残っており、母を京都へ旅行させ、時計を買ったうえで、銀座で盛大に打上げをやりました[59]。

『サンデー毎日』や『週刊朝日』の懸賞小説企画は，角田喜久雄のように小説家を目指す青年の「欲求不満」の解消の場となり，入選して掲載されたという満足感と，高額な懸賞金を手にする喜びを提供することとなった．角田が『発狂』を執筆する際に参考にしたスキャンダラスな実話は，「自殺」や「復讐」といったゴシップ記事的要素を含んでおり，一般大衆の興味や関心を引く主題が「身近な悲劇」であったこともうかがわせる．「実話」の懸賞記事については先にも触れたが，角田の小説のモデルとなったような話が募集時のテーマとなることが多く，「実話」懸賞が大衆小説と同様に，身近にある悲劇や問題を取り上げることにより，一般大衆と雑誌との距離を縮めようとした意図が窺える．

これらの懸賞記事に共通する特徴は，「読者参加型」という点である．クロスワードパズルや間違い探し，ミス・コンテストの投票，懸賞小説は，いずれも読者をただの「読み手」や「受け手」から，雑誌の企画に参加し，雑誌作りの一部を担う「作り手」や「構成員」の立場へと押し上げる役割がある．読者が懸賞企画に参加する背景には当然懸賞金のこともあるが，クロスワードパズルや間違い探し等には謎解きの「面白さ」が，ミス・コンテスト等の投票企画には他の見知らぬ読者との共感を通した「コミュニケーション」がある．そして懸賞小説には，一読者から一表現者へと変化することによる「主張の場」が与えられる．クロスワードパズルには多少の知識やひらめきが必要とされるが，基本的に生活に密着したものや誰もが知っている事柄，ことわざ等が回答であり，大人も子供も，男性も女性も楽しめる内容である．ミス・コンテストの投票は，自分の好みや仲間内での意見を基準に一票を投じ，その集計結果に共感したり，反論を持ったりするという，比較的安易に楽しめる企画である．そして大衆小説の懸賞には，身近な事柄やスキャンダラスな実話をもとに構成された「興味を引く」内容の文学作品によって，読者の視点や体験を誌上に持ち込み，作者に主張や表現欲を満たす場を提供しただけでなく，新しい視点での娯楽的読み物を他の読者に提供する役割を果たした．こうした読者の「体験」が誌上で他の読者と

59 野村尚吾.週刊誌五十年.東京,毎日新聞社,1973.405P. p.61-62

共有され，読者と雑誌の距離を縮める役割を果たしたのは，同じく「実話」懸賞にも言えることである．

6.3　社会的記事における娯楽的要素

週刊誌の特性について，実用記事という「売れる」要素を前面に押し出す傾向がある点は 6 章 6.1 で述べた通りであるが，この「売れる」という要素が必ずしも雑誌の「大衆性」を指し示すとは言い切れない．週刊誌メディアに見られる一般的な性質として，戦後の週刊誌メディア(『週刊朝日』『サンデー毎日』『週刊サンケイ』『週刊読売』『週刊新潮』等)を対象に内容と形式の両面からの分析を行った『週刊誌―その新しい知識形態』(三一書房,1958)では，週刊誌の記事の取り扱い方の特徴として，“ヒューマン・インタレスト(Human Interest)”[60]を挙げている．ヒューマン・インタレストとは言葉の通り人間的興味という意味であるが，雑誌記事におけるヒューマン・インタレストには，主題そのものが関心を引く場合と，記事の構成によって関心を引くものとがある．主題におけるヒューマン・インタレストとは，関東大震災や満州事変等の社会的大事件であり，その際に重要となるのは事件や問題の全貌を分かりやすく解説することである．また，ゴシップ記事やスキャンダル記事も事件そのものが人々の関心を引くという点で，ヒューマン・インタレストを含む主題であるということができる．一方，記事の構成によるヒューマン・インタレストとは，ニュースを記事にする上で，記事に登場する人物に焦点を当て，人物像や家族構成，ゴシップを加えてニュース・ストーリーを構成することである．この特徴は，幅広い読者の関心事を誰にでも分かりやすく，かつ面白く読ませるという点から，雑誌の「大衆性」と深い関係があると考えられる．

この 2 つのヒューマン・インタレストの類型について両誌の目録を見ていくと，社会的事件を扱う記事にも「解説」や「評論」「所感」「体験記」等様々な種類があり，それぞれの記事には読者へ与える影響という面で，それぞれ異なる役割があることが分かる．一例として，関東大震災関連の記事を抽出し，分類した．関東大震災関連の記事の数自体は決して多くはないが，社会的事件に関する記事の種別の役割と，それを掲載する週刊誌の狙いが読み取れる．図 6-3，6-4 は両誌の関東大震災に関する記事を「解説・評論」「ルポルタージュ」「所感・体験記」「実用関連」「娯楽関連」「文芸関連」「その他」に分類し，集計したものである．

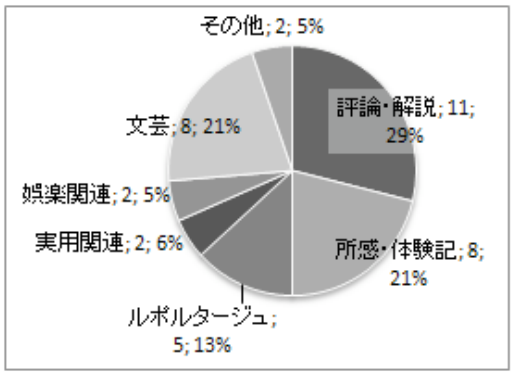


図 6-3：『週刊朝日』震災記事の内訳

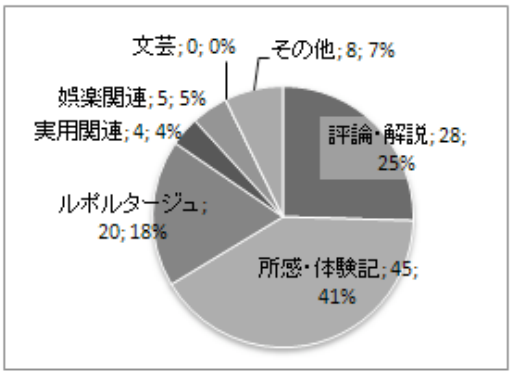


図 6-4：『サンデー毎日』震災記事の内訳

[60] 週刊誌研究会編.週刊誌:その新しい知識形態.東京,三一書房,1958.261P. p.135

両誌に共通しているのは「解説・評論」「ルポルタージュ」「所感・体験記」が中心となっている点である．専門家による解説記事や評論は，震災に関する専門知識や原因，今後の展望等を読者へ分かりやすく伝える役割がある．震災後の東京の様子を文字や写真で表現する「ルポルタージュ」には，震災の凄まじさと被害の甚大さを伝える役割がある．この 2 種類の記事には，主題そのものを「分かりやすく」説明することで，読者の関心をさらに高めようとする効果があると考えられる．そして「所感・体験記」には，実際に震災を経験し何らかの被害にあった人物の衝撃や悲しみを，読者に「直接的」に伝える役割があると同時に，人物に焦点を当てることで「物語性」の高い記事構成とし，読者の心をとらえる効果があると考えられる．

これらの点に留意しつつ関東大震災関連記事を追っていくと，『週刊朝日』は関東大震災直後の 9 月 9 日号で，巻頭に「足柄山中街道の亀裂」と題した写真を 1 ページ全面に掲載した他，松山基範(地球物理学者)の「地震研究者の二方面」や，志田順(地球物理学者)の「地震は地殻の革命である」等地震に関する解説記事を掲載した．また，巻末の「大震災画報」では，倒壊した家屋や避難する人々の写真を掲載している．翌週の 9 月 16 日号も引き続き松山(「震源調査の途中から」)と志田(「震源地の測定」)の解説記事の他，藤田元春(地理学者)の「富士火山帯と地震」が掲載され，写真も巻頭に「避難を急ぐ数万の人」「避難　捜索　救済」と題して見開き 1 ページ分に掲載されている．また，震災後の津波で命を落とした厨川白村への追悼記事「逝ける白村博士」や，震災後の社会の混乱を伝える「暴利取締令と流言浮説取締令」も掲載された．9 月 23 日号ではこうした解説記事や写真に加え，「コドモのページ」と題した少年少女読者を対象とするコーナーに服部亮英の漫画「震災後日譚」を掲載し，続く 9 月 30 日号にも山田みのるの漫画「大震災悲喜劇」が掲載された．しかし，震災から 1 ヶ月が経過した 10 月 10 日増刊号からはすでに震災に関連する記事は掲載されておらず，その後は震災直後に虐殺された大杉栄の事件に関する記事(「大杉栄殺害事件公判」10 月 14 日号，賀川豊彦「暴力の無能(甘粕事件批判)」横田やす「思想上から(甘粕事件批判)」10 月 21 日号，三宅雪嶺「甘粕事件批判」10 月 28 日号)が掲載されただけで，11 月以降の誌面からは大震災の記事も，甘粕事件の記事も見ることはできない．

一方『サンデー毎日』でも 9 月 9 日号の巻頭に特集「戦慄すべき大地震」として下野信之(気象学者)の「大地震の原因は世界地震帯の陥没である」や野上俊夫(理学博士)の「地震に周期なし」等，地震に関する解説記事を 12 ページに渡って掲載した．また，毎日新聞社社員が語る地震発生時の様子(「大地震当夜の大阪毎日新聞社」)や地震の歴史(「日本における大地震(有史来今日迄の年表)」)の他，巻頭写真として煙を上げる東京の街並みや倒壊した民家の写真(「有史以来の大惨禍」)も掲載している．9 月 16 日号では前田光男(大阪毎日新聞記者)による上京手記「死の都東京を訪れて」や大野木繁太郎(大阪毎日新聞社特派員)の「第一報を大阪へ齎すまで」等，記者が東京の惨状を語った他，震災被害者の遺族による「妻と子を掘る記」(九里四郎)や，今井貫一(大阪府立図書館長)の手記「焼かれた七十万巻」，新村出(京大教授)の「東大図書館の消失と被害」，片山孤村(京大教授)の「震災とわが文芸」等，震災被害の目線を直接的な被災者以外に，図書館等の公共物の被害にも向けている様子が分かる．

翌週の 9 月 23 日号になると河田嗣郎(東大法学博士)の「経済学から観た東京の復興」，小川市太郎(法学士)の「帝都の再興と東京の復活」など「復興」をキーワードに掲げ，その他 8 名の学者の見解や馬場孤蝶の手記「震火の記」を掲載した．震災関連の記事は 11 月になるとほとんど掲載されなくなるが，『サンデー毎日』では 1 年後の 1924(大正 13)年 9 月 7 日号を「震災一周年帝都復興号」と題して発行し，震災時の思い出を毎日新聞社の記者が綴った「震災一周年」や，復興した「新しい東京」を「化粧」や「美容術」によって表現した記事「美容術とお化粧の新帝

都」の他，震災被害者の談話を集めた「震災哀話」として「妻や夫を失つた話」「夫婦が出来た話」等を掲載した．

図 6-3，6-4 のグラフを見ると，両誌ともに「ルポルタージュ」「評論・解説」で半数以上を占めており，『週刊朝日』のほうが「ルポルタージュ」の比率が高く，『サンデー毎日』では逆に「評論・解説」の比率が高い．「ルポルタージュ」は震災による被害や都市復興計画の進捗状況を伝えるものであり，「評論・解説」は専門家による地震の発生原因や，震災が社会に与える影響についての解説や評論が中心となっている．そしてこれらの様々な種類の震災関連記事は，震災発生からの時間軸に沿って見ていくと，震災により近い日付ほど「解説」や「ルポルタージュ」，「写真」が多く，離れるほど「体験談」や「関連情報」が増加していることが分かる．

『週刊誌:その新しい知識形態』では，専門家による解説記事や評論の掲載は，主題の「解説性」と報道の「ダイジェスト性」を重視する週刊誌においては，“ヒューマン・インタレスト”の一要素であると述べている．

> 高度に専門分化した今日の社会にあっては、その社会のあらゆる事象に通じるということは、不可能なことである。そこで、各々の専門家は、それぞれ自分の専門分野のことを、わかりやすく、通俗化して、大衆に伝えることが必要になってくる。一方、一般大衆は、こうしたあらゆる分野のダイジェスト的知識をもって、社会生活のいろいろな側面において、支障なく適応するということになる。(中略)
>
> 〔週刊誌に専門家が多く登場する理由は〕結論からいえば、権威づけによる威光効果を持つ。専門家の持つ権威は、一般大衆の、とうていうかがい知ることはできそうもないという無力感にもとづいている。人は、自分自身で、ことの真偽を確め、当否の判断を下すことのできない状態にある時、権威あるものにすがって、自分の意見や態度を決定しようとする[61]。(〔　〕内記述，下線筆者)

グラフでも示した通り，『週刊朝日』と『サンデー毎日』は震災直後の誌面に地球物理学者や理学博士等の専門家の解説記事を多く掲載しているが，このことには，単に読者へ地震の原因や影響について解説するだけでなく，下線部にあるような読者の「依存」や，雑誌に対する信頼度を高めようとする狙いがあったと見ることができる．そして震災から時間が経過してから記事数が増加した「体験談」については，同書では以下のような見解が示されている．

> それ〔ヒューマン・インタレストの類型〕は、犯罪や災害や社交といった、センセーショナルな主題のもののみにいえることでなく、政治、経済、科学などの、いわゆる“カタイ”記事にも、浸透して行くものである。だから、ヒューマン・インタレストとは、政治も経済も社会現象も、それを記事としてとり上げる際、ひとつの冷い客観的な事象として記述するより、その中に登場する人物をとおして、あるいは、人物そのものに焦点を当て、とくに、その私生活面や人間としての喜怒哀楽に触れることによって、いわば、その記事を血の通った、温かいものにし、読者の心をとらえようとするテクニックであるといえる[62]。

---

61 週刊誌研究会編.週刊誌:その新しい知識形態.東京,三一書房,1958.261P. p.147-148

62 週刊誌研究会編.週刊誌:その新しい知識形態.東京,三一書房,1958.261P. p.136

関東大震災は主題自体がセンセーショナルであり，ヒューマン・インタレストの類型であるといえるが，そこにさらに「登場人物」という要素を加えることで，記事をより読者の共感の得やすい，同情心を駆り立てるものへと変質させられると見ることができる．そのことがよく表れているのが，地震発生から家屋の倒壊，そして子供を失った体験を記した九里四郎(洋画家)の「妻と子を掘る記」(『サンデー毎日』1923 年 9 月 16 日号)である．以下に一部を引用する．

怖ろしい音響をたてゝ、私の家が倒れました。私の頭のなかをサツと妻の姿が―さつき地震だ！といつて私が庭へ飛び下りた時、奥座敷に寝かしておいた赤ん坊を抱きに立つたらしい妻の後姿が―通り過ぎました。今までなんだつて考へてもみなかつたらう、自分と三人の子供の目前の危害にだけ心を奪はれてゐた私は、妻のことを考へて慄然としました、なんといつたらいゝか、私は夢中になつて飛び上つて、そして全く壊れた家の側に駆けよりました、そしてそれが可能であるか、ないか、そんなことを考へる余裕もなく、側に転げてゐた小さな丸太をとつて、屋根瓦を壊し始めたのです。私は妻を倒壊した家の下から掘り出さうとしたのです。それがなんになりませう、私は妻の名を大声に呼びました。そしてぢつと耳をすましてゐたら、赤ん坊の泣き声でも聞えてくるかと思ひました。何度繰り返したことでせう。しかし何物ともしれない―今から思へば群集の上げる叫喚だつたのでせう―どこからともなく聞えて来る叫喚の外答へるものがなかつた。私は、妻を、恐らく家の下敷になつて死んだであらう、妻と赤ん坊のことを思ふと、自分で手を下したことではないが、しかしそれに似た、一種の自責のおもひにとりつかれて、呼吸苦しくなるやうな罪悪感に責められました。

ルポルタージュや解説記事は読者に震災の影響や今後の展望といった「社会的事実」を伝えることはできるが，「生身の人間」が感じた恐怖や悲哀は，体験記でしか伝えることのできない「物語的事実」である．上記の引用記事からは，洋画家の九里四郎が体験した恐怖や悲哀を，詳細な状況説明と，体験記に登場する「九里四郎」という人物を通して，読者の心をとらえようとする試みを読み取ることができる．

この，人物へ焦点を当てる手法は，両誌に多く掲載されているゴシップ記事にも見られることである．ゴシップ記事は中心となる人物の人間性に焦点を当て，スキャンダルや噂話を物語調に構成した記事であり，主題そのもの，あるいは記事の構成によって人々の関心を引く記事の代表的な類型であるといえる．『週刊朝日』と『サンデー毎日』でもタイトルに「ゴシップ」や「噂話」という用語が用いられた記事や，俳優や政治家，スポーツ選手等の私生活やスキャンダルについて書かれたものは 1922(大正 11)年から 1936(昭和 11)年の間で，『週刊朝日』は 651，『サンデー毎日』は 770 を数える．これらのゴシップ記事は必ずしもスポーツや映画等の娯楽的な主題を扱うものだけでなく，政治や文芸等を主題にしたものも多く見られる．その一例として，『週刊朝日』1930(昭和 5)年 6 月 8 日号掲載の，ロンドン軍縮会議(同年 1 月)に関する記事(「政界ゴシップ」)より一部を引用する．

今度の軍部のゴタゴタで、貫禄を問はれたものに山本権兵衛伯がある。一ころは薩派の海軍といひ、薩派といへば山本権兵衛伯の異名のやうにいはれてゐたが麒麟も老ゆれば駑馬に劣るとはよくいつたものだ。

もつとも軍縮全権を買つて出て、ロンドンでも東京でも問題を起した財部海相が自分の女婿といふところから、今度の場合は受身の方で、まさか自分の女婿がやつたことにケチをつける

訳にもゆかず行為の沈黙を守つたのであらう。だが、あれほど加藤軍令部長が猛り立つたのも、一昔か二昔前なら、到底出来ぬ芸当であつた、それだけ伯が老いぼれたのである。

山本権兵衛伯は、自分で消防役に立つわけには行かぬので、誰か加藤と財部の調停役を引きうけてくれるものはないかと物色した揚句、現役で海軍部内に押しの利くのは、前海相で軍事参議官の岡田啓介君がよからうといふことになり、岡田大将が山本伯を訪ふた時、『今後の海軍を背負つて立つものは君以外にはない、シツカリやつて問題を片づけて呉れ』とオダてあげた。山本伯から折紙をつけられた岡田大将は、スツカリいゝ気持ちになり、加藤軍令部長と財部海相の間を飛びまはつて調停斡旋につとめたわけである。

上記の記事はロンドン軍縮会議で若槻礼次郎首席全権とともにロンドンへ渡った財部彪海軍大臣が条約を締結させたことが，帰国後に統帥権干渉問題に発展したことについて書かれている．軍縮会議での条約締結と統帥権干渉問題については同年 5 月 11 日号の「統帥権問題とは何か」(関口泰)や，5 月 25 日号掲載の「財部全権帰る」(T.H.S)等で解説を行っているが，この記事は，財部の義父であり海軍の重鎮であった山本権兵衛と，娘婿である財部，さらには財部と行動を共にした加藤寛治軍令部長に焦点を当て，それぞれの発言や行動から思惑を推測した構成となっている．この記事は，ロンドン軍縮条約は統帥権の侵害であるとの『週刊朝日』の見解を山本と財部の義理の親子関係と政策との間にある矛盾にからめて記事にすることで，難解な軍縮問題や統帥権干渉問題を「分かりやすく面白い」ものとして読者に伝えるという点で，ヒューマン・インタレストの典型的な例であるといえる．

以上のように，『週刊朝日』と『サンデー毎日』は政治や社会的事件等の「硬い」記事においても，“人物そのものに焦点を当て，とくに，その私生活面や人間としての喜怒哀楽に触れることによって，いわば，その記事を血の通った，温かいものにし，読者の心をとらえようとする”試みがなされており，このことより，「売れる」要素以外にも，「分かりやすい」「面白い」という要素が両誌において重要視されていたということができる．

6.4　女性関連記事の役割

次に，週刊誌メディアが大正末期から昭和初期にかけて実用記事満載の婦人雑誌をモデルに，女性向けの記事を取り入れることで「大衆化」を図った経緯より，『週刊朝日』と『サンデー毎日』における女性関連記事に着目することとした．

女性関連記事は表 3-1 の分類では特定の項目を設けていないため，通号の目録より家事や育児，美容等の女性向けの記事や，参政権や母性保護，教育を論じた評論，職業等の社会生活，家庭小説等の女性に関連する記事を抜き出し，それらの記事を「政治・社会・評論」，「人物」，「家庭」(料理，衣服，衛生，家計等)，「美容・医学」(化粧，美容術，髪型，家庭医学等)，「学校・教育」，「文芸」(小説，漫画，演芸，書評等)，「娯楽」(映画，スポーツ，漫画等)，「実話」，「職業」(職業紹介，職業婦人等)，「その他」(美術，写真・絵画等)を設けた．以下の図 6-5，6-6 は，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の記事の分類別数をグラフに表したものである．

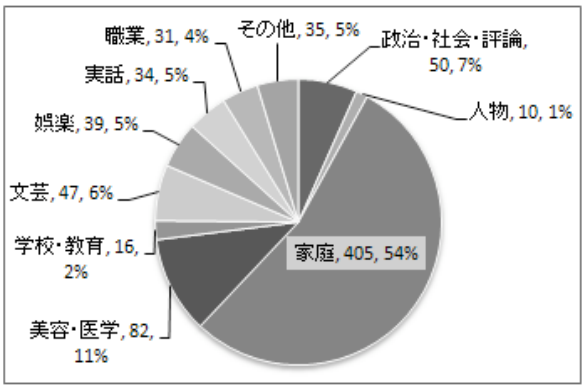


図 6-5：『週刊朝日』女性関連記事の内訳

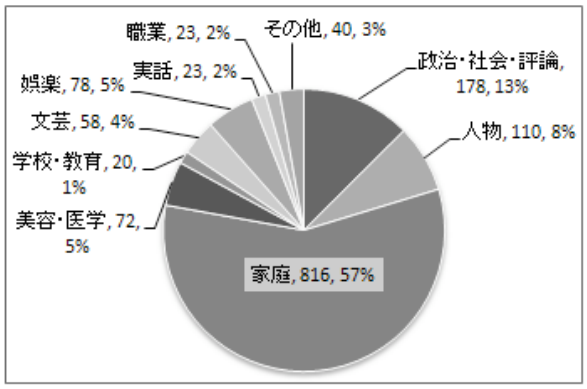


図 6-6：『サンデー毎日』女性関連記事の内訳

両誌に共通しているのは，「家庭」のジャンルに属する記事が最も多い点である．特に『サンデー毎日』の「家庭」関連記事が 816 と群を抜いているが，この中には連載記事「婦人日記」(1924(大正 13)年 9 月 28 日号～1925(大正 14)年 10 月 25 日号，全 49 回)と「婦人のページ」(1924(大正 13)年 10 月 12 日号～1926(大正 15)年 7 月 25 日号，全 75 回)，「婦人と家庭のページ」(1926(大正 15)年 9 月 26 日号～1928(昭和 3)年 5 月 27 日号，全 69 回)が含まれている．しかし，3 つの連載の合計 193 件分を差し引いても「家庭」関連記事は 623 件と非常に多くなっている．

その他では『サンデー毎日』が「人物」にスポットを当てた記事が 110 件あり，中でも 1930(昭和 5)年 1 月 5 日号から 1931(昭和 6)年 1 月 5 日号まで掲載された連載記事「女人人国記」(虞美人草)は，長谷川時雨や宮本百合子，平塚らいてう，神近市子，川上貞奴，三浦環，市川房枝といった，文壇人から女優，評論家，運動家等様々な女性にスポットをあて，彼女らの思想や活動を紹介している．また，『週刊朝日』では連載記事は比較的少なく，最も長いもので 1924(大正 13)年 6 月 29 日号から同年 12 月 28 日号に掲載された「子供服の裁ち方(誌上講座)」(山下盛也)があるが，その他では料理に関する記事が数多く掲載されている．

料理や裁縫，美容等の女性向け実用記事の掲載は，当時女性誌の先駆的存在であった『主婦之友』や『婦人倶楽部』ですでに実施されており，両誌は実用記事満載の方針で『キング』創刊以前の雑誌界でも上位の発行部数を誇っていた．しかし一方で，明治中期から大正初期に誕生した『女学世界』や『婦人世界』，『青鞜』等の女性啓蒙誌の流れは，女性解放主義と良妻賢母主義とで主張は異なれど，女性に対し何らかの「意識改革」を求めるという意味で，『婦人公論』に受け継がれていた．『婦人公論』は『主婦之友』や『婦人倶楽部』とは異なる読者層を持ち，女性啓蒙誌としては比較的高い人気を誇っていたが，それには『婦人公論』が明治中期から末期にかけて起こった廃娼運動や，女性労働者の労働環境改善運動，婦人参政権運動等を主題として取り上げる数少ない雑誌であったことがある．そして，『婦人公論』に多くの記事を執筆した評論家や文学者の名前は，大正末期の『週刊朝日』と『サンデー毎日』でも見ることができる．具体的には，山田わか(運動家，評論家)や，奥むめお(運動家)，山川菊栄(評論家)，平林初之輔(評論家)，尾崎行雄(評論家)等が挙げられる．これらの執筆者の中には山川菊栄のように社会主義思想を前面に押し出した人物も含まれているが，これらの人物の記事が『週刊朝日』と『サンデー毎日』ではどのような役割にあったのかを実際の記事内容から見ていくこととする．

ここでは，山田わかが執筆し，『サンデー毎日』1923(大正 12)年 2 月 4 日号と 2 月 11 日号に掲載された「日本における婦人問題と運動」に注目したい．この評論は，女性運動家で母性保護論

者である山田わかが，平塚らいてう，与謝野晶子，嘉悦孝子(教育家)，山川菊栄らによって展開された「婦人論」の全体像を分かりやすく説明したものである．

平塚や与謝野，山川によって展開された「婦人論」とは，具体的には『婦人公論』誌上で 1918(大正 7)年 3 月号から 9 月号にかけて掲載された，三者による「母性保護論争」等を指す．概要を簡潔にまとめると，以下のようになる．

議論の争点となったのは，スウェーデンの女性思想家エレン・ケイが唱えた，妊娠・出産期の女性は国家によって保護されるべき，とする主張が，「女性解放」の妨げになるか否かという点である．与謝野晶子は 3 月号掲載の「女子の徹底した独立」と題した評論でこの主張を支配者が男性から国家にすり替えられただけである，と批判的な見方をし，嘉悦孝子もこれに賛同した．これに対して平塚らいてうが 5 月号の「与謝野、嘉悦二氏へ」で，現状の女子労働の環境の悪さ，そして私生児問題に対する欧州の女性解放運動を引き合いに出し，与謝野晶子の提唱する「女子の徹底した独立」がいかに実現困難な空想論であるかを説き，反論した．この三者の議論に，資本主義社会の下では両者の理想は実現不可能，まずは社会主義国家の確立が急務であると主張する山川菊栄が加わり，9 月号まで論争は続けられた．

母性保護の問題は家庭における女性の地位を向上させるという観点から，大正期の女性解放運動の一つの大きなテーマであったが，こうした議論の概要を紹介し，さらには日本の女性解放運動がいかなる状況に置かれているかを説明したのが，山田わかの「日本における婦人問題と運動」である．以下に一部を引用する．

> いづれにしろ、今日においては、婦人の位置は徐々と向上しつゝあります。男子の圧迫及び因習の重荷が婦人の肩から全然取り去られるのはまだまだ前途遼遠であるとしても、とにかく、婦人の自由は日に月に其の範囲を拡大しつゝあります。(中略)
>
> 結婚をしそこなつた昔の女はみじめなものでありました。まるで不具者か低能者のように世間からは目される恥を忍び、其の上に、一生涯、人のなさけで生活して行かなければならないといふ憐れな状態にあつたものですが、現代においては、婦人は自己の意思によつて、自己に適した道を選んで歩むことが出来ますし、世間もまたそれを別に怪しみもしないようになつてゐます。ですから『人間生まれて婦人となるなかれ、一生の苦楽他人による』といふ言葉は今はもう廃語となつてしまひました。そして、これが全体としての婦人の意を非常に強くしてゐます。

山田わかは『婦人公論』以外にも『婦人世界』や『改造』等に女性解放運動に関する評論を執筆しているが，『サンデー毎日』では主義や思想を前面に押し出すのではなく，読者に女性解放運動の現状を「分かりやすく」説明する記事がほとんどである．山田が『週刊朝日』1923(大正 12)年 11 月 4 日号に執筆した「婦人参政論の立場」もまた，女性が選挙に参加することの重要性を「女性の生活の擁護」を主眼に置き，解説を行っている．その他では，山川菊栄の「婦人労働組合運動」(『サンデー毎日』1922 年 6 月 4 日号)や平林初之輔の「婦人同盟罷業」(『サンデー毎日』1922 年 9 月 24 日号)も，山田わかの「分かりやすさ」と比べると多少難解な表現はあるものの，問題の全貌や概要を解説する，という目的で書かれている点が共通している．

『週刊朝日』と『サンデー毎日』における女性関連記事は，大部分が実用記事で占められているが，労働や婦人参政権，母性保護論等の問題に関しては，雑誌としての主義や思想よりも，物事を「分かりやすく解説する」という点に主眼が置かれていることが分かった．山田わかや平塚

らいてう，山川菊栄ら評論家の記事は，実際には一般大衆の女性にはまだ難解で，ある程度知識のある一部の人々にしか理解の出来ないものであった可能性は低くない．しかし,『婦人公論』等の啓蒙的婦人雑誌の記事と比較すると,『週刊朝日』や『サンデー毎日』における女性向けの評論記事は非常にかみくだいたものであり，一般大衆の女性にも女性に関する社会問題を「理解させよう」とする様子が伝わってくる．この点からは, 実際に生活に活用できる実用記事とは異なり，教養や問題意識の提起といった意味で，女性の“為になる”雑誌であろうとした姿勢を見ることができる．

6.5　大衆小説の役割

『週刊朝日』と『サンデー毎日』の目録データの集計結果からは，両誌に共通して文芸記事が多いが，この要因として，大正初期に誕生した大衆小説が多く掲載されたことが挙げられる．

「大衆文芸」あるいは「大衆文学」という言葉が一般的に通用するようになったのは，1920年代半ば，関東大震災以降の事である．中谷博(『大衆文学』桃源社,1973)や尾崎秀樹(『大衆文学の歴史(上)戦前編』講談社,1989)，セシル・サカイ(『日本の大衆文学』平凡社,1997)らは，大衆文学は明治期の歴史小説や通俗小説，話芸の活字化である講談や人情噺より誕生した新講談を起源とし，中里介山の「大菩薩峠」(『都新聞』『大阪毎日新聞』他，1913-1941)の誕生により，大衆文学が文学における一つのジャンルとして出発点に立ち,『大菩薩峠』以降，岡本綺堂や久米正雄，菊池寛らが生み出した時代小説や通俗小説が 1920 年代半ばの大衆小説形成の歩みとなった，と述べている．この文学の「大衆化」という現象は，講談師の話を速記によって文章にした「書き講談」が，明治末期に「講談本」として立川文庫より出版され人気を博したことと，日清・日露戦争を経て新聞がマスメディアへと発展したこと，さらには大正期における民衆娯楽の発展が重なり合って起こったものである.「大衆文芸」の源流であるとされる書き講談が新聞に掲載されたり，単行本として発行されるようになると，仕事を奪われた講談師達が出版社や新聞社に抗議した．このことに端を発して，講談師の話を速記したものではなく，全く新しいストーリーを考えて作られたものが,『講談雑誌』1920(大正 9)年 1 月号に掲載された白井喬二の「怪建築十二段返し」を初めとする「新講談」であった.『週刊朝日』や『サンデー毎日』でも，大正末期はまだ「大衆文芸」や「大衆小説」ではなく,「新講談」の用語が用いられており，1925(大正 14)年から『サンデー毎日』に連載された白井喬二の「新撰組」も，角書は「新講談」であった．

これら「新講談」は講談を源流としていることより時代物が中心であったが，江戸時代を舞台に捕物や忍者物などで主人公の活躍を描く構成は，もともと一般大衆の読み物として親しまれてきた背景があった．さらに，尾崎紅葉の「金色夜叉」(『読売新聞』1897～1902 年)や徳富蘇峰の「不如帰」(『国民新聞』1898～1899 年)によって新聞に連載される小説の人気の下地があったことや,『講談倶楽部』等の講談雑誌が「新講談」を中心に掲載し始めたこと，1920(大正 5)年の『新青年』創刊によって,「新講談」が一般大衆の読物として提供される場が新たに誕生したことなどによって，大衆小説は一つの文学のジャンルとして確立していった．また，明治中期より黒岩涙香の『萬朝報』に翻訳・掲載されたデュマの「巌窟王」(1901～1902 年)に代表される探偵小説も，一般大衆の娯楽的読み物として,「新講談」とともに『新青年』へと活躍の場を拡大し，人々の人気を得ていった．

大衆小説が新しい文学として定着するとほぼ同時に誕生した『週刊朝日』と『サンデー毎日』

でも，新講談や探偵小説，時代小説，通俗小説等の“一般的に大量生産され，大量伝達，大量消費される商品的文学”[63]，いわゆる「大衆小説」と称される文学作品を数多く掲載している．図 6-7，6-8 は両誌の文芸記事中の大衆小説の割合を示すものである．なお，「大衆小説」や「小説」「文芸」等の各項目の内訳は，表 3-1 で示す通りである．

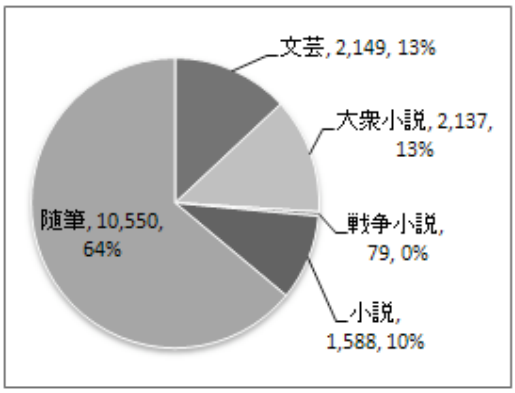


図 6-7：『週刊朝日』文芸記事の内訳

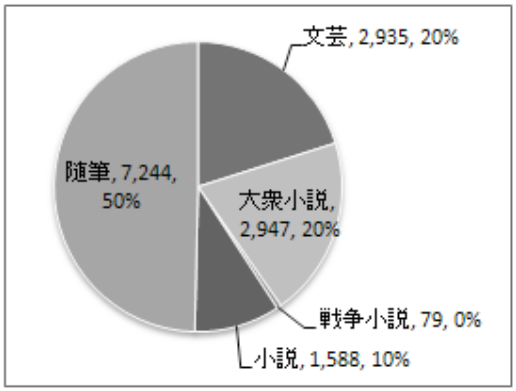


図 6-8：『サンデー毎日』文芸記事の内訳

所感やルポルタージュを含む「随筆」や俳句，詩，童話等を含む「文芸」の数値が高いのは，この 2 項目にそれぞれ含まれる記事の種類が比較的幅広いためであり，小説に限定して集計した他の項目との単純な比較により，小説が少ないと見ることはできない．そのことよりむしろ，両誌ともに「大衆小説」が「小説」よりも多く掲載された点や，特に『サンデー毎日』における大衆小説の掲載数の多さからも，両誌の文芸記事における大衆小説への比重の高さを示している．

大正末期から昭和初期にかけての大衆小説の人気ぶりは，文芸欄に大衆小説を主体とする雑誌の多さからも読み取ることができる．特に講談社の発行する 9 つの雑誌『雄弁』(1910 年)，『講談倶楽部』(1911 年)，『少年倶楽部』(1914 年)，『面白倶楽部』(1916 年)，『婦人クラブ』(1920 年)，『現代』(1920 年)，『少女倶楽部』(1923 年)，『キング』(1925 年)，『幼年倶楽部』(1926 年)で，1931(昭和 6)年には定期刊行物の総発行部数の 80%を占めるなど，大衆小説は一般大衆に向けた雑誌には必要不可欠な要素となっていた[64]．『週刊朝日』と『サンデー毎日』でも，大衆小説は創刊年より「探偵小説」や「講談」，「新講談」という名称で掲載されており，初めて「大衆小説」の名称が冠せられたのは『週刊朝日』が 1927(昭和 2)年 5 月 28 日号(木蘇毅『和蘭陀お玉』)，『サンデー毎日』が 1926(大正 15)年 7 月 1 日「小説と講談」号(小鹿進『双龍』)である．なお，『サンデー毎日』では懸賞小説の募集に際して 1925(大正 14)年 3 月 7 日号に「大衆文芸」の名称を初めて使用しているが，小説にこの用語が冠せられたのはその翌年であった．

大衆小説に関しては，名称の使用頻度や掲載数，特集号のタイトルからも，『サンデー毎日』の方が『週刊朝日』よりも積極的である．『サンデー毎日』が『週刊朝日』に先立って大衆小説を取り入れるようになった背景には，「小説と講談号」等の特集号の売れ行きが良かったこともあるが，1924(大正 13)年 5 月 25 日号から連載を開始した白井喬二の「新撰組」の人気ぶりも影響している．「新撰組」は 1925(大正 14)年 6 月 28 日号まで 1 年以上に渡って連載され，『サンデー毎日』の大正期を代表する長篇連載小説となった．「新撰組」の掲載以降，両誌には大衆小

63 尾崎秀樹.大衆文学の歴史(上)戦前編.東京,講談社,1989.341P. p.10
64 セシル・サカイ.日本の大衆文学.東京,平凡社,1997.341P. p.249

説家の作品が多数掲載されている．例を挙げると，白井喬二も所属した大衆小説家のグループである二十一日会の作家の小説数では，『週刊朝日』は白井喬二 14，平山蘆江 86，長谷川伸 26，直木三十五 59，本山荻舟 4，矢田挿雲 2，正木不如丘 26，土師清二 111，国枝史郎 35，小酒井不木 7 で，『サンデー毎日』では白井喬二 161，平山蘆江 28，長谷川伸 123，直木三十五 74，本山荻舟 5，正木不如丘 13，江戸川乱歩 13，土師清二 111，国枝史郎 43，小酒井不木 24 であった．特に，『サンデー毎日』と白井喬二，長谷川伸，土師清二の関係と，『週刊朝日』と平山蘆江，土師清二の関係は，その掲載数からも密接であったことがうかがえる．また，大正末期から昭和初期にかけて両誌が実用記事を取り入れるという面で影響を受けたと考えられる『主婦之友』や『婦人倶楽部』にも，加藤武雄や中村武羅夫，吉屋信子らの大衆小説が多数掲載され，これがもとで発行部数が増加している[65].

小説の掲載と文芸特集号の発行が,「大衆文芸」の発展に影響を与えたことについて，尾崎秀樹は『大衆文学の歴史(上)戦前編』で以下のように述べている.

> 「週刊朝日」の特別号は年四回、定期で刊行したが、「サンデー毎日」も同様、同じ時期に増刊号を出し、年四回定期刊を続けた。もっとも「サンデー毎日」の場合は、〈小説と講談〉と銘うっていただけに、内容的には「週刊朝日」以上に大衆読物、大衆文芸の色彩がつよく、文芸読物としての新機軸を打ち出し、大衆文芸の発展に貢献した。
>
> とくに「サンデー毎日」が誌面の刷新を行い、より徹底した大衆化をはかる大正十三年以降は、充実した作品を掲載し、一時代をつくるのである。そのトップ・バッターとなったのは白井喬二の「兵学大講義」であり、百五十枚を一挙掲載して話題をよび、さらにつづいて「新撰組」を打ち出すことで圧倒的な反響をよんだ。[66]

関東大震災以降，新聞や雑誌の読者層はサラリーマン層を中心に，農業従事者や労働者，女性へと拡大し，『大阪朝日新聞』と『大阪毎日新聞』の 1 日当たりの発行部数が 100 万部を超え，大衆娯楽雑誌『キング』が誕生した．震災後の社会構造や秩序の「再構築」によって増加した読者層＝一般大衆のニーズに合致したのが，「大量消費」が可能な娯楽的文学としての大衆小説であった．マスメディアを母体とする『週刊朝日』と『サンデー毎日』が大衆小説＝「大量消費」のための文学を多数掲載したことからは，発行部数は『キング』や『主婦之友』に及ばないとしても，読者にとって日常生活での「消費」が可能な雑誌としての役割を担おうとしたことが読み取れる.

以上のように，大衆小説の掲載や文芸特集号の発行は，両誌の大正末期から昭和初期にかけての「大衆化」と密接な関係があるといえるが，これらの大衆小説は日中戦争以降，戦争の影響が誌面にも出始める頃にも，引き続き掲載されている．このことが，戦時における雑誌と読者の関係にどのような影響を与えたのか，7 章では，両誌に掲載数の多い大衆小説家を中心に，考察を行うこととする.

---

[65] セシル・サカイ.日本の大衆文学.東京,平凡社,1997.341P. p.250

[66] 尾崎秀樹.大衆文学の歴史(上)戦前編.東京,講談社,1989.341P. p.139

第 7 章　「戦時体制」直前の動向

7.1　満州事変の勃発とメディアの動向

1931(昭和 6)年 9 月 18 日の午後 10 時 20 分過ぎ，中国は奉天(現在の藩陽)より東北へ約 6 キロの柳条湖の村で，突如爆発音が響き渡った．満州事変の発端となった柳条湖事件はこうして始まった．この事件の全貌について，一般的な歴史書として代表的である『昭和の歴史 4　十五年戦争の開幕』には，以下のように記述されている．

> すでに一九三一(昭和六)年六月末ごろ、関東軍の板垣・石原ら〔在満関東軍参謀の板垣征四郎，石原莞爾，花谷正の３名〕は九月下旬に柳条湖で軍事行動をおこす計画をたて、その準備を進めていた。(中略)一八日夜、虎石台駐屯の独立守備歩兵第二大隊第三中隊長川島正大尉が、夜間演習と称して、中隊を文官屯駅の南側へ出動させた。別に、同中隊付の河本末守中尉が六名の部下を連れて、北大営の西南角から約五〇〇メートル南の柳条湖へおもむき、満鉄線路に今田新太郎大尉が用意した爆薬を仕掛け、午後一〇時二〇分ごろ、点火し爆発させ、爆音に驚いて飛び出してきた中国兵を射撃した。爆音を合図に、待機していた川島大尉が一〇五名の部下を率いて北大営に駆けつけ、中国軍を攻撃した。(中略)関東軍は、中国軍が不法にも満鉄線を爆破し、日本軍を攻撃してきたので、自衛のため応戦したと発表し、日本国民のほとんどすべてが敗戦後までそのように信じていた。[67](〔　〕内記述，下線筆者)

下線部にあるように，国民が満州事変を中国軍側の謀略と伝えられ，真実を隠蔽された背景には，軍の対応の素早さと，それに協力したマスメディアの力があった．協力姿勢を示したマスメディアの中核にあったのは，新聞とラジオである．新聞各紙は関東軍の発表を鵜呑みにし，あるいは真実に気付きながらも弾圧を恐れて目を背け，満州事変の要因は中国側にあり，とのニュースを流した．またそれだけでなく，関東軍の満州事変における軍事行動は正当防衛であると主張し，即日「中国側の反乱」を制圧した関東軍の勝利を称賛した．

満州事変についての新聞メディアの見解は，事変翌日の 9 月 20 日発行の『大阪朝日新聞』にも表れている．以下に，一部を引用する．

> 衝突の原因について本文を草するまでに吾人の接受せる報道は、新聞並に通信社の特電も軍部に達せる情報も外務省へ総領事からの公電も悉く大体に於て一致してゐる。即ち、十八日午後十時半ごろ支那兵約三百名が奉天郊外の柳条溝にて我が満鉄線路を爆破せんと企て、これを我守備兵が発見せしところ支那兵が発砲せるためこれに応戦つひに両軍衝突の不幸を見るに至つたといふに在る。これによりて見れば、曲は彼れにあり、しかも数百名兵士の一団となつての所業なれば計画的破壊行為とせねばならぬ。断じて許すべきでない。

この記事は，当時大阪朝日新聞社で編集局長であった高原操の社説である．高原は 1920(大正 9)年 6 月から 1936(昭和 11)年 5 月まで同紙の社説を担当し，昭和初期の普選運動や軍縮問題へと鋭い批評を行い，軍部とも対立していた人物である．高原は軍縮や普選だけでなく，1928(昭和 3)年 6 月の張作霖爆殺事件(日本国内では「満州某重大事件」として報じられた)についても，

---

[67] 江口圭一.昭和の歴史 4:十五年戦争の開幕.東京,小学館,1994.429P. p.50-51

事実を隠蔽し報道規制を行った軍部に対し，同年 12 月 27 日の社説「今年の支那　日支外交破綻の年」で張作霖の乗った列車が爆破された鉄道区域は“日本軍の守備せる区域”であり，この事件に対し政府が“不可解の事態をそのまま存続せしめた”ことに対し，“殆ど正気の沙汰とも見えない”と厳しく批判している．その高原までが，満州事変以降に先に引用したような評論を執筆し，満州事変を正当化する見解を示した背景には，事変発生当時のメディアに対する報道規制の厳しさがあったということができる．

こうした方針転換は『大阪朝日新聞』だけでなく，『大阪毎日新聞』や『読売新聞』も同様に，満州事変に関する軍部の行動を支持し，“曲は彼れにあり”の姿勢を貫いた．なお，このような社の方針転換が話し合われた様子について, 1931(昭和 6)年 10 月 19 日付の陸軍の報告書「大朝、大毎両社ノ時局ニ対スル態度決定ニ関スル件報告(通牒)」には以下のように記されている．

> 大阪朝日新聞社今後ノ方針トシテ軍備ノ縮小ヲ強調スルハ従来ノ如クナルモ，国家重大事ニ処シ日本国民トシテ軍部ヲ支持シ国論ノ統一ヲ図ルハ当然ノ事ニシテ，現在ノ軍部及軍事行動ニ対シテハ，絶対非難批判ヲ下サス極力之ヲ支持スヘキコトヲ決定，翌十三日午前十一時ヨリ編集局各部ノ次長及主任級以上約三十名ヲ集メ高原ヨリ之ヲ示達，下村，辰井両取締役モ之ニ敷衍説明ヲ加ヘタル由ニシテ当時席上ニ於テ言論界トシテ外務省ノ如ク軍部ニ追従スル意向ナルヤ等ノ質問アリシモ高原ハ之ニ対シ現時急迫ナル場合微々タルコトヲ論争スル時機ニアラスト一蹴セリ．[68]

この資料には，軍の意向に従う決定が 10 月 18 日の重役会議でなされたことや，それに対して社内からは“言論界トシテ外務省ノ如ク軍部ニ追従スル意向ナルヤ”と質問が飛んだにも関わらず，高原操によって“微々タルコト”であると否定されたとあり，軍部の圧力に屈した時の様子が記されている．

満州事変以降,『大阪朝日新聞』を含めたほとんどのマスメディアは，軍部の意向に追従する報道に終始することとなり，このことが,『週刊朝日』や『サンデー毎日』のような新聞資本の週刊誌メディアの「事変報道」「戦争報道」へも，少なからず影響を与えたと考えられる．

7.2　満州事変関連記事にみる特徴

新聞等のマスメディアが軍部を支持し，満州事変を「正当防衛」と報じた中で,『週刊朝日』と『サンデー毎日』はどのような反応を示したのか．満州事変に関連する記事は，表 3-1 の分類では「戦争記事」の項目に含まれている．そこで，戦争記事中から満州事変に関連する記事を抽出し，集計を行った．

満州に関連する記事は満州国の紹介や文芸，写真，ルポルタージュ，紀行文等，事変とは直接関連のない記事もあわせると,『週刊朝日』は 120,『サンデー毎日』は 131 の記事がある．この中から 1931(昭和 6)年から日中戦争開戦前の 1936(昭和 11)年までで, 事変に関して執筆された記事を「評論・解説」,「文芸・実話」(小説，随筆，紀行文，美談，実話等),「報道・ルポルタージュ」,「写真・絵画」(写真，表紙等),「娯楽」(映画，スポーツ，漫画等),「座談会」,「実用」,「その他」の 7 つの項目に分類し，集計を行ったところ，図 7-1，7-2 のような結果を得た．

---

[68] 藤原彰.資料 現代日本史 8.大月書店,1983,602P. p.96

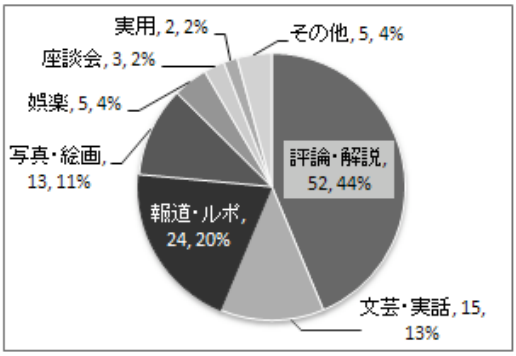


図 7-1：『週刊朝日』満州事変記事の内訳

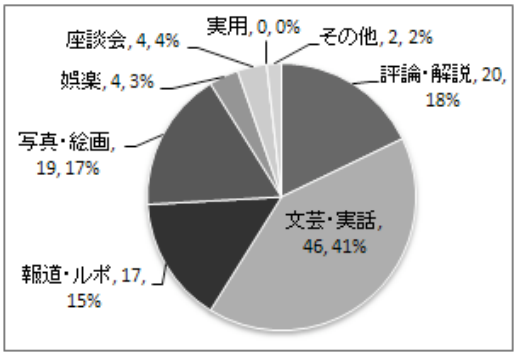


図 7-2：『サンデー毎日』満州事変記事の内訳

これらのグラフからは，『週刊朝日』と『サンデー毎日』における「評論・解説」と「文芸・実話」の割合に大きな開きがあることが分かる．6 章 6.3 の関東大震災に関する記事の点でも述べたが，専門家による解説記事には大衆に物事のあらましを分かりやすく説明し，読者が意思決定をする際の手助けとなる性質がある．つまり専門家や記者の記事は，国外で起こった事変に関する読者の「知りたい」という欲求を満たすための「オピニオン・リーダー」の役割を果たしており，これによって読者は満州事変に関する「事実」を知り，それに対する意見を持つことになる．

一方，『サンデー毎日』では「文芸・実話」記事が最も多くなっており，全体の半数近くを占めている．『サンデー毎日』に掲載された満州事変に関連する「文芸・実話」のほとんどは兵士や日本軍の「美談」として紹介された記事であり，1932(昭和 7)年 6 月 1 日「日支事変忠勇美談集」号において多数の「美談」が掲載されたことがこの結果の要因の一つとなっている．この「日支事変忠勇美談号」は，ほぼ全編に渡って兵士や士官の体験談や「美談」が掲載されており(図 7-3)，『サンデー毎日』が読者に対し，“血の通った，温かい”[69]記事によって満州事変を伝えようとした姿勢が読み取れる．

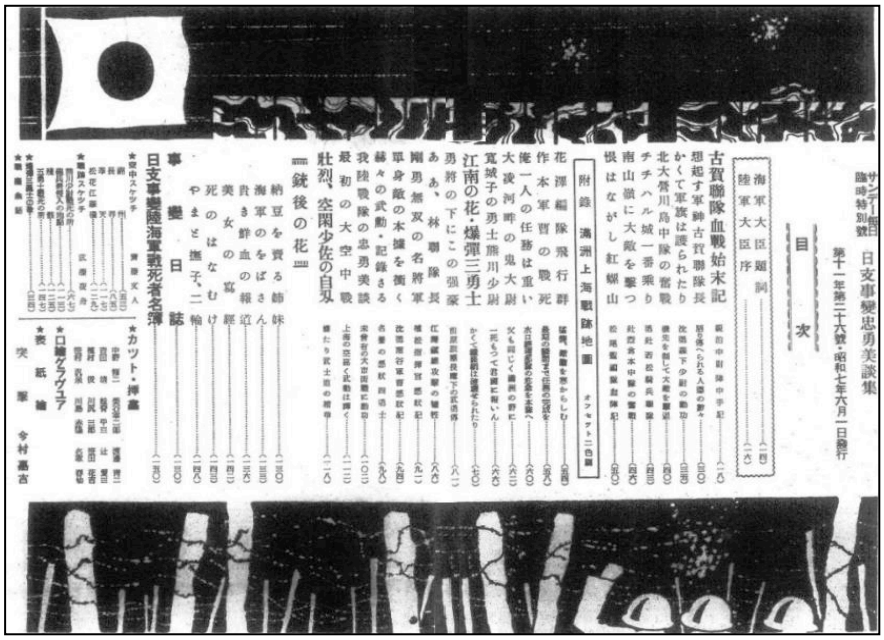
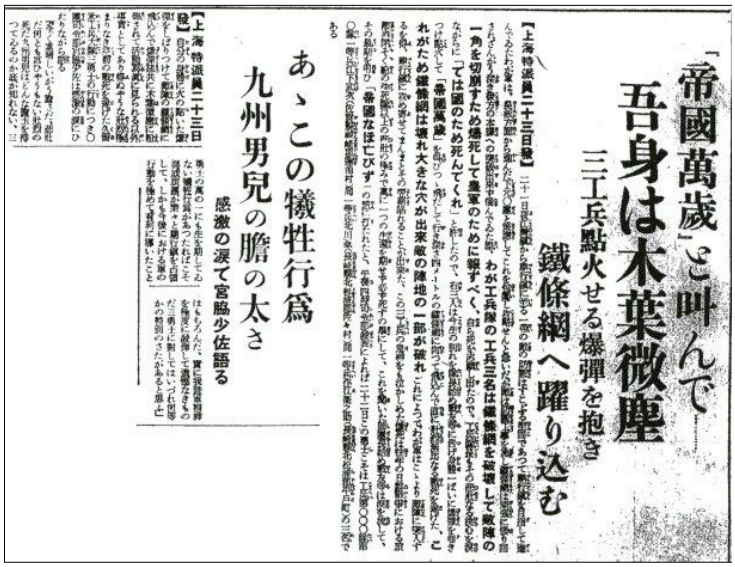


図 7-3：『サンデー毎日』1932 年 6 月 1 日「日支事変忠勇美談集」号目次

69 週刊誌研究会編.週刊誌:その新しい知識形態.東京,三一書房,1958.261P. p.136

これらの美談として有名なところでは，1932 年(昭和 7 年)2 月 22 日に上海郊外の廟行鎮において 3 名の兵士(江下武二，北川丞，作江伊之助)が鉄条網を突破するために爆弾を持ったまま突入し，戦死した「爆弾三勇士」の記事も含まれている.「爆弾三勇士」は，実際は短く切った導火線と北川一等兵の負傷による事故であったが，この話を『朝日新聞』や『毎日新聞』(毎日は「肉弾三勇士」と記述)を始めとする新聞各紙は美談として華々しく紹介した.以下に『東京朝日新聞』1932(昭和 7)年 2 月 24 日の記事「あゝこの犠牲行為　九州男児の肝の太さ」(図 7-4)より一部を引用する.


「帝國萬歳」と叫んで——
吾身は木葉微塵
三工兵點火せる爆彈を抱き
鐵條網へ躍り込む
【上海特派員二十三日發】

あゝこの犠牲行爲
九州男兒の膽の太さ
感激の涙で宮脇少佐語る

図 7-4：『東京朝日新聞』1932 年 2 月 24 日

【上海特派員二十三日発】自分の身体に火の点いた爆弾をしばりつけて敵陣の鉄条網に飛込んで爆弾諸共木端微塵に粉砕されて活動写真に見られる以外事実としてあり得ぬやうな壮烈極まりなき空前の戦死を遂げた久留米工兵大隊三勇士の行動につき〇団司令部宮脇少佐は感激の涙にひたりながら語る。

「全く素晴らしいがう胆さだ、悲壮だ何とも言ひやうもない壮烈の死だ。九州男児はどんな肝玉を持つてゐるのか底が知れない、勇士の万の一にも生を期してゐない犠牲行為があつたればこそ混成旅団が楽々と廟行鎮を占領して、しかも今後における軍の行動を極めて有利に導いたことはもちろんだ、実に我陸軍精神を極度に発揮して遺憾なきものだ。三勇士に対してはいづれ何等かの特別のさたがあると思ふ」

この記事に見られるように，事実とは異なる「物語」を「美談」として再構築して国民の熱気を高めただけでなく,『朝日新聞』や『毎日新聞』が「爆弾三勇士の歌」を紙上で募集するなど大々的な宣伝を行った結果，映画製作や多額の慰弔金が集まるなど，社会全体の「軍国熱」が盛り上がる事態となった.

「爆弾三勇士」の例を見ても分かる通り，「美談」や「体験談」は報道記事や評論とは異なり，人物が中心に据えられることで物語として読者の手に届けられ，感動や涙を誘う語り口が読者の同情を煽り，結果として「軍国熱」の高まりを促す役割を担っていた.『サンデー毎日』では大正末期から昭和初期にかけて大衆小説を多く掲載し,「面白い」物語を媒体とした読者との結び付きを育んできたと見ることができるが, この結び付きがパイプとなり, 満州事変に際しては「美談」という新たな媒体が者の興味を引く役割を果たしていたと考えられる.

次に, これら種類の異なる記事が 1931(昭和 6)年から 1945(昭和 20)年までの間にどのような推移を示しているかを見ていくこととする．ここでは図 7-1，7-2 で多数を占めた「評論・解説」,「文芸・実話」,「報道・ルポルタージュ」の 3 項目を抽出し，年別の推移を示すグラフを作成した．その結果を図 7-5，7-6 に示す．なお，図 7-6 の『サンデー毎日』のグラフは，1932(昭和 7)

年の「文芸・実話」が 35 と他の年別の数値を大きく上回るため，他の項目の推移が分かりやすいよう，この項目のみ第 2 軸(右側軸)を基準として作成した．

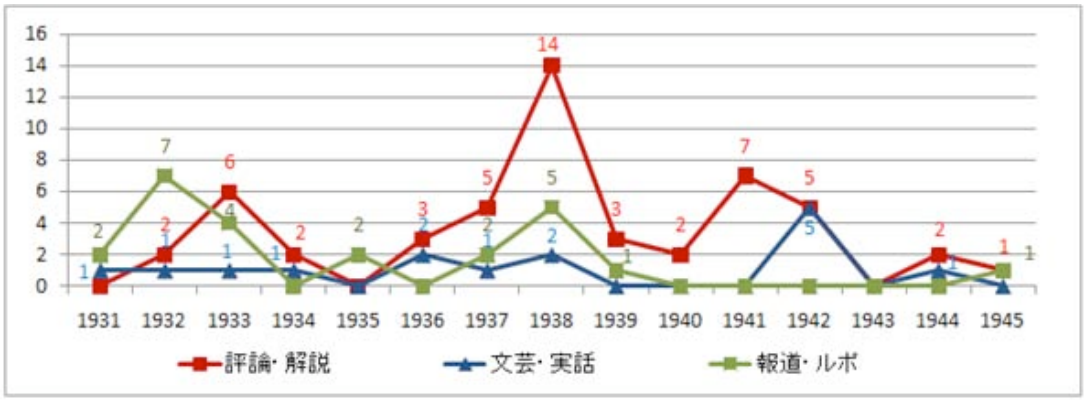


図 7-5：『週刊朝日』満州事変関連記事の推移

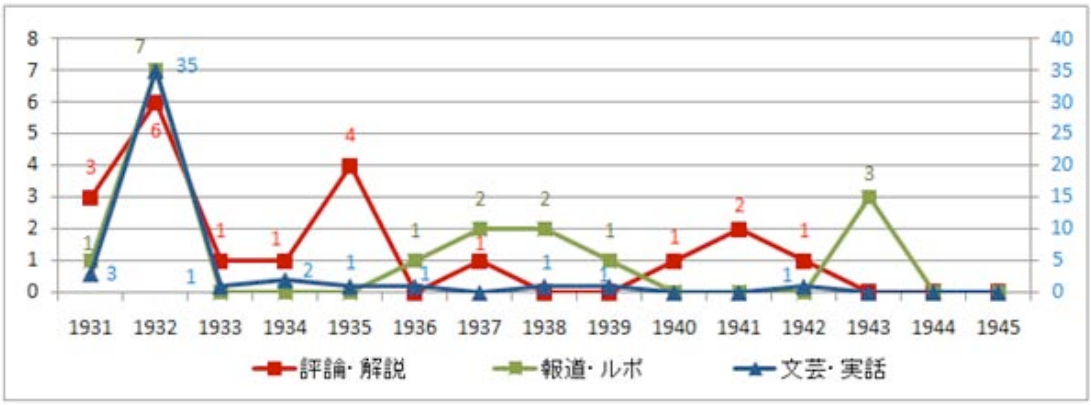


図 7-6：『サンデー毎日』満州事変関連記事の推移

注：「文芸・実話」の 1932 年のデータのみ数値が突出しているため，「文芸・実話」項目のみ第 2 軸(右側)を基準としてグラフを作成．他の 2 項目は主軸(左側)を目安とする．

図 7-5，7-6 のグラフからは，『週刊朝日』の「評論・解説」記事は 1932(昭和 7)年から 1933(昭和 8)年にかけて増加しており，事変勃発直後は「報道・ルポルタージュ」が多数を占めていたことが分かる．また，満州事変に関する記事自体も，1934(昭和 9)年以降に一時減少し，1937(昭和 12)年から 1938(昭和 13)年にかけて再び「解説・評論」記事が増加している．これは，日中戦争の開始に伴い，日中関係を満州国の権益等に関連付けて解説した記事が増加したことが要因として挙げられる．

一方『サンデー毎日』は，「評論・解説」と「報道・ルポルタージュ」は 1932(昭和 7)年にほぼ同数の増加率を示しており，1935(昭和 10)年にも「評論・解説」がやや増加した．また，「文芸・実話」も 1932(昭和 7)年に急増しているが，この年の「文芸・実話」記事 35 のうち 29 が，先に挙げた「日支事変忠勇美談集」号に含まれる記事である．しかし「文芸・実話」記事は 1933(昭和 8)年以降はほとんど掲載されなくなり，日中戦争開戦時と太平洋戦争開戦後の 1942(昭和 17)年から 1943(昭和 18)年にかけて「報道・ルポルタージュ」が，1941(昭和 16)年をピークに「評論・解説」がやや増えているが，1932(昭和 7)年の「美談」満載の誌面のように，満州事変に関

して「熱狂的」になっている様子はうかがえない.

ここで，両誌の満州事変に関する記事のタイトルをいくつか抜き出し，以下に示す.

『週刊朝日』

・ 1931 年 10 月 4 日号	砲声を聞きつゝ	[相原菊子]
・ 1931 年 10 月 11 日号	裏面　事変後の満州(写真)	
	満蒙の独立計画	[小秋元隆一]
・ 1931 年 11 月 1 日号	国際連盟と満州事変	[古垣鉄郎]
・ 1931 年 12 月 6 日号	満州事変画報(写真)	
・ 1931 年 12 月 13 日号	満州事変陣中座談会	
・ 1932 年 1 月 17 日号	出現する満蒙新国家	[吉敷信司]
	満州の戦線へゆく愛国号	
・ 1932 年 3 月 6 日号	満蒙新国家の元首	[黒根祥作]
・ 1932 年 3 月 13 日号	表紙　満州国新国旗(写真)	
	裏面　満州建国(写真)	
	新満州国の横顔	[小秋元隆一]
	満州国へ向ふ街の顔	[MAC 生]
・ 1932 年 4 月 1 日	近世激戦物語(海・山・陸・市外・満州)	[村山有一]
・ 春季特別号	満州へ	[服部亮英]
・ 1932 年 5 月 22 日号	最近の満州	[小秋元隆一]
・ 1932 年 8 月 7 日号	満蒙に踊る人々	[S・K・A]
	満州国視察団募集	
・ 1932 年 9 月 25 日号	満州事変一周年回想	
・ 1932 年 11 月 6 日号	満州の黎明	[酒井栄蔵]
・ 1933 年 1 月 1 日	満州国はかうして生れた	
満州国建国記念号	満州国成立を列国に通告	
	満州国政府の組織	
	満州国政府より祝電	
	満州国の新元首	
	「満州」の語源について	
	満蒙興亡略史	
	満州国観光案内	
	満州国全図(地図)	
	扉　新満州国旗翻へる(写真)	
	満蒙新国家建設会議を了へて	
	厳かに新満州国旗は揚る	
	満州国要地風景　十九葉(写真)	

『サンデー毎日』

・ 1931 年 10 月 4 日号	満州事変画報(写真)
・ 1931 年 10 月 11 日号	特集　満蒙の事情

	満蒙におけるわが特殊権益	[佐藤安之助]
	万宝山事件と中村大尉事件	[長岡克暁]
	支那軍のグロ味	[廣野満洲男]
・ 1931 年 10 月 25 日号	満州瞥見	
・ 1931 年 12 月 6 日号	カメラが語る満州事変の第一線(写真)	
・ 1931 年 12 月 13 日号	満州の空と地上と･･･(写真)	
・ 1931 年 12 月 27 日号	思ひを満州へ	[鈴木千代子]
	世界の工業地満州に期待せよ	[大谷光瑞]
	満州事変(誌上舞台)	[中山楠雄]
	満州を視て支那人を語る	[平山蘆江]
	満州にてうたふ(歌)	[甲斐水棹]
・ 1932 年 1 月 1 日	満蒙戦線異状あり	
新春特別号		
・ 1932 年 1 月 3 日号	満州の春(写真)	[松尾邦蔵]
・ 1932 年 1 月 10 日号	氷雪の満州を護る	
・ 1932 年 1 月 24 日号	新満蒙建設座談会	
・ 1932 年 3 月 13 日号	満州にて(歌)	[板垣喜久子]
	満州国とはどんなところか	
	満蒙の大地に出でよ	[大谷光瑞]
	この満蒙の富源を見よ	
	満州国略図(地図)	
	満州国誕生の喜び	
・ 1932 年 3 月 27 日号	満州娘(誌上映画)	
・ 1932 年 5 月 22 日号	満蒙建国の黎明(新興キネマ映画)	
・ 1932 年 6 月 1 日	海軍大臣題詞	
日支事変忠勇美談集号	海軍大臣序	
	古賀連隊血戦始末記(親泊中尉陣中手記)	[親泊朝省]
	想起す軍神古賀連隊長(語り伝へられる人徳の数々)	
	かくて軍旗は護られたり(沈勇森下少尉の勲功)	
	北大営川島中隊の奮戦(機先を制して大敵を撃退)	
	チチハル城一番乗り(勇壮若松騎兵連隊)	
	南山嶺に大敵を撃つ(壮烈倉本中隊の奮戦)	
	恨はながし紅螺山(松尾監視隊血陣記)	
	満州上海戦跡地図(地図・附録)	
	花沢編隊飛行群(猛襲、敵を寒からしむ)	
	作本軍曹の戦死(最期の瞬間まで任務の完成を)	
	俺一人の任務は重い(水口経理部隊の危急を本隊へ)	
	大凌河畔の鬼大尉(父も同じく満州の野に)	
	寛城子の勇士熊川少尉(一死もつて君国に報いん)	
	江南の花・爆弾三勇士(かくて鉄条網は破壊せられたり)	
	勇将の下にこの強豪(前原旅団長下の武勇伝)	

	ああ、林連隊長(江湾鎮総攻撃の犠牲)	
	剛勇無双の名将軍(植松指揮官感状記)	
	単身敵の本拠を衝く(沈勇南谷軍曹感状記)	
	赫々の武勲・記録さる(名誉の感状四勇士)	
	我陸戦隊の忠勇美談(未曾有の大市街戦に勲功)	
	最初の大空中戦(上海の空高く武勲は輝く)	
	壮烈、空閑少佐の自刃(燦たり武士道の精華)	
・ 1932 年 7 月 3 日号	満州国から婦人と少女使節	
・ 1932 年 7 月 17 日号	満州の野の緑の草花	[西村真琴]
・ 1932 年 9 月 4 日号	満州国ぶらつ記	[古市美津雄]
	満州国と大和撫子	[駒井徳三]
・ 1932 年 9 月 18 日号	満州事変・満一年	
	満州事変絵ごよみ(絵)	
	伸びゆく満州国の行方	[長岡克暁]
・ 1932 年 10 月 9 日号	満州国新風景	[松尾邦蔵]
・ 1932 年 10 月 23 日号	学童使節の見た満州国	[学童使節]
・ 1932 年 12 月 25 日号	満州里の記憶	[習田正一,大江悌介]
・ 1933 年 3 月 5 日号	満州国建国一周年	
・ 1933 年 4 月 2 日号	滅びゆく満州の土俗玩具	[小倉円平]
・ 1933 年 11 月 5 日号	露満国境を行く(駐満海軍部の座談会)	

これらの記事のタイトルからは，積極的な「肯定」の姿勢が表れているわけではないが，「批判的」な主張がなされた記事は見当たらない．また，『週刊朝日』が小秋元隆一や黒根祥作等の記者による解説･評論記事で事変以降の満州の経済や政治を取り上げているのに対し,『サンデー毎日』では「誌上舞台」や「歌」,「座談会」が含まれており，満州をテーマとした文芸記事を掲載している．また，これらの目次項目には，表紙を合わせた写真記事の項目が見られるが，これら実際の写真を見ていくと，戦線へ向かう兵士の出発の様子(11 月 29 日号「北満戦線へ出発するわが内地部隊」)や，走行中の満州鉄道(12 月 13 日号「空から見た戦線」)，電線を直す日本兵，奉天城内の小鳥売り(共に 10 月 11 日号「事変後の満州」)などの写真が掲載されている．これらの写真は，満州における日本軍の活躍や満州の平和を伝えるために用いられている．また 10 月 11 日号の写真に限らず,『週刊朝日』が掲載した満州事変関連の写真はどれも一貫して「満州の平和」をキーワードに展開している．上記の写真の他に同年 12 月 6 日号の「満州事変画報」は「日本軍のチチハル入城」と題した写真を掲載したが，チチハルに入城する日本軍と揚げられた日本国旗，写真の見出しには「日本軍のチチハル入城を歓迎する支那国民軍」とあり，チチハル陥落を「歓迎ムード」として伝える一枚になっている(図 7-7，7-8).

ここに挙げた 10 月 11 日号や 12 月 6 日号掲載の写真からは，政府や軍が発表した「事実」をそのまま検証することなく報道し，写真は戦争の厳しさよりも「平和」をキーワードに選択していることが分かる．しかし，こうした写真は日本軍の行動が「平和活動」であるとの誤った情報を読者に与えているという点で，文字による記事の印象をさらに強いものにしていると見ることができる．

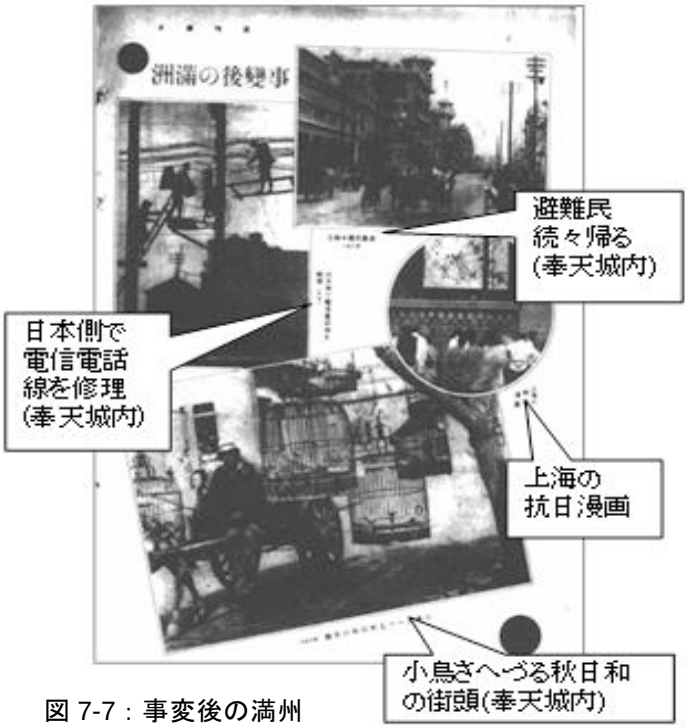


図 7-7：事変後の満州
『週刊朝日』1931 年 10 月 11 日号

図 7-8：満州事変画報
『週刊朝日』1931 年 12 月 5 日号

一方『サンデー毎日』では，10 月 11 日号に特集「満蒙の事情」を組み，「万宝山事件と中村大尉事件」(長岡克暁)，「満蒙におけるわが特殊権益」(佐藤安之助)，「支那軍のグロ味」(廣野満洲男)等を掲載している．その後しばらく満州事変に関する記事は掲載されず，12 月 27 日に「満州事変(誌上舞台)」(中山楠雄)，「満州を視て支那人を語る」(平山蘆江)，「満州にてうたふ」(歌)(甲斐水棹)を掲載している．満州事変を「誌上舞台」や「歌」で表現したり，人気大衆作家の平山蘆江の手記を掲載したりするなど，文芸主体の『サンデー毎日』の特色を前面に押し出している様子が窺える．

1932(昭和 7)年 3 月 1 日の「満州国」建国宣言以降，『週刊朝日』に掲載された記事の見出しには，必ず「満州国」，「満蒙新国家」，「満州建国」といった言葉が使われるようになった(上記の関連記事一覧を参照)．「満州国」建国に対する国民の熱狂ぶりについて，先の『昭和の歴史 4』には以下のように書かれている．

マスコミも、また民衆も、満州国樹立を歓呼をもって迎えた。“嵐のような満蒙熱”と形容されるブームがおこり、資本家も失業青年もあらそって“新天地”へむかった。熱狂のなかでほとんどただひとり冷徹な事変批判をおこなってきた『東洋経済新報』も、このブームを無視することは出来なかった。三月五日号の社説「日支衝突の世界的意味—連盟委員に寄す」は、列強が侵略主義・帝国主義で世界の平和を攪乱しつつある以上、日本が「世界の此現状に刺激せられて、所謂自己防衛の為に、せめては満蒙に経済的立場を作らんと急るも決して無理ではないではないか」と、現実を容認するにいたった。[70]

[70] 江口圭一.昭和の歴史 4:十五年戦争の開幕.東京,小学館,1994.429P. p.141

東京朝日新聞社でも，1932(昭和 7)年 1 月 25 日，「東西朝日満州事変新聞展」が開催された．この展覧会では東西の『朝日新聞』が満州事変をどのように報道したかを紹介しており，当時の東西朝日新聞社の熱狂振りが伝わってくる．以下に，「新聞展」で示されたデータの詳細を記述した，前坂俊之の『兵は凶器なり』(社会思想社，1989)から一部を引用する．

事変を扱った社説は五十四回。特電の回数もケタ外れにのぼった。普通は一ヵ月五十通から百通なのだが、事変発生の当日(九月十九日)は百六十二通で九月中は三百六十通、十一月は五百二十五通で、事変発生から十二月末までに何と三千七百八十五通にのぼった。これらの電報は奉天、北平(北京)、天津・・・(中略)などの十六ヵ所に配置された総勢六十人という特派員から打電された。六十人中、じつに四十三人は『大阪朝日』の特派員であった。(中略)慰問金の総額は三十八万円余。特派員の満州事変報告演説会は東日本で七十回開かれ、六十万人の聴衆が詰めかけた。満州事変のニュース映画を各地で上映する映画班の活動もすさまじく、公開個所千五百一ヵ所、公開回数四千二回、観衆は一千万人を記録した。[71]

参考までに述べると，1931(昭和 6)年の物価は現在の約 1,000 分の 1[72]であり，これをもとに慰問金 38 万円を現在の額に換算すると，約 3 億 8 千万円とかなりの高額になる．またニュース映画の観衆 1,000 万人も，1982 年公開の映画『E．T』とほぼ同じ動員数(日本のみ)を記録したことになり，その盛況ぶりが窺える．『朝日新聞』の特電や慰問金の額，映画の観客動員数の多さからは，当時の“嵐のような満州熱”の様子が伝わってくる．

また『サンデー毎日』の同時期の目次にも，“満州熱”の形跡を見ることができる．満州国建国について 3 月 13 日号に「満州にて(歌)」(板垣喜久子)，特集「満州国とはどんなところか」(記事 5 編)，「満州国誕生の喜び」(写真)を掲載し，こちらも『週刊朝日』同様，「満州国」への関心を示している．

また，満州事変勃発から 10 日後の 9 月 28 日付で陸軍本部より発表された「世論指導方針ニ関スル件通牒」[73]では満州事変に関する報道の内容については“事変ノ直後動機ヲ述フルニ止ムコトナク特ニ遠因ニ論及し其非ハ支那側ニアルヲ明瞭ニスルコト”，あるいは“今次関東軍ノ行動ハ全然正当防衛ニシテ軍自体ノ自衛並ニ軍本来ノ任務達成ノ為必要ナル範囲ヲ出テサリシコト”を義務付けており，これらのことから，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の記事内容が，新聞に反して批判的であったとは考えにくい．

こうした背景もあり，新聞の主張は一様に関東軍の「正当防衛」を主張したが，『週刊朝日』の見解も当然この主張に沿ったものであり，『週刊朝日』の報道記事や評論記事にもそのことが表れている．以下に，朝日新聞記者の小秋元隆一執筆の記事「満蒙の独立計画」(1931 年 10 月 11 日号)より一部を引用する．

「アジアのバルカン」①に低迷してゐた暗雲は遂に嵐を呼んだ。渦まく懸案、平行線に、二重課税に邦人暴行事件、支那側の経済的政治的の全面的攻勢②は、遂に万宝山朝鮮事件につゞく中村事件で、満蒙における日支関係は極度に尖端化し、そのカタストロフィーへ急いだ。当時満鮮の旅にあつた記者は、全満各地に翻る青天白日旗のはためく革命風景③に、近代支那の

[71] 前坂俊之.兵は凶器なり:戦争と新聞 1926-1935.東京,社会思想社,1989.259P. p.82-83
[72] 企業物価戦前基準指数.日本銀行調査統計局.http://www.boj.or.jp/oshiete/history/11100021.htm
[73] 藤原彰.日本現代史 8.東京,大月書店,1983.602P. p.214

緊張と、明日への黙示を感じた。夕陽の曠野にひゞく満鉄列車の鐘の音は、明日の満蒙への警鐘とも「後退するわれらの前衛」の挽歌とも聞えた。土地を奪はれ虚ろな瞳に彷徨してゆく白衣の人々④のアリランの悲歌は、民俗相剋の生々しい姿であつた。「満蒙、何処へ？」の大きな疑問符を投げつけられて、いまさら切迫した形勢に嵐近きを思つた。果然、柳条溝〔湖〕の暗夜の一閃⑤を導火線として、事態は急転回、「われらの生命線を守れ！」と忍従十数年の日本は起ち上つた⑥、「帝国主義を打倒せよ」とヤング・チャイニーズは狂ひたつた、交戦また交戦、混乱から混乱へ、そして漸く満蒙独立運動の具体化とまで局面は動いてきた。(〔　〕内記述，下線は筆者)

下線部①～⑥はそれぞれ，この文中での『週刊朝日』の満州事変に対する見解が表れている部分である．まず，①“アジアのバルカン”はこの文中においては朝鮮人(日本国籍)，中国人，日本人が混在する満州全土を指す．②は 1927(昭和 3)年の中国による満州における朝鮮人の自由居住を禁止する政策を指し，これが 1931(昭和 6)年 6 月の中村大尉事件[74]，同年 7 月の万宝山事件[75]へとつながり，その結果日中関係は“極度に尖端化”したと述べている．また，③にある“青天白日旗”は蒋介石率いる中国国民党の党旗で，④は中国人によって土地を奪われた“日本人”としての朝鮮人を指している．この“民俗相剋”が日中関係に極度の緊張を生み，これが⑤の満州鉄道の爆破というかたちで表れた，と述べている．

この文中には満州事変のきっかけとなった満鉄線路の爆破がどちらの仕業であったかは書かれていない．しかし，その後に⑥の部分で“忍従十数年”の日本が“われらの生命線を守れ！”と起ち上がったと続けており，満州事変における日本の軍事行動が「正当防衛」であるとの印象を読者に与えるには十分な記述である．上記の文章には“カタストロフィー”や“ヤング・チャイニーズ”等の英語のカナ書きや，満州の地や柳条湖事件を“アジアのバルカン”，“夕陽の曠野にひゞく満鉄列車の鐘の音”と例えて表現するなど，難解と思われる部分が多いが，満州事変直後の満州の状況を伝える要素として盛り込まれた“青天白日旗のはためく革命風景”，“虚ろな瞳に彷徨してゆく白衣の人々”，“交戦また交戦、混乱から混乱へ”といった表現は，記者が見た光景を視覚的に説明しており，文章によって読者が情景を想像するに足る表現がされている．このことからは，ただ事変直後の満州の様子を伝えるルポルタージュにとどまるのではなく，読者がその記事を読み，中国に対し，あるいは日本に対し何らかの感情を持つよう誘導するような要素があると考えられる．

7.3　国際連盟脱退への反応

次に，満州事変から 2 年後，日本の国際社会における孤立が決定的となった国際連盟の脱退に関する記事について見ていくこととする．

---

[74] 陸軍参謀の中村震太郎大尉が，軍用地の調査のために大興安嶺の東側一帯にて秘密裏に行っていた現地調査の際，張学良の指揮下にある屯墾軍に拘束，銃殺され，遺体を焼かれた事件．

[75] 1931 年 7 月 2 日に吉林省長春付近で起こった朝鮮人農民と中国人農民による衝突事件．長春の万宝山に中国人より農地を借りた朝鮮人農民 300 名余りが行った灌漑工事が，朝鮮人の背後にいる日本の侵略政策の一環であるとし，中国人農民 700 名余りが移住地区を襲撃した．これに対し，日本は領事警察を出動させ，中国側に圧力をかけた．中村大尉事件と合わせて，日本国内における排外主義を高めるために利用された．

1932(昭和 7)年 10 月 2 日，日本から中国，満州へと調査を続けていた国際連盟の調査団がまとめたリットン報告書が公開された．報告書は，満州事変の発端である満鉄線路の爆破について，爆破があったのは間違いないにせよ,その後列車が線路上を問題なく通過していることを指摘し，よって“日本軍の軍事行動は正当な自衛手段と認めることができない”と結論付けていた．そして満州問題の解決策として“日支双方の利益との両立”や“満州における日本の利益の承認”,“内部的秩序及び外部的侵略に対する保障”など 10 項目を設け，両国の平和的関係の構築と経済的利益の分配についての和解案を提示した[76]．この報告書に対する日本国内の反応は，以下のようなものであった．

リットン報告書には日本にたいする宥和的な内容が含まれていた。しかし日本の対応は、各界各層にわたって、ほとんど拒絶反応といってよいものであった。たとえば『東京日日新聞』(三二年一〇月三日)の社説の見出しは、「夢を説く報告書　誇大妄想も甚だし」であった。リベラルな評論活動をしていた清沢洌は『非常日本への直言』(三二年三月刊、四月発禁)で、「全身の血が一度に頭に上ってしまったやうに、どの新聞も逆上した」と皮肉っている[77]。

リットン報告書に関して，1933(昭和 8)年 2 月 25 日発行の『東京朝日新聞』も大見出しで「全編随所に日本の容認し得ざる記述　我が対満策を終始否定す」とし，報告書の批判を前面に押し出している．また新聞だけでなく，自由主義を標榜する雑誌『婦人公論』の 1933(昭和 7)年 11 月号の編集後記(図 7-9)にも，リットン報告書について以下のように述べられている．

秋深し、雁の便りでもあることか、これは又風情もないリツトン報告書。もとより国際連盟輩に東洋事情の真髄が分る筈はないが、半歳や一年東洋の宴会をうろつき廻つた一夜漬けで、世界大衆の生活が左右されてはたまつたものではない。冗長万語不倦の努力を多とする己。

唯我々が国際連盟によつて知り得たところのものは、東洋は東洋、欧州は欧州で、互ひに猜疑し、排斥し合ふ醜い闘争の姿である。まことに、隣は何をする人ぞ——の感を深くする。

リットン報告書への批判は，新聞や雑誌界だけに巻き起こったことではなかった．軍部・在京軍人会・右翼団体を中心に全国各地でリットン報告書排撃運動が巻き起こった．そして軍関係の団体を中心とした排撃運動と新聞界の“全身の血が一度に頭に上ってしまった”ような批判が渦巻く中，両誌のリットン報告書に対する主張が見られるのは 1933(昭和 8)年 1 月以降である．

実際のところ,『週刊朝日』と『サンデー毎日』には国際連盟が主なテーマとして書かれた記事は少ない．満州事変以降に掲載された記事は『週刊朝日』は 5,『サンデー毎日』は 12 と,『サンデー毎日』の方が比較的関心を持っているように見えるが,『サンデー毎日』は満州事変

編輯者のことば

秋深し、雁のたよりでもあることか、これは又風情もないリツトン報告書。もとより国際連盟輩に東洋事情の真髄が分る筈はないが、半歳や一年東洋の宴会をうろつき廻つた一夜漬けで、世界大衆の生活が左右されてはたまつたものでない。冗長万語不倦の努力を多とする己。

唯我々が國際聯盟によつて知り得たところのものは、東洋は東洋、歐洲は歐洲で、互ひに猜疑し、排斥し合ふ醜い闘争の姿である。まことに、隣は何をする人ぞ——の感を深くする。

図 7-9：『婦人公論』1933 年 11 月号編集後記

76 渡部昇一.全文:リットン報告書.東京,ビジネス社,2006.150P. p.314-315
77 渡部昇一.全文:リットン報告書.東京,ビジネス社,2006.150P. p.178-179

直後の 1931(昭和 6)年 11 月に 5 つの記事を掲載しており，リットン報告書を新聞と同様に批判する記事はほとんど見られない．しかしこれは,『週刊朝日』と『サンデー毎日』がリットン報告書に対して肯定的であったということではなく，満州事変から 2 年が経過し,「満州国熱」が収まりつつあった頃の週刊誌メディアにとって,最も重視する要素が社会記事や政治記事ではなく，娯楽記事や文芸記事であるという点に立ち返っており,さらにリットン報告書の公開は「満州国」承認是非や満州事変の正当性を問う国際連盟会議の始まりに過ぎず，何らかの結論を見たということではないために，あるいは報告書公開自体がセンセーショナルな事件ではないために，記事にしても読者の興味をひくものではないと判断した，という見方をすることができる．両誌の誌面が日中戦争の直前まで,継続して娯楽記事と文芸記事を中心に構成されていたことは,図 4-14, 4-15 で示した I 期の記事数の推移からも読み取ることができる．

また，リットン報告書の公開がセンセーショナルな事件ではない，と判断したとする背景についても，実際に 1932(昭和 7)年の 10 月から 12 月までの『週刊朝日』と『サンデー毎日』の目次を見ていくと，リットン報告書や国際連盟に関する記事を載せられないほどの，大きな事件やニュースがあった様子は見受けられない．文芸作品主体の特集号を除けば,『週刊朝日』はこの期間目玉となるような大きな特集を組んでおらず，大学野球の記事(10 月 16 日号「六大学秋のリーグ戦」「六大学リーグ戦色模様(漫画)」他)や特集「漫画ばーげんせーる」(12 月 4 日号)などがやや目立つのみである.『サンデー毎日』でも同様に大きな特集はなく，12 月 11 日号の巻頭 3 ページ目から 9 ページ目までを使って 17 名の著名人(谷崎潤一郎，武者小路実篤，直木三十五，長谷川時雨，柳原燁子，他 12 名)の所感を掲載した特集「鳥潟博士令嬢結婚解消問題」が大きな目玉となっているが，継続的な特集ではなく，この号に限ったものである．これらの点を考慮すると，リットン報告書や国際連盟の記事は，両誌にとって「事件性」に欠ける，読者の関心を引くに足りない出来事であるとの判断があったと考えられるのである．なお，参考資料としてこの期間(1932 年 10 月～12 月）の両誌の目次を巻末資料 II として添付した．

しかし，1932(昭和 7)年 11 月 21 日に連盟理事会が開幕し，リットン報告書の正当性が認められるとともに国際社会において日本が批判の的にさらされるようになると,『週刊朝日』では国際連盟に対する批判的な記事が掲載されるようになる．1933(昭和 8)年 1 月 1 日号の『週刊朝日』は,「満州国建国記念号」と題して発行された．この号は全ページを満州国の歴史（「満州国はかうして生れた」）や政治の紹介(「満州国政府の組織」)や建国式の写真(「建国の叫びと努力」「建国式厳かに」他)等で埋めつくし，巻頭に「満州国全図」(地図)と「満州国旗翻る」(写真)と題した満州国の国旗と日章旗が掲げられた写真が大きく掲載された．リットン報告書では“現在の政権〔満州国〕を純粋かつ自発的な独立運動によって出現したものと考えるわけにはいかない”[78] (〔　〕内記述は筆者)と結論づけており，国際連盟総会でも「満州国」を不承認する意向が示された.『週刊朝日』の「満州国建国記念号」は，リットン報告書や連盟総会の意向に異議を唱えたことの表れと考えられる．この特集号の発行によって,『週刊朝日』は初めて報告書と連盟に対する明確な「否定」の姿勢を示した．

『週刊朝日』が国際連盟に対する主張を掲載したのは, 1 月 29 日号「連盟の動き」からである．その後 2 月 12 日号に「立迷ふ連盟」，2 月 26 日号に「連盟脱退の後に来るもの」が掲載され，国際連盟と日本の関係に言及する中で，リットン報告書に対しても意見を述べている．

『週刊朝日』の実際の記事内容を見ていく前に，1932(昭和 7)年 11 月 21 日の連盟理事会開会から，1933(昭和 8)年 3 月 27 日の連盟脱退までの動きを以下にまとめる．

---

[78] 渡部昇一.全文:リットン報告書.東京,ビジネス社,2006.150P. p.240

〔11 月 21 日の連盟理事会で〕松岡はリットン報告書をはげしく非難し、報告書の提議を問題解決の基礎として受け入れるという中国代表と激論をかさねた。

審議は総会に移されることとなり、一二月六日臨時総会が開催された。スウェーデン、アイルランド、ノルウェーなどの代表が報告書即時採択・満州国不承認を主張したが、イギリス、フランスなどの大国は、日本の連盟脱退を恐れて、日本を弁護する態度をとった。結局、イギリスの提案で、日中両国を除く理事国などで構成される一九人委員会に問題を付託して、九日総会は終了した。

三三年一月、後で述べるように、日本が中国の熱河省への侵攻を開始したことは、連盟の空気を悪化させた。二月一四日、一九人委員会はリットン報告書採択・満州国不承認を内容とする報告案を全会一致で可決した。これをみて二〇日の閣議は、一九人委員会の報告書が総会で採択された場合には、連盟を脱退することを決定した。

二月二四日、連盟総会は一九人委員会の報告書を採決に付した。その結果は四二対一。反対は日本のみで(ほかにシャムが棄権)、報告書は採択された。松岡は日本代表団をひきいて退場した。日本は三月二七日国際連盟に正式に脱退を通告し、同時に脱退についての詔書が発布された[79]。(〔　〕内記述は筆者)

連盟理事会が問題を託した十九人委員会は，1933(昭和 8)年 1 月 16 日に再開された．同年 2 月 14 日の報告書採択・満州国不承認に先立ち，同年 2 月 8 日に日本は十九人委員会へ報告書記載の解決策には同意するが，満州国は承認してもらいたいという旨の和解案を提示したが，これは受け入れられなかった.『週刊朝日』ではこのことを受け，満州国の承認をあくまでも否定する連盟側に対し，真っ向から連盟を批判する記事を掲載した．以下に，同年 2 月 12 日号掲載の荒井越山(『週刊朝日』記者)の「立迷ふ連盟」より，一部を引用する.

満州国の将来をどうするかといふやうな問題は、和協委員会[80]が出来た上で、日本と支那との間に妥協の道を発見すべき性質のものであるのに、始めから満州国の現状を承認せずと駄目を押しておいて和協委員会も何もあつたものぢやないといふのが日本の主張なのだ。(中略) 日本は和協手段に応ずる意思は充分にある、けれども、その和協手段に入る前に、日本の立場と相容れない条件を押付けられては、始めから和協の相談には乗れないといふのだ。

この記事の掲載によって,『週刊朝日』はリットン報告書を“日本の立場と相容れない条件”と表現し，満州国不承認を前提とした和解には“相談に乗れない”と述べ，報告書に対して明確な否定を行っている.

2 月 24 日の連盟総会でリットン報告書採択と満州国不承認が可決されると，翌 25 日付の『東京朝日新聞』は大見出しで「連盟よさらば！遂に協力の方途尽く」とし，2 月 25 日の閣議で国際連盟脱退方針が正式に決定したと報じた(図 7-10).

---

79 江口圭一.昭和の歴史 4:十五年戦争の開幕.東京,小学館,1994.429P. p.179-180

80 十九人委員会にアメリカとソ連の代表を加えた国際連盟総会の代行機関．満州問題の解決案作成のために結成され，1933 年 1 月 10 日に第 1 回会合を開いた.

聯盟よさらば！遂に協力の方途盡く

總會、勸告書を採擇し
我が代表堂々退場す
四十二對一票、棄權一

【ジユネーヴ特派員二十四日發至急電】日支紛爭問題に關する第十五條第四項の勸告を含む報告案を議する聯盟臨時總會はいよ〳〵二十四日午前十時四十九分（日本時間午後六時四十九分）ベルギー代表イーマンス氏を議長として異常の雰囲気に開會された、議論は滿員の盛況である、まづ議長イーマンス氏の報告書朗讀あつて後、支那代表顧維鈞氏が報告書を所の説明をなすところあり、次いで我が松岡代表登壇して演説を開始した、時に午前十一時二十三分（日本時間午後七時二十三分）かくて演説は前後四十六分間の長きにわたり『聯盟が報告を採擇せざるこを要求する』と結び、正午を過ること十九分時間した、松岡代表の雄辯演説は實に議場によつて傾聽されたる後、更に食堂を繰り、除て發言を過ぎるリスアニア、ヴエネズエラ、カナダ三國代表の演説が行はれた、その終るを待ち最午後一時十五分（日本時間午後九時廿五分）勸告を含む報告案の表決に移り、四十二對一票、棄權一票（シヤム代表）をもつて第二項採決された、即ち反對は日本のみで全會一致の可決である、時に午後一時三十分（日本時間午後九時三十分）現場後松岡代表は報告書反對の聲明をなし、午後一時四十六分代表部を率ひて退場した【東亞通信社、イーマンス三氏】

【ジユネーヴ特派員二十四日發至急電】松岡代表はその聲明を終り演壇を下るや傍聞を待たず書記せずにそのまま長岡、佐藤その他の代表部文武官を從へ（議場を去つた、演説説として聴なくたつ我方傍聽席の日本人間より數名の拍手が起つた

支那側勸告受諾
第六項の權利强調

【ジユネーヴ特派員二十四日發至急電】勸告書は明（廿五）日午前六時頃迄に受諾すること勸告したよつて日本が勸告を拒否する時支那は規約第十五條第六項による權利を享受すべきこと時に全を神にたるこれ即ち、勸告を含む報告案

導しつゝあるイギリスにしても亦連盟外にあつて連盟の動向を間接に支配しつゝあるアメリカにしても、単に連盟規約の実施といふだけで何等の実利も伴はず、ましてその効果さへ疑問とされる制裁を引受けるかどうか。

(12) 連盟を離れた国際会議に対しては日本の脱退によつて日本の地位は何等の変化を来さないことはいふまでもない。連盟は総ての国際会議に日本の参加を希望するばかりでなく、あらゆる議会において日本の連盟復帰を勧誘するに違ひない。(傍点原文，下線と〔　〕内記述は筆者)

上記の引用部分はこの記事の核となる部分である．まず(2)「作成した肚は」の中で，報告書について“満州国独立と日本の承認”という既成事実を理由とし，これを認めていない点で“現実性を欠いている”と批判した．その上で(3)「禍根は愈大に」で連盟が報告書を採択したことについて“ただ規約上の義務を果たした”だけと述べ，報告書は満州問題の解決に何ら役に立たないと切り捨てている．そして実際に連盟を脱退した後の日本について“経済制裁”と“日本の地位”をキーワードに論を展開している．“経済制裁”については，下線部の“連盟理論と実際政治との衝突”という言葉を用いている．“連盟理論”とは日本に対して経済制裁を行うことで，“実際政治”とは制裁を行う側の国への経済的打撃を指しており，アメリカとソ連の参加していない国際連盟加盟国には日本に“経済制裁”を行えるほどの大国は存在しないため，制裁は実際には行われないと主張しているのである．また，脱退後の“日本の地位”についても，(12)「国際会議参加」において連盟は国際会議への日本の参加を希望するに違いないため,“何等の変化も来さない”と述べている．そしてこの記事の中に，脱退後の経済的な孤立を危ぶむ視点は見あたらない．

また，国際連盟関連記事は満州事変関連記事と異なり写真掲載が少ないが，こうした記事には風刺漫画が添えられている．図 7-11，7-12，7-13 で示した風刺漫画には，それぞれ「烏合の挑戦」(図 7-11),「支那の夢」(図 7-12),「己の足許を見よ」(図 7-13)のタイトルがついている．図 7-11，7-12，7-13 の風刺漫画は，上記の引用部分のような難解な文章を読者に読ませる際，記事の内容を分かりやすく伝えるために掲載されたと考えられる．

図 7-11：「烏合の挑戦」(堤寒三)1933 年 2 月 12 日号

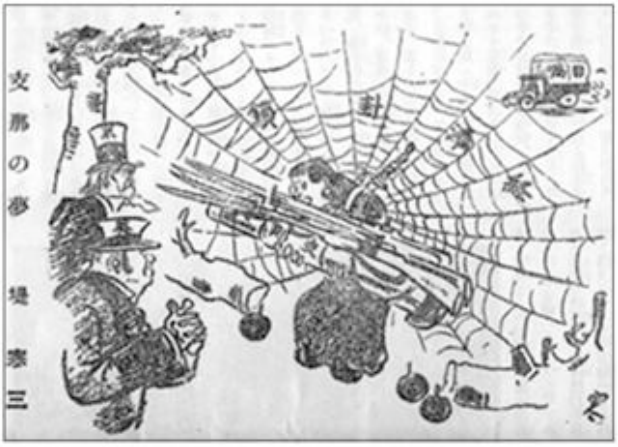


図 7-12：「支那の夢」(堤寒三)1933 年 2 月 26 日号

なお,『週刊朝日』でこうした風刺漫画を書いているのは，図 7-11，7-12，7-13 で示した麻生豊や堤寒三の他に，社会風刺漫画家の近藤日出造のほか,『朝日新聞』で漫画を多数執筆した岡本

一平や横山隆一などがいる．これら漫画家の名前は『サンデー毎日』でも見ることができるが,『サンデー毎日』ではこれら漫画家の書いたものは小説の挿絵や連載漫画が多く，国際連盟関連記事にも風刺漫画は使われていない．

『サンデー毎日』では国際連盟関連記事は満州事変から連盟脱退までの間に 4 項目を目次より見つけることができるが，国際連盟の「満州国」不承認決議(1933 年 2 月 14 日)に近い日付のものとしては，1933(昭和 8)年 2 月 12 日号に「大詰の国際連盟」(城戸又一),「鬼面人を脅かす経済封鎖」(池崎忠孝)が掲載されている．

まず 2 月 12 日の「大詰の国際連盟」は，副題に「和協か勧告か　日本堂々決断の日」とあり，その内容は国際連盟の十九人委員会での決議案と日本の提示した和解案の内容や，日本側の和解案が拒否されたいきさつを主に説明している．記事は 2 ページに渡って書かれており，記事の最後に国際連盟脱退の可能性を示唆し，その場合の日本と世界の関係について言及しているが,『週刊朝日』2 月 26 日号にも記述のある“委任統治問題”に触れただけで，記事の最後は“四日のわが代表部新修正案ならびにこれに対する政府の回訓を基礎として和協が成立した場合にはまづ決議によつて交渉委員会が構成され,その委員会で問題解決の実際的方法が討議される段取りとなるのである”と結んでいる．

図 7-13：「己の足許を見よ」(麻生豊)
1933 年 2 月 26 日号

しかし，2 月 26 日号の「鬼面人を脅かす経済封鎖」では，それまで批判が見えにくかった『サンデー毎日』の論調が大きく変わっている．巻頭 3～5 ページ目に掲載されたこの記事は，大見出しで“連盟脱退と日本の立場”,“恐るゝに足らぬこけおどし”とあり，内容は国際連盟の“経済封鎖”一点に絞って論を展開している．筆者の池崎忠孝(評論家)は，まず国際連盟の経済封鎖が“さう簡単明瞭に実行出来てたまるものか”と，出だしより威勢よく述べ，日本と経済関係の深いインドやオーストラリア，そして連盟非加盟国のアメリカでさえ，自国経済への影響を考慮すれば実現不可能である，と断じている．ここまでは，論調はやや『サンデー毎日』のほうが勇ましい印象を受けるが,『週刊朝日』の“経済制裁”を実現不可能とする論とほぼ同じである．しかし，その後の展開が大きく異なっている.『週刊朝日』は仮に“経済封鎖”が行われ，連盟を脱退したとしても日本への影響は少なく，国際会議へも出席ができると述べるにとどまったが，池崎は“国際連盟の諸君子よ”や“思うても見よ”といった問いかけるような表現を随所に使い，日本の行く先についての所見を述べている．以下に，一部を引用する．

> 日本に対する経済封鎖が宣言されると同時に、日本は欣んで南支那海以北の自己封鎖を宣言し、そこに残された自由の天地を天地として、おもむろに自給自足の計をなすに相違ない。他動的には封鎖、自動的には鎖国、――みづから進んで鎖国をしたのだとさへ思へば、何の臆するところがあるか。(中略)

万万歩譲つて、日本に対する全世界の封鎖が真に日本帝国を苦しめ、日本帝国国民の生存を脅威する場合が起りゐたと仮定しよう。さてその時日本は如何にするか。ことこゝに至れば、もはや断じて躊躇する時ではない。われわれは全力を挙げて自国に対する封鎖に対抗し、すゝんで世界を相手に死戦するまでだ。

まず，“経済封鎖”を“鎖国”に例えている点が特徴的である．この記事内では“鎖国”の記述以外にもナポレオンの大陸封鎖に抗したイギリス海軍の活躍を用いるなど，政治記事というより講談などの物語を読んでいるような印象を受ける．そして，“経済封鎖”によって国全体が追い詰められた場合には“すゝんで世界を相手に死戦する”とまで宣言し，記事の最後は国際連盟加盟国の代表を“物わかりのしない紅毛人ども”と表現し，“日本国民の覚悟は出来てゐる”と結んでいる．

国際連盟に対する両誌の姿勢は，2 月 26 日の記事では共通して「経済制裁(封鎖)」をキーワードに連盟批判を行っているが，その論の組み立て方が大きく異なっている．『週刊朝日』が 1933(昭和 8)年 2 月 12 日号や同年 2 月 26 日号でリットン報告書や国際連盟規約を引き合いに出して「論理的」に連盟を批判しているのと比較すると，『サンデー毎日』の同年 2 月 26 日の記事は歴史物語を引き合いに出し，語りかけるような論調で勇ましく連盟批判を行い，読者へ戦争や経済的困窮の「覚悟」を促している．

国際連盟とリットン報告書への意思表示を行った後，『週刊朝日』は満州問題の視点を熱河侵攻へと向けた．1933(昭和 8)年 3 月 5 日号には「熱河に揚る戦塵」(長里萬之介)，「溥儀執政の御近状」(記者)，3 月 12 日号に「熱河戦と奉天の戦」(河野恒吉)，「熱河討伐」(写真)，3 月 26 日号に「熱河敗戦記」(記者)を掲載している．

『週刊朝日』が再び国際連盟脱退について言及したのは，1933(昭和 8)年 3 月 27 日に日本が正式に国際連盟から脱退してから約 10 日後の，4 月 9 日号においてである．同号掲載の「連盟脱退後の日本と世界」(荒井越山)では，熱河省への侵攻をキーワードに脱退後の日本の行動について述べている．以下に一部を引用する．

日本が熱河に軍を進めたら規約違反に問うて、第十六条の制裁規定を適用するなんて誰がいつたのだ。(中略)たれも経済封鎖を口にするものがいないのは、はじめから問題になつてゐないからだ。日満軍の熱河進出が果して規約違反に問はるべき性質のものかどうかといふ問題ではないのだ。(中略)問題はそんな理論にあるのではない。違反だと仮定してさて日本に制裁を加へ得るかどうかの問題が肝腎なのだ。(中略)

武力を用ひることは絶対にならぬといふが、武力によらなければ治まらない地域があるのをどうしようといふのか。連盟の大精神は世界の平和を維持するにある。世界の平和といふことは決して静的なものではない。動的な世界に平和を維持しようとするには、一定の尺度では出来ない。(下線筆者)

下線部にあるように，『週刊朝日』は連盟が“経済制裁”の理由として挙げた熱河進出は，“武力によらなければ治まらない”中国に“平和を将〔招〕来し人類の利副を増進するため”(〔 〕内記述は筆者)の戦いであると主張し，戦争行為であるかどうかは“問題ではない”，実際に制裁を加えられるかどうかこそが“肝腎なのだ”と述べている．しかし，満州問題が国際連盟に委ねられている最中の熱河進軍を，“平和維持のため”とするのは苦しい言い逃れにしか聞こえない．

この記事には，連盟脱退後の日本が自らの意思で中国大陸における支配地を満州から広げようとしたことを，正当化する姿勢が表れている．

一方『サンデー毎日』では 4 月 9 日号に濱口鶴雄(陸軍大尉)の「南洋を断じて守る」が掲載された．内容は『週刊朝日』2 月 26 日号でも触れられた「南洋統治問題」についてで，連盟脱退後も南洋統治を続ける日本と，それに対して国際連盟に管轄を移すべきとする連盟側の対立の経緯を説明している．その中で筆者の濱口は，“すべてかうした方面の議論は、一つの廻廊をうねるお伽噺の山彦だ！見解の鳥瞰と拘泥の争ひ、定慧と乱慧の痴争だ！”と，南洋委任統治が問題とされること自体に批判的な姿勢を示している．国際連盟脱退以降の両誌の誌面からは，視点が熱河省侵攻と南洋統治問題で異なるが，共通して国際連盟の動向を批判する主張が見られる．また，これらの記事の執筆者は『週刊朝日』は自社の記者であるが，『サンデー毎日』は政治評論家の池崎忠孝，陸軍大尉の濱口鶴雄であり，特に池崎は太平洋戦争前に対米戦争を煽ったとして，戦後 A 級戦犯に指定された人物である．これら執筆者の選択にも，評論家の解説記事による週刊誌の「オピニオン・リーダー」としての役割＝大衆を連盟批判へと誘導する意図があった，と見ることができる．

7.4 「戦争」記事への布石

ここまで，満州事変と国際連盟脱退に焦点をあて，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の目次を追いながら記事の内容の比較を行ってきた．この 2 つの主題に関しては，両誌共に記事数は娯楽記事や文芸記事とは比較にならないほど少ないが，日中戦争前のまだ「戦争一色」となる以前の誌面の中で，「戦争」に対する両誌の姿勢を読み取ることができた．

まず『週刊朝日』と『サンデー毎日』の満州事変関連記事の比較より，両誌の報道記事の特色が明らかになった．『週刊朝日』は新聞の内容に追従する形式の「ダイジェスト版」としての役割に，評論家や専門家による評論や解説記事を合わせることで，読者に意思決定の指針を示す役割を果たしていた．一方『サンデー毎日』は，美談や体験談によって読者が満州事変を物語のように「面白く」読むことを主眼とし，結果として読者の「満州熱」を高める役割を果たしていた．満州事変の記事に見られた両誌の特徴には，創刊当初に社会的な記事を重視した『週刊朝日』と，娯楽記事や文芸記事を重視した『サンデー毎日』の編集方針が表れていた．

国際連盟関連記事では，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の共通点と相違点の両方を見ることができる．両誌に共通していたのは，1932(昭和 7)年 12 月のリットン報告書公開から同年 12 月までの間，国際連盟関連の記事をほとんど掲載しなかったことである．この間，両誌が共通して大々的に掲載するような大きな事件やニュースはなく，それぞれ誌面には国内の事件や娯楽記事が並んでいるだけである．こうしたことからは，週刊誌の「報道」に対する姿勢が「事件性の高さ」を基準にして決められていたと考えることができる．この要因としては，共に新聞社発行の雑誌であること，発行年が同じであることが関係していると考えられる．『サンデー毎日』が「新撰組」の連載で読者の人気を集めれば，『週刊朝日』がそれに倣って文芸作品を巻頭に掲載するなど，『週刊朝日』が『サンデー毎日』の動向を意識していたことは明らかである．同じ週刊誌としてライバル関係にある新聞社同士から発行されている両誌は，関東大震災以降「大衆化」をキーワードに読者層拡大を狙い，それが報道記事における「娯楽性」や「事件性」の追及に繋がったと考えられる．

第 8 章　戦時下の週刊誌メディア

8.1　日中戦争以降の新聞メディア

1937(昭和 12)年 7 月 7 日の盧溝橋事件をきっかけに始まった日中戦争(支那事変)について，代表的な歴史書の一つである藤原彰著『昭和の歴史 5　日中全面戦争』(小学館，1982)には以下のように記述されている.

七月七日夜、一木大隊の第八中隊は、中隊長清水節太郎大尉のもとに、宛平県城北側、竜王廟東方の地域で、中隊の夜間攻撃の演習をおこなった。この中隊は、秋田の歩兵第一七連隊で編成された部隊で、下士官兵の大部分は秋田県出身であり、初年兵だけが東京の第一師団管内から徴集された壮丁であった。

清水大尉は、中国兵のいる竜王廟を背にして、東方の大瓦窯の部落の前面に仮設敵を配置し、東面して夜間に接敵、翌朝に黎明攻撃をおこなう演習計画をたてた。そして、夜一〇時三〇分、演習の第一段である夜間の接敵行動を終わったところで、いったん演習を中止しようと、そのことを命令するため、伝令を部下小隊と仮設敵に派遣した。そのとき、仮設敵の二挺の軽機関銃がいっせいに火をふいたのである。伝令の接近を敵とまちがえて射撃したものであろう。

もちろん、この仮設敵の軽機関銃は、演習用の空包(発射音だけを発するようにした弾薬)を発射したのであるが、深夜だけにその発射音は周囲にひびき、発射の閃光は闇夜にひらめいたはずである。この仮設敵の射撃は、東から西、竜王廟の方向にたいしておこなわれたものであった。そして、まさにそのとき、竜王廟の南側の堤防から、三発の銃声が聞こえた。清水中隊長は、その銃声につづき、頭の上にピューッという弾丸の飛行音を聞き、これは実弾だと感じた。そこで清水は、直ちに部下を集合させようとし、喇叭手に集合喇叭を吹かせた。喇叭の音がひびきわたると、ふたたび堤防上から、十数発の銃声がひびき、頭上を飛行音がかすめたという。

集合を終わった中隊が人員を点呼すると、初年兵一名が行方不明であった。清水大尉は、ただちに、中国兵から射撃されたこと、兵一名が行方不明になったことを、豊台兵営の大隊長に報告するため、伝令を走らせた。この、中国軍の不法射撃、兵一名が行方不明という報告が、のちに、事態を重大な方向に発展させる第一歩となったのである[81]。

盧溝橋事件から 4 日後の 7 月 11 日，現地の日中両軍間で停戦協定が成立し，“支那駐屯軍”(日本陸軍天津駐屯部隊)と中国軍第 29 部隊の戦闘は終息したかに思われたが，時を同じくして日本政府は天津への追加派兵を決定した．この決定を下したのは内閣総理大臣の近衛文麿であるが，実際は陸軍中央部の強硬論者が主導権を握っていた.

日中戦争は，当時「北支事変」「支那事変」と言われていた.「戦争」ではなく「事変」であった背景について，同じく『昭和の歴史 5　日中全面戦争』では以下のように述べられている.

戦争とよばず、事変と名づけたのには、二つの意味があった。一つは、戦争だと宣言すると、国際法上の交戦国となり、アメリカなど中立国からの兵器・軍需品の輸入にさしつかえるということ、もう一つの、より本格的な理由は、国民に、戦争として明示するにたる十分な名目がな

[81] 藤原彰.昭和の歴史 5:日中全面戦争.東京,小学館,1982.429P. p.61-62

かったからである。これほど大規模な戦争に国民を動員しておきながら、国民に訴える大義名分を明らかにすることができなかった。実質的な開戦の宣言にあたる、三七年八月一五日の政府声明では、「支那軍の暴戻を膺懲し以て南京政府の反省を促す」というのが戦争の目的であった。(中略)

「戦争」といわず、「事変」でおしとおしたところに、この戦争の本質があらわれている。この戦争は、当時で五億の人口を持ち世界最古の文化と歴史をもつ中国にたいして、その領土と資源をうばい、実質的な植民地として支配しようとした、まごうかたなき侵略戦争であった。戦争とよべなかったのは、侵略戦争であるという事実が、明らかになることを恐れたためであった。[82]

1935(昭和 10)年から 1936(昭和 11)年にかけて「満州国」周辺の華北五省(河北，山東，山西，チャハル，綏遠の中国北部の五省)を中国から切り離して「満州国」の拡大を企てていた日本にとって，盧溝橋事件に始まる「支那事変」の拡大は一挙に華北五省に攻め入って占領する絶好の機会であった. この攻撃を遂行するために陸軍や政府が取った方策が,「反中国」思想の宣伝であり，そこで活躍したのが，新聞メディアである．この宣伝戦がどのように行なわれたかについて，藤原は同じく『昭和の歴史 5　日中全面戦争』で以下のように述べている.

つぎつぎとおこなわれる大規模な動員は、いやがうえにも、国内の戦争機運をみなぎらせた。そしてこのとき、国民にたいして戦争熱をあおりたてるのに、もっとも大きな役割をはたしたのが新聞であった。

事変がおこると、新聞は戦争記事でうずめられた。当時の新聞は、都市では朝夕二本立て、夕刊は翌日の記事を速報するという意味で、翌日の日付で発行されていた。七月七日夜の盧溝橋事件は、八日には国内に伝えられ、八日夕に発行される九日付の夕刊から、全面に戦争記事があふれはじめた。(中略)事件がおこると、連日のように号外を発行するほか、朝夕刊ともに、現地のニュース・写真が紙面をうめた。そして、特大活字の扇情的な見出しと、拡大された戦場写真とが、いやがうえにも戦争熱をあおった。

新聞記事の内容は、はじめから中国軍の不法行為を攻撃し、日本軍の正当性を弁護するとともに、軍人の勇武をたたえる軍国主義的傾向で一貫していた。また、近衛首相が七月一一日夜、新聞・通信・放送代表者に挙国一致の協力を要請したことや、軍部の指導もあって、「暴戻支那膺懲」の強硬論で統一された。[83]

「戦争」であることを認めないまま，軍部の中国大陸における軍事行動は次々と進められていった．これに対し近衛首相は日清戦争(1894～1895 年)や日露戦争(1904～1905 年)時のように大本営を設置することを申し出，同年 11 月 20 日に陸海軍と首相が参加する大本営が設置された．その後，日本軍は 1937(昭和 12)年 12 月までに重慶，南京，翌 1938(昭和 13)年には徐州，広東，武漢へと侵攻し，1939(昭和 14)年 5 月 11 日にはノモンハン戦争が勃発した．この戦争は 9 月 15 日の終戦協定締結まで続いたが，この戦争は満州国を中国大陸進出の足掛かりにしようとする日本に対し，モンゴルを起点にそれを阻もうとするソ連の戦いであった．満州事変以降，満州国においてソ連と国境を挟んで対峙することとなった日本にとって，対ソ戦略は北方進出において重

[82] 藤原彰.昭和の歴史 5:日中全面戦争.東京,小学館,1982.429P. p.76
[83] 藤原彰.昭和の歴史 5:日中全面戦争.東京,小学館,1982.429P. p.91-92

要課題であった．なお，この戦争は日本国内では満州事変と同様，ノモンハン「事件」として扱われ，「戦争」と報じられることはなかった．モンゴルでは「ハルハ河の戦争」と呼ばれるこの戦いが，日本では「事件」として扱われた背景について，田中克彦は以下のように述べている．

大量の戦車と航空機を出動させ、双方の正規軍にそれぞれ二万人前後の死傷者、行方不明者を出したこの軍事衝突は単なる事件を超えた、明らかに戦争であるのにそう呼ばないのは、この戦争が、双方の間に宣戦布告なしに、いわば非公式に戦われたからにほかならない。この非公式という点から見ると、日本の空爆隊が六月二七日に、国境から一三〇キロほども奥深く入ったモンゴル領の空軍基地を爆撃したのは、「大命」、すなわち天皇の命令も許可もなく、こっそり行った違法行為であるから、公然と戦争と呼び得る資格を欠いていたのである。しかも戦場に大量の瀕死の重症者と屍体を残して撤退したのであるから、戦争をしかけた当事者は、あくまでも「事件」という、うちわの話にとどめておきたかったのである。

「戦争」ということばを使うとなると、勝ったのか負けたのかをはっきりさせなければならない。「事件」はそれを明らかにしなくてすむ便利なことばである。[84](傍点は原文)

ノモンハン戦争は同年 9 月 15 日まで続いたが，結果は日本軍の大敗に終わった．7 月初旬に開始したハルハ河渡河作戦に失敗し，退却を余儀なくされた日本軍は，8 月 20 日からのソ連・モンゴル軍の総攻撃によって 2 万人近くの犠牲者を出した．9 月 15 日には日ソ間で停戦協定が締結され，この勝利によってソ連は日本に対する外交的主導権を獲得した[85]．ノモンハン戦争でソ連に敗れた日本は北方進出を断念し，以降進出の目先を南方へと向けることとなる．1940(昭和 15)年 1 月に重慶の蒋介石政権(国民政府)に対抗すべく南京に汪兆銘政権(南京政府)を擁立して中国大陸の支配を図ると，同年 9 月にはドイツ，イタリアと軍事同盟を結んで南方の欧米諸国植民地への進攻体制を整えた．そして，1941(昭和 17)年 4 月から続けられてきた日米和平交渉は，日本軍の中国大陸，満州国，仏領インドシナからの全面撤退を要求したアメリカの提案を日本側が破棄したことで終わりを告げ，同年 12 月 8 日，日本はハワイの真珠湾を攻撃すると同時にイギリス領のマレー半島，香港，アメリカ領フィリピンへの攻撃を行い，太平洋戦争が始まった．

この攻撃は日本国内の新聞で大きく報じられた．12 月 8 日の大本営海軍部発表は“戦艦二隻轟沈、戦艦四隻大破、大型巡洋艦約四隻大破”“わが飛行機の損害は軽微なり”“わが潜水艦はホノルル沖において航空母艦一隻を撃沈せるものの如きもまだ確実ならず”[86]といったものであった．これに対し 12 月 9 日の『朝日新聞』は 12 月 9 日の紙面に「米海軍に致命的大鉄槌」の見出しを付けた記事を掲載した．以下に一部を引用する．

我海軍が決行せる大奇襲作戦の成果は実に戦史にその比類を見ぬ赫々たるものであつた。戦艦二隻は瞬時を出ずして轟沈、他の四隻は大破し、さらに大型巡洋艦四隻は大破、航空部隊に大打撃を与へ、ホノルルにおける航空母艦一隻と合して巨艦を失ふこと実に十一、ここに米海軍は致命的な深傷を負つたものといふべく、フィリッピンの敵空軍の潰滅とあはせて、輝かしき戦果はわれらの頭上に燦として輝いたのである。我に一隻の損害なく、太平洋を圧する大機動作戦は世界を驚倒せしめるに足る大成功を収めた。(下線筆者)

---

84 田中克彦.ノモンハン戦争:モンゴルと満洲国.岩波書店,2009,P241. p.2-3
85 横手慎二.解明・昭和史:東京裁判までの道.朝日新聞出版局,2010,278P. p.172-173
86 早瀬貫著.太平洋戦争と朝日新聞:戦時ジャーナリズムの研究.新人物往来社,2001,450P. p.13

上記の記事は 8 日の大本営発表に基づいて戦果を報告しているが，下線部にあるようにアメリカは“致命的な深傷”を負い，真珠湾攻撃によって日本は“世界を驚倒”させた，と明暗をはっきりと示している．また,『東京日日新聞』でも 12 月 9 日に「米の第一線主力を一挙血祭り」「戦艦六隻を屠る　大巡等六隻も撃沈破」と真珠湾攻撃の戦果を大々的に報じ，同日の第 1 面掲載の社説「東亜開放戦の完遂へ」では，太平洋戦争はアメリカやイギリスの搾取からアジア諸国を解放するための“聖戦”であると主張した．以下に一部を引用する．

一剣閃くや、太平洋狭しと、わが皇軍は空に、海に、陸に、武威を輝かしつつある。米英が過去年久しく搾取を逞しうした東洋と南洋の基地は刻々壊滅しつゝある。東亜の解放戦だ。新しき大東亜史の創造戦だ。見よ、大東亜に垂れ籠めし妖雲は、刻々掃蕩せられて、その本然の姿を水平線の彼方に顕し始めてゐるではないか。

いまや聖旨を奉体して一億の民は、勇躍してこの曠古の聖戦に赴く。大君の辺にこそ死なめ、一切を大君に捧げ、興亜大業を目指して奮進するであらう。

これらの記事は大本営発表に基づいて構成されており，こうしたことは太平洋戦争以降の新聞のみならず，雑誌メディアにとっても，同様の現象である．大正期には社会主義思想を本質とした月刊総合雑誌『改造』は，1942(昭和 17)年 1 月号に巻頭言「東亜解放戦につき」，評論「世界大戦への米国の責任」(蝋山政道)を掲載し，これらの記事が創作欄や詩，新作紹介，読書に関する座談会等を除く約 8 割を占めている[87].『中央公論』や『婦人公論』でも 1942(昭和 17)年 1 月号，2 月号に太平洋戦争に関する記事や評論が掲載され,『婦人公論』の 1942(昭和 17)年 2 月号編集後記には国民全体が太平洋戦争の開始を喜びと覚悟をもって迎えたという旨の記述がある．以下に一部を引用する．

積年の鬱血したモヤモヤの感じが一時に発散して、全国民は寧ろ快哉を叫んだ、これが米、英に対する宣戦の大詔を拝した日の全国民の実感であつた。ラジオの前に直立して、あの壮重な声で国民に告げられる大詔を拝しつつ、私は流れ出る泪をとどめえなかつた。戦は長期に亙つて闘はれるであらう。闘ひ勝つ為には極度の刻苦を忍ばねばならぬであらう。然しそんなことが何だ。物の不足はこの感激の日の国民の志を奪ふことは絶対にないであらう。長い戦争の日々の時間も決して国民のこの炳乎として天を貫ぬく壮烈なる志気を蔽ふことはないであらう。過去の光栄ある日本精神を伝承して、今後幾十百年に亙つてこの戦ひがつづかうとも、闘ひ勝つまでは断乎として我等日本国民は聖戦の大詔を押し進めてゆくであらう。

この『婦人公論』の編集後記でも分かる通り，言論メディアは新聞も雑誌も，女性誌であろうと総合誌であろうと，大多数が太平洋戦争開戦を“感激”とともに報じており，この戦争に対する批判的な言説はほとんど見られなかった．

太平洋戦争はその後, 日本がグアム島(1941 年 12 月 10 日), 香港(同年 12 月 25 日), マニラ(1942 年 1 月 2 日), シンガポール(同年 2 月 15 日), バタアン半島(同年 4 月 11 日)を次々と占領するも，1942(昭和 17)年 6 月 5 日に始まったミッドウェー海戦での敗戦を境に 1943(昭和 18)年 2 月 1 日にはガダルカナル島，続く 5 月 29 日にはアッツ島，7 月 29 日にはキスカ島から撤退を余儀なく

[87] 関忠果.雑誌『改造』の四十年.東京,光和堂,1977.661P. p.554-555

され，戦況は一気に連合国軍優勢に傾いていった．そして 1944(昭和 19)年 7 月にサイパン島が陥落すると，1945(昭和 20)年 3 月 10 日よりアメリカ軍による東京への空襲が始まった．そして 1945(昭和 20)年 6 月には沖縄が陥落，同年 8 月に広島(6 日)・長崎(9 日)へ原爆が投下され，太平洋戦争は日本の敗戦で幕を閉じた．

日本の敗色が濃厚となった 1944(昭和 19)年 7 月 18 日のサイパン陥落に際し，『朝日新聞』は 7 月 19 日の社説「寇敵、誓つて撃つ」でそれでも勝利を信ずるべきと主張した．以下に一部を引用する．

戦争の現段階はまさに容易ならぬ局勢を示すに至つた。中部、南西部および北部の太平洋三海面の侵寇作戦を一連とする敵の不逞な企図は、消耗を厭はず豊富なる物量を縦横に駆使しつつわれに逼り、この攻勢の重圧はサイパンの失守によつていよいよ加はつたのである。われわれはこの冷厳なる事実を率直に正視しなければならぬ。しかしながら、戦争の全局から大観するならば、一局部における一時の不利な環境は、歴史が示しているように、いかなる戦勝国といへども勝利への道程において一再ならず直面するところである。サイパンを暫くにせよ敵手に委ねた打撃は決して軽微ではないけれども、われわれの必勝の信念はこれによつていさゝかも揺ぐものではなく、われわれの戦意は断じて阻喪するものではない。

また同 7 月 19 日発行の『毎日新聞戦時版』[88]でも「真の戦ひは之から　闘魂凝集・究極の勝利獲得せん」と枠で囲んだ記事が掲載された．この記事で『毎日新聞』は“今こそ敵を撃滅して勝を決する絶好の機会である”と述べ，再び戦争完遂を主張した．太平洋戦争開戦直後の記事とこれらの記事を比べると，敗色濃厚となったサイパン陥落以降の記事からは，戦果報告よりも“今こそ必勝の時”とひたすら戦争完遂を叫ぶことに重点を置いた(図 8-1)．

真の戦ひは之から
闘魂凝集・究極の勝利獲得せん
令號大へ民國・相首

図 8-1：『毎日新聞戦時版』1944 年 7 月 19 日

このように，太平洋戦争期において国民の「戦争熱」の高まりに一役買っていた新聞が，実際に国民とどのように関わっていたのかを，明治初期より日本の言論メディアの中心となってきた新聞が日中戦争以降に主催したイベントの実態と，新聞の読者層より見ていくこととする．

日本における新聞の読者層について，永嶺重敏は著書『雑誌と読者の近代』(日本エディタスクール出版部，1997)の中で，大正期より義務教育が社会に浸透したことで労働者層や農民層が読者として加わり，新聞の読者層は一部の知識人だけでなく一般の人々にも拡大した，と述べている[89]．永嶺はそれらを“大衆読者層”と呼んでいるが，この“大衆読者層”誕生には新聞紙面の変化も関係している．日露戦争(1894～1895 年)と前後して，新聞が第一面の政治記事に「物語性」

[88] 毎日新聞社は通常版『毎日新聞』に加えて 1944(昭和 19)年 3 月 1 日から 1945(昭和 20)年 3 月 31 日までの約 1 年間に渡り，『毎日新聞戦時版』を発行した．1 号の量は，戦時版は 1 号約 2 ページで当時の『毎日新聞』通常版と同じ．

[89] 永嶺重敏．雑誌と読者の近代．東京，日本エディタスクール出版部, 2004.281P. p.21-24,p.27-29

や「娯楽性」を取り入れて読者層の拡大を狙ったことについて，有山輝雄は『メディア史を学ぶ人のために』(世界思想社，2004)の中で以下のように述べている．

三面記事が読者に提供するのは、若い男女の心中、強盗殺人事件などであり、それらはフィクションではないとされていたが、物語構造を持ってつくられていた。大多数の読者も、それらに含まれる人生の物語(ドラマ)に興味を持ち愛読するのである。そうした記事は、筋立ての悲劇性の強調や残虐な描写に彩られることによって一層ドラマティックになる。記事中の殺人者の名前・住所・年齢などの情報は、多くの読者にとってさほど意味をもたず、記事の真実性を演出する小道具に過ぎないともいえる。

しかも、物語を語る三面記事の手法は、この時期、心中事件や強盗事件ばかりでなく政治・経済など様々な分野で用いられた。例えば、『万朝報』等の報道した相馬事件は、華族相馬家当主の毒殺を暴く老忠臣という御家騒動物語であり、『二六新報』の岩谷松平攻撃キャンペーンは、貧しく健気な少女を玩ぶ悪徳煙草会社を懲罰する物語であった。それらニュースは、情報伝達というより、物語の語りそのものであった。そして、数多くの物語が語られたのは、何といっても日露戦争である。メディアが語る広瀬中佐、乃木希典などの軍神の物語は、読者の大きな興奮を引き起こしたのである[90]。

有山は新聞のこのような紙面を「三面記事的政治記事」と称している．そして有山は『大阪朝日新聞』と『大阪毎日新聞』がこの手法を武器に 1922(大正 11)年 12 月の関東大震災後の関東方面における販売拡張に成功したとし，それに伴う新聞の売り上げ部数の増加についても 1903(明治 36)年から 1923(大正 12)年までの『大阪朝日新聞』『大阪毎日新聞』『東京朝日新聞』の売り上げ部数を提示し，各紙一様に発行部数が約 10 倍に膨らんだと述べている[91]．さらには 1893(明治 26)年 1 月の岐阜県方県群で起こった小作料減額を求めた小作人と地主の対立に始まる小作争議や 1907(明治 40)年に約 240 件と明治期最高数を記録した労働者の罷業は，その後 1918(大正 7)年の米騒動以降，大規模な労働運動として全国に広がった．具体的な例を示すと，小作争議は 1893(明治 26)年 1 月の岐阜県方県群で農民の小作料減額を要求する小作人と地主の対立に始まり，その後新潟県や大阪府の農村でも同様の争議が起こっている．労働者の賃上げを主な要求内容とした罷業も 1907(明治 40)年には約 240 件にのぼり，明治期の最高数を記録した．こうした運動は 1918(大正 7)年の米騒動以降，大規模な労働運動として全国的に広がりを見せた[92]．こうしたことがもたらした労働者・農民層の読書機会の増加も「大衆読者層」誕生の一要因であると考えられる．このようにして，新聞メディアは一部の知識人のものだけでなく，一般大衆の身近な情

---

[90] 有山輝雄 竹山昭子.メディア史を学ぶ人のために.京都,世界思想社,2004.367P. p.103

[91] 有山輝雄 竹山昭子.メディア史を学ぶ人のために.京都,世界思想社,2004.367P. p.104-105
有山は“共通の統計が存在しないため同時代の推定に頼らざるを得ないが”と前置きした上で,『二六新聞』(1903.11.25),『広告大福帳』(毎日繁昌社,1904.10),『新聞及新聞人』(後藤三巴楼主人,二松堂書店,1915),『警視庁統計書』(1899),『新聞通信社一覧表』(内務省資料,1907)による調査をまとめている．それによると，1903(明治 36)年の『大阪朝日』は 104,000 部,『大阪毎日』は 92,355 部,『東京朝日』は 73,800 部であるが, 1914(大正 3)年は『大阪朝日』350,000 部,『大阪毎日』330,000 部,『東京朝日』120,000 部と軒並み発行部数が増加している．また，1924(大正 13)年 1 月 1 月 1 日には『大阪毎日』『大阪朝日』がともに 1000,000 部を突破したと自紙で発表している．

[92] 毎日コミュニケーションズ出版部.明治ニュース事典 5.東京,毎日コミュニケーションズ,1985, 832,93P. p.160-163
毎日コミュニケーションズ出版部.明治ニュース事典 6.東京,毎日コミュニケーションズ,1985,816,125P. p.216-218

報メディアとして読まれるようになっていった.

一般大衆にとって身近となった新聞メディアは，日中戦争から太平洋戦争期において様々なイベントを主催し，大衆の「戦争熱」を煽っている．津金澤聰廣，有山輝雄編著の『戦時期日本のメディア･イベント』(世界思想社，1998)では，巻末資料として「戦時期マス･メディア・イベント年表(1931-1944)」[93](井川充雄編)を掲載しており，これによって日中戦争から太平洋戦争期における新聞のメディア･イベントを見ていくと,「北支事変写真展開催」(1937 年 8 月『朝日新聞』主催)や「支那事変展覧会開催」(1937 年 11 月 16 日『信濃毎日新聞』主催)といった写真展覧会の他に「廃品回収運動，国民服募集制定に協力」(1939 年 7 月『大阪毎日』『東京日日』共催),「排英外交大演説会開催」(1939 年 7 月『報知新聞』主催),「必勝祈願競歩大会主催」(1943 年 2 月『熊本日日新聞』主催),「楽団総動員・決戦音楽会を開催」(1943 年 7 月『毎日新聞』主催)など「決戦」や「必勝」などのスローガンを冠したスポーツ競技会や音楽会，その他ニュース映画の上映や前線への青年団派遣などを行っている．イベント主催者としては『朝日新聞』や『毎日新聞』が目立つほか,『熊本日日新聞』や『信濃毎日新聞』,『九州日日新聞』などの地方紙の名も挙がっている．新聞がこれらのイベントを主催したことの背景について，井川充雄は『新聞・雑誌・出版』(ミネルヴァ書房，2005)の中で以下のように述べている.

> 〔新聞社がイベントを主催するのは〕自社の宣伝の場になり、また新聞の声価を高めるからでもあるが、みずから造り出したイベントが「ニュース」となり、読者の関心を引きつけるからでもある。
>
> ここで重視したいのは、イベントなら何でもよいわけではないということである。時代や社会の状況にマッチしたものでなければ、大衆の関心を引き寄せることはできないからである。その時々の大衆の欲望をいち早く察知し、それを可視化できる形式に作り上げ、演出する。こうして、消費可能なメディア・イベントに仕立て上げられるのである。そのようなイベントだけが、読者たる大衆を一つの方向へと動員することに成功するのである[94]。(〔　〕内記述は筆者)

ここで注目したいのは，1939(昭和 14)年 7 月に『大阪毎日新聞』と『東京日日新聞』が主催した「廃品回収運動，国民服募集制定に協力」である．当時「廃品回収運動」を盛んに行っていたのは大日本国防婦人会であり，その活動については加納実紀代著『女たちの<銃後>』(筑摩書房，1987)に詳しく述べられている.

大日本国防婦人会は 1932(昭和 7)年 3 月に大阪の主婦が中心となって発足し，廃品回収や慰問袋の募集，傷痍軍人や遺族の後援，国防献金などを行った．あらゆる階級の女性，とくに農村の女性や娼婦などを分け隔てなく会員として受け入れることで規模を拡大し,「国防は台所から」をスローガンに全国各地で活動を行った．大日本国防婦人会がどのように戦時体制と結びついていたかを示す例として,『女たちの<銃後>』の中で加納は以下のように述べている.

> 『大日本国防婦人会十年史』には、面白い図が載っている。真ん中に傷痍軍人や出征兵士の家族、戦死者の遺家族、そのまわりを国防婦人会の女たちがとりまき、さらにその外側を在郷軍人会の男たち、そして両端で、憲兵と警察がニラミをきかせている――という図である。つま

---

[93] 津金澤聰廣 有山輝雄.戦時日本のメディア・イベント.世界思想社,1998,250P. p.221233

[94] 山本武利[他].新聞・雑誌・出版.ミネルヴァ書房,2005,341P. p.159-160

り、反戦、厭戦思想の発生地になりやすい傷痍兵や遺家族を監視するのに、警察や憲兵といったむき出しの権力ではカドが立つ。当たりのやわらかい女たちをクッションにして抑え込もうというのだ。戦時体制が国防婦人会に期待したものが何であったか、この図はみごとに表している[95]。

加納によると，大日本国防婦人会は傷痍軍人や戦死者遺族の慰問，廃品回収，夫を戦地へ送り出した母子家庭の支援などの活動を行い，陸軍省が彼女たちのそうした活動を反戦思想の抑え込みに利用したということである．そして彼女たちの活動をイベントによって後押ししたことは，新聞メディアもまた陸軍省の狙いである反戦思想の抑え込みに加担したと見ることができる．

数々のイベントを仕掛け，大日本国防婦人会の活動を支援した新聞が人々の戦時生活にどのように受け入れられていたかを，評論家の清沢洌は『暗黒日記』(岩波書店，1960)で以下のように述べている．

十月十六日(月)

行列が街に蜿々と続く。新聞を買わんがためだ。大体近頃の風景だが、特に今日、長いのは十二日夜半、十三日薄暮、十四日昼間、同薄暮の三日間にわたる戦果の詳報を知らんがためだ。街の人々がいかに捷報に飢えているかを知るに足る[96]。(下線筆者)

戦争記事満載の新聞は大衆にとって身近な「情報源」であり，多くの人が戦争の経過に対する答えを新聞に求めていた様子が伝わってくる．新聞は日清・日露戦争や関東大震災，太平洋戦争に際し，本来の特徴である「速報性」に「娯楽的要素」を加えることで発行部数を伸ばし，マス・メディアとして成長を遂げてきた．これらのことより日中戦争から太平洋戦争までの日本では，大衆読者層を獲得した新聞がメディア・イベントの主催や団体活動の宣伝などを行い，「戦争」が国を挙げての一大イベントのように扱われていた，と見ることができる．

こうした中で，『週刊朝日』と『サンデー毎日』がどのような記事を掲載していったのか，ここではまず両誌の戦争報道記事に見られる特徴を調べ，続いて I,II 期を通して掲載数の多かった文芸記事に関連し，文学者(小説家)の役割について考察することとする．また，II 期の集計で戦争の激化とともに記事数の増加した座談会記事の役割についても見ていくこととする．

8.2　戦時下の記事数にみる特徴

『週刊朝日』と『サンデー毎日』の戦争記事を II 期の集計(表 4-2 及び図 4-16，4-17)より見ていくと，『週刊朝日』は全体の 18%で文芸記事に次ぐ 2 番目，『サンデー毎日』は全体の 11%で文芸記事，娯楽記事に次いで 3 番目に多くなっている．これは I 期の 1%(図 4-12，4-13)から飛躍的に増加していることを表しているが，I 期は日中戦争以前の集計で，実質誌面に「戦争」が反映する期間がほとんどなかったためであり，II 期における戦争記事の増加は誌面に「戦争」が色濃く反映したということを表すに過ぎない．戦争関連記事には関東大震災の記事等と同様，報道や評論，小説等様々な種類があるが，まずは II 期における戦争記事を，「評論・解説」，「報道・

---

95 加納実紀代.女たちの<銃後>.筑摩書房,1989,259P, p.59-60

96 清沢洌.暗黒日記.東京,岩波書店,1960.390P. p.236

ルポルタージュ」，「文芸」(随筆，実話，所感，体験記等)，「実用」(家事一般，節約術等)，「娯楽」(映画，スポーツ等)，「座談会」，「写真・絵画」(表紙絵を含む)，「その他」の 8 つの項目に分類し，集計した(図 8-2，8-3).

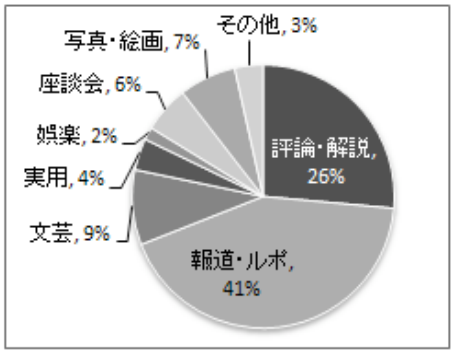


図 8-2：『週刊朝日』戦争記事の内訳

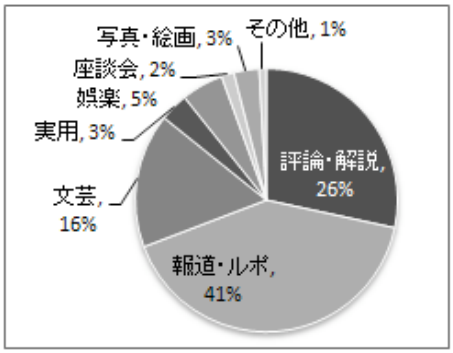


図 8-3：『サンデー毎日』戦争記事の内訳

このグラフからは，両誌における 8 項目の記事の割合が，ほぼ同じであったことが分かる．「評論・解説」と「報道・ルポルタージュ」が多いのは，戦争の激化と共に戦況を報告する記事，従軍した記者の手記，今後の見通しについての評論，武器や軍備の専門知識，戦時経済等の記事が増加したことにより，この 2 つの項目の記事が多いと考えられる．『サンデー毎日』の方が「文芸」と「娯楽」が，『週刊朝日』の方が「座談会」と「写真・絵画」がやや多くなっている点が，両誌の間での異なる点として挙げられる．戦争期にあたる II 期の集計では，I 期と比べて娯楽記事や文芸記事は減少傾向にあるとはいえ，このように戦争関連記事だけで分類を試みても，『サンデー毎日』では「文芸」が 16%と報道や評論記事に次ぐ多さになっていることからは，両誌における文芸記事が両誌にとって重要な意味を持つ要素であることがうかがえる．この集計では，表 3-1 で分類した「戦争小説」や「従軍小説」は戦争記事とは別に集計をしているため，ここで表す「文芸」記事に小説は含まれない．しかし，II 期の集計(図 4-16，4-17)で示す通り，小説を含む文芸記事全体が II 期においても最も多い記事であったことより，戦時における小説の役割については，8 章 8.7 で従軍作家を含めた文学者(小説家)の傾向等を調査し，考察をしていくこととする．

次に，分類した戦争記事を年別に集計し，各項目でどのような推移を見せているかを示す．その際，「報道・ルポルタージュ」，「評論・解説」，「文芸」の 3 項目は他の項目と最大値に開きがあるため，グラフの見やすさを考慮し，この 3 つの項目と，他の項目(「実用」「娯楽」「座談会」「写真・絵画」の 4 項目，※「その他」は除く)でグラフを分けることとした．

図 8-4，8-5 は，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の「報道・ルポルタージュ」，「評論・解説」，「文芸」の 3 項目のデータをもとに作成したグラフである．このグラフを見ると，「報道・ルポルタージュ」は，『週刊朝日』の満州事変関連記事でも見られたのと同様に，日中戦争勃発後の 1937(昭和 12)年から 1938(昭和 13)年にかけてと，太平洋戦争勃発後の 1941(昭和 16)年から 1942(昭和 17)年にかけて増加していることが分かる．日中戦争以降は新聞各社，出版社はこぞって従軍記者を増員し，武漢攻略戦(1937 年 6 月 11 日～10 月 27 日)では各社の記者，カメラマン，映画班，航空部員等の数は 2,000 人を超えた．この中で朝日新聞社と毎日新聞社も従軍記者やカ

メラマンの派遣人員を大幅に増やし，武漢攻略戦では朝日新聞社は約 400 名[97]を派遣している．彼ら従軍記者の手による報道記事やルポルタージュは，太平洋戦争終結に至るまで数多く掲載され，特に太平洋戦争開戦以降はこうした記事が主流となっている．また，「評論・解説」も「報道・ルポルタージュ」と同様に，戦争の激化とともに増加し，執筆者には「〇〇大佐」や「△△大将」といった軍関係者の名前が目立つようになっている．

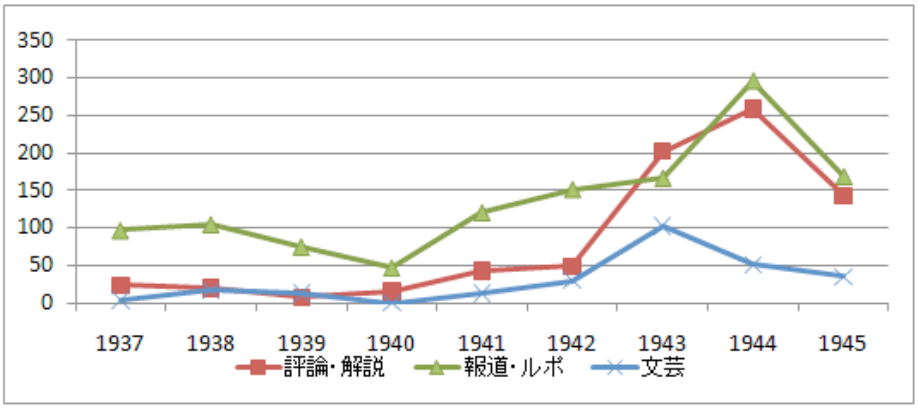


図 8-4：『週刊朝日』上位 3 項目の分類別記事数の推移

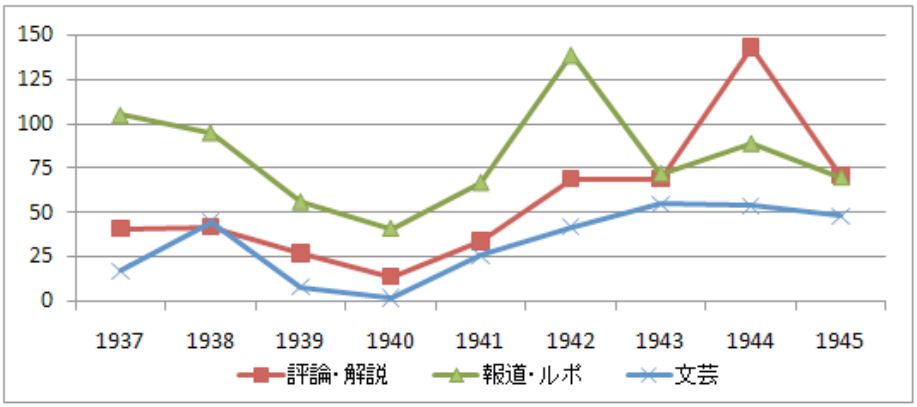


図 8-5：『サンデー毎日』上位 3 項目の分類別記事数の推移

これらの戦争に関する評論やルポルタージュについては，新聞メディアの言説，特に両誌の発行元である朝日新聞社と毎日新聞社発行の 2 紙における戦争報道の手法や特徴との比較を行い，週刊誌メディアが「戦争」をどのように報道したか，見ていくこととする．

その他の項目を見ていくと，「文芸」は『週刊朝日』では 1943(昭和 18)年が大幅に増加した以外では 50 以下の年がほとんどであるが，『サンデー毎日』では 1938(昭和 13)年に一時増加し，1941(昭和 16)年以降は継続的に増加している．『週刊朝日』の 1943(昭和 18)年の目次を見ると，同年 1 月 3 日・10 日合併号より連載記事「勤皇史蹟行脚」が開始され，大仏次郎，貴司山治，火野葦平，海音寺潮五郎，尾崎士郎，村松梢風の 6 名の小説家がそれぞれ 3～5 回の連載を担当し，従軍手記を書いている．この他，1942(昭和 17)年 1 月から 7 月にかけて断続的に掲載されていた読者投稿企画「昭和防人の歌」が，1943(昭和 18)年 1 月 24 日号より連載企画として始まってい

97 朝日新聞百年史編修委員会.朝日新聞社史　大正昭和編.東京,朝日新聞社,1995,682P. p.502

る．この企画は読者から投稿された「防人の歌」(俳句，短歌等)を掲載し，斎藤瀏(軍人・歌人)と富安風生(俳人)が批評するというものであった．なお，「昭和防人の歌」は 1945(昭和 20)年 8 月 12 日・9 日合併号まで続いている．これらのことが，『週刊朝日』の 1943(昭和 18)年における「文芸」記事の増加の要因であるといえる．これに対し『サンデー毎日』では 1938(昭和 18)年は戦争の実話や，濱本浩や林芙美子，井伏鱒二ら小説家の従軍体験をつづった随筆等が掲載されている他，1944(昭和 19)年 7 月 23 日号より連載企画「決戦川柳」を開始し，読者から投稿された川柳を掲載している．両誌に共通するのは，川柳や俳句等の文芸作品を読者から募集し，それを掲載するという点であるが，俳句や川柳の募集は戦前にも行われていた「読者参加型」の企画である．この企画が戦時下では「防人」や「決戦」という名称が付き，読者の太平洋戦争下に対する「国土防衛」や「本土決戦」の覚悟を問う役割を果たしていると見ることができる．

次に，その他の 4 つの項目について推移を見ていくこととする．以下の図 8-6, 8-7 は，「実用」，「娯楽」，「座談会」，「写真・絵画」の 4 項目のデータより，『週刊朝日』と『サンデー毎日』の記事数の推移を示すグラフである．

『週刊朝日』では 1938(昭和 13)年と 1943(昭和 18)年，1944(昭和 19)年に実用記事が増加しているが，これは同年 2 月 13 日号より「戦時家計読本」(大山千代雄)が，1943(昭和 18)年 4 月 25 日号より「銃後の姿」(芳賀檀，白石凡，津村秀夫)が，1944(昭和 19)年 1 月 2 日・9 日合併号より「決戦衣食住」(筆者不明)がそれぞれ掲載されたことが要因として挙げられる．II 期における実用記事の多くが，家計や食糧，物資のやりくりを主眼に置いた節約読本のようなものであり，季節の料理や子供服の縫い方が主流であった I 期の実用記事と比べると，戦争を反映した記事に変化しているのが分かる．

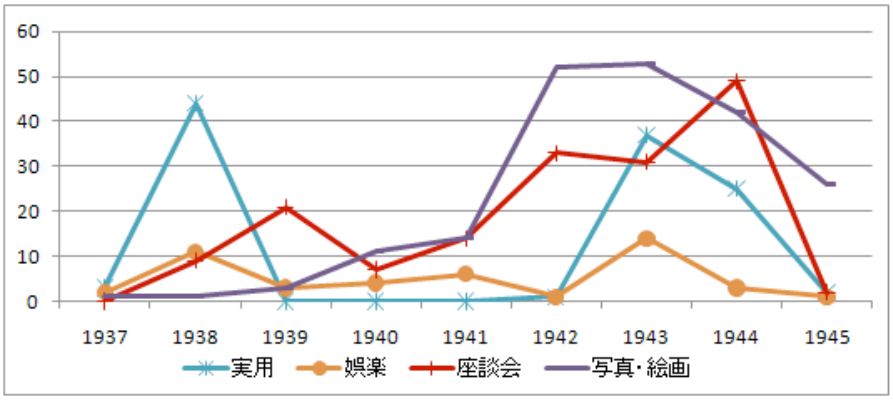


図 8-6：『週刊朝日』その他の 4 項目の分類別記事数の推移

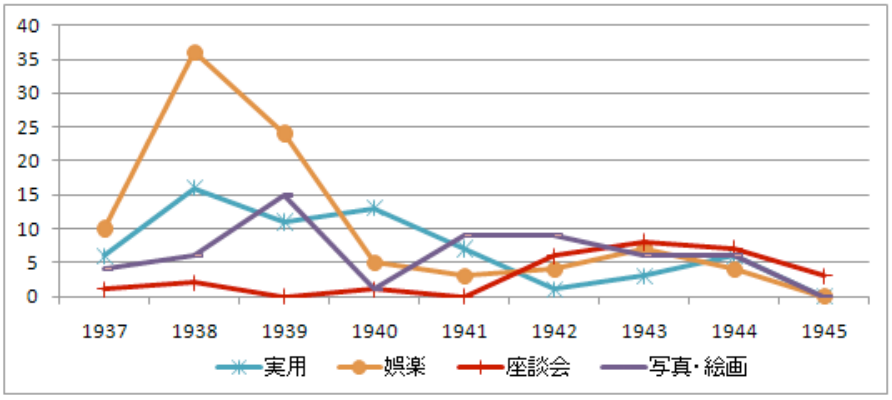


図 8-7：『サンデー毎日』その他の 4 項目の分類別記事数の推移

また，『週刊朝日』では「座談会」と「写真・絵画」も太平洋戦争開戦後に増加傾向にあるが，「写真・絵画」の項目には表紙も含まれており，『週刊朝日』では 1940(昭和 15)年 9 月 22 日号よりほぼ毎号が「海軍少年航空兵」(1940 年 9 月 29 日号)や「ニューギニア沖東方敵機部隊強襲」(1943 年 1 月 24 日号)等の絵画が使用されており，「写真・絵画」203 のうち 191 が表紙絵である．『週刊朝日』と『サンデー毎日』の表紙は，大正末期から昭和初期にかけては映画女優や舞台女優等が主流で，オフセット刷の色鮮やかなものが多かったが，太平洋戦争末期は経費や紙の配給の影響もあり，表紙から色とりどりの華やかさは消え，勇ましい兵士の姿や銃後を護る女性の姿が描かれており(図 8-8)，戦争の影響を読み取ることができる．

「座談会」記事の増加は両誌ともに見られる傾向であるが，『週刊朝日』のほうがより大きく変化していることが分かる．座談会記事は創刊当初はほとんど見られなかったものであり，『週刊朝日』は 1927(昭和 5)年 10 月 3 日号の「着物座談会」が最初で，通号では 670 の座談会が掲載されている．このうち II 期において掲載されたのは 605 で，全体約 90%が 1937(昭和 12)年以降に掲載された．これに対し『サンデー毎日』は 1924(大正 13)年 1 月 13 日号の「三面座談」が最初で，通号での座談会記事数 327 のうち 211，全体の約 65%が II 期に掲載されたものである．座談会記事の数自体は報道記事や評論記事には及ばないが，両誌を通じて 6 割以上，『週刊朝日』に至っては 9 割以上の記事数が日中戦争以降に集中していることを考えると，座談会記事と戦争の関係について考察すべきであると判断した．座談会記事に関する分析と考察は，8 章 8.6 で述べることとする．

図 8-8：『週刊朝日』1944 年 12 月 17 日号表紙

8.3 『週刊朝日』の戦争報道

日中戦争が勃発した 1937(昭和 12)年 7 月以降，『週刊朝日』誌上には頻繁に「支那事変」や「北支事変」の文字が見られるようになった．1937(昭和 12)年 7 月 25 日号に「挑まれた北支事変」(畑山浩)が掲載されたのを皮切りに，8 月 1 日号に「北支事変画報」〔写真〕と「北支事変早わかり集」が続けて掲載され，その後も 8 月 8 日号から「支那事変・週間展望」の連載が開始された(1938 年 12 月 26 日号まで)．この連載は毎号約 4 分の 1 ページ分を使って日中戦争の近況を伝えるもので，中国大陸で行われている戦争の状況を週ごとに細かく伝えるものである．また，1937(昭和 12)年 9 月 26 日号から同年 12 月 19 日号まで(10 月 1 日秋季特別号は除く)の 12 号分，期間にして約 2 ヶ月半に渡り「支那事変特集ページ」と題して巻頭から約 18 ページを日中戦争の近況を伝える記事や戦争用語解説コーナー(9 月 26 日号「早わかり講座」他)，戦争に関連のある文芸作品(9 月 26 日号「銃後」(北村小松)他)，座談会(10 月 3 日号「北支・上海本社従軍記者座談会」

他)，ルポルタージュ(10 月 10 日号「戦線ルポルタージユ」他)等を掲載している．11 月 1 日秋の大衆読物号においても「事変特集読物」と題して大江専一の手記「支那の舞台裏」や海野十三の小説「機械兵士」，平林たい子の小説「燕の都」を掲載した．それまで文芸特集号には政治や事件などの時事ニュースの要素を取り入れてこなかった『週刊朝日』であるが，日中戦争開戦以降，文芸特集号にもこのような戦争小説や手記が掲載されるようになった．

1938(昭和 13)年 2 月 6 日号から 4 月 24 日号まで,『週刊朝日』には「事変をめぐる時局読本」と題した連載評論が掲載された．これは各界の著名人に日中戦争の戦略やソ連の軍事力などについて語らせたもので，主な執筆者としては，日露戦争(日本海海戦)に従軍し，1911(明治 44)年にその経験から戦争小説『此一戦』を発表した水野広徳や，元南満州鉄道株式会社東亜経済調査局員で『朝日新聞』論説委員の嘉治隆一，南満州鉄道株式会社理事の十河信二，海軍中佐の松島慶三，評論家の尾崎秀実,『朝日新聞』論説委員の米田実らがいる．水野は日米非戦論者として満州事変以降の文筆活動をほとんど行えなかったが，この時期に『週刊朝日』に評論が掲載されたのは，水野の持つ「非戦論」の根底にある，“大義”の存在である．水野の著書『此一戦』について，黒古一夫は『戦争は文学にどう描かれてきたか』(八朔社，2005)で以下のように述べている．

> 日露戦争においてその勝敗の行方を決したと言われる「日本海海戦」を、これまたドキュメンタリー･タッチで描いた水野広徳の『此一戦』(明治四四年)も、「血湧き肉踊る」描写の連続という点では、『肉弾』(桜井忠温、丁未出版社、1906)に勝るとも劣らない。当時水雷艇の艦長として海戦に参加した海軍大尉の戦記は、所々にその海戦の模様が具体的な絵(図)によって説明されていて、その意味では読者をして実際の戦に誘い込むような臨場感のあふれるものになっていた。さらに言えば、冒頭の次のような一文に、読者(国民)の心理は揺り動かされ、作品の中に素直な形で入っていくことが出来たと考えられる。
>
> 兵は凶器なり、天道之を悪むも、已むを得ずして之を用ふるは、是れ天道なりと。明治三十七年二月、我が帝国は東洋永遠の平和を維持する為め、茲に已むを得ずして兵を起こし、露国に向つて戦を宣した。敵は人口一億四千万、面積百三十五万方里を有し、欧米列強と雖も、常に其の意に逆はざんことを努めつゝある世界の大強国である。(中略)
>
> それにしても、「東洋永遠の平和を維持する為め」「已むを得ず兵を起こし」とは、よくぞ言ったものだと思う。このような「大義(名文)」は、この後も「日中戦争」「太平洋戦争」等において何度となく聞くことになるが、最新の「イラク戦争」においても「大量破壊兵器」を持つテロ国家の撲滅という「大義」を掲げて遂行されていることを考えると、昔も今も、洋の東西を問わず、戦争には「大義＝建前」が必要だということがわかる。そして、この「大義＝建前」に隠れて見えないのが、兵士一人一人の顔であり、生命である。『此一戦』において、それは顕著である[98]。

日露戦争時の戦争文学の中で,『此一戦』は読者(国民)が日露戦争に感情移入し，すんなりと受け入れられるための“大義”を前面に押し出している，と黒古は述べている．そしてこの“大義”は,『週刊朝日』1938(昭和 12)年 2 月 20 日号に掲載された水野の評論「事変をめぐる時局読本　宿題としての南進論」にも見ることができる．以下に一部を引用する．

---

98 黒古一夫.戦争は文学にどう描かれてきたか.東京,八朔社,2005.191P. p.20-21

欧州大戦のあまりにも大なる惨禍に懲りたる世界は、平和維持の手段として国際連盟を結成し、国家集団の威力の下に国境の現状尊重を強制することゝなり、国境の改変を意図するごとき南進論や北進論は一時全く窒息してしまつたのである。しかし敗戦国に対する極端なる圧迫や小弱国の進展を阻害するが如き現状維持が永く続くものではない。

現状打破の第一の暁鐘を打つたものが満州事変である。満州事変は事後の今日より見れば極めて平凡至当のことのやうであるけれども、これを断行した当時にあつてはノルかソルかの国運を賭した大博打であつたのである。日本に次ぎて第二の鐘を打つたものがイタリーのエチオピア戦争であり、第三鐘がドイツのベルサイユ条約を破棄しての再軍備断行なのであつた。だから日独伊の三国は国際現状打破の鐘撞三人男なのである。

かくて国際関係を縛つた国際連盟の帯は切断され、国際現状の尊重を以て国際仁義となしたる国際観念は棄却せられて、持たぬ国と持てる国との国際不平等の打破調節を以て国際正義と認むる新観念が造られたのである。

持たぬ国である日本の触手が北に、南に、西に、東に動くのに不思議はない。

水野は“南進”の必要性について，満州事変以降に国際連盟を脱退した「持たぬ国」日本が，経済的発展を求めて“南進”するのは当然であり，その要因となったのは国際連盟加盟国による経済制裁にあるとしている．そして日本がこの状況を打破するためには，“已むを得ず”南方諸国へと進攻するしかない，と述べている．この部分には，日論戦争を“平和を維持する為め”に“已むを得ずして兵を起こし”た日露戦争の“大義”が，欧米諸国の経済制裁から脱して行き詰まる国家の現状を打破するため，という形で表れている．

この記事と『此一戦』において共通した視点は，水野が軍事行動による侵攻は“持たぬ国”日本が欧米諸国の経済制裁によって追い込まれた場合にやむを得ず選択する行動であって，決してアジアの覇権に対する欲からではない，というところにある．しかしいかなる理由があるにせよ，他国へ軍事行動によって侵攻するということは，侵略戦争であることに変わりはない．

そして，水野をはじめとする著名な評論家のこうした解説記事，評論記事は，新聞＝マスメディアから一方的に軍にとって都合のよい「事実」を知らされる一般大衆にとって，自己の意思決定に対する一つの指標となることが考えられる．

日中戦争勃発から約 1 年が経過した 1938(昭和 13)年半ばになると『週刊朝日』の日中戦争に関する記事は一時的に減少するが，1940(昭和 15)年 9 月に日独伊三国同盟が締結されると，戦争記事はナチス・ドイツへの関心という形で表れるようになる．『週刊朝日』1940(昭和 15)年 10 月 6 日号の表紙はヒトラーのナチス･ドイツの国家元帥ゲーリングである．目次の「表紙」項目の傍らには，ゲーリングの略歴について“ヒットラー総統の片腕として、苦心惨憺敗戦ドイツの再建に努力し、遂に燦然たるナチ・ドイツの今日を築き上げた大元勤である”との記述があり，ドイツについてはその後も 1941(昭和 16)年 1 月 5 日・12 日合併号に「ナチス独逸は何故強いか」(富成喜馬平)，1 月 19 日号に「ドイツの新大攻勢は？」(浜田常二良)等を掲載し，ヨーロッパにおけるドイツの立場を支持している．そしてドイツの敵国イギリスや中国への武器貸与を決めたアメリカに対しては，1940(昭和 15)年 10 月 20 日号「三国同盟に対しアメリカはどう出る」(野田章)，10 月 27 日号「英国恐るゝに足らず」(船越健作)，「如何にして米を参戦せしめたか」(竹内泰)，1941（昭和 16）年 3 月 23 日号「援蒋ルートの断末魔」(宮本源七郎)といった記事を掲載し，反英米の姿勢を明確に示している．

1941(昭和 16)年 12 月 8 日，ハワイの真珠湾とイギリス領ボルネオに対する攻撃によって始まった太平洋戦争について，『週刊朝日』は 1942(昭和 17)年 1 月 4 日号で特集「大東亜建設戦争」を組み，「創造戦の門出」(齊藤忠)，「十二億の民は同士」(室賀信夫)，「優位の資源解放戦」(西谷弥兵衛)，「人口発展と農産開発」(野間海造)を掲載した．

室賀は，太平洋戦争は“アジア再建のための戦争であり、世界へ新らしい福祉を齎す必然的な過程”であると述べ，西谷も“植民地的な生産様式のなかで窒息してゐる大東亜の資源を我々の手で解放”するための“資源解放戦争”と位置づけている．野間は“大東亜共栄圏”が成立した後に日本農民が集団で移住する際に,“大陸における土地改良地域または南洋における未墾地であれば民族の摩擦もなく行はれ得る”とし，“盟主日本”が中心となって移住計画を立てるべきである，と主張している．以上 3 名の執筆者が述べた太平洋戦争の意義を集約するのが，齊藤忠の「創造戦の門出」である．以下に一部を引用する．

> これ〔太平洋戦争〕は、至仁至愛の大御心を奉じ、皇道文化の精髄を以て、アングロサクソンの功利主義、搾取主義、侵略主義文明を粉砕するのである。随つてアジアに、英米搾取勢力、侵略勢力の一片たりとも形を止むるあひだは、われらは断じて鉾を収めてはならぬのである。
>
> 或はこれは十年、二十年の久しい年月を必要とするかも知れぬ。かゝる偉業の達成には、もとよりかゝる忍耐と努力とを要すべきはいふを俟たぬ。しかしながら一日一日の創造と建設とを楽しみつゝ、愉楽を以て続け得る努力なのである。前途に炳たる希望の光明を望みつゝ、歓喜を以て受取り得る忍苦なのである。
>
> われらは世界維新の先覚者なのである。われらは新しき歴史を開く創造者なのである。国民は深くこの自覚と自信とを持て。アジア復興の任務、国体顕彰の使命はいま、われらが双肩にかゝる。一億ともに手を携へて、敢然として先駆者の歩む輝かしい荊の道を行かう。(〔　〕内記述は筆者)

この記事で齊藤は“世界維新の先覚者”として“アジア復興の任務”を果たすべく始めた太平洋戦争に対し，国民に“自覚と自信”を持てと呼びかけている．4 名の執筆者に共通する点は，日本がアジアの新しい歴史を創造する“先覚者”であると主張していることと，太平洋戦争に至るまでの日中戦争の経緯についてほとんど触れていないことである．この特集記事を掲載した『週刊朝日』の狙いはまさにそこに集約されており，この特集によって『週刊朝日』は，太平洋戦争をアジアが“大東亜共栄圏”として欧米諸国と肩を並べるための“建設戦争”であると位置づけていることが分かる．

1942(昭和 17)年 6 月のミッドウェー海戦，8 月から 11 月にかけてのガダルカナル島をめぐる戦いでの相次ぐ敗戦は，太平洋戦争における日本の先行きに暗い影を落とした．そうした中,『週刊朝日』は同年 12 月 13 日号に堀公一(情報局第 3 部長)の「敵国の思想宣伝を撃砕す」を掲載した．堀は太平洋戦争が“武力戦”，“経済戦”，“思想戦”の 3 要素を含む“総力戦”であると定義し，それら全ての勝敗を決めるのは“国民の力”であると述べた後，日本とアメリカ・イギリスの思想戦略の違いを，戦況報告を例に挙げて説明している．堀によるとアメリカは戦況発表に関しては“嘘”ばかりで,“まことに見苦しい醜態を暴露”しているが，日本は“宣伝は事実を基礎とすべしとの大原則”に則って行っており，“新聞に，放送に，ポスターに，パンフレットに映画に，講演に，国民大会に，あらゆる方法を利用”して「真実」を伝えていると述べている．そして堀は，アメリカやイギリスの仕掛ける思想戦に勝つためにはどうするべきかを，以下のよう

に述べている．

敵側宣伝は前にも述べた通り現在のところ、概して拙劣であるし、通信の関係からわが日本にはなかなか到達し難いから、現在ほとんど効果を挙げてゐない。しかし長期戦ともなれば、敵の技術も進歩しようし、また幾多の新法を案出して来るだらうから、勿論油断は禁物である。心の弛みを出さぬことが最も大事である。

しからばどうこれに対処すればよいか。一言にしていひ尽せば、国民の一人一人がますます必勝の信念を堅むるとともに必勝に伴ふ忍苦といふか、辛抱といふか、いかなる困難にも、国家のために堪へ忍んで、米英等敵国を完全に撃破するまで戦ひ抜くといふ堅い決心を、日々新たにして行くことである。この信念とこの決心とさへあれば、外から来る毒物を解毒し得るは勿論、体内に自発的に毒物を発生せしむる自家中毒の心配もなくなり、思想戦の必勝体制が完成せられるのである。

ミッドウエー沖に大海戦
アリューシャン列島猛攻
陸軍部隊も協力要所を奪取
米空母二隻撃沈
わが二空母一巡艦に損害
太平洋の戰局此一戰に決す
東太平洋の敵根據地を襲撃

図 8-9：『東京日日新聞』1942 年 6 月 11 日

堀は読者に向けて「思想強化運動」が“事実に基づいて”いると主張するが，ミッドウェー海戦での大本営の戦果発表は「嘘」だらけであった．実際にはミッドウェー海戦で日本は空母 4 隻，重巡洋艦 1 隻，航空機 322 機，人員 3,500 名を失い，対するアメリカは空母 1 隻，駆逐艦 1 隻，航空機 150 機，人員 300 名とその差は歴然であったにも関わらず，大本営発表ではこの完敗を伝えず，新聞メディアもこれに従った報道をしている．1942(昭和 17)年 6 月 11 日の『東京日日新聞』にはミッドウェー海戦と同時に行われたアリューシャン攻略での戦果を大々的に報道し，ミッドウェー海戦の詳細には触れていない(図 8-9).

また『週刊朝日』でも 1942(昭和 17)年 6 月 28 日号に「アリューシャン列島」(中川甚蔵)が掲載されたのみで，目次項目には「ミッドウェー」の文字すら見つけ出すことができない．そしてこの評論の要といえる上記の引用部分では，アメリカやイギリスの主張は全て嘘ばかりの“毒物”であり，それらに打ち勝つために改めて必勝の信念を胸に刻むようにと進言している．このことからは，大本営発表だけを信じ，勝利を信じよとするこの主張こそが国民に向けての「情報戦」であると見ることができる．

1942(昭和 17)年 8 月，日本陸軍はアメリカとオーストラリアの連絡路を断ちソロモン諸島海域を制圧する目的で，ガダルカナル島に全長 800 メートルの滑走路を持つ飛行場を完成させた．アメリカはオーストラリアとの連絡路の確保のため，8 月 8 日にガダルカナル島へ上陸した(第 1 次ソロモン海戦)．その後 8 月 24 日に第 2 次ソロモン海戦，10 月 11～12 日にサボ島沖海戦，10 月 26 日に南太平洋海戦，11 月 12～14 日に第 3 次ソロモン海戦と立て続けに日米両軍は対戦し，両軍とも空母，重巡洋艦，駆逐艦等に多大な被害を出し，熱帯の島での戦いで多くの兵士が戦闘や病気で命を落とした．この戦いについて『週刊朝日』は 1942(昭和 17)年 11 月 15 日号に齊藤忠の「南太平洋開戦の意義と影響」を掲載している．南太平洋海戦で日本軍が空母 2 隻，重巡洋

艦 1 隻，駆逐艦 2 隻を損傷したのに対し，連合国軍は空母 1 隻と駆逐艦 1 隻が沈没，戦艦 1 隻，空母 1 隻，重巡洋艦 1 隻，駆逐艦 2 隻が損傷を受け，日本は一応の「勝利」を収めていた．このことについて，齊藤は記事の中で以下のように述べている．

真珠湾にあるひは沈みあるひは傷ついた八隻の主力艦は、合衆国太平洋艦隊主力のほとんど全部でありました。珊瑚海に損傷を受けた戦艦「ノース・カロライナ」は合衆国海軍最新鋭の高速十六インチ砲艦であつたのであります。ブラジル沖と西阿沖でイタリア海軍の潜水艦「バルバリーゴ」の魚雷に屠られた二隻も、一はわづかに残る二隻の十六インチ砲艦の一隻であり、他はまた三隻をあますに過ぎぬ健全な第一線の十四インチ砲戦艦の一隻でありました。

合衆国海軍に残る主力艦を指折りかぞへる人は、寥々たる第一線艦の数に愕然とするでありませう。航空母艦勢力もまた、一応はたゞ二隻をのこして潰滅し去つたのであります。その数少いがなかにも少い貴重な主力艦を動員し、新造航空母艦の一群に配して、南太平洋に大反攻の姿勢をとつたといふことは、尋常一様のことではありませうか。おそらく合衆国海軍は、合衆国海軍なりに、必勝の信念を抱いて来襲してきたことゝと思はれるのであります。

それだけに、この戦闘〔南太平洋海戦〕の勝敗の影響するところは大きかつたのであります。これは、合衆国海軍が全力を竭しての大反攻が、帝国海軍の鉄壁の守りに微塵に粉砕されたことを意味するのでありますから。(中略)国民は、この海戦の無形の戦果として、帝国の戦形の天衣無縫なるに寄する火のやうな自信を得たのであります。

それにしても、この壮大無比な戦形は、一応は完成したとはいひながら、これを真実に百戦不敗の備へとして完了するには、まだまだ激しい努力を経なければなりませぬ。米合衆国の狂気のやうな増産計画も、ただ帝国のこの備への成らぬうちに、帝国を生産戦によつて圧服しようとするものにほかならぬのであります。三百五十の船台は、その海軍のために、商船隊のために、日夜、打鋲機の咆哮を絶たぬといひます。六万の航空機、八百万噸の船舶、――合衆国の豪語は、けつして空虚な放言ではありませぬ。(中略)

この気合の戦ひに敵を圧倒し得たとき、百千の艦艇も、万の航空機も、合衆国のために何事をなし得ませう。彼等はその艦隊を用ふる基地をもたず、その大空軍を駆使すべき足場をもたぬのであります。彼等は、その厖大な建艦計画を支ふべき戦略資源の半ばを完全に喪ふのであります。(〔　〕内記述は筆者)

上記の引用部分は，冒頭の南太平洋海戦に至るまでの経緯(マレー半島・真珠湾攻撃からマレー沖海戦，アリューシャン列島攻略での戦果)について述べた後に記述された部分である．この評論で齊藤は，ガダルカナル島を舞台にした南太平洋海戦の戦果を大本営発表に基づいて説明し，この戦いの“勝利”はアメリカとオーストラリアの連絡路を断ち，アメリカの南太平洋における軍事拠点構築を阻止した点で大きな意味があると述べている．

南太平洋海戦は撃破した戦艦等の数では日本がアメリカに「勝利」したが，鍵となったのは日本陸軍がガダルカナル島に建設した飛行場をどちらが制圧するかということであった.『大東亜戦争海軍戦記第 3 輯』(大日本海軍報道部編．興亜日本社，1943)によると，南太平洋海戦の戦果についての大本営発表は「帝国海軍部隊は十月二十六日黎明より夜間に亘りサンタクルーズ諸島北方洋上に於いて敵有力艦隊と交戦，敵航空母艦四隻，戦艦一隻，艦型未詳艦一隻を撃沈，戦艦一隻，巡洋艦三隻，駆逐艦一隻を中破し，敵機二百機以上を撃墜その他により喪失せしめたり．我が方の損害　航空母艦二隻，巡洋艦一隻を小破せるも，何れも戦闘航海に支障なし，未帰還四十

数機」(10 月 27 日)というものであり，引用した斉藤の記事は 10 月 27 日の大本営発表に基づいて書かれている．上記の評論で斉藤は，日本軍が“この気合の戦ひに敵を圧倒し得たとき”アメリカ軍は“艦隊を用ふる基地をもたず，その大空軍を駆使すべき足場をもたぬ”と述べ，ガダルカナル島の飛行場が南太平洋における戦略基地としていかに重要なものであるかを指摘している．この記事が掲載された 11 月 15 日は第 3 次ソロモン海戦で日本軍がアメリカ軍から飛行場を奪還することに失敗した直後であり，第 3 次ソロモン海戦に関する大本営発表は 11 月 17 日で，その内容を再び『大東亜戦争海軍戦記第 3 輯』によって見ていくと，撃沈あるいは破損したアメリカ軍の戦艦の数は示しているが，飛行場に関する発表はなされていない．そして『週刊朝日』でも，本来であれば 11 月 17 日の大本営発表が掲載されるはずの 11 月 21 日号を見ても第 3 次ソロモン海戦に関する記事はなく，巻頭に「帝国陸軍を讃へる(大東亜戦争一周年を迎へて)」(百田宗治)，続いて対談「大東亜戦争一周年を迎へて」が掲載されただけであった．続く 11 月 29 日号も同じように「戦果」を報告する記事はなく，次の 12 月 6 日号でようやく大本営海軍報道部課長の平出英夫による「ソロモン海戦の意義」が掲載されただけであった．『週刊朝日』の記事だけを見ると，あたかも南太平洋における戦いで日本がアメリカ軍を打ち負かしたような印象を受けるが，実際の戦況と記事を見比べると，大本営によって日本海軍が南太平洋における制空権を失ったことが隠され，撃破した飛行機や戦艦の数ばかりを発表して「戦果」としていた背景が浮かび上がってくる．

そして，ここでも大本営発表に従った誌面づくりをした『週刊朝日』の戦争報道は，国民に“天衣無縫”な軍に寄せる“火のやうな自信”を与え，ガダルカナル島から日本軍が撤退を開始した 1943(昭和 18)年 2 月 1 日以降は南太平洋をめぐる戦争に関する記事がほとんど掲載されていない．その頃の『週刊朝日』の目次を見ると，2 月 7 日号に「ソロモン戦局はどうなる？」(泉毅一)が掲載されたが，その後はガダルカナル島やソロモン海域に関する記事はなく，太平洋戦争初期に勝利を収めたマレー及びシンガポール攻略戦の記録映画『マレー戦記』(日本映画社製作)についての座談会「『マレー戦記』を語る」(2 月 7 日号)や，対談「逞しくマライは復興した」(2 月 21 日号)，対談「南方の楽園ボルネオを語る」(4 月 4 日号)が掲載され，太平洋戦争の記事が南太平洋から東南アジアへと移っている様子が分かる．再び南太平洋へ目が向けられたのは 1944(昭和 19)年 7 月のサイパン陥落に際してで，7 月 16 日号「サイパンの血戦を想ふ」(鹿児島寿蔵)，「サイパンに誓ふ」(室生犀星)，7 月 23 日号「骨髄に徹せよ！サイパンの恨み」(嘉治隆一)，7 月 30 日号「サイパン島の勇士を讃ふ」(佐佐木信綱)，8 月 13 日号特集「サイパン以後」(「血盟連判の誓ひ」(立野信之)，「朗かに黙々働く」(今日出海)，「戦ふ三人の姉妹」(壷井栄)以上 3 編)，8 月 27 日号「サイパン同胞自決の報に際して」(小牧実繁)が掲載された．

その後『週刊朝日』の視点は 10 月 24 日に始まったフィリピン沖海戦(レイテ沖海戦)へと移される．サイパン陥落を受けて大本営陸海軍が 7 月 24 日に策定した「陸海軍爾後ノ作戦指導大綱」では次の決戦地は南西諸島，台湾，フィリピンとされており，『週刊朝日』でも開戦前の 10 月 8 日号に「参戦比島に寄せる言葉」と題した特集が組まれている．10 月 24 日以降には 10 月 29 日号「比島を繞る航空決戦」(武井武夫)，11 月 19 日号「レイテ決戦に勝ち抜け」(蝋山政道)などが掲載された．

フィリピン沖海戦に続いて 1945(昭和 20)年 3 月 26 日に硫黄島，6 月 23 日に沖縄が陥落した．また米機による本土空襲は，1944(昭和 19)年 6 月から 1945(昭和 20)年 3 月までに軍事施設と軍需工場に対する爆撃，3 月 10 日の東京大空襲から 5 月までに東京，大阪，名古屋，神戸など主要都市の工場と住宅密集地に対する爆撃，そして 6 月から 8 月までに残りの大都市と釜石，室蘭，

浜松，清水などの地方都市が爆撃された．そして 8 月 6 日に広島，9 日に長崎へ原爆が投下され，15 日正午，昭和天皇の「玉音放送」によって太平洋戦争は幕を閉じた．

『週刊朝日』では 3 月 10 日の東京大空襲の後，3 月 25 日号に「生きて生き抜け」(長谷川伸)，「アメリカ覚えとれ」(藤沢桓夫)，「鬼畜の焔に体当り」(岡田誠三)を掲載し，未曾有の空襲に対する怒りや罹災地の人々へ向けた励ましを表した．また，4 月 8 日号では特集「勝利の道ここに在り！」を組み，「撃滅の一途は敵の大量出血にあり」(中井良太郎)，「米英共同作戦の弱点を衝くべし」(近藤英次郎)，「米本土を叩く超大型爆撃機を作れ」(松永寿雄)，「沖縄決戦こそ那翁のモスクワ戦だ」(鶴見祐輔)と再び国民に対し「戦争完遂」を宣伝した．こうした『週刊朝日』の姿勢は，7 月 15 日・22 日合併号まで続いた[99]．

日中戦争から太平洋戦争にかけての『週刊朝日』の目次と誌面からは，軍や政府，大本営の発表に追従する戦争報道に徹した姿勢を見ることができた．記事の内容は朝日新聞社記者や評論家などによる評論や座談会が中心となり，文芸特集号掲載の小説等にも戦争色が反映された．また太平洋戦争開戦以降に見られた特徴として，戦争における日本の正当性を主張する評論を掲載し，国民に日本が「アジアの盟主」であることを宣伝したことも挙げられる．

次は同じく週刊誌メディアとして発行されていた『サンデー毎日』を見ていくこととする．

8.4 『サンデー毎日』の戦争報道

『サンデー毎日』の日中戦争に対する反応を『戦前期「サンデー毎日」総目次』(山川・黒古，ゆまに書房，2007)によって見ていくと，1937(昭和 12)年 7 月の日中戦争勃発から太平洋戦争開戦までの 4 年間で目次に「支那事変」や「北支事変」という言葉は 172 回登場している．このうち 86 回は 1937（昭和 12）年 12 月 19 日号から 1939(昭和 14)年 9 月 3 日号まで連載された「支那事変展望」であり，この記事は日中戦争の日毎の経過を 1 週間分でまとめて伝えるものである．「北支事変展望」以外の記事では，1937(昭和 12)年 7 月 25 日号掲載の「北支事変の全貌　支那軍の不法射撃から全面的大衝突の危機」(大森清)に始まり，8 月 1 日号「不遜支那軍をあばく」(中正夫，新免太郎)，8 月 8 日号「支那事変の主役」(糸尾輝武，松本鎗吉)，8 月 15 日号「支那事変の展望」(夏本草二)，「北支戦線ペンの従軍記」(友永助雄)，8 月 22 日号「支那事変と列強の態度」(伴野洪太)と 5 週連続で日中戦争の展望に関する記事を掲載している．

これら『サンデー毎日』掲載の日中戦争勃発直後の記事では，盧溝橋事件の発端は「支那側の発砲」によるものと一貫して伝えている．以下に 7 月 25 日の大森清(毎日新聞社記者)の記事「北支事変の全貌」より，盧溝橋事件の発端について書かれた部分を引用する．

> 国民政府の北支中央工作は内政部長蒋作賓、蒋介石の腹心蒋誠らの北上で最近とみに露骨となつて、冀察政権内部にも動揺を来し日本勢力との摩擦面はいよいよ尖鋭化して北支は全く不気味な空気に包まれてゐた折も折、果せるかな、河北省豊台駐屯のわが部隊は七月七日午後十時ごろ北平西南方約三里の盧溝橋附近で夜間演習中、支那軍から突如数十発の射撃をうけた。
>
> この急報に接した北平駐屯部隊では時を移さず、森田中佐をして宛平県長王冷齋および冀察

[99] 終戦直前に発売された『週刊朝日』1945(昭和 20)年 7 月 29 日・8 月 5 日合併号は各図書館や文学館，及び毎日新聞社においても所蔵されておらず，内容の確認ができなかったため本論文では「7 月 15 日・22 日合併号まで」と記述した．

外交委員会専員林耕宇らとともに龍王廟に急行せしめ現地調査の上、支那側の不法を糾明して反省を促させようとして午前五時ごろ盧溝橋北方約千メートルの龍王廟に到着したが、そのときはすでに支那軍は増援隊を得て挑戦的陣形をとゝのへ、集結中のわが部隊に対し不法にも射撃を加へたので、我軍もこれに応戦し、小銃、迫撃砲の響きは暁明の北支に殷々ととゞろきわたり、両軍は全く交戦状態に入つたのである。

盧溝橋事件の発端とされる“十発の射撃”については諸説あるが，先に挙げた『昭和の歴史 5 日中全面戦争』によれば，夜間演習終了を仮設敵(日本軍)へ伝えに向かった兵士を仮設敵の兵士が中国兵と間違い，威嚇射撃として空砲を発砲，この射撃がちょうど龍王廟方面に向けて発射されたものであったため，直後中国軍より 3 発の銃撃が行われた．こうした経緯のため，中国側は「日本軍の射撃が先」，日本側は「中国軍の射撃が先」とそれぞれ主張したのである．

しかし豊台駐屯の一個中隊から北京の連隊本部，天津の軍司令部へ報告されたのは“支那側から数十発の射撃”と“兵士 1 名が行方不明”ということであり，これに基づいて日本政府及び軍部も事件の解決へ動き出すこととなった．しかし「行方不明」とされた兵士は報告から 20 分後には中隊に戻っており，このことが「訂正」として連帯本部と司令部へ報告されなかったことが，結果として事件を拡大させることとなった．

『サンデー毎日』の記事「北支事変の全貌」でも，事件の発端について“支那軍から突如数十発の射撃をうけた”ので日本軍は“支那側の不法を糾明して反省を促させようと”盧溝橋付近へ集結し，ここでも再び中国軍が“不法にも射撃を加へた”ため交戦状態に入った，との解説が掲載されている．

この記事が掲載される 2 週間前，事件発生から 4 日後の 7 月 11 日にはすでに現地の日中両軍の間で停戦協定が結ばれている．しかし同時に日本政府は天津への追加派兵を決定し，国内の新聞でもこの追加派兵について「反省を促す為の派兵」(7 月 12 日『東京日日新聞』)等，派兵に賛同する論調がほとんどであった．この時不拡大方針を発表しながら陸軍中央部の急進派に押し切られて追加派兵を決めた近衛文麿内閣総理大臣と，この動きに対する新聞の反応について，先に挙げた『昭和の歴史 5　日中全面戦争』より一部を引用する．

たしかに、近衛の真意は不拡大にあり、みずから戦争をもとめたわけではなかったろう。しかし、近衛内閣の派兵決定と政府声明、さらに、各界にたいする決意の表明は、内外に、日本の戦争決意とうけとられてもやむをえぬ措置であった。(中略)七月一二日の新聞には、現地における停戦協定成立の記事は、無視されるか、せいぜい片すみにおしこめられ、全紙面が、政府の重大決意と派兵決定を報じ、戦争熱をあおりたてる記事で充満していた。したがって、国民も、これを政府の戦争決意表明とうけとめざるをえなかったのである[100]。

それでは,『サンデー毎日』では停戦協定や追加派兵，不拡大方針についてどのように見ていたのか．同じく大森清の「支那事変の全貌」後半は，この停戦協定について述べられている．以下に一部を引用する．

事件発生以来北平において日本側橋本参謀長、和知参謀、松井特務機関長らは秦徳純、張自忠、馮治安ら冀察および廿九軍幹部と折衝した結果、支那側は十一日夜漸くわが方の要求を承

[100] 藤原彰.昭和の歴史 5:日中全面戦争.東京,小学館,1982.429P. p.80

認して辛くも正面衝突の危機を一時脱することが出来た。即ち

一、 盧溝橋附近よりの支那兵撤退

二、直接責任者の処罰および謝罪

三、防共および排日の取締り

の三条件を承認したと伝へられてゐるが、支那側が果してこれを誠実に実行するかどうかといふとはいままでの経験から判断して決して信を置けるものではない。殊に排日の取締りは今次事件解決の根本問題であるが、排日は明治廿一年の昔からはじまり、最初は学生運動として単なる示威から在支日本諸機関襲撃のごとく暴動的性質を帯び、後には在支日本工場労働者のストライキ或は日貨排斥と変り抗日テロとまで進んだ。運動の指導機関も、学生連合総会から一般支那民衆を網羅する反日会となり、ほとんど国民政府重要政策の一たる観を呈するに至つてゐる今日、前途は決して楽観を許さない。(中略)

しかしわが国としては依然不拡大方針を堅持してゐるので大きな戦争とまで進展することはまづあるまい。だが現地における一時的な小康状態を見て今後の成功を即断することは出来ない。北支の大転換は目前に迫つてゐる。支那わが意を解して日支国交改善をはかるか、それとも日本は彼の不法を膺懲して大陸政策遂行に邁進するか、日支両国は満州事変以来の重大局面に遭遇してゐる。(下線筆者)

大森は，中国での排日運動が今や中国国民政府の政策となっていることを理由に挙げ，3 つの現地協定が守られるとは言い切れず，現状は予断を許さないと述べている．しかし一方では下線にあるように不拡大方針を堅持している限りは日中戦争が“大きな戦争”に進展する可能性は低いとし，事態は中国側の態度軟化による“日支国交改善”か日本側の“大陸政策遂行”かによって速やかに解決するだろう，と述べている．この記事からは,『サンデー毎日』が，停戦協定が守られるとは考えていないものの，不拡大方針を支持する姿勢を見せている．

しかし一方では，この大森の記事で『サンデー毎日』は日本側の追加派兵については触れず，停戦協定を結びつつも蒋介石の指揮のもと中国側が軍隊を集結させ，抗日戦線を辞さない構えであると述べている．また，この記事の下段に 7 月 7 日から 14 日の日中両国の動きを 1 日ごとにまとめた記事「週間時事」が掲載されているが，日本で新聞が追加派兵を支持する記事を掲載した 12 日の欄には,“国民政府は口に不拡大を唱へながら誠意なきことを証明するものと認められる”と記述されている．また，大森の記事では中国全土で行われていた排日運動について触れているが,“明治廿一年の昔からはじまり、最初は学生運動として単なる示威から・・・”と排日運動の経緯を述べるだけで，満州事変以降の日本軍の中国東北部での軍事行動が拡大の直接的原因であることには言及していない．これらのことからは,『サンデー毎日』が軍部や政府の都合のよい部分にしか言及しておらず，あくまで「中国に非あり」とする軍の見解に追従したということができる．

日本は追加派兵によって 7 月 28 日に軍事行動を開始し，8 月 13 日に上海で中国軍と衝突，12 月 13 日に南京，翌 1938(昭和 13)年 5 月 19 日には徐州を占領した．この間日本国内では 1937(昭和 12)年 9 月 25 日に内閣情報部，11 月 20 日には大本営がそれぞれ設置され，国内の情報統制は一層強化されていった．

『サンデー毎日』にも，1937(昭和 12)年 10 月 10 日号に「支那事変を繞る国際関係の解剖」(永戸政治)，11 月 15 日支那事変皇軍武勇伝・附銃後美談号に附録「北支・上海戦局地図」，12 月 12 日号に「北支に芽生えた新政権」(上沼健吉)，12 月 26 日号に「敵首都南京遂に陥落」(夏本草二)，

1938(昭和 13)年 1 月 2 日・9 日合併号に「戦略上から見た支那事変の跡」(大場弥平)等が掲載され，盧溝橋事件直後に不拡大方針を支持した姿勢は見られなくなっていった．

再び戦争記事へと目を向けると，1941(昭和 16)年 12 月 8 日の真珠湾攻撃とイギリス領マレーへの上陸作戦について，『サンデー毎日』は 12 月 21 日号に大阪毎日新聞社主幹の下田将美による「勝つて驕らず油断せず　最後の勝利へ進め」と題した記事を巻頭に掲載し，太平洋戦争は“億兆一心国家の総力を挙げて”の総力戦であると述べている．以下に一部を引用する．

わが国は満州事変以来既に十年、支那事変勃発以来四年余の奮闘を続けて来た。一般には満州事変は柳条湖事件が原因となり、支那事変は盧溝橋事件がその因となつたやうにいふのであるが、これらは実はほんの導火線に過ぎないのであつて、その原因は実に米・英の日本に対する敵性圧迫に存する。曾てわが国は国際的親善と国民的発展とによつて世界文化の進歩に貢献しようと精神からの移民政策をとつたのであるが、米・英はわが国民を侮辱し、排斥して、わが国の対外進出を封じてしまつた。この暴戻に対してわが国は抗議を続けつつも、世界の平和維持に、拳々たる誠意からして、商工立国の政策を立てて、工業の発展と貿易の振興とによつて国力の伸張を企てるに至つた。しかるに彼等はさらに関税障壁を高うすることによつて製品の購買を拒否したのである。ここにおいてわが国は二たびその方針を転換した。即ち日露の役以来満州、北支の方面において、或ひは条約によつて、或ひは実質的に収め得たところの権益を行使して、アジヤ大陸の発展と東亜民族の親善とを企図したのである。これは専ら平和の維持に顧念するわが国の誠意に出たものに外ならぬ。しかるに米・英の二国は満州および支那における不逞勢力を使嗾してわが国民的発展を阻んだのだ。これこそ満州事変、支那事変勃発の真因なのである。

この記事で下田は満州事変と日中戦争の真因は，アメリカとイギリスが“不逞勢力”をそそのかして，中国大陸における日本の“国際的親善と国民的発展”のための政策を“侮辱”と“排斥”によって妨げたことにある，と断言している．また下田は日中戦争から太平洋戦争開戦までの軍事行動を“世界平和の維持”，“国力の伸張”という言葉で表現し，欧米諸国の植民地であるフィリピンやマレーシア等東南アジア諸国への侵攻を“平和の維持に顧念するわが国の誠意”であると述べている．この巻頭言によって，『サンデー毎日』は満州事変以降の中国大陸への侵攻と太平洋戦争が“平和の維持”のための”聖戦”であるとする明確な意思表示を行っている．

太平洋戦争の序盤戦で日本は，1941(昭和 16)年のうちにマレー沖海戦(12 月 10 日)で勝利し，同時にグアム島を占領(12 月 10 日)，続く 25 日にはイギリス軍との対戦で勝利して香港を占領した．年が明けた 1942(昭和 17)年 1 月 2 日にマニラ，2 月 15 日にシンガポールを次々と占領し，日本国内ではこれらの「戦果」を讃えて 2 月 18 日に「戦捷第一次祝賀式」が行われた．この祝賀式での国民の熱狂振りについて，木坂順一郎著『昭和の歴史 7　太平洋戦争』(小学館，1982)には以下のように記述されている．

一八日は、未明から東京九段の靖国神社や各府県の護国神社などには参拝者がひきもきらず、学校や会社や各種団体のなかには、ブラスバンドの伴奏も勇ましく、「軍艦行進曲」や「愛国行進曲」(作詞森川幸雄、作曲瀬戸口藤吉)などの軍歌を高唱しつつ、街頭をデモ行進する者もあった。旗行列は全国いたるところでおこなわれた。首相官邸や陸海軍省などにも日の丸の小旗をもった市民や学生生徒が祝賀に押しかけ、東條首相らがニコニコ顔で手をふっていた。正午、

首相官邸のマイクの前に立った東條首相は、ラジオを通じて全国民の万歳奉唱の音頭をとった。(中略)

ラジオの前にあつまった何千万という国民が、学校や職場で、役所や街頭で、声をかぎりに万歳を三唱した[101]。

『サンデー毎日』でも 1942(昭和 17)年 1 月 18 日号に「比島・東亜へ還る」(佐藤剱之助),「香港陥落に見る英軍暴虐の数々」(永井淳蔵)を掲載してマニラと香港占領を報じ，2 月 21 日号では「シンガポール総攻撃特集」を組んで「皇軍の前に鉄壁なし」(大平秀雄),「引揚げ当時の回想」(鶴見憲),「新嘉坡への道を拓く」(里村欣三)を掲載した.

しかしその後，6 月に始まったミッドウェー海戦での敗戦の際は，1942(昭和 17)年 6 月 28 日号に巻頭言「アリューシャンへの一撃」と「アリューシャン列島」(祥瑞専一)を掲載し，同時に行われて勝利を収めたアリューシャン攻略戦についてしか報じていない．ガダルカナル島をめぐる攻防(第 1～3 次ソロモン海戦)についても，攻防戦の戦況等については 1942(昭和 17)年 8 月 23 日号「ソロモン海に凱歌高し」(名取義一),「ソロモン海戦の意義」(永戸政治)，1942(昭和 17)年 9 月 13 日号「ソロモン海戦」(後藤基治),「ソロモン海戦従軍記」(丹羽文雄)，1942(昭和 17)年 10 月 11 日号「米海軍，太平洋に空軍新設」(中正夫)，942(昭和 17)年 11 月 15 日号「南太平洋海戦と米国の対日反攻態勢」(富永謙吾)，1942(昭和 17)年 11 月 29 日号「捷報更に到る南太平洋海戦」(後藤基治)によって報じてはいるが，12 月 13 日号で巻頭言「ソロモンの不滅戦艦」と富永謙吾(海軍少佐)の「ソロモン海戦を顧みて」を掲載しただけで，日本軍が 1943(昭和 18)年 2 月 1 日にガダルカナル島から撤退を余儀なくされた後ではこの戦いに関する記事が掲載されていない.

こうした中で，1942(昭和 17)年 12 月 6 日号の『サンデー毎日』に回想録「十二月八日・あの日の感激」が掲載された．これは久松潜一(東大教授)，櫻井忠温(作家・元陸軍少将)，高良富子(日本女子大教授)の 3 名に 1941(昭和 16)年 12 月 8 日の真珠湾及びマレー半島への攻撃の報を聞いたときの心情を語らせたものである．中でも桜井忠温は，天皇の大詔に感激したという部分の後に，今後の展望について以下のように語っている.

取つ組んだ以上、相手がころぶまでは手を離しつこない。ころばなければどこまでも食ひついて行くだけのことだ。(中略)いよいよもつて長期だ。百年だ。百年といつて、ゆるゆるやつていいといふわけぢやない。一日決死即百年戦争だ。

アメリカ狐と、イギリス狸が、どんな手を打たうとも限らぬ。(中略)

アメリカが年産何万台の飛行機、戦車、何千万トンの軍艦と、例の大風呂敷だ。

その半分か、三分の二か、大部分は、狐のお化けかも知れないが、たとひ無数の飛行機、軍艦を造るとしても、それには無数の人間も要る。第一、二年や三年で使へる人間の訓練は出来ない。遊覧飛行ぢやない「戦さをする飛行機」なのだ。

七百五十万の兵隊を造るとやら。人形を造るのぢやあるまいし。――この狐、なかなかおお化けに化けるぞ。(中略)

重慶だつて、まだ残された手もあらう。すべき何ものかもあるだらう。

手をすけて今に降参するぞ、などと思つてゐてはいけない。一体、漢民族には降伏といふ歴史はない。南宋は元に対して七十年からの抗戦をつづけた。結局は滅びたが七十年だ。蒋は国を売つてでも戦争をつづけるだらう。イヤ、もう売り尽くしてゐるのだが。

101 木坂順一郎.昭和の歴史 7　太平洋戦争.小学館,1982,339P. p.65-66

こいつをやつつけるのは武力一本のほかに何があらう。どこまでもどこまでも撃つて撃つて行くだけのことだ。

櫻井は，アメリカを“狐”，イギリスを“狸”に例え，米英の宣伝する“増産力”は“大風呂敷”を広げてみれば実際は実体のない“お化け”のようなものだと，物語のような独特な語り口で述べている．また，米英だけでなく蒋介石の国民政府がある重慶に対しても“どこまでも撃つて撃つて”攻撃を遂行すべきであると主張している．

櫻井が重慶に対して語った部分とほぼ同じ内容の発言が，同号掲載の「谷萩大佐・菊池寛対談」にも見ることができる．この対談で毎日新聞記者の“重慶はやはり大東亜戦争の結末よりは前に何とかしなければならないでしょうか”の質問に対し，谷萩那華雄(大本営陸軍部報道部長・陸軍大佐)は以下のように答えている．

谷萩　そりや勿論処置しなければならぬと思ひます。日本の今までの対重慶観念とでもいひますか、それが非常に微温的だつたのでせう。(中略)ところが、大東亜戦争になつて見たらはっきり重慶は米英と同じである、もう米英撃滅といふ中には重慶が含まれてゐるのだといふ観念に飛躍して、こ奴は降伏するとか、或は切崩しをするとか重慶の政変を待つとかいふやうな態度ではなく、もう十把一とからげ米英とともにやつてしまへといふ気持に皆確かになつてゐると思ひます。

また、この発言の後に記者が“結局米国の息の根を止めるには何が一番効果的ですか”と聞いた際、谷萩と菊池は以下のように答えている。

谷萩　ぶッ潰す･･･。増産して行つても出来る片ッ端から叩いてしまへば最後は参りませう。第一人員補充がつきませんからね。

菊池　米国の人間が百万人くらゐ死ねば参つてしまふのぢやないですが、この間飛行機の乗員を処置したといふだけでも、あれは相当精神的に大きな影響があつたでせうね。

日本軍が南太平洋で覇権を失いつつあるのと同時期に，『サンデー毎日』では現地の戦争報道ではなく今後の太平洋戦争が重慶を攻撃することから始まる，といった記事を掲載していることからは，『サンデー毎日』の見た太平洋戦争の主眼が，すでに南太平洋からアジアへ移っている様子が窺える．そして桜井の手記と菊池・谷萩の対談からは，相手が倒れるまで太平洋戦争を完遂すべきとの主張を読み取ることができる．

『サンデー毎日』ではその後，1943(昭和 18)年 10 月に占領下で独立し日本と同盟を結んだフィリピンを讃える記事(10 月 17 日号特集「独立近き比島」他)や 11 月のブーゲンビル島沖航空戦の「戦果」を報じる記事(11 月 28 日号「ブーゲンビル沖に大戦果続く」(新名丈夫，他)が掲載された．

ブーゲンビル島沖航空戦の記事は大本営の“戦艦 5，空母 8，巡洋艦 11 を撃沈，戦艦 2，空母 3 を撃破，飛行機 16 機を撃墜”[102]との発表に基づいて報道されたが，実際は“魚雷艇 1，上陸用輸送艦 1 を撃沈，軽巡洋艦 2，上陸用輸送艦 1 を撃破，撃墜した航空機は不明”[101]が正確な情報であり，『サンデー毎日』が「大戦果」と報じたこの戦いは，実際はガダルカナル島攻防戦から続

[102] 木坂順一郎.昭和の歴史 7　太平洋戦争.小学館,1982,339P. p.65-66

く南太平洋決戦で日本の敗北が決定的となった一戦であった.

1944(昭和 19)年 6 月には重慶基地から B29 が来襲し，九州を中心に空襲を行った．そして 7 月にサイパンが陥落すると翌年 3 月から首都圏への空襲が始まった.『サンデー毎日』はこの頃になると，1944(昭和 19)年 12 月 24 日号「敵の空襲をはねかへせ」(稲留勝彦)や 1945(昭和 20)年 2 月 18 日号「空襲平気の防空都市建設へ」(田邊平学)，2 月 25 日号「本土侵襲の醜敵を撃て」(阿部賢一)，3 月 11 日号「戦禍を転じて戦勝の福となせ」(中井良太郎)といった記事を掲載し，国民に向けて「敵機を撃て」と呼びかけている.

そして 4 月 1 日にアメリカ軍が沖縄に上陸した後は, 4 月 8 日号「敵来る, 斬れ！」(櫻井忠温), 5 月 20 日号「一億頑張れ！もう一押しだ」(鈴木二郎)，6 月 24 日号「これでも尚本土決戦の必勝に疑義があるか」(中井良太郎)，7 月 1 日号「闘ふ者に敗北はない」(穂積七郎)，7 月 15 日号「誓つて本土に驕敵を撃攘せん」(徳富猪一郎)，7 月 29 日号「本土決戦必ず勝つ」(親泊朝省)，7 月 29 日号「地の利，また我にあり」(大場彌平)と本土決戦になっても勝機はある，とする論を終戦間際の 8 月 5 日号まで掲載し，国民を戦争に駆り立てようとする姿勢を見せた.

以上のことより,『サンデー毎日』もまた『週刊朝日』同様，軍や政府の発表に同調した戦争報道を行い，日中戦争の原因は中国側に，太平洋戦争の原因はアメリカやイギリスにあるとする主張を一貫して行ったことが分かる．また本土決戦が近づくにつれ“必勝”,“敗北はない”,“必ず勝つ”といった言葉を使い，空襲下の国民に向けてあくまで「戦争完遂」を呼びかけた，ということができる.

8.5　他誌における「文学者」と「座談会」の傾向

『週刊朝日』と『サンデー毎日』の文学者(小説家)の記事と座談会記事について述べる前に，他の雑誌における日中戦争以降の傾向を，既に出版されている総目次等の二次資料を活用し，小説と座談会記事を中心にまとめておくこととする.

まず，代表的な総合雑誌である『中央公論』では，同誌の戦前の総目次の縮刷版である『中央公論総目次』(中央公論社,1970)及び『「中央公論」一〇〇年を読む』(三浦朱門,1986)を参照し，その傾向を探った.『中央公論』は吉野作造や清沢洌らの政治評論や谷崎潤一郎らの小説等を掲載する，自由主義の総合雑誌であるが，1937(昭和 12)年以降の目次を見ると，日中戦争以降は 3 号に 2 本の割合で掲載される座談会記事のうち，約 9 割が戦争に関する座談会である．これらのテーマは戦争や日本の今後の行方についてかたられるものが多く(「支那事変第四期の方向」1938 年 12 月号他)，出席者も細川嘉六や尾崎秀実ら評論家が中心であった.

次に, ほぼ毎号に設けられている小説欄を見ていくと, 1938(昭和 12)年 3 月号に石川達三の「生きてゐる兵隊」, 同年 12 月号に丹羽文雄の「還らぬ中隊」(1939 年 1 月号まで連載)や上田廣の「帰順」，1939(昭和 14)年 1 月号に石川達三の「武漢作戦」，同年 2 月号には日比野士朗の「呉淞クリーク」と尾崎士郎の「ある従軍部隊」が立て続けに掲載されている．その後も日比野士朗の「野戦病院」(同年 6 月号)，上田廣の「或日の水間部隊長」(1941 年 7 月号)，丹羽文雄の「海戦」(1942 年 11 月号)が掲載された．なお，石川達三の「生きてゐる兵隊」は，日本兵が無防備な市民や女性，中国兵を無残に殺害する描写が削除された上，同号の『中央公論』は発禁処分となり，石川自身も新聞紙法違反で起訴され，禁固刑を言い渡された．また，第一次ソロモン海戦の従軍体験をもとに執筆した丹羽文雄の「海戦」は，翌年に単行本として出版され，丹羽は中央公論賞及び

海軍大臣賞を受賞した.

執筆陣は石川達三や火野葦平，日比野士朗，上田廣らの他，井伏鱒二や武田麟太郎の作品が中心で，その他では日中戦争開始と前後して執筆活動が困難になりつつあった宮本百合子の小説(「杉垣」1939 年 11 月号)が掲載されているのが目を引いた．また，1943(昭和 18)年 1 月号から連載を開始した谷崎潤一郎の「細雪」が，戦争への意識高揚に沿わないとのことより掲載禁止の処分を受けたことは，当時の言論取締りの厳しさを物語る事件である.

このような誌面への戦争の反映は総合雑誌だけでなく,大衆娯楽雑誌においても同様であった.代表的な大衆娯楽雑誌『キング』では，太平洋戦争と前後して誌面が戦争記事で埋め尽くされ，太平洋戦争開戦を意識したタイトルの座談会(「いざ開戦の場合を語る座談会」1941 年 4 月号他)や小説(菊池寛「国は呼ぶ」同年 9 月号，竹田敏彦「街の戦友」同号他)が多数掲載されるようになった[103].

一方，図 4-1，4-2 で示した通り,『週刊朝日』と『サンデー毎日』は実用・娯楽記事が多く，このことより昭和初期に 60 万部の発行部数を誇った『主婦之友』[104]の傾向についても述べることとする.

『主婦之友』については『カラー復刻版「主婦之友」大正期総目次』(石川文化事業財団お茶の水図書館,2006),『カラー復刻版「主婦之友」昭和期目次 I』(石川文化事業財団お茶の水図書館,2009),『カラー復刻版「主婦之友」昭和期目次 II』(石川文化事業財団お茶の水図書館,2009)が出版されており，これによる目次の調査を行った.

座談会記事は 1929(昭和 4)年頃より，美容や家事，育児に関する座談会(「若奥様のための上手な家持ち座談会」1931 年 6 月号他)が毎号 1 本のペースで掲載されており，日中戦争開戦後の 1938(昭和 13)年 12 月号頃から毎号 2，3 本に増加している．日中戦争後の座談会も戦争に関するものが 9 割以上を占めており，これらのテーマは銃後の女性の心構え(「長期建設と銃後婦人の覚悟を語る座談会」1938 年 12 月号)や家族を戦地に送り出した女性の座談会(「愛児二人づゝを皇国に捧げた誉れの母の座談会」(同号)が多く，出席者も一般女性や軍人の妻等が中心となっている.

小説欄を見ると，三上於菟吉や長田幹彦，竹田敏彦ら大衆作家の作品が並び，日中戦争以降は桜井忠温の「征人」(1938 年 11 月号)等が掲載されるが，作家陣に大きな変化は見られない.「従軍小説」と銘打った作品はあまり掲載されておらず,小説欄への戦争の反映は見受けられないが，その一方で小説家の従軍手記(吉屋信子「満ソ国境戦火の張鼓峰一番乗り」1938 年 10 月号，丹羽文雄「ソロモン海戦従軍記」1942 年 10 月号，尾崎士郎「比島従軍記」同年 12 月号他)が多数掲載されている．戦時における『主婦之友』のこうした傾向について，志田愛子・湯田典子は『婦人雑誌からみた一九三〇年代』で“写真，画報，告白記，体験記，座談会，訪問記というように，ドキュメンタリー的な書き方で，読む人びとの心情に訴え，戦争熱をあおっていた”[105]と述べている.

なお，同時期に発行されていた「知識階級」向け女性誌『婦人公論』(中央公論社,1916)でも従軍体験を語る座談会（「従軍の感激を語る」1943 年 2 月号)や銃後の女性の心構えを説く座談会(「航空機増産への生活奉還」1944 年 2 月号)が掲載されており，女性誌が銃後の女性に対して生活面や精神面での「戦争協力」を示唆した様子がうかがえる.

---

103 佐藤卓己.『キング』の時代:国民大衆雑誌の公共性．東京，岩波書店, 2002.462P. p.355-356
104 永嶺重敏．雑誌と読者の近代．東京，日本エディタスクール出版部, 2004.281P. p.84
105 私たちの歴史を綴る会.婦人雑誌からみた 1930 年代.東京,同時代社,1987.284P. p.53

8.6　座談会の影響

次は，II 期における座談会記事について分析を行うこととする．座談会記事の傾向を見るために，まずはこれらの記事を「戦争」，「娯楽・風俗」(スポーツ，映画，文化，芸能等)，「社会・政治」，「文芸」，「人物」，「家庭」(食，衛生，服飾，節約等)，「その他」に分類した．その際，「勝ち抜くために生活の切下げ」(『週刊朝日』1942 年 1 月 25 日号)や「劇映画『ハワイ・マレー沖海戦』を語る座談会」(『サンデー毎日』1942 年 11 月 29 日号)等，他のテーマが戦争と関連して主題となっている場合は「戦争」に分類した．その結果を図 8-10，8-11 に示す．

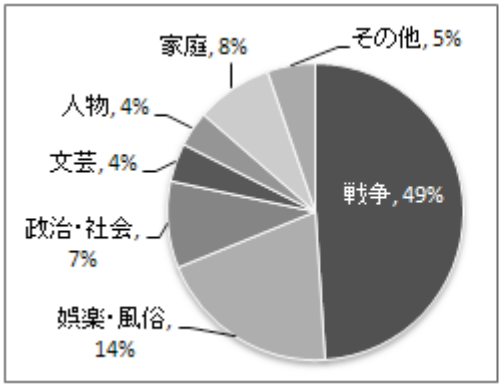


図 8-10：『週刊朝日』座談会記事の内訳

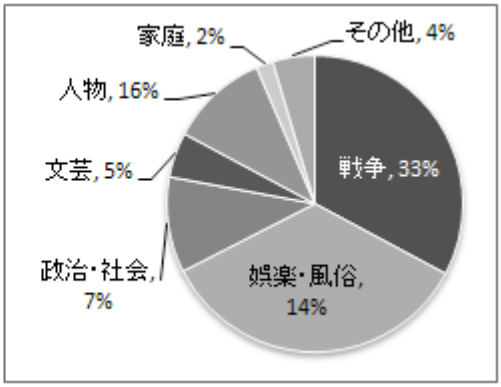


図 8-11：『サンデー毎日』座談会記事の内訳

この結果からは，両誌における戦争関連の座談会が最も多いことが分かる．戦争と座談会の関係については，4 章 4.4 で II 期の推移(図 4-18，4-19)に関連して，8 章 8.5 で戦争記事の推移(図 8-6，8-7)に関連して触れてきたが，図 4-16，4-17 で示す戦争関連座談会の多さより，戦争と座談会の間に密接な関係があることが読み取れる．

これらの戦争に関連する座談会記事は，大きく 3 つに分類される．1 つ目は評論家や専門家が銃後生活の心得について説く「啓蒙」的なもの(「勝ち抜く為に生活の切下げ」『週刊朝日』1942 年 1 月 25 日号他で，主に食糧問題に関することを扱っている．2 つ目は軍関係者や帰還兵を集め，戦略や戦力について語る「実戦」的なもの(「我が造艦技術の躍進！」『週刊朝日』1943 年 5 月 16 日号他)で，1943(昭和 18)年頃から増加傾向にあり，両誌を通じて最も数の多いものである．3 つ目は従軍記者や従軍作家が戦地での生活や日本軍の様子を語る「従軍記事」的なもの(「武漢攻略戦従軍を語る座談会」『サンデー毎日』1938 年 11 月 20 日号他)である．これは比較的『サンデー毎日』に多く見られ，著名な小説家では中島健蔵や上田廣，吉川英治，尾崎士郎が参加している．

そこで，両誌の戦争に関する座談会の記事を，上記の特徴から「啓蒙的記事」「実戦的記事」「従軍的記事」に分類し，集計を行った．その際，このいずれにも該当しないものに関しては，「その他」とした．図 8-12，8-13 はその内訳をグラフ化したものである．また，これらの座談会記事が年ごとにどのような分布をみせているかを集計し，表 8-1 に示した．

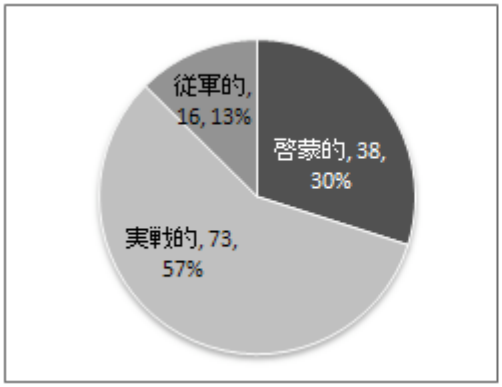


図 8-12：『週刊朝日』戦争関連座談会の内訳

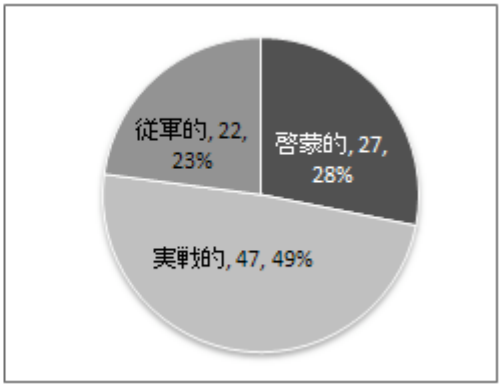


図 8-13：サンデー毎日』戦争関連座談会の内訳

図 8-12，8-13 からは，全体における割合では，「実践的」な座談会が最も多いことが分かる．『週刊朝日』はこの「実践的」座談会が『サンデー毎日』よりも高く，その分『サンデー毎日』は「従軍的」座談会が多くなっている．これらの座談会が年ごとにどのような推移を見せているかを，表 8-1 によって見ていくこととする．

表 8-1 からは，全体的に太平洋戦争開戦以降に「啓蒙的」「実践的」座談会の掲載が集中していることが分かる．これに対し「従軍記事的」座談会は，日中戦争開戦後，太平洋戦争開戦後に比較的集中している傾向がある．

これらの座談会記事には，それぞれ異なる役割があったと考えられる．先に挙げた「勝ち抜く為に生活の切下げ」では，太田正孝(経済学者)，山田わか(評論家)，高野六郎(医学博士)，氏家武(大蔵省国民貯蓄奨励局次長)の 4 名が「衣・食・住・税」の 4 つの主題に従って生活の「切下げ」について談義している．「衣」では衣類の新調を控えて国民服の着用を推奨し，「食」ではもともと日本国民は“食物が潤沢ですから原則としては余計に食つて”いたので節約の余地があり，買い溜めを“数の贅沢”として批判している．また，若い夫婦が舅姑と同居せずにいることを“自由主義”“アメリカかぶれ”と断罪し，同居することで住宅費を切下げることができる，と主張した．このような座談会が太平洋戦争以降に多く掲載されたということからは，戦争の激化とともに国民生活が逼迫していく中で，銃後の家を守る女性に対し，節約と納税によって国に貢献できるという，一つの行動目標を提示したとことができる．

表 8-1：戦争座談会記事の分類別推移

種別 / 年	啓蒙的		実践的		従軍的	
	朝日	毎日	朝日	毎日	朝日	毎日
1937	0	0	0	2	0	2
1938	0	1	2	2	2	5
1939	5	0	2	5	1	2
1940	0	2	2	0	3	0
1941	1	0	8	1	1	0
1942	10	6	16	10	6	8
1943	10	6	23	11	3	3
1944	8	7	17	11	0	2
1945	4	5	3	5	0	0
合計	38	27	73	47	16	22

そして「従軍記事」的な座談会は，兵士や軍人が語る「実戦」的な座談会に見られるような「戦争」の実相を伝える，というだけでなく，日本人兵士の「温かい人柄」や戦争に対する「真摯さ」を伝える記述も見られる.『サンデー毎日』1939(昭和 19) 年 4 月 1 日春の映画号に掲載された「戦争映画の現地ロケ座談会」では，記録映画を撮影した映画監督 5 名(牛原虚彦，清瀬英次郎，木村荘十二，熊谷久虎，田坂具隆)が上海や南京等でのロケ体験や従軍体験を語っているが，その中の記述に如実に表れている．

前線に近づくと近づくほど兵隊さんたちは親切ですね。こりや本当に邪魔ぢやないかと思つたり、こんなにして貰つてよいのかと思ひました。所が実に気持よく、何だか一生懸命やつてくれるんですね。兵隊さんはじめ全部の人が。だから結局こちらも正しい気持で軍行脚と一緒に自分たちの仕事も進めて行く。自分たちの食物さへないところに私たちが割込むことは大変です。ところが君たちは馴れてゐないから、これやるよといふ・・・(牛原)

軍や兵隊に「感謝」する座談会は，この他にも「“兵隊さん有難う”座談会」(『週刊朝日』1939年2月5日号)等が掲載されており，読者に対する「軍賞賛」がアピールされている．

これらの「従軍記事的」座談会は日中戦争や太平洋戦争の開戦直後やその翌年に比較的多いが，そのことによって，戦争の開戦経緯や戦地での現状を知りたい，という読者のタイムリーな欲求に応える機能を果たしていたと見ることができる．

「実戦的」な座談会は『週刊朝日』に比較的多くみられたものであり，特に 1943(昭和 18)年以降に集中している．こうした座談会で語られるのは，出席者である兵士や軍人の戦地における体験や仲間の兵士の勇敢さがほとんどである．以下に，一例を示す．

【尾崎】補給に苦しみ、食ふ物に困り、更に病気や何かに悩まされながらも、皇軍の兵隊さんは実によく頑張つてをられますが、これは全く精神力ですナ。

【古村】精神力ですよ。物は食はなくたつて、闘志は少しも衰へません。

【吉田】私が見たことですけれども、肩から肺へ二初も入つとる。そのほか肩から背中にかけて何発も弾を受けながらも、無事に着陸して来た深澤准尉の姿を見た時には、まつたく精神力だナと思ひました。背中には傷のないところといへば二寸平方くらゐしかない。しかも腰のあたりもやられてゐる。そんなふうでも無事に着陸して、任務を果してる。救急車に乗せられて病院へいつたら、東の方へ向けてくれ、と言ひましてネ、天皇陛下万歳―おれはもうこれで終りだ、と言つたんです。軍医が何か言ふことはないかと訊いたら、何もない。いや、何かあるだらう。それぢや、おつ母さんに深澤はやるだけのことをやつて死んだと伝へてもらひたい、と言ひましたが、実にこの精神力ですね。

【尾崎】ほんたうに精神力ですナ。

以上は，1943(昭和 18)年 12 月 12 日号の『週刊朝日』掲載の座談会「密林戦」の一部である．この座談会は司会に従軍経験のある尾崎士郎が入り，ニューギニア及びニューブリテン島の密林戦に参戦した軍医 5 名に話を聞いているが，最初に密林戦の過酷さを 4 ページに渡って語り合っており，上記引用部は最後の 5 ページ目に書かれた内容である．この引用部の前では日本兵に銃撃されたアメリカ兵が“泣き声を揚げ”て逃げる様子を語り，“アングロはダメですね”と述べることで，ことさら日本軍の勇敢さを強調している様子がうかがえる．「実戦的」な座談会記事では，戦争の“「実相」＝権力者の意図した側面”を伝えると同時に，「従軍記事的」な座談会にも見られるような，日本軍の勇敢さを宣伝するという構成を見ることができる．

これらの座談会記事に共通の傾向としては，最初に同席している司会者による「主題の提示」が行われ，座談会の途中にも「司会進行」の形で司会者から問題が提起される点が挙げられる．先に挙げた「勝ち抜く為に生活の切下げ」でも，冒頭に朝日新聞記者より“銃後としては生活の切下げ位を忍ぶといふことは当然のことゝ思ひますが生活切下げにもいろんな問題がありませう”と「主題の提示」があり，出席者の話が一段落したところへ“日本の国民服はどうですか”，“日

本の家庭には、使はない部屋が多いですナ”という具合に，次の問題を提起している．また，問題提起だけでなく，出席者の話が専門的で長くなったところで“それが生活切下げになるといふ訳ですね”，“生活切下げも、厚生問題と一緒にやらなければ駄目ですね”と読者に理解しやすいように話をまとめたり，花嫁衣装等の「贅沢品」の購入に対し“呆れたものですね”と感想を述べたりもしている．こうしたことからは，軍や内閣情報局の指導のもと，座談会の方向性を「生活切下げ」＝「戦争協力」へと先導しようとする『週刊朝日』と『サンデー毎日』の意図を読み取ることができる．

8.7　文学者の役割

執筆者の分類別集計の結果(図 4-31)で示す通り，両誌ともに小説家の執筆数が最も多いが，どのような小説家が多く執筆していたかについては，4 章 4.7 で行った執筆者の分類結果をもとにリストアップすることができる．4 章 4.7 で抽出した 3 回以上の執筆数がある人物のデータより，「小説家」に分類した 413 名(『週刊朝日』331，『サンデー毎日』294，重複 212)の執筆記事数を集計した．その結果を表 8-2 に示す．

表 8-2 からは，掲載総数は多いが，日中戦争を境に執筆数が大きく異なる人物がいることが分かる．最も執筆数の多いグレン・ショウ(尚紅蓮)は，大正末期より英文小説を『週刊朝日』に多数執筆しているが，1930 年代に入ると掲載記事はなくなり，『週刊朝日』誌上からも英文小説や英文欄がなくなっている．6 章 6.4 女性関連記事のところでも触れたが，英文記事や英文広告，英文小説を読める読者層は恐らく知識階級に限られていると考えられるため，英文小説が 1930 年代にはほぼ掲載されなくなったことからも，『週刊朝日』が誌面の「大衆化」を図った様子がうかがえる．

ここでは，執筆した時期に注目することとした．本章では戦時下の週刊誌メディアの誌面を中心に分析と考察を行っているため，ここでは主に日中戦争以降に執筆数の多かった小説家に特に着目し，II 期において『週刊朝日』と『サンデー毎日』への執筆数の合計が 10 回以上の人物を抽出した．その結果を表 8-3 に示す．表 8-3 には，日中戦争以降も含め，満州事変以降，「ペン部隊」として中国大陸へ派遣され，その後数多くの手記や小説を執筆した小説家が多く含まれている．例を挙げると，丹羽文雄や尾崎士郎，吉川英治，林芙美子，白井喬二，北村小松，川口松太郎，濱本浩，火野葦平，石川達三，武田麟太郎，井伏鱒二，吉屋信子らであるが，従軍経験のある小説家はこれだけにとどまらず，日中戦争下で執筆活動を行った小説家の多くが，生活のためや自らの好奇心のために，従軍活動を行った．

表 8-2：通号における執筆数が 10 回以上の小説家

執筆者名	Ⅰ期	Ⅱ期	総計
グレン・ショウ	282	0	282
大仏次郎	88	151	239
土師清二	161	72	233
吉川英治	80	98	178
白井喬二	130	45	175
三上於菟吉	171	3	174
長谷川伸	133	26	159
北村小松	96	60	156
川口松太郎	54	94	148
海音寺潮五郎	55	85	140
村松梢風	86	53	139
悟道軒円玉	123	9	132
直木三十五	134	0	134
小島政二郎	75	55	130
濱本浩	30	97	127
邦枝完二	72	55	127
片岡鉄兵	68	57	125
平山蘆江	110	12	122
石割松太郎	105	0	105
尾崎士郎	19	83	102
中野実	45	53	98
與謝野晶子	93	4	97
室生犀星	64	27	91
吉井勇	87	3	90
子母沢寛	51	38	89
林芙美子	49	39	88
国枝史郎	85	0	85
大下宇陀児	68	17	85
辰野九紫	43	40	83
藤沢桓夫	5	76	81
丹羽文雄	4	72	76
正宗白鳥	72	1	73
渡辺均	65	5	70
水島爾保布	66	3	69
長田幹彦	63	4	67
岡本鶴松	8	55	63
吉田絃二郎	56	5	61
小川未明	60	1	61
正岡容	57	4	61
田中貢太郎	58	3	61
中村正常	45	13	58
長谷川時雨	53	5	58
宇野千代	45	11	56
馬場孤蝶	53	2	55
菊池幽芳	52	1	53
吉屋信子	29	24	53
行友李風	48	4	52
上司小剣	43	8	51
柳原燁子	48	3	51
白柳秀湖	39	11	50

執筆者名	Ⅰ期	Ⅱ期	総計
火野葦平	0	49	49
邑井貞吉	38	11	49
菊池寛	30	18	48
水守亀之助	48	0	48
貴司山治	6	40	46
前田河広一郎	45	1	46
石黒敬七	20	24	44
米田華虹	22	22	44
近松秋江	40	3	43
宇野浩二	39	3	42
十一谷義三郎	42	0	42
龍膽寺雄	42	0	42
林房雄	6	36	42
森下雨村	41	0	41
井伏鱒二	24	16	40
丸木砂土	38	2	40
金子洋文	38	2	40
正木不如丘	34	6	40
武田麟太郎	21	19	40
竹久夢二	39	0	39
武林文子	38	1	39
里見弴	30	9	39
前田曙山	38	0	38
竹田敏彦	34	4	38
舟橋聖一	4	33	37
浅原六朗	37	0	37
美川きよ	16	21	37
広津和郎	32	4	36
立野信之	4	32	36
林不忘	36	0	36
伊馬鵜平	13	22	35
甲賀三郎	29	6	35
山村耕花	30	5	35
寺本忠雄	30	5	35
石川達三	0	35	35
武井武雄	33	2	35
ささきふさ	32	2	34
岡本綺堂	32	2	34
乾信一郎	18	16	34
獅子文六	15	19	34
井東憲	33	0	33
佐々木味津三	33	0	33
三田村鳶魚	27	6	33
足立源一郎	17	16	33
中川紀元	20	13	33
神近市子	22	10	32
田山花袋	32	0	32
西條八十	29	2	31
中村武羅夫	23	8	31
久生十蘭	0	30	30

執筆者名	Ⅰ期	Ⅱ期	総計
徳田秋声	27	3	30
武者小路実篤	18	12	30
野口米次郎	18	12	30
和田伝	0	30	30
岩崎栄	13	16	29
清谷閑子	29	0	29
川端康成	28	1	29
槙尾赤霧	26	3	29
木村哲二	12	17	29
伊藤松雄	16	12	28
横溝正史	13	15	28
深田久弥	4	24	28
米田祐太郎	27	1	28
加藤武雄	27	0	27
今井邦子	15	12	27
式場隆三郎	8	19	27
深江彦一	27	0	27
生田蝶介	27	0	27
大泉黒石	25	2	27
海野十三	4	22	26
久野豊彦	15	11	26
佐藤春夫	17	9	26
細田民樹	11	14	25
渋川驥麿	25	0	25
生方敏郎	25	0	25
津田青楓	17	8	25
矢田津世子	19	6	25
窪川稲子	14	10	24
宝井馬琴	10	14	24
安成二郎	20	3	23
加藤朝鳥	23	0	23
久保田万太郎	17	6	23
桜井忠温	9	14	23
小此木礼助	4	19	23
大江賢次	2	21	23
長谷川春子	12	11	23
福田豊四郎	2	21	23
平井房人	12	11	23
北尾鐐之助	19	4	23
伊福部隆輝	21	1	22
佐佐木信綱	7	15	22
北林透馬	17	5	22
芹沢光治良	6	15	21
山崎斌	21	0	21
酒井真人	21	0	21
松長照夫	21	0	21
新井紀一	21	0	21
川路柳虹	21	0	21
村上元三	4	17	21
大辻司郎	21	0	21

表 8-3：日中戦争以降の執筆数が 10 回以上の小説家

執筆者名	①	②	③
尚紅蓮(ｸﾞﾚﾝ･ｼｮｳ)	206	76	0
大仏次郎	37	51	151
土師清二	128	33	72
吉川英治	17	63	98
白井喬二	94	36	45
三上於兎吉	136	35	3
長谷川伸	65	68	26
北村小松	19	77	60
川口松太郎	10	44	94
海音寺潮五郎	2	53	85
村松梢風	11	75	53
悟道軒円玉	17	106	9
直木三十五	74	57	0
小島政二郎	17	58	55
浜本浩	0	30	97
邦枝完二	5	67	55
片岡鉄兵	21	47	57
平山蘆江	74	36	12
石割松太郎	105	0	0
尾崎士郎	12	7	83
中野実	0	45	53
與謝野晶子	87	6	4
室生犀星	42	22	27
吉井勇	77	10	3
子母沢寛	7	44	38
林芙美子	7	42	39
国枝史郎	82	3	0
大下宇陀児	23	45	17
辰野九紫	5	38	40
藤沢桓夫	1	4	76
丹羽文雄	0	4	72
正宗白鳥	68	4	1
渡辺均	56	9	5
水島爾保布	63	3	3
長田幹彦	29	34	4
岡本鶴松	8	0	55
吉田絃二郎	44	12	5
小川未明	48	12	1
正岡容	44	13	4
田中貢太郎	25	33	3
中村正常	4	41	13
長谷川時雨	42	11	5
宇野千代	23	22	11
馬場孤蝶	36	17	2
菊池幽芳	50	2	1
吉屋信子	9	20	24
行友李風	34	14	4
上司小剣	39	4	8
柳原燁子	29	19	3
白柳秀湖	29	10	11
火野葦平	0	0	49
邑井貞吉	18	20	11
菊池寛	17	13	18
水守亀之助	37	11	0
貫司山治	6	0	40

執筆者名	①	②	③
前田河広一郎	42	3	1
石黒敬七	12	8	24
米田華虹	22	0	22
近松秋江	34	6	3
宇野浩二	28	11	3
十一谷義三郎	6	36	0
龍膽寺雄	10	32	0
林房雄	5	1	36
森下雨村	2	39	0
井伏鱒二	1	23	16
丸木砂土	6	32	2
金子洋文	32	6	2
正木不如丘	19	15	6
武田麟太郎	4	17	19
竹久夢二	38	1	0
武林文子	7	31	1
里見弴	3	27	9
前田曙山	38	0	0
竹田敏彦	4	30	4
舟橋聖一	1	3	33
浅原六朗	7	30	0
美川きよ	0	16	21
広津和郎	8	24	4
立野信之	2	2	32
林不忘	32	4	0
伊馬鵜平	0	13	22
甲賀三郎	13	16	6
山村耕花	7	23	5
寺本忠雄	0	30	5
石川達三	0	0	35
武井武雄	33	0	2
ささきふさ	17	15	2
岡本綺堂	18	14	2
乾信一郎	0	18	16
獅子文六	0	15	19
井東憲	32	1	0
佐々木味津三	25	8	0
三田村鳶魚	24	3	6
足立源一郎	5	12	16
中川紀元	14	6	13
神近市子	10	12	10
田山花袋	31	1	0
西條八十	21	8	2
中村武羅夫	19	4	8
久生十蘭	0	0	30
徳田秋声	23	4	3
武者小路実篤	11	7	12
野口米次郎	15	3	12
和田伝	0	0	30
岩崎栄	7	6	16
清谷閑子	0	29	0
川端康成	15	13	1
槙尾赤霧	5	21	3
木村哲二	0	12	17
伊藤松雄	7	9	12

執筆者名	①	②	③
横溝正史	7	6	15
深田久弥	0	4	24
米田祐太郎	27	0	1
加藤武雄	23	4	0
今井邦子	4	11	12
式場隆三郎	0	8	19
深江彦一	27	0	0
生田蝶介	27	0	0
大泉黒石	25	0	2
海野十三	0	4	22
久野豊彦	6	9	11
佐藤春夫	10	7	9
細田民樹	10	1	14
渋川驥麿	25	0	0
生方敏郎	25	0	0
津田青楓	7	10	8
矢田津世子	0	19	6
窪川(佐多)稲子	3	11	10
宝井馬琴	9	1	14
安成二郎	19	1	3
加藤朝鳥	23	0	0
久保田万太郎	10	7	6
桜井忠温	5	4	14
小此木礼助	0	4	19
大江賢次	1	1	21
長谷川春子	1	11	11
福田豊四郎	0	2	21
平井房人	0	12	11
北尾鐐之助	15	4	4
伊福部隆輝	21	0	1
佐佐木信綱	6	1	15
北林透馬	0	17	5
芹沢光治良	1	5	15
山崎斌	20	1	0
酒井真人	19	2	0
松長照夫	21	0	0
新井紀一	16	5	0
川路柳虹	19	2	0
村上元三	0	4	17
大辻司郎	3	18	0
横井福次郎	0	5	15
岡本かの子	9	8	3
下村千秋	3	17	0
江戸川乱歩	20	0	0
寺崎浩	0	1	19
成瀬無極	10	6	4
千家元麿	19	0	1
前田孤泉	20	0	0
大原武夫	16	1	3
中河與一	13	5	2
藤田健次	19	1	0
南部修太郎	18	2	0
平野零児	0	11	9
鈴木氏亨	18	1	1
芥川龍之介	19	0	0

執筆者名	①	②	③
今東光	18	0	1
相馬御風	10	4	5
堤千代	0	0	19
田中純	9	8	2
徳永直	1	10	8
内田百閒	0	14	5
古川緑波	2	11	5
春日野緑	18	0	0
小杉放庵	4	7	7
小杉未醒	18	0	0
織田幹雄	0	13	5
真杉静枝	0	7	11
川村花菱	14	1	3
陸直次郎	0	8	10
久米正雄	8	1	8
松本淳三	17	0	0
上田広	0	0	17
城昌幸	1	0	16
青木槐三	10	7	0
石井香夢	17	0	0
石川千代松	12	5	0
谷崎精二	12	3	2
田中香涯	11	6	0
東野辺薫	0	0	17
安藤盛	3	7	6
岡田禎子	2	13	1
加能作次郎	15	1	0
栗林貞一	9	2	5
高見順	0	2	14
小早川秋声	11	3	2
鷹野つぎ	15	0	1
池田永治	16	0	0
中村星湖	7	8	1
中村白葉	0	13	3
橡内吉胤	15	1	0
日吉早苗	0	6	10
尾関岩二	16	0	0
里村欣三	2	0	14
夏川静江	7	4	4
今井達夫	0	4	11
今日出海	0	2	13
山岡荘八	0	0	15
山田邦子	15	0	0
小田嶽夫	0	0	15
松林伯知	13	2	0
大野木繁太郎	15	0	0
瀧井孝作	9	6	0
谷崎潤一郎	9	5	1
長谷川如是閑	9	5	1
藤森成吉	9	1	5
南條三郎	0	0	15
薄田泣菫	9	5	1
尾山篤二郎	7	3	5
平林たい子	8	5	2
野村胡堂	0	2	13

注：①は 1922～1930 年の集計，②は 1931～1936 年の集計，③は 1937～1945 年の集計

これらの小説家の執筆数を，1922～1930 年(満州事変以前)，1931～1936 年(満州事変以降～日中戦争以前)，1937～1945 年(日中戦争以降)の 3 つの期間における執筆数の比率を，図 8-14，8-15 に示す．ここでは執筆数の多い作家に注目するため，35 回以上の執筆数がある小説家に限定してグラフ化した．

これらグラフからは，執筆数自体は同じでも満州事変以前に偏っている作家と，満州事変以降に偏っている作家がいることが分かる．満州事変以前に多くの手記や小説を執筆していた小説家

と，満州事変以降に執筆数が増加した小説家では，それぞれ戦時における読者への影響や，「戦争協力」に対する貢献度も異なってくる．この説では，小説家が戦時において週刊誌上で果たした役割について考察するが，時期による執筆数の分布についても，考察の材料として考えていくこととする．

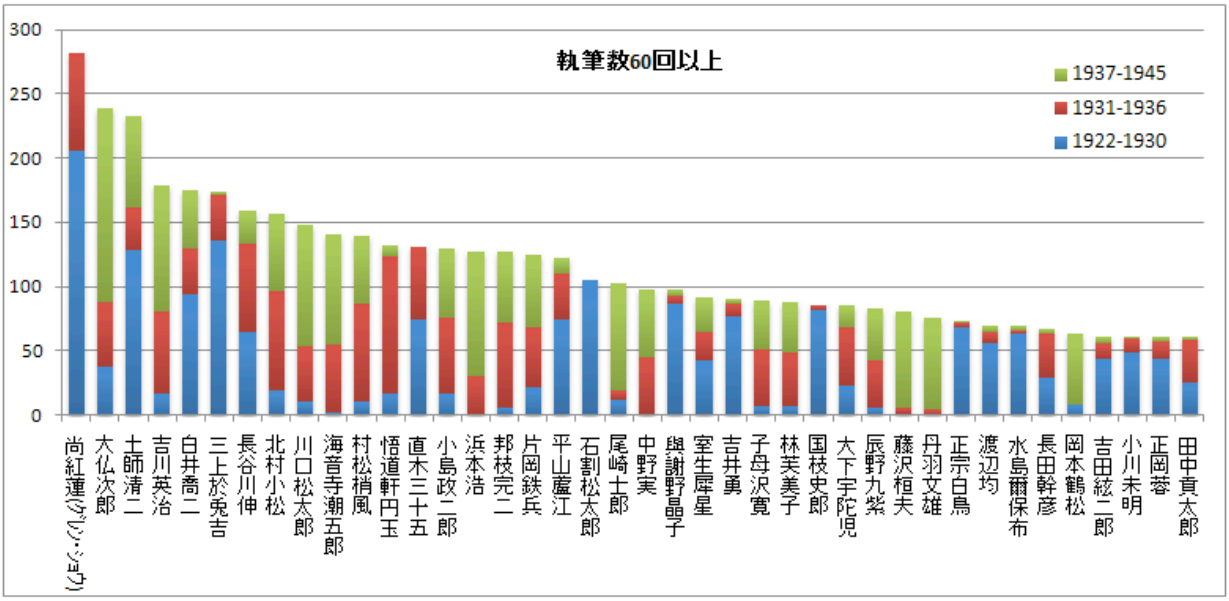


図 8-14：執筆数上位の小説家(60 回以上)

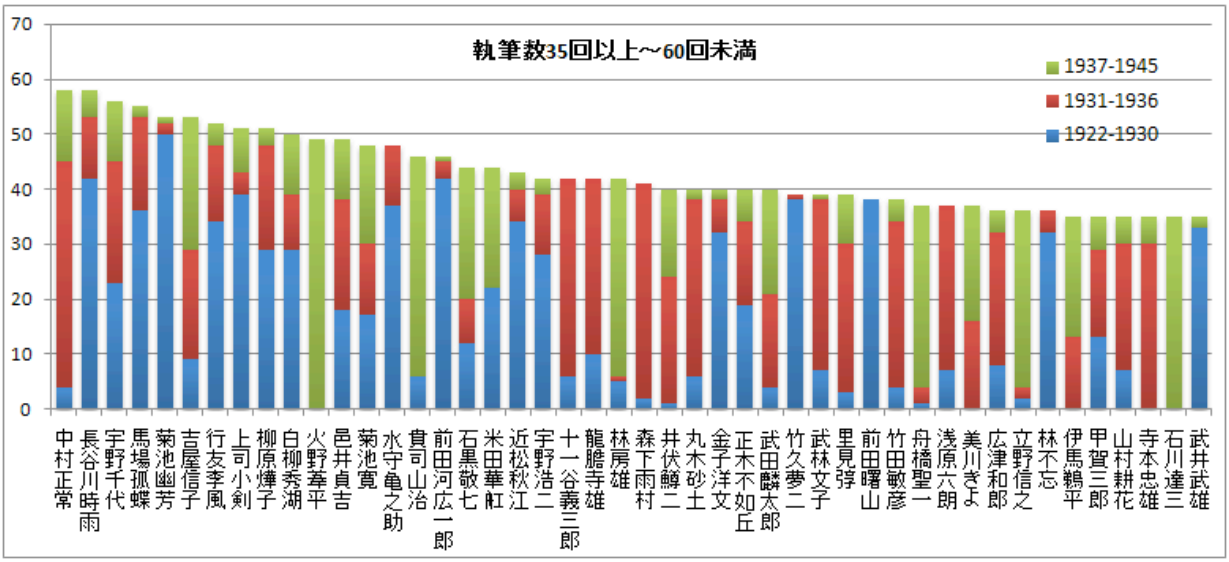


図 8-15：執筆数上位の小説家(35 回以上～60 回未満)

これら小説家の役割について考察する前に，明治末期から昭和初期にかけての文学界全体の流れと，上記の集計で名前の挙がった幾人かの作家の，文壇への登場から戦時下での執筆活動についてまとめることとする．

明治初期における文壇は，江戸時代より長く庶民に親しまれてきた戯作小説と，自由民権運動

の高まりとともに誕生し，知識階級のための文学としての政治小説が主流を占めていた．この流れを変えたのは坪内逍遥の文芸評論『小説神髄』(1885 年)であるが，これによって日本の文学界に写実主義が登場し，その坪内が主宰して 1891(明治 15 年)に自然主義文学を標榜する雑誌『早稲田文学』が誕生した．この自然主義文学に対抗して誕生したのが，芸術性を重視した反自然主義，耽美主義である．これらの小説は 1919(明治 43)年創刊の雑誌『白樺』や『三田文学』に掲載され，森鴎外や永井荷風，武者小路実篤，谷崎潤一郎らの小説を掲載した．これらの小説は自己の内面と向き合い，作家自身の自我を描きだすことより，「私小説」と呼ばれた．

大正後期から昭和初期にかけては，文学界も世界恐慌や農村の困窮という社会状況を反映した変化を遂げていくこととなった．明治期より日本文壇は常にロシアやフランス等の欧州諸国の文学に影響を受けてきたが，1917(大正 6)年のロシア革命は，労働争議や小作争議の頻発によって育まれてきた社会主義思想を，プロレタリア文学という形で文壇の表舞台に押し上げることとなった．「反戦」と「被抑圧階級解放」を標榜するプロレタリア文学運動は，1921(大正 10)年創刊の雑誌『種蒔く人』に始まり，1924(大正 13)年の『文芸戦線』創刊，1928(昭和 3)年の『戦旗』創刊へと繋がっていった．プロレタリア文学運動は関東大震災以降の度重なる思想弾圧に耐え，その間，宮本百合子や黒島伝治，平林初之輔，平林たい子らプロレタリア作家の活躍の場となっていった．しかし 1933(昭和 8)年の小林多喜二の獄死以降，次々と「転向」するプロレタリア作家や共産党員が相次ぎ，プロレタリア文学運動は次第に衰退していった．

一方で，従来知識階級の人々を中心に親しまれてきた「私小説」を否定し，欧米のモダニズム文学に影響を受けた新感覚派の文学が，プロレタリア文学とほぼ同時期に台頭した．この流派は 1924(大正 13)年創刊の『文芸時代』の同人である横光利一や川端康成，片岡鉄兵らを中心とした，“既成文学が私小説という私的事実の偏狭な領域に閉じこもり、他方プロレタリア派も社会的階級的事実に膠着して、共に芸術の固有の領域である想像力を圧殺させていることに対する反発”(傍点原文)[106]が生んだ文学であった．「新感覚派」という用語は，『サンデー毎日』に大衆小説を持ち込み，誌上で大衆文学の募集と懸賞金をかけた企画をしかけた千葉亀雄が，横光らの擬人法をとりいれた感覚に忠実な文体に対し，付けた言葉である．

これらの文学的変動期を経て，昭和初期に大衆小説が誕生することとなる．この誕生の経緯について，佐藤昭夫と桧山幹人は以下のように述べている．

> 当時ようやく近代都市の外観を整えてきた都会風俗の中で、経済恐慌の不安におぼえながらも手軽で便利な消費生活を享楽する風潮が高まり、いわゆる大衆小説が出現した。注目したいのは、円本の出現などこの時期から小説の量産がはじまり、風俗小説・中間小説・大衆小説の時代を迎えたことである。これらの作品はいずれも、大量消費と風俗的な事実のうちに作家主体をなしくずしに溶解させてしまい、文学的質の低下は覆うべくもなかった。[107]

大正期におけるサラリーマンの増加と都市中産層の形成や，小作争議，労働争議を通して知的欲求を満たす過程で新聞や雑誌に親しむようになった労働者層の新たな「読者層」への参入は，それまで知識階級を中心に親しまれてきた純文学に，一種の「行き詰まり」を突き付けることとなった．「私小説」に見られる個人主義の文学は，知識階級の人々の手によって生み出され，その受容者もまた高等学校や師範学校等を卒業した，教育水準の高い人々＝知識階級であった．しか

---

[106] 浅井清[他].新研究資料現代日本文学　第一巻　小説Ⅰ・戯曲.明治書院.2000,463P. p.13
[107] 浅井清[他].新研究資料現代日本文学　第一巻　小説Ⅰ・戯曲.明治書院.2000,463P. p.14

し 1913(大正 2)年より『都新聞』に連載された中里介山の「大菩薩峠」や，1923(大正 12)年より『報知新聞』に連載された白井喬二の「富士に立つ影」は，古くから民衆に親しまれてきた戯作文学や新講談の系譜を受け継ぎ，マスメディアを介して大衆が受容できるかたちで提供されることで人気を博した．また，印刷技術の発達により大量生産が可能となった「物」としての小説は，大衆化する社会の中で，より多くの人に読まれ，大量に消費されるものが次々と生み出されていった．文学を「消費」可能な商品として切り売りするようになったという点で，大衆小説は大正末期から昭和初期の風潮を反映した，全く新しい文学のジャンルであったといえる．

この大衆小説が『週刊朝日』と『サンデー毎日』に頻繁に掲載されるようになったのは，「新講談」を含めると 1923(大正 12)年頃からである．大衆小説が人々に受容される過程で，週刊誌は新聞における大衆小説の位置をそのまま受け継ぐかたちで，文芸欄の中心に大衆小説を据え，読者に「娯楽的読み物」の提供を行ったということができる．

満州事変以降は，社会主義思想の雑誌は次々と廃刊に追い込まれ，共産主義思想を持つ文学者や運動家が次々と検挙されることとなり，文学界は「転向」の時代を迎えることとなる．この「転向」文学の時代について，先に挙げた佐藤・桧山は以下のように述べている

> 思想弾圧が厳しさを増した昭和四、五年頃から、転向する作家が出てきたが、昭和八年、佐野学・鍋山貞親ら共産党首脳が転向し、小林多喜二が獄死するに及んで、相次ぐ転向現象が起こった。そしてこの転向体験を作品化した一群の小説が文壇に登場し、文芸復興期の一翼を担うことになった。村山知義「白夜」、中野重治「村の家」、立野信之「友情」などが代表作であるが、林房雄「青年」、島木健作「盲目」、武田麟太郎「銀座八丁」、高見順「故旧忘れ得べき」等も数えることができる。「青年」(昭七)を除いて他は昭和九～十年の作品である。転向文学には大別して三つの系が認められる。a-弾圧その他の事情から転向を余儀なくされるが、依然としてマルキシズムを自己の憧憬として潜在させているもの。b-転向と同時にマルキシズムだけでなく、さらに広く思想なるものの疑惑に発展し、代わって現実や庶民にコミットしようとするもの。c-転向と同時にマルキシズムを捨て、国粋的な民族主義に向かったもの。a は中野や村山のその後の歩みに、b は島木や高見に、c は林や保田与重郎・亀井勝一郎らの歩みにおおむね擬することができるであろう[108]。

こうした「転向」の時代を経て，満州事変以前，あるいは日中戦争以前には『週刊朝日』と『サンデー毎日』にはほとんど登場しなかった小説家も存在する．例を挙げると，火野葦平と石川達三は日中戦争以降にしか週刊誌へ執筆しておらず，1936(昭和 11)年までは一度も登場していない．両者はともに日中戦争の数年前より執筆活動を行っているが，火野は 1937(昭和 12)年，日中戦争への出征直前に『糞尿譚』で第 6 回芥川賞を受賞し，一躍時の人となる以前は故郷の福岡で家業を継ぎ，文筆面では同人誌に投稿する程度で目立った活動をしていないことが要因である．しかし石川は，1935(昭和 10)年に『蒼氓』で第 1 回芥川賞を受賞しており，日中戦争開戦時にはすでに有名作家として活動していた人物である．芥川賞は従来，純文学の作品に与えられる賞であり，同時代の受賞者である尾崎一雄や小田嶽夫は，『週刊朝日』ではそれぞれ 11 回，7 回の掲載があるが，『サンデー毎日』には一度も登場していない．もともと純文学の作家の作品が掲載されることの少ない週刊誌にとって，日中戦争以前はいかに石川達三が著名な作家であろうと，『生きてゐる兵隊』で筆禍事件を起こす前の石川は，読者の求める小説家ではない，と見ていたことが

108 浅井清[他].新研究資料現代日本文学　第一巻　小説 I・戯曲.明治書院.2000,463P. p.13-14

読みとれる．同様のことは丹羽文雄や濱本浩，武田麟太郎らにも見ることができる．満州事変以前，純文学との深い交わりのもとで執筆をしてきた小説家や，プロレタリア文学運動に参加した作家達は『週刊朝日』や『サンデー毎日』へはほとんど登場せず，先に挙げた『文芸時代』や『文芸戦線』，その他に『中央公論』や『婦人公論』，『文芸春秋』等を活躍の場としてきた．作品の性質が「大衆的」でないこれらの作家が，日中戦争以降に『週刊朝日』と『サンデー毎日』に登場するようになった背景には，戦時における小説家の文筆活動の変化がある．

その文筆活動のなかで，よく知られていることとして小説家の「従軍」がある．小説家の従軍とその体験をつづった手記や小説の執筆は，日清戦争の頃からすでに行われてきたが，日中戦争以降，小説家の従軍はますます盛んになっていった．小説家の戦地への派遣は，日清・日露戦争の頃より行われてきたことであったが，これが盛んになったのは日中戦争以降のことである．なかでも 1938(昭和 13)年の漢口攻略戦に際しての小説家達の派遣は，それまでの従軍作家の待遇とは比較にならないほど優遇されたものであった．この従軍作家団＝「ペン部隊」の人選は菊池寛が内閣情報部(局)より依頼され，菊池は内閣情報部との会合に共に参加した久米正雄，佐藤春夫，小島政二郎，北村小松，吉川英治，片岡鉄兵，丹羽文雄，吉屋信子，白井喬二，尾崎士郎の他に約 30 名に従軍を打診し，ほとんどの作家が承諾した．この時の内閣情報部の出した条件は，高額な支度金や旅費・滞在費の全額支給の他，帰国後に従軍した体験をもとに小説や手記を書く必要はない，という異例のものであった．このことについて，高崎隆治は以下のように述べている．

> 「徴用令状」一枚でうむをいわさず引っぱり、輸送船の船倉に身動きもできぬ状態で押し込められ、兵士用の軍服をあてがわれ兵食を支給され、命令によって引きずりまわされた多くの文学者たちの現実からすれば、漢口攻略戦の従軍作家＝「ペン部隊」は、地上のもっとも豊かな国の、しかも超一流の大作家ならばあり得るかもしれない空前絶後の特別大優待であった。あえて書き記すまでもなく、日清・日露の昔から、文学者たちが国家からこれほどの厚遇を得たことはかつて一度もなかった。むしろこの国の文学者たちは、国家にとってまったく無益な余計者でしかなかった。にもかかわらず、ある日突然の軍部のこの大変身はいったいどうしたことであろうか。彼等が文学者であるなら、それはまっ先に考えるというよりは、本能的になにかを直感しなければならないことであった[109]。

派遣された“ペン部隊”の作家たちは，帰国後に小説や従軍手記などを執筆し，新聞や雑誌等に発表した．それらの小説や手記に描かれたのは，戦地における兵士の様子や現地の人々の姿，生々しい戦闘の描写等であるが，記された内容が必ずしも「事実」を語っているわけではないのは，南京戦に従軍した石川達三の小説「生きてゐる兵隊」が発禁処分となったことに如実に表れている．石川達三の小説について，黒古一夫は以下のように述べている．

> 『生きてゐる兵隊』が「中央公論」に発表されるやいなや、直ちに掲載紙が発禁処分となり、作者の石川達三と編集者等が新聞紙法違反容疑で逮捕され、裁判の結果石川達三が執行猶予付きの禁固四ヶ月の判決を受けたのも、その描写があまりに「事実」に近かったからと思われる。戦争の「事実」を国民に知られることを、日本の政府・軍部は極端に恐れていたのである。なぜなら、世界大恐慌による経済不況を満州事変から「満州建国」(一九三二年三月)によって乗

109 高崎隆治.雑誌メディアの戦争責任:「文藝春秋」と「現代」を中心に.第三文明社,P219.p.77

り切ろうとした日本帝国主義は、「盧溝橋事件＝日中戦争(支那事変)」(一九三二年七月七日)を起こし、満州を起点に中国全土への侵略の野望を隠そうとしなかったが、その侵略の内実＝戦場がどんなものであったかを明らかにしたくなかったからであった[110]。

石川達三は漢口攻略戦の前年にあたる 1937(昭和 12)年，南京攻略戦に従軍し，その時の体験を「生きゐる兵隊」に記したが，その中で南京大虐殺を思わせる記述がなされていたことが発端となり，筆禍事件に発展した．石川がこの武漢攻略戦のペン部隊に選ばれず，同じく芥川賞受賞者で全くの新人に近かった富澤有為男が選ばれたことは，石川達三に対する“制裁”[111]であるとともに，他の作家たちへの警告であったということができる．そして，内閣情報部が発案し，菊池寛の全面協力によって実現した「ペン部隊」派遣の目的とは，従軍した先で作家たちが見てきた「真実」を記事や小説として残す可能性のある作家たちに対する“懐柔であり，彼等のもつ「不都合」な情報の破砕”[112]であると同時に，“作家たちが虐殺の厳然たる事実を知っていたとすれば，その口封じ”[113]のためであった．

文人部隊の出陣
史上前例なき壯觀
新戰爭文學生れん
菊池寛氏はじめ廿二選士の漢口從軍
何ぞ戰勝國の安泰なる
すら〳〵と話は決つて
今や原稿の書溜に大童
讀者の代理として
菊池寛
T・R生
詩に生きむ
佐藤春夫

図 8-16：『サンデー毎日』1938 年 9 月 11 日号

『サンデー毎日』誌上にも，この従軍作家の派遣に関する記事が掲載されている．1938(昭和 13)年 9 月 11 日号掲載の「文人部隊の出陣」は，先に述べた「ペン部隊」の漢口攻略戦への派遣が決定したと伝えている(図 8-16)．そしてこの記事から約 1 ヶ月半後の『サンデー毎日』10 月 30 日号に，これらの従軍作家の手記が掲載された.「弾雨の下で」と題したその記事は，濱本浩と吉屋信子，そして毎日新聞支局員・陸軍歩兵上等兵の徳永進がそれぞれ兵士や現地の人々の様子，砲弾がすぐそばに落下したという体験について報告している．そしてその後も,『サンデー毎日』にはに濱本浩の小説「日の丸のやうに」(1938 年 12 月 4 日皇軍慰問号)，川口松太郎の手記「出征譜」(1939 年 1 月 1 日新春特別号)，尾崎士郎の手記「戦場の感想」(同号)，北村小松の連載小説「渡洋爆撃隊」(1939 年 11 月 5 日号～同年 12 月 31 日号)等，多数の小説や手記が掲載されている．

『サンデー毎日』だけでなく,『週刊朝日』や他の雑誌にも上に名前の挙がった小説家の手記や従軍小説は掲載されているが，これらの小説家が従軍を希望した背景について，同書で黒古は以下のように述べている．

110 黒古一夫.戦争は文学にどう描かれてきたか.東京,八朔社,2005.191P. p.44
111 高崎隆治.雑誌メディアの戦争責任:「文藝春秋」と「現代」を中心に.第三文明社,P219.p.80
112 高崎隆治.雑誌メディアの戦争責任:「文藝春秋」と「現代」を中心に.第三文明社,P219.p.81
113 高崎隆治.雑誌メディアの戦争責任:「文藝春秋」と「現代」を中心に.第三文明社,P219.p.81

日中戦争時のペン部隊は、戦争の「実相」＝権力者の意図した側面を銃後の国民に知らせたという意味で、戦争を推進しようとする勢力にとっては「成功」であった。文学者の側も、身を危険にさらすということさえ我慢すれば、当時にあっては破格の待遇で中国各地を「大名行列」できたのだから、一部の反体制思想(反天皇制思想や社会主義思想、等)や反戦思想を持つ文学者以外は、多くの作家が喜んで従軍を希望するという事態となった。最初のペン部隊に参加した 22 人が誰一人傷付きもせず帰還したことも、この傾向に拍車をかけたと思われる。もちろん、内心では「嫌だ」と思っていた文学者も存在したのだろうが、当時にあっては軍と内閣情報局(太平洋戦争の開始にともなって「部」から「局」に格上げされた)の意向に逆らうことは、たちまち生活の糧を奪われることだと知っていた文学者たちは、競って従軍の希望を表明した[114]。

つまり，当時の小説家にとって，従軍を戦争の「実相」を伝えるための体験と捉える以外に，“破格の待遇”を目的に従軍を希望することや，拒否することによって執筆活動を禁止されることへの恐れがあったこと等，様々な事情や思惑があったのである．背景や思惑は違えど，従軍によって小説や手記を多数残し，それが週刊誌メディアにも掲載された小説家は，本音はどうであれ，読者が戦争の「実相＝権力者の意図した側面」を知るために執筆活動を行った，という点は共通している．

そこで，ここでは『週刊朝日』と『サンデー毎日』における「従軍作家」の役割について考察を進めていくこととする．従軍経験のある作家は多数おり，また，先に述べた通り小説家には従軍するにあたってそれぞれの背景や思惑があり，一概に「従軍作家＝戦争に協力的」と断定することはできない．例を挙げると，戦争をありのままに描き，作品が削除あるいは発禁処分となった石川達三と,従軍体験をもとに膨大な手記や小説を執筆し,その単行本がベストセラーとなり，海軍大臣賞も受賞した丹羽文雄とでは，従軍作家として雑誌に執筆した記事が読者に与える影響という点でも，異なってくると考えられる．また，丹羽文雄は日中戦争以前のⅠ期ではほとんど記事が掲載されていないが，日中戦争以降に記事が急増するなど，時期的な面からも従軍経験のある作家の執筆記事は,『週刊朝日』と『サンデー毎日』における「戦争加担」に，何らかのかたちで貢献しているとはいえ，その度合いもまた異なっているといえる．

そこで，ここでは満州事変以降に執筆数が増加した小説家を中心に，図 8-13，8-14 のグラフより，比較的掲載記事数が多く，かつ従軍経験のある作家を数名取り上げ，記事や小説の内容について見ていくこととした．

まず，満州事変以降に記事が増加し，かつ週刊誌だけでなく新聞や他の雑誌にも膨大な手記や小説を残した作家の代表として，丹羽文雄の手記より一部を引用する．

八月八日の夜襲の思ひ出はあまりに生ま生ましすぎる。僕の上膊部にうけた砲弾破片創は二ヶ月の治療を要するといはれてゐるが、日ましに傷がなほつていくに従ひ、あの夜襲の記憶は生ま生ましく、驚異の情は大きくなつていくばかりである。静かな二階の牀についてゐても、ふとあの夜のことを思ひ出すと、ぎよッとして僕は起き上る。しだれるやうな静粛な感じが頭をしめる。わが軍が枚を銜んで敵の泊地に長躯突入した時の、波を蹴立てるかすかな音が思ひ出されてくる。僕の記憶は、八日の夜につれ戻される。(中略)

その時、僕の足もとのあたりで、パシャン、パシャン、パシャンと続けざまに海面が鳴つた。

114 黒古一夫.戦争は文学にどう描かれてきたか.東京,八朔社,2005.191P. p.62

魚雷の発射であつた。魚雷の姿が半分海に落ちたところを、僕は見た。そこが泡立つた。夜光虫が光つた。魚雷は夜光虫の航跡をつけて、敵艦めがけて殺到した。航跡はすぐに見えなくなつた。僕は待つた。息をのんで待つた。待ちすぎるほど待つた。(中略)

僕はこの目、この肉体をもつて皇国海軍がいかに無敵であるかを知つた。腹の底に叩きこんだのだ。御稜威のもと、かうした海軍に守られてゐる自分らをしみじみ幸福だと思つた。さう思ひながらも僕の肉体と心は、いまだに夢心地であつた。

興奮が鎮まるに従ひ、僕は改めて皇国海軍に驚きを新にした。その無敵ぶりに気も遠くなるほどに驚いてゐる。

上記は丹羽文雄が 1942(昭和 17)年 8 月の第一次ソロモン海戦に従軍した際に記した記事「屠り去る焔の敵艦(ソロモン海戦従軍記)」(『サンデー毎日』1942 年 9 月 13 日号)である．この記事は「海軍報道班員」の肩書で丹羽文雄が 8 月 8 日の「ツラギ海峡夜戦」に参加した体験を語る記事であるが，軍人や記者の記事にはあまり見られない，読者の興味を引きつけるような導入部に始まり，その後も戦争の臨場感あふれる描写で勝敗が決するまでの 36 分間を書き記し，手記の最後には日本海軍の「無敵ぶり」を賞賛する言葉で締めくくっている．

このような軍への「賞賛」は，林芙美子の手記「皇軍の勇姿に後光輝く」(『週刊朝日』1938 年 11 月 20 日号)や北村小松の「生還すべき故郷」(『週刊朝日』1938 年 10 月 30 日号)にも見ることができる．

こうした手記は満州事変以降に記事の増加した小説家に限らず，戦前より誌上で人気作家として幾度も登場して来た小説家の手記や小説にも見られることである．吉川英治や白井喬二は大正から昭和初期の大衆小説の隆盛期より『週刊朝日』と『サンデー毎日』に多数の連載小説を掲載し，白井は『サンデー毎日』，吉川は『週刊朝日』の看板作家として活躍してきた．これら人気大衆作家も従軍し，特に日中戦争以降，その体験を小説に反映させている．以下に，吉川英治の小説「夜の司令官」(『週刊朝日』1938 年 3 月 20 日号)より一部を引用する．

劉は、不安な顔いろを湛へて這入つて来たが、首領の無事な姿を見ると、ほつとしたやうに、急に元気づいて、口を開いた。

「もう御存じでせうが、ツェルランド号は、予定どほりに、九百万元の武器を満載したまま香港の珠江沖で爆沈を遂げた。・・・盟長、これであなたの肚もすつきりしたでせう」

「ウム、東洋の大局から観れば、一塁を堕したほどにも値しないが、<u>われわれの中にも、真に支那を自覚し、真に東洋の平和を守護する人間がある―といふことを英国人輩の胆にこたへさせたゞけでも―あれは精神的にも、大きな手応へがあつたらう</u>」

「手応へがあつたどころぢやありませんぜ」

劉青年は、その新聞が上海へ伝はつたせつなの騒ぎを、具さに話して、

「すこし薬が利きすぎたくらゐなもんです」

と、つけ加へた。(下線筆者)

この小説は羅文旦率いる上海の秘密結社がイギリスの武器輸送船を撃沈させるまでを描いたものであり，下線部の描写には日中戦争以降に悪化した日英関係が反映されている．黒古一夫は戦争文学には“占領地域の住民(中国人)と日本軍との「親しい関係」を小説によって表現する”[115]―

[115] 黒古一夫.戦争は文学にどう描かれてきたか.東京,八朔社,2005.191P. p.57

側面がある，と述べているが，主人公に羅という中国人を据え，イギリスの船を撃沈させるというこの小説からは，そうした側面を読み取ることができる．

その他には，人々にとって身近なテーマに戦争を織り交ぜた小説も掲載されている．以下に，一例を示す．

帰途、公設市場に寄つて、野菜と秋刀魚を買つた。刑務所の横の道にさしかゝると、いつもは、声をかけたいほどに思ふ兄のことも、今日は心に浮かばず、昨日その時刻に、あの若者と出会つた武家門の前で、長い間杖を停めて、若しやと、心待ちしたほどであつた。(中略)

この小説は，濱本浩の小説「日の丸のやうに」(『サンデー毎日』1938 年 12 月 4 日皇軍慰問号)の一部分である．上記の部分は，“ある非国民的な罪”で検挙された兄をもつ光子という女性が，兵隊志願の朝鮮人青年との出会いによって，“非国民”である兄に対する慕情を忘れ，朝鮮人でありながら日本国のために働こうとする青年への思慕を募らせる，という一場面を描いている．また，光子の父もこの兄のことを“とんだ親不孝”で“村山の家名を汚した奴”であるから，釈放されても“儂が叩き斬つてやる”と怒りを露わにする場面が描かれている．

この兄と青年の対比は，光子と青年の手紙のやり取りの中でも描かれている．

お手紙で、御境遇のこと拝察いたしました、お兄さまも、さだめし今頃は獄中で、皇軍の万歳を祈つて居られることでせう。さうでなくても、お兄さんはお兄さん、あなたはあなたです、そのために世間を憚つたりする必要は決してありません。半島出身の私でさへ、この赤誠を持つて居る位ですから、まして内地に生れたあなたは、傍目をふらず、銃後の務めをお励み下さいますよう、心からお祈り致します。(中略)

「素敵だわ」

光子は、思はず声をあげた。

半島出身の私でさへ、この赤誠をもつて居る位だから、まして内地に生れたあなたは誠心誠意、銃後の務めを尽すやう、今は女子と雖も勇気を必要とする場合である、何と云ふ素晴らしい文句であらう、と光子の心は躍動するのであつた。

この部分は，光子と青年の手紙でのやり取りの中に戦時における女性の「在るべき姿」を映し出している．非常時とは，“女と雖も勇気を必要とする”時であり，政治犯あるいは思想犯として投獄されている兄のことは忘れ，“傍目のふらず”戦争の勝利と遂行を祈ること，節約や納税によって軍の支援をすることが戦時における女性の役目である，ということを示唆している．この小説からは，「恋愛」という身近なテーマに戦争を反映させ，その中に反戦思想の非難や女性の心構えを描くことにより，読者に対して思想面での戦争協力を促す役割を果たしていることが分かる．

この小説を書いた濱本浩は，反戦・反軍の社説「関東防空大演習を嗤う」(『信濃毎日新聞』1933 年 8 月 11 日)を執筆した桐生悠々で有名な信濃毎日新聞から，社会主義系総合雑誌『改造』を出版する改造社を経て小説家に転身した人物である．戦前は『週刊朝日』と『サンデー毎日』への記事や小説の掲載はほとんどなく，丹羽文雄や林芙美子と同様に，週刊誌とはいわば「無縁」の小説家であった．そうした人物であってもこのような小説を戦時下において週刊誌に掲載したことからは，小説家にとっての「転向」とは，戦時下を生き延びるための術でもあり，その「生き延びる」ための場所として，週刊誌が存在し，読者と小説家の仲介役となっていたことが読み取

れる.

一方で，同じく戦前は『週刊朝日』と『サンデー毎日』にはあまり登場せず，満州事変以降に執筆数が増加した作家でも，従軍体験をもとにした小説や手記が先に挙げた濱本や丹羽のものほど,「戦争」が反映していない人物がいる．武田麟太郎はプロレタリア文学運動期に労働運動に身を投じ, プロレタリア作家としての経歴を持つが, 満州事変以降の社会主義思想の弾圧を経て「転向」し,「日本三文オペラ」(1932 年)等の，庶民の生活や風俗をリアルに描いた「市井もの」を執筆した.『週刊朝日』には「青春」(1933 年 11 月 5 日号)等の小説を,『サンデー毎日』には「顔合せ」(1936 年 6 月 7 日号～7 月 26 日号連載)等の小説掲載した．一方，井伏鱒二は 1929(昭和 4)年に「山椒魚」「谷間」等の作品で脚光を浴び, 1938(昭和 13)年には「ジョン萬次郎漂流記」(1937 年)で直木賞を受賞した人気作家であった.『週刊朝日』には「軍鶏を預る」(1937 年 12 月 19 日号)等のユーモア小説を,『サンデー毎日』には「大阪散策」(1932 年 2 月 28 日号)等の随筆や手記を中心に執筆した. 両者の作品は, 1930 年代前半から短編小説や随筆が掲載され始め, 1936(昭和 11)年～1938(昭和 13)年に掲載が集中している点で共通している．井伏の戦時における小説について，黒古は“果たしてこれが「戦争文学」かと思われるほど奇妙な作品”[116]であり，井伏の戦時における小説は丹羽や濱本らが残したものとも，石川や火野が残したものとも異なり，戦争が「積極的」に描かれていないと指摘している．また，武田の執筆活動については“雑誌社や新聞社から頼まれて従軍したり、軍や内閣情報部からの命令で従軍した作家たちが、気安くその体験を基に小説を書いているのを苦々しく思っていた”[117]ことより，1942(昭和 17)年 3 月から 1944(昭和 19)年 1 月までの約 2 年間，小説は一編も書かないと決めていた，と述べている.

『週刊朝日』と『サンデー毎日』でも，武田麟太郎の小説は太平洋戦争が始まった 1941(昭和 19)年以降一編も掲載されておらず，手記「南隠戸隣保会」(『サンデー毎日』1945 年 1 月 14 日号)の執筆と座談会「陸軍特攻隊の出撃を見送りて」(『サンデー毎日』1945 年 1 月 21 日号)への出席があるだけである．井伏鱒二も「南方文化戦士として」(『サンデー毎日』1943 年 1 月 17 日号),「印象に残る兵隊の顔」(『サンデー毎日』1943 年 6 月 27 日号),「倍増産も義足から」(『サンデー毎日』1944 年 4 月 23 日号)の 3 つの手記が掲載されたのみで，ともに『週刊朝日』には記事が掲載されていない．彼らのように戦争描写が「消極的」であった小説家は，たとえ直木賞作家であっても太平洋戦争以降は『週刊朝日』と『サンデー毎日』への執筆機会が減少する傾向にある. 武田や井伏の戦時における週刊誌との関係は, 従軍手記や小説の執筆を契機とし,「戦争」によって強固なものとなった丹羽や濱本らの小説家とは異なり，週刊誌の「一執筆者」にとどまったということができる.

以上のことより，従軍作家が週刊誌において果たした役割についてまとめる．作家と週刊誌の結び付きという点よりこの役割を見ていくと，第一にあるのは吉川英治や白井喬二ら大衆小説家の作品が読者に与えた影響である．もともと誌上で人気があり，彼らの時代小説を読みなれている読者にすれば，吉川や白井の書く「戦争小説」や「従軍小説」は，全く知らない小説家のものより馴染みがあり，彼らの名前によって雑誌に目を通した読者も少なからずいたと考えられる．吉川や白井は「大衆小説」という娯楽要素＝週刊誌における「大衆性」によって読者と結び付いており，彼らの小説や手記が戦時においても多数掲載されたことからは，週刊誌の「大衆性」が「戦争」と結び付き，結果として読者に対する戦争協力を促したということができる.

次に挙げられるのは，丹羽文雄や林芙美子，濱本浩らの手記や小説である．彼等は満州事変,

---

116 黒古一夫.戦争は文学にどう描かれてきたか.東京,八朔社,2005.191P. p.69
117 黒古一夫.戦争は文学にどう描かれてきたか.東京,八朔社,2005.191P. p.74

あるいは日中戦争以降に執筆数が増加した作家であるが，これらの作家が「戦争」によって週刊誌と結び付いていたことは，その執筆数の増加傾向や小説の内容からも読み取れることである．『週刊朝日』と『サンデー毎日』において大衆小説が隆盛期を迎えた昭和初期において，時代小説や探偵小説，ユーモア小説とは分野が異なる丹羽や濱本らが戦時下において頻繁に登場した背景には，彼らの「転向」が戦時において戦争熱の高揚へと向かったためであると考えられる．「転向」後の執筆活動によって戦時下に多くの手記や小説を残した作家たちは，週刊誌の読者に馴染みがなかったとしても，「小説家」としての文章，手記やルポルタージュを物語のように描く技術によって，読者に対し戦争熱の高揚を示唆したということができる．そして，これらの小説家に戦争に協力的な小説や手記を発表する場を与えたという点で，週刊誌メディアは「戦争加担」の一翼を担っていたということができる．

第９章　おわりに

戦前の『週刊朝日』と『サンデー毎日』の目録データの集計と分析を基礎に，両誌の大正末期から昭和初期における「大衆性」がどのような形で表れているか，いくつかの特徴を明らかにすることができた．本論でⅠ期とした大正末期から昭和初期の 15 年間は，新しい形態のメディアとして出現した週刊誌が，婦人雑誌や娯楽大衆誌の特徴的な要素，大衆小説や実用記事，娯楽記事を取り入れることで，単なる新聞のダイジェスト版や実用雑誌の枠から脱却し，誌面の「大衆化」＝「面白く」「分かりやすい」を基本理念とした，あらゆる年代・性別・職業の需要に応え得る雑誌を目指した期間であった．

大正末期の実用記事の増加は，特に『週刊朝日』において，創刊前の編集方針で目指した雑誌と実際に売れる雑誌との違いを認識し，「売れる」ための要素＝大衆女性誌に見られるデパート的要素を積極的に取り入れた結果であったといえる．実用記事は大正末期に急増し，その後徐々に減少したが，これに代わって増加した娯楽記事と文芸記事，特に大衆小説がその後日中戦争開戦までの長期間に渡って中心を担ったことからは，「売れる」要素であったことも要因の一つであるが，読者が娯楽目的で消費するための雑誌＝「大量消費」されるメディアとしての立場を明確に打ち出したと見ることができる．

このような「大衆化」の側面は，両誌が娯楽と文芸(大衆小説)を 2 本柱としたことからも読み取ることができるが，『週刊朝日』の創刊当初の誌面に顕著に見られるように，両誌は娯楽的記事だけでなく，社会問題や政治に関する記事や人物評論，芸術，教育関連の記事も扱っており，主題は多様性に富んでいたということができる．そして，この多様な主題の中にも「三面記事」的要素が含まれており，この点が，『週刊朝日』や『サンデー毎日』の扱う記事に共通した点であるといえる．社会的記事や政治記事における「三面記事」的要素についてはロンドン軍縮会議や関東大震災に関する記事を例に示したが，これらのことからは，政治や事件のニュースを報じる記事に物語的要素や人物をクローズアップするというヒューマン・インタレストの要素を取り入れることによって，ニュース記事にも「娯楽性」と「解説性」を持たせ，読者の「消費」を促す役割を担っていたといえる．

これらの特徴より，戦前の週刊誌メディアの位置について考察すると，大衆文学や娯楽記事等，幅広い読者層に受け入れられる要素を中心に据え，さらに政治的・社会的記事，つまり創刊当初の目的の一つであった「ニュースのダイジェスト版」の要素においても，物事の本質を解説し，批評するだけではなく，人物に焦点を当てたニュース・ストーリーを提供することで政治あるいは社会的事件を「消費」対象とした点で，『週刊朝日』と『サンデー毎日』はニュース記事を欠く娯楽的大衆誌でもなく，また，娯楽記事や実用記事を欠く総合雑誌でもない，新しい形態の雑誌メディアであったということができる．

Ⅰ期の終わりは，1931(昭和 6)年の満州事変に始まり，1933(昭和 8)年の国際連盟関脱退へと行きつく時期を含んでいたが，この日中戦争の前の期間では『週刊朝日』と『サンデー毎日』の誌面は，目録データの集計結果の面では，大きな変化が見られなかった．満州事変に対する報道規制や国際連盟に対する関心の「薄さ」がデータ量の少なさに表れていたが，少ない記事の中に，両誌が日中戦争以降の戦時体制下において，読者にどのような形で「戦争」を伝達するか，その基礎がこの段階で形成された，と考えられる．『週刊朝日』は写真や風刺漫画といった「目で見る」要素を文章に組み入れる試みで，本来雑誌が持つ新聞のダイジェスト版の要素に「娯楽性」を持たせ，『サンデー毎日』は呼びかけるような「語り口調」で，扇情的で「物語性」の強い記事によ

って読者の関心を引こうとする試みが見られた.『週刊朝日』と『サンデー毎日』はそれぞれ「報道」にどのような「娯楽性」を持たせるかは異なっていても，目的は共に「報道」を読者に「面白く」読ませることにあり,「報道記事の娯楽性」によってより多くの読者を獲得することにあると考えられる．したがって，満州事変から国際連盟脱退までの『週刊朝日』と『サンデー毎日』は，この「報道記事の娯楽性」によって労働者や農民，女性層など一般の人々を含む「大衆読者層」を対象とした，大衆向け週刊誌メディアとして発行されていたと考えることができる.

本論でII期とした1937(昭和12)年から1945(昭和20)年までの8年間は,日中戦争から太平洋戦争期にあたる．ここでは「戦時下における週刊誌メディア」を念頭に,『週刊朝日』と『サンデー毎日』が戦争を読者に伝える際，報道やルポルタージュだけでなく，文芸記事や娯楽記事，座談会，小説等の様々な要素を取り入れていたことを重要視し,「小説」と「座談会」の役割について目録データの分析を行った．日中戦争以降に丹羽文雄や濱本浩ら従軍作家の執筆数が増加したことは,『週刊朝日』や『サンデー毎日』のみの特徴ととらえることはできない．同時期の『中央公論』や『キング』にも従軍小説や小説家による従軍手記は多数掲載されており，これは当時の文学者たちが置かれていた，言論活動の厳しさを物語っている．両誌の目録にも言論取締り強化の影響を感じさせる，陸軍省や海軍省による「検閲済み」の証明が記されている.『週刊朝日』の目録に“本誌所載の軍関係写真(絵画)はすべて陸軍省検閲済並に海軍省許可済第五五号”が記されたのは1944(昭和19)年1月23日号から,『サンデー毎日』は1942(昭和17)年1月25日号に“写真は陸軍省検閲済”が初めて記され，その後同年11月15日号より“本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可済第五六五号”という形式になっている．この背景には太平洋戦争開戦後の内閣情報局及び陸海軍省の言論取締の強化が挙げられる．1941(昭和16)年12月8日，太平洋戦争開戦と同時に通達された「大東亜戦争に関連する記事取締事項」[118](中園裕.新聞検閲制度運用論.東京,清文堂出版,2006.P299-301)は，大本営発表以外の戦争報道の他，反戦思想や厭戦思想を醸成・助長する報道や小説，その他の言論を禁止するという内容であった.

しかし『中央公論』の小説欄には，先に挙げた丹羽文雄ら従軍作家の作品だけでなく，戦争協力に「消極的」であった武田麟太郎や井伏鱒二，事実をありのまま伝えようとした石川達三や火野葦平らの小説が多く，従軍小説の掲載量だけで一概に「戦争協力」の時流に流されたということはできない．その点から見ると,『週刊朝日』と『サンデー毎日』には吉川英治や大仏次郎ら人気大衆作家の作品が多く，北村小松や丹羽文雄，濱本浩など精力的に従軍記を残した小説家の作品が中心となっている．同じく従軍作家の作品を多く掲載していても，その作品に小説家がどのように「戦争」を描いたかで，読者に与える印象は異なると考えられる.「戦争」が大衆作家の作品によって読者に伝えられたという傾向は，竹田敏彦等の大衆作家の作品を掲載していた『キング』や『主婦之友』にも見られたことである．これには『週刊朝日』と『サンデー毎日』,『キング』,『主婦之友』がいずれも大正末期より実用・娯楽記事，及び大衆小説を中心に据えてきたことが由来していると見ることができる．そして，恋愛や時代物という大衆小説従来のテーマが読者にとって「身近」であったり「娯楽的」であったりするという点から考察すると，大衆小説に「戦争」が反映することで，読者は比較的抵抗感の少ない状態で「戦争」を「知る」ことになったと考えられる.

また，座談会記事の全体における割合は決して高くなく，数量的な面から週刊誌メディアの一特徴と位置付けることは困難であるが,そのほとんどが1937(昭和12)年以降に掲載されている.

---

118 中園裕.新聞検閲制度運用論.東京,清文堂出版,2006.442P. p.299-301

特に太平洋戦争開戦以降の 1942(昭和 17)年から 1944(昭和 19)年にかけての掲載数は非常に多く，戦争の激化に伴って増加する座談会記事にも，小説家の執筆と同様に「示唆的」な情報提供の要素を見ることができる．座談会記事の内訳より，テーマとして戦争が取り上げられるのは社会背景として当然のことであるが，「啓蒙的」「従軍記事的」「実戦的」な座談会を戦局に応じて使い分けることで，読者の生活の助けや精神的な戦争協力の維持・増長に利用されていたと考えられる．以上のことより，『週刊朝日』と『サンデー毎日』は，小説家と座談会記事によって軍部の望む戦争の「実相」や銃後の心構えを伝えることで，戦争に対する「協力姿勢」を宣伝した，と考えられる．

以上のことより，週刊誌メディアの戦前から終戦に至るまでの読者との関わりについてまとめると，週刊誌メディアに共通する「大衆小説」「実用」「娯楽」という要素は，初期の週刊誌の骨格形成の過程において重要な位置にあり，これによって週刊誌メディアが読者との強い結び付きを持っていたことが分かる．政治や経済，社会問題に関する言及も少ないながらも継続して行っているが，これらの記事もゴシップ的要素や分かりやすい説明，漫画等の要素を加えるという手法が見られたことからは，『週刊朝日』と『サンデー毎日』が日中戦争以前に「面白くて分かりやすい」という「大衆雑誌」的要素によって読者との関係を築いていったということができる．

日中戦争以降の戦時体制下においては，戦前に「面白く分かりやすい」要素＝報道記事の娯楽性や大衆小説，懸賞記事等による読者との繋がりを維持し，これらの要素を戦争に関する「情報伝達」に利用していたと見ることができる．そして，大衆小説に戦争を反映させて愛国心や敵愾心を煽り，座談会記事や実用記事で銃後における大衆の心構えを示すなどして，読者の「戦争」に対する感情を一つの方向＝軍部の意図する戦争への迎合の姿勢へと推し進める役割を果たしていたということができる．

本研究では，目録データを基盤として様々な角度から集計・抽出等の手段で分析を行ったが，こうした作業は目録データをデジタル化して活用することが前提である．これまで様々な雑誌の総目次が出版されたが，これらの多くが縮刷版であり，コンピュータを使用したデータの検索や集計には時間のかかる形式となっている．しかし総目次の印刷物としての作成は戦前の雑誌研究にとって大きな助けとなっており，意義のあるものである．目録データのデジタル化はデータの集計や検索には適しているが，原本に記載された文字の大きさや字体までを反映することはできない．これらの「見た目」の情報は雑誌が何を重視したかという点において重要な判断材料となりうるため，こうした点を補うかたちでのデータのデジタル化を行い，研究材料としていくことが，ますます戦前の雑誌研究の発展に寄与すると感じている．

本論文では，「大衆性」と「戦争加担」に着目して『週刊朝日』と『サンデー毎日』の戦前から戦時下における誌面の変遷を追い，社会における位置について考察したが，文字と同様に，あるいは戦時下においては文字以上に読者に強い印象を与えると考えられる写真の使われ方について，十分な言及ができなかった．写真に関してはグラビアページ以外では記事の挿絵として使用されるものもあり，本論文で目録データとして分析することが叶わなかったが，本研究の基礎資料である文字データの目録に，写真や原資料のデジタル画像を組み合わせたマルチメディアデータベースを構築することで，また異なる視点から週刊誌メディアの戦前における「大衆性」，戦時下における「戦争加担」について考察することが可能であると考える．

また，本論では週刊誌メディアの誕生と発展に関わりの深い新聞メディア，及び月刊誌メディアとの比較という点では，時間的な制約もあり，他のメディアを定量的な視点から分析し，比較を試みることができなかった．他のメディアを同様の方法で分析することができれば，本論にお

ける週刊誌メディアの戦前における役割について，より深い考察が可能であったと考える．

今後は，本論で不足していたこれらの点についての研究を進め，週刊誌メディアが戦前及び戦時下において果たした役割について，さらなる考察を行っていきたい．

謝辞

本論は，筆者が筑波大学大学院図書館情報メディア研究科に在籍中の研究成果をまとめたものです．長年に渡って指導教官として本研究の実施の機会を与えていただき，また，博士論文の執筆にあたってもご指導ご鞭撻を賜り，有益なご教示を賜りました同研究科教授黒古一夫先生に，心より御礼申し上げます．また，副指導教官として有益なご助言ご指導をいただきました同研究科教授綿抜豊昭先生，並びに，同研究科教授岩澤まり子先生に，厚く御礼申し上げます．本論 5 章における研究課程で，有益なご助言ご討論を戴いた関東学院大学大学院文学研究科教授中村克明先生に，厚く御礼申し上げます．

本論文の基礎資料である『戦前期「週刊朝日」総目次』(ゆまに書房，2006)及び『戦前期「サンデー毎日」総目次』(ゆまに書房，2007)は，筆者が博士前期課程(修士)から博士後期課程(博士)に至る中で，ゆまに書房より「書誌書目シリーズ」出版の一環として『週刊朝日』と『サンデー毎日』の戦前期の総目次作成のお話をいただき，筆者が資料の収集とデータ入力等の編集作業を担当し，黒古一夫先生に監修をしていただいたものですが，これらの資料を研究成果として世に送り出すことができたのは，黒古一夫先生のご助言とご協力の賜物です．心より御礼申し上げます．また，同書の編集作業を行う過程で企画段階から店頭に並ぶまでの全体の編集業務をご担当いただき，多大なるご尽力をいただいた，ゆまに書房の上條雅通氏に心より御礼申し上げます．同書の編集に際して，原稿作りや資料収集，印刷・製本にいたるまでの全体の進行において多大なるご尽力をいただいた，樹立社の林茂樹氏に厚く御礼申し上げます．これらの総目次は，本論の 3 章，4 章における目録データの収集と分析の基礎資料となっており，本論文の基盤となっております．これらの成果を博士論文にまとめることができ，同書の発行に携わっていただいた皆様へ，重ねて御礼申し上げます．

目録の作成過程においては，国立国会図書館，筑波大学附属図書館，日本近代文学館，毎日新聞社の皆様より資料を提供して戴くとともに，多大なご協力をいただきました．ここに深く御礼申し上げます．また，筆者の研究活動に対し貴重なご助言とご支援をいただいた，勤務先である鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科の先生方に深く感謝いたします．

最後になりましたが，論文の執筆を含めた研究活動中において，最も辛い時を支えてくれた両親と夫に，心より感謝いたします．ありがとうございました．

参考文献

1) P.F.ラザーズフェルド・E.カッツ.パーソナル・インフルエンス.東京,培風館,1965.405P.
2) ゲオルゲ・L.モッセ.大衆の国民化 ： ナチズムに至る政治シンボルと大衆文化.東京.柏書房,1994.268P.
3) 粟屋憲太郎.ドキュメント昭和史 2　満州事変と二・二六.東京,平凡社,1983.345P.
4) 粟屋憲太郎.ドキュメント昭和史 2:満洲事変と二・二六.東京,平凡社,1975.342P.
5) 臼井吉見.大正文学史.東京,筑摩書房,1963,258P.
6) 永嶺繁敏.「読書国民」の誕生:明治 30 年代の活字メディアと読書文化.東京.日本エディタスクール,2004,237P.
7) 奥武則.大衆新聞と国民国家.東京.平凡社,2000.247P.
8) 岩波書店編集部.近代日本総合年表 第 4 版.東京,岩波書店.2001.807P.
9) 岩波書店編集部.近代日本総合年表 5.東京,岩波書店,2001.807P.
10) 近代女性文化史研究会. 婦人雑誌にみる大正期:婦人公論を中心に, 東京.近代女性文化史研究会,1995.154P.
11) 近代女性文化史研究会.近代婦人雑誌目次総覧 10 巻　婦人世界, 東京.大空社,1985.
12) 近代女性文化史研究会.近代婦人雑誌目次総覧 9 巻　婦人世界, 東京.大空社,1985.
13) 原田勝正.ドキュメント昭和史 4:太平洋戦争.東京,平凡社,1975.326P.
14) 古川隆久."紀元二千六百年奉祝と日中戦争".メディア史研究.ゆまに書房・メディア史研究会.1995,Vol3,p.30-52.
15) 後藤孝夫.辛亥革命から満州事変へ.東京,みすず書房,1987.447,19P.
16) 後藤孝夫.辛亥革命から満州事変へ:大阪朝日新聞と近代中国.東京.みすず書房,1987.447P.
17) 高崎隆治.ペンと戦争:その屈辱と抵抗.東京.成甲書房,1976.212P.
18) 高崎隆治.戦時下の雑誌:その光と影.名古屋.風媒社,1976.260P.
19) 高崎隆治.戦時下文学の周辺.名古屋.風媒社,1981.208P.
20) 高崎隆治.戦場の女流作家たち.東京.論創社,1995.171P.
21) 黒古一夫.原爆は文学にどう描かれてきたか.東京.八朔社,2005.169P.
22) 今西光男.占領期の朝日新聞と戦争責任.東京.朝日新聞社,2008.379P.
23) 佐々木隆.日本の近代 14:メディアと権力.東京,中央公論新社,1999.430P.
24) 佐藤正晴."戦時下日本の宣伝研究:小山栄三の宣伝論をめぐって".メディア史研究.ゆまに書房・メディア史研究会.1996,Vol5,p.98-114.
25) 佐藤卓己.現代メディア史.東京,岩波書店,1998.259P.
26) 佐藤卓己.言論統制 ： 情報官・鈴木庫三と教育の国防国家.東京.中央公論新社,2004.437P.
27) 佐藤卓己.八月十五日の神話:終戦記念日のメディア学.東京.筑摩書房,2005.278P.
28) 佐藤卓己.輿論と世論:日本的民意の系譜学.東京.新潮社,2008.350P.
29) 坂本龍彦.「言論の死」まで:『朝日新聞社史』ノート.東京.岩波書店,1996.405P.
30) 山田俊治.大衆新聞がつくる明治の＜日本＞.東京,日本放送協会,2002.270P.
31) 児島襄.太平洋戦争(下).東京.中央公論新社,2008.344P.
32) 児島襄.太平洋戦争(上).東京.中央公論新社,2008.329P.
33) 時代別日本文学史事典編纂委員会. 時代別日本文学史事典 現代版. 東京.東京堂出版,1997 .476P.

34) 宍戸啓一.日本新聞発達史:明治・大正編.東京.樽書房,1995.603P.
35) 社史編纂委員会.講談社の歩んだ五十年:明治・大正編.東京,講談社,1959.748P.
36) 小谷敏 炭谷晃男.オピニオン・リーダーの構造と動態:'81年むつ市調査から.新聞学評論.No32, 1983. P5-24.
37) 小田切進. 現代日本文芸総覧　下巻. 東京. 明治文献,1972.714P.
38) 小田切進. 現代日本文芸総覧　中巻. 東京. 明治文献,1969.576P
39) 小田切進. 現代日本文芸総覧　上巻. 東京.明治文献,1969.798P.
40) 小田切進.現代日本文芸総覧補巻.編小田切. 明治文献,1973. 710P.
41) 小尾俊人.出版と社会.東京.幻戯書房,2007.654P.
42) 小林龍夫 島田俊彦.現代史資料 7　満州事変.東京,みすず書房,2004. 64,606P.
43) 昭和ニュース事典編纂委員会.昭和ニュース事典　第 3 巻.東京,毎日コミュニケーションズ,1991.143,800,125P.
44) 松田ふみ子. 婦人公論の五十年. 東京.中央公論社,1965.258P.
45) 城戸又一.現代ジャーナリズムⅠ歴史.東京,時事通信社,1974
46) 森まゆみ.『婦人公論』にみる昭和文芸史.東京.中央公論新社,2007.349P.
47) 成田龍一.大正デモクラシー.東京.岩波書店,2007,224P.
48) 成蹊大学文学部学会.明治・大正・昭和の大衆文化.東京.彩流社,2008.318P.
49) 青池慎一.オピニオン・リーダー研究における緒論点: オピニオン・リーダー研究ノート.哲學.Vol91, 1990. P403-414.
50) 青木孝平.天皇制国家の透視:日本資本主義論争Ⅰ. 東京.社会評論社,1990.317P.
51) 石川松太郎. 日本教育史. 東京.玉川大学出版部,1987.257P.
52) 前坂俊之.メディアコントロール　日本の戦争報道.東京,旬報社,2005.301P.
53) 村山長挙.占領期の朝日新聞と戦争責任:村山長挙と緒方竹虎.東京.朝日新聞社,2008,379P.
54) 大高利夫.書誌作成マニュアル:文献目録を作る人のために.東京.日外アソシエーツ,1985.202P.
55) 大村彦次郎.時代小説盛衰史.東京.筑摩書房,2005.523P.
56) 大谷正."「新聞操作」から「対外宣伝」へ:明治・大正期の外務省対中国宣伝活動の変遷".メディア史研究.ゆまに書房・メディア史研究会.1996,Vol5,p.71-97.
57) 大仏次郎.大仏次郎　敗戦日記.東京.草思社,1995.354P.
58) 丹羽文雄.海戦.東京.中央公論社,2000.215P.
59) 中央公論社労働組合有志. 有志激闘 24 年 中公闘争勝利の軌跡. 東京.中央闘争支援共闘者会議,1996.
60) 中央大学人文科学研究所.近代日本文学論　大正から昭和へ. 東京.中央大学出版部,1989 .342P
61) 中村光夫.明治文学史. 東京.筑摩書房,1967.267P.
62) 中村智子.横浜事件の人々.東京,田畑書店,1979.301P.
63) 朝日新聞「新聞と戦争」取材班.新聞と戦争.東京.朝日新聞出版,2008.580P.
64) 長幸男 佳谷一彦. 近代日本思想史体系 6. 東京.有斐閣,1971.535P.
65) 長山靖生.海野十三戦争小説傑作集.東京.中央公論社,2000.286P.
66) 津金澤聰廣.現代日本メディアの研究.東京,ミネルヴァ書房,1998.328P.
67) 田中浩.近代日本のジャーナリスト.東京,御茶の水書房,1987.1246P.

68) 田中浩.近代日本のジャーナリスト.東京.御茶の水書房,1987.1246P.
69) 内川芳美.ドキュメント昭和史 3:日中戦争.東京,平凡社,1975.332P.
70) 畑中繁雄.日本ファシズムの言論弾圧抄史:横浜事件・冬の時代の出版弾圧.東京,高文研,1896.291P.
71) 半藤一利.昭和史.東京.平凡社,2009.612P.
72) 尾崎秀樹.雑誌の時代:その興亡のドラマ.東京.主婦の友社,1979.218P.
73) 美作太郎.言論の敗北:横浜事件の真実.京都,三一書房,1959.246P.
74) 武田麟太郎.武田麟太郎全集　13 巻.東京.日本図書センター,2003.290P.
75) 文部省.学制百年史.東京,帝国地方行政会,1972.
文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpbz198101/index.html
76) 平凡社.ドキュメント昭和史　別巻　昭和史ハンドブック.東京,平凡社,1983.351P.
77) 朴順愛."「十五年戦争期」における内閣情報機構".メディア史研究.ゆまに書房・メディア史研究会.1995,Vol3,p.1-29.
78) 毎日新聞 130 年史刊行委員会.「毎日」の 3 世紀:新聞が見つめた激流 130 年(上).東京.毎日新聞社,2002.930P.
79) 毎日新聞百年史刊行委員会.毎日新聞百年史.東京.毎日新聞社,1972,622P.
80) 明石博隆　松浦総三.昭和特高弾圧史 1:知識人にたいする弾圧(上).東京,太平出版社,1975.321P.
81) 明石博隆　松浦総三.昭和特高弾圧史 2:知識人にたいする弾圧(下).東京,太平出版社,1975.314P.
82) 野間宏. 岩波講座文学 11 現代世界の文学.東京.岩波書店,1976.362P.
83) 有山輝雄.近代日本ジャーナリズムの構造:大阪朝日新聞白虹事件前後.東京.東京出版,1995.403P.
84) 琉球新報社.沖縄戦新聞.沖縄.琉球新報社,2005.
85) 鈴木裕久.マス・コミュニケーションの調査研究法.東京,創風社,2006.211P.
86) 絲屋寿雄.現代の社会学 日本社会主義運動思想史 3. 東京.法政大学出版局,1982.335P.

資料編

資料　I-1 :『週刊朝日』『サンデー毎日』創刊号～1922(大正 11)年 7 月　目次..... 資-1

資料　I-2 :『サンデー毎日』創刊号～1922(大正 11)年 7 月　目次..... 資-27

資料 II-1 :『週刊朝日』1932(大正 7)年 10 月～12 月　目次..... 資-45

資料 II-2 :『サンデー毎日』1932(大正 7)年 10 月～12 月　目次 資-60

資料 III-1 :『週刊朝日』1943(昭和 18)年 1 月～7 月　目次 資-73

資料 III-2 :『サンデー毎日』1943(昭和 18)年 1 月～7 月　目次 資-90

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
1	**★『旬刊朝日』一九二二(大正十一)年二月二十五日号(第一巻一号)目次**			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	題号	その他	
2	表紙写真　朝日新聞社来訪のジヨツフル元帥			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	グラビア	表紙	
3	表紙裏　新時代の家庭雛(漫画)	岡本一平		1-1,	1922(大正11)年2月25日号	漫画		
4	旬間			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	その他	見出し	
5	華府会議の成果	米田実	3	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治		
6	山縣公の死		4	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	社会		
7	華盛頓会議の総覧		5	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治		
8	華盛頓会議諸条約		6	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治		
9	海軍条約、四国条約、極東協約、ヤツプ島協定		7	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治	軍事	
10	山東協定		7	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治		
11	支那諸税協定、潜水艦及毒瓦斯協定		8	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	経済		
12	陸軍縮小問題(言論界)		8	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治	軍事	
13	第四十五回帝国議会			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治		
14	開院式勅語、衆議院本会議		9	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治		
15	衆議院予算議会、貴族院本会議		10	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	経済		
16	衆議院予算議会、重要法案		11	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	経済		
17	日本		11	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	その他	見出し	
18	軍人に令旨、補欠選挙(愛知・石川)、昇格評議会、熊野代議士離宮闖入騒動、新枢府議長陸軍騒動、陸軍異動、阿部浩氏、新勅撰七氏、徳川全権帰朝、特許局管制改		11	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治	軍事	
19	欧米			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	その他	見出し	
20	愛蘭自由国、カンヌ会議、仏国内閣更迭、独逸新外相、伊太利の政局、新旧羅馬法皇、埃及独立問題、印度の形勢		12	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治		
21	支那			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	その他	見出し	
22	梁士詒内閣の破綻、華府会議終了と支那、九千六百万元公債の成立		12	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	政治		
23	社会			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	その他	見出し	
24	仏国答礼使ジヨツフル元帥来朝、宮廷録事、山縣公爵、大隈侯爵、満鉄事件の公判、北陸線惨事、東北の水害、平和博覧会、各地雑件、普選の叫び、労働界、航空界、火災、芸術界、人事消息		13	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	社会		
25	運動記事			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	スポーツ		
26	インサイド			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	その他	見出し	
27	宣伝と創作	厨川白村	1	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	随筆		
28	我人口と食料の調節	石本恵吉	2	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	社会		
29	映画検閲と鑑賞	橘高広	3	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	映画		
30	中学校入学難に就て	伊賀	4	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	教育		
31	中学校入学難に就て	鶴崎	4	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	教育		
32	中学校入学難に就て	深井	4	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	教育		
33	キヨンジヨク・ヤマダ(劇壇近事)	K生	5	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	芸能		
34	東都楽壇の近況	ST子	6	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	芸能		
35	「女」がなうても「子供」は生れる	大串菊太郎(医学博士)	8	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	家庭		
36	お台所拝見・春のよそほひ		9	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	家庭		
37	東宮殿下とスキー	稲田昌植(男爵)	10	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	スポーツ		
38	趣味と娯楽(お雛様の盛花瓦斯・電灯と生花・現代式茶道の解剖・女流碁客)		11	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	娯楽		
39	出版界		11	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	社会		
40	脱出	ピエル・ルイ	12	1-1,	1922(大正11)年2月25日号	文芸		
41	経済旬報			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	その他	見出し	
42	財界の前途、経済日誌、財界新旧人(小山健三氏)、財界大観、財界楽屋覗き、旬報			1-1,	1922(大正11)年2月25日号	経済		
43	**★『旬刊朝日』一九二二(大正十一)年三月五日号(第一巻二号)目次**			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	題号	その他	
44	表紙写真　普選案上程日の衆議院			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	グラビア	表紙	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
45	表紙裏　剰余る金をアテにする人々(漫画)			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	漫画		
46	旬間			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	その他	見出し	
47	現在の政治問題	三宅雪嶺	15	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治		
48	十日間の世界(旬間評論)		15	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	社会		
49	帝国議会			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治		
50	衆議院の普選討議		17	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治		
51	清浦氏懲罰問題		18	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治		
52	過激社会運動取締法案(貴族院)		18	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	社会		
53	言論界		18	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	社会		
54	陸軍現状維持論批判	河野慎吉	19	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治	軍事	
55	海軍協定批判	水野広徳	19	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治	軍事	
56	内外時事		20	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	社会		
57	欧州			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	その他	見出し	
58	ゼノア会議の予備交渉、伊太利新内閣、愛国の形勢			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治		
59	米国			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	その他	見出し	
60	上院と四国協定、上院とヤツプ条約			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治		
61	支那			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	その他	見出し	
62	北京内閣形勢、南方派の北伐、露支陸路貿易章程の撤廃、香港の船員罷業、山東撤兵準備			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	政治		
63	社会			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	その他	見出し	
64	普選案上程の日、宮廷録事、サンガー夫人上陸禁止問題、奥羽線の惨事、朝鮮銀行紊る、各地雑件、労働界、芸術界消息、人事消息、運動記事			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	社会		
65	インサイド			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	その他	見出し	
66	奢侈と資本主義	小泉信三	13	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	経済		
67	犬の星座	山本一清	14	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	娯楽		
68	三月の童話評	木村恒	14	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	文芸		
69	原始的絵画と装飾	浜田青陵	15	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸術		
70	昨今の東都劇壇	中村吉蔵	15	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸能		
71	出版界(相対性原理)		16	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	社会		
72	蓄養動物としての人間	村上鋭夫	17	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	社会		
73	「文楽」は廃滅するか	鶯林学人	17	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸能		
74	平和記念博覧会		18	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	社会		
75	コドモの世界(Oの腕白Sの悪癖)		20	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	家庭		
76	日本庭球選手観	チルデン	21	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	スポーツ		
77	女子庭球国際試合		21	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	スポーツ		
78	能壇つれづれ	坂元雪鳥	22	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸能		
79	囲碁・劫の研究	久保松五段	22	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	娯楽		
80	新衣裳と新舞踊	斉藤佳三	23	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸能		
81	流行(梅見頃の訪問服)		23	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	流行		
82	林檎の種(探偵小説ーー)	馬場孤蝶	24	1-2,	1922(大正11)年3月5日号	大衆小説		
83	短歌	加藤七三		1-2,	1922(大正11)年3月5日号	文芸		
84	絵画	岡田九郎		1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸術		
85	絵画	古家新		1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸術		
86	絵画	服部亮英		1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸術		
87	絵画	室町あき子		1-2,	1922(大正11)年3月5日号	芸術		
88	写真			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	グラビア		
89	経済旬報			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	その他	見出し	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
90	説苑(公債政債如何)、経済日誌、財界新旧人(松方幸次郎氏)、財界大観、実業界七不思議(財界楽屋覗き)、取引所改正要項、経済統計			1-2,	1922(大正11)年3月5日号	経済		
91	**★『旬刊朝日』一九二二(大正十一)年三月十五日号(第一巻三号)目次**			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	題号	その他	
92	表紙写真　国母陛下の御西下			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	グラビア	表紙	
93	表紙裏　家庭舞踊(漫画)	伊東忠太		1-3,	1922(大正11)年3月15日号	漫画		
94	旬間			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	その他	見出し	
95	生活問題と物価	神戸博士	23	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	経済		
96	十日間の世界(旬間評論)		23	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	社会		
97	帝国議会			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	政治		
98	貴族院(一蓮托生問題、議事一覧)		24	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	社会		
99	衆議院(昇格案上程、昇格予算、陪審法案、内閣弾劾案、議事一覧)		25	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	経済	政治	
100	言論界(一蓮托生問題)		25	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	社会		
101	華府会議の支那関係決議		26	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	政治		
102	台湾は如何の状	蔡培火	26	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	社会		
103	内外時事			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	社会		
104	欧州			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	その他	見出し	
105	英国連立内閣の危機、英仏保障条約、埃及の独立、独逸賠償銀協定		27	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	政治		
106	支那			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	その他	見出し	
107	鮑貴卿内閣流産、財政危機重大、山東引継準備、香港の罷業解決		28	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	政治		
108	社会			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	その他	見出し	
109	皇后陛下関西九州へ行啓、平和記念博開く、柳原伯の辞職、警視総監譴責、警察の慣用手段、田中代議士事件、大阪高商の失態、サンガー夫人を訊問、危険なる海軍中佐、華府全権帰朝、各地雑件、労働界、航空界、運動記事			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	社会	軍事	
110	インサイド			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	その他	見出し	
111	貞操に関する婦人問題の法的考察	宮本英雄	25	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	社会		
112	関西好劇家のために	坪内雄薫	26	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	芸能		
113	趣味ある建築	武田五一(工学博士)	27	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	娯楽		
114	映画めぐり	スフインクス	27	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	映画		
115	東西舞踊の春			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	芸能		
116	日本の踊と西洋のダンス	シー・ゼ・アーネル	28	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	娯楽		
117	東の「をどり」評判記		28	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	芸能		
118	家庭をどり		28	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	家庭		
119	大阪の舞踊	楳茂都扇性	29	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	芸能		
120	都をどりの楽屋		29	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	娯楽		
121	新舞踊「長生浦島」		29	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	芸能		
122	春を彩る舞踊の数々(写真十葉)		30	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	グラビア		
123	サンガー夫人の一面	照井栄三	32	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	社会		
124	流行(春の装身具と髪)		32	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	流行		
125	囲碁・劫の研究	久保松五段	32	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	娯楽		
126	蛙の研究	無我空人	33	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	科学		
127	こどもの世界(入学試験と子供の健康、絵ばなし神様の頭痛、考へもの)		34	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	教育		
128	米国運動界	小西作太郎	35	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	スポーツ		
129	出版界(断片語)		35	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	文芸		
130	林檎の種(探偵小説ー二)	馬場孤蝶	36	1-3,	1922(大正11)年3月15日号	大衆小説		
131	絵画	岡田九郎		1-3,	1922(大正11)年3月15日号	芸術		
132	写真			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	グラビア		
133	経済旬報			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	その他	見出し	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
134	営業税撤廃不可、財界新旧人(日銀総裁井上準之助)、財界大観、経済日誌、米船補助と我国、財界楽屋覗き、旬表其他諸統計			1-3,	1922(大正11)年3月15日号	経済		
135	**★『旬刊朝日』一九二二(大正十一)年三月二十五日号(第一巻四号)目次**			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	題号	その他	
136	表紙写真　九段靖国神社の桜			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	グラビア	表紙	
137	表紙裏　サンガー夫人の来朝(漫画)	伊東忠太		1-4,	1922(大正11)年3月25日号	漫画		
138	旬間			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	その他	見出し	
139	今期議会を顧みて	河田博士	30	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	政治		
140	十日間の世界(旬間評論)		30	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
141	帝国議会		31	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	政治		
142	一蓮托生後の政局、過激取締法案、海相初登院、昇格案、内閣弾劾案、陸軍側の縮小案、陪審法案、農商務省の分離、二重橋上の爆死事件貴族院、議事一覧、衆議			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会	軍事	
143	内外日誌		32	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
144	ゼノアと大連	中山貞雄	34	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
145	南支の労働問題	太田宇之助	34	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	職業		
146	言論界(過激取締法案)		34	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
147	内外時事			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
148	日本			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	その他	見出し	
149	帰朝後の加藤全権、静岡県補欠選挙、男爵議員補欠選挙、協定後の列国海軍			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	政治	軍事	
150	欧州			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	その他	見出し	
151	印度事件論争、カンヂー逮捕、埃及独立宣言、南阿の内乱、東欧小国の提携、西班牙新内閣			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
152	支那			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	その他	見出し	
153	財政部の紊乱、関税改正問題、陸関減税廃棄問題、国是会議振はず、宣統帝の			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	経済		
154	社会			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	その他	見出し	
155	皇后陛下門司にて御乗艦、二重橋上で爆死、雉本博士の謎死、燁子の断髪、原敬暗殺事件公判、自由思想家協会設立、衆議院速記者の盟休、庭兵の示威行列、各地雑件、労働界、火災、人事消息、運動記事			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
156	インサイド			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	その他	見出し	
157	芸術批判と相対的立場	村松正俊	37	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	芸術		
158	貞操に関する婦人問題の法的考察(下)	宮本英雄	38	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
159	クライスラーを聴く	藤田進一郎	39	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
160	詩人ホイツトマン	横山有策	40	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	人物		
161	シヤンピニオンの栽培		40	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	家庭		
162	燁子女史の断髪に就て	島崎藤村	41	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
163	サンガー夫人の燁子評		41	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
164	桜の珍種		41	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	家庭		
165	花見案内(東京の花見に(上方見物に)行くには往復一週間で幾らの費用が入り、如何に見物したら可いか、関東、関西の桜の写真数葉)			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	グラビア		
166	双児の話	駒井卓	44	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	家庭		
167	映画めぐり(下)	スフインクス	44	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	映画		
168	春さきと精神病	和田豊種(大阪医大教授)	45	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	家庭		
169	家庭(入学準備品の色々、春のお化粧)		45	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	教育		
170	囲碁・劫の研究	久保松五段	45	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	娯楽		
171	こどもの世界(子供の写真)		46	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	グラビア		
172	林檎の種(探偵小説ー三)	馬場孤蝶	47	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	大衆小説		
173	米国競技界の花形	東口生	48	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	スポーツ		
174	童謡、写真、絵画			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	グラビア		
175	経済旬報			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	その他	見出し	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
176	金融の前途如何、新人と旧人(大同電力社長福澤桃介)、財界大観、内外経済日誌、印度関税問題、財界楽屋覗き(半身不随の会社)、			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	経済		
177	旬表其他所統計			1-4,	1922(大正11)年3月25日号	社会		
178	英文欄		2	1-4,	1922(大正11)年3月25日号	文芸		
179	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年四月二日号(第一巻五号)目次**			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	題号	その他	
180	表紙写真　平和博の朝日デー			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア	表紙	
181	表紙裏　当冬の収穫(漫画)	伊東忠太		1-5,	1922(大正11)年4月2日号	漫画		
182	同写真　平和博の朝日デー写真競技大会参加の帝劇女優達			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア		
183	週間			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	その他	見出し	
184	政局如何に動くか	高木信威	3	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	政治		
185	七日間の世界(週間評論)		3	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
186	帝国議会終了		4	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	政治		
187	経済概要、綱紀建議案、過激取締案、昇格案、陪審法案、陸縮建議案、鉄道敷設法案、両院議事一覧			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	経済		
188	内外時事			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
189	日本			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	その他	見出し	
190	革新倶楽部、政友新役員、各派議員総会、廃棄艦艇、辞令、雑報		3	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	政治		
191	米国			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	その他	見出し	
192	上院の四国協約批判、英因占領費要求、炭鉱罷業		6	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
193	欧州			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	その他	見出し	
194	雪国ゼノア、本年度独逸賠償、近東会議		7	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	政治		
195	社会			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	その他	見出し	
196	英国皇太子御来訪、大隈侯邸を寄附、田中大将狙撃さる、新婦人協会の喜び、弁護士の懲戒多し、新思想のための落第、暴風雪襲来の被害、虚空蔵虫と毒瓦斯、女給連盟の運動、鳩山田中両代議士不起訴、各地雑件、労働界、芸術界消息、火		7	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	政治		
197	内外日誌		4	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
198	言論界(帝国議会終る、其他)		6	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	政治		
199	米国禁酒の二年	藤田進一郎	6	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
200	インサイド			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	その他	見出し	
201	食用貝の話	岸上理学博士	9	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
202	劇壇近事	小宮豊隆	10	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	芸能		
203	天気予報講話	小野理学士	11	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
204	坪内博士の手紙		11	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	人物		
205	光瑠氏の新居「無憂園」	太田宇之助	12	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	芸能		
206	若い婦人のために	藤村医学博士	13	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
207	四月の『婦人雑誌』から		13	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	文芸	書評	
208	東京の春、大阪の春(写真)		13	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア		
209	大阪の釣、東京の釣	根本房吉	14	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	娯楽		
210	素人写真の撮りかた	秋山轍輔	15	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア		
211	家庭(花見のお弁当、食用牛の話)		16	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
212	園芸　春蒔きの草花		16	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
213	流行写真		16	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア		
214	コドモの世界(英国皇太子殿下、英国の旗)		17	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
215	運動(五大学の新陣容)		18	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	スポーツ		
216	出版界		18	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
217	林檎の種(探偵小説ー四)	馬場孤蝶	19	1-5,	1922(大正11)年4月2日号	大衆小説		
218	童謡、俳句、写真、絵画			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア		
219	経済週報			1-5,	1922(大正11)年4月2日号	経済		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
220	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年四月九日号(第一巻六号)目次**			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	題号	その他	
221	表紙写真　英国皇太子殿下			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	グラビア	表紙	
222	表紙裏　藪中藩花三上戸(漫画)	山田みのる		1-6,	1922(大正11)年4月9日号	漫画		
223	週間			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	その他	見出し	
224	日支の問題を提唱す	末広法学博士	3	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
225	七日間の世界(週間評論)		3	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
226	内外時事			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
227	日本			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	その他	見出し	
228	議会後の陣形整理、公正会の分裂、植民地新施設、南洋庁設置、海軍と失業者、本年度開業の鉄道、雑報			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	政治	軍事	
229	世界			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	その他	見出し	
230	ゼノア会議の前、米国の炭鉱罷業、西伯利来軍日本軍と衝突		6	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	政治		
231	支那			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	その他	見出し	
232	空家同様の北京政府、反基督教運動、湖南省運動失敗、関税改正委員会		7	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	経済		
233	社会			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	その他	見出し	
234	英国皇太子御来訪、保津川鉄橋附近で列車頓覆、東京市疑獄判決、第六回医学会大会、普通選挙運動否認、全国乗馬大会、少年禁酒法と威訓、満鉄続行公判、各地雑件、航空界、運動記事			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	グラビア		
235	廃帝カール	S・W	6	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
236	内外日誌		4	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
237	言論界(其後の政局、其他)		7	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	政治		
238	インサイド			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	その他	見出し	
239	親しく拝した英皇儲殿下	鈴木文史朗	9	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
240	英人の見たるエドワード殿下	倫敦特派員F・L	10	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
241	新婚の夢園かにおはすメリー殿下		11	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
242	英皇儲殿下の御召列車を運転する岩崎機関手		11	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
243	エドワード殿下と漫画		11	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	漫画		
244	幼稚園の立場	久米島武彦	12	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
245	日本画の新運動	沢村京大助教授	13	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
246	子供らしく上品な学校劇		13	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
247	生物学むだ話	山本理学士	13	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
248	新学期が初まりました(記事と写真)		13	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	グラビア		
249	東京泰明校の新試み		14	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	教育		
250	四谷元町の二葉保育園		14	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	教育		
251	大阪江戸堀幼稚園児の自然物利用		14	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	教育		
252	理想的な学校弁当		15	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
253	天気予行講話(二)	小野理学士	16	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
254	出版界		16	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
255	囲碁・劫の研究	久保松五段	16	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	娯楽		
256	家庭(女中扱ひ方)		17	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
257	流行(東京好み男女物)		17	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	流行		
258	コドモの世界(絵ばなしと絵あそび)		17	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
259	林檎の種(探偵小説ー五)	馬場孤蝶	18	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	大衆小説		
260	プリンス・オブ・ウエールズ(英文)	F・L	19	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	小説		
261	雑誌界(四月の論壇)		19	1-6,	1922(大正11)年4月9日号	文芸	書評	
262	童謡、俳句、絵画			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	文芸		
263	経済週報			1-6,	1922(大正11)年4月9日号	経済		
264	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年四月十六日号(第一巻七号)目次**			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	題号	その他	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
265	表紙写真　澄宮殿下初の御登校			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア	表紙	
266	表紙裏　半玉と禁酒法案(漫画)	服部亮英		1-7,	1922(大正11)年4月16日号	漫画		
267	週間			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	その他	見出し	
268	現代の思想問題	安部磯雄	3	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
269	七日間の世界(週間評論)		3	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
270	一週間の移り変り		4	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
271	内外時事			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
272	日本			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	その他	見出し	
273	英皇儲殿下御入京、各政派の会合、内閣糾弾演説、教育評議会、教育費増額運動、郵便貯金の減少、海軍首脳会議、実用漢字の整理、新聞問題の決議、新学士院議会、災害復旧費補助、臨時教育養成所、新公布の諸法律			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	政治	社会	軍事
274	世界			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	その他	見出し	
275	ゼノア会議開会、大連会議		6	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	政治		
276	支那			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	その他	見出し	
277	北伐軍の進行程度、内閣問題		7	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	政治		
278	社会			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	その他	見出し	
279	軍縮参考の演習、成田線の列車転覆惨事、大阪府遊郭整理の怪聞、少数同胞と西本願寺、禁酒同盟大会、「中学講座」を開設、日本農民大会、各地雑件、労働界、航空界、劇界、火事、運動記事			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	政治		
280	欧州会議の開かれたゼノア	R・W	6	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	政治		
281	海外論壇		6	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
282	言論界(英皇国を想ふ)		7	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
283	内外日誌		4	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
284	インサイド			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	その他	見出し	
285	日本画の新運動(下)	沢村助教授	9	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
286	天気予報講和(三)	小野理学士	10	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
287	新アカデミシアン・キユリー夫人		10	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
288	渡り鳥の話	K・T生	11	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	科学		
289	海外文芸小話		11	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	文芸		
290	法医学とは何んなもの	鈴木生	12	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
291	婦人方に多い春さきの頭痛	増本医学士	13	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
292	飛行機の速力	中正夫	13	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	科学		
293	出版界		13	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
294	流行娘十二題(漫画)	山田みのる	14	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	流行		
295	日本人が好きになるまで	ヴァンダーリップ夫人	14	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	随筆		
296	十五年目に日本に帰つて	一宮操子	16	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
297	将棋の秘訣	坂田八段	16	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	娯楽		
298	家庭料理	阪本花代	17	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
299	流行(東京と大阪)	泉花村	17	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	流行		
300	園芸(ダリヤの栽培法)		17	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
301	尋常一年から英語を教へる学校		17	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	教育		
302	林檎の種(探偵小説－六)	馬場孤蝶	18	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	大衆小説		
303	運動(英国選手が北欧へ)		19	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	スポーツ		
304	囲碁・劫の研究	久保松五段	19	1-7,	1922(大正11)年4月16日号	娯楽		
305	絵画	幡恒春　古家新		1-7,	1922(大正11)年4月16日号	芸術		
306	写真、俳句			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア		
307	経済週報			1-7,	1922(大正11)年4月16日号	経済		
308	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年四月二十三日号(第一巻八号)目次**			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	題号	その他	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
309	表紙写真　両皇太子殿下の御闘兵			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア	表紙	
310	表紙裏写真　全国少年団の英国儲歓迎、徳川公邸御成りの英皇儲、婦人団体の英皇儲歓迎、赤阪離宮の英皇儲謁見			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア	表紙	
311	週間			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	その他	見出し	
312	我国の資本主義	佐野学	3	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	経済		
313	英太子殿下より御嘉納状		3	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
314	七日間の世界(週間評論)		4	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
315	内外時事			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
316	日本			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	その他	見出し	
317	英国儲殿下、国有財産法施行、植民地国有財産、朝鮮酒税引上、政友会と行政整理、憲政会の報告書、国党東京支部と解党尚早申合、尚友会の膨張、六大都市の電話使用率、六大都市に中央市場、教育費増額と文部省、鉄道現業員会議日割、地方官吏更迭、新公布の諸法律			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	政治	社会	
318	支那			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	その他	見出し	
319	奉直南軍の行動		6	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	政治		
320	世界			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	その他	見出し	
321	ゼノア会議－大連会議流る		7	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	政治		
322	社会			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	その他	見出し	
323	帝国ホテル全焼、平和博の損失、禁酒法の通牒、白国皇子御来朝、三高教授馘首問題、女教員協会を組織、各地雑件、労働、航空、火災、各地雑件、労働、航空、火災、人事消息、ゴシツプ、運動記事			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
324	奉直両派渦中の人々	中村生	7	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
325	世界一周(漫画)	岡本一平	2	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	漫画		
326	内外日誌		2	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
327	インサイド			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	その他	見出し	
328	蝋燭の火熱を五十哩離れて測れる	渡辺農学士	5	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	科学		
329	夙く発達した長崎の「歌舞伎」	稲佐踏絵	10	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	芸能		
330	英皇儲殿下台覧の茶摘		10	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
331	春の歌(長詩)		10	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	文芸		
332	肺結核と療法	半田医学博士	11	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	科学		
333	恋の活動女優マツクスウエル夫人		11	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	映画		
334	渡り鳥の話(つゞき)	K・T生	12	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	科学		
335	鯛網の話	井手詞六	12	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	娯楽		
336	出版界		13	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
337	週刊模様と週刊色(写真教室)		13	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア		
338	「愉快な初夏の散歩服」の流行意匠募集応募答案の中から、神経質の私には色も模様もそれか選まれる(皐月)、光沢も張りもある肌を消したくない(美蓉)			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	その他	解説	
339	新しく出た第二次太子髷		15	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
340	子供の世界	M・T生	16	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
341	英仏婦人の運動熱	阪本信一	17	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
342	故郷花あり(短歌)		17	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	文芸		
343	林檎の種(探偵小説－七)	馬場孤蝶	18	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	大衆小説		
344	ヴアンス所見(絵画)	正宗得三郎	19	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	芸術		
345	平和博の美術評	春山武松	19	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
346	ローマ字(メートル法の起り)	田中館博士	19	1-8,	1922(大正11)年4月23日号	科学		
347	絵画、写真			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア		
348	経済週報			1-8,	1922(大正11)年4月23日号	経済		
349	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年四月三十日号(第一巻九号)目次**			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	題号	その他	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
350	表紙写真　ゼノア会議の立役者英国首相ロイド･ジヨージ氏			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	グラビア	表紙	
351	後部表紙内面写真　美くしい水泳選手			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	グラビア	表紙	
352	週間			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	その他	見出し	
353	ロイド･ジヨージの一面	ハーシー	3	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	人物		
354	七日間の世界(週間評論)		4	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
355	内外時事			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
356	日本			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	その他	見出し	
357	英国儲殿下、週間政局、地方財政状況、財産税原案、当局の貿易振興策、産業行政の統一、植民地管制改正、政友会と財税整理方針		4	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	政治		
358	世界			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	その他	見出し	
359	ゼノア会議の進行		6	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	政治		
360	支那			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	その他	見出し	
361	奉直両軍の配置		6	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	政治		
362	社会			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	その他	見出し	
363	東京方面の地震、李王世御帰鮮、文武官の勲章剥奪、蜃気楼、大阪府下の死亡率、浅間山の雪崩出水、海軍省の人事紹介所、三高校長不信任問題、各地雑件、労働、火事、ゴシツプ			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	政治	軍事	震災
364	海外論壇		8	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
365	言論界(政局と西園寺公)		7	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	政治		
366	世界一周(漫画)	岡本一平	3	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	漫画		
367	内外日誌		4	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
368	インサイド			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	その他	見出し	
369	行動の理想主義	平林初之輔	9	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
370	モンマルトルの居酒屋にて	岡田九郎	9	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	随筆		
371	巴里の引越	町田梓楼	10	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	随筆		
372	台覧余興で面目を施す	森律子	11	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
373	耳と鼻と咽喉の病気	中村医学博士	11	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
374	日本人悪評記			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	娯楽		
375	鼻持ちならぬ成金ぶり	長悟子	12	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
376	輸入「文明」と日本人	ロントル	12	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	経済		
377	支那劇壇の人気女優		13	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	映画		
378	元気に遊べ、丈夫に育て(写真)		14	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	グラビア		
379	子供の笑ふ心持ち	矢野医学博士	14	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
380	蛙の御殿	北原白秋	14	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	文芸		
381	端午の節句		15	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
382	子供に童謡を唄はせるには	永井幸次	15	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	文芸		
383	雲雀ローマンス	林佐市	16	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	娯楽		
384	囲碁･劫の研究		16	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	娯楽		
385	南願寺わび茶の事		16	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
386	描き更紗は斯して作る		17	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
387	美人になるには何を食べるか		17	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
388	近頃の台所道具		17	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
389	林檎の種(探偵小説ー八)	馬場孤蝶	18	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	大衆小説		
390	労働文化協会を立てた理由	久留弘三	19	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	職業		
391	日本婦人の舞踊服は裾模様		19	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	芸能		
392	英文(京大の英皇儲歓迎録)		19	1-9,	1922(大正11)年4月30日号	文芸		
393	絵画、写真、俳句			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	グラビア		
394	経済週報			1-9,	1922(大正11)年4月30日号	経済		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
395	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年五月七日号(第一巻十号)目次**			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	題号	その他	
396	表紙写真　朝鮮礼装を召された王世子妃殿下と王世子及び晋殿下			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	グラビア	表紙	
397	後部写真　奥に乗られた王世子殿下、観見式当日の方子女王殿下、大阪メーデーの女給室－童謡音楽大会に出た早蔵幼稚園児－帰朝した三浦環女史－歓迎袋で大			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	グラビア		
398	週間			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	その他	見出し	
399	小規模生産への復帰	加田哲二	3	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
400	七日間の世界(週間評論)		4	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
401	内外時事			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
402	日本			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	その他	見出し	
403	内閣改造問題経過－英皇儲殿下－拓殖務省案－樺太支部増設－宮城県補欠選挙－国民党の調査方針－変政九州大会－露国政変救援金－生命保険に警告－五大学昇格可決－全国女学校長会－女子教育大会－海軍要部異動－廃業艦処分－伯爵議員候補者－破産法実施期－都市計画局長			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	政治	社会	軍事
404	世界			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	その他	見出し	
405	ゼノア会議の遂行		6	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	政治		
406	支那			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	その他	見出し	
407	奉直軍の戦況－山東の朝市場		7	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	政治	戦争	
408	社会			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	その他	見出し	
409	メーデー－観見の御儀－白耳義第二皇子－東宮御議長－三高問題－各地雑件－労働－航空－火事－ゴシツプ－運動記事			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
410	デシヤネル氏	重徳泗水	6	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	人物		
411	言論界(内閣改造問題其他)		7	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	政治		
412	内外日誌		4	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
413	インサイド			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	その他	見出し	
414	男女共学と性教育	宮田修	9	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	教育		
415	我劇界の諸問題	小林侯爵	10	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
416	蛍の話	小松崎三枝	11	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	科学		
417	仏国現代美術展覧会		12	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	芸術		
418	ノラの実在		12	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	芸能		
419	南部太夫の事ども		12	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	芸能		
420	学校の遠足旅行に就て		13	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	教育		
421	市川東京第一高等女学校長－中村成蹊中学校長－須長大阪東区第一小学校長－小川大阪市岡高女教頭			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
422	関東関西対抗競技会に出る新進選手(記事と写真)		14	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	グラビア		
423	なぜ女が生れ男が生れるか	無我空人	16	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
424	家庭(夏のお掃除)		17	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
425	子供愛護デー		17	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
426	園芸(睡蓮)		17	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
427	出版界		17	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
428	囲碁・劫の研究	久保松五段	17	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	娯楽		
429	林檎の種(探偵小説－九)	馬場孤蝶	18	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	大衆小説		
430	五月号の婦人雑誌		19	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	文芸	書評	
431	春の月(長詩)	千家元麿	19	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	文芸		
432	英文(ロイド・ジヨージ)	バーネツト・ハーシー	19	1-10,	1922(大正11)年5月7日号	小説		
433	絵画、写真			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	グラビア		
434	経済週報			1-10,	1922(大正11)年5月7日号	経済		
435	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年五月十四日号(第一巻十一号)目次**			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	題号	その他	
436	表紙写真　五月台所を前に			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	グラビア	表紙	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
437	後部写真　第三回東西対抗競技会所見－西班牙皇太子の剥製術研究－今年の子供愛護デー－市松人形－米大統領の子供愛護			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	グラビア		
438	週間			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	その他	見出し	
439	日本人と「社会」の意義	柴田峻	3	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
440	七日間の世界(週間評論)		4	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
441	内外時事			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
442	日本			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	その他	見出し	
443	英皇儲殿下ミハエリス博士－新公布の法律－西伯利新派兵－陸軍異動－内閣改造の失敗－臨時議会不調－行政整理の準備－其後の陪審調査－財産税案可決－鉄道改良費割当－労働条約実施勧告－			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	政治	軍事	
444	世界			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	その他	見出し	
445	ゼノア会議の遂行		6	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	政治		
446	支那			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	その他	見出し	
447	奉天軍の敗因－四川航路		7	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	政治		
448	社会			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	その他	見出し	
449	婦人政談演説会－判決例の新研究－三高問題の解決－汽車内に拳銃－強盗－各地雑件－労働－航空－火事－東京、大阪相撲番附－運動記事			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
450	用兵と政治家の進退	河野恒吉	6	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	政治		
451	海外論壇(講和条約の改定)		6	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
452	言論界(内閣改造中止其他)		7	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	政治		
453	内外日誌		4	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
454	インサイド			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	その他	見出し	
455	若返り法の価値		9	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	美容		
456	二十年後を予想した米国紐育市		9	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
457	日本金魚は米国で持てる		10	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
458	コルシカ島から	正宗得三郎	11	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	随筆		
459	活き活きした米国の教育	下村宏	12	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	教育		
460	一枚八万円の切手		12	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
461	色の音楽	本野精吾	13	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	娯楽		
462	廃物利用の洋服釦		13	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
463	芝居の西東(写真数葉)		13	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	グラビア		
464	市川小團次をしのんで	市川右団次	14	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	芸能		
465	二星を喪つた文楽座	石田玖瑠盤	14	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	芸能		
466	欧米で上演せられた日本劇	大西利夫	15	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	芸能		
467	蝉の話	無我空人	16	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	科学		
468	耳と鼻と咽喉の病気	中村医学博士	16	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
469	囲碁・劫の研究	久保松五段	16	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	娯楽		
470	第三回東西対抗競技の収穫	野口・北村・山添・金栗	17	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	スポーツ		
471	林檎の種(探偵小説－十)	馬場孤蝶	18	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	大衆小説		
472	五月の論壇(雑誌界)		19	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	文芸	書評	
473	出版界		19	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
474	英文(ロイド・ジョージ　二)	バーネット・ハーシー	19	1-11,	1922(大正11)年5月14日号	小説		
475	絵画、写真			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	グラビア		
476	経済週報			1-11,	1922(大正11)年5月14日号	経済		
477	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年五月二十一日号(第一巻十二号)目次**			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	題号	その他	
478	表紙写真　初夏のこゝろ—米国婦人界の流行			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	グラビア	表紙	
479	週間			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	その他	見出し	
480	知識階級と生活問題	汐見三郎	3	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
481	七日間の世界(週間評論)		3	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
482	内外時事			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
483	日本			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	その他	見出し	
484	週間大勢－海軍縮小剰余金－廃税と新税と増税－財産税の免税話－小作争議論停法－農家の経済状態－穀虫を防ぐ法－伯西と日本移民－浦潮の日本人－漢字整理－十年度壮丁成績－公衆体育振興策－伯男爵議員補選－軍艦消息			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	政治	軍事	
485	世界			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	その他	見出し	
486	ゼノアから海牙へ		6	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
487	支那			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	その他	見出し	
488	敗戦後の奉天軍－東三省独立と日本		7	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	政治	戦争	
489	社会			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	その他	見出し	
490	晋殿下薨去－自殺者の群－弁当を盗む少女－煙のやうな女－各地雑件－労働記事－航空記事－ゴシツプ－運動記事			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	グラビア		
491	言論界(当面の政局)		9	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	政治		
492	内外日誌		4	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
493	インサイド			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	その他	見出し	
494	趣味の比叡	藤代博士	9	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
495	子供とお伽噺	久留島武彦	9	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
496	美しい手		10	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
497	空中撞球	阿部蒼天	10	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	スポーツ		
498	ニースの謝肉祭	正宗得三郎	11	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	随筆		
499	意匠と文化生活	奥田誠一	11	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
500	囲碁・劫の研究	久保松五段	12	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	娯楽		
501	間接の動かぬ病気	前田医学博士	12	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
502	毛一本から足がつく		13	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
503	改良された木造住宅	藤井厚二	13	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
504	乳児の消化不良	矢野博士	13	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
505	夏と帽子(写真数葉)		14	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	グラビア		
506	婦人帽は何処まで生長する	M・T生	14	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
507	欧米麦稈帽便り	文史朗	15	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
508	夏と子供帽		16	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
509	家庭(女の子の靴下、手軽に出来る新案掛け蒲団、寝ぼける子供)		16	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
510	園芸(トマトの種蒔き)		16	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
511	流行(近松好みの中形浴衣)	泉花村	16	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	流行		
512	運動(流行してきたホツケー)	石原育弥	17	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	流行		
513	死刑囚の話	狩屋将公	17	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
514	鼠小僧次郎吉(小説－－)	新居格	18	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	大衆小説		
515	雑誌界		19	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
516	出版界		19	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
517	英文(ロイド・ジョージ　三)	ハーシー	19	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	小説		
518	無線塔(読者から)		19	1-12,	1922(大正11)年5月21日号	娯楽		
519	絵画	幡恒春　正宗得三郎		1-12,	1922(大正11)年5月21日号	芸術		
520	写真			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	グラビア		
521	経済週報			1-12,	1922(大正11)年5月21日号	経済		
522	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年五月二十八日号(第一巻十三号)目次**			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	題号	その他	
523	表紙写真　夏の気分			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	グラビア	表紙	
524	後部写真　女学生の英語劇、女人道中姿の写生旅行、馘首された人々、犬の病気診断、ブライアン翁の孫娘			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	グラビア		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
525	週間			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	その他	見出し	
526	能率増進の根本問題	野上文学博士	3	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
527	七日間の世界(週間評論)		3	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
528	内外時事			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
529	日本			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	その他	見出し	
530	週間大勢－地方長官会議－司法官会議－教育関係者の諸会合－新戸数割問題－山東条約批准－教育助成金公布願－二事件の発表－羅馬法王使節－三私立大学認可－行刑局と改刑			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
531	支那			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	その他	見出し	
532	其後の支那時局		6	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	戦争		
533	世界			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	その他	見出し	
534	ゼノア会議の終焉振り		7	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	政治		
535	社会			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	その他	見出し	
536	発狂者多し－監獄を改称－中学生の争闘二件－獄死者の遺骨－岸博士の競売－民衆娯楽と野外劇－東京市議宣伝－沿岸州伐木夫－各地雑件－労働－航空－			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
537	言論界(時事諸問題)		7	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
538	内外日誌		4	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
539	インサイド			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	その他	見出し	
540	此頃の夜の空	新城理学博士	9	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	科学		
541	犬と馬の入院	長村熊次郎	10	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
542	飛行機の灯台		10	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	科学		
543	住宅問題(詩)	藤木九三	10	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	文芸		
544	廿三歳の『娘町長』	伊藤七司	11	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	随筆		
545	秋に来朝するアインスタイン		11	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
546	初夏と精神病		12	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
547	婦人演能問題	坂元雪鳥	12	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	芸能		
548	刀剣ロマンス	室津鯨太郎	13	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	随筆		
549	テーマを愛する心(演芸漫録)		13	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	芸能		
550	藤村氏を訪ねて	Y生	13	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	人物		
551	鮎漁の解禁は三日後(写真数葉)		13	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	グラビア		
552	鮎釣とつり鈎	根本房吉	14	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	娯楽		
553	鮎と鱚つり		15	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	娯楽		
554	梅雨と衣食住	藤原医学博士	16	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
555	片山病とはこんなもの(一)	藤浪医学博士	16	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
556	創半両大学対抗ボート・レース		17	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	スポーツ		
557	走高跳と棒高跳の写真教授		17	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	グラビア		
558	此頃の女学生		18	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	教育		
559	鼠小僧次郎吉(小説－二)	新居格	19	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	大衆小説		
560	外国の日本字新聞		19	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
561	海外文芸瑣談		19	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
562	出版界		19	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
563	無線塔(若返り法の価値側聞録)		19	1-13,	1922(大正11)年5月28日号	娯楽		
564	絵画	幡恒春　古家新		1-13,	1922(大正11)年5月28日号	芸術		
565	写真			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	グラビア		
566	経済週報			1-13,	1922(大正11)年5月28日号	経済		
567	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年六月四日号(第一巻十四号)目次**			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	題号	その他	
568	表紙写真　僕たちの夏			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	グラビア	表紙	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
569	後部写真　第一回女子連合競技会所見、最近のウイルソン氏、大阪の朝日、射撃舎、米国加州の婦人射撃選手、東海道女子道中姿写生旅行			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	グラビア		
570	週間			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	その他	見出し	
571	マルサス主義の話	河上肇	3	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
572	七日間の世界(週間評論)		3	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
573	内外時事			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
574	日本			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	その他	見出し	
575	週間大勢－諸整理及税金関係要項－地方長官会議－警察部長会議－海外と関係ある雑件－支那撤兵で浮上る金額－大日本連合青年団－在米石高－新公布の法律－新開業の南洋庁－公私大学認可－朝鮮大学－海軍異動			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	政治	軍事	
576	世界			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	その他	見出し	
577	独逸賠償問題		6	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
578	支那			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	その他	見出し	
579	時局の迷宮人		7	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	戦争		
580	社会			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	その他	見出し	
581	摂政宮仏国美展行啓－新婦人協会の破綻－警部補捕獲さる－広い労銀に広い製作－研究会放火者有罪－懲役忌避－国立栄養宣伝－的ケ浜摘発不起訴－各地雑件－労働－航空－火災－運動記事			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
582	言論界		7	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
583	内外日誌		4	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
584	インサイド			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	その他	見出し	
585	宗教家の「後悔」観			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
586	救はん為めに救はれたり	山室軍平	9	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
587	畢寛は「人格の転化」	近角常観	9	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
588	謙遜であらねばならぬ	内村鑑三	13	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
589	失礼ながら環さんへ	山田わか	10	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
590	美顔と寝枕の効能		10	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	美容		
591	小鳥を飼ふ秘訣	北里男爵	11	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
592	支那笑話	Y・Y生	11	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	娯楽		
593	独逸で流行の表現派の芝居		11	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	流行		
594	大切な子供の歯	本永七三郎	12	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
595	独逸でさすらふO博士の遺子と母	市村博士	12	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
596	片山病に就て(二)	藤浪博士	13	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
597	女探偵の観た今の社会	中原八重子	14	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
598	哀れな伝書鳩(童話)	霜田史光	15	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	文芸		
599	お伽噺と童謡の天才		16	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	文芸		
600	伝書鳩の話		16	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	科学		
601	硬球界未曾有の激闘	片岡直方	17	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	スポーツ		
602	流行の扇		17	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	流行		
603	蠅をおとりなさい		17	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
604	鼠小僧次郎吉(小説－三)	新居格	18	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	大衆小説		
605	六月の婦人雑誌から		19	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	文芸	書評	
606	出版界		19	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
607	無線塔		19	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	娯楽		
608	ローマ字	吉村冬彦	19	1-14,	1922(大正11)年6月4日号	教育		
609	絵画、写真			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	グラビア		
610	経済週報			1-14,	1922(大正11)年6月4日号	経済		
611	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年六月十一日号(第一巻十五号)目次**			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	題号	その他	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
612	表紙写真　サロンの日本美術展覧			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	グラビア	表紙	
613	週間			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	その他	見出し	
614	職業婦人の心理的並に生理的考察	寺沢巌男	3	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	職業		
615	七日間の世界(週間評論)		4	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
616	内外時事			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
617	日本			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	その他	見出し	
618	政友会内閣の総凌へ－政友会の議会報告書－数字上の全国普選教育－新勅撰六氏－新男爵議員－辞令－南洋群島課税改正			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	政治	社会	
619	世界			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	その他	見出し	
620	欧州三難問題		6	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
621	支那			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	その他	見出し	
622	旧国会問題を中心に		7	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
623	社会			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	その他	見出し	
624	東京市会議員選挙－摂政宮殿下と農村問題－警察部長会議－拾得物の判決－西園寺公卒倒－崇実中学盟休－各地雑件－労働－			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
625	航空－火事－運動記事－ゴシツプ		8	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
626	海外論壇(西人と東人－ゴルキー)		6	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
627	市民と舗道	遊方子	3	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
628	言論界(後継内閣問題)		7	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	政治		
629	内外日誌		4	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
630	インサイド			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	その他	見出し	
631	吾々は皆双子の合成体だ		9	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
632	所謂若返り法に就て(一)	中院医学博士	9	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
633	人工妊娠術の話	越智医学博士	10	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	科学		
634	サロンの日本部開く	坂崎坦	11	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	芸術		
635	新養鶏法	長村熊次郎	11	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
636	光虫から無熱灯の発明		11	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	科学		
637	カナリヤの籠(童話)	西條八十	12	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	文芸		
638	初風炉珍話		12	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
639	劫の研究(十)	久保松五段	12	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	娯楽		
640	病的の菊五郎熱		13	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
641	大阪で『出羽守』を演じた理由	尾上菊五郎	13	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	芸能		
642	マ嬢の『偉大なる熱情』		13	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	芸能		
643	緑の光(和歌)		13	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	文芸		
644	芳宮殿下姫宮御近況(写真数葉)			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	グラビア		
645	竹田宮御兄妹		14	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
646	東久邇三若宮殿下		14	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
647	北白川宮家は獅子覇者		15	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
648	軍艦の模型御製作の山階若宮		15	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	政治		
649	御運動好きの朝香若宮姫宮殿下		15	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	スポーツ		
650	宮中紅葉山御療養所に奉仕して	今村吾一郎	15	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
651	暑さ知らずの炊事		16	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
652	流行(ネクタイ・手提袋)		16	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	流行		
653	色褪せた敷物の改造		16	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
654	運動の合理的練習法に就て		17	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	スポーツ		
655	関西庭球連盟優勝戦を観て、複試合、	片岡直方	17	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	スポーツ		
656	新遊戯テザー・ボール		17	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	芸能		
657	鼠小僧次郎吉(小説－四)	新居格	18	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	大衆小説		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
658	外国語の話	中目大外語校長	19	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	教育		
659	雑誌界(六月の論壇　一)		19	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
660	出版界		19	1-15,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
661	絵画、写真、俳句			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	グラビア		
662	経済週報			1-15,	1922(大正11)年6月11日号	経済		
663	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年六月十八日号(第一巻十六号)目次**			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	題号	その他	
664	表紙写真　加藤新首相と愛孫			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	グラビア	表紙	
665	週間			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	その他	見出し	
666	ロバート・オウエンの社会思想とその影響	北沢新次郎	3	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
667	七日間の世界(週間評論)		4	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
668	内外時事			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
669	日本			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	その他	見出し	
670	加藤超然内閣の成立－次官以下任命		4	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	政治		
671	世界			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	その他	見出し	
672	独逸賠償問題－海牙対露合戦－米国関税引上問題		6	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	政治		
673	支那			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	その他	見出し	
674	黎元洪氏の大総統復任		7	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
675	社会			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	その他	見出し	
676	原首相暗殺者判決－陸軍連絡飛行－勘察加邦人救助－パルチザン－松方実－狂へる船長－各地雑件－労働－火事－運動記事			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	政治	軍事	
677	男爵加藤友三郎君		6	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
678	言論界(新内閣評)		7	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	政治		
679	内外日誌		4	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
680	インサイド			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	その他	見出し	
681	支那の新しい詩	米田祐太郎	9	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
682	廉くて美味で栄養に富む食物	佐伯博士	9	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
683	家庭用電気の話		10	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
684	文壇上半期の収穫	木村恒	10	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
685	所謂若返り法に就て(二)	中院博士	11	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
686	モナコから	正宗得三郎	11	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	随筆		
687	日本婦人の髪の毛	ヘレン・グロスマン	12	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	美容		
688	顔が女の秘密を語る		12	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	随筆		
689	夏向の子供服		12	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
690	市川新十郎の『くまどり』実演		13	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	芸能		
691	巴里女のやさしさ	戸川秀子	13	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	随筆		
692	伊勢撫子	観條寺伯爵	13	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	随筆		
693	季節料理	一戸伊勢子	13	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
694	督軍で新人の馮玉祥君		14	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	政治		
695	朝鮮の美術展覧会		15	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	芸術		
696	蟹と太郎さん(童話)		16	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	文芸		
697	鯨の骨が大阪市の真中から出た	中村京大教授	16	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
698	劫の研究(十一)	久保松五段	16	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	娯楽		
699	科学団話(軌道自動車と自動車式電車)		17	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	科学		
700	軍隊内の運動競技	市川大尉	17	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	政治		
701	鼠小僧次郎吉(小説－五)	新居格	18	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	大衆小説		
702	雑誌界		19	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
703	出版界		19	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
704	無線客		19	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	娯楽		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
705	英文(外人の見た日本)	ハリー・ケエー	19	1-16,	1922(大正11)年6月18日号	小説		
706	和歌、俳句、絵画、写真			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	グラビア		
707	経済週報			1-16,	1922(大正11)年6月18日号	経済		
708	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年六月二十五日号(第一巻十七号)目次**			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	題号	その他	
709	表紙写真　倫敦に於ける河瀬少尉の葬儀			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	グラビア	表紙	
710	表紙裏写真　酒井菊子嬢、摂政宮殿下の海軍飛行台覧、少年発明家、鳴尾の国際			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	グラビア	表紙	軍事
711	週間			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	その他	見出し	
712	台湾統治の方針を論ず	島田三郎	3	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
713	七日間の世界(週間評論)		4	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
714	内外時事			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
715	日本			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	その他	見出し	
716	東宮御慶事勅許－週間の政局－新内閣施政方針－各派の陣容－陸軍縮小と新内閣－知事局長更迭－ヤツプ条約可決－刻下の教育問題－義務教育延長問題－			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	政治	軍事	
717	世界			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	その他	見出し	
718	労農政府危機－英仏首相会議－仏国政局－比島独立運動－米国船舶補助案			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	政治		
719	支那			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	その他	見出し	
720	黎氏復任後の国情		7	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会	人物	
721	社会			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	その他	見出し	
722	人口動態－性教育会議－住友訴訟事件－旱天と八幡製鉄－出羽海逝く－門事件－各地雑件－労働－火災－航空－生きた火葬－運動記事			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
723	倫敦の新聞界	島谷亮輔	6	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
724	海外論壇(日本と陸軍縮小)		6	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	政治	軍事	
725	言論界(新内閣と諸問題)		7	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	政治		
726	内外日誌		4	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
727	インサイド			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	その他	見出し	
728	家庭用無線電話の話	加藤信雄	9	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
729	殺人及自殺	野上博士	11	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
730	顔を美しうしたい御婦人は		11	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
731	夏とこども	浜野沢太郎	12	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
732	蟹女の生活		12	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
733	地球の年齢	松山博士	13	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	科学		
734	劫の研究(十二)	久保松五段	13	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	娯楽		
735	米国のラヂオ・メニア	伊藤七司	14	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	娯楽		
736	無線電話で音楽も講演も居ながら聴ける		15	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	娯楽		
737	日本に於ける無線電話		16	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	娯楽		
738	夏の生花		16	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
739	此頃の私の思ひ		16	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
740	夏の日本服		16	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
741	父と娘(童話)		17	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	文芸		
742	七色情話　紫小町		18	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	グラビア		
743	出版界		19	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
744	雑誌界		19	1-17,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
745	童謡、俳句、絵画、写真			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	グラビア		
746	経済週報			1-17,	1922(大正11)年6月25日号	経済		
747	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年七月二日号(第二巻一号)目次**			2-1	1922(大正11)年7月2日号	題号	その他	
748	表紙写真　秩父宮殿下			2-1	1922(大正11)年7月2日号	グラビア	表紙	
749	同裏写真　プラモーター、世界一の大ヴアイオリン、米海軍卿デンビー氏、田植			2-1	1922(大正11)年7月2日号	グラビア	軍事	
750	週間			2-1	1922(大正11)年7月2日号	その他	見出し	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
751	ルソーと現代	新明正道	3	2-1	1922(大正11)年7月2日号	社会		
752	七日間の世界(週間評論)		4	2-1	1922(大正11)年7月2日号	社会		
753	内外時事			2-1	1922(大正11)年7月2日号	社会		
754	日本			2-1	1922(大正11)年7月2日号	その他	見出し	
755	秩父宮御宣下－東伏見宮薨去－週間大勢－西伯利撤兵声明－軍艦と各方面－両条約枢府可決－ヤツプ条約批准－鉄道電化－災害の綜合的研究－実業教育状			2-1	1922(大正11)年7月2日号	政治		
756	世界			2-1	1922(大正11)年7月2日号	その他	見出し	
757	海牙会議－愛蘭		6	2-1	1922(大正11)年7月2日号	政治		
758	支那			2-1	1922(大正11)年7月2日号	その他	見出し	
759	北京政局		7	2-1	1922(大正11)年7月2日号	政治		
760	社会			2-1	1922(大正11)年7月2日号	その他	見出し	
761	摂政宮と労働問題－西園寺公－骨董詐欺－落語検閲－十五年目の逃亡兵－各地雑件－労働－航空－火災－運動記事			2-1	1922(大正11)年7月2日号	社会		
762	西伯利出兵総藻へ		5	2-1	1922(大正11)年7月2日号	社会		
763	物故した三政治家		6	2-1	1922(大正11)年7月2日号	政治		
764	言論界(西伯利撤兵問題其他)		7	2-1	1922(大正11)年7月2日号	社会		
765	内外日誌		4	2-1	1922(大正11)年7月2日号	社会		
766	インサイド			2-1	1922(大正11)年7月2日号	その他	見出し	
767	家庭の電気化	伊藤工学博士	9	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
768	眼を美しうする法		9	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
769	趣味の夏住房	武田工学博士	10	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
770	高野山の夏	末広法学博士	10	2-1	1922(大正11)年7月2日号	科学		
771	火星内の生物		10	2-1	1922(大正11)年7月2日号	科学		
772	情話劇の大家モリス・ドンチ	大関柊郎	11	2-1	1922(大正11)年7月2日号	芸能		
773	天草(絵画)	山口八九子	11	2-1	1922(大正11)年7月2日号	芸術		
774	十産話	倉橋惣三	12	2-1	1922(大正11)年7月2日号	随筆		
775	降雨の少ない今年	志田理学博士	13	2-1	1922(大正11)年7月2日号	科学		
776	鞍馬の竹伐り		13	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
777	清涼飲料水の見わけ方		13	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
778	伊太利の夏の海	鈴木文史朗	14	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
779	虫うりの話		15	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
780	美人浴は斯うする		16	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
781	子供の寝衣の仕立方		16	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
782	冷蔵庫の装置		16	2-1	1922(大正11)年7月2日号	科学		
783	御獄覚円峰(絵画)	森田久	17	2-1	1922(大正11)年7月2日号	芸術		
784	七月の婦人雑誌から		17	2-1	1922(大正11)年7月2日号	文芸	書評	
785	夏の家庭衛生		17	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
786	英文(外人の見た日本　二)		17	2-1	1922(大正11)年7月2日号	文芸		
787	散る花咲く花	大江素天	18	2-1	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
788	出版界		19	2-1	1922(大正11)年7月2日号	社会		
789	絵画、写真、短歌、俳句			2-1	1922(大正11)年7月2日号	グラビア		
790	経済週報			2-1	1922(大正11)年7月2日号	経済		
791	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年七月五日　夏季特別号　目次**			2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	題号	その他	特集号
792	表紙　ヴエニスの皐月	杉浦非水		2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア	表紙	特集号
793	同裏　日本アルプスの大雪渓			2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
794	巻頭語		3	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
795	塩原の古い憶出	内田魯庵	4	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
796	如帰(絵画)	竹内栖鳳	4	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
797	小泉先生の旧居を訪ふ	厨川白村	5	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	人物		特集号
798	夏の女(漫画)	伊東忠太	5	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	漫画		特集号
799	夏の女(漫画)	楚人冠	5	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	漫画		特集号
800	小生の夏	小川未明	6	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
801	夏の女	長谷川時雨	7	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
802	涼み浄瑠璃(絵画)	木谷千種	7	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
803	モンテローザの想ひ出	桜有恒	8	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
804	沙翁記念祭		8	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
805	貿易風航海	米窪太刀雄	9	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
806	白国の古城の夕	太田喜二郎	9	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
807	ふね(絵画)	山元春学	9	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
808	鯉釣の話	内海月枝	10	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
809	湯沼(絵画)	杉浦非水	10	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
810	日本アルプス登山今昔	河野齢蔵	11	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
811	宍道湖の涼船		11	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
812	うちは(絵画)	伊藤小坡	11	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
813	海中動物の話	岸上博士	12	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	科学		特集号
814	夏の亜米利加女	佐々木指月	13	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
815	柳に長き命寺	馬場孤蝶	13	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
816	つけものゝ味	鈴木三重吉	14	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
817	画材を求めて	山口草平	14	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
818	夏のスケツチ(絵画)	小川大巽	14	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
819	時鳥を尋ねて	松瀬青々	15	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
820	越後瀬波の松林(絵画)	小川千甕	15	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
821	怠け者には	津田青楓	15	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
822	中尊院の夜	沢村胡夷	16	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
823	黒部讃頌		16	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
824	夏に就ての感想	厨川白村	16	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
825	鞆ノ津(絵画)	石川寅治	16	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
826	永久的な水上の家	浜口擔	17	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	科学		特集号
827	清く艶めく尼僧	埴原久和代	17	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
828	名妓白雲岫	米田祐太郎	18	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
829	都会の夜の哀愁	小川未明	18	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
830	天草スケツチ(絵画)	山口八九子	18	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
831	なごや	上野山清貢	19	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
832	名古屋城(絵画)	上野山清貢	19	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
833	夏の女(漫画)	山田みのる	19	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	漫画		特集号
834	三島章道君と	志賀直哉	19	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	人物		特集号
835	延岡の遊船		19	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
836	三昧境	内藤伸	20	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
837	土耳其の夏	渡辺誠吾	20	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
838	乗鞍の残雪	林文塘	20	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
839	朝の園(俳句)	高浜虚子	20	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
840	海辺の墓	吉井勇	21	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
841	太左衛門橋(絵画)	木谷千種	21	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
842	夏のよろこび	若山牧水	21	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
843	日本アルプス(絵画)	石井鶴三	22	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
844	当代登山家気質	山本宣治	22	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
845	海の色	村上鋭夫	23	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
846	白耳義スケツチ(絵画)	太田喜二郎	23	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
847	十勝の夏も	吉屋信子	23	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
848	泳ぎする人のために	千葉博士	23	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	科学		特集号
849	西伯利の夏	藤木九三	24	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
850	ロシヤのおはなし(トルストイ)	富士辰馬	25	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
851	夕闇に咲く花	郡場博士	26	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
852	雨の日(絵画)	梶原緋佐子	26	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
853	十勝平野	島木赤彦	26	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
854	会津の盆踊り		26	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
855	涼しい洋風住家	西村伊作	27	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
856	備後の鞆ノ津	石井柏亭	27	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
857	祇園祭		27	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
858	徳島の盆踊り		27	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
859	匈牙利の夏の旅	T・H生	28	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
860	ムードンの並木(絵画)	石川欽一郎	28	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
861	夏の歌の中に(短歌)	相馬御風	28	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
862	天の河の壮観	山本一清	29	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
863	新嘉坡の緑陰	南薫造	29	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
864	夕顔の花	吉屋信子	30	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	小説		特集号
865	夏の鵠沼	岸田劉生	30	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
866	見付の裸祭		30	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
867	傑涼(絵画)	伊藤小坡	30	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
868	登山と岩石趣味	比企博士	31	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
869	月明抄(俳句)	荻原井泉水	31	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
870	夏の朝鮮金剛山	高尾生	32	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
871	朝鮮金剛山の伝説	前田守隅	32	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
872	印度の夏	谷辰次郎	32	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
873	北海道の旅を	水島爾保布	33	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
874	蟋蟀	大谷尊由	34	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
875	夢の長さ	B・T生	34	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
876	裸人図(絵画)	服部亮英	34	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
877	汗だくだくの日本	アンドラーデ	36	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
878	花火線香(絵画)	窠本一洋	36	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
879	山高水明	室生犀星	36	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
880	夏の芝居	岡田八千代	37	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸能		特集号
881	白昼風景	木下利玄	37	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
882	夕顔の露地	木谷千種	37	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
883	砂浜の怪物		37	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
884	淋しい夏休み	有島生馬	38	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
885	白鹿洞の一夕	橋本関雪	38	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
886	富士三湖		38	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
887	戦後鶴崎踊り		38	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
888	岐阜提灯		38	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
889	白樺の林(短歌)	窪田空穂	39	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
890	ヴエニスの月夜	柳沢濠	39	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
891	百々の淵情話		39	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
892	赤い雪	黒田源次	40	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
893	木賊平原にて(絵画)	深田久	40	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
894	野外結婚		40	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
895	露西亜少女と西瓜	正宗白鳥	40	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
896	夏の北京	掃葉蘆	41	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
897	得利寺の蓮池	岡本綺堂	41	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
898	化粧(絵画)	三木翠山	41	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	美容		特集号
899	富士山巓を千米の上から撮影	村上少佐	42	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
900	紅海を離れて	有島武郎	42	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
901	飛行機(童謡)	野口雨情	42	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
902	汽船底曳綱の元祖		42	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	その他	社会	特集号
903	快走艇	ヤムベル	43	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	スポーツ		特集号
904	海詩	藤木九三	43	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
905	山と海の写真の撮り方	西井蕪山	43	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
906	山と海の写真の撮り方	米谷紅浪	43	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
907	晴一さんの兵隊(童話)	西條八十	44	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
908	かわき(絵画)	幡恒春	44	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
909	ぢやがいも(童謡)	川路柳虹	44	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
910	神楽面	土岐善麿	45	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸能		特集号
911	黒龍江の上流へ	昇晴彦	45	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
912	彦火々出見尊(絵画)	猪飼嘯谷	45	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
913	隅田川の盤合戦		45	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
914	壷中の名勝		45	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
915	那須の温泉	上司小剣	46	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
916	南欧の夏	浜田青稜	46	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
917	米国のキヤムプ生活	モリス	47	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
918	かじか		48	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
919	雨乞の戸隠		48	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
920	涼しい居室の建て方	戸田博士	49	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	科学		特集号
921	赤倉の凄壮さ	中村吉蔵	49	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
922	窓からスキーで		49	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
923	夏傘寒いスコツトランド	中村京大教授	50	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	科学		特集号
924	セーヌ河畔(絵画)	石川欽一郎	50	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
925	香水の造り方	村上鋭夫	51	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
926	夏の食器		51	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
927	甘木の祇園祭		51	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
928	夏の未決監	賀川豊彦	52	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
929	果物の食べ方	戸川博士	52	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
930	夏の西洋料理	小沢愛圀	52	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
931	津軽の七夕祭		52	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	娯楽		特集号
932	夏の園芸	津幡照子	53	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
933	寝衣のいろいろ	松岡久	53	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
934	日本料理	的場英子	53	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
935	夏の台所	下村博士	54	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
936	さわやかな夏の樺太	長村熊次郎	54	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
937	薬草のかをり	山元春学	54	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
938	三重の奇習		54	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
939	夏のこども服	K子	55	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
940	夏の女	内田魯庵	55	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
941	夏の訪問服		55	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
942	経費のかゝらぬ飲物	阪本花代	55	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
943	怠屈(漫画)	大月長三	55	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	漫画		特集号
944	上寺の珍鐘		55	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
945	鷹を追ふ若小姓	有井八郎	56	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
946	涼風(絵画)	庄田鶴友	56	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
947	沈黙の瀧		56	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
948	帆船の競争	井関実	57	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	スポーツ		特集号
949	小瓢を絡ませて	長谷川時雨	57	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
950	夏の生花と進化	西川一草亭	58	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	家庭		特集号
951	極楽の出羽島		58	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	スポーツ		特集号
952	元山の涼風		58	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
953	百日紅(絵画)	牧野虎雄	58	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
954	公園の落書	猪股忠治	59	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	社会		特集号
955	独居の閑寂		59	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
956	牧歌的な山々の名	徳田秋声	60	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
957	英文(Summer camps in America)		60	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	文芸		特集号
958	ある田舎商人	JohnR.Morris	61	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	教育		特集号
959	天草スケツチ(絵画)	正宗白鳥	62	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
960	霞ケ浦(絵画)	山口八九子	62	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
961	或る夏のこと	石川寛治	63	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	随筆		特集号
962	面(小説)	関口次郎	64	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	小説		特集号
963	奈良の郊外(絵画)	室生犀星	65	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
964	房州の白浜にて(絵画)	森田恒友	65	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
965	涼汀(絵画)	牧野虎雄	66	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	芸術		特集号
966	写真数十葉	高倉観巌	66	2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
967	写真大附録(新聞紙一頁大)			2-特,	1922(大正11)年7月5日夏季特	グラビア		特集号
968	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年七月九日号(第二巻二号)目次**			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	題号	その他	
969	表紙写真　米海軍卿デンビー氏夫妻の横浜着			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	グラビア	表紙	軍事
970	裏面写真　久々で帰朝した早川雪洲夫妻、気球の大競航、子供の自由学校、無線電話で海岸ダンス			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	グラビア		
971	週間			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	その他	見出し	
972	犯罪の研究	十時弥	3	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	科学		
973	七日間の世界(週間評論)		4	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
974	内外時事			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
975	日本			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	その他	見出し	
976	米海軍艦来朝－週間政局－軍縮の内容－小作争議調停法案－補欠選挙結果－九国条約可決－借地法施行期			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	政治	軍事	
977	世界			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	その他	見出し	
978	物騒な欧米		7	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
979	支那			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	その他	見出し	
980	季節ものゝ馬賊		7	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
981	社会			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	その他	見出し	
982	全農－女教員大会と服装－生活改善同盟－各地雑件－労働－航空－火事－運			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
983	愛蘭の話	渡辺誠吾	6	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	随筆		
984	珍客デンビー老		7	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	人物		
985	言論界(間島不穏、其他)		6	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
986	内外日誌		4	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
987	インサイド			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	その他	見出し	
988	夏の日本見物	デ・アンドラーデ	9	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	随筆		
989	私の夏	平林初之輔	9	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	随筆		
990	舞台芸術展覧会に就て		10	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	芸能		
991	流行楽屋話		11	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	流行		
992	陶器をひねつて	大谷尊由	11	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	随筆		
993	長門峡		11	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	グラビア		
994	二十六時間空にゐた人	中正夫	12	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
995	再び若返り法に就て	榊博士	12	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	家庭		
996	工芸美術としての染抜材	三村博士	13	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	芸術		
997	我家の夏	杉浦翠子	13	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	家庭		
998	十二段綾子踊		13	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	芸能		
999	泉原温泉		13	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	娯楽		
1000	お化粧をしすぎる日本の婦人	山田わか	14	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	美容		
1001	黒島の『女部屋』		14	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	芸能		
1002	珍しい物語(クープリン)	栗林貞一	15	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
1003	こどもの『恐怖病』		16	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	家庭		
1004	花輪の作り方		16	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	家庭		
1005	偏平足が矯正された例		16	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	家庭		
1006	囲碁・劫の研究		16	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	娯楽		
1007	熊野灘の鯨とり	森慶三	17	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
1008	水陸両競技界の麒麟児	東口真平	17	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	スポーツ		
1009	祭将棋(一)	坂田八段	17	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	娯楽		
1010	桂川の一人心中	大江素天	18	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
1011	雑誌界		19	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
1012	海外文芸		19	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
1013	出版界		19	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	社会		
1014	学芸消息		19	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	芸能		
1015	無線塔		19	2-2,	1922(大正11)年7月9日号	娯楽		
1016	絵画、写真、俳句、童話			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	グラビア		
1017	経済週報			2-2,	1922(大正11)年7月9日号	経済		
1018	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年七月十六日号(第二巻三号)目次**			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	題号	その他	
1019	表紙写真　米女優の日本舞踊			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	グラビア	表紙	
1020	裏面写真　摂政宮殿下北海道行啓、露国女学生歓迎会、米婦人の変な流行、同女流水泳選手連			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	グラビア		
1021	週間			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	その他	見出し	
1022	我国労働運動の傾向	赤松克磨	3	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1023	七日間の世界(週間評論)		4	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1024	内外時事			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1025	日本			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	その他	見出し	
1026	週間政局－問題の陸軍縮小－軍用港廃合－派遣軍帰還－農家が減る－農村の社会施設－農村の社会施設－其他			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	政治	軍事	
1027	世界			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	その他	見出し	
1028	台湾の財政－海牙会議		7	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	政治		
1029	支那			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	その他	見出し	
1030	山東協約の細目協定－没落後の孫文氏		7	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	政治		
1031	社会			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	その他	見出し	

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
1032	東宮北海道行啓－青森県の共産村－廃艦の加賀－初年兵入営期－森鴎外逝く－各地雑件－航空－火事－運動記事		8	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	経済		
1033	猶太人の話		6	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1034	海外論壇(露国共産主義の実態)		6	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1035	都市生活者の悲哀		5	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1036	言論界(陸軍縮小、其他)		7	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	政治	軍事	
1037	内外日誌		4	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1038	インサイド			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	その他	見出し	
1039	隕石の話	比企博士	9	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	科学		
1040	氷菓の歴史		9	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
1041	両国の川開き	三田村鳶魚	10	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	娯楽		
1042	足の指の変化		11	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
1043	水泳と婦人美		11	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	スポーツ		
1044	子供の服		11	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
1045	『浅間の裾野』	田部重治	12	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	芸能		
1046	南洋動物行脚	林佐市	12	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	娯楽		
1047	独逸国立運動場と蹴球界	小西作太郎	13	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	スポーツ		
1048	農村美術に就て	山本鼎	14	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	芸術		
1049	レオの慈善(童謡)	奥山晃一	15	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	文芸		
1050	理科玩具		15	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	教育		
1051	手形押花法	保田朔輔	16	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
1052	流行帽衣ロマンス	泉花村	16	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	流行		
1053	日焼けせぬ洋傘	K子	16	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
1054	一円で出来る子供服		17	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
1055	授乳と睡眠	S子	17	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
1056	家庭料理	一戸伊勢子	17	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
1057	画舫の怪	米田祐太郎	17	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	芸術		
1058	金島比翼塚	大江素天	18	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	随筆		
1059	雑誌界		19	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1060	学芸消息		19	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	芸能		
1061	海外文芸		19	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1062	出版界		19	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
1063	無線塔		19	2-3,	1922(大正11)年7月16日号	娯楽		
1064	絵画、写真			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	グラビア		
1065	経済週報			2-3,	1922(大正11)年7月16日号	経済		
1066	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年七月二十三日号(第二巻四号)目次**			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	題号	その他	
1067	表紙写真　宣統帝の近影			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	グラビア	表紙	
1068	裏面写真　札幌農大の台覧相撲、酒井伯の庭園開放、英国の評判女優、競泳跳込の婦人名手、大阪名物の天神祭			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	グラビア		
1069	週間			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	その他	見出し	
1070	断想	石原純	3	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	随筆		
1071	七日間の世界(週間評論)		3	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1072	内外時事			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1073	日本			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	その他	見出し	
1074	週間大勢－樺太対岸撤兵－在支郵便局撤廃－公文を通俗的に－男爵議員逮捕－都立学校移管問題			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1075	世界			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	その他	見出し	
1076	米国の襲来－海牙会議		6	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	政治		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
1077	支那			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	その他	見出し	
1078	内訂又内訂		6	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1079	社会			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	その他	見出し	
1080	北海道御見学中の東宮殿下－山階宮御成婚－宴会費の調査－各地雑件－労働－航空－火事			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1081	『東洋の友の会』	町田梓楼	5	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	芸能		
1082	時事漫画	カロリー	5	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	漫画		
1083	宣統帝の話	木兆生	7	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1084	言論界		7	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1085	内外日誌		4	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1086	インサイド			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	その他	見出し	
1087	ちやるめら	新村博士	9	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	科学		
1088	みやこ団扇		9	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
1089	安価に智識を求めよ	西村真次	10	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1090	日本ライン	岸崎菊昌	10	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	随筆		
1091	帝都の運動界	植村陸男	11	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	スポーツ		
1092	郊外小品	楯衛	11	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	文芸		
1093	或る娘の歩んだ路	鈴木生	12	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	随筆		
1094	尺八の話	白夏生	12	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	娯楽		
1095	未来派の芝居	Y	13	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	芸能		
1096	瀬戸臨海研究所	東	13	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	科学		
1097	夏の動物園(東京、大阪、京都)		14	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	娯楽		
1098	白鳥と海哩		15	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	随筆		
1099	厳島の「鳥食式」	悠々学人	16	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
1100	空中絵画	斉藤文人	16	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	芸術		
1101	朝顔の珍種	桑山昇龍	16	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
1102	こども服	樫田千恵子	17	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
1103	病人用料理	阪本花代	17	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
1104	劫の研究(十四)	久保松五段	17	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	娯楽		
1105	一寸地蔵	素天楼主人	18	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	随筆		
1106	わが真珠(和歌)	九條武子	18	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	文芸		
1107	海外文芸	幽水生	19	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1108	学芸消息		19	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	芸能		
1109	出版界		19	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
1110	無線塔		19	2-4,	1922(大正11)年7月23日号	娯楽		
1111	俳句、絵画、写真			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	グラビア		
1112	経済週報			2-4,	1922(大正11)年7月23日号	経済		
1113	**★『週刊朝日』一九二二(大正十一)年七月三十日号(第二巻五号)目次**			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	題号	その他	
1114	表紙写真　明治天皇御十年祭の日に			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	グラビア	表紙	
1115	裏面写真　立山大雪渓			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	グラビア		
1116	週間			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	その他	見出し	
1117	余が見たる張作霖氏	内藤湖南	3	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会	人物	
1118	七日間の世界(週間評論)		4	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1119	内外時事			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1120	日本			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	その他	見出し	
1121	週間大勢－税整答申－知事公選－普選調査－低能児教育		4	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	政治	社会	
1122	世界			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	その他	見出し	
1123	伊太利内閣とヘーグ会議		7	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	政治		

資料I-1　週刊朝日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
1124	支那			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	その他	見出し	
1125	収捨し難き支那政局		7	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	政治		
1126	社会			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	その他	見出し	
1127	東宮殿下行啓－朝香宮殿下アルプス御登嶺－国際労働会議と労働団体－各地雑件－労働－航空－火事－運動記事			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1128	明治神苑の教化化	山本良吉	5	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1129	米国の炭鉱罷業		6	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1130	言論界(普選調査会、其他)		7	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1131	内外日誌		4	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1132	インサイド			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	その他	見出し	
1133	夏の江戸に於ける涼味	高須海渓	9	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
1134	泥の人形	和田とみ子	10	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	随筆		
1135	鳴虫の話	山田保治	11	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	科学		
1136	海牙から	織田博士	11	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	科学		
1137	民謡の定義の史的考察	藤沢衛彦	12	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1138	工場言葉	小林愛雄	12	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	随筆		
1139	役者の懐鏡	水谷生	13	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	芸能		
1140	朝鮮行脚の厨川博士	白夏生	13	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	人物		
1141	人の涙は非常な殺菌力がある		14	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1142	真夏の化粧		14	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	美容		
1143	海水浴と子供		14	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
1144	美人画を上手に書くには		15	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
1145	大輪咲のあさがほ		15	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
1146	星と人間(童話)	鳥羽かよ子	16	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	文芸		
1147	争闘の野望(クープリン)		16	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1148	朝日新聞社北アルプス踏破写真隊から		17	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	グラビア		
1149	所司代と八の君(小説)	大江素天	18	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	大衆小説		
1150	浴泉(短歌)	辰巳正直	18	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	文芸		
1151	八月の婦人雑誌		19	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	文芸	書評	
1152	出版界		19	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1153	海外文芸		19	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
1154	学芸消息		19	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	芸能		
1155	無線塔		19	2-5,	1922(大正11)年7月30日号	娯楽		
1156	絵画、写真			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	グラビア		
1157	経済週報			2-5,	1922(大正11)年7月30日号	経済		

資料I-2　サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
1	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年四月二日号(第一巻一号)**			1-1,	1922(大正11)年4月2日号	その他	題号	
2	現代生活の充実と節制と(今日の主張)		3	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
3	童謡を作る子供の心もち	本居長世	3	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	文芸		
4	きれいに見えてもきたない生活	森本静子	4	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
5	二重生活からのがれるための様式新住宅		4	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
6	おばさんのお人形(少女小説)		5	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	小説		
7	「をどりこ」(京の春スケッチ)	梶原ひさ子	5	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア		
8	菜園の快味(こどものページ)		6	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
9	よねちやん帰る(事実のお話)		6	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	実話		
10	童謡募集		6	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	その他		
11	仙人(お伽噺)	芥川龍之介	7	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	文芸		
12	考へ物新題		7	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	懸賞		
13	素人設計の小住宅	小野美智子	8	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
14	子供服の新しいスタイル		8	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
15	水をこぼさぬお台所		9	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
16	「まる山」(京の春スケッチ)	梶原ひさ子	9	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア		
17	これからの食べもの	一戸伊勢子	9	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
18	私の最初の子(育児日記)		10	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
19	この春の流行雑感		10	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	美容		
20	結核の話	有馬頼吉	11	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
21	結核と気づいた時	松田毅	11	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
22	よき子供靴	小西善太兵衛	11	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
23	夫婦相互の思想	三宅やす子	12	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
24	ラ・ポルカ・タリオラ(巴里の新舞踊)		12	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	芸能		
25	鮒の乗り込と釣場所	上田尚	13	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	娯楽		
26	挿花の自然	西川一草亭	13	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
27	尚侯爵(探偵小説)	春日野緑	14	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	大衆小説		
28	食獣の舞踊と植物の舞踊	山田耕作	15	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	家庭		
29	楽屋の裏から		15	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	芸能		
30	春宵曲	名越国三郎	15	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	グラビア		
31	野球を七回試合とするの可否		16	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	スポーツ		
32	硬球のスコアリング		16	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	スポーツ		
33	産児制限か生み放題か	山川菊栄	17	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
34	文壇近頃のこと		18	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	文芸		
35	かき船(小話)	田中貢太郎	19	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	文芸		
36	内外時事週報		20	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	社会		
37	経済		24	1-1,	1922(大正11)年4月2日号	経済		
38	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年四月九日号(第一巻二号)**			1-2,	1922(大正11)年4月9日号	その他	題号	
39	心持に生きる生活(今日の主張)		3	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
40	メルツ派の絵と詩		3	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	文芸		
41	私と子ども	三宅やす子	4	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
42	日曜と世間話	無憂樹	4	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	随筆		
43	御来朝の英国皇太子殿下		5	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
44	社交を改造して生活を面白くしたい		5	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
45	初等科へ編入学の澄宮殿下		6	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	教育		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
46	金の髭(童話)		6	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	文芸		
47	蝶の色をどり		6	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
48	或る親の記録	風梨子	7	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
49	踊の靴(短歌)	與謝野晶子	7	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	文芸		
50	帝劇にて	伊東深水	7	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	芸能		
51	小住宅の研究	小野美智子	9	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
52	全く臭気を浄す便槽の新装置		9	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
53	子供服の新型と生増		9	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
54	戯曲「松風」の要領	梅若六郎	10	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	芸能		
55	一灯園の冷い夜		10	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
56	結核の話	有馬頼吉(医学博士)	11	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	科学		
57	挿指一本でする血液促進療法		11	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
58	産れつきの赤い髪	佐久間浜子	12	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	美容		
59	おとなを教へる子供	原田実	12	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
60	銘仙とモスリン		12	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
61	すし飯の炊き方	一戸伊勢子	13	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
62	季節の漬物		13	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
63	洗濯しみ抜きの理屈と実際		13	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
64	楽屋裏から		13	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	芸能		
65	新脚本に適した俳優	高安月郊	14	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	映画		
66	「振」よりもこゝろ	阪東妻三郎	14	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	芸能		
67	新舞踊に就いて	坪内逍遥	15	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	芸能		
68	しまばら	梶原ひさ子	15	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
69	戯曲近松門左衛門	岡本綺堂	16	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	芸能		
70	野球七回試合反対論		17	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	スポーツ		
71	野球記録者の立場から	玉置徳三	17	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	スポーツ		
72	バツアラの最期	鈴木生勝	18	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	随筆		
73	私が観た支那劇の色彩	小早川秋声	18	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	芸能		
74	ゴシツプ		18	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	娯楽		
75	街上より		18	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
76	若き本屋がやつて来た	山本一清	19	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	随筆		
77	昼のランプのやうな「美人」	山田邦子	19	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	流行		
78	童謡を募る		19	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	文芸		
79	私の顔とネクタイ	佐藤春夫	20	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	家庭		
80	内外時事週報		22	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	社会		
81	経済週報		23	1-2,	1922(大正11)年4月9日号	経済		
82	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年四月十六日号(第一巻三号)**			1-3,	1922(大正11)年4月16日号	その他	題号	
83	支那趣味の流行(今日の主張)		3	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	美容		
84	性慾と文化生活	野上俊夫	3	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
85	遺伝と人生	石川千代松	4	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	科学		
86	日曜世間話	無憂樹	4	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	随筆		
87	市村殿の「冬木心中」△私の感想		5	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	随筆		
88	菊五郎と河合(スケッチ)	名取春仙	5	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア		
89	犬養木堂氏の「変つた」家		6	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	人物		
90	新らしい机(お伽噺)		7	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	文芸		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
91	水仙(童謡)△愛のボール(童謡)△考へもの		7	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	文芸		
92	廊下のない家	小野美智子	8	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
93	四月の沖釣	上田尚	8	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	娯楽		
94	惜春賦(短歌)	九條武子	8	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	文芸		
95	木場の春(スケッチ)	伊東深水	8	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア		
96	蛙の食べやう	野田三郎	9	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
97	すし飯の火加減△季節の漬物		9	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
98	春(凸版)	瀬川信一	9	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア		
99	ドロン・ウオークの手ほどき		10	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
100	女中代用の器械	赤阪清七	10	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
101	結核の話	有馬頼吉(医学博士)	11	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	科学		
102	或る親の記録	風梨子	11	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
103	中形浴衣地の新柄		12	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
104	戦後の独逸カメラ	竹谷生	12	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	科学		
105	花見小路の家(スケッチ)	梶原ひさ子	12	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア		
106	パラソルとネクタイ	佐藤春夫	13	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
107	靴の減り方		13	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
108	淀と太閤(短歌)	尾山篤二郎	13	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	文芸		
109	春雨の夜(スケッチ)	伊東深水	13	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア		
110	新脚本に適した俳優	高安月郊	14	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	映画		
111	「書き卸し」の音楽	山田耕作	14	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	娯楽		
112	ヘボン先生(新講談)	桂家残月	15	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	大衆小説		
113	踊へゆくみち(スケッチ)	梶原ひさ子	15	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア		
114	野球を七回試合にする問題		16	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	スポーツ		
115	野球記録者の立場から	玉置徳三	16	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	スポーツ		
116	英国の国技ラグビーとクリケツト		16	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	スポーツ		
117	「婦人固有」と家庭	山田わか	17	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
118	街上より		17	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
119	世界漫筆巡礼(一)	近藤浩一路	17	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	随筆		
120	文壇近頃の事△ゴシツプ		18	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	文芸		
121	春の海辺(スケッチ)	斉藤五百枝	18	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	グラビア		
122	幻想家と長唄の師匠(小説)	大泉黒石	19	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	小説		
123	蔵六陶談		20	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
124	売られる四庫全書の事	内藤湖南	20	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	文芸		
125	強羅の山荘(短歌)	長谷川栄作	20	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	文芸		
126	晩餐の後に		20	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	家庭		
127	内外時事週報		21	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	社会		
128	経済週報		23	1-3,	1922(大正11)年4月16日号	経済		
129	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年四月二十三日号(第一巻四号)**			1-4,	1922(大正11)年4月23日号	その他	題号	
130	東方熱の勃興(今日の主張)		3	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
131	遺伝と人生	石川千代松(理学博	3	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	科学		
132	物価はいつ下がる		4	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	経済		
133	この夏の登山計画		4	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
134	日曜世間話	無憂樹	4	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	随筆		
135	女も食卓につくこと		5	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
136	子供は恐怖を知らぬもの		5	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
137	木屋町の床(スケッチ)	梶原ひさ子	5	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア		
138	或る親の記録	風梨子	6	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	随筆		
139	今年のセルとネル		6	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
140	こどものページ		7	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
141	やなぎさくら			1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
142	松太郎の日記			1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
143	つばさ			1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
144	強いブルドツク			1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
145	素人設計雨戸のない家	小野美智子	8	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
146	朝顔六寸咲きの作り方	吉岡哲夫	8	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
147	一時に抜ける病的の毛	佐久間浜子	9	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
148	池田式御飯の炊き方	池田金三	9	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
149	世界漫筆巡礼(二)	近藤浩一路	9	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	随筆		
150	食器の賦△蔵六陶談△季節の漬物		10	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
151	結核の話	有馬頼吉(医学博士)	11	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	科学		
152	腎臓の対症療法	高安六郎	11	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
153	フランス風夏向きの新しい装身具		12	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
154	青い飲みもの(スケッチ)	梶原ひさ子	12	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア		
155	銀座の三十分		12	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
156	口を小さく見せるお化粧の仕方	北原十三男	13	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	美容		
157	瓶で見わける香水のよしわるし		13	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
158	女の内職と工賃		14	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	社会	職業	
159	夜更へて(凸版)	瀬川信一	14	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア		
160	万引の四月五月		14	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
161	伊太利映画「シツプ」		15	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	映画		
162	新富座スケッチ	水島爾保布	15	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア		
163	幻想家と長唄の師匠(小説)	大泉黒石	16	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	小説		
164	扉(スケッチ)	梶原ひさ子	16	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	グラビア		
165	眼から惹かす聲の教育		17	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	教育		
166	文壇近頃の事		17	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	文芸		
167	街上より△学芸界ゴシツプ		18	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	娯楽		
168	露国現代思想と性の問題	昇曙夢	18	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
169	ゆく春	ネル・ワンデル	19	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	随筆		
170	日本オリンピック大会		19	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	スポーツ		
171	「野球七回試合」の論議		19	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	スポーツ		
172	二つの異なるバンド	懸山憲一	19	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	家庭		
173	手釣と釣竿との比較	上田尚	20	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	娯楽		
174	道頓堀・千日前	KK生	20	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	随筆		
175	内外時事週報		21	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	社会		
176	経済週報		23	1-4,	1922(大正11)年4月23日号	経済		
177	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年四月三十日号(第一巻五号)**			1-5,	1922(大正11)年4月30日号	その他	題号	
178	婦人芸術の愛護(今日の主張)		3	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	芸術		
179	支那の戦争の話	雁来紅	3	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	戦争		
180	生活不安から治費組合へ	西村健吉	4	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
181	チツプを遣るのは不作法		4	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
182	野球は女性の新競技		5	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	スポーツ		
183	今日横浜に着く三浦環夫人		5	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
184	病室に提灯を借る(日曜世間話)	無憂樹	5	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
185	ぼちぼち見うける女の子の断髪		6	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	美容		
186	人魚と立琴鳥(お伽噺)	安成四郎	6	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	文芸		
187	陶器の色どり(尋常六年図画)		6	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
188	五月人形の製造場から		7	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
189	借家生活の小さなお台所(素人設計)	小野美智子	8	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
190	少将夫人の饅頭屋さん		8	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
191	ジキタリス	梶原ひさ子	9	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
192	苺はかうして食べる		9	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
193	米は磨いではいけない		9	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
194	或る親の記録	風梨子	10	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
195	家のうちで改めたい事	田子静江	10	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
196	結核の話	有馬頼吉(医学博士)	11	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	科学		
197	癇癪の治療は外科に移つた	藤呂春	11	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
198	源氏物語(名作物語ーー)	渡辺均	12	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	文芸		
199	文壇近頃の事		12	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	文芸		
200	夏の食器カツトグラス		13	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
201	今年の麦藁帽子		13	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
202	花から作る香水	内田壮	13	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
203	大阪で催されたドツグ・シヨウ	田丸亭之助	14	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	娯楽		
204	欧米のドツグ・ドム	奥村生	14	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	娯楽		
205	在外婦人の和服の問題	鈴木貞一	14	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
206	ゴルフ(競技の仕方とルールのあらまし)	西尾守一	15	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	スポーツ		
207	私のピツチング	小野三千麿	16	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	スポーツ		
208	メーデーについて	村島勝之	16	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
209	解放か救済か(婦人労働の調査)	山田益彦	17	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	社会	職業	
210	露国現代思想と性の問題	昇曙夢	17	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
211	犬ひき(支那の物語)	沢村幸夫	17	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	文芸		
212	国宝と特別愛護建造物	岩井湘南	18	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
213	女装の変遷	江馬務	19	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
214	人間味のない日本気質	大原正人	19	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	家庭		
215	幻想家と車掌(小説)	大泉黒石	20	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	小説		
216	内外時事週報		21	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	社会		
217	経済週報		23	1-5,	1922(大正11)年4月30日号	経済		
218	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年五月七日号(第一巻六号)**			1-6,	1922(大正11)年5月7日号	その他	題号	
219	婦人と政談集会		3	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
220	婦人に与ふべき権利の一端	尾崎行雄	3	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
221	正しい文化生活	西村伊作	4	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
222	断髪の露国婦人	カツセリ夫人	4	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	美容		
223	毒を仰いで死んだ妻へ	塩野謹一	5	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	実話		
224	子供の詩(入選童謡)		6	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	文芸	懸賞	
225	朝のごはん	瀬川信一	6	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
226	すみれ、たんぽぽ、げんじ	渋谷順吉	6	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	随筆		
227	ウバグルマ(お伽噺)		7	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	文芸		
228	阿蘇火山(尋常六年地理)		7	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	教育		
229	ネコ(尋常一年国語)		7	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	教育		
230	新らしい考へ物		7	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	懸賞		
231	夏向の草花		8	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
232	古流「夜話の席」		8	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	文芸		
233	初夏十首	木下利玄	8	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	文芸		
234	八分搗米の炊き方	鎌田正忠	9	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
235	ヴヰタミンといふもの		9	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
236	日本を去るシヨルツ氏		9	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
237	或る親の記録	屋須子	10	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	随筆		
238	神経質のこども	岡田道一(医学士)	10	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
239	結核の話	有馬頼吉(医学博士)	11	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	科学		
240	科学的にもきれいな生活	森本静子	11	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	科学		
241	源氏物語(名作物語－二)	渡辺均	12	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	文芸		
242	愛と憎みに悩める女性	久保奥英(文学博士)	12	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	科学		
243	朝鮮木綿		13	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
244	新緑の頃のネクタイ、シヤツ、カラー		13	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
245	今年の単帯と半襟		13	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
246	吉松模様と光線ぼかし	黒田鵬心	13	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	芸術		
247	女ばかりの能楽		14	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
248	映画のトリツク	小山内薫	14	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	映画		
249	法廷に立つ子殺しの女		15	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
250	中之島	小出楢重	15	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	グラビア		
251	楽屋裏から		15	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	芸能		
252	大選手としての清水、熊谷	針道生	16	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	スポーツ		
253	私のFITGHING〔FIGHTING〕	小野三千麿	16	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	スポーツ		
254	婦人労働者の分布	山川菊栄	17	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	社会	職業	
255	日本古建築のバルコニー	岩井湘南	17	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
256	天女の案(支那の物語)	藤村幸人	17	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	文芸		
257	「冬のソネツト」と「ペテルスブルグ日記」(二大作品)		18	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	家庭		
258	John Galshortyを訪ねて	赤阪清七	18	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	人物		
259	ゴシツプ		18	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	娯楽		
260	幻想家と駝脊の朝鮮人(小説)	大泉黒石	19	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	小説		
261	時事週報		21	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	社会		
262	経済週報		23	1-6,	1922(大正11)年5月7日号	経済		
263	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年五月十四日号(第一巻七号)**			1-7,	1922(大正11)年5月14日号	その他	題号	
264	二人の失敗者(今日の主張)		3	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
265	家系の正しい観念	高峰博	3	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
266	おかざりした少女	初山滋	3	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
267	ヂムバリストの印象	前田三男	4	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	人物		
268	(日曜世間話)	無憂樹	4	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	随筆		
269	トーマス・ベントンの絵		4	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
270	紳士的な鱒釣	上田尚	5	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	娯楽		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
271	暗の世界に光る「点字大阪毎日」	河野生	5	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
272	子供の詩(海外佳作十五篇)		6	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
273	お房をばさん(少女小説)	仲木しづ	6	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	小説		
274	野に立つ少女	清水よしな	6	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
275	瓦の大売出し(尋常三年国語)		6	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
276	シンルキ(尋常二年修身)		7	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
277	お池のお姫様(お伽噺)		7	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	文芸		
278	「初紙人形」入選者△考へ物新題		7	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	懸賞		
279	鮮人の家庭雑用夫		8	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
280	かまど地獄(別府小品)	水島爾保布	8	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	文芸		
281	投入、盛花、一輪挿の材料		8	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
282	印画と台紙との調和		9	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
283	くせ毛とちゞれ毛	佐久間浜子	9	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
284	楽屋裏から		9	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	芸能		
285	梅の青漬		9	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
286	源氏物語(名作物語－三)	渡辺均	10	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	文芸		
287	「夜話の席」の昼話	山辺詫介	10	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	随筆		
288	思春期と結核病(結核の話)	有馬頼吉(医学博士)	11	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
289	糖尿病はまづ肥ゑる	小沢修造(医学博士)	11	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
290	地獄船(映画見たまゝ)		12	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	映画		
291	雑木林の中(小説)	田中貢太郎	13	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	大衆小説		
292	一坪の空地に三羽の鶏	本山貞雄	14	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
293	初夏の大島から	斉藤愛彦	14	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
294	坊主地獄(別府小品)	水島爾保布	14	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	文芸		
295	顔の相、人の性	無患子	15	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
296	連鎖組織の小売法	鈴木健輔	15	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
297	「分離派」の家		16	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
298	沈黙のウキルソン氏	井上秀子	16	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	人物		
299	雑草の花	與謝野寛	16	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
300	文壇近頃の事		17	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	文芸		
301	街上より△ゴシツプ		17	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	娯楽		
302	葭の中	森田恒友	17	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
303	「小田原陣」と「裏切」(五月の新しい芝居二つ)		18	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
304	女喰神(芝居見たまゝ)		19	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	芸能		
305	加賀法泉山の横穴	上田三平	20	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	家庭		
306	内外時事週報		21	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	社会		
307	経済週報		23	1-7,	1922(大正11)年5月14日号	経済		
308	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年五月二十一日号(第一巻八号)**			1-8,	1922(大正11)年5月21日号	その他	題号	
309	三浦環夫人(今日の主張)		3	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
310	お蝶三浦環夫人の技術	山田耕作	3	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
311	文化的青年団を起さんとして	三島章造	4	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
312	日曜世間話	無憂樹	4	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	随筆		
313	夏服のスタイルは変つた		5	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
314	「髪結」さんをつくる学校		5	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	美容		
315	丘に建てられた家		6	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		

資料I-2　サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
316	住宅問題は道徳問題	小川図南	6	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
317	瀬戸内海(尋常六年口語)		7	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	教育		
318	KUMO(お伽噺)	ミチ子	7	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	文芸		
319	東京女子大学午後科参観記	S・S生	8	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	随筆		
320	椅子と座布団の不調和	小野美智子	8	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
321	家庭で出来る友禅の色差し	石沢吉麿	8	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
322	台所道具の改良	大岡蔦枝	9	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
323	四寸の鯛一尾を材料に一汁三菜			1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
324	二人前の膳部	一戸伊勢子	9	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
325	流行の新しいタツチング・レース	内藤高子	10	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	美容		
326	養母に虐待されて弁当を盗む少女		10	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
327	N君とそのお母さん	有馬頼吉	11	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	随筆		
328	糖尿病の断食療法	小沢修造	11	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
329	源氏物語(名作物語ー四)	渡辺均	12	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	文芸		
330	婦人の演劇がなぜ悪い	金田謹之助	12	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	芸能		
331	鮎の川開きと蚊ばり釣	上田尚	13	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	娯楽		
332	趣味としての支那雑貨			1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
333	台詞を聴く耳	伊藤松雄	14	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
334	劇界近時の事△英国の美人劇団		14	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	芸能		
335	黄金の死(一)	ジヤツク・ロンドン	15	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
336	楽屋裏から		15	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	芸能		
337	今年も「紐育」の優勝か		16	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	スポーツ		
338	女性	モーリス・メーテルリ	17	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
339	文壇近時の事△ゴシツプ		17	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	文芸		
340	若き建築家の一群		18	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
341	長野県製糸工場の実況	山川菊栄	18	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
342	露国文芸界		18	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	文芸		
343	発見された「胸肉奇談」	新村出(文学博士)	19	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	科学		
344	横顔の相と人の世	無患子	19	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
345	英国式快技ホツケー	石原育弥	20	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	スポーツ		
346	女の見る夢、男の見る夢		20	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	家庭		
347	内外時事週報		21	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	社会		
348	経済週報		23	1-8,	1922(大正11)年5月21日号	経済		
349	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年五月二十八日号(第一巻九号)**			1-9,	1922(大正11)年5月28日号	その他	題号	
350	婦人の賜物(今日の主張)		3	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
351	夏は自然の生活へ	上原敬二	3	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
352	収入と家賃の割合	小川図南	4	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
353	紫外線の話	長下俊一	4	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	科学		
354	男と女との胸釦の違い(日曜世間話)	無憂樹	4	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	随筆		
355	PRIMA　DONNAの耳と目	三浦環	5	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	芸能		
356	アルコオルの栄養価	阪本助之進	5	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
357	お房をばさん(少女小説)	仲木しづ	6	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	小説		
358	卓上ヨツト		6	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	スポーツ		
359	ジヤツキーちゃん		7	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
360	まご娘の像	清水よしを	7	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		

資料I-2　サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
361	運搬の出来る新住宅		8	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
362	熱の知識と生活		8	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
363	夏の座敷を涼しくする電灯		9	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
364	今年の夏の服飾		9	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
365	黄金王の死	ジヤツク・ロンドン	10	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	文芸		
366	タツチング・レース	内藤高子	10	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
367	結核恐怖病	有馬頼吉	11	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
368	水から観た大阪		11	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
369	夏のたびところどころ	小早川秋声	11	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
370	桐の花	足立源一郎	12	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
371	よい習慣と悪い習慣	北沢種一	12	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
372	源氏物語(名作物語－五)	渡辺均	12	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	文芸		
373	球の「突き出し」	藪本義一	13	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
374	こどもの頭の虫	佐久間浜子	13	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
375	猫を愛する奥さん		13	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
376	女の着物の色彩	浜八百彦	14	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
377	頭の相と人の性	無患子	14	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
378	武蔵野の雑草	白石実三	15	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
379	異国の使者(小説)	村松梢風	15	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	大衆小説		
380	フアスト・ボールを打つ場合		16	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	スポーツ		
381	野球から得た私の経験	安部磯雄	16	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	スポーツ		
382	民族的運動としてのマラソン	吉岡信之	16	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	スポーツ		
383	こどもの空想	佐々木秀一	17	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
384	女性	メーテルリンク	18	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
385	文壇近時の事△ゴシツプ		18	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	文芸		
386	簡単な汚点の抜き方	石沢吉麿	19	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	家庭		
387	内外時事週報		20	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	社会		
388	経済週報		23	1-9,	1922(大正11)年5月28日号	経済		
389	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年六月四日号(第一巻十号)**			1-10,	1922(大正11)年6月4日号	その他	題号	
390	芸術家と社会(今日の主張)		3	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	芸術		
391	長崎小品	芥川龍之介	3	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	文芸		
392	道路は砂利から木へ	西村健吉	4	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
393	大学教授の放火嫌疑者(日曜世間話)	無憂樹	4	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	随筆		
394	私は結婚した	長田幹彦	5	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
395	児童警察		5	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
396	子供の詩		6	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
397	七曜星のお話		6	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	科学		
398	子供が喜ぶ砂遊び	勝まき子	7	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
399	お房をばさん(少女小説)	仲木しづ	7	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	小説		
400	紫外線のお話	貞下健一(医学博士)	8	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	科学		
401	義務的小学教育		8	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	教育		
402	泣く子の要求	斉藤さく	8	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
403	目の為に苦労する日本料理	貞山青果	9	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
404	朝の食事		9	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
405	タツチング・レース	内藤高子	10	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
406	記者生活三十年	菊池幽芳	11	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
407	結核の話	有馬頼吉	11	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
408	源氏物語(名作物語ー六)	渡辺均	12	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	文芸		
409	スケッチの好季は今	三宅克己	12	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	グラビア		
410	ワン、クツシヨン	藪本義一	13	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
411	「お蝶」初演の思出	三浦環	13	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
412	頭の相と人の性	無患子	13	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
413	「テオドラ」見たまゝ		14	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	芸能		
414	劇界近頃の事		14	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	芸能		
415	「女探偵」になつて三日目	高津千枝子	15	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	随筆		
416	活動俳優収入調		15	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	映画		
417	黒い顔が語る生きた芸術	吉岡信之	16	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	芸術		
418	大覚寺とその心経	黒板勝美(文学博士)	17	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	科学		
419	人間性に関する一考察	山田わか	17	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	随筆		
420	婦人労働組合運動	山川菊栄	18	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
421	文壇近頃の事△ゴシツプ		18	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	文芸		
422	問題の中心は極東へ	羽田亨(文学博士)	18	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	科学		
423	黄金王の死	ジヤツク・ロンドン	19	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
424	訳なく出来る捺染紙		19	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	家庭		
425	内外時事週報		20	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	社会		
426	経済週報		23	1-10,	1922(大正11)年6月4日号	経済		
427	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年六月十一日号(第一巻十一号)**			1-11,	1922(大正11)年6月11日号	その他	題号	
428	高橋内閣の総辞職(今日の主張)		3	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	政治		
429	憧憬の山岳	槙有恒	3	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
430	朝鮮金剛山の植物美	丸山晩霞	4	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	美容		
431	五十四万石の駄洒落(日曜世間話)	無憂樹	4	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	随筆		
432	夏の磯釣の快楽	上田尚	5	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	娯楽		
433	夏の女と現代	名取春仙	5	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
434	タルタラン物語		6	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	文芸		
435	こどものしんぶん		6	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
436	赤いのみもの	初山しげる	6	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
437	廃物利用の玩具	藤五代策	7	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
438	黄金のパン(童話)		7	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	文芸		
439	考へもの新題		7	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	懸賞		
440	二家族共同の住宅(素人設計)	小野美智子	8	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
441	寝びゑを防ぐ腹かけ	宇都野研	8	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
442	住宅の塀の印象		8	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
443	生活費を安くする実際手段	三好正明	9	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
444	皮膚と人の性	無患子	9	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
445	記者生活三十年	菊池幽芳	10	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
446	倫敦の最初の日	石川欣一	10	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
447	皇祖紀元を使用する習慣を作りたい	黒板勝美(文学博士)	11	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	科学		
448	結核の話	有馬頼吉(医学博士)	11	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	科学		
449	血圧が高いとは何を意味する?		11	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
450	源氏物語(名作物語ー七)	渡辺均	12	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	文芸		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
451	芸術写真とは？	結城真之輔	12	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	芸術		
452	涼しい子供服		13	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
453	万古焼の代々	森茂生	13	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
454	六月の帝劇スケッチ	名取春仙	14	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	芸能		
455	遁世した竹之丞(六月の帝劇)	多年生	14	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	芸能		
456	楽屋裏から		14	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	芸能		
457	水中の噴火山(新工大の遊び方)	芳屋三五郎	15	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
458	女探偵の話	高津千枝子	15	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	随筆		
459	撞球の実際術	藪本義一	15	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	スポーツ		
460	平泉誌	小杉未醒	16	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
461	衣川の水浴図	小杉未醒	16	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
462	加州大学庭球団の凄味	玉置徳三	16	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	スポーツ		
463	支那の古代地層探検		17	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	科学		
464	日本住血吸虫病	藤浪鑑(医学博士)	17	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	家庭		
465	私達の農民芸術	山本鼎	18	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	芸術		
466	大寺の前の広場	木下杢太郎	18	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	随筆		
467	文壇近頃の事△ゴシツプ		18	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	文芸		
468	内外時事週報		22	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	社会		
469	経済週報		24	1-11,	1922(大正11)年6月11日号	経済		
470	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年六月十八日号(第一巻十二号)**			1-12,	1922(大正11)年6月18日号	その他	題号	
471	梅雨季の美(今日の主張)		3	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
472	私から見た夏の婦人美	伊東深水	3	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	美容		
473	アルペン夜話	槙有恒	4	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	随筆		
474	器用な言葉の洒落(日曜世間話)	無憂樹	4	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	随筆		
475	蝿が運ぶ病原菌		5	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
476	倫敦と第一印象	石川欣一	5	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
477	くものすとお父様のゆめ(学校劇)	葛原しげる	6	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	芸能		
478	一口話(尋常三年読方)		6	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	教育		
479	考へ物新題		6	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	懸賞		
480	大勇士タルタラン		6	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	文芸		
481	こどもの新聞		7	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
482	単純な質用的な令嬢服		7	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
483	紐育から来た最新型の靴		8	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
484	国立栄養研究所献立の試食		8	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
485	夏の果物のたべやう二三		9	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
486	スマツキング	内藤高子	9	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
487	疫痢の話	伊東祐彦	10	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	随筆		
488	記者生活三十年	菊池幽芳	10	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
489	結核の話	有馬頼吉	11	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
490	この夏の訪問服		11	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
491	夏の帯	遠藤資津子	12	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
492	香水の値段は壜である		12	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
493	ヲシ球の研究	藪本義一	12	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	スポーツ		
494	夏と写真	福原信三	13	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
495	或る母親の手帳		13	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		

資料I-2　サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
496	「散書紅かしこ」見たまゝ(六月の新富座)		13	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
497	劇壇近頃の事		14	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	芸能		
498	脱毛と禿髪の話	中川清(医学博士)	15	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	科学		
499	バチルス泥棒(探偵小説－前)	エツチ・ヂ・ウエルズ	16	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	大衆小説		
500	黄金王の死(完)	ジヤツク・ロンドン	16	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	文芸		
501	優生学の価値とその限界	藤井健治郎(文学博	17	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	科学		
502	大寺の前の広場	木下杢太郎	17	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
503	松方氏の浮世絵九千点		18	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	家庭		
504	文壇近頃の事△ゴシツプ		18	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	文芸		
505	源氏物語(名作物語－八)	渡辺均	19	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	文芸		
506	内外時事週報		20	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	社会		
507	経済週報		23	1-12,	1922(大正11)年6月18日号	経済		
508	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年六月二十五日号(第一巻十三号)**			1-13,	1922(大正11)年6月25日号	その他	題号	
509	越後二十村の闘牛見物	川端龍子	3	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	随筆		
510	闘牛スケッチ(半調色版)	川端龍子	3	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	グラビア		
511	山岳縦談	北尾鐐之介	4	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
512	登山用具五種		4	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	娯楽		
513	この夏の登山、旅行計画(関西学院)		4	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
514	火星の南極の雪の平原	山本一清	5	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
515	天城山を越えて	鍋井克之	6	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
516	下河津(半調色版)	鍋井克之	6	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	グラビア		
517	あこがれの独逸(子供の新聞)		7	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
518	こども作品展覧会		7	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
519	栄養研究所のお台所		8	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
520	結核の早期診断		8	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
521	撞球の実際術		9	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	スポーツ		
522	疫痢の手当と救急薬	伊東祐彦	9	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
523	夏の現象	掛札功	10	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
524	スマツキング	内藤高子	10	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
525	泡の立たない新しい洗玉	今津明	10	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
526	新しい住宅の外観	西村伊作	11	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
527	靴の衛生		11	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
528	手数いらずに蠅の撲滅	森田公平	12	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
529	つゆ時の衛生	藤原九十郎	12	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
530	源氏物語	渡辺均	13	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	文芸		
531	記者としての初見参	菊池幽芳	13	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	随筆		
532	独逸こども服の流行型		14	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
533	知つておくべき塩の種類		14	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
534	脱毛と禿頭の話	中川清	14	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	随筆		
535	バチルス泥棒(探偵小説－後)	エツチ・ヂ・ウエルズ	15	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	大衆小説		
536	額の皺と人の性	無患子	15	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
537	盗塁に関する経験	森秀雄	16	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	スポーツ		
538	新本塁打王の出現		16	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
539	ゲエリー・システムの中学校		16	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	教育		
540	日本陸上競技の最高記録		16	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	スポーツ		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
541	日本に戻つた浮世絵		17	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	芸術		
542	文壇近頃の事		17	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	文芸		
543	千三百年前の都市計画	喜田貞吉	18	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
544	支那の新劇第一声		18	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	芸能		
545	ゴシツプ		18	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	娯楽		
546	サン・シユルピスの広場から	木下杢太郎	19	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
547	吹込ラツパの前の尾上菊五郎		19	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	家庭		
548	内外時事週報		20	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	社会		
549	経済週報		23	1-13,	1922(大正11)年6月25日号	経済		
550	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年七月二日号(第一巻十四号)**			1-14,	1922(大正11)年7月2日号	その他	題号	
551	二万千七百呎まで達したエヴエレスト登山隊		3	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
552	南アルプスの価値	矢沢米三郎	3	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	随筆		
553	山岳旅談	北尾鐐之助	4	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	随筆		
554	日本アルプス登山口と山上の物価		4	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	経済		
555	まちなと道(半調色版)	小杉未醒	4	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	グラビア		
556	登山旅行の計画		5	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	娯楽		
557	登山に関するインフオメーシヨン		5	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	娯楽		
558	日本アルプス登山日程の二案		6	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	娯楽		
559	十五日で支那周遊の旅程		6	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	娯楽		
560	琉球回想	小杉未醒	7	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	随筆		
561	倫敦と第一印象	石川欣一	7	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	社会		
562	祖父嶽棒小屋に於ける野営(今日の主張)	吉田博	7	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	社会		
563	婦人の衣装の変遷(今日の主張)		8	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	社会		
564	婦人運動の目的	渡辺英一	8	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	社会		
565	王宮の墺は果報者	無憂樹	8	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	随筆		
566	大勇士タルタラン	ドオデエ	9	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
567	星の王様(お伽噺)		9	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	文芸		
568	子供の詩(入選発表)		10	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭	懸賞	
569	こどものしんぶん		10	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
570	せいとん(尋常三年修身)		10	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	教育		
571	田舎娘スタイルの新しい避暑服		11	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
572	浴衣の衣(柄と色)		11	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
573	源氏物語(名作物語－十)	渡辺均	11	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	文芸		
574	新ヴイタミンDを肝油から発見		12	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
575	食物の中毒	川端満三	12	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
576	軽い衣服に乾いた居室	藤原九十郎	12	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
577	劇壇近頃の事△新劇と旧俳優		13	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	映画		
578	文壇近頃の事△楽屋裏から		13	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	芸能		
579	疲労を軽くする研究	藤原九十郎	14	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
580	いろいろな蟹の話	名和靖	14	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	随筆		
581	スマツキング(婦人の手芸)		15	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
582	脱毛と禿髪の話	中川清	15	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	美容		
583	アルバム(小説)	チエエホフ	16	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	小説		
584	三十年間の記者生活	菊池幽芳	16	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
585	盗塁に関する経験	森秀峰	17	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
586	工業照明より芸術照明	遠山静雄	17	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	芸術		
587	ヴアンスの田舎	小出楢重	17	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	グラビア		
588	日本文化の独立	内藤虎次郎	18	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	社会		
589	琉球の古語を研究する露国人		18	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
590	皺から見た人の性	無患子	19	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	家庭		
591	ルース君の相変わらぬ猛打撃		19	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	スポーツ		
592	時事週報△経済週報		20	1-14,	1922(大正11)年7月2日号	経済		
593	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年七月十日号(第一巻十五号)**			1-15,	1922(大正11)年7月10日号	その他	題号	
594	文化村の流行(今日の主張)		3	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	社会		
595	赤ん坊の展覧会		3	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	芸術		
596	砂地(絵画)	初山滋	3	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	グラビア		
597	ホテル、ペンシルヴアニヤの使用人勤務心得		4	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
598	美術批評家と夏蜜柑(日曜世間話)	無憂樹	4	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	芸術		
599	実際を目安の新住宅		5	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
600	白髪を防ぐには？	佐久間浜子	5	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	美容		
601	お爺さんと桐の木(お伽噺)		6	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	文芸		
602	こどものしんぶん		6	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
603	支那の子供の詩△大勇士タルタラン		6	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
604	まはりつこ(尋常二年読方)		7	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	教育		
605	銀印画のみが芸術品か	榊原青葉	8	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	芸術		
606	ヒステリーとは何んな病か	和田豊種(医学博士)	8	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
607	河畔の小屋(スケッチ)	森田恒友	8	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	グラビア		
608	山岳旅談	北尾鐐之助	9	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	随筆		
609	精進湖畔にて	丹羽隆介	9	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
610	各地旅館の茶代、心付、宿量		9	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
611	肉に繋る敵同士三人(芝居見たまゝ)		10	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	芸能		
612	七月の帝劇スケッチ	名取春仙	10	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	芸能		
613	暑さと湯気と生活	藤原九十郎(医学博	11	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	科学		
614	結核の話	有馬頼吉(医学博士)	11	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	科学		
615	昼寝は悪いか	氏家信	12	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
616	これからの皮膚の衛生	桜根孝之進(医学博	12	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
617	描更紗(手芸の紹介)	大給近清	13	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
618	令嬢向きの簡易な洋服		13	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
619	東京花形役者の噂	石井香夢	14	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
620	舞台の上の音楽	三島章造	14	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	芸能		
621	大阪毎日の編集局(記者生活三十年)	菊池幽芳	15	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
622	日本アルプス渓流の岩魚釣	上田尚	15	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	娯楽		
623	戒克で太平洋を横断		16	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
624	浅間山(スケッチ)	丸山晩霞	16	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	グラビア		
625	源氏物語(名作物語－十一)	渡辺均	16	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	文芸		
626	卓上で冷し茶のお手前	秋野為草	17	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
627	額の皺と人の性	無患子	17	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
628	氷は細菌の塊	山本和成	17	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	家庭		
629	私のホームラン	小野三千麿	19	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	スポーツ		
630	時事週報△経済週報		20	1-15,	1922(大正11)年7月10日号	経済		

資料I-2　サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
631	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年七月十日　小説と講談号(第一巻十六号)**			1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	その他	題号	特集号
632	◇　創　　作　◇			1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	その他	見出し	特集号
633	一夕話	芥川龍之介	3	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
634	洋傘	上司小剣	4	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
635	尾行	里見弴	5	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
636	女盗	南部修太郎	7	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
637	或る中学教師	吉田絃二郎	9	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
638	枇杷の実	加能作次郎	9	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
639	楓と白鳩	泉鏡花	11	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
640	失策	中戸川吉二	12	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
641	鏡(講釈)	菊池幽芳	13	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
642	蜜柑	水守亀之助	14	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
643	娘	加藤武雄	15	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
644	猿(戯曲)	中條百合子	17	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
645	出航	林久男	18	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
646	勝利者	三宅やす子	19	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
647	気分酔々夫婦	渡辺均	20	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
648	真珠の帽子	田中貢太郎	21	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
649	苺狩	村松梢風	22	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
650	或る轢死	長田幹彦	48	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
651	暁の鐘(喜劇)	曽我廻家五郎	23	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	小説		特集号
652	◇　挿　　画　◇			1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	その他	見出し	特集号
653	浪	水島爾保布	3	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	グラビア		特集号
654	ちゝ	初山滋	5	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	グラビア		特集号
655	人魚	水島爾保布	6	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	グラビア		特集号
656	木の下	森田恒友	10	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	グラビア		特集号
657	娘	中村大三郎	15	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	グラビア		特集号
658	樹の蔭にて	瀬川信一	22	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	グラビア		特集号
659	仲買人	名越国三郎		1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	グラビア		特集号
660	◇　探偵小説　◇			1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	その他	見出し	特集号
661	蛙の水出し	岡本綺堂	14	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
662	２＋２＝５	春日野緑	20	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
663	黄金の髪針	セグストン・ブレーク	25	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
664	多忙な仲買人	オ・ヘンリー	26	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
665	秘密の快走船	桜木路紅	27	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
666	◇　講談落語　◇			1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	その他	見出し	特集号
667	日高川	金原亭馬生	28	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
668	転宅	柳亭左楽	28	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
669	つけ焼刃	笑福亭松鶴(画)宍戸	30	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
670	河内山宗俊松江邸偽使僧	桃川燕国(画)名取春	31	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
671	猫久	柳家小さん	32	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
672	長門守血判取	桃川燕国	33	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
673	蕎麦殿	三遊亭小円朝	34	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
674	風車長兵衛隠亡堀の蒲鉾小屋	悟道軒円玉(画)名取	35	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
675	江戸花振袖火事	梅林舎南鶯(画)松本	35	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号

資料I-2　サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
676	鼻がほしい	三遊亭円右(画)名越	36	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
677	怪談安積沼	猫遊軒三郎(画)水島	37	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
678	佐賀の夜桜	阪本富岳	38	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
679	酒乱かしく	浅草舎英昌(画)木谷	39	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
680	山中魔神退治	一龍斉貞輔(画)堤寒	40	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
681	御風呂番から御中老	悟道軒円玉(画)木谷	41	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
682	国定忠次明神阪の喧嘩	西尾鱗慶(画)北野恒	42	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
683	御守殿風恋の色縮緬	一龍斉貞山(画)樋口	43	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
684	幸手堤お峰殺し	三遊亭円喬(画)水島	44	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
685	細川血染の名画	神田伯龍(画)多田北	45	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
686	一本松青の別れ	小金井蘆洲(画)菅楯	46	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
687	阿波の家老繰九郎兵衛	一龍斉文章(画)多田	47	1-16,	1922(大正11)年7月10日小説と	大衆小説		特集号
688	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年七月十六日号(第一巻十七号)**			1-17,	1922(大正11)年7月16日号	その他	題号	
689	老文豪の死(今日の主張)		3	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
690	私の見た鴎外森林太郎氏	無憂樹	3	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	人物		
691	「処女地」に集る人々	島崎藤村	4	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
692	帰朝した早川雪洲		5	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
693	「情話」を創作する日本人	在伯林生	5	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	随筆		
694	日本五十景写真懸賞募集		5	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	その他	懸賞	
695	大勇士タルタラン		6	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
696	こどものしんぶん		6	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
697	なみ(線画)	初山滋	6	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	グラビア		
698	日本のこども(半調色版)	ガートルード・ケイ	6	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
699	風車の作り方(オモチヤ)		7	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
700	子供を助けた機関師		7	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
701	時鳥の落し文		7	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
702	山陰の旅から	小出楢重	9	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	グラビア		
703	秩父紀行	近松秋江	9	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	随筆		
704	「髪結新三」の家主長兵衛		10	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	美容		
705	盆踊都風俗(新富座見たまゝ)		10	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	芸能		
706	七月の新富座スケッチ	名取春仙	10	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	グラビア		
707	結核の話	有馬頼吉	11	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
708	独逸少女服の流行方		11	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
709	大阪毎日で二階生活	菊池幽芳	12	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
710	文壇のカメラ党		12	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	文芸		
711	スマラキング	内藤高子	13	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
712	ヒステリー性の生活	和田豊種	13	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
713	熊は弱つてゐる(森の動物)		14	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
714	土用文学		14	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
715	土用中のまじなひ		14	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
716	夏季に於ける飲食物の腐敗と貯蔵		15	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
717	眉と瞼と人の性	無患子	15	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
718	草花のこやし		15	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
719	牛泥棒の裁判(水戸黄門記)	揚名会桃子	16	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	随筆		
720	盗塁に関する私の経験	森秀雄	17	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	スポーツ		

資料I-2 サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
721	撞球の実際術	藪本義一	18	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	スポーツ		
722	天眼鏡の写真機	西村伊作	18	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
723	キース嬢の日本版画報		19	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	家庭		
724	夏の婦人毛髪の洗方		19	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	美容		
725	内外時事週報		20	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	社会		
726	経済週報		23	1-17,	1922(大正11)年7月16日号	経済		
727	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年七月二十三日号(第一巻十八号)**			1-18,	1922(大正11)年7月23日号	その他	題号	
728	自分で取れ(今日の主張)		3	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
729	滑稽作家演説を盗まる(日曜世間話)	無憂樹	3	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	随筆		
730	吉野山遠望(スケッチ)	足立源一郎	3	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	グラビア		
731	小野訓導の死の現場から	佐々木吉三郎	4	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
732	新しい令嬢服の作り方		5	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
733	有馬の京大教授村		5	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
734	よねちやん天にかへる	吉川佐代子	6	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	文芸		
735	こどものしんぶん		6	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
736	星の話(尋常五年の読方)		6	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	教育		
737	ソーダ水	亀高文子	7	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
738	組み立て椅子(漫画)	名越国三郎	7	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	漫画		
739	兎のぴよん吉(童話)		7	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	文芸		
740	尋常六年の算術応用問題		7	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	教育		
741	瀬戸内海の旅より	斉藤與里	8	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
742	山の話	宇野浩二	8	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	随筆		
743	登山家と占有窓	百瀬慎太郎	9	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	娯楽		
744	赤岩岳の野営(童話)	吉田博	9	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	文芸		
745	花形役者の噂	石井香夢	10	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
746	劇壇近頃の事		10	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	芸能		
747	肥ゑた人の痩せる法	斉藤大雅	11	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
748	結核の話	有馬頼吉	11	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
749	アカシヤの蔭	島村真夫	11	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
750	胃癌は不治の病でない	松尾巌	12	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
751	私の三十年間の記者生活	菊池幽芳	12	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
752	カーテンの蔭	初山滋	13	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
753	何を描く?(季節の画室訪問記)		13	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	芸術		
754	文壇近頃の事		13	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	文芸		
755	赤ん坊展覧会審査の実況		14	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	芸術		
756	レデゴンダの日記	山本有三	16	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
757	ヒキ球の研究	藪本義一	17	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	スポーツ		
758	榊原氏の銀印画論	結城貞之輔	17	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	人物		
759	全国中等学校庭球大会		18	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	スポーツ		
760	本塁打王の栄冠は誰れの手に		18	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
761	毛染の話	佐久間浜子	19	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	随筆		
762	眼の位置と人の性	無患子	19	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	家庭		
763	内外時事週報		20	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	社会		
764	経済週報		23	1-18,	1922(大正11)年7月23日号	経済		
765	**★『サンデー毎日』 一九二二(大正十一)年七月三十日号(第一巻十九号)**			1-19,	1922(大正11)年7月30日号	その他	題号	

資料I-2　サンデー毎日1922年目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
766	昆虫生活の観察		3	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
767	劇作家と舞台監督(日曜世間話)	無憂樹	3	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	芸能		
768	金魚(挿画)	名越国三郎	3	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	グラビア		
769	最初の犠牲者	百瀬愼太郎	4	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
770	見ぬ女の手紙	近松秋江	4	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	随筆		
771	烏帽子岩登りの成功		5	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
772	海と女の身体	原静代	5	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	随筆		
773	たのしい夏休み△夏の夕の面白い遊び方		6	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
774	もしもしばあさん(童謡)		6	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	文芸		
775	夏休みの日記を募る		6	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
776	タルタランの山登り△こどものしんぶん		7	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
777	寝び𢦏知らず(挿画)	瀬川信一	7	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	グラビア		
778	動く絵		7	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
779	濱寺テント村生活	加茂正次	8	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
780	猿のこゝろ(ユ社新作映画梗概)		10	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	映画		
781	結核の話	有馬頼吉	11	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
782	甲状線〔腺〕と年齢	辻寛治(医学士)	11	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
783	新しい一室を作る案	佐藤功一(工学博士)	12	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	科学		
784	私の卅年間の記者生活	菊池幽芳	12	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
785	涼しい水兵服の作り方		13	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
786	スマツキング	内藤高子	13	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
787	毛染に中毒した実例	佐久間浜子	13	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
788	能率は上つたか(暑休廃止の効果)		14	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
789	感じのよくない点もあらう	内務省某局長		1-19,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
790	市民には非常な便利	東京市高級助役		1-19,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
791	暑休廃止は反対である	大阪市南助役		1-19,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
792	女中引止め案	一紹介業者	14	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
793	この頃の乳児服		15	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
794	眉とまつ毛の手入		15	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
795	見𢦏ぬ追跡者(探偵小説ーー)	フレデリツク・エス・グ	16	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	大衆小説		
796	夏の沖釣	上田尚	16	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	娯楽		
797	吉利支丹雑考	渡辺庫輔	17	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
798	演劇の民衆化	渡平民	17	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	芸能		
799	野球の常識	腰本寿	18	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	スポーツ		
800	文壇近頃の事		18	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	文芸		
801	松江にて	小出楢重	18	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	グラビア		
802	眼の表情と人の性	無患子	19	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
803	女学生ばかりの天幕生活	中條百合子	19	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	家庭		
804	内外時事週報		20	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	社会		
805	経済週報		23	1-19,	1922(大正11)年7月30日号	経済		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25890	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十月一日　秋季特別号(第二十二巻十五号)目次**			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	題号	その他	
25891	表紙　「月光の譜」(宝塚少女歌劇・神代錦嬢)　　HBオフセット極彩色刷			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	グラビア	表紙	
25892	扉絵　「月」	小杉放庵		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	芸術		
25893	口絵グラフィック			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	グラビア		
25894	秋の伴奏▽満州の秋▽銀幕を離れて▽進化の指紋▽鳥と人のモンタージュ、			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	映画		
25895	▽女流画家アトリエ訪問▽特集「銀幕の秋」			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	映画		
25896	子は子でも(大衆小説)	直木三十五	2	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	大衆小説		
25897	都会と港のインチキ物語		148	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25898	陰痴気質双面鏡(大阪)	松浦直		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25899	港町の迷走路(横浜)	青木純二		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25900	或る映画屋のメモ(京都)	多藪文平		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25901	結婚媒介所の男女(東京)	泉兼丸		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25902	タラツプを上る脂粉(門司)	藤門之助		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25903	中京いん稚戯草紙(名古屋)	藤木比佐志		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25904	異国情緒の小夜曲(神戸)	佐久間よしを		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25905	国際スパイ秘話　陛下の間諜	毛利晴夫	45	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25906	レヴユ　忠臣蔵(文と絵)	岡本一平	84	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	芸術		
25907	彼女達と良人達(小説)	広津和郎	207	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	小説		
25908	旅の印象			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	随筆		
25909	ナンセンス　天国に結ぶ病院	徳川夢声	69	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	家庭		
25910	ちやつかり夫婦	林二九太	76	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	随筆		
25911	秋風	吉田絃二郎	23	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	随筆		
25912	鼠	美川きよ	36	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	随筆		
25913	三人が拾つたもの	森下雨村	135	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	随筆		
25914	相模屋政五郎	村松梢風	169	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	政治		
25915	スポーツ			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	スポーツ		
25916	秋のリーグ戦を想ふ	太田四州	196	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	スポーツ		
25917	オリンピック土産話	三浦義雄	202	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	スポーツ		
25918	入選実話「金儲け百態」			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話	懸賞	
25919	混血娘マロリヤ	大塔寺龍	103	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25920	三勇士断片	洋伊椀	105	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25921	兜町の英雄	丘民	108	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25922	キツス商売？	浜口としを	111	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25923	妹の結婚のため	よしかげ生	114	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25924	うごくお宝	毛利和夫	116	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25925	「壜古水」販売記	千代勤	119	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25926	偽紙幣を掴む	松居康義	123	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25927	将を射んとして	西岡仙太郎	126	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25928	金可貯、不可借	吉高栄太	128	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25929	逃亡女の哭楽	妹尾時七	131	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25930	小説戯曲名作漫画集			22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話	見出し	
25931	坊ちやん	千帆		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25932	富岡先生	寒三		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25933	たけくらべ	亮英		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25934	出家とその弟子	永一治		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25935	今戸心中	比左良		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25936	多情仏心	青起		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25937	田園の憂鬱	亮英		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25938	絹一葉	寒三		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25939	お艶殺し	青起		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25940	不如帰	比左良		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25941	煤煙	久仁於		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25942	海燕	左行		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25943	金色夜叉	青起		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25944	魔風恋風	寒三		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25945	蒲団	豊		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25946	元の枝へ	千帆		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25947	人を殺したか	左行		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25948	嬰児殺し	豊		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25949	新生	寒三		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25950	暗夜行路	左行		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25951	湯島詣	豊		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	実話		
25952	高速度講談五席	浪上義三郎	180	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	大衆小説		
25953	魂の入替(落語)	三遊亭円生	191	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	芸能		
25954	別後	西條八十		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	随筆		
25955	紫苑	星野立子		22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	随筆		
25956	編集後記		224	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	その他	編集後記	
25957	週刊朝日十周年記念特別大懸賞「カメラ・パズル」当選者発表		98	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	懸賞		
25958	本誌創刊十周年記念　新大衆文芸「事実小説」募集		61	22-15,	1932(昭和7)年10月1日秋季特別号	その他	懸賞	告知
25959	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十月二日号(第二十二巻十六号)目次**			22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	題号	その他	
25960	表紙　灯下(岡田静江)			22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア	表紙	
25961	裏面　秋のごちやごちや(漫画)	岡本一平		22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア		
25962	特集グラフィック			22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア		
25963	写真懸賞「テレヴイジヨン時代」新題▽今秋の帝展▽大東京アウトライン			22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア	懸賞	
25964	▽内外特集映画三篇「石像の女王」「吸血鬼」「明暗三世相」			22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	映画		
25965	秋の画譜「水友」	森田恒友	3	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	芸術		
25966	神風連(小説ーー)	長田幹彦	4	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	大衆小説		
25967	八月三十一日	下村海南	8	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25968	週間風景		8	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
25969	十月の生物暦	東光治	9	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25970	画壇漫語		9	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	芸術		
25971	秋のリーグ戦			22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	スポーツ		
25972	早立戦	世田谷男	10	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	スポーツ		
25973	法帝、慶帝戦予想	高山帰一	11	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	スポーツ		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25974	競馬戦術(根岸)	荒木千一	12	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	娯楽		
25975	囲碁・截違ひの研究	久保松勝喜代	12	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	娯楽		
25976	航空灯台の話	T・S生	13	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	科学		
25977	金儲け百態			22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	実話		
25978	赤い鉄板など	田中生	14	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25979	酒精と「ロスケ」	西川青波	14	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25980	実話「つもりつもつた話」当選発表		15	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	懸賞		
25981	大東京の横顔	松川二郎	16	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25982	新東京の明治時代	江口福来	17	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25983	懸賞「テレヴイジヨン時代」当選発表		27	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	懸賞		
25984	ステエヂ・フイスパ		27	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	娯楽		
25985	シークエンス			22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
25986	逆ひ得ない世の中の変遷	麻生久	28	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25987	会場漫談	川端龍子	28	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25988	新しい日本音楽の立場から	宮城道雄	28	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25989	設眼鏡	白柳秀湖	29	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25990	ルパンの死	喜多村緑郎	30	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25991	三人の子供(童話)	山本華子	31	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	文芸		
25992	エロ・ダイナゴン	荒谷猛夫	32	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25993	男女を呑む湖		33	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25994	殺人鬼喜次郎	鈴木常吉	34	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
25995	双子島遊記		36	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25996	週刊誌上病院		38	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	家庭		
25997	五珠二題打連珠	森咄牛	38	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	娯楽		
25998	太閤記(輪講－五)	伊東潮花	40	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	大衆小説		
25999	葡萄汁の拵へ方	押川美香子	42	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
26000	週間ニユース		42	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
26001	二抜実戦	久保松機山	42	22-16,	1932(昭和7)年10月2日号	娯楽		
26002	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十月九日号(第二十二巻十七号)目次**			22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	題号	その他	
26003	表紙　馬肥ゆる秋(日活・黒木しのぶ)			22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア	表紙	
26004	裏面　秋のトリオ			22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア		
26005	シークエンス			22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	社会		
26006	秋	古賀春江	3	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア		
26007	忘れた思出	藤原義江	3	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26008	学校と学問	佐々弘雄	4	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26009	秋が来た	相馬御風	4	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア		
26010	米国大統領選挙	縄谷一男	5	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	社会		
26011	神風連(小説－二)	長田幹彦	6	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
26012	画壇漫語		9	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	芸術		
26013	重大事の外交界展望	古垣鉄郎	10	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	政治		
26014	週間風景		11	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	社会		
26015	十月の園芸	永田治郎一	12	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	家庭		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26016	秋のリーグ戦			22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	スポーツ		
26017	慶明戦	高山帰一	13	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	スポーツ		
26018	法帝戦	世田谷男	13	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	スポーツ		
26019	メガホン		13	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	スポーツ		
26020	早法、明立戦予想	高山帰一	14	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	スポーツ		
26021	金儲け百態			22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	実話		
26022	金は仇だ	八十川秋	16	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26023	ペルーの成功者	ペドロ	16	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26024	黒づくめの若奥様	岩田専太郎	17	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26025	週刊グラフィック			22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア		
26026	娘八景(レヴュー)		19	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	娯楽		
26027	映画の頁			22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	映画		
26028	今晩愛して頂戴ナ		20	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26029	鼠小僧次郎吉		22	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26030	浪人しぐれ笠		22	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26031	懸賞「テレヴイジヨン時代」新題		18	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	懸賞		
26032	ステエヂ・フイスパ		18	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	娯楽		
26033	花の東京(映画)	巽洽太	18	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	映画		
26034	柊林通信	武林文子	23	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26035	映画スター日記	仲小路文雄	24	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	映画		
26036	朝鮮の楽舞		26	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	社会		
26037	読者文芸「俳句」入選発表		27	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	懸賞		
26038	独立展を観る	三輪鄰	28	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	芸術		
26039	川柳発表	阪井久良蔵	28	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	文芸		
26040	競馬戦術	荒木千一	29	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	娯楽		
26041	鮎の友掛け	藤田栄吉	30	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	家庭		
26042	初猟日の作戦	岡倉一雄	31	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	娯楽		
26043	妖妃ヴイヴイアン	鶴岡緑	32	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
26044	今秋流行のネクタイ		33	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	流行		
26045	薄命混血児の亡霊	信田紅咲	34	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	社会		
26046	太閤記(輪講一六)	西尾麟慶	36	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
26047	家庭漫画	小寺鳩甫	36	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	漫画		
26048	週間ニユース		38	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	社会		
26049	囲碁・截違ひの研究	久保松勝喜代	38	22-17,	1932(昭和7)年10月9日号	娯楽		
26050	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十月十六日号(第二十二巻十八号)目次**			22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	題号	その他	
26051	表紙　「ゴルフ」(山路ふみ子)			22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	グラビア	表紙	
26052	裏面　六大学リーグ戦色模様(漫画)	堤寒三		22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	グラビア		
26053	シークエンス			22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	社会		
26054	團十郎と影法師	鏑木清方	3	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26055	青いダイヤ	丸木砂土	3	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26056	旅行碁将棋	馬場恒吾	4	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	娯楽		
26057	百日紅	矢田津世子	4	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26058	狂人	石浜知行	5	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26059	女丈夫と苦行僧	伊原宇三郎	5	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26060	六大学秋のリーグ戦			22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	スポーツ		
26061	慶帝戦	高山帰一	6	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	スポーツ		
26062	早法戦	世田谷男	7	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	スポーツ		
26063	帝立・慶法戦予想	高山帰一	8	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	スポーツ		
26064	メガホン		8	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	スポーツ		
26065	競馬戦術	荒木千一	9	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	娯楽		
26066	政界展望	大原臺太郎	10	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	政治		
26067	秋の伊豆路	栗林春陵	12	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26068	金儲け百態			22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	実話		
26069	カフエ閉店	えいち・あい	14	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26070	香具師戦法	前田一二三	14	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	娯楽		
26071	実話原稿募集		15	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	懸賞		
26072	碧眼鏡(英文)	尚紅蓮	16	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	小説		
26073	亢まる秋の節美			22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	家庭		
26074	秋風舞踊陣	牛山充	16	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	芸能		
26075	活気の楽壇		16	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	娯楽		
26076	東京の昔話	志賀谷造	18	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26077	女性の切札(映画)		27	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	映画		
26078	懸賞「テレヴジヨン時代」新題		27	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	懸賞		
26079	神風連(小説－三)	長田幹彦	28	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	大衆小説		
26080	画壇漫語		31	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	芸術		
26081	暗殺された張宗昌の豪遊振	原田静人	32	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	社会		
26082	映画スター見習日記	武林文子	34	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	映画		
26083	万葉植物園	宝生玲子	36	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26084	フアブルはどこにもゐる	森田たま	38	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
26085	読者文芸「情歌」入選発表		39	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	懸賞		
26086	文壇噂話		39	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	娯楽		
26087	太閤記(輪講－七)	神田伯山	40	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	大衆小説		
26088	家庭漫画	小寺鳩甫	41	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	漫画		
26089	週間ニユース		42	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	社会		
26090	今秋のシヨール		42	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	家庭		
26091	勝継連珠	森咄牛	42	22-18,	1932(昭和7)年10月16日号	娯楽		
26092	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十月二十三日号(第二十二巻十九号)目次**			22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	題号	その他	
26093	表紙　秋のをどり(松竹楽劇部)			22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	グラビア	表紙	
26094	裏面　海外近時画報			22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	グラビア		
26095	赤色ギヤングの正体	正親町雋五郎	3	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26096	神風連(小説－四)	長田幹彦	6	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	大衆小説		
26097	文壇噂話		9	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	娯楽		
26098	東京大学野球秋のリーグ戦			22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	スポーツ		
26099	明立決戦記	高山帰一	10	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	スポーツ		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26100	法明戦予想		11	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	スポーツ		
26101	スポーツ用語		11	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	スポーツ		
26102	五大学ラグビー前記	芝上走児	12	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	スポーツ		
26103	星を見つけた男	田口運蔵	13	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26104	物価は何処まで騰る	真枝與三一	14	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	経済		
26105	週間風景		15	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	社会		
26106	碧眼鏡(英文)	尚紅蓮	16	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	小説		
26107	金儲け百態			22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	実話		
26108	とりもつて	後藤正一	16	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26109	三晩歌つて	中島二三	17	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	文芸		
26110	湯の中の人魚	春陵生	18	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
26111	十二国立公園		18	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26112	週刊グラフィック			22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	グラビア		
26113	国立公園の景観		19	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26114	国立公園を描く		20	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26115	御冗談でしヨ(映画)		22	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	映画		
26116	霧の夜の客間(映画)		23	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	映画		
26117	懸賞「テレヴイジヨン時代」		23	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	懸賞		
26118	映画スター見習日記	武林文子	24	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	映画		
26119	シークエンス			22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	社会		
26120	市内の雑草	木村荘八	26	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26121	トーキー製作	仲木貞一	26	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26122	病人哲学	大森義太郎	27	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
26123	詩の前夜	大和生夫	27	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	文芸		
26124	秋の画廊	三輪鄰	28	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	芸術		
26125	競馬戦術(目黒)	荒木千一	30	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	娯楽		
26126	読者文芸「川柳」入選発表		30	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	懸賞		
26127	水車の助太刀(童話)	新井紀一	31	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	文芸		
26128	稀代の婦女誘拐魔	大田寿造	32	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
26129	釣の科学	田中茂穂	34	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	科学		
26130	太閤記(輪講一八)	一龍斉貞山	36	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	大衆小説		
26131	家庭漫画	小寺鳩甫	37	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	漫画		
26132	週間ニユース		38	22-19,	1932(昭和7)年10月23日号	社会		
26133	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十月三十日号(第二十二巻二十号)目次**			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	題号	その他	
26134	表紙　ハイ・ヒール			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	グラビア	表紙	
26135	裏面　秋晴れの空の下			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	グラビア		
26136	怪奇バラバラ事件	飛鳥井縞吉	3	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
26137	週間風景		5	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
26138	初秋の黒部渓谷	河東碧梧桐	6	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26139	画壇漫語		7	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	芸術		
26140	東京大学野球			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	スポーツ		
26141	慶法・帝立戦	世田谷男	8	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	スポーツ		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26142	法明決戦記	高山帰一	9	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	スポーツ		
26143	慶明・早帝・立法戦予想		10	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	スポーツ		
26144	東京五大学ラグビー	横尾俊彦	10	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	スポーツ		
26145	六大学拳闘リーグ	安達太郎	11	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	スポーツ		
26146	よりよき結婚へ	山田わか	12	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
26147	佐渡の金山	二木狭児	13	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26148	シークエンス			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
26149	書痙	正木不如丘	14	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26150	古い世の觸手	山村耕花	14	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26151	ピストルと珈琲	平田禿木	15	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26152	マーシヤルさん	栗島すみ子	15	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26153	接吻の殺人(小説)	倉島竹二郎	16	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	小説		
26154	もみぢ・名所旧蹟	松川二郎	18	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26155	週刊グラフィック		19	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	グラビア		
26156	内外映画の頁			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	映画		
26157	令女学			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26158	忠臣蔵			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	小説		
26159	秋のをどり(レヴュウ)			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	娯楽		
26160	三万両五十三次(映画)		23	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	映画		
26161	劇界噂話		23	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	芸能		
26162	神風連(小説－五)	長田幹彦	24	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	大衆小説		
26163	釣の科学	田中茂穂	28	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	科学		
26164	碧眼鏡(英文)	尚紅蓮	30	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	小説		
26165	金儲け百態			22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	実話		
26166	回春不老	筑紫泉太郎	30	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26167	色黒を幸ひ	増田妙子	30	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26168	十円が三千円	山川三郎	31	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26169	山田式木剣健康法	山田雲峰	32	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
26170	競馬戦術(鳴尾)	荒木千一	33	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	娯楽		
26171	義母を殺した博士	伊東悦太郎	34	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
26172	文壇ゴシツプ		35	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	文芸		
26173	太閤記(輪講－九)	旭堂南陵	36	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	大衆小説		
26174	家庭漫画	小寺鳩甫	37	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	漫画		
26175	囲碁・截違ひの研究	久保松勝喜代	38	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	娯楽		
26176	勝継連珠	森咄牛	38	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	娯楽		
26177	週間ニユース		38	22-20,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
26178	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十一月一日号(第二十二巻二十一号)目次**			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	題号	その他	
26179	表紙　「秋草に臥て」(高津慶子)			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	グラビア	表紙	
26180	裏面　新人漫画集			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	グラビア		
26181	特集グラフィック			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	グラビア		
26182	ケンショウ「テレヴイジヨン時代」新題▽動物の芸人▽街の非常時			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	芸能		
26183	▽映画とレヴュー「ロイドの活動狂」「霜月の宝塚」			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	映画		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26184	或る不思議なカード	クレベランド・モツフエー	3	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	社会		
26185	文壇噂話		4	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	娯楽		
26186	連盟会議展望	園田次郎	6	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	政治		
26187	東京大学野球連盟戦			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26188	帝立早帝戦	世田谷男	8	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26189	慶明戦	高山帰一	8	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26190	早慶、慶法、明帝戦予想		9	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26191	東京五大学ラグビー			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26192	慶立戦	芝上走児	10	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26193	早帝戦予想		11	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26194	メガホン		11	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26195	米利堅土産	尚紅蓮	12	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	娯楽		
26196	碧眼鏡(英文)	尚紅蓮	14	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	小説		
26197	金儲け百態			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	実話		
26198	人の褌で	K・K生	14	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	随筆		
26199	通信芸術	早田芳三	15	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	芸術		
26200	シークエンス			22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	社会		
26201	外交官と喫煙	堀口九万一	16	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	政治		
26202	野球第一感	田中比左良	16	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	スポーツ		
26203	四十歳と音楽	伊庭孝	17	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	随筆		
26204	懸賞「テレヴイジヨン時代」当選発表		18	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	懸賞		
26205	研辰の討たれ(映画)		18	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	映画		
26206	團十郎追遠興行	勝利蔵	27	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	随筆		
26207	神風連(小説－六)	長田幹彦	28	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	大衆小説		
26208	読者文芸原稿募集		31	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	芸能		
26209	これからの健康	島岡順次郎	32	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	随筆		
26210	石になつた小鳥(童話)	中村白葉	33	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	文芸		
26211	帝都の治安異状	飛鳥井縞吉	34	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	随筆		
26212	週間風景		34	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	社会		
26213	深夜を走る怪自動車	畑中蝶二	36	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	随筆		
26214	ふぐの天国	関門之助	38	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	随筆		
26215	太閤記(輪講－十)	大島伯鶴	40	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	大衆小説		
26216	週間ニユース		42	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	社会		
26217	鞍音遺作展		42	22-21,	1932(昭和7)年11月1日号	芸術		
26218	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十一月六日号(第二十二巻二十二号)目次**			22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	題号	その他	
26219	表紙　進軍ラツパ			22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア	表紙	
26220	裏面　陸軍特別大演習			22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア	軍事	
26221	陸軍大演習始まる		3	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	軍事		
26222	読書の仕方	春山作樹	5	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26223	非常時予算	真枝與三一	6	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	経済	戦争	
26224	週間風景		6	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	社会		
26225	のどかなシベリアの旅		7	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26226	週間ニユース		7	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	社会		
26227	神風連(小説－七)	長田幹彦	8	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	大衆小説		
26228	東京大学野球			22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26229	法立戦	高山帰一	12	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26230	早明戦	世田谷男	12	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26231	慶立戦予想		13	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26232	東京五大学ラグビー			22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26233	早帝戦	芝上走児	13	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26234	早立、慶明戦予想	宇野庄治	14	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26235	メガホン		14	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26236	競馬戦術	荒木千一	15	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	娯楽		
26237	碧眼鏡(英文)	尚紅蓮	16	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	小説		
26238	金儲け百態			22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	実話		
26239	紅葉の番人	山本清	16	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26240	一と筆千金	とう・せんきょ	17	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26241	お嬢さんはナンセンス	水町漱	17	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	娯楽		
26242	落魚釣	上田尚	18	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	娯楽		
26243	大山崎の歌	下村海南	18	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	文芸		
26244	週刊グラフィック			22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア		
26245	菊の餐宴		19	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26246	午前三時半(映画)		22	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	映画		
26247	東京劇場十一月興行		23	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	芸能		
26248	懸賞「テレヴイジヨン時代」		23	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	懸賞		
26249	シークエンス			22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	社会		
26250	少尉と蜘蛛の巣	桜井忠温	24	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26251	流行歌と私	佐藤美子	24	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	流行		
26252	秋窓漫筆	奥藤英三	25	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア		
26253	間違ひ三つ	石井漠	25	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26254	自然と人間の力	里見勝蔵	26	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26255	満州の黎明	酒井栄蔵	27	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	満州		
26256	米利堅土産	尚紅蓮	28	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	娯楽		
26257	暗黒を行く人	生江沢速雄	30	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26258	道成寺の巌		31	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26259	新横綱「玉錦」	江口福来	32	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
26260	新米運転手	森三千太郎	33	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
26261	石になつた小鳥(童話)	中村白葉	34	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	文芸		
26262	週刊誌上病院		35	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	家庭		
26263	太閤記(輪講－十一)	神田松鯉	36	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	大衆小説		
26264	速記術の発明		38	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	科学		
26265	二抜実戦	久保松機山	38	22-22,	1932(昭和7)年11月6日号	娯楽		
26266	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十一月十三日号(第二十二巻二十三号)目次**			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	題号	その他	
26267	表紙 「流行雑誌」(伊達里子)			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア	表紙	

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26268	裏面　この不景気に慈善をする男(漫画)	麻生豊		22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア		
26269	特集グラフィック			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア		
26270	陸軍特別大演習画報▽カメラ・モデルノロジイ▽特集映画二篇「進め女性群」			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	映画		軍事
26271	「X軍曹」▽歌舞伎座十一月顔見世芝居			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	芸能		
26272	光栄の本誌グラフィック		3	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア		
26273	空の灯台		3	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
26274	シークエンス			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	社会		
26275	三日の旅	石井柏亭	4	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
26276	ある野蛮な風景	尾瀬敬止	4	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア		
26277	私の日記	柳原燁子	5	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
26278	米国大統領選挙	棟尾松治	6	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	社会		
26279	東京大学野球連盟戦			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
26280	明帝慶立戦	高山帰一	8	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
26281	早慶戦予想	諸家	9	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
26282	東京語大学ラグビー			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
26283	早立慶明戦	芝上走児	11	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
26284	立帝、早慶戦予想		11	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
26285	泰安鎮の匪賊討伐	石谷松枝	12	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
26286	占ひの色々	水上名	13	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
26287	暗黒を行く人	生江沢速雄	14	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
26288	翠眼鏡(英文)	尚紅蓮	16	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	小説		
26289	金儲け百態			22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	実話		
26290	懺悔帖	陽明流太郎	16	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
26291	私の立志伝	小田草一	16	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
26292	初冬の園芸	永田治郎一	18	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	家庭		
26293	シゲツテイ来る	牛山充	27	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	芸能		
26294	懸賞「テレヴイジヨン時代」		27	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	懸賞		
26295	神風連(小説－八)	長田幹彦	28	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	大衆小説		
26296	読者文芸原稿募集		31	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	芸能		
26297	住宅建築の話	佐藤功一	32	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	家庭		
26298	石になつた小鳥(童話)	中村白葉	33	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	文芸		
26299	米利堅土産	尚紅蓮	34	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	娯楽		
26300	明年度予算	真枝與三一	36	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	経済		
26301	週間風景		36	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	社会		
26302	競馬戦術	荒木千一	37	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	娯楽		
26303	週刊誌上病院		38	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	家庭		
26304	古今妖婦十人伝(講談－一)	西尾麟慶	40	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	大衆小説		
26305	週間ニユース		42	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	社会		
26306	二抜実戦	久保松機山	42	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	娯楽		
26307	新詰将棋	坂田名人	42	22-23,	1932(昭和7)年11月13日号	娯楽		
26308	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十一月二十日号(第二十二巻二十四号)目次**			22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	題号	その他	
26309	表紙　鏡の前に			22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	グラビア	表紙	

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26310	裏面　雨中の御閲兵			22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	グラビア		
26311	シークエンス			22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	社会		
26312	ステツキ	吉村冬彦	3	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26313	阿寒への道	勝田哲	3	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26314	野球のこと	腰本寿	4	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26315	米国大統領物語	鈴木乾三	5	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	社会		
26316	週刊朝日新年特別号内容		6	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	その他	告知	
26317	処女と童貞	壬生進	6	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26318	東京大学野球リーグ戦			22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26319	法立慶法戦	高山帰一	8	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26320	早慶戦評	河野安通志	8	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26321	リーグ戦回顧	久保田高行	11	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26322	東京語大学ラグビー			22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26323	帝立戦記	芝上走児	10	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26324	明立戦予想		10	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26325	東都蹴球リーグ	安達太郎	11	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
26326	ニューギニア	細谷十次郎	12	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26327	踊り子恋愛記	岡倉祐	14	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	芸能		
26328	エロ潜航艇	平尾則人	15	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26329	翠眼鏡(英文)	尚紅蓮	16	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	小説		
26330	金儲け百態			22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	実話		
26331	深夜の睡言	秋葉生	16	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26332	兄さんの内職	上原てふ	16	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	職業		
26333	これからの社交	犬丸徹三	18	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26334	週間風景		18	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	社会		
26335	週刊グラフィック			22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	グラビア		
26336	北風が吹きだした		19	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26337	並んだ並んだ		20	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
26338	モダンマダム行状記(映画)		22	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	映画		
26339	新婚(小説)	窪川いね子	23	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	小説		
26340	神風連(小説－九)	長田幹彦	24	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	大衆小説		
26341	成層圏空の旅	寮佐吉	28	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	社会		
26342	映画子役物語	巽洽太	32	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	映画		
26343	峠の茶屋(童話)	上月とき子	34	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	文芸		
26344	週刊誌上病院		35	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	家庭		
26345	家庭漫画	小寺鳩甫	35	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	漫画		
26346	古今妖婦十人伝(講談－二)	神田伯龍	36	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	大衆小説		
26347	週間ニュース		38	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	社会		
26348	二抜実戦		38	22-24,	1932(昭和7)年11月20日号	娯楽		
26349	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十一月二十七日号(第二十二巻二十五号)目次**			22-25,	1932(昭和7)年11月27日号	題号	その他	
26350	欠号			22-25,	1932(昭和7)年11月27日号	随筆		
26351	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十二月四日号(第二十二巻二十六号)目次**			22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	題号	その他	

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26352	表紙 「冬の装ひ」(入江たか子)			22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	グラビア	表紙	
26353	裏面　冬のヴアライテイ(漫画)			22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	グラビア		
26354	漫画ばーげんせーる			22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	漫画		
26355	因習を打破する女性	中村正常	3	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26356	家具屋姫	辰野九紫	3	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26357	呉服特売場	古川緑波	4	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
26358	おもちやのマキ	サトウ・ハチロー	4	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	漫画		
26359	食堂	徳川夢声	5	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
26360	十銭ストア	大辻司郎	6	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26361	これからの子女の教育	倉橋惣三	7	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	教育		
26362	神風連(小説－十一)	長田幹彦	8	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	大衆小説		
26363	世界の焦点	小野澄夫	12	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	社会		
26364	連盟事務局の怪	壁谷祐之	13	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	政治		
26365	秋のリーグ戦回顧	久保田高行	14	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	スポーツ		
26366	東京語大学ラグビー	芝上走児	15	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	スポーツ		
26367	関西カレツヂ蹴球リーグ	六甲伸郎	16	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	スポーツ		
26368	手品師の行方	山本華子	17	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26369	翠眼鏡(英文)	尚紅蓮	18	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	小説		
26370	週刊グラフィック		19	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	グラビア		
26371	懸賞「テレヴイジヨン時代」入選発表		27	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	懸賞		
26372	シークエンス			22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	社会		
26373	雨のしづく	笹川臨風	28	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26374	私も講演をした	正宗白鳥	28	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26375	旅	河合武雄	29	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26376	「苦しみ」	山本安英	29	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26377	アメリカ・ニユース　遺産一億ドルの行方	亀谷一男	30	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	社会		
26378	悪の華(本当にあつた事)			22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	実話		
26379	現代女性の青春謳歌	松浦直	32	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	文芸		
26380	週刊朝日新年特別号内容		34	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	その他	告知	
26381	競馬戦術		34	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
26382	編集後記		35	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	その他	編集後記	
26383	官庁の主は語る(大蔵省)	高橋俊	36	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
26384	潜伏結核の話		38	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
26385	恐ろしい小児結核・内服ワクチンの話		38	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
26386	養鶏界の福音		38	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
26387	能力の増産は睡眠から		38	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	芸能		
26388	週刊誌上病院		39	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
26389	古今妖婦十人伝(講談－四)	錦城斉典山	40	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	大衆小説		
26390	読者文芸「俳句」入選発表		42	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	懸賞		
26391	週間ニユース		42	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	社会		
26392	ターちやん(家庭漫画)	小寺鳩甫	42	22-26,	1932(昭和7)年12月4日号	漫画		
26393	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十二月十一日号(第二十二巻二十七号)目次**			22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	題号	その他	

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26394	表紙　青い眼の人形			22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア	表紙	
26395	裏面　国際連盟総会の各国代表			22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア	国際連盟	
26396	シークエンス			22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
26397	女ごゝろ	大森洪太	3	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
26398	梅若氏の鉢木	石川欽一郎	3	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	社会	人物	
26399	スポーツの放送権	河西三省	4	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
26400	講談の廃滅	伊藤痴遊	4	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
26401	移民見学	水守亀之助	5	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
26402	東京語大学ラグビー			22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
26403	慶帝戦	芝上走児	6	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
26404	早明戦	宇野庄治	6	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
26405	メガホン		6	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
26406	帝明戦予想		7	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
26407	翠眼鏡(英文)	尚紅蓮	7	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	小説		
26408	関東スキー案内	岡本隆	8	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
26409	関西スキー案内	川方哲二	9	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
26410	結婚解消事件の真相	椎野大作	10	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
26411	村の殺人(小説)	伊藤松雄	12	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	小説		
26412	週刊グラフィック			22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア		
26413	仏国尖端画景		19	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	芸術		
26414	映画の頁			22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	映画		
26415	人世謳歌		20	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	文芸		
26416	受難華		21	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
26417	服飾展覧会		22	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	家庭		
26418	愛犬レオ(童話)	遠藤龍一	14	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	文芸		
26419	結婚遭難記		15	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
26420	空巣専門の賢大学生	中村嘉惣	16	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	教育		
26421	れこうど・なんせんす	王桂馬	17	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	娯楽		
26422	新興フランス絵画	荒城孝夫	18	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア		
26423	懸賞「テレヴイジヨン時代」新題		23	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	懸賞		
26424	服飾品の展観		23	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	家庭		
26425	母(映画)		23	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	映画		
26426	神風連(小説－十二)	長田幹彦	24	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	大衆小説		
26427	官庁の主は語る(文部省)	中村金蔵	28	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	文芸		
26428	ある学生の自殺	高橋正男	30	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	教育		
26429	文壇噂話		31	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	娯楽		
26430	囲碁の頁	野田豊	32	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	娯楽		
26431	週間風景		33	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
26432	盲腸炎と手術	三羽兼蔵	34	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
26433	家庭漫画	小寺鳩甫	34	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	漫画		
26434	古今妖婦十人伝(講談－五)	一龍斉貞山	36	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	大衆小説		
26435	読者文芸「川柳」入選発表		37	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	懸賞		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26436	週間ニュース		38	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
26437	囲碁・截違ひの研究	久保松勝喜代	38	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	娯楽		
26438	二抜実戦	久保松機山	38	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	娯楽		
26439	勝継連珠	森咄牛	38	22-27,	1932(昭和7)年12月11日号	娯楽		
26440	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十二月十八日号(第二十二巻二十八号)目次**			22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	題号	その他	
26441	表紙　「歌劇の花」(草笛美子)			22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア	表紙	
26442	裏面　師走のウツフフ(漫画)	細木原青起		22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア		
26443	特集グラフィック			22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア		
26444	雪の飛脚▽吉野・熊野国立公園行脚▽都鄙・繁閑二重奏			22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア		
26445	▽レヴュー「巴里・ニューヨーク」▽映画「シマロン」			22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	映画		
26446	巴里・ニューヨーク(レヴュー)	白井鉄造	3	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
26447	「これから」の旅行	高久甚之助	7	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
26448	国際連盟会議	野方哲堂	8	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	政治	国際連盟	
26449	蘇炳文の没落	佐藤十良一	9	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	文芸		
26450	サンチ諸塔の彫刻	干潟龍祥	11	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
26451	碧眼鏡(英文)	尚紅蓮	11	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	小説		
26452	神風連(小説－十三)	長田幹彦	12	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	大衆小説		
26453	新連載小説予告		15	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	その他	見出し	
26454	東京語大学ラグビー			22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	スポーツ		
26455	帝明戦記	芝上走児	16	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	スポーツ		
26456	今秋の回顧		16	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
26457	石台の話	永田治郎一	17	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	家庭		
26458	球根の水栽培		18	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	家庭		
26459	劇界うわさ話		27	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	芸能		
26460	懸賞「テレヴイジヨン時代」		27	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	懸賞		
26461	国際結婚悲劇	飛鳥井縞吉	28	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
26462	シークエンス			22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
26463	落語の楽屋	柳家金語楼	30	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	芸能		
26464	北国の冬は息吹く	足立源一郎	30	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
26465	江戸の会席茶屋	宮川曼魚	31	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
26466	官庁の主は語る(内務省)	寺田保次郎	32	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
26467	転落するお姫様	宇佐美稔	34	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
26468	三二年銀幕戦線報告書	杉山静夫	36	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	映画		
26469	ロング君とシヨート氏の話	稲垣足穂	38	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	人物		
26470	読者文芸「短歌」入選発表		39	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	懸賞		
26471	家庭漫画	小寺鳩甫	39	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	漫画		
26472	藁人形(講談)	三遊亭円生	40	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	大衆小説		
26473	週間ニュース		42	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
26474	レコードなんせんす		42	22-28,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽		
26475	**★『週刊朝日』一九三二(昭和七)年十二月二十五日号(第二十二巻二十九号)目次**			22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	題号	その他	
26476	表紙　クリスマス・イーヴ			22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア	表紙	
26477	裏面　歳の瀬音			22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア		

資料II-1　週刊朝日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
26478	日没前	ゲルハルト・ハウプトマン	3	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26479	文壇噂話		6	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
26480	腕と胆の政治家・森恪氏を語る	陸三十八	7	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	政治		
26481	ハイラル邦人涙の遭難実話	江崎寿夫	8	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	実話		
26482	「デパート火事」慄然たるその災禍	山田正男	9	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26483	シークエンス			22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		
26484	十字架を蒐める	福沢一郎	10	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26485	東京宝塚劇場の地鎮祭から	小林一三	10	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	芸能		
26486	音楽と血と土	水崎澈	11	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
26487	折々ぐさ	大和生夫	11	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26488	本当にあつた事(悪の華)			22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	実話		
26489	死に憧れた歌姫	千代木三郎	12	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	文芸		
26490	朗らかな心中	春陵生	13	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26491	ラグビー関東諸家の西下	神山円一	14	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	スポーツ		
26492	高松城の水攻	下村海南	15	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26493	ノエルの夜	森三千代	16	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26494	クリスマス･ツリーの飾りつけ方	橋本正智	16	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26495	今冬の流行		18	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	流行		
26496	週刊グラフィック		19	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア		
26497	脚光点光		23	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	家庭		
26498	海外犯罪ニュース			22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		
26499	アンゴラ銀行四百万円事件	伊藤鋭太郎	24	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		
26500	官庁の主は語る(通信省)		26	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		
26501	芬蘭の国粋女軍		27	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	戦争		
26502	暦の科学から観た「年の瀬」と「新年」	小川清彦	28	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	科学		
26503	れこうどなんせんす		29	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
26504	ナンセンス　朝鮮の結婚	金振丸	30	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		
26505	長崎で発見された将棋宗銀の墓	増田兼吉	31	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
26506	週刊誌上病院		32	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	家庭		
26507	白いジヤケツツ	森田たま	33	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
26508	ターちやん(家庭漫画)	小寺鳩甫	33	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	漫画		
26509	青山熊治氏を偲ぶ	清原克章	34	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	社会	人物	
26510	読者文芸「情歌」入選発表		35	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	懸賞		
26511	古今妖婦十人伝(講談－六)	神田伯龍	36	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	大衆小説		
26512	気のきいたクリスマスプレゼント		38	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	家庭		
26513	週間ニユース		38	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		
26514	囲碁・截違ひの研究	久保松勝喜代	38	22-29,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
24970	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十月二日号(第十一巻四十六号)**			11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	その他	題号	
24971	表紙　峰吟子(日活)			11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア		
24972	サンデー・グラフ			11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア		
24973	新東京のプロフイル		3	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア		
24974	大懸賞「写真パズル」		39	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア	懸賞	
24975	ターザン(M・G・M映画)		40	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア	映画	
24976	花の東京(日活映画)		42	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア	映画	
24977	恋の東京(松竹蒲田映画)		42	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	グラビア	映画	
24978	大東京号			11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
24979	大東京を語る	永田東京市長	7	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
24980	大東京の出現	楠田是也	8	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
24981	新市区あらまし		9	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
24982	大東京の顔	六十一氏	10	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
24983	大東京記念読者大懸賞		11	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会	懸賞	
24984	大東京市区漫画巡り	和田邦坊	12	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	漫画		
24985	オバケ(小説)	北村小松(画)林唯一	14	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
24986	サンデー毎日表紙絵募集規程		17	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	その他	懸賞	告知
24987	歴史の撹乱者MU	三好武二	18	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
24988	美術界覚ゑ書		20	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	芸術		
24989	お料理のコツ	桐山いせ	22	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	家庭		
24990	秋髪の手入	早見君子	22	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	美容		
24991	献上せぬ赤い国の品々		23	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
24992	サンデー相談		23	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	家庭		
24993	秋の髪	芝山みよか　吉行あぐり	24	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	美容		
24994	任侠やくざ伝(誌上映画)		26	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	映画		
24995	ハリウツド・ゴシツプ		26	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	映画		
24996	映画噂話		27	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	映画		
24997	ガード下の朝(誌上舞台)	中山楠雄	28	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	芸能		
24998	芝居無駄話		28	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	娯楽	芸能	
24999	この眼で見た怪奇(入選実話)			11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	実話	懸賞	
25000	恐怖の炭火	土居静夫	29	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	実話	懸賞	
25001	こはれた瓶	日下野夥風	29	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	実話	懸賞	
25002	東京大学連盟戦	橋戸頑鉄	30	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	スポーツ		
25003	連盟戦雑感	XYZ	31	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	スポーツ		
25004	ヤンキースかカブスか	森岡雅善	31	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	随筆		
25005	紙幣束の中で死んだ(実話)	弘前八重子	32	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	実話		
25006	財界兎耳		32	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	経済		
25007	色欲二筋道(実話)	重本亮三	33	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	実話		
25008	政界噂話		33	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	政治		
25009	詰将棋	土居八段	34	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	娯楽		
25010	週間時事		34	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	社会		
25011	風雲(入選作・大衆小説ー九)	海音寺潮五郎(画)小田富	35	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	大衆小説	懸賞	
25012	文壇楽屋咄		37	11-46,	1932(昭和7)年10月2日号	文芸		
25013	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十月九日号(第十一巻四十七号)**			11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	その他	題号	
25014	表紙　水ノ江瀧子(東京松竹楽劇部)			11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア		
25015	サンデー・グラフ			11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア		
25016	建築美を誇る大阪歌舞伎座		3	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア		
25017	熱砂の女王(ネロ映画)		4	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア	映画	

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25018	悪魔と深海(パラマウント映画)		45	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア	映画	
25019	娘八景(宝塚少女歌劇十月公演)		46	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	グラビア		
25020	秋(入選作・大衆小説)	沢亨二(画)中野修二	5	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説	懸賞	
25021	文壇楽屋咄		11	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	文芸		
25022	漫画募集規程		11	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	その他	懸賞	告知
25023	満州国新風景	松尾邦蔵	12	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		満州
25024	政界噂話		13	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	政治		
25025	今秋の服飾界		14	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	家庭		
25026	サンデー相談		14	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	家庭		
25027	秋の衛生メモ		15	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	家庭		
25028	家庭ニュース		15	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	家庭		
25029	成層圏・超高空飛行(科学は語る)	郡龍彦	16	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	科学		
25030	最強原子力発見さる	寮佐吉	18	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
25031	直木三十五編集・カラー・セクシヨン			11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25032	書物に見ゑた日米の作戦に就て	直木三十五	21	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25033	明治大正昭和政党疑獄史		22	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25034	金をもつよりも物	宮島清次郎	23	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25035	デパート、公設市場、小売商物価比較		23	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25036	限りなき科学の発達は人類生活をどう変へてゆくか		24	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25037	どらい・こんすとらくしよん		25	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25038	明日の建築		25	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25039	亡んだ商売、興つた商売		26	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25040	安くてモダンな雑貨案内		27	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25041	中風にきく烏骨鶏		27	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25042	漫画		28	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	漫画		
25043	弥生式土器	末永雅雄	29	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
25044	秋鯛の呑ませ鍋	上田尚	30	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
25045	犬と鉄砲	本荘五郎助　本荘菅太郎	31	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
25046	ポトナム詠草		31	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	文芸		
25047	この眼で見た怪奇			11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	実話	懸賞	
25048	葛の葉	志川冷	32	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	実話	懸賞	
25049	死体を舐める	青木菱雄	33	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	実話	懸賞	
25050	実話「わたしの特ダネ」募集規程		33	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	その他	懸賞	告知
25051	芝居無駄話		33	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	娯楽	芸能	
25052	与太者と演壇(誌上映画)		34	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	映画		
25053	映画噂話		35	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	映画		
25054	本誌表紙絵募集規程		35	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	その他	懸賞	告知
25055	支那のおもちや	伊志井寛	36	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	社会		
25056	近詠	清交社クラブ	36	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
25057	「新作大衆文芸」内容予告		37	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説		
25058	財界兎耳		37	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	経済		
25059	東京大学連盟野球	橋戸頑鉄　井口新次郎	38	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	スポーツ		
25060	週間時事		38	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	社会		
25061	拳闘のABC	大宮武郎	40	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	随筆		
25062	詰将棋	土居八段	40	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	娯楽		
25063	風雲(入選作・大衆小説ー十)	海音寺潮五郎(画)小田富	41	11-47,	1932(昭和7)年10月9日号	大衆小説	懸賞	
25064	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十月十六日号(第十一巻四十八号)**			11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	その他	題号	
25065	表紙　佐藤美子さん			11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	グラビア		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25066	風雲(入選作・大衆小説ー十)	海音寺潮五郎(画)小田富	3	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	大衆小説	懸賞	
25067	文壇楽屋咄		5	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	文芸		
25068	びくともせぬ日本	橋戸又一	6	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	スポーツ		
25069	東京大学連盟野球	井口新次郎　橋戸頑鉄	8	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	スポーツ		
25070	中等学校柔道優勝戦	古賀残星	8	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	スポーツ		
25071	ワールド・シリーズ	福本福一	10	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
25072	新作大衆文芸内容社告		11	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	その他	懸賞	告知
25073	週間時事		11	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	社会		
25074	珍品づくめの豪州	三好武二	12	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
25075	長崎料理献立	藤本せい	14	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	家庭		
25076	サンデー相談		14	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	家庭		
25077	秋の子供服		15	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	家庭		
25078	家庭ニュース		15	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	家庭		
25079	騎手と馬	佐藤紅緑	16	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
25080	シーズンに聴く結婚の民謡	牧野靖咫朗	17	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	家庭		
25081	本誌表紙絵募集規程		17	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	その他	懸賞	告知
25082	サンデー・グラフ			11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	グラビア		
25083	ダンスチーム(フオツクス映画)		19	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	グラビア	映画	
25084	大阪歌舞伎座こけらおとし		20	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	グラビア		
25085	新国劇		22	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	グラビア		
25086	この眼で見た怪奇(入選実話)			11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	実話	懸賞	
25087	鮎籠の中？	馬持健造	24	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	実話	懸賞	
25088	内股の人墨	村井耕児	24	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	実話	懸賞	
25089	世帯休業(誌上舞台)	中山楠雄	25	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	芸能		
25090	無軌道市街(誌上映画)		26	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	映画		
25091	映画噂話		27	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	映画		
25092	実話「わたしの特ダネ」募集規程		27	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	その他	懸賞	告知
25093	一揆に打殺された家の子に生れて	青野季吉	28	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	随筆		
25094	新人漫画集		30	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	漫画		
25095	モダン落語集			11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	文芸		
25096	歌舞伎酒場	中村進治郎(画)富田英三	33	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	文芸		
25097	シーズン	サトウハチロー(画)山田秀	34	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	文芸		
25098	万引男半代記	辰野九紫(画)小寺鳩甫	35	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	文芸		
25099	宝石のやうな目	中村正常(画)植村俊	36	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	文芸		
25100	アナウンサの家	丸木砂土(画)牧島健	37	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	文芸		
25101	時代棋相	土居八段	38	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	娯楽		
25102	読者懸賞「写真パズル」		38	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	懸賞		
25103	財界兎耳		38	11-48,	1932(昭和7)年10月16日号	経済		
25104	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十月二十三日号(第十一巻四十九号)**			11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	その他	題号	
25105	表紙　井上久榮さん(松竹下加茂撮影所)			11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	グラビア		
25106	慶安余聞・中安文四郎(入選作・大衆小説)	喬木言吉(画)鴨下晁湖	3	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	大衆小説	懸賞	
25107	文壇楽屋咄		8	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	文芸		
25108	本誌臨時増刊「新作大衆文芸」社告		9	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	その他	懸賞	告知
25109	赤色ギヤング事件	本田一郎	10	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	社会		
25110	学童使節の見た満州国	学童使節	12	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		満州
25111	恐怖の黄金郷	三好武二	14	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
25112	政界噂話		15	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	政治		
25113	結婚近代装			11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25114	結婚支度	デパート	16	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
25115	見合写真	中山正一	17	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
25116	サンデー･グラフ			11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	グラビア		
25117	御冗談でしヨ(パラマウント映画)		19	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	グラビア	映画	
25118	秋のをどり		20	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	グラビア		
25119	研辰の討たれ(千恵プロ映画)		22	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	グラビア	映画	
25120	菊の投入盛花			11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
25121	大輪白菊の盛花	斉藤瑞詮	24	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
25122	小菊の投入	安達潮花	24	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
25123	黄菊一式の盛花	中村道邦	25	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
25124	家庭ニュース		24	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
25125	サンデー相談		25	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	家庭		
25126	美術界覚ゑ書		25	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	芸術		
25127	太刀飾の変遷	末永雅雄	26	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
25128	芝居無駄話		27	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	娯楽	芸能	
25129	愛に叛くもの(誌上映画)		28	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	映画		
25130	映画噂話		29	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	映画		
25131	本誌表紙絵募集規程		29	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	その他	懸賞	告知
25132	東京の昔話(誌上舞台)	中山楠雄	30	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	芸能		
25133	籠馬の亡魂	中戸一美	31	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
25134	実話「わたしの特ダネ」募集規程		31	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	その他	懸賞	告知
25135	東京大学連盟野球	橋戸頑鉄　湯浅禎夫	32	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	スポーツ		
25136	オリンピツク庭球戦	海口生	32	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	スポーツ		
25137	改正のラグビー	MVB	33	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	スポーツ		
25138	財界		33	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	経済		
25139	風雲(入選作・大衆小説ー十三)	海音寺潮五郎(画)小田富	35	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	大衆小説	懸賞	
25140	初恋	塚本篤夫	37	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	随筆		
25141	時代棋相	土居八段	38	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	娯楽		
25142	詰将棋新題	土居八段	38	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	娯楽		
25143	同人語		38	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	社会		
25144	週間時事		38	11-49,	1932(昭和7)年10月23日号	社会		
25145	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十月三十日号(第十一巻五十号)**			11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	その他	題号	
25146	表紙　小林千代子さん			11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	グラビア		
25147	K医学士の場合(入選作・大衆小説)	久米徹(画)竹中英太郎	3	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	大衆小説	懸賞	
25148	文壇楽屋咄		8	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	文芸		
25149	本誌臨時増刊「新作大衆文芸」社告		9	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	その他	懸賞	告知
25150	米国大統領選挙	M・K生	10	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
25151	政界噂話		11	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	政治		
25152	ギヤングの眼を抜く	寮佐吉	12	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
25153	美術界覚ゑ書		13	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	芸術		
25154	実話「わたしの特ダネ」募集規程		13	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	その他	懸賞	告知
25155	流し円タク物語	A・B記者	14	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
25156	菊の鑑賞	菊池幽芳	16	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
25157	秋植の球根	白木正光	17	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
25158	サンデー・グラフ			11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	グラビア		
25159	帝展の画廊より		19	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	グラビア		
25160	メリケン押切帳(M・G・M映画)		22	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	グラビア	映画	
25161	らぶ・ぱれいど(誌上舞台)	中山楠雄	23	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	芸能		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25162	学生街の花形(誌上映画)		24	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	映画		
25163	新作漫画募集規程		25	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	その他	懸賞	告知
25164	映画噂話		25	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	映画		
25165	あなご料理	福島いま　福島いと	26	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	家庭		
25166	サンデー相談		26	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	家庭		
25167	債務調停法	三井俊雄	27	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
25168	家庭ニュース		27	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	家庭		
25169	東亜の風雲に動くチベット	高原磐夫	28	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	随筆		
25170	バラバラ事件顛末	高砂八郎	30	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
25171	東京大学連盟野球	橋戸頑鉄　湯浅禎夫	32	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	スポーツ		
25172	日本国民歌		33	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	文芸		
25173	風雲(入選作・大衆小説ー十四)	海音寺潮五郎(画)小田富	35	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	大衆小説	懸賞	
25174	詰将棋新題	土居八段	38	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	娯楽		
25175	財界兎耳		38	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	経済		
25176	同人語		38	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
25177	週間時事		38	11-50,	1932(昭和7)年10月30日号	社会		
25178	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十一月六日号(第十一巻五十一号)**			11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	その他	題号	
25179	表紙　水久保澄子さん			11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア		
25180	サンデー・グラフ			11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア		
25181	読者懸賞「写真パズル」		3	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア	懸賞	
25182	ロイドの活動狂(パラマウント映画)		4	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア	映画	
25183	宝塚少女歌劇の十一月		6	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	グラビア		
25184	戯曲「愛憎魔」開場	竹田敏彦	7	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	芸能		
25185	謝礼一千五百円第十二回「大衆文芸」懸賞募集規程		9	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	その他	懸賞	告知
25186	近頃政界万華鏡	S・O・S	12	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	政治		
25187	財界兎耳		13	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	経済		
25188	ピストルの密輸	一記者	14	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
25189	帝展の日本画	黒川清	15	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	芸術		
25190	美術界覚ゑ書		15	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	芸術		
25191	サンデー・フアツシヨン		16	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	家庭		
25192	天ぷら料理	佐々木常次郎	17	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	家庭		
25193	サンデー相談		17	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	家庭		
25194	家庭ニュース		17	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	家庭		
25195	まんがアンデバンダン			11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	漫画		
25196	非常時		19	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	漫画		
25197	新人まんが集		20	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	漫画		
25198	外国まんが集		22	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	漫画		
25199	新人まんが集		24	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	漫画		
25200	秋の漫画拾得	吉田きよし	26	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	漫画		
25201	この眼で見た怪奇(入選実話)			11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	実話	懸賞	
25202	彰顕館の夜	島木英雄	28	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
25203	塚も動け	史郎	28	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
25204	映画噂話		29	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	映画		
25205	白糸と主水(誌上舞台)	中山楠雄	30	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	芸能		
25206	鍔	末永雅雄	31	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	随筆		
25207	東京大学連盟野球	橋戸頑鉄　湯浅禎夫	32	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	スポーツ		
25208	政界噂話		34	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	政治		
25209	週間時事		34	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	社会		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25210	風雲(入選作・大衆小説ー十五)	海音寺潮五郎(画)小田富	35	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	大衆小説	懸賞	
25211	「大東亜記念懸賞」新題発表		38	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	懸賞		
25212	詰将棋新題	土居八段	38	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	娯楽		
25213	詠草		38	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	文芸		
25214	同人語		38	11-51,	1932(昭和7)年11月6日号	社会		
25215	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十一月十日　新作大衆文芸号(第十一巻五十二**			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	その他	題号	
25216	◇　特別読物　◇			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	その他	見出し	
25217	新蔵兄弟	子母沢寛(画)堂本印象	14	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25218	浅草の姉妹	川端康成(画)林唯一	296	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	小説		
25219	◇　大衆文芸　◇			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	その他	見出し	
25220	青島から来た女	白石義夫(画)岩田専太郎	48	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25221	目と目	三上素山(画)鴨下晁湖	67	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25222	街の操縦者	木村槐二(画)山六郎	83	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25223	草競馬	小塩正栄(画)中野修二	101	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25224	とんま剣術	綿谷麻耶夫(画)吉田清	118	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25225	エロイカ	西多喜一(画)吉邨二郎	134	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25226	お三夜草蛙	村上卿(画)神保朋世	154	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25227	六人目の女	赤木倫太郎(画)辻愛造	172	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25228	きつと・あなた	左手参作(画)竹中英太郎	189	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25229	南北と小平次	枯田淨(画)山口草平	207	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25230	曙の一人	水島爽(画)笹村汎泉	226	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25231	濡れ鳥	瀧口寺次郎(画)柴谷宰二	243	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25232	公衆電話の女	長谷寛(画)山名文夫	260	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25233	影絵の恋	越野虹二(画)池中三樹	280	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	大衆小説		
25234	◇			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	その他	見出し	
25235	第十二回「大衆文芸」寄稿募集規程		311	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	その他	懸賞	告知
25236	もだん・でかめろん			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25237	佐久間君の問題	東郷青児	56	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25238	血の葩華	太〔大〕田洋子	80	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25239	踵	龍膽寺雄	116	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25240	月夜	宇野千代	132	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25241	パンタロン	サトウ・ハチロー	152	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25242	犬を飼ふために	矢田津世子	186	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25243	人魚	丸木砂土	202	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25244	ラヴの石段から	武林文子	224	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25245	世間の進歩	高田保	258	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25246	説明無用	林芙美子	278	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	随筆		
25247	口絵色刷漫画	田中比左良		11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	漫画		
25248	今秋二題			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	漫画		
25249	鼻のダブルベツド			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	漫画		
25250	何んとなく朗らかな存在			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	漫画		
25251	刹那の漫画スケッチ			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	漫画		
25252	一九五〇年の美術展覧会			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	漫画		
25253	映画物語			11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	映画		
25254	青春の夢いまいづこ(松竹蒲田映画)		73	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	映画		
25255	白夜の餐宴(日活千恵蔵プロ映画)		211	11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	映画		
25256	表紙　秋の女	中村大三郎		11-52,	1932(昭和7)年11月10日新作	グラビア		
25257	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十一月十三日号(第十一巻五十三号)**			11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	その他	題号	

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25258	表紙　久邇京子さん(宝塚少女歌劇)			11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア		
25259	血縁(入選作・大衆小説)	木村荘十(画)笹村汎泉	3	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	大衆小説	懸賞	
25260	スウリイル	武野藤介	6	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
25261	謝礼一千五百円第十二回「大衆文芸」懸賞募集規程		8	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	その他	懸賞	告知
25262	文壇楽屋咄		9	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	文芸		
25263	陸軍特別大演習	永友助雄	10	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	軍事		
25264	男女青年の御親閲	藤樫準二	11	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
25265	モダン大阪の面貌	中田政三	12	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
25266	美術界覚ゑ書		13	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	芸術		
25267	スキー通	竹節作太	14	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
25268	簡単なスキーへの準備		15	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
25269	耳の形で犯人を捕へる	寮佐吉	16	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	随筆		
25270	サンデー・グラフ			11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア		
25271	光栄に輝く菊花と盆栽		19	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア		
25272	二秒間(F・N映画)		20	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア	映画	
25273	細君新戦術(日活映画)		22	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	グラビア	映画	
25274	人間飢饉(誌上舞台)	中山楠雄	23	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	芸能		
25275	伊豆の踊子(誌上映画)		24	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	映画		
25276	映画噂話		25	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	映画		
25277	新作漫画募集規程		25	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	その他	懸賞	告知
25278	サンデー・フアツシヨン		26	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	家庭		
25279	鯨の季節料理	石崎宗太郎	27	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	家庭		
25280	サンデー相談		27	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	家庭		
25281	家庭ニユース		27	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	家庭		
25282	貞女を食ふ木のある島	三好武二	28	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	家庭		
25283	草相撲	矢島信	30	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
25284	芝居無駄話		30	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	娯楽	芸能	
25285	読者懸賞写真パズル入賞者発表		31	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	懸賞		
25286	東京大学連盟野球	橋戸頑鉄　湯浅禎夫	32	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
25287	投手の慶応、打撃の早大	ABC生	33	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
25288	同大京大ラグビー戦	中出輝彦	34	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
25289	レスリングとわが柔道	二宮屏巌	34	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	スポーツ		
25290	風雲(入選作・大衆小説－十六)	海音寺潮五郎(画)小田富	35	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	大衆小説	懸賞	
25291	時代棋相	土居八段	38	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	娯楽		
25292	財界兎耳		38	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	経済		
25293	週間時事		38	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	社会		
25294	同人語		38	11-53,	1932(昭和7)年11月13日号	社会		
25295	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十一月二十日号(第十一巻五十四号)**			11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	その他	題号	
25296	表紙　國友和歌子　美鈴あさ子　渡澄子			11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	グラビア		
25297	風雲(入選作・大衆小説－十七)	海音寺潮五郎(画)小田富	3	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	大衆小説	懸賞	
25298	当選した新米国大統領	T・R・M・R	6	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	政治		
25299	政界噂話		7	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	政治		
25300	東京大学連盟野球戦	橋戸頑鉄　小野三千麿	8	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
25301	早立、慶明ラグビー戦	中出輝彦	9	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	スポーツ		
25302	練武の秋	吉田追風　谷口栄業	10	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
25303	将軍利	西村真琴	11	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	戦争		
25304	露国探検船の殊勲	北野雪夫	12	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	社会		
25305	心境小唄	高田保	14	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25306	あゝどこまでどこまで	サトウ・ハチロー	15	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
25307	サンデー相談		16	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	家庭		
25308	冬来る暖房装置		16	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	家庭		
25309	私の好きな冬料理	四氏	16	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	家庭		
25310	服飾・あらもうど		17	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	家庭		
25311	海外ニュース		17	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	社会		
25312	サンデー・グラフ			11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	グラビア		
25313	聖賀奉迎		19	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	グラビア		
25314	陸軍特別大演習		20	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	グラビア		
25315	美はしの君(パラマウント映画)		22	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	グラビア	映画	
25316	遣りたがり上戸(ユーモア小説)	森暁紅	24	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	大衆小説		
25317	映画噂話		25	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	映画		
25318	天晴れウオング(誌上舞台)	中山楠雄	26	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	芸能		
25319	団州雑話	寺島夢香	27	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
25320	芝居無駄話		27	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	娯楽	芸能	
25321	イハヒペ土器	末永雅雄	28	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	随筆		
25322	財界兎耳		29	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	経済		
25323	読者懸賞「写真パズル」		29	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	懸賞		
25324	モダン女行状記			11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	人物		
25325	近代映画女優行状記(峰吟子さん)		30	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	人物	映画	
25326	人生への初舞台(尾上菊枝さん)		31	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	人物		
25327	周託を知らない彼女(田中絹代さん)		32	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	人物		
25328	「芸道三昧」に踊る(花柳珠實さん)		33	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	人物		
25329	やつぱり空へ飛んだ(田鶴園子さん)		34	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	人物		
25330	幻滅の前に啜り泣く(長谷部三枝子さん)		35	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	人物		
25331	愛は惜しみなく奪ふ(飛鳥明子さん)		36	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	人物		
25332	新作漫画募集規程		32	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	その他	懸賞	告知
25333	「大衆文芸」寄稿募集規程		37	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	その他	懸賞	告知
25334	文壇楽屋咄		37	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	文芸		
25335	時代棋相	土居八段	38	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	娯楽		
25336	詰将棋	土居八段	38	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	娯楽		
25337	いぶき時社詠草		38	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	文芸		
25338	春草会詠草		38	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	文芸		
25339	「写真パズル」入賞者発表		38	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	懸賞		
25340	同人語		38	11-54,	1932(昭和7)年11月20日号	社会		
25341	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十一月二十七日号(第十一巻五十五号)**			11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	その他	題号	
25342	表紙　桂珠子(新興キネマ)			11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	グラビア		
25343	国際連盟果して何ができるか？	佐藤剣之助	3	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	政治	国際連盟	
25344	秋、東京大学連盟野球	橋戸頑鉄　小野三千麿	6	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	スポーツ		
25345	週間時事		8	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	社会		
25346	明治同大ラグビー	西島捨丸	9	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	スポーツ		
25347	大衆文芸募集社告		9	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	その他	懸賞	告知
25348	天才学徒情死事件の真相	桂祥介	10	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	社会		
25349	上高地雑詠	小林一三	10	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	随筆		
25350	美術界覚ゑ書		11	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	芸術		
25351	サラリーマン・カクテール(入選作・大衆小説)	八田尚之(画)田中比左良	12	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	大衆小説	懸賞	
25352	サンデー・グラフ			11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	グラビア		
25353	愛国献納兵器天覧		19	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	グラビア		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25354	開会式の壮観		20	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	グラビア		
25355	白蓮(入江プロ映画)		22	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	グラビア	映画	
25356	よみがへる暁(誌上映画)		24	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	映画		
25357	映画噂話		25	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	映画		
25358	新作漫画募集規程		25	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	その他	懸賞	告知
25359	スキー講座	立岡頼一	26	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	スポーツ		
25360	芝居無駄話		27	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	娯楽	芸能	
25361	冬の新美術展	山野千枝子	28	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	芸術		
25362	私の好きな冬料理	五氏	28	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	家庭		
25363	冬の草花盛花	小原六合軒	29	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	家庭		
25364	サンデー相談		29	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	家庭		
25365	為替が二十弗を割つたら？	高原磐夫	30	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	随筆		
25366	本誌新春特別号予告		32	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	その他	社告	
25367	本誌募集「表紙絵」入選発表		32	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	その他	懸賞	告知
25368	選評	名越国三郎	32	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	グラビア		
25369	政界噂話		33	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	政治		
25370	大隈重信(誌上舞台)	中山楠雄	34	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	芸能		
25371	風雲(入選作・大衆小説－十八)	海音寺潮五郎(画)小田富	35	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	大衆小説	懸賞	
25372	文壇楽屋咄		37	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	文芸		
25373	詰将棋	土居八段	38	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	娯楽		
25374	財界兎耳		38	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	経済		
25375	同人語		38	11-55,	1932(昭和7)年11月27日号	社会		
25376	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十二月四日号(第十一巻五十六号)**			11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	その他	題号	
25377	表紙　二宮早苗(新国劇)			11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	グラビア		
25378	歳末ナンセンス			11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25379	新案金儲け術	和田邦坊	3	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25380	借金取撃退法	中村進治郎	4	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25381	就職潜行術	辰野九紫	5	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25382	借倒し極秘伝	サトウハチロー	6	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25383	夫婦新戦法	中村正常	7	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25384	恋愛ギヤング道	高田保	8	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25385	売名虎の巻	酒井真人	9	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25386	赤字予算組立て余聞	愛宕生	10	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	政治	経済	
25387	政界噂話		11	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	政治		
25388	週間時事		11	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	社会		
25389	巨体T6号の壮観	川上哲郎	12	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
25390	美術界覚ゑ書		12	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	芸術		
25391	トピツク科学		13	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	科学		
25392	女教員どんでん返し(実話)	荒井弥太三	14	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	実話		
25393	白狐の瞳の死(実話)	倉田啓明	15	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	実話		
25394	本誌春季特別号社告		16	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	その他	懸賞	告知
25395	芝居無駄話		17	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽	芸能	
25396	サンデー・グラフ			11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	グラビア		
25397	キートンの決闘狂		19	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	グラビア		
25398	国立公園と付近名所		20	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	グラビア		
25399	宝塚少女歌劇十二月公演		22	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	グラビア		
25400	時代の寵児(誌上映画)		24	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	映画		
25401	映画噂話		25	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	映画		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25402	新作漫画募集規程		25	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	その他	懸賞	告知
25403	太鼓の春(誌上舞台)	中山楠雄	26	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	芸能		
25404	弓と火	末永雅雄	27	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
25405	毛皮の新知識		28	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
25406	家庭ニユース		28	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
25407	魚すき	大阪丸万	29	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	随筆		
25408	サンデー相談		29	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	家庭		
25409	スキー講座	立岡頼一	30	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	スポーツ		
25410	秋リーグ戦ABCD匿名座談会		32	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	スポーツ	座談会	
25411	大衆文芸寄稿募集規程		33	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	その他	懸賞	告知
25412	ラグビー早慶戦	西島捨丸	33	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	スポーツ		
25413	風雲(入選作・大衆小説ー十九)	海音寺潮五郎(画)小田富	35	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	大衆小説	懸賞	
25414	文壇楽屋咄		37	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	文芸		
25415	詰将棋	土居八段	38	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	娯楽		
25416	財界兎耳		38	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	経済		
25417	同人語		38	11-56,	1932(昭和7)年12月4日号	社会		
25418	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十二月十一日号(第十一巻五十七号)**			11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	その他	題号	
25419	表紙　山路ふみ子(日活)			11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア		
25420	鳥潟博士令嬢結婚解消問題			11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25421	問題の概要		3	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25422	静子さんの主張		3	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25423	父の採るべき道	鳥潟隆三	4	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25424	長岡学士の弁明		4	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25425	追ひ求めるもの	長岡誠	5	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25426	市川博士は語る		5	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25427	「女性の自愛」	谷崎潤一郎	6	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25428	認識不足だ	山田司郎	6	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25429	覚書の全文		6	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25430	男の立場	武者小路実篤	7	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25431	容認すべきでない	さゝき・ふさ	7	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25432	親爺教育	小林一三	7	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25433	恐怖時代	千葉亀雄	7	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25434	犠牲的な貢献	鳩山春子	7	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25435	結婚の仕方が悪い	倉田百三	8	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25436	徹底してゐてよい	柳原燁子	8	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25437	この行為に感謝	新妻伊都子	8	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25438	彼女の態度や良し	長谷川如是閑	8	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25439	彼女の態度や悪し	直木三十五	9	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25440	二人の態度を肯定	長谷川時雨	9	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25441	お嬢さんの手落ち	夏川静江	9	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25442	愛がすべてを	入江たか子	9	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25443	連盟総会の落ち着く先	S・K・D	10	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	政治	国際連盟	
25444	日ソ提携二人男	H・B生	11	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	政治		
25445	旅・自然・人(随筆)	水守亀之助	12	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
25446	本誌新春特別号社告		12	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	その他	懸賞	告知
25447	国際的女間諜の末路	城戸又一	114	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
25448	フランス人形	山脇敏子	16	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
25449	サンデー相談		16	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	家庭		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25450	洋装の常識	上原浦太郎	17	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	随筆		
25451	サンデー・グラフ			11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア		
25452	拳闘キヤグネー(ワーナー映画)		19	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア	映画	
25453	吉岡京の顔見世		20	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア		
25454	七万人の目撃者(パラマウント映画)		22	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	グラビア	映画	
25455	男性制服(誌上映画)		24	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	映画		
25456	映画噂話		25	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	映画		
25457	海の唄(誌上舞台)	中山楠雄	26	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	芸能		
25458	モスクワ演劇通信	園池公坊	27	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	芸能		
25459	女スキーヤーは語る	水島富美子	28	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
25460	スキー講座	立岡頼一	30	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
25461	芝居無駄話		31	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	娯楽	芸能	
25462	天晴れ慶大	小野三千麿	32	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
25463	柔道争覇	幸島晃	32	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
25464	ラグビー早明戦	岩下秀三郎	33	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
25465	ラグビー京同戦	西島捨丸	33	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	スポーツ		
25466	読者懸賞写真パズル入賞者発表		34	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	懸賞		
25467	政界噂話		34	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	政治		
25468	週間時事		34	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25469	風雲(入選作・大衆小説ー二十)	海音寺潮五郎(画)小田富	35	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	大衆小説	懸賞	
25470	文壇楽屋咄		37	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	文芸		
25471	時代棋相	土居八段	38	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	娯楽		
25472	財界兎耳		38	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	経済		
25473	同人語		38	11-57,	1932(昭和7)年12月11日号	社会		
25474	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十二月十八日号(第十一巻五十八号)**			11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	その他	題号	
25475	表紙　水島優子(新国劇)			11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア		
25476	こんと・ぱれいど(特集)			11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽		
25477	商売第一主義	北村小松	3	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽		
25478	Xマスちかく	北林透馬	4	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽		
25479	霧の夜	井伏鱒二	5	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽		
25480	マダム達の印象	浅原六朗	6	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽		
25481	なぐられる	岡田禎子	7	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽		
25482	国際結婚の悲劇	北一夫	8	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	家庭		
25483	政界噂話		8	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	政治		
25484	美術界覚ゑ書		9	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	芸術		
25485	教育家の見た結婚解消問題			11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
25486	結婚と健康診断	大妻コタカ	10	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
25487	鳥潟家の行為	中島徳蔵	10	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
25488	二つの中心点	三輪田元道	10	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
25489	週間時事		10	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
25490	批評の批評	鳥潟隆三	11	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	文芸	批評	
25491	義士佳話	岩崎元一	12	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
25492	子葉と宗偏	北山十三男	13	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
25493	芝居無駄話		13	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽	芸能	
25494	死者は甦る(科学は語る)	寮佐吉	14	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	科学		
25495	流行羽子板		16	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	美容		
25496	サンデー相談		16	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	家庭		
25497	家庭ニュース		16	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	家庭		

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25498	お正月の晴れ着		17	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	家庭		
25499	歳末の思ひ出(一人一話)	水の江瀧子	17	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
25500	サンデー・グラフ			11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア		
25501	帰つて来た恋人(R・K・O社映画)		19	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア	映画	
25502	宝塚少女歌劇新春花組公演		20	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア		
25503	愛国旗の下に		22	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	グラビア		
25504	ブロンド・ヴイナス(誌上映画)	山路貞三	24	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	映画		
25505	映画噂話		25	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	映画		
25506	本誌大衆文芸募集規程		25	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	その他	懸賞	告知
25507	石器のいろいろ	末永雅雄	26	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	随筆		
25508	前科五犯の旦那スリ(犯罪実話)	碧海茫太郎	28	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	実話		
25509	本誌新春特別号社告		28	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	その他	懸賞	告知
25510	一二泊のスキー場へ	藤田信道	30	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	スポーツ		
25511	サツカー慶応京大戦		31	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	スポーツ		
25512	白鷺往来(誌上舞台)	中山楠雄	32	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	芸能		
25513	風雲(入選作・大衆小説－二十一)	海音寺潮五郎(画)小田富	33	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	大衆小説	懸賞	
25514	時代棋相	土居八段	38	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	娯楽		
25515	財界兎耳		38	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	経済		
25516	同人語		38	11-58,	1932(昭和7)年12月18日号	社会		
25517	**★『サンデー毎日』 一九三二(昭和七)年十二月二十五日号(第十一巻五十九号)**			11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	その他	題号	
25518	表紙　紀昌子(宝塚少女歌劇)			11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア		
25519	歳末爆笑号			11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
25520	ハハハ	乾信一郎	3	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
25521	伝書鳩	丸木砂土	4	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
25522	解消時代	門脇陽一郎	5	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
25523	人の子	桂小春団治	6	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
25524	ロケーシヨン	北村小松	8	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
25525	油断のナラヌサンタクロース(漫画)	東海林喜雄	6	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	漫画		
25526	餅つき(漫画)	塩山千太郎	7	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	漫画		
25527	クリスマス・プレゼント(漫画)	桶田武	8	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	漫画		
25528	実話「春宵一刻が値千金であつた話」募集規程		9	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	その他	懸賞	告知
25529	財界兎耳		9	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	経済		
25530	週間時事		9	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		
25531	大政友会冬の陣	万朶生	10	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	政治		
25532	少年の欲望考現学	吉田平七郎	12	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		
25533	室内遊戯ゼミナール		12	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	家庭		
25534	食卓を飾る七面鳥	白木正光	13	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	家庭		
25535	新春を待つ旭堂		14	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
25536	サンデー相談		14	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	家庭		
25537	新年の花を生ける	勅使河原蒼風　布川秀華	15	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	家庭		
25538	家庭ニユース		15	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	家庭		
25539	軽金属時代(科学は語る)	三好武二	16	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	科学		
25540	美術界覚ゑ書		17	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	芸術		
25541	サンデー・グラフ			11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア		
25542	拳骨大売出し		19	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア		
25543	「キートンの歌劇王」(M・G・M映画)		20	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア	映画	
25544	「彼女の道」(日活映画)		21	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア	映画	
25545	「光・罪と共に」(入江プロ映画)		22	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	グラビア	映画	

資料II-2 サンデー毎日1932年10-12月目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
25546	二筋道其の後(誌上舞台)	中山楠雄	23	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	芸能		
25547	昭和新撰組(誌上映画)		24	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	映画		
25548	映画「ドン・キホーテ」	工藤信一良	25	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	映画		
25549	二三泊のスキー場へ	藤田信道	26	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	スポーツ		
25550	近頃女学生行状記	高原磐夫	28	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		
25551	ヴアガボンド・ラバア	中村進治郎(画)川尻三郎	30	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	小説		
25552	本誌新年第一増大号予告		30	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	その他	社告	
25553	文壇楽屋咄		31	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	文芸		
25554	満州里の記憶	習田正一　大江悌介	32	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	随筆		満州
25555	風雲(入選作・大衆小説－二十二)	海音寺潮五郎(画)小田富	33	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	大衆小説	懸賞	
25556	詰将棋	土居八段	38	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	娯楽		
25557	政界噂話		38	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	政治		
25558	同人語		38	11-59,	1932(昭和7)年12月25日号	社会		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49425	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年一月三・十日合併号(第四十三巻一号)目次**			43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	題号	その他	
49426	表紙 「農村新年」	小室翠雲		43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争	表紙	グラビア
49427	一億御奉公の力(銃後戦陣訓)	鈴木貞一(国務大臣)	11	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
49428	剛操の志	平泉澄	12	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
49429	世界新情勢(座談会)	本社特派員	14	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	座談会		
49430	南方女人風俗	勝田哲	21	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	社会		
49431	ソロモンの死闘	泉毅一	22	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
49432	敵側の見たソロモン海戦	ボールドウイン	22	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
49433	北阿選挙区	鹿島守之助	29	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	社会		
49434	反逆者ダルラン	重徳泗水	30	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
49435	悩みの米英	近藤日出造	32	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	社会		
49436	ジャワの新年	北原武夫	34	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
49437	内外時評	太田正孝	36	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	社会		
49438	北條時宗の智略	関靖	39	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
49439	オフセット			43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	グラビア		
49440	最前線の子供達	永久博郎		43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	家庭		
49441	彩色地図　南太平洋			43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	グラビア		
49442	グラヴュア			43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	グラビア		
49443	元旦の祈り▽堂々・海の猛者▽岳麓に鍛ふ▽少年戦車兵▽バチカンの話題			43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
49444	ふるさと(小説)	尾崎一雄	51	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	小説		
49445	特急大東亜戦	横山隆一	55	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
49446	前線銃後談話室		56	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
49447	勤皇史蹟行脚(一)	大仏次郎	58	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争	随筆	
49448	蟹眼について	成瀬関次	61	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
49449	最近の戦闘機	糸川英夫	66	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号			軍事
49450	南方の動物	大島正潮	68	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	社会		
49451	愛国百人一首早取り法	紀野俊頼	72	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
49452	黒田如水(小説ーー)	吉川英治	76	43-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	大衆小説		
49453	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年一月十七日号(第四十三巻二号)目次**			43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	題号	その他	
49454	表紙 「皇軍のマンダレ入城とビルマ人の協力」	伊原宇三郎		43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争	表紙	グラビア
49455	ただ一途に邁進(銃後戦陣訓)	大河内正敏(理化学研究	3	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争		
49456	新比島再建の歩武	火野葦平	4	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争		
49457	新駐日独大使	清川生	7	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争		
49458	勤皇史蹟行脚(二)	大仏次郎	8	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争	随筆	
49459	細菌も応召	葦田輝	11	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	科学		
49460	前線銃後談話室		14	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争		
49461	内外時評	太田正孝	16	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	社会		
49462	特急大東亜戦(漫画)	横山隆一	19	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争		
49463	年中正月の気持(頭山翁縦横談)		20	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	家庭		
49464	オフセット			43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	グラビア		
49465	英領ボルネオを衝く	福田豊四郎		43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	随筆		
49466	色刷地図　ジブラルタル			43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	グラビア		
49467	逞し建設の一路(ジャワ随想)	大江賢次	27	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	随筆		
49468	狐がだまされた話(肥後民話)	荒木精之	30	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	文芸		
49469	烽煙(小説ーー)	尾崎士郎	31	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争小説		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49470	春場所展望	彦山光三	35	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	スポーツ		
49471	正月映画展望	津村秀夫	38	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	映画		
49472	黒田如水(小説－二)	吉川英治	40	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	大衆小説		
49473	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	45	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	娯楽		
49474	昇降段番付棋戦	小泉八段	58	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	娯楽		
49475	百文字故国だより		15	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	文芸		
49476	防人の歌		20	43-2,	1943(昭和18)年1月17日号	文芸		
49477	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年一月二十四日号(第四十三巻三号)目次**			43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	題号	その他	
49478	表紙 「ニューギニア沖東方敵機部隊強襲」	御厨純一		43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争	表紙	グラビア
49479	非常時日本(銃後戦陣訓)	加藤完治	3	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
49480	中華参戦の意義	松本忠雄	4	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
49481	華語で歌ふ	伊藤武雄	6	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	社会		
49482	文楽六十年人形遣芸談(座談会)	河竹繁俊	7	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	座談会		
49483	文楽六十年人形遣芸談(座談会)	吉田栄三	7	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	座談会		
49484	文楽六十年人形遣芸談(座談会)	嘉治隆一	7	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	座談会		
49485	文楽六十年人形遣芸談(座談会)	津村秀夫	7	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	座談会		
49486	兵器と合成ゴム	吹田淳	12	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	軍事		
49487	特急大東亜戦(漫画)	横山隆一	13	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
49488	農魂の錬成	所武雄	14	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	家庭		
49489	内外時評	太田正孝	16	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	社会		
49490	土耳古の住民	野間三郎	19	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	社会		
49491	グラヴュア			43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	グラビア		
49492	マニラ三題▽黒川能▽駒をつくる			43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	芸能		
49493	肥後民話	荒木精之	29	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	文芸		
49494	烽煙(小説－二)	尾崎士郎	30	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争小説		
49495	船	曽我廻家五郎	33	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	随筆		
49496	前線銃後談話室		34	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
49497	勤皇史蹟行脚(三)	大仏次郎	36	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争	随筆	
49498	風邪とマスク	小島三郎	39	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	家庭		
49499	正月芝居評	安三郎	40	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
49500	黒田如水(小説－三)	吉川英治	41	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	大衆小説		
49501	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	46	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	娯楽		
49502	昭和防人の歌		10	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	文芸	戦争	
49503	百文字戦線だより		34	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
49504	百文字故国だより		35	43-3,	1943(昭和18)年1月24日号	文芸		
49505	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年一月三十一日号(第四十三巻四号)目次**			43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	題号	その他	
49506	表紙 「キヤビテ軍港攻撃」	三輪晁勢		43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争	表紙	グラビア
49507	増税と御奉公(銃後戦陣訓)	松隈秀雄(大蔵省)	3	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49508	半島の徴兵制	米山保	4	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49509	志願兵育成	海田要	6	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49510	志願兵育成	森本喜徳	6	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49511	汐見博士と増税問題	鳥海一郎	8	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	経済		
49512	衣料切符第二年	吉国一郎	8	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49513	朝日賞に輝くIM療法(座談会)	松村盡	10	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	座談会		
49514	朝日賞に輝くIM療法(座談会)	酒井由夫	10	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	座談会		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49515	朝日賞に輝くIM療法(座談会)	蓼沼憲二	10	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	座談会		
49516	内外時評	太田正孝	16	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	社会		
49517	肥後民話	荒木精之	19	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	文芸		
49518	李鴻章とゴオルドン	片岡鉄兵	20	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49519	随想			43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	随筆		
49520	「馭戎慨言」について	保田與重郎	22	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49521	遠い近いと云ふ意味	山本經	23	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49522	烽煙(小説－三)	尾崎士郎	24	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争小説		
49523	前線銃後談話室		28	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49524	勤皇史蹟行脚(四)	大仏次郎	30	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争	随筆	
49525	大相撲春場所中間展望	彦山光三	34	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	スポーツ		
49526	六十年間の角力見物		33	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49527	海藻類の進出	山田幸男	36	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	科学		
49528	黒田如水(小説－四)	吉川英治	37	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	大衆小説		
49529	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	41	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	娯楽		
49530	昇降段番付棋戦	小泉八段	42	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	娯楽		
49531	昭和防人の歌		12	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	文芸	戦争	
49532	百文字戦線だより		28	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	戦争		
49533	百文字故国だより		29	43-4,	1943(昭和18)年1月31日号	文芸		
49534	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年二月七日号(第四十三巻五号)目次**			43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	題号	その他	
49535	表紙 「泰国ワトソン」	川島理一郎		43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争	表紙	グラビア
49536	増産の戦場(銃後戦陣訓)	福田重清(日立鉱山取紙	3	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
49537	ソロモン戦局はどうなる？	泉毅一	4	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
49538	独ソ戦と冬将軍	藤井恒男	6	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
49539	内外時評	太田正孝	8	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会		
49540	敵米政界の内幕	坂西志保	11	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
49541	日泰両国の文化	柳沢健	13	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	文芸		
49542	「マレー戦記」について(座談会)	竹田少佐	15	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	座談会	戦争	
49543	「マレー戦記」について(座談会)	飯田心美	15	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	座談会	戦争	
49544	「マレー戦記」について(座談会)	田中喜次	15	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	座談会	戦争	
49545	「マレー戦記」について(座談会)	栗田玄忠	15	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	座談会	戦争	
49546	「マレー戦記」について(座談会)	稲垣浩邦	15	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	座談会	戦争	
49547	「マレー戦記」について(座談会)	津村秀夫	15	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	座談会	戦争	
49548	「マレー戦記」について(座談会)	亀山松太郎	15	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	座談会	戦争	
49549	グラヴュア			43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	グラビア		
49550	増産の戦場▽敬神のともしび▽樹氷の美			43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
49551	日食と動物の活動	加藤陸奥雄	27	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	家庭		
49552	烽煙(小説－四)	尾崎士郎	28	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争小説		
49553	樹氷随想	安斉徹	31	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	随筆		
49554	前線銃後談話室		32	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
49555	勤皇史蹟行脚(五)	大仏次郎	35	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争	随筆	
49556	春場所綜記	舟橋聖一	37	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	スポーツ		
49557	黒田如水(小説－五)	吉川英治	38	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	大衆小説		
49558	昇降段番付棋戦	小泉八段	42	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	娯楽		
49559	昭和防人の歌		18	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	文芸	戦争	

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49560	百文字戦線だより		32	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
49561	百文字故国だより		33	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	文芸		
49562	連載漫画		34	43-5,	1943(昭和18)年2月7日号	漫画		
49563	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年二月十四日号(第四十三巻六号)目次**			43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	題号	その他	
49564	表紙 「襲」	石崎光瑤		43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争	表紙	グラビア
49565	紀元の佳節を迎へて(銃後戦陣訓)	飯沼一省	3	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
49566	レンネル島沖海戦速報	田代中佐	4	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
49567	南太平洋激戦記(座談会)	岡田誠三	6	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	座談会	戦争	
49568	南太平洋激戦記(座談会)	佐藤忠男	6	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	座談会	戦争	
49569	南太平洋激戦記(座談会)	片山太郎	6	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	座談会	戦争	
49570	日本近海の海水	日高孝次	11	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
49571	義経と西行	川田順	12	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
49572	義経と西行	島津久基	12	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
49573	烽煙(小説－五)	尾崎士郎	15	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争小説		
49574	オフセット			43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	グラビア		
49575	大きな笠の女	服部有恒		43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
49576	中支便り	松岡寛一		43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
49577	肥後民話	荒木精之	23	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	文芸		
49578	玄米食の村を訪ふ	所武雄	24	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	家庭		
49579	戦時荷役の増強	沖野克己	26	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
49580	闘鶏の夜飼(頭山翁縦談)		27	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
49581	前線銃後談話室		28	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
49582	二月の映画	津村秀夫	30	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	映画		
49583	内外時評	太田正孝	31	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	社会		
49584	黒田如水(小説－六)	吉川英治	34	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	大衆小説		
49585	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	38	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	娯楽		
49586	昭和防人の歌		13	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	文芸	戦争	
49587	連載漫画		14	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	漫画		
49588	百文字戦線だより		28	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
49589	百文字故国だより		29	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	文芸		
49590	大東亜日誌		31	43-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争	社会	
49591	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年二月二十一日号(第四十三巻七号)目次**			43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	題号	その他	
49592	表紙 「基地」	林唯一		43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争	表紙	グラビア
49593	内に心を掘る(銃後戦陣訓)	小磯国昭(朝鮮総督)	3	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
49594	最近の欧州とトルコの動向(対談)	前田義徳	4	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	座談会		
49595	最近の欧州とトルコの動向(対談)	丸山政男	4	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	座談会		
49596	スターリングラードの悲劇	守山特派員	8	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	芸能		
49597	冬季戦と生理	林髞	8	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
49598	逞しくマライは復興した(対談)	中島健蔵	11	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	座談会		
49599	逞しくマライは復興した(対談)	東條卓三	11	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	座談会		
49600	汽車から見た復興マライ	寺崎浩	15	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	随筆		
49601	勤皇史蹟行脚(六)	大仏次郎	17	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争	随筆	
49602	グラヴュア			43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	グラビア		
49603	寒天の名産地見学▽前線銃後談話室▽甦る白石紙布			43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
49604	烽煙(小説－六)	尾崎士郎	27	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争小説		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49605	馬来茶話	徳川夢声	31	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	文芸		
49606	高空の奇現象	鳥海一郎	32	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	随筆		
49607	肥後民話	荒木精之	34	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	文芸		
49608	内外時評	太田正孝	35	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	社会		
49609	黒田如水(小説ー七)	吉川英治	38	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	大衆小説		
49610	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	42	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	娯楽		
49611	昭和防人の歌		13	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	文芸	戦争	
49612	連載漫画		30	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	漫画		
49613	大東亜日誌		35	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争	社会	
49614	詰将棋		42	43-7,	1943(昭和18)年2月21日号	娯楽		
49615	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年二月二十八日号(第四十三巻八号)目次**			43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	題号	その他	
49616	表紙 「雪国の人々」	藤井二郎		43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争	表紙	グラビア
49617	船舶急造の要諦(銃後戦陣訓)	斯波孝四郎(造船統制会	3	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
49618	海鷲感激の初陣記	竹田道太郎	4	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
49619	凍る眼の要塞	小沢通彦	9	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
49620	戦争とニツケル	三島徳七	11	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
49621	ポケツト飛行場とは？	斉藤寅郎	12	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	軍事		
49622	南山踏雲録	島田兵三	14	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
49623	勤皇史蹟行脚(一)	貴司山治	16	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争	随筆	
49624	オフセット			43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	グラビア		
49625	雪国の民謡	芹沢銈介		43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	文芸		
49626	ボルネオ画信	大山英夫		43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	芸術		
49627	馬来茶話	徳川夢声	23	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	文芸		
49628	烽煙(小説ー七)	尾崎士郎	24	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争小説		
49629	前線銃後談話室		28	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
49630	二月の芝居評	安三郎	30	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	文芸		
49631	決戦列車時刻表		31	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
49632	内外時評	太田正孝	32	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	社会		
49633	黒田如水(小説ー八)	吉川英治	35	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	大衆小説		
49634	昭和防人の歌		15	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	文芸	戦争	
49635	連載漫画		27	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	漫画		
49636	百文字戦線だより		28	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
49637	百文字故国だより		29	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	文芸		
49638	詰将棋新題		38	43-8,	1943(昭和18)年2月28日号	娯楽		
49639	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年三月七日号(第四十三巻九号)目次**			43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	題号	その他	
49640	表紙 「ジヤングル飛行」	向井潤吉		43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争	表紙	グラビア
49641	平賀東大総長の戦死(銃後戦陣訓)	藤原銀次郎(産業設備営	3	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争		
49642	陸軍魂	火野葦平	4	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	軍事		
49643	撃ちて止まむ	藤田徳太郎	6	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争		
49644	強力増強へ邁進！(座談会)		9	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	座談会		
49645	強力増強へ邁進！(座談会)	小畑忠良	9	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	座談会		
49646	強力増強へ邁進！(座談会)	小笠原義美	9	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	座談会		
49647	強力増強へ邁進！(座談会)	高橋勝	9	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	座談会		
49648	強力増強へ邁進！(座談会)	渡辺要	9	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	座談会		
49649	烽煙(小説ー八)	尾崎士郎	15	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争小説		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49650	日光杉の応召	山崎慶一	18	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争		
49651	グラヴュア			43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	グラビア		
49652	新生スマトラ風物詩▽前線銃後談話室▽木材供出			43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争		
49653	馬来茶話	徳川夢声	27	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争		
49654	勤皇史蹟行脚(二)	貴司山治	28	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争	随筆	
49655	マライ留学生の手記		30	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	教育		
49656	活躍する海のトラツク	葦田輝	34	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	随筆		
49657	内外時評	太田正孝	35	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	社会		
49658	大東亜日誌		36	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争	社会	
49659	黒田如水(小説ー九)	吉川英治	38	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	大衆小説		
49660	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	42	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	娯楽		
49661	昭和防人の歌		11	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	文芸	戦争	
49662	詰将棋		41	43-9,	1943(昭和18)年3月7日号	娯楽		
49663	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年三月十四日号(第四十三巻十号)目次**			43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	題号	その他	
49664	表紙 「共栄圏の人形」	樋口富麿		43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争	表紙	グラビア
49665	撃ちて止まむ(銃後戦陣訓)	谷萩少将(陸軍報道部長)		43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
49666	ガンジーの断食と印度独立(対談)	野口米次郎	4	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	座談会		
49667	ガンジーの断食と印度独立(対談)	古垣鉄郎	4	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	座談会		
49668	低音に挑む	小沢通彦	7	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	随筆		
49669	フリー・メーソンの暗躍	新明希子	9	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	随筆		
49670	ニューギニヤより帰りて	矢沢清治郎	11	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
49671	日本製鉄技術の勝利	葦田輝	13	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
49672	烽煙(小説ー九)	尾崎士郎	15	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争小説		
49673	フクチヤンの工場見学	古賀殘星	18	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	随筆		
49674	オフセット			43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	グラビア		
49675	無敵陸軍	丸山薫		43-10,	1943(昭和18)年3月14日号		軍事	
49676	欧亜戦局の布石(着色地図)	島之夫		43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
49677	勤皇史蹟行脚(三)	貴司山治	23	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争	随筆	
49678	前線銃後談話室		26	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
49679	昭南神社鎮座祭	美川きよ	28	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
49680	馬来茶話	徳川夢声	30	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
49681	内外時評	太田正孝	31	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	社会		
49682	黒田如水(小説ー十)	吉川英治	34	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	大衆小説		
49683	昇降段番附棋戦	小泉八段	38	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	娯楽		
49684	昭和防人の歌		8	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	文芸	戦争	
49685	百文字戦線だより		26	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
49686	百文字故国だより		27	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	文芸		
49687	詰将棋		38	43-10,	1943(昭和18)年3月14日号	娯楽		
49688	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年三月二十一日号(第四十三巻十一号)目次**			43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	題号	その他	
49689	表紙 「大空の捨身」	田村孝之介		43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争	表紙	グラビア
49690	決戦生活と税金(銃後戦陣訓)	大野龍太(金融金庫副総裁)		43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
49691	撃攘の精神	斉藤忠	4	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
49692	決戦生活の切下げと合理化(鼎談会)	三宅正一	6	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	座談会		
49693	決戦生活の切下げと合理化(鼎談会)	谷川昇	6	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	座談会		
49694	決戦生活の切下げと合理化(鼎談会)	小田倉一	6	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	座談会		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49695	世界一の強いスフ	吹田淳	11	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	社会		
49696	烽煙(小説－十)	尾崎士郎	13	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争小説		
49697	映画時評	津村秀夫	17	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	映画		
49698	馬来茶話	徳川夢声	18	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
49699	グラヴュア			43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	グラビア		
49700	明日に戦ふ少年兵▽前線銃後談話室▽造船所へ土俵入り			43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
49701	勤皇史蹟行脚(四)	貴司山治	27	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争	随筆	
49702	特集　南北土産話	米山保	29	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
49703	特集　南北土産話	鳥海一郎	29	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
49704	特集　南北土産話	堤生	29	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
49705	内外時評	太田正孝	35	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	社会		
49706	黒田如水(小説－十一)	吉川英治	38	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	大衆小説		
49707	昇降段番附棋戦	小泉八段	42	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	娯楽		
49708	昭和防人の歌		8	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	文芸	戦争	
49709	連載漫画		16	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	漫画		
49710	詰将棋		42	43-11,	1943(昭和18)年3月21日号	娯楽		
49711	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年三月二十八日号(第四十三巻十二号)目次**			43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	題号	その他	
49712	表紙 「逞しき青春」	清水茂郎		43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争	表紙	グラビア
49713	海外同胞を見殺しにすな(銃後戦陣訓)	丸山鶴吉(貴族院議員)	3	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
49714	ミゾラの氷地獄	中川健	4	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
49715	敵米は同胞を如何に虐待したか！(鼎談会)	佐藤建夫	6	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	座談会		
49716	敵米は同胞を如何に虐待したか！(鼎談会)	赤尾一郎	6	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	座談会		
49717	敵米は同胞を如何に虐待したか！(鼎談会)	荒垣秀雄	6	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	座談会		
49718	赤十字通信とは		8	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
49719	比島人の算数(南方朗漫誌)	今日出海	11	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	社会		
49720	アルミニウム物語	所武雄	14	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	科学		
49721	烽煙(小説－十一)	尾崎士郎	15	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争小説		
49722	南方圏の動物	岡田生	18	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
49723	オフセット			43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	グラビア		
49724	岳州の宣撫班▽南方圏の動物地図			43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
49725	勤皇史蹟行脚(一)	火野葦平	23	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争	随筆	
49726	－下関要塞司令部検閲済－			43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
49727	戦線銃後談話室		26	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
49728	三月東都芝居評	安三郎	28	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	芸能		
49729	ビルマの筍	黒川五郎	29	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	家庭		
49730	内外時評	太田正孝	31	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	社会		
49731	黒田如水(小説－十二)	吉川英治	34	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	大衆小説		
49732	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	38	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	娯楽		
49733	昭和防人の歌		8	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	文芸	戦争	
49734	百文字戦線だより		26	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
49735	百文字故国だより		27	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	文芸		
49736	連載漫画		37	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	漫画		
49737	詰将棋		37	43-12,	1943(昭和18)年3月28日号	娯楽		
49738	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年四月四日号(第四十三巻十三号)目次**			43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	題号	その他	
49739	表紙 「ジャワ停甫場」	石川滋彦		43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争	表紙	グラビア

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49740	味噌汁、沢庵の技術(銃後戦陣訓)	内閣顧問鈴木忠治	3	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
49741	米鬼・獣英を抉る	天野芳太郎	4	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
49742	世界戦局の展望	佐々木克己	6	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
49743	バーモ長官の横顔	大木栄一	9	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
49744	新生ビル防衛軍	松井透	10	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
49745	戦時下の輸送機	橋口義男	11	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
49746	南方の楽園ボルネオを語る(対談)	渡辺敬吉	13	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	座談会		
49747	南方の楽園ボルネオを語る(対談)	棟尾松治	13	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	座談会		
49748	顔と心(南方朗漫誌)	北村小松	18	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
49749	グラヴュア			43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	グラビア		
49750	馬を科学する殿堂▽前線銃後談話室▽枢軸映画二種			43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
49751	烽煙(小説－十二)	尾崎士郎	27	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争小説		
49752	勤皇史蹟行脚(二)	火野葦平	31	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争	随筆	
49753	「誓ひの会」について	石川達三	33	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	文芸		
49754	内外時評	太田正孝	35	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	社会		
49755	黒田如水(小説－十三)	吉川英治	38	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	大衆小説		
49756	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	42	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	娯楽		
49757	昭和防人の歌		8	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	文芸	戦争	
49758	連載漫画		30	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	漫画		
49759	大東亜日誌		36	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争	社会	
49760	詰将棋		41	43-13,	1943(昭和18)年4月4日号	娯楽		
49761	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年四月十一日号(第四十三巻十四号)目次**			43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	題号	その他	
49762	表紙 「馬の春」	東山魁夷		43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争	表紙	グラビア
49763	科学技術者に対する要望(銃後戦陣訓)	長岡半太郎	3	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
49764	浄火永へに燃ゆ！	上田広	4	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
49765	米鬼・獣英を抉る	井沢弘	6	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
49766	馬強ければ国強し	石浜金作	8	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
49767	決戦へ科学を動員せよ(対談)	八木秀次	10	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	座談会		
49768	決戦へ科学を動員せよ(対談)	仁科秀雄	10	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	座談会		
49769	爆風と窓ガラス	葦田輝	14	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
49770	烽煙(小説－十三)	尾崎士郎	15	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争小説		
49771	オフセット			43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	グラビア		
49772	前線の時計屋さん	三田康		43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
49773	さくらさまざま	畝田幸爾路		43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
49774	原住民の心(南方朗漫誌)	北原武夫	23	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	社会		
49775	勤皇史蹟行脚(三)	火野葦平	24	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争	随筆	
49776	春の低山歩き	深田久弥	27	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
49777	前線銃後談話室		28	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
49778	映画時評	津村秀夫	30	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	映画		
49779	内外時評	太田正孝	31	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	社会		
49780	黒田如水(小説－十四)	吉川英治	34	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	大衆小説		
49781	昇降段番附棋戦	小泉八段	38	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	娯楽		
49782	昭和防人の歌		9	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	文芸	戦争	
49783	連載漫画		26	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	漫画		
49784	百文字故国だより		28	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	文芸		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49785	百文字戦線だより		29	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
49786	詰将棋		38	43-14,	1943(昭和18)年4月11日号	娯楽		
49787	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年四月十八日号(第四十三巻十五号)目次**			43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	題号	その他	
49788	表紙 「防空訓練」	戸田定		43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争	表紙	グラビア
49789	民防空の第一線(銃後戦陣訓)	陸軍中将河村恭輔	3	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争		
49790	いざ空襲にこの備え！(対談)	上田誠一	4	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	座談会	戦争	
49791	いざ空襲にこの備え！(対談)	竹村文祥	4	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	座談会	戦争	
49792	学徒の体育訓練	木村象雷	8	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争		
49793	氏家局長と貯金問答	藤田武雄	11	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	社会	人物	
49794	軍用オートヂヤイロ	三木鉄夫	13	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争		
49795	烽煙(小説－十四)	尾崎士郎	15	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争小説		
49796	グラヴュア			43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	グラビア		
49797	岩盤に火花散る▽私の緬羊と兎▽南のタバコ▽春は白衣に萌えて			43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	家庭		
49798	勤皇史蹟行脚(四)	火野葦平	27	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争	随筆	
49799	南の王様物語	神谷諦雅	29	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争		
49800	台湾の戦時色	丹羽文雄	32	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争		
49801	ペリーの一夜(南方朗漫誌)	大江賢次	34	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	社会		
49802	内外時評	太田正孝	35	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	社会		
49803	黒田如水(小説－十五)	吉川英治	38	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	大衆小説		
49804	昇降段番附棋戦	小泉八段	42	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	娯楽		
49805	昭和防人の歌		7	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	文芸	戦争	
49806	詰将棋		41	43-15,	1943(昭和18)年4月18日号	娯楽		
49807	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年四月二十五日号(第四十三巻十六号)目次**			43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	題号	その他	
49808	表紙 「春の開拓訓練所」	足立源一郎		43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争	表紙	グラビア
49809	拝金、米英と共に滅ぶ(週間の言葉)		3	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	社会		
49810	近代戦と食糧	片柳真吉	4	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
49811	内外時評	太田正孝	8	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	社会		
49812	銃後の姿	芳賀檀	8	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
49813	戦時下の栄養(対談)	井上兼雄	11	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	座談会	戦争	
49814	戦時下の栄養(対談)	沢崎梅子	11	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	座談会	戦争	
49815	米本土を狙ふ独荒鷲	松浦四郎	14	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
49816	南方朗漫誌			43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	社会		
49817	誠実は横顔のやうに	寺崎浩	16	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
49818	ヤンキー気質	今日出海	17	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
49819	東都四月劇評	安三郎	18	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	芸能		
49820	オフセット色刷			43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	グラビア		
49821	伸びていく	恩地孝四郎		43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
49822	最近の敵機	小森郁雄		43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
49823	勤皇史蹟行脚(五)	火野葦平	23	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争	随筆	
49824	前線銃後談話室		26	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
49825	スマトラの旅から	渡辺綱雄	28	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
49826	防空服装日(漫画)		30	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	漫画		
49827	五月の野菜園	清王寺秀蔵	31	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	家庭		
49828	大西洋の脅威	丸山直一	32	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
49829	黒田如水(小説－十六)	吉川英治	34	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	大衆小説		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49830	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	38	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	娯楽		
49831	昭和防人の歌		7	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	文芸	戦争	
49832	百文字戦線だより		26	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
49833	百文字故国だより		27	43-16,	1943(昭和18)年4月25日号	文芸		
49834	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年五月二日号(第四十三巻十七号)目次**			43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	題号	その他	
49835	表紙 「哨海」	林唯一		43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争	表紙	グラビア
49836	日本的教育の確立(週間の言葉)		3	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	教育		
49837	敵戦闘機の真価を衝く	斉藤寅郎	4	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号		軍事	
49838	科学技術の功績	藤沢威雄	6	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	科学		
49839	内外時評	太田正孝	7	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	社会		
49840	銃後の姿	芳賀檀	8	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争		
49841	新しき海戦の様相(対談)	中島権吉	10	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	座談会		
49842	新しき海戦の様相(対談)	斉藤忠	10	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	座談会		
49843	勤皇史蹟行脚(一)	海音寺潮五郎	15	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争	随筆	
49844	移動する女学生	深沢省三	18	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	教育		
49845	援蒋輸血路地図		19	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争		
49846	護送船団は戦ふ	福永恭助	20	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争		
49847	現地での或る経験(南方朗漫誌)	高見順	22	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	社会		
49848	前線銃後談話室		24	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争		
49849	五月の釣	青山浩	26	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	娯楽		
49850	防空の春(漫画)		27	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	漫画		
49851	鍬の尖兵と語る	小沢通彦	28	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争		
49852	黒田如水(小説－十七)	吉川英治	30	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	大衆小説		
49853	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	34	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	娯楽		
49854	昭和防人の歌		14	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	文芸	戦争	
49855	百文字戦線だより		24	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争		
49856	百文字故国だより		25	43-17,	1943(昭和18)年5月2日号	文芸		
49857	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年五月九日号(第四十三巻十八号)目次**			43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	題号	その他	
49858	表紙 「撃滅の火蓋」	奥瀬英三		43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	戦争	表紙	グラビア
49859	東條首相の果断性(週間の言葉)		3	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	政治	人物	
49860	内閣改造の齎すもの	有竹修二	4	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	政治		
49861	新しき体道の樹立	三橋喜久雄	6	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	戦争		
49862	邀撃(記録小説)	浜本浩	8	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	大衆小説		
49863	山口、加来、両提督を読ふ(和歌)	前田夕暮	8	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	文芸		
49864	山口、加来、両提督を読ふ(和歌)	五島美代子	9	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	文芸		
49865	熊谷陸軍飛行学校見聞記	尾崎士郎	12	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	軍事		
49866	勤皇史蹟行脚(二)	海音寺潮五郎	15	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	戦争	随筆	
49867	海軍爆撃体の基地	三田康	18	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	軍事		
49868	呂宋島宣伝小隊(南方朗漫誌)	田中佐一郎	20	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	社会		
49869	天翔ける軽合金	葦田輝	22	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	戦争		
49870	成年の街(随筆)	渋沢秀雄	24	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	随筆		
49871	健民運動(漫画)		26	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	漫画		
49872	内外時評	太田正孝	27	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	社会		
49873	銃後の姿	芳賀檀	27	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	戦争		
49874	黒田如水(小説－十八)	吉川英治	30	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	大衆小説		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49875	昇降段番附棋戦	小泉八段	34	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	娯楽		
49876	昭和防人の歌		10	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	文芸	戦争	
49877	大東亜日誌		29	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	戦争	社会	
49878	囲碁研究篇		34	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	娯楽		
49879	詰将棋		34	43-18,	1943(昭和18)年5月9日号	娯楽		
49880	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年五月十六日号(第四十三巻十九号)目次**			43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	題号	その他	
49881	表紙 「神兵天降る」	宮本三郎		43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争	表紙	グラビア
49882	五月と大戦(扉)		3	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争		
49883	我が造艦技術の躍進！(対談会)	永村中将	4	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	座談会		
49884	我が造艦技術の躍進！(対談会)	佐藤中将	4	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	座談会		
49885	文化勲章に輝く人々	相島敏夫	8	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	文芸		
49886	勤皇史蹟行脚(三)	海音寺潮五郎	9	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争	随筆	
49887	両提督の忠魂を偲ぶ	石川達三	12	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争		
49888	ドゥーリトルといふ男	福地栄	12	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争		
49889	オフセット			43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	グラビア		
49890	落下傘部隊を讃ふ	上田広		43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争		
49891	ブギスの音楽	新延修三		43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争		
49892	果物と女の足	林芙美子		43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争		
49893	映画時評	津村秀夫	23	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	映画		
49894	前線銃後談話室		24	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争		
49895	南方島嶼の兵食	川島四郎	26	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	家庭		
49896	内外時評	太田正孝	28	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	社会		
49897	銃後の姿	芳賀檀	28	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争		
49898	黒田如水(小説－十九)	吉川英治	31	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	大衆小説		
49899	昭和防人の歌		6	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	文芸	戦争	
49900	大東亜日誌		30	43-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争	社会	
49901	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年五月二十三日号(第四十三巻二十号)目次**			43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	題号	その他	
49902	表紙 「鈸鯨スコールをつく」	白石隆一		43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争	表紙	グラビア
49903	首相、女子動員、国技(扉)		3	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	政治		
49904	東條首相の訪比	益田豊彦	4	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	政治	人物	
49905	女子の勤労動員	武井厚生次官	5	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争		
49906	銃後の姿	芳賀檀	7	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争		
49907	内外時評	太田正孝	7	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	社会		
49908	潜水艦戦記	平手朗	10	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争		
49909	海軍とガラス	会田軍太夫	14	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	軍事		
49910	南方朗漫誌			43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	社会		
49911	ジャワの夜はガメロンで	林芙美子	16	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争	随筆	
49912	淡路・沼島を探る	島之夫	18	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争		
49913	わが制圧下の南太平洋(地図)		19	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争		
49914	夏場所展望	舟橋聖一	20	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	スポーツ		
49915	共栄圏の象(随筆)	須川邦彦	22	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	随筆		
49916	勤皇史蹟行脚(四)	海音寺潮五郎	24	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争	随筆	
49917	崑布を植ゑよう	多田一郎	27	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	家庭		
49918	東都五月劇評	安三郎	28	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	芸能		
49919	物資輸送あの手この手		29	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49920	黒田如水(小説－二十)	吉川英治	30	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	大衆小説		
49921	昇降段番附棋戦	小泉八段	34	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	娯楽		
49922	大東亜日誌		9	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争	社会	
49923	昭和防人の歌		12	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号	文芸	戦争	
49924	無敵海軍		23	43-20,	1943(昭和18)年5月23日号		軍事	
49925	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年五月三十日号(第四十三巻二十一号)目次**			43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	題号	その他	
49926	表紙 「必勝絵馬」	川端龍子		43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争	表紙	グラビア
49927	日本海海戦と太平洋の海戦(扉)		3	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
49928	学徒よ空に挺身せよ！(座談会)	富田少佐	4	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	座談会		
49929	学徒よ空に挺身せよ！(座談会)	田村中尉	4	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	座談会		
49930	学徒よ空に挺身せよ！(座談会)	山内中尉	4	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	座談会		
49931	アッツ島風土記	杉山吉良	8	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
49932	生必物資動員計画とは	広岡知男	10	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	芸術		
49933	デング熱の正体	矢追秀武	12	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	科学		
49934	反枢軸日誌より(漫画)		14	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	漫画		
49935	グラビアの頁			43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	グラビア		
49936	魚雷の過、現、未	大井上博		43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
49937	南方朗漫誌	林芙美子		43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	社会		
49938	前線銃後談話室　百文字だより			43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
49939	海軍記念日に拾う			43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	軍事		
49940	Z旗を掲げた思出を聞く	鳥海一郎	23	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
49941	海だ男の行くところ	米山保	25	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
49942	夏場所観戦記	舟橋聖一	27	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	スポーツ		
49943	内外時評	太田正孝	28	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	社会		
49944	銃後の姿	芳賀檀	28	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
49945	黒田如水(小説－二十一)	吉川英治	31	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	大衆小説		
49946	昭和防人の歌		7	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	文芸	戦争	
49947	詰将棋		34	43-21,	1943(昭和18)年5月30日号	娯楽		
49948	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年六月六日号(第四十三巻二十二号)目次**			43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	題号	その他	
49949	表紙 「黎族の女」	深沢省三		43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争	表紙	グラビア
49950	山本提督を弔ふ(扉)		3	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49951	太平洋の守護神・山本元帥			43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49952	山本元帥の戦死	三宅雪嶺	4	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49953	病院船の提督	浜本浩	6	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	家庭		
49954	静かなる凱旋	吉田絃二郎	7	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49955	山本提督を憶ふ	佐藤中将	8	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49956	瞼の高野候補生	市川恵治	9	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49957	崇高の死に挙国奮起(名士追悼)		5	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49958	挽歌			43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	文芸		
49959	戦死を弔す	野口米次郎	5	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49960	あゝ山本元帥	窪田空穂	7	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49961	元帥を偲ぶ	土屋文明	8	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49962	「農の日」を制定せよ	石黒農林次官	11	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49963	「農の日」を制定せよ	吉植庄亮		43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49964	明治天皇と慶事	木村毅	14	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
49965	爪哇の蜜蜂	松井翠声	16	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	家庭		
49966	夏季攻勢と欧州戦局	丸山政男	18	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49967	鰮から乾性油を	葦田輝	20	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	家庭		
49968	勤皇史蹟行脚(一)	尾崎士郎	22	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争	随筆	
49969	鮎解禁と釣場	青山浩	26	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	娯楽		
49970	鮎解禁と釣場	加藤登		43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	娯楽		
49971	夏場所観戦記	紫帯刀	27	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	スポーツ		
49972	内外時評	太田正孝	28	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	社会		
49973	銃後の姿	白石凡	28	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49974	黒田如水(小説－二十二)	吉川英治	31	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	大衆小説		
49975	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	34	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	娯楽		
49976	昭和防人の歌		15	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	文芸	戦争	
49977	南に拾ふ		17	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
49978	映画時評		25	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	映画		
49979	詰将棋		34	43-22,	1943(昭和18)年6月6日号	娯楽		
49980	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年六月十三日号(第四十三巻二十三号)目次**			43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	題号	その他	
49981	表紙 「南方の女」	今井繁三郎		43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争	表紙	グラビア
49982	アッツ島魂に応へん(扉)		3	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49983	英魂に哭く			43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49984	アッツの闘魂	池田源治	4	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49985	英霊に酬ゆる心	荒木大将	5	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49986	勇魂を讃ふ(詩)	安西冬衛	5	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	文芸		
49987	噫！アッツ島(歌)	大坪草二郎	5	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	文芸		
49988	神将・山本元帥(座談会)		6	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	座談会		
49989	崇高の死に挙国奮起(名士追悼)		6	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49990	一億敬慕の元帥邸	渡辺綱雄	10	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49991	生きてゐる旋盤	立野信之	12	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49992	苦悶する重慶	蔵居良造	14	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49993	オフセットの頁(色刷)			43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	グラビア		
49994	素朴な彼等	寒川光太郎		43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
49995	田植頃	日田甚五郎		43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	家庭		
49996	前線銃後座談会、百文字だより、早乙女三題(漫画)			43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
49997	若葉の匂ひ	飯田蛇笏	23	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	家庭		
49998	勤皇史蹟行脚(二)	尾崎士郎	24	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争	随筆	
49999	内外時評	太田正孝	29	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	社会		
50000	銃後の姿	白石凡	29	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
50001	黒田如水(小説－二十三)	吉川英治	32	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	大衆小説		
50002	大東亜日誌		31	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争	社会	
50003	詰将棋		34	43-23,	1943(昭和18)年6月13日号	娯楽		
50004	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年六月二十日号(第四十三巻二十四号)目次**			43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	題号	その他	
50005	表紙 「伸びよ　早苗」	清水良雄		43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争	表紙	グラビア
50006	臨時議会をめぐる情熱(扉)		3	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	政治		
50007	国葬を仰ぐ	吉川英治	4	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50008	忘るな服喪の一週間	本誌記者	5	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	社会		
50009	アッツの戦友を偲ぶ	本誌記者	7	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
50010	決戦衣服	入江徳郎	9	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50011	皇軍南方戦記	〇〇中佐	10	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50012	勤皇史蹟行脚(三)	尾崎士郎	13	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争	随筆	
50013	粉末合成樹脂登場	鳥海一郎	16	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50014	神将呱々の家	所武雄	18	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	随筆		
50015	前線銃後談話室	佐藤三郎	20	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50016	前線銃後談話室	山路真護		43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50017	三人の義農	米山保	22	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50018	南方朗漫誌	海音寺潮五郎	25	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	社会		
50019	臨時議会と法案	今井俊	26	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	政治		
50020	内外時評	太田正孝	27	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	社会		
50021	銃後の姿	白石凡	27	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50022	黒田如水(小説－二十四)	吉川英治	30	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	大衆小説		
50023	日本棋院大手合血戦譜	呉清源	34	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	娯楽		
50024	昭和防人の歌		12	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	文芸	戦争	
50025	百文字戦線、故国だより		20	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
50026	大東亜日誌		29	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争	社会	
50027	将棋新戦術と詰将棋		34	43-24,	1943(昭和18)年6月20日号	娯楽		
50028	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年六月二十七日号(第四十三巻二十五号)目次**			43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	題号	その他	
50029	表紙 「人道の敵！」	北沢楽天		43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争	表紙	グラビア
50030	扉　世界一の漫画材料		3	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	漫画		
50031	アリューシヤンに従軍して(座談会)	広石少佐	4	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	座談会		
50032	アリューシヤンに従軍して(座談会)	加藤顕清	4	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	座談会		
50033	アリューシヤンに従軍して(座談会)	吉岡専造	4	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	座談会		
50034	アリューシヤンに従軍して(座談会)	上野山清貢	4	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	座談会		
50035	アリューシヤンに従軍して(座談会)	高橋真一郎	4	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	座談会		
50036	ダツチ・ハーバー空襲を回顧する	斉藤信(特派員)	4	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争		
50037	健民・健歯・祖国	山崎清	8	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争		
50038	決戦武道を語る	高野範士	10	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争		
50039	決戦武道を語る	三船範士		43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争		
50040	敵国陣営撃破号(漫画)		11	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争	漫画	
50041	オフセットの頁(色刷漫画)			43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	漫画		
50042	敵国陣営撃破号(漫画)		23	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争	漫画	
50043	内外時評	太田正孝	27	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	社会		
50044	銃後の姿	白石凡	27	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争		
50045	ワー族の生態	日高特派員	30	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争		
50046	黒田如水(小説－二十五)	吉川英治	31	43-25,	1943(昭和18)年6月27日号	大衆小説		
50047	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年七月四日号(第四十四巻一号)目次**			44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	題号	その他	
50048	表紙 「清麗」	桑重清		44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争	表紙	グラビア
50049	総ての道は決戦に向けらるる(扉)		3	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50050	臨時議会終る	池月鯨太郎	4	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	政治		
50051	ボース氏は叫ぶ	河野健治	6	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	社会	人物	
50052	比島訪問記	火野葦平	8	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50053	元帥物語	木村毅	10	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50054	学徒航空座談会	寺井中佐	11	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	座談会		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
50055	学徒航空座談会	大室貞一郎	11	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	座談会		
50056	学徒航空座談会	杉山謙治	11	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	座談会		
50057	学徒航空座談会	奥井復太郎	11	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	座談会		
50058	航空予備学生の手記	野村親正	12	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50059	航空予備学生の手記	鈴木利貞	12	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50060	航空予備学生の手記	坂本志郎	12	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50061	航空予備学生の手記	大橋新三	12	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50062	航空予備学生の手記	松本孝	12	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50063	南方朗漫誌	石川滋彦	15	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	社会		
50064	無駄なく食べよう	下田吉人	16	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	家庭		
50065	支那事変特集			44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	グラビア		
50066	清郷工作	須田禎一	18	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50067	山崎大佐のことども	町田敬二	20	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50068	発足した東京都	星野政雄	22	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50069	勤皇史蹟行脚(四)	尾崎士郎	24	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争	随筆	
50070	内外時評	太田正孝	27	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	社会		
50071	銃後の姿	白石凡	27	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50072	黒田如水(小説－二十六)	吉川英治	30	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	大衆小説		
50073	昇降段番附棋戦		34	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	娯楽		
50074	銃後前線百文字だより		6	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
50075	昭和防人の歌		21	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	文芸	戦争	
50076	大東亜日誌		29	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争	社会	
50077	囲碁研究篇		34	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	娯楽		
50078	詰将棋		34	44-1,	1943(昭和18)年7月4日号	娯楽		
50079	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年七月十一日号(第四十四巻二号)目次**			44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	題号	その他	
50080	表紙 「北支風景」	川島理一郎		44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争	表紙	グラビア
50081	支那事変の意義を忘るな(扉)		3	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	グラビア		
50082	日支の融和を確信する(座談会)	火野葦平	4	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	座談会		
50083	日支の融和を確信する(座談会)	上田広	4	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	座談会		
50084	日支の融和を確信する(座談会)	笹岡了一	4	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	座談会		
50085	日支の融和を確信する(座談会)	杉本少佐	4	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	座談会		
50086	日支の融和を確信する(座談会)	宮田重雄		44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	座談会		
50087	皇后陛下を村道に拝す	吉植庄亮	6	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50088	列国の学徒動員	神古百市	8	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50089	列国の学徒動員	中野五郎	8	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50090	列国の学徒動員	福井文雄	8	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50091	列国の学徒動員	前田義徳	8	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50092	列国の学徒動員	丸山政男	8	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50093	長距離洋上航法	斧和夫	10	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50094	ビルマの闘士	高見順	12	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50095	ラジオ時評	安三郎	14	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	娯楽		
50096	グラビヤの頁			44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	グラビア		
50097	戦時生活の新風景			44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50098	軍用犬と大演奏団	所武雄		44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50099	山の奥に子供の天国	所武雄		44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	家庭		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
50100	合言葉“服装維新”	小沢通彦		44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	家庭		
50101	遅れる映画	津村秀夫	23	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	映画		
50102	勤皇史蹟行脚(五)	尾崎士郎	24	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争	随筆	
50103	大達さんの横顔	藤田義光	27	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50104	内外時評	太田正孝	28	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	社会		
50105	銃後の姿	白石凡	28	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
50106	黒田如水(小説－二十七)	吉川英治	31	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	大衆小説		
50107	大東亜日誌		30	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争	社会	
50108	詰将棋		34	44-2,	1943(昭和18)年7月11日号	娯楽		
50109	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年七月十八日号(第四十四巻三号)目次**			44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	題号	その他	
50110	表紙 「南の船」	村松乙彦		44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争	表紙	グラビア
50111	夏の上衣無用の問題(扉)		3	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	社会		
50112	地方協議会長九氏の横顔	万木英一郎	4	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	政治		
50113	地方協議会長九氏の横顔	八幡次郎	4	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	政治		
50114	西南太平洋戦に従軍して	倉地武雄	7	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争		
50115	夏は上衣を脱ぎませう	本誌記者	10	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	家庭		
50116	上海の今昔	須田禎一	11	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争		
50117	国府軍座談会	張中将	13	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	座談会		
50118	国府軍座談会	上田少佐	13	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	座談会		
50119	国府軍座談会	劉少将	13	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	座談会		
50120	国府軍座談会	陳少将	13	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	座談会		
50121	国府軍座談会	張少将	13	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	座談会		
50122	国府軍座談会	鄭少将	13	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	座談会		
50123	七月の園芸	西清蔵	15	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	家庭		
50124	鰐を食ふ	近藤日出造	16	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	家庭		
50125	西亜戦線を衝く	鈴木孝夫	18	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争		
50126	画期的な航空燃料	鳥海一郎	20	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	芸術		
50127	新しい家庭防空	宮地直邦	22	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	家庭		
50128	勤皇史蹟行脚(一)	村松梢風	24	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争	随筆	
50129	内外時評	太田正孝	27	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	社会		
50130	銃後の姿	白石凡	27	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争		
50131	歯槽膿漏に就て	景山博水	30	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	家庭		
50132	黒田如水(小説－二十八)	吉川英治	31	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	大衆小説		
50133	昇降段番附棋戦	小泉八段	34	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	娯楽		
50134	昭和防人の歌		20	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	文芸	戦争	
50135	大東亜日誌		29	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争	社会	
50136	囲碁研究篇		34	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	娯楽		
50137	詰将棋		34	44-3,	1943(昭和18)年7月18日号	娯楽		
50138	**★『週刊朝日』一九四三(昭和十八)年七月二十五日号(第四十四巻四号)目次**			44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	題号	その他	
50139	表紙 「輸送船団」	石川滋彦		44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争	表紙	グラビア
50140	学生層こそ日本の鉄石層(扉)		3	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	教育		
50141	◇海の記念日特集◇			44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	その他	見出し	
50142	海国日本の武(詩)	佐藤春夫	4	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	文芸		
50143	胸の中の波音	石川達三	4	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	文芸		
50144	南海の前線基地の激闘	斉藤忠	6	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争		

資料III-1　週刊朝日1943年1-7月　目次

ID	記　事　名	執筆者	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
50145	内外時評	太田正孝	8	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	社会		
50146	銃後の姿	白石凡	8	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争		
50147	海軍水雷学校見学記	本誌記者	11	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	軍事		
50148	南方朗漫誌	角田喜久雄	13	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	社会		
50149	グラビアの頁			44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	グラビア		
50150	戦時生活の新風景			44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争		
50151	栄養戦士たち▽厚生盆踊り	渡辺綱雄		44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	芸能		
50152	古代印度の美	鳥海一郎		44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	家庭		
50153	勤皇史蹟行脚(二)	村松梢風	23	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争	随筆	
50154	七月の東京芝居	安三郎	26	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争		
50155	印度の独立の鏑矢	三宅雪嶺	28	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争		
50156	陸軍航空見習士官問答	藤井恒男	30	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	軍事		
50157	黒田如水(小説－二十九)	吉川英治	31	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	大衆小説		
50158	昭和防人の歌		14	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	文芸	戦争	
50159	百文字戦線だより		27	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	文芸		
50160	大東亜日誌		30	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争	社会	
50161	詰将棋		34	44-4,	1943(昭和18)年7月25日号	娯楽		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47066	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年一月三日・十日合併号(第二十二巻一号)**			22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	その他	題号	
47067	表紙　新春	堂本印象		22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	グラビア		
47068	オフセット			22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	その他	見出し	
47069	愛国百人一首抄	矢野橋村　野田九浦　福岡青	3	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47070	梅花一枝	佐佐木信綱(画)川端龍子	11	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	小説		
47071	大東亜戦争第二年の春	高石真五郎	12	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
47072	歴史に仰ぐ御勅願	中村孝也	14	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47073	東條首相(今週の人)	野山草吉	17	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	政治	人物	
47074	太平洋縦横談(高橋三吉大将)	(訊く人)久米正雄	18	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
47075	四苦八苦の三人男(漫画)		26	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	漫画		
47076	新春随想			22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47077	画をかくこと	武者小路実篤	28	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47078	興隆第二春	大森洪太	29	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47079	文化の更生へ	大倉邦彦	30	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47080	簡素の美	茅野雅子	31	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47081	化学兵器を語る(座談会)		26	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	軍事	座談会	
47082	名馬の行方(小説－一)	野村胡堂(画)志村立美	38	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	大衆小説		
47083	グラフ			22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	グラビア		
47084	農村新年		43	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	社会		
47085	特集・航空母艦		44	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	軍事		
47086	窓辺の佳人(小説)	堤千代(画)岩田専太郎	51	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	大衆小説		
47087	世界平和の放火犯人	白柳秀湖	59	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47088	豊太閤と大東亜共栄圏	渡辺世祐	64	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	随筆		
47089	愛国かるたとりの必勝戦法	村松久義	68	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	戦争		
47090	春場所評判記	相馬基	70	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	スポーツ		
47091	新春の映画陣	南部圭之助	74	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	映画		
47092	清流(小説－一)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	76	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	小説		
47093	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		82	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	娯楽	文芸	科学
47094	オフセット			22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	その他	見出し	
47095	佐藤兄弟の妻(戯曲)	橋本関雪	83	22-1,	1943(昭和18)年1月3日・10日合併号	芸能		
47096	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年一月十七日号(第二十二巻二号)**			22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	その他	題号	
47097	表紙　雪国の春	堂本印象		22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	グラビア		
47098	勝ち抜くために(巻頭言)		3	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争		
47099	第八十一議会の意義と動向	筒井千尋	4	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	政治		
47100	“心の米英”を去れ	秋山謙蔵	8	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争		
47101	前田米藏(今週の人)	野山草吉	11	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	人物		
47102	南方文化戦士として	井伏鱒二	12	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	戦争		
47103	水と茶(随想)	小杉放庵	16	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	随筆		
47104	週間時事		16	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	社会		
47105	清流(小説－二)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	18	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	小説		
47106	オフセット			22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	その他	見出し	
47107	鳥けもの絵巻	阿部真之助(画)小山内龍	23	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	グラビア		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47108	名馬の行方(小説－二)	野村胡堂(画)志村立美	31	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	大衆小説		
47109	駐日独大使更迭(週間時評)	丸山幹治	36	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	社会		
47110	戒克の話	小林幸祐	38	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	随筆		
47111	部落を救つた青年達	小笠原秀昱	40	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	随筆		
47112	戦勝の春(漫画)		44	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	漫画		
47113	春場所に魁けて	舟橋聖一	46	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	スポーツ		
47114	海戦の前夜(誌上映画)		48	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	映画		
47115	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		50	22-2,	1943(昭和18)年1月17日号	娯楽	文芸	科学
47116	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年一月二十四日号(第二十二巻三号)**			22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	その他	題号	
47117	表紙　マニラ風景	向井潤吉		22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	グラビア		
47118	一事が万事(巻頭言)		3	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
47119	国府の宣戦布告	横田高明	4	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
47120	北阿に於ける米英の確執	小林勇	9	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
47121	米大統領の教書(週間時評)	丸山幹治	12	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	社会		
47122	南方文化戦士として	今日出海	14	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
47123	清流(小説－三)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	18	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	小説		
47124	グラフ			22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	グラビア		
47125	鍛へる海軍落下傘部隊		23	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
47126	名馬の行方(小説－完)	野村胡堂(画)志村立美	27	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	大衆小説		
47127	随想			22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	随筆		
47128	九段	木村荘八	32	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	随筆		
47129	使命の示唆	藤森成吉	32	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	随筆		
47130	尼寺に親しむ	山高しげり	33	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	随筆		
47131	今週の人	野山草吉	34	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	人物		
47132	ビルマの仏蹟めぐり		35	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	社会	戦争	
47133	寒釣	上田尚	41	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	娯楽		
47134	両国の肉弾戦	相馬基	42	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	戦争		
47135	演劇時評	三宅周太郎	45	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	芸能		
47136	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		46	22-3,	1943(昭和18)年1月24日号	娯楽	文芸	科学
47137	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年一月三十一日号(第二十二巻四号)**			22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	その他	題号	
47138	表紙　比島の娘	猪熊弦一郎		22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	グラビア		
47139	学制の画期的改革(巻頭言)		3	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	社会		
47140	戦塵余話(鼎談会)	火野葦平　上田広　柴田賢次	4	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	座談会		
47141	一艦を失はば二艦を造れ	氷村清	10	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	随筆		
47142	週間時事		10	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	社会		
47143	中国参戦と前大戦(週間時評)	丸山幹治	14	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	社会		
47144	田中都吉(今週の人)	野山草吉	16	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	人物		
47145	清流(小説－四)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	17	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	小説		
47146	随想			22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	随筆		
47147	敵国降伏	寺尾新	22	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	随筆		
47148	民族のうた	式場隆三郎	22	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	随筆		
47149	僕の軍刀	今日出海	23	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	随筆		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47150	隠密合戦(小説－一)	野村胡堂(画)志村立美	24	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	大衆小説		
47151	苦悶の米議会	高田市太郎	29	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	政治		
47152	勝抜くための増税	加賀信吉	32	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	経済		
47153	支那の租界	青木繁	35	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	社会	戦争	
47154	大相撲春場所	相馬基	38	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	スポーツ		
47155	燃料の話	岡部長節	41	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	随筆		
47156	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		42	22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	娯楽	文芸	科学
47157	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-4,	1943(昭和18)年1月31日号	その他	許可証名	
47158	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年二月七日号(第二十二巻五号)**			22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	その他	題号	
47159	表紙　氷下引網	福田豊四郎		22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	グラビア		
47160	増税の真意義(巻頭言)		3	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	経済		
47161	スキーは武技だ(戸山学校雪中行軍)	野地少将　村岡中佐	4	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	スポーツ		
47162	印度人記者従軍記	カサヴァガール	8	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
47163	週間時事		10	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会		
47164	黒い太陽を科学する	塙長一郎	12	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	科学		
47165	高田保馬(今週の人)	野山草吉	15	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	人物		
47166	第八十一議会の再休会明け(週間時評)	丸山幹治	16	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	政治		
47167	米英音盤の禁止(音楽時評)	吉田信	18	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	娯楽		
47168	オフセット			22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	その他	見出し	
47169	働く婦人の簡素美(絵と文)			22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会	職業	
47170	働く農村婦人	木下孝則	19	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会	職業	
47171	書店の娘さん	中西利雄	20	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会	職業	
47172	ラジオ工場に働く婦人	田村孝之介	21	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会	職業	
47173	従軍看護婦	佐藤敬	22	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		職業
47174	漁村の婦人	郷倉千靭	23	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会	職業	
47175	働くものの美しさ	仲田菊代	24	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会	職業	
47176	働く婦人の服装美	三岸節子	24	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	社会	職業	
47177	清流(小説－五)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	27	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	小説		
47178	マライの果物	若松宗一郎	32	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	随筆		
47179	大相撲春場所決戦記	相馬基	34	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	戦争		
47180	企画の貧困(映画時評)	清水千代太	36	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	映画		
47181	隠密合戦(小説－二)	野村胡堂(画)志村立美	37	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	大衆小説		
47182	川柳・囲碁・将棋		42	22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	娯楽	文芸	
47183	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-5,	1943(昭和18)年2月7日号	その他	許可証名	
47184	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年二月十四日号(第二十二巻六号)**			22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	その他	題号	
47185	表紙　雪の街	野口弥太郎		22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	グラビア		
47186	戦時標準生活の設計(巻頭言)		3	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
47187	決戦議会をのぞく	木村毅	4	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
47188	週間時事		4	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	社会		
47189	横山大観(今週の人)	野山草吉	7	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	人物		
47190	レンネル島沖に大戦果	山口基	8	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
47191	坪上大使に訊く	楢崎観一	10	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47192	南方文化戦士として	火野葦平	14	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
47193	首相初係の玄米食の陣頭指揮	浅井敏之	18	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	家庭		
47194	グラフ			22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	グラビア		
47195	雪の進軍氷を踏んで		19	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
47196	雪と闘ふ輸送の尖兵		20	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
47197	清流(小説ー六)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	23	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	小説		
47198	地を興す者・鹽谷大四郎	小笠原秀昱	27	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
47199	決戦議会再開(週間時評)	丸山幹治	30	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	戦争		
47200	随想			22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
47201	独り想ふ	菅井準一	32	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
47202	計画産業と自由産業	和辻春樹	32	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
47203	国学の滋味	芳賀檀	33	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	随筆		
47204	隠密合戦(小説ー三)	野村胡堂(画)志村立美	34	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	大衆小説		
47205	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		38	22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	娯楽	文芸	科学
47206	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-6,	1943(昭和18)年2月14日号	その他	許可証名	
47207	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年二月二十一日号(第二十二巻七号)**			22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	その他	題号	
47208	表紙　新嘉坡最後の日	栗原信		22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	グラビア		
47209	昭南生れて一年(巻頭言)		3	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
47210	新嘉坡陥落一周年(座談会)	里村欣三　栗原信　横田高明	4	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	座談会		
47211	(出席者)里村欣三　栗原信　横田高明　日高一郎			22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	その他	執筆者名	
47212	新嘉坡裏街道猛進記	〇〇部隊長	10	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
47213	寒稽古(俳句)	鈴鹿野風呂	13	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	文芸		
47214	南太平洋決戦の様相	新田義夫	14	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
47215	戦時の首相(週間時評)	丸山幹治	16	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
47216	週間時事		16	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	社会		
47217	血脇守之助(今週の人)	野山草吉	18	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	人物		
47218	色刷ページ			22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	グラビア		
47219	戦ふ兵士の表情	田辺穣	19	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
47220	雪の随想			22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	随筆		
47221	雪祭り	早川孝太郎	21	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	随筆		
47222	雪と農民	岩倉政治	21	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	随筆		
47223	雪の夜行軍	笹岡了一	22	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	随筆		
47224	欲深村の欲深穴物語	中村篤九	23	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	娯楽		
47225	清流(小説ー七)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	27	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	小説		
47226	南方文化戦士として	上田広	31	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	戦争		
47227	地を興す者・青砥武平治	渡部俠	34	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	随筆		
47228	出版界の革新	藤野耕作	37	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	随筆		
47229	隠密合戦(小説ー完)	野村胡堂(画)志村立美	38	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	大衆小説		
47230	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		42	22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	娯楽	文芸	科学
47231	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-7,	1943(昭和18)年2月21日号	その他	許可証名	
47232	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年二月二十八日号(第二十二巻八号)**			22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	その他	題号	
47233	表紙　早春	牧野虎雄		22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	グラビア		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47234	南方の協力と貯蓄(巻頭言)		3	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
47235	ソロモン戦局の回顧と希望	富永謙吾	4	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
47236	南太平洋の新段階(週間時評)	丸山幹治	8	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	社会		
47237	週間時事		8	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	社会		
47238	育英金庫の話	横山五市	10	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
47239	水野錬太郎(今週の人)	野山草吉	12	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	人物		
47240	南方随想	奥田教久	13	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
47241	南方文化戦士として	富沢有為男	16	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
47242	グラフ			22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	グラビア		
47243	インドネシヤの結婚式		19	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	グラビア		
47244	清流(小説ー八)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	23	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	小説		
47245	二百年前のお米配給	稲吉謙司	27	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	戦争		
47246	随想			22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
47247	連続による育み	海後宗臣	28	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
47248	鹿島口説	浅野晃	28	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
47249	忘れ得ぬ言葉	酒枝義広	29	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
47250	地を興す者・長田　徳本	高山底	30	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	随筆		
47251	新派異動(演劇)	三宅周太郎	35	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	芸能		
47252	十二人の女(小説ーー)	野村胡堂(画)志村立美	34	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	大衆小説		
47253	ニューギニヤ進撃(短歌)	斉藤史	26	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	文芸		
47254	先駆(短歌)	山口茂吉	29	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	文芸		
47255	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		38	22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	娯楽	文芸	科学
47256	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-8,	1943(昭和18)年2月28日号	その他	許可証名	
47257	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年三月七日号(第二十二巻九号)**			22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	その他	題号	
47258	表紙　南方の花と果実	野間仁根		22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	グラビア		
47259	偉勲の荒鷲を讃ふ(巻頭言)		3	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	戦争		
47260	戦ふ海の雛鷲(座談会)	粟野原中佐　清水中佐　富永	4	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	座談会		
47261	(出席者)粟野原中佐　清水中佐　富永少佐　原田少佐			22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	その他	執筆者名	
47262	満洲国の建国記念日(週間時評)	丸山幹治	14	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	社会		満州
47263	週間時事		14	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	社会		
47264	近詠(俳句)	岩木つつじ	15	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	文芸		
47265	酷寒季の満ソ国境を往く	林茂	16	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	随筆		
47266	国の子の為に(短歌)	鹿児島寿蔵	17	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	文芸		
47267	オフセット			22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	その他	見出し	
47268	草木絵ばなし	阿部真之助(画)小山内龍	19	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	文芸		
47269	清流(小説ー九)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	27	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	小説		
47270	藤島武二(今週の人)	野山草吉	31	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	人物		
47271	随想			22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	随筆		
47272	風格	金原省吾	32	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	随筆		
47273	清素	肥後和男	32	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	随筆		
47274	家	松原至大	33	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	随筆		
47275	地を興す者・桜島の久米村長	栗山醇三	34	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	人物		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47276	再度の新体制(映画)	清水千代太	37	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	映画		
47277	十二人の女(小説－二)	野村胡堂(画)志村立美	38	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	大衆小説		
47278	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		42	22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	娯楽	文芸	科学
47279	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-9,	1943(昭和18)年3月7日号	その他	許可証名	
47280	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年三月十四日号(第二十二巻十号)**			22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	その他	題号	
47281	表紙　つはもの	宮本三郎		22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	グラビア		
47282	撃ちてし止まむ(詩)	大木惇夫	3	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	文芸		
47283	撃ちてし止まむ	(陸軍中佐)秋山邦雄	4	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
47284	父兒玉大将を語る	(伯爵)児玉秀雄	8	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
47285	陸軍記念日(週間時評)	丸山幹治	14	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	軍事		
47286	週間時事		14	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	社会		
47287	出しやばり宋美齢	高田市太郎	16	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	美容		
47288	撃ちてし止まむ(俳句)	田村木国	17	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	文芸		
47289	断食するガンヂー	中村了	18	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	社会		
47290	グラフ			22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	グラビア		
47291	撃ちてし止まむ		19	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
47292	同生共死の突撃		20	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
47293	清流(小説－十)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	23	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	小説		
47294	南方文化戦士として	柴田賢次郎	27	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	戦争		
47295	地を興す者・秋廣平六	野村尚吾	30	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	随筆		
47296	陸軍航空戦記撮影所	坂斉小一郎	33	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	軍事		
47297	十二人の女(小説－完)	野村胡堂(画)志村立美	34	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	大衆小説		
47298	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		38	22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	娯楽	文芸	科学
47299	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-10,	1943(昭和18)年3月14日号	その他	許可証名	
47300	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年三月二十一日号(第二十二巻十一号)**			22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	その他	題号	
47301	表紙　銃後の女	寺島紫明		22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争	グラビア	
47302	標語の氾濫(巻頭言)		3	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	社会		
47303	決戦議会を顧みて	新井達夫	4	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
47304	阪メイ夫人を訪ふ	阿部静枝	7	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	随筆		
47305	東京都と道州制(週間時評)	丸山幹治	12	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	社会		
47306	週間時事		12	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	社会		
47307	吉植庄亮(今週の人)	野山草吉	14	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	人物		
47308	清流(小説－十一)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	15	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	小説		
47309	色刷ページ			22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	グラビア		
47310	画家一日入営(絵と文)			22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	グラビア		
47311	野戦砲兵学校	鶴田吾郎	20	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
47312	戦車学校	向井潤吉	21	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
47313	航空整備学校	林唯一	24	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
47314	通信学校	岩田専太郎	25	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
47315	独立前夜のビルマ商売往来	井崎かずを	22	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
47316	陸軍少年兵案内		27	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	軍事		
47317	玄装法師の頂骨南京で発掘	平栗竹男	28	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	随筆		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47318	南方文化戦士として	神保光太郎	39	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	戦争		
47319	随想			22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	随筆		
47320	青鬚玄瑞	百田宗治	32	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	随筆		
47321	南方の諸民族と青年団	小山栄三	32	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	随筆		
47322	水仙と眼鏡	中村草田男	33	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	随筆		
47323	地を興す者・咽声忠左衛門	岸哲夫	34	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	随筆		
47324	山争ひは終れり	古畑健一	37	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	随筆		
47325	名器の謎(小説ーー)	野村胡堂(画)志村立美	38	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	大衆小説		
47326	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		43	22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	娯楽	文芸	科学
47327	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-11,	1943(昭和18)年3月21日号	その他	許可証名	
47328	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年三月二十八日号(第二十二巻十二号)**			22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	その他	題号	
47329	表紙　勝ぬく春	鈴木信太郎		22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	グラビア		
47330	社長徴用・工員錬成(巻頭言)		3	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	社会		
47331	生れ変る中等学校	(語る人)綾瀬国民教育局長(訳	4	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	教育		
47332	高嶋菊次郎(今週の人)	野山草吉	7	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	人物		
47333	決戦議会の使命(週間時評)	丸山幹治	8	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
47334	日の寒風(俳句)		8	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	文芸		
47335	マカッサル原住民座談会	中村草田男　ナジャムジン	9	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争	座談会	
47336	(出席者)ナジャムジン氏　他		10	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	その他	執筆者名	
47337	海軍学校案内		14	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
47338	清流(小説ー十二)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	15	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	小説		
47339	グラフ			22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	グラビア		
47340	マライの海の子	(文)馬路(写真)藤本本社両特派員		22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
47341	学制と節電	岡部長節	23	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	随筆		
47342	参戦後の国府軍活躍	中村了	24	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
47343	随想			22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	随筆		
47344	健全娯楽	笹村確	26	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	随筆		
47345	日清戦争雑話	堀内敬三	26	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	随筆		
47346	成人と子供	上泉秀信	27	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	随筆		
47347	防空小吟(短歌)	吉田正俊	27	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	文芸		
47348	戦時生活間に合せ集	井上まつ子	28	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	戦争		
47349	地を興す者・岡登景能	中野喜一	30	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	随筆		
47350	総裁賞・花咲く港(演劇時評)	三宅周太郎	33	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	芸能		
47351	名器の謎(小説ー二)	野村胡堂(画)志村立美	34	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	大衆小説		
47352	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		38	22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	娯楽	文芸	科学
47353	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-12,	1943(昭和18)年3月28日号	その他	許可証名	
47354	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年四月四日号(第二十二巻十三号)**			22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	その他	題号	
47355	表紙　南の島	荻須高徳		22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	グラビア		
47356	貯蓄総進軍(巻頭言)		3	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
47357	野村大使縦横談	伊藤金次郎	4	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	随筆		
47358	鈴木忠治(今週の人)	野山草吉	9	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	人物		
47359	首相の南京訪問	橋本博	10	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	政治		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47360	バーモ長官の横顔	杉浦克巳	11	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	随筆		
47361	春を迎へた独ソ戦線	寺村誠一	12	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	社会	戦争	
47362	盲人防空監視哨座談会		14	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争	座談会	
47363	国の内外(短歌)	岡山巌	17	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	文芸		
47364	名称の問題(体育)	小野三千麿	18	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	社会		
47365	オフセット			22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	その他	見出し	
47366	戦ふわが村の記	松下井知夫	19	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
47367	増産進軍	小泉紫郎	20	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
47368	鍛錬一家	杉征夫	21	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
47369	勝ち抜く隣組	佐次たかし	22	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
47370	明るい一家	南義郎	23	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
47371	増産戦記	小川哲男	24	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	戦争		
47372	清流(小説－十三)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	27	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	小説		
47373	地を興す者・千石彦助	柴田四郎	31	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	随筆		
47374	重役の陣頭指揮	大野健三	34	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	随筆		
47375	内閣顧問の役割(週間時評)	丸山幹治	36	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	政治		
47376	週間時事		36	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	社会		
47377	鉄かぶとと梅花(俳句)	飯田蛇笏	37	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	文芸		
47378	名器の謎(小説－完)	野村胡堂(画)志村立美	38	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	大衆小説		
47379	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		42	22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	娯楽	文芸	科学
47380	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-13,	1943(昭和18)年4月4日号	その他	許可証名	
47381	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年四月十一日号(第二十二巻十四号)**			22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	その他	題号	
47382	表紙　春耕	石井柏亭		22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	グラビア		
47383	壮烈！第二次特別攻撃隊(巻頭言)		3	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
47384	十勇士に応ふ	丹羽文雄	4	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47385	秋枝中佐の実家を訪ふ	平正一	6	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47386	ビルマ独立の構想	横田高明	8	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	社会	戦争	
47387	二重橋前(短歌)	山下陸奥	9	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	文芸		
47388	闘魂	森正蔵	11	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47389	軍票の今昔(週間時評)	丸山幹治	14	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	社会		
47390	随想			22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47391	一つの提案	富安風生	16	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47392	名士訪ふべきか	伊原宇三郎	16	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47393	盛り場解消	今和次郎	17	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47394	仏生会(俳句)	野田別天楼	17	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47395	菊池寛(今週の人)	野山草吉	18	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	人物		
47396	グラフ			22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	グラビア		
47397	皇威あまねし		19	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
47398	雨夜の戦線		20	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	戦争		
47399	映画の政治性と芸術性	清水千代太	23	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	映画		
47400	かくして義肢に血は通へり(座談会)	保利少佐　野村中尉　小川真	24	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	座談会		
47401	(出席者)保利少佐　野村中尉　小川眞吉　伊藤武雄			22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	その他	執筆者名	

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47402	春雷(短歌)	木俣修	27	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	文芸		
47403	地を興す者・中條右近太夫	杉本士朗	30	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	随筆		
47404	古典書と美術書(読書)	井上靖	33	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	芸術		
47405	清流(小説－十四)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	34	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	小説		
47406	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		38	22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	娯楽	文芸	科学
47407	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-14,	1943(昭和18)年4月11日号	その他	許可証名	
47408	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年四月十八日号(第二十二巻十五号)**			22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	その他	題号	
47409	表紙　女子旋盤工	田村孝之介		22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	グラビア		
47410	空襲に物心両面の備へ(巻頭言)		3	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争		
47411	陸軍落下傘部隊見学記	棟田博(画)宮本三郎	4	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	軍事		
47412	中馬、松尾両中佐の生家を訪ふ	原田正雄　木下兼光	9	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	随筆		
47413	決戦と旅行	立花次郎	12	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争		
47414	映画報国への抱負	菊池寛	14	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	映画		
47415	慈雨(短歌)	岡田真	15	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	文芸		
47416	樺太と琉球(週間時評)	丸山幹治	16	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	社会		
47417	週間時事		16	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	社会		
47418	小澤凱夫(今週の人)	野山草吉	18	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	人物		
47419	オフセット			22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	その他	見出し	
47420	銃後決戦譜	(川柳文)川上三太郎(画)小寺	20	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争		
47421	随想			22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	随筆		
47422	学者の任務	野村兼太郎	22	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	随筆		
47423	林崎文庫	山口誓子	22	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	随筆		
47424	ケルク・ショーズ	宮田重雄	23	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	随筆		
47425	日本語のアクセント	飯島正	23	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	随筆		
47426	名木出征物語	植村俊郎	24	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	戦争	人物	
47427	第卅二回大衆文芸入選発表		27	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	大衆小説	懸賞	
47428	軍用犬(入選作・大衆小説)	東郷十三(画)田代光	28	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	大衆小説	懸賞	
47429	地を興す者・古河善兵衛	沢田勇	34	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	随筆		
47430	昭南植物園だより	郡場寛	37	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	随筆		
47431	清流(小説－十五)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	38	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	小説		
47432	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		42	22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	娯楽	文芸	科学
47433	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-15,	1943(昭和18)年4月18日号	その他	許可証名	
47434	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年四月二十五日号(第二十二巻十六号)**			22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	その他	題号	
47435	表紙　生産へ	伊原宇三郎		22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	グラビア		
47436	金山の閉鎖		3	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	社会		
47437	陸に海に赫々たる新戦果	永戸政治	4	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
47438	警報下のわが隣組	冠松次郎　生田花世　尾崎喜	6	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
47439	野口米次郎(今週の人)	野山草吉	9	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	人物		
47440	北阿戦線の重大性(週間時評)	丸山幹治	10	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	社会		
47441	リーグ戦解消	弓館小鰐	12	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	スポーツ		
47442	赤い島(入選作・大衆小説)	横尾久男(画)松野一夫	13	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	大衆小説	懸賞	
47443	グラフ			22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	グラビア		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47444	赤道直下･洋上に鍛ふ		19	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
47445	恩寵の帆柱材		20	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
47446	学徒の機甲訓練		23	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	戦争		
47447	ラジオ･ロケーター	大河原元	24	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	娯楽		
47448	春の家庭園芸	真田実義	27	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	家庭		
47449	随想			22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
47450	感動	穂積七郎	28	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
47451	手弁当	和田伝	28	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
47452	教育への憂慮	城戸幡太郎	29	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
47453	便乗	向井潤吉	29	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
47454	地を興す者･一木權兵衛	細井安三	30	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	随筆		
47455	晩春(短歌)	前川佐美雄	32	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	文芸		
47456	四月の歌舞伎	三宅周太郎	33	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	文芸		
47457	清流(小説ー完)	片岡鉄兵(画)三芳悌吉	34	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	小説		
47458	川柳･科学の眼･囲碁･将棋		38	22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	娯楽	文芸	科学
47459	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-16,	1943(昭和18)年4月25日号	その他	許可証名	
47460	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年五月二日号(第二十二巻十七号)**			22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	その他	題号	
47461	表紙　みいくさ	福田恵一		22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	グラビア		
47462	物と金とは裏表(巻頭言)		3	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	経済		
47463	米本土の空襲は不可能ならず	長谷川正道	4	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争		
47464	今年の春(短歌)	栗生田稔	6	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	文芸		
47465	陸軍技術有効者の苦心談	和泉恭　藤野克夫	7	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	軍事		
47466	出世主義教育について(週間時評)	丸山幹治	10	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	教育		
47467	週間時事		10	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	社会		
47468	増産物価緊急対策	横山五市	12	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	経済		
47469	折口信夫(今週の人)	野山草吉	14	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	人物		
47470	オフセット			22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	その他	見出し	
47471	花火師丹十(入選作･大衆小説)	緑川玄三(画)岩田専太郎	15	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	大衆小説	懸賞	
47472	山火(短歌)	鈴江幸太郎	17	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	文芸		
47473	ある老軍嘱の話	藤田福乎	23	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	随筆		
47474	昭和農道塾	小笠原秀昱	26	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	随筆		
47475	更生の比島建設に立つ	礒江仁三郎	28	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	随筆		
47476	前進基地(小説ーー)	海野十三(画)林唯一	30	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	戦争小説		
47477	川柳･科学の眼･囲碁･将棋		34	22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	娯楽	文芸	科学
47478	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-17,	1943(昭和18)年5月2日号	その他	許可証名	
47479	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年五月九日号(第二十二巻十八号)**			22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	その他	題号	
47480	表紙　海を制す	西山英雄		22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	グラビア		
47481	米価改定(巻頭言)		3	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	経済		
47482	山口、加来両提督の最期	匝瑳胤次	4	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	随筆		
47483	丘の一軒家	浜本浩	6	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	随筆		
47484	お父ちやん(辻小説)	辰野九紫	7	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	大衆小説		
47485	岡部長景(今週の人)	野山草吉	9	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	人物		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47486	東條内閣の電撃改造	新井達夫	10	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	政治		
47487	東條首相の政治的感覚(週間時評)	丸山幹治	12	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	政治		
47488	美術報告会の結成について	荒城季夫	14	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	芸術		
47489	グラフ			22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	グラビア		
47490	山男養成学校		16	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	戦争		
47491	バタアン半島平和色		18	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	社会		
47492	百畳敷の大凧		20	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	社会		
47493	戦争映画の難しさ	清水千代太	23	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	映画		
47494	靖国大祭に拾ふ美談	谷上彦正	24	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	美容		
47495	大東亜演劇の芽	青江舜二郎	26	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	芸能		
47496	随想			22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	随筆		
47497	隣組文化運動	高橋健二	28	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	随筆		
47498	青き風(俳句)	長谷川かな女	28	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	随筆		
47499	都制と農村	小野武夫	28	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	随筆		
47500	タガログの芝居	川上喜久子	29	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	随筆		
47501	前進基地(小説ー二)	海野十三(画)林唯一	30	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	戦争小説		
47502	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	娯楽	文芸	科学
47503	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-18,	1943(昭和18)年5月9日号	その他	許可証名	
47504	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年五月十六日号(第二十二巻十九号)**			22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	その他	題号	
47505	表紙　轟沈	三輪晁勢		22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	グラビア		
47506	和楽更生(巻頭言)		3	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	社会		
47507	勝ち抜く造艦(座談会)	永村清中将　清宮弘少将	4	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	座談会		
47508	(出席者)永村清中将　清宮弘少将			22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	その他	執筆者名	
47509	湯川秀樹(今週の人)	野山草吉	9	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	人物		
47510	文化の戦ひと文化勲章(週間時評)	丸山幹治	10	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	社会		
47511	週間時事		10	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	社会		
47512	殴られるポーランド	前芝確三	12	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	随筆		
47513	少年鼓手の母(辻小説)	三角寛	13	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	小説		
47514	決戦国民文芸募集		14	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	その他	懸賞	告知
47515	オフセット			22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	その他	見出し	
47516	少年工(入選作・大衆小説)	松崎與志人(画)嶺田弘	15	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	大衆小説	懸賞	
47517	風光る(俳句)	青木月斗	16	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	文芸		
47518	果物(辻小説)	美川きよ	17	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	大衆小説		
47519	夏場所評判記	相馬基	23	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	スポーツ		
47520	ドウリットルとはこんな奴	小林勇	24	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	随筆		
47521	預り物(辻小説)	川口松太郎	25	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	大衆小説		
47522	変り種転業者	小谷正一	26	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	随筆		
47523	随想			22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	随筆		
47524	軽音楽の使命	和田肇	28	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	随筆		
47525	十進時間制	平井泰太郎	28	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	随筆		
47526	梅若葉(俳句)	富安風生	29	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	随筆		
47527	作家と講演	大江賢次	29	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	随筆		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47528	前進基地(小説－三)	海野十三(画)林唯一	30	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	戦争小説		
47529	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	娯楽	文芸	科学
47530	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-19,	1943(昭和18)年5月16日号	その他	許可証名	
47531	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年五月二十三日号(第二十二巻二十号)**			22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	その他	題号	
47532	◇　海軍記念特集　◇			22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	その他	見出し	
47533	表紙　陸戦隊	石川滋彦		22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	グラビア		
47534	海洋の歓呼(長歌)	釋迢空	3	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	文芸		
47535	大東亜戦争とわが海軍	富永謙吾	4	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争		
47536	潜水艦を語る(座談会)	勝田大佐　泉中佐　山岡荘八	6	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	座談会		
47537	（出席者)勝田大佐　泉中佐　山岡荘八			22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	その他	執筆者名	
47538	海軍を讃へる随想			22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	随筆		
47539	艦内の岡持	丹羽文雄	12	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	随筆		
47540	日露戦争の思出と大東亜戦争	水野広徳	12	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	随筆		
47541	海軍を讃ふ(短歌)	窪田空穂	12	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	随筆		
47542	海軍記念日を迎へて	松村英一	13	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	随筆		
47543	四期生	山本嘉次郎	13	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	随筆		
47544	山田達雄(今週の人)	野山草吉	14	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	人物		
47545	オフセット			22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	その他	見出し	
47546	帝国海軍七十五年絵巻	木村毅(画)木村荘八	16	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	グラビア	戦争	
47547	決戦下の夏場所	相馬基	23	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争		
47548	東條首相、比島を訪ふ	永戸政治	24	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	政治		
47549	海軍記念日に思ふ(週間時評)	丸山幹治	26	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	社会		
47550	週間時事		26	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	社会		
47551	老僧憂国の断食修法	城南健三	28	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	家庭		
47552	前進基地(小説－四)	海野十三(画)林唯一	30	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	戦争小説		
47553	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	娯楽	文芸	科学
47554	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-20,	1943(昭和18)年5月23日号	その他	許可証名	
47555	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年五月三十日号(第二十二巻二十一号)**			22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	その他	題号	
47556	表紙　軍艦旗の下に	古嶋松之助		22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	グラビア		
47557	防空愈々固く(巻頭言)		3	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
47558	女流作家の南方座談会	窪川稲子　美川きよ　川上喜久	4	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	座談会		
47559	（出席者)窪川稲子　美川きよ　川上喜久子			22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	その他	執筆者名	
47560	葉ざくら(短歌)	頴田島一二郎	5	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	文芸		
47561	後楽園競馬場(短歌)	伊藤嘉夫	7	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	文芸		
47562	穂積重遠(今週の人)	野山草吉	9	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	人物		
47563	枢軸軍北阿作戦の効果	森正蔵	10	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
47564	鈴木大将の俤	伊藤金次郎	12	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争		
47565	その後の「リバルズ」(辻小説)	小栗虫太郎	13	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	小説		
47566	グラフ			22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	グラビア		
47567	兵器を作る女性		16	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	グラビア		
47568	健民に風薫る		18	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	グラビア		
47569	台湾の製塩		20	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	グラビア		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47570	大相撲夏場所	相馬基	23	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	スポーツ		
47571	翼政会の新機構と新陣容(週間時評)	丸山幹治	244	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	社会		
47572	週間時事		24	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	社会		
47573	“空の要塞”に乗る記	八野井実	26	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	随筆		
47574	鮎の日の訪れ	佐藤垢石	28	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	随筆		
47575	五月の東京劇壇	三宅周太郎	29	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	芸能		
47576	前進基地(小説ー完)	海野十三(画)林唯一	30	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	戦争小説		
47577	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	娯楽	文芸	科学
47578	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-21,	1943(昭和18)年5月30日号	その他	許可証名	
47579	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年六月六日号(第二十二巻二十二号)**			22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	その他	題号	
47580	表紙　空の神兵	鶴田吾郎		22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	グラビア		
47581	山本元帥に応へよ(巻頭言)		3	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	戦争		
47582	山本元帥を偲ぶ	高橋三吉大将	4	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	随筆		
47583	仰げ山本精神	柴田四郎	6	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	随筆		
47584	山本元帥を悼む(短歌)	斉藤茂吉	7	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	文芸		
47585	米英の病院船襲撃と国際公法	松波仁一郎	8	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	家庭		
47586	印象に残る兵隊の顔	富沢有為男(画)鈴木栄二郎	12	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	小説		
47587	下村弘(今週の人)	野山草吉	14	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	人物		
47588	オフセット			22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	その他	見出し	
47589	妙な見合ひ	窪川稲子(画)伊藤嘉湖	15	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	社会		
47590	増産基地・足尾銅山を観る	里村欣一	23	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	随筆		
47591	木炭足りし(俳句)	前田普羅	24	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	文芸		
47592	緬印国境線と華府会議(週間時評)	丸山幹治	26	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	政治		
47593	週間時事		26	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	社会		
47594	大相撲夏場所	相馬基	28	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	スポーツ		
47595	赤穂浪士伝(小説ーー)	海音寺潮五郎(画)木下大雍	30	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	大衆小説		
47596	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	娯楽	文芸	科学
47597	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-22,	1943(昭和18)年6月6日号	その他	許可証名	
47598	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年六月十三日号(第二十二巻二十三号)**			22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	その他	題号	
47599	表紙　渓流	鈴木信太郎		22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	グラビア		
47600	アッツの聖魂(巻頭言)		3	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
47601	鬼神も哭く山崎部隊の闘魂	荻洲中将	4	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47602	山崎部隊長と佐久間艇長	和波中将	6	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47603	アッツ島の玉砕を聴いて	尾崎士郎	7	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47604	アッツ島の忠魂(短歌)	土屋文明	7	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	文芸		
47605	みいくさ(俳句)	吉田冬葉	8	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	文芸		
47606	大空へ愛児を送る松平俊子夫人	杉本士郎	9	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47607	山本元帥を悼む(短歌)	今井邦子	10	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	文芸		
47608	時局語早わかり		11	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争		
47609	東郷精神と山本精神(週間時評)	丸山幹治	12	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	社会		
47610	週間時事		12	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	社会		
47611	南方幻覚(俳句)	松根東洋城	13	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	文芸		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47612	双葉山(今週の人)	野山草吉	14	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	人物		
47613	グラフ			22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	グラビア		
47614	敵陣を覗く		16	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	戦争	グラビア	
47615	湖畔の“工場農園”		18	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	グラビア		
47616	少年戦車兵の訓練		20	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	グラビア		
47617	随想			22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47618	異物	竹村文祥	23	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47619	大衆演劇の樹立	伊東恭雄	23	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47620	印象に残る兵隊の顔	榊山潤	24	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47621	増産基地・信濃川発電所	柴田賢次郎	26	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	随筆		
47622	二年のこと(短歌)	田中四郎	27	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	文芸		
47623	大相撲夏場所観戦記	相馬基	28	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	スポーツ		
47624	赤穂浪士伝(小説－二)	海音寺潮五郎(画)木下大雍	30	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	大衆小説		
47625	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	娯楽	文芸	科学
47626	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-23,	1943(昭和18)年6月13日号	その他	許可証名	
47627	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年六月二十日号(第二十二巻二十四号)**			22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	その他	題号	
47628	表紙　新耕	三谷十糸子		22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	グラビア		
47629	臨時議会の任務(巻頭言)		3	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	政治		
47630	山本元帥の国葬に参列して	木村毅	4	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	随筆		
47631	山本元帥(短歌)	佐佐木信綱	5	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	文芸		
47632	逸話に偲ぶ山元元帥	礒江仁三郎	6	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	随筆		
47633	六月五日	釋迢空	7	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	随筆		
47634	旧部下が語る川崎部隊長	〇〇少佐	8	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
47635	若鷲の母	藤村多江	10	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	随筆		
47636	南方の結婚風俗	井手季和太	12	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	社会		
47637	吉田茂(今週の人)	野山草吉	14	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	人物		
47638	オフセット			22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	その他	見出し	
47639	子供の隣組	與田進一(画)小山内龍	15	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争		
47640	印象に残る兵隊の顔	真杉静枝	23	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	随筆		
47641	鉱山詩情	田村木国	25	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	文芸		
47642	独り息子を空へ送る父親の感想	浜本浩	26	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	戦争	随筆	
47643	嗚呼アッツ島の勇士(週間時評)	丸山幹治	28	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	社会		
47644	週間時事		28	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	社会		
47645	赤穂浪士伝(小説－三)	海音寺潮五郎(画)木下大雍	30	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	大衆小説		
47646	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	娯楽	文芸	科学
47647	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-24,	1943(昭和18)年6月20日号	その他	許可証名	
47648	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年六月二十七日号(第二十二巻二十五**			22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	その他	題号	
47649	表紙　ジャワ人形	三谷十糸子		22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	グラビア		
47650	学徒出陣(巻頭言)		3	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争		
47651	学生出身の海鷲はかく戦つてゐる(座談会)		4	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争	座談会	
47652	井坂孝(今週の人)	野山草吉	9	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	人物		
47653	第八十二議会の意義(週間時評)	丸山幹治	10	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	政治		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47654	週間時事		10	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	社会		
47655	生産戦士はいま起ち上る	鈴木市郎ほか	12	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	戦争		
47656	グラフ			22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	グラビア		
47657	山本元帥の国葬		16	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	グラビア		
47658	落下傘が咲くまで		18	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	グラビア		
47659	蚊と闘ふ兵隊		20	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	グラビア		
47660	国民皆泳	上野徳太郎	23	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	随筆		
47661	印象に残る兵隊の顔	井伏鱒二(画)鈴木栄二郎	24	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	小説		
47662	本を回覧して読まう	新居格	26	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	随筆		
47663	生活のページ		28	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	家庭		
47664	新衣料	阿部静枝	28	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	随筆		
47665	忠臣蔵競演(演劇)	三宅周太郎	29	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	芸能		
47666	赤穂浪士伝(小説－四)	海音寺潮五郎(画)木下大雍	30	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	大衆小説		
47667	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	娯楽	文芸	科学
47668	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-25,	1943(昭和18)年6月27日号	その他	許可証名	
47669	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年七月四日号(第二十二巻二十六号)**			22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	その他	題号	
47670	表紙　紫金山と汪主席	清水登之		22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	グラビア		
47671	支那事変六周年(巻頭言)		3	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号			
47672	汪精衛主席の印象	奥村信太郎	4	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	随筆		
47673	参戦後の中国を語る現地座談会	広田洋二ほか	5	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	座談会		
47674	決戦議会傍聴記	火野葦平	9	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
47675	急速審議の臨時議会(週間時評)	森正蔵	12	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	政治		
47676	週間時事		12	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	社会		
47677	三大将元帥府に列せらる	新井達夫	14	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
47678	オフセット			22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	その他	見出し	
47679	赤道神	佐古少尉(画)江崎孝坪	16	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争		
47680	潜水艦文芸	江崎孝坪	20	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	戦争	文芸	
47681	加藤完治(今週の人)	野山草吉	23	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	人物		
47682	日本に現れたチャンドラ・ボース	高岡大輔	24	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	随筆		
47683	吾等海鷲に続かん	小笠原菩(画)東郷一雄	26	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	小説		
47684	印象に残る兵隊の顔	寒川光太郎(画)鈴木栄二郎	28	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	小説		
47685	赤穂浪士伝(小説－五)	海音寺潮五郎(画)木下大雍	30	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	大衆小説		
47686	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	娯楽	文芸	科学
47687	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-26,	1943(昭和18)年7月4日号	その他	許可証名	
47688	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年七月十一日号(第二十二巻二十七号)**			22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	その他	題号	
47689	表紙　山峡の少女	中村善策		22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	グラビア		
47690	学徒報国の新分野(巻頭言)		3	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
47691	待望される独立		4	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	社会		
47692	印度	野口米次郎		22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	社会		
47693	比島	尾崎士郎		22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	社会		
47694	ビルマ	高見順		22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	社会		
47695	大達茂雄(今週の人)	野山草吉	9	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	人物		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47696	地方行政の大刷新(週間時評)	森正蔵	10	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	社会		
47697	週間時事		10	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	社会		
47698	学徒国防第一線へ	杉山謙治	12	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	随筆		
47699	本を買ふには(読書)		14	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
47700	グラフ			22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	グラビア		
47701	比島・ビルマから友来る		16	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	グラビア		
47702	最前線に踊る		18	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	グラビア		
47703	パプア族七態		20	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	グラビア		
47704	印象に残る兵隊の顔	上田広(画)鈴木栄二郎	23	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	小説		
47705	決戦衣服問答	杉本士郎	26	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
47706	アッツ島(短歌)	久保田不二子	27	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	文芸		
47707	時局語早わかり		27	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	戦争		
47708	生活のページ		28	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	家庭		
47709	美を造る	阿部静枝	28	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	美容		
47710	日本映画の力量不足	清水千代太	29	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	映画		
47711	赤穂浪士伝(小説－六)	海音寺潮五郎(画)木下大雍	30	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	大衆小説		
47712	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	娯楽	文芸	科学
47713	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-27,	1943(昭和18)年7月11日号	その他	許可証名	
47714	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年七月十八日号(第二十二巻二十八号)**			22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	その他	題号	
47715	表紙　碧潮	児島善三郎		22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	グラビア		
47716	旧観念への切りかへ(巻頭言)		3	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争		
47717	地方広域行政をいかに運用するか	新井達夫	4	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	社会		
47718	九人の地方官(今週の人)	野山草吉	6	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	人物		
47719	“戦ふ輸送船”談(座談会)	猪口猛夫　高田正夫　今田憲	9	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争	座談会	
47720	(出席者)猪口猛夫　高田正夫　今田憲治　徳永貞砥			22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	その他	執筆者名	
47721	生活のページ		14	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	家庭		
47722	女学校と防空教育	阿部静枝	14	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	教育		
47723	歌と句			22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	文芸		
47724	いきどほり	大井広	5	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	文芸		
47725	鬼畜米英を征す	室積徂春	17	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	文芸		
47726	オフセット			22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	その他	見出し	
47727	おもん様物語(小説)	笹島克恵(画)志村立美	15	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	小説		
47728	印象に残る兵隊の顔	石坂洋次郎(画)鈴木栄二郎	23	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	小説		
47729	改定された防空必勝	宮地直邦	25	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	随筆		
47730	レンドバ島の決戦(週間時評)	森正蔵	26	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	戦争		
47731	週間時事		26	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	社会		
47732	荒鷲訓導を訪ねて	栗山醇三	28	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	随筆		
47733	赤穂浪士伝(小説－七)	海音寺潮五郎(画)木下大雍	30	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	大衆小説		
47734	川柳・科学の眼・囲碁・将棋		34	22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	娯楽	文芸	科学
47735	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-28,	1943(昭和18)年7月18日号	その他	許可証名	
47736	**★『サンデー毎日』 一九四三(昭和十八)年七月二十五日号(第二十二巻二十九**			22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	その他	題号	
47737	表紙　比島の娘	佐藤敬		22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	グラビア		

資料III-2 サンデー毎日1943年1-7月 目次

ID	記　事　名	執筆者(新漢字)	頁	巻号	発行年月日	索引語1	索引語2	索引語3
47738	一人五粒の米(巻頭言)		3	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	戦争		
47739	郡司大尉を語る(座談会)	広瀬彦太　郡司智麿　竹村浩	4	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	座談会		
47740	（出席者)廣瀬彦太　郡司智麿　竹村浩吉　磯野清			22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	その他	執筆者名	
47741	インド国民軍の誕生	石神清	8	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	随筆		
47742	新領土勘定のタイ国	奥村鉄男	10	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	随筆		
47743	激化する西南方戦局(週間時評)	森正蔵	12	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	社会		
47744	週間時事		12	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	社会		
47745	小平權一(今週の人)	野山草吉	14	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	人物		
47746	句と歌			22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	文芸		
47747	我も草とり	星野麦人	9	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	文芸		
47748	ゆく水	生方たつえ	10	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	文芸		
47749	グラフ			22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	グラビア		
47750	軍楽隊南へ征く		16	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	グラビア		
47751	国民よ･みんな泳げ		18	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	グラビア		
47752	生活のページ		23	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	家庭		
47753	婦人の要域	阿部静枝	23	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	社会		
47754	印象に残る兵隊の顔	美川きよ(画)鈴木栄二郎	24	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	大衆小説		
47755	海の道場･剛志社	小笠原秀昱	26	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	随筆		
47756	秋野菜の栽培(園芸)	植村義保	28	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	家庭		
47757	検閲の強化(演劇)	三宅周太郎	29	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	芸能		
47758	赤穂浪士伝(小説－完)	海音寺潮五郎(画)木下大雍	30	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	大衆小説		
47759	川柳･科学の眼･囲碁･将棋		34	22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	娯楽	文芸	科学
47760	●本誌掲載の陸軍関係写真及び絵はいづれも陸軍省検閲済並びに海軍省許可			22-29,	1943(昭和18)年7月25日号	その他	許可証名	

論文目録：

学術雑誌論文

1. 山川恭子・中村克明，戦前の社会における週刊誌メディアの位置―『週刊朝日』と『サンデー毎日』の目録データの分析より―，関東学院大学文学部紀要，第 120・121 合併号，2010.12.25，p.173-196

2. 山川恭子，戦時における週刊誌メディアの「情報提供」方法の研究，図書館情報メディア研究，第 8 巻第 1 号，2010，p.71-87

3. 山川恭子，週刊誌記事に見る満州事変から国際連盟脱退まで―『週刊朝日』を中心に，図書館情報メディア研究，第 5 巻第 2 号，2007，p.23-39

著　書

1. 山川恭子著・黒古一夫監修，戦前期『サンデー毎日』総目次，ゆまに書房，2007，上巻:530p・中巻:503p・下巻:461p，索引 下巻 p.281-462(山川恭子作成)，解説 下巻 p.271-280(山川恭子執筆)

2. 山川恭子著・黒古一夫監修，戦前期『週刊朝日』総目次，ゆまに書房，2006，上巻:525p・中巻:503p・下巻:491p，索引 下巻 p.279-492(山川恭子作成)，解説 下巻 p.269-278(山川恭子執筆)